

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄							備 考	
計 画 の 区 分		学部の学科の設置								
フ リ ガ ナ 設 置 者		カ ^ゴ ツウホウジ ^ン キョウリンカ ^ク ケン 学校法人 杏林学園								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		キョウリンダイガ ^ク 杏林大学 (Kyorin University)								
大 学 本 部 の 位 置		東京都三鷹市新川六丁目 2 0 番 2 号								
大 学 の 目 的		本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命とする。								
新 設 学 部 等 の 目 的		法律政治学科 社会を制度の視点から捉え、法律、政治、国際政治経済、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、課題発見から実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。 経済経営学科 社会を財・サービスの動きから捉え、経済、経営、会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。								
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修 業 年	入 学 定 員 人	編 入 学 定 員 年 次 人	収 容 定 員 人	学 位	学 位 の 分 野	開 設 時 期 及 び 開 設 年 次 年 月 第 年 次	所 在 地	
	総合政策学部 法律政治学科	4	130	3年次 4	528	学士 (法律政治学)	法学関係 経済学関係 社会・社会福祉学関係	令和8年4月 第1年次 平成10年4月 第3年次	東京都三鷹市下連 雀五丁目 4 番 1 号	
	経済経営学科	4	100	3年次 2	404	学士 (経済経営学)	経済学関係	令和8年4月 第1年次 平成20年4月 第3年次	同上	
	計		230	3年次 6	932					
同一設置者内における 変 更 状 況 (定 員 の 移 行 , 名 称 の 変 更 等)		総合政策学部 総合政策学科（廃止） (△150) (3年次編入定員) (△ 4) ※令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止) 企業経営学科（廃止） (△ 80) (3年次編入定員) (△ 2) ※令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	総合政策学部 法律政治学科	125科目	40科目	0科目	165科目	124単位				
	経済経営学科	121科目	40科目	0科目	161科目	124単位				

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新 設 分	総合政策学部 法律政治学科	人 10 (10)	人 4 (4)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 16 (16)	人 0 (0)	人 67 (67)	大学設置基準別表第一イ に定める基幹教員数の四 分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			
	総合政策学部 経済経営学科	人 6 (6)	人 4 (4)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 10 (10)	人 0 (0)	人 73 (73)	大学設置基準別表第一イ に定める基幹教員数の四 分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
計		人 16 (16)	人 8 (8)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 26 (26)	人 0 (0)	人 140 (140)	
既 設 分	医学部 医学科	人 79 (79)	人 27 (27)	人 15 (15)	人 29 (29)	人 150 (150)	人 0 (0)	人 367 (367)	大学設置基準別表第一イ に定める基幹教員数の四 分の三の数 105人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	79 (79)	27 (27)	15 (15)	29 (29)	150 (150)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	79 (79)	27 (27)	15 (15)	29 (29)	150 (150)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	79 (79)	27 (27)	15 (15)	29 (29)	150 (150)			

保健学部 臨床検査技術学科		8 (8)	10 (10)	5 (5)	6 (6)	29 (29)	0 (0)	19 (19)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		8 (8)	10 (10)	5 (5)	6 (6)	29 (29)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		8 (8)	10 (10)	5 (5)	6 (6)	29 (29)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		8 (8)	10 (10)	5 (5)	6 (6)	29 (29)			
保健学部 健康福祉学科		5 (5)	5 (5)	4 (4)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	35 (35)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	5 (5)	4 (4)	6 (6)	20 (20)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (5)	5 (5)	4 (4)	6 (6)	20 (20)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		5 (5)	5 (5)	4 (4)	6 (6)	20 (20)			
保健学部 看護学科（看護学専攻）		9 (9)	7 (7)	15 (15)	12 (12)	43 (43)	0 (0)	11 (11)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (9)	7 (7)	15 (15)	12 (12)	43 (43)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		9 (9)	7 (7)	15 (15)	12 (12)	43 (43)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		9 (9)	7 (7)	15 (15)	12 (12)	43 (43)			
保健学部 看護学科（看護養護教育学 専攻）		7 (7)	4 (4)	6 (6)	9 (9)	26 (26)	0 (0)	20 (20)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	4 (4)	6 (6)	9 (9)	26 (26)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	4 (4)	6 (6)	9 (9)	26 (26)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	4 (4)	6 (6)	9 (9)	26 (26)			

保健学部 臨床工学科		5 (5)	1 (1)	3 (3)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	14 (14)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	1 (1)	3 (3)	4 (4)	13 (13)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）		5 (5)	1 (1)	3 (3)	4 (4)	13 (13)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）		5 (5)	1 (1)	3 (3)	4 (4)	13 (13)				
保健学部 救急救命学科		4 (4)	4 (4)	5 (5)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	23 (23)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	4 (4)	5 (5)	3 (3)	16 (16)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）		4 (4)	4 (4)	5 (5)	3 (3)	16 (16)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）		4 (4)	4 (4)	5 (5)	3 (3)	16 (16)				
保健学部 診療放射線技術学科		6 (6)	2 (2)	2 (2)	7 (7)	17 (17)	0 (0)	8 (8)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	2 (2)	2 (2)	7 (7)	17 (17)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）		6 (6)	2 (2)	2 (2)	7 (7)	17 (17)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）		6 (6)	2 (2)	2 (2)	7 (7)	17 (17)				
保健学部 臨床心理学科		5 (5)	3 (3)	7 (7)	3 (3)	18 (18)	0 (0)	26 (26)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 7人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	3 (3)	7 (7)	3 (3)	18 (18)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）		5 (5)	3 (3)	7 (7)	3 (3)	18 (18)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）		5 (5)	3 (3)	7 (7)	3 (3)	18 (18)				

保健学部 リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	6 (6)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	17 (17)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	16 (16)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	6 (6)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	16 (16)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	16 (16)		
保健学部 リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	14 (14)	0 (0)	18 (18)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	14 (14)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	14 (14)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	1 (1)	3 (3)	6 (6)	14 (14)		
保健学部 リハビリテーション学科 (言語聴覚療法学専攻)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	10 (10)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)		
外国語学部 英語学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	51 (51)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)		

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 6人

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 6人

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 6人

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 6人

外国語学部 中国語学科			3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	42 (42)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 4人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)				
外国語学部 観光交流文化学科			7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	49 (49)	大学設置基準別表第一-I に定める基幹教員数の四 分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)				
計			160 (160)	80 (80)	75 (75)	89 (89)	404 (404)	0 (0)	343 (343)	
合 計			176 (176)	88 (88)	77 (77)	89 (89)	430 (430)	0 (0)	483 (483)	
職 種			専 属			その他			計	
事 務 職 員			357人 (357)			431人 (431)			788人 (788)	
技 術 職 員			2367 (2367)			360 (360)			2727 (2727)	
図 書 館 職 員			11 (11)			0 (0)			11 (11)	
そ の 他 の 職 員			4 (4)			0 (0)			4 (4)	
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計			2739 (2739)			791 (791)			3530 (3530)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計	校舎敷地のうち 14,449.24㎡は 借用地。借用期 間は令和6年4月 1日から30年 間。	
	校 舎 敷 地	250,296.06㎡	0㎡		0㎡			250,296.06㎡		
	そ の 他	3,636.94㎡	0㎡		0㎡			3,636.94㎡		
	合 計	253,933.00㎡	0㎡		0㎡			253,933.00㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計		
		132,106.21㎡ (132,106.21 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)			132,106.21㎡ (132,106.21 ㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	345室		教 員 研 究 室			449室	大学全体	

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 4人

大学設置基準別表第一-I
に定める基幹教員数の四
分の三の数 7人

校舎敷地のうち
14,449.24㎡は
借用地。借用期
間は令和6年4月
1日から30年
間。

大学全体

図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分
			冊				種						
	総合政策学部 法律政治学科 経済経営学科		477,274〔179,748〕 (456,074〔178,548〕)		22,943〔21,748〕 (22,943〔21,748〕)		10,843〔8,268〕 (10,843〔8,268〕)		9,874〔8,236〕 (9,874〔8,236〕)		38,543 (38,513)	518 (518)	
	計		477,274〔179,748〕 (456,074〔178,548〕)		22,943〔21,748〕 (22,943〔21,748〕)		10,843〔8,268〕 (10,843〔8,268〕)		9,874〔8,236〕 (9,874〔8,236〕)		38,543 (38,543)	518 (518)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体	
			1,601.78㎡			579.88㎡			18,035.21㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体			
		教員1人当り研究費等		540千円	540千円	540千円	540千円	－ 千円	－ 千円				
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円				
		図 書 購 入 費											
		設 備 購 入 費	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	－ 千円	－ 千円				
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
			1,370千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	－ 千円	－ 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金等収入、手数料収入等										
大 学 等 の 名 称 杏林大学													
学 部 等 の 名 称			修 業	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号		収 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地		
医学研究科			年	人	年次 人	人			倍				
医学専攻 (博士課程)			4	25	－	100	博士 (医学)		0.4	昭和51年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号		
保健学研究科													
保健学専攻 (博士前期課程)			2	7	－	14	修士 (保健学)		3.57	昭和59年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
看護学専攻 (博士前期課程)			2	2	－	4	修士 (看護学)		0.25	平成20年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
臨床心理学専攻 (博士前期課程)			2	25	－	50	修士 (臨床心理学)		0.56	令和4年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号		
保健学専攻 (博士後期課程)			3	4	－	12	博士 (保健学)		0.50	昭和61年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
看護学専攻 (博士後期課程)			3	1	－	3	博士 (看護学)		1.00	平成22年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
国際協力研究科													
国際開発専攻 (博士前期課程)			2	6	－	12	修士 (開発学)		0.50	平成5年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
国際医療協力専攻 (博士前期課程)			2	4	－	8	修士(国際医療協 力)		0.50	平成16年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号 東京都三鷹市新川 六丁目20番2号		
グローバル・コミュ ニケーション専攻 (博士前期課程)			2	10	－	20	修士 (学術)		0.50	平成31年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		
開発問題専攻 (博士後期課程)			3	5	－	15	博士 (学術)		1.07	平成7年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		

附属施設の概要	名称：杏林大学医学部付属病院 目的：診察、教育、研究 所在地：東京都三鷹市新川六丁目20番2号 設置年月：昭和45年8月 規模等：土地27,857.65㎡、建物117,651.16㎡ 名称：杏林大学医学部付属杉並病院 目的：診療、教育、研究 所在地：東京都杉並区和田二丁目981番1号 設置年月：令和6年4月 規模等：土地14,449.24㎡、建物30,173.64㎡ * 借用地(借用期間は令和6年4月1日から30年間)	

学校法人杏林学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更事由
杏林大学					杏林大学				
医学部					医学部				
医学科	105	-	630	→	医学科	105	-	630	
保健学部					保健学部				
臨床検査技術学科	120	-	480	→	臨床検査技術学科	120	-	480	
健康福祉学科	120	-	480	→	健康福祉学科	120	-	480	
看護学科	150	-	600	→	看護学科	150	-	600	
看護学専攻	(100)	-	(400)		看護学専攻	(100)	-	(400)	
看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)		看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)	
臨床工学科	60	-	240	→	臨床工学科	60	-	240	
救急救命学科	50	-	200	→	救急救命学科	50	-	200	
診療放射線技術学科	66	-	264	→	診療放射線技術学科	66	-	264	
臨床心理学科	80	-	320	→	臨床心理学科	80	-	320	
リハビリテーション学科	140	-	560		リハビリテーション学科	140	-	560	
理学療法学専攻	(65)	-	(260)		理学療法学専攻	(65)	-	(260)	
作業療法学専攻	(50)	-	(200)		作業療法学専攻	(50)	-	(200)	
言語聴覚療法学専攻	(25)	-	(100)		言語聴覚療法学専攻	(25)	-	(100)	
総合政策学部					総合政策学部				名称変更
総合政策学科	150	3年次 4	608	→	総合政策学科	0	-	0	令和8年4月学生募集停止
企業経営学科	80	3年次 2	324	→	企業経営学科	0	-	0	令和8年4月学生募集停止
					法律政治学科	130	3年次 4	528	学科の設置(届出)・定員変更(△20)
					経済経営学科	100	3年次 2	404	学科の設置(届出)・定員変更(20)
外国語学部					外国語学部				
英語学科	130	3年次 4	528	→	英語学科	130	3年次 4	528	
中国語学科	32	3年次 2	132	→	中国語学科	32	3年次 2	132	
観光交流文化学科	90	3年次 2	364	→	観光交流文化学科	90	3年次 2	364	
	1373	3年次 14	5730			1373	3年次 14	5730	
杏林大学大学院					杏林大学大学院				
医学研究科					医学研究科				
医学専攻					医学専攻				
(博士課程)	25	-	100	→	(博士課程)	25	-	100	
保健学研究科					保健学研究科				
保健学専攻					保健学専攻				
(博士前期課程)	7	-	14	→	(博士前期課程)	7	-	14	
看護学専攻					看護学専攻				
(博士前期課程)	2	-	4	→	(博士前期課程)	2	-	4	
臨床心理学専攻					臨床心理学専攻				
(博士前期課程)	25	-	50		(博士前期課程)	25	-	50	
保健学専攻					保健学専攻				
(博士後期課程)	4	-	12	→	(博士後期課程)	4	-	12	
看護学専攻					看護学専攻				
(博士後期課程)	1	-	3	→	(博士後期課程)	1	-	3	
国際協力研究科					国際協力研究科				
国際開発専攻					国際開発専攻				
(博士前期課程)	6	-	12	→	(博士前期課程)	6	-	12	
国際医療協力専攻					国際医療協力専攻				
(博士前期課程)	4	-	8	→	(博士前期課程)	4	-	8	
グローバル・コミュニケーション専攻					グローバル・コミュニケーション専攻				
(博士前期課程)	10	-	20	→	(博士前期課程)	10	-	20	
開発問題専攻					開発問題専攻				
(博士後期課程)	5	-	15	→	(博士後期課程)	5	-	15	
計	89	-	238		計	89	-	238	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行 終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
総合政策学部 総合政策学科 (廃止)	学士 (総合政策学)	法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学 関係	法律政治学科	14	8	総合政策学部 法律政治学科	学士 (法律政治学)	法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学 関係	総合政策学科	14	8
			経済経営学科	3	2				企業経営学科	2	2
			計	17	10				計	16	10
総合政策学部 企業経営学科 (廃止)	学士 (企業経営学)	経済学関係	法律政治学科	2	2	総合政策学部 経済経営学科	学士 (経済経営学)	経済学関係	総合政策学科	3	2
			経済経営学科	7	4				企業経営学科	7	4
			計	9	6				計	10	6

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
昭和59年4月	社会科学部社会科学科 開設	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	設置認可(学部)
昭和63年4月	社会科学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成4年4月	社会科学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成6年4月	社会科学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成10年4月	社会科学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成14年4月	社会科学部社会科学学科を総合政策学部総合政策学科に名称変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	名称変更(学部・学科)
平成14年5月	社会科学部の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)
平成18年4月	総合政策学部企業経営学科開設	経済学関係	設置届出(学科)
	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
平成20年4月	社会科学部 廃止	—	届出(廃止)
平成20年4月	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
	企業経営学科のカリキュラム変更	経済学関係	
平成22年4月	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
	企業経営学科のカリキュラム変更	経済学関係	
平成26年4月	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
	企業経営学科のカリキュラム変更	経済学関係	
平成28年4月	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
	企業経営学科のカリキュラム変更	経済学関係	
令和4年4月	総合政策学科のカリキュラム変更	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	学則変更
	企業経営学科のカリキュラム変更	経済学関係	
令和8年4月	総合政策学科 → 法律政治学科	法学関係及び経済学関係及び社会学・社会福祉学関係	設置届出(学科)
	企業経営学科 → 経済経営学科	経済学関係	設置届出(学科)
令和8年4月	総合政策学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
	企業経営学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合政策学部 経済経営学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） 教 員			
ベ ー シ ッ ク 科 目	ベーシック政治	1前	○		2		○									1		
	ベーシック経済	1前	○		2		○				1							
	ベーシック法律	1前	○		2		○									1		
	ベーシック国際関係	1前	○		2		○									1		
	ベーシック福祉政策	1前	○		2		○									1		
	ベーシック経営	1前	○		2		○				1							
	ベーシック会計	1前	○		2		○				1							
	小計（7科目）	—	—	0	14	0	—				3					4		
学 部 共 通 科 目	現代日本政治A（政治）	1・2・3・4後	○		2		○										1	オムニバス
	現代日本政治B（行政）	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	憲法Ⅰ（統治機構）	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	民法Ⅰ（入門・財産法①）	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	国際政治史	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	国際政治学	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	健康社会学	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	社会福祉政策論	1・2・3・4後	○		2		○										1	
	日本経済論	1・2・3・4後	○		2		○			1								
	世界経済論	1・2・3・4後	○		2		○			1								
	経営学総論	1・2・3・4後	○		2		○				1							
	マーケティング総論	1・2・3・4後	○		2		○				1							
	基礎簿記Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1	1						1	
	基礎簿記Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1	1						1	
	International Relations	1・2・3・4後	○		2		○				1							
	Business Management	1・2・3・4後	○		2		○			1	1						1	
小計（16科目）	—	—	0	32	0	—			3	4						10		
学 科 専 門 科 目	ミクロ経済学	2・3・4後	○		2		○			1								
	マクロ経済学	2・3・4後	○		2		○			1								
	経済統計	2・3・4後	○		2		○			1								
	国際経済学	2・3・4前	○		2		○			1								
	国際政治経済学	2・3・4後	○		2		○				1							
	公共経済学	2・3・4前	○		2		○			1								
	金融財政論	2・3・4前	○		2		○			1								
	環境経済学	2・3・4前	○		2		○			1								
	経営組織論	2・3・4前	○		2		○										1	
	経営戦略論	2・3・4前	○		2		○										1	
	イノベーション論	2・3・4後	○		2		○										1	
	流通論	2・3・4前	○		2		○				1							
	国際経営論	2・3・4前	○		2		○										1	
	ベンチャー企業論	2・3・4後	○		2		○										1	
	消費者行動論	2・3・4後	○		2		○				1							
	組織行動論	2・3・4前	○		2		○				1							
	財務会計論	2・3・4前	○		2		○			1								
	管理会計論	2・3・4後	○		2		○			1								
	国際会計論	2・3・4後	○		2		○			1								
	監査論	2・3・4前	○		2		○				1							
	税務会計論	2・3・4後	○		2		○			1								
	商業簿記Ⅰ	2・3・4前	○		2		○										1	
	商業簿記Ⅱ	2・3・4後	○		2		○										1	
	会計データ分析論	2・3・4前	○		2		○										1	

		企業取引法	2・3・4後	○		2		○							1	共同
		民法Ⅱ（財産法②）	2・3・4前	○		2		○							1	
		国際法Ⅰ	2・3・4前	○		2		○							1	
		国際法Ⅱ	2・3・4後	○		2		○							1	
		会社法Ⅰ（ガバナンス）	2・3・4後	○		2		○							1	
		会社法Ⅱ（ファイナンス）	2・3・4前	○		2		○							1	
		社会保障論	2・3・4後	○		2		○							1	
		ICTビジネス論	2・3・4後	○		2		○			1					
		グローバル・キャリア・ディベロップメント	2・3・4後	○		2		○			1				2	
		Economics	2・3・4後	○		2		○							1	
		Marketing Strategy	2・3・4後	○		2		○			1					
		Business Strategy	2・3・4後	○		2		○							1	
		小計（36科目）	—	—	0	72	0	—			5	4				
専門 演習科目	演習・卒業研究	演習Ⅰ	2前	○		2		○			5	4				共同
		演習Ⅱ	2後	○		2		○			5	4				
		演習Ⅲ	3前	○		2		○			5	4				
		演習Ⅳ	3後	○		2		○			5	4				
		演習Ⅴ	4前	○		2		○			5	4				
		演習Ⅵ	4後	○		2		○			5	4				
		卒業研究Ⅰ	4前	○		2		○			5	4				
		卒業研究Ⅱ	4後	○		2		○			5	4				
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—			5	4				
	学問領域別演習	学問領域別演習Ⅰ	2・3・4通	○		2		○			6	4				共同 共同
		学問領域別演習Ⅱ	2・3・4通	○		2		○			6	4				
		小計（2科目）	—	—	0	4	0	—			6	4				
	学際演習	学際演習Ⅰ	2・3・4通	○		2		○			5	4				共同 共同 共同 共同
		学際演習Ⅱ	2・3・4通	○		2		○			5	4				
		学際演習Ⅲ	2・3・4通	○		2		○			5	4				
		学際演習Ⅳ	2・3・4通	○		2		○			5	4				
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			5	4				
	特別演習	特別演習Ⅰ	1・2・3・4通			2		○								1 1 1
		特別演習Ⅱ	1・2・3・4通			2		○			1					
		特別演習Ⅲ	1・2・3・4通			2		○								
		特別演習Ⅳ	1・2・3・4通			2		○			1					
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			1					
	プロジェクト演習	プロジェクト演習Ⅰ	1・2・3・4通			2		○								1 1 1 1
		プロジェクト演習Ⅱ	1・2・3・4通			2		○								
		プロジェクト演習Ⅲ	1・2・3・4通			2		○								
		プロジェクト演習Ⅳ	1・2・3・4通			2		○								
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—								
	海外演習	海外演習基礎Ⅰ	2・3・4通			2		○				1				1 1 1 1 1
		海外演習基礎Ⅱ	2・3・4通			2		○								
		海外演習応用Ⅰ	2・3・4通			2		○								
		海外演習応用Ⅱ	2・3・4通			2		○								
		海外演習発展Ⅰ	2・3・4通			2		○			1					
		海外演習発展Ⅱ	2・3・4通			2		○								
		海外演習実践	2・3・4通			2		○								
		小計（7科目）	—	—	0	14	0	—				1				
導入教育		プレゼミナールⅠ	1前	○	2			○			3	4				共同 オムニバス・共同
		プレゼミナールⅡ	1後	○	2			○			3	4				
		時事問題研究A	1通	○	2			○								
		時事問題研究B	1通	○	2			○								
		課題発見演習	1後	○	2			○			2	2				
		情報リテラシーA	1前	○	2			○								
		情報リテラシーB	1後	○	2			○								
		情報社会論	1前	○	2			○			5	4				
		小計（8科目）	—	—	16	0	0	—			5	4				

一般教養科目	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1・2・3・4後			2		○			4	2	3				1	オムニバス	
	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1・2・3・4後			2		○									1		
	社会と大学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○									8		
	社会と大学Ⅱ	1・2・3・4後			2		○									10		
	社会と大学Ⅲ	1・2・3・4前			2		○									13		
	心理学	1・2・3・4通			2		○									2		
	歴史学	1・2・3・4通			2		○									1		
	文学	1・2・3・4通			2		○									1		
	音楽	1・2・3・4通			2		○									1		
	日本国憲法	1・2・3・4通			2		○									1		
	日本史	1・2・3・4通			2		○									1		
	外国史	1・2・3・4通			2		○									1		
	地理学	1・2・3・4前			2		○									1		
	地誌学	1・2・3・4後			2		○									1		
	哲学	1・2・3・4通			2		○									1		
倫理学	1・2・3・4通			2		○			1									
社会学	1・2・3・4前			2		○			1									
体育	健康と体育	1前			2		○								2	共同		
小計（18科目）		—	—	0	36	0	—			6	4					38		
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Listening and Speaking A	1前	○	2			○									5	共同
		英語Ⅱ Reading and Writing A	1前	○	2			○								6		
		英語Ⅲ Listening and Speaking B	1後	○	2			○							5			
		英語Ⅳ Reading and Writing B	1後	○	2			○							6			
		小計（4科目）	—	—	8	0	0	—								6		
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ	2前			2			○								3	
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ	2後			2			○								3	
		中国語Ⅰ	2前			2			○								1	
		中国語Ⅱ	2後			2			○								1	
		フランス語Ⅰ	2前			2			○								1	
		フランス語Ⅱ	2後			2			○								1	
		ドイツ語Ⅰ	2前			2			○								2	
		ドイツ語Ⅱ	2後			2			○								2	
		スペイン語Ⅰ	2前			2			○								1	
		スペイン語Ⅱ	2後			2			○								1	
		韓国語Ⅰ	2前			2			○								1	
		韓国語Ⅱ	2後			2			○								1	
		小計（12科目）	—	—	0	24	0	—									10	
		キャリア関連科目	ライフ・プランニング	1前	○	2				○				1				
キャリア開発基礎	2前		○	2				○				1					共同	
キャリア開発演習Ⅰ	2後		○	1					○							1		
キャリア開発演習Ⅱ	3前		○	1					○							1		
インターンシップⅠ	3前				2			○				1				1		
インターンシップⅡ	3後				2			○								1		
申告型インターンシップA	2前				2				○			1				1		
申告型インターンシップB	3前				2				○			1				1		
小計（8科目）	—	—	6	8	0	—				1					1			
プログラム科目	グローバル・キャリア・プログラム	Introduction to GCP	1後			2			○			1				2	オムニバス	
		Academic WritingⅠ	1後			2			○							1		
		Academic WritingⅡ	2前			2			○							1		
		Academic ReadingⅠ	1後			2			○							1		
		Academic ReadingⅡ	2前			2			○							1		
		Organization Culture and Communication	2後			2			○							1		
		Professional Writing	2後			2			○							1		
		Reading for Social Sciences	2後			2			○							1		
		Recent Topics in English	2後			2			○							1		
		Speaking in Professional Contexts	2後			2			○							1		
		Critical Thinking	2前			2			○							1		
Writing for Social Sciences		3前			2			○							1			
Social Sciences Discussion		2後			2			○							1			
小計（13科目）	—	—	0	26	0	—				1					4			
コミュニティ・プログラム	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論	1・2・3・4前			2			○				1				2	共同	
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ	1～4通			2				○			1				2	共同	
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ	1～4通			2				○			1				2	共同	
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ	1～4通			2				○			1				2	共同	
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ	1～4通			2				○			1				2	共同	
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—				1					2			

データ・デザイン・プログラム	プログラミングA	2・3・4前			2		○							1		
	プログラミングB	2・3・4後			2		○							1		
	データ・サイエンスA	2・3・4前			2		○							1		
	データ・サイエンスB	2・3・4後			2		○							1		
	データ・デザイナー概論	2・3・4前			2		○				1					
小計（5科目）		—	—	0	10	0	—				1				2	
合計（161科目）		—	—	30	290	0	—				6	4				73
学位又は称号		学士（経済経営学）			学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
4年以上在学し、科目種別ごとに所定の単位を修得したうえで、合計124単位以上を修得しなければならない。科目内訳として、ベーシック科目4単位以上、学部共通専門科目10単位以上、学科専門科目24単位以上、学問領域別演習と学際演習を合わせて2単位以上、導入教育14単位、一般教養科目6単位以上、必修外国語8単位、必修キャリア関連科目6単位を修得しなければならない。								1 学年の学期区分				2 期				
								1 学期の授業期間				15 週				
								1 時限の授業の標準時間				120 分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合政策学部 企業経営学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員 (助手を 除く)		
ベー シ ック 科 目	ベーシック政治	1前	○		1		○								1		
	ベーシック経済	1前	○		1		○								1		
	ベーシック法律	1前	○		1		○								1		
	ベーシック国際関係	1前	○		1		○								1		
	ベーシック福祉政策	1前	○		1		○								1		
	ベーシック経営	1前	○		1		○				1						
	ベーシック会計	1前	○		1		○				1						
	小計 (7科目)	—	—	0	7	0	—				2				5		
コ ー ス 別 専 門 科 目 (経営)	コア 科目	経営学総論	1・2・3・4後	○		2		○				1					
		経営管理論	2・3・4後	○		2		○								1	
		経営組織論	2・3・4後	○		2		○								1	
		経営戦略論	2・3・4後	○		2		○								1	
		イノベーション論	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		社会学	2・3・4後	○		2		○								1	
		ミクロ経済学	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		マーケティング総論	2・3・4後	○		2		○				1					
		流通論	2・3・4後	○		2		○				1					
		経営情報論	2・3・4後	○		2		○								1	
		財務会計論	2・3・4後	○		2		○			1						
	財務管理論	2・3・4後	○		2		○								1		
	小計 (11科目)	—	—	0	24	0	—			1	2				7		
	応 用 科 目	経営史	2・3・4後			2		○								1	
		産業社会学	2・3・4後			2		○								1	
		現代企業論	2・3・4後			2		○								1	
		国際経営論	2・3・4後			2		○								1	
		ベンチャー企業論	2・3・4後			2		○								1	
		管理会計論	2・3・4後			2		○								1	
		会計データ分析論	2・3・4後			2		○								1	
		出店戦略	2・3・4後			2		○					1				
		販売戦略	2・3・4後			2		○					1				
		原価計算	2・3・4後			2		○								1	
		会社法Ⅰ (ガバナンス)	1・2・3・4後			2		○				1					
		会社法Ⅱ (ファイナンス)	2・3・4後			2		○				1					
		企業取引法	2・3・4後			2		○				1					
		行動経済学	2・3・4後			2		○					1				
		ゲーム理論	2・3・4後			2		○								1	
		国際政治学A	2・3・4後			2		○								1	
		国際政治学B	2・3・4後			2		○								1	
		現代日本政治A (政治)	2・3・4後			2		○								1	
		現代日本政治B (行政)	2・3・4後			2		○								1	
		民法Ⅰ (民法入門・総則)	2・3・4後			2		○								1	
		小計 (16科目)	—	—	0	40	0	—			1	2				10	
コ ア 科 目		財務会計論	2・3・4後	○		2		○				1					
		国際会計基準論	1・2・3・4後	○		2		○				1					
		基礎簿記Ⅰ	2・3・4後	○		2		○				1	1				
		基礎簿記Ⅱ	2・3・4後	○		2		○				1	1				
	監査論	2・3・4後	○		2		○					1					
	管理会計論	2・3・4後	○		2		○				1						
	財務諸表論	1・2・3・4後	○		2		○				1						
	商業簿記	2・3・4後	○		2		○								1		
	原価計算	2・3・4後	○		2		○								1		
	税務会計論	2・3・4後	○		2		○				1						

コース別専門科目（会計）		会社法Ⅰ（ガバナンス）	1・2・3・4後	○		2		○			1				
		会社法Ⅱ（ファイナンス）	2・3・4後	○		2		○			1				
		小計（12科目）	—	—	0	24	0	—			3	1			1
	応用科目	会計の歴史と課題	2・3・4後			2		○			1				
		財務諸表作成演習Ⅰ	2・3・4後			2		○							1
		財務諸表作成演習Ⅱ	2・3・4後			2		○							1
		会計データ分析論	2・3・4後			2		○							1
		会計データ分析演習	2・3・4後			2		○							1
		企業法総論	2・3・4後			2		○			1				
		企業取引法	2・3・4後			2		○			1				
		租税法Ⅰ	2・3・4後			2		○							1
		租税法Ⅱ	2・3・4後			2		○							1
		経営学総論	2・3・4後			2		○				1			
		経営管理論	2・3・4後			2		○							1
		経営組織論	2・3・4後			2		○							1
		マーケティング総論	2・3・4後			2		○				1			
		財務管理論	2・3・4後			2		○							1
		労働法	2・3・4後			2		○							1
		国際法Ⅰ	2・3・4後			2		○							1
		国際法Ⅱ	2・3・4後			2		○							1
マクロ経済学	2・3・4後			2		○							1		
	小計（12科目）	—	—	0	36	0	—			2	2			7	
専門演習科目	演習・卒業研究	演習Ⅰ	2前	○		2			○		4	3			14
		演習Ⅱ	2後	○		2			○		4	3			14
		演習Ⅲ	3前	○		2			○		5	3			16
		演習Ⅳ	3後	○		2			○		5	3			16
		演習Ⅴ	4前	○		2			○		5	3			18
		演習Ⅵ	4後	○		2			○		5	3			18
		卒業研究Ⅰ	4前	○		2			○		5	3			18
		卒業研究Ⅱ	4後	○		2			○		5	3			18
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—			5	3			18
	学際演習	学際演習Ⅰ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		学際演習Ⅱ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		学際演習Ⅲ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		学際演習Ⅳ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		学際演習Ⅴ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		学際演習Ⅵ	2・3・4通	○		2			○		4	3			17
		小計（6科目）	—	—	0	12	0	—			4	3			17
	特別演習	特別演習Ⅰ	1・2・3・4通			2			○						1
		特別演習Ⅱ	1・2・3・4通			2			○						1
		特別演習Ⅲ	1・2・3・4通			2			○						1
		特別演習Ⅳ	1・2・3・4通			2			○						1
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—							2
	プロジェクト演習	プロジェクト演習Ⅰ	1・2・3・4通			2			○						1
		プロジェクト演習Ⅱ	1・2・3・4通			2			○						1
		プロジェクト演習Ⅲ	1・2・3・4通			2			○						1
		プロジェクト演習Ⅳ	1・2・3・4通			2			○						1
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—							2
	コミュニティ・ベースド・ラーニング	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論	1・2・3・4前			2									1
		コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ	1～4通年			2									1
		コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ	1～4通年			2									1
		コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ	1～4通年			2									1
		コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ	1～4通年			2									1
		小計（5科目）	—	—	0	10	0	—							1
導入教育	ブレゼミナールA	1前	○		2					2	3			15	
	ブレゼミナールB	1後	○		2					2	3			15	
	時事問題研究A	1通	○		2		○							1	
	時事問題研究B	1通	○		2		○							1	
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			2	3			15	
	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1・2・3・4後			2		○							1	
	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	社会と大学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○			5	2			7	
	社会と大学Ⅱ（SDGs）	1・2・3・4後			2		○			1	2			12	

オムニバス	オムニバス

一般教養科目		社会と大学Ⅲ		1・2・3・4前		2		○							13	オムニバス	
		心理学		1・2・3・4通		2		○						1			
		歴史学		1・2・3・4通		2		○						1			
		文学		1・2・3・4通		2		○						1			
		音楽		1・2・3・4通		2		○						1			
		Japan Studies		1・2・3・4前		2		○						1			
		Media Literacy		1・2・3・4後		2		○						1			
		Critical Thinking		1・2・3・4後		2		○						1			
		小計（12科目）		—	—	0	24	0	—			6	3				
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Focus on FormsⅠ	1前	○	2			○							5	共同 オムニバス	
		英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ	1前	○	2			○						6			
		英語Ⅲ Focus on FormsⅡ	1後	○	2			○					5				
		英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ	1後	○	2			○					6				
		小計（4科目）	—	—	8	0	0	—						6			
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ	2前			2			○						3		
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ	2後			2			○						3		
		中国語Ⅰ	2前			2			○						1		
		中国語Ⅱ	2後			2			○						1		
		フランス語Ⅰ	2前			2			○						1		
		フランス語Ⅱ	2後			2			○						1		
		ドイツ語Ⅰ	2前			2			○						2		
		ドイツ語Ⅱ	2後			2			○						2		
		スペイン語Ⅰ	2前			2			○						1		
		スペイン語Ⅱ	2後			2			○						1		
		韓国語Ⅰ	2前			2			○						2		
		韓国語Ⅱ	2後			2			○						2		
		小計（12科目）		—	—	0	24	0	—								10
		キャリア関連科目	ライフ・プランニングⅠ		1前	○	2			○							1
ライフ・プランニングⅡ			1後	○	2			○						2			
キャリア開発論Ⅰ			2前	○	2			○									
キャリア開発論Ⅱ			2後	○	2			○									
キャリア開発演習Ⅰ			3前	○	2				○					1			
キャリア開発演習Ⅱ			3後	○	2					○				1			
計算力演習Ⅰ			2前			2			○					1			
計算力演習Ⅱ			2後			2			○					1			
インターンシップⅠ			3前			2			○					1			
インターンシップⅡ			3後			2			○					1			
小計（10科目）			—	—	12	8	0	—			1	3			4		
グローバル・キャリア・コース	アカデミックス スキル科目	Academic WritingⅠ	1前			2			○						1	共同	
		Academic WritingⅡ	1後			2			○						1		
		Oral CommunicationⅠ	1前			2			○						1		
		Oral CommunicationⅡ	1後			2			○						1		
		Business CommunicationⅠ	2前			2			○						1		
		Business CommunicationⅡ	3後			2			○						1		
		小計（6科目）	—	—	0	12	0	—							3		
	キャリア関連 科目	Organization Culture and Communication	2前			2			○						1	共同	
		Global Career Development	1後			2			○						3		
		小計（2科目）	—	—	0	4	0	—							4		
	ブリッジ 科目	Recent Topic in English	2・3・4通			2			○						1	共同	
		Writing for the Business World	2・3・4通			2			○						1		
		Speaking in Professional Contexts	2・3・4通			2			○						1		
		Writing for Social SciencesⅠ	2・3・4前			2			○						1		
		Writing for Social SciencesⅡ	2・3・4前			2			○						1		
		Writing for Social SciencesⅢ	2・3・4後			2			○						1		
		Writing for Social SciencesⅣ	2・3・4後			2			○						1		
		Social Sciences DiscussionⅠ	2・3・4後			2			○						1		
		Social Sciences DiscussionⅡ	2・3・4後			2			○						1		
		Social Sciences DiscussionⅢ	2・3・4前			2			○						1		
Social Sciences DiscussionⅣ		2・3・4前			2			○						1			
小計（11科目）		—	—	0	22	0	—							3			
	海外演習基礎Ⅰ				2				○					1	共同		
	海外演習基礎Ⅱ				2				○					1			

授 業 科 目 の 概 要 (総合政策学部経済経営学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ベーシック科目	ベーシック政治	○	現在の自由民主主義国家と独裁（権威主義）国家の争いは、それぞれの考え方の差違に端を発している。2つの陣営の溝は中々埋まることはないが、両陣営の考え方はどのようにして発展してきたのか。本講義では米英仏を中心とした近代欧米の政治思想について明らかにしていく。	
	ベーシック経済	○	経済学の入門講義である。グローバリゼーションの進展により、日本や世界各国における経済事情は移り変わりが激しくなっている。日本においても多くの経済的課題に直面している。これら複雑に入り組んだ経済的事象を理解するためには、経済学的な考え方を学ぶとともに、経済政策における課題を包括的に捉えることが重要である。本講義では、日本経済が抱える様々な諸問題を取り上げ、「なぜそうした課題があるのか、どのような問題があるのか、政策的にそれら課題をどのように解決しようとしているのか」などを多面的に見る。授業では特に直近の経済的ニュースについて取り上げる。	
	ベーシック法律	○	私達の生活は常に法との関わりをもっている。将来、いかなる方面、また、どのコースに進むにせよ、法と無縁ということは考えられない。もちろん、関わりを有するであろう法を全て知ることはできないし、また、その必要もない。むしろ重要なことは、法的な考え方を身につけることである。本講義においては、おもに交通事故事案の分析を通じて、そこでの法的な問題点、解決のための考え方を身につけることを目的とする。できるだけ、具体的な事例等を用いながら、分かりやすく講義を進めたいと考えている。	
	ベーシック国際関係	○	社会的な要請であり、本学が目標としても掲げるグローバル人材の育成にあたり、国際関係系の知識は必須である。本科目は国際関係系諸科目を履修する上での基礎的知識として位置付けられる。基本的な国際社会の成り立ちから始まり、現在地球上に存在する諸問題の概観までをカバーする。	
	ベーシック福祉政策	○	本講義では、社会福祉および社会保障の基礎について解説する。多種多様な社会福祉・社会保障問題の事例を紹介しながら、各回において複数の問いを提示し、その答えについて各人が考える。本講義を履修することにより、現代社会における社会福祉および社会保障の意義について理解を深めるとともに、各人が社会福祉および社会保障のあり方を提言できるようになるための基礎的な知識を得ることを目標とする。	
	ベーシック経営	○	この講義は、企業経営の基本を学ぶ科目である。企業の役割・目的・責任といった企業に関する基礎的知識およびビジネスの全体像を把握するために必要不可欠となる企業を取り巻く環境についての基本的な理解を得ることを目的とした講義である。本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、企業経営にとって重要と思われるニュースが生じた場合、受講生の理解や興味・関心に応じて講義内容を変更する場合がある。こうした進行予定の詳細や受講上の注意・評価方法等の詳細については授業内で説明するので、必ず出席をすること。	
	ベーシック会計	○	会計は、企業の行う経営活動を資本運動の側面から把握し、認識・測定・報告する体系である。本講義では、①現代社会の中で会計がどのような形で形成されているか、②会計の諸分野が総合政策学部の講義とどのように結びついているか、③会計にかかわるキーワードや世の中の仕組みがどうなっているか をやさしく説き、第2セメスター以降の学習に繋げていくことを目的としている。	
	現代日本政治A(政治)	○	現代日本では様々な政治問題が表面化している。これらの諸問題を的確に理解するためには、政治学の基本となる理論を学ぶことが重要である。本講義では立法と行政の関係や役割、歴史などについて概観していく。本講義は現代の政治を中心に扱っているため、ニュースや新聞、雑誌などで時事問題の概要をつかんでおくことが望ましい。	

現代日本政治 B (行政)	○	2023年末、日本の政治は「政治とカネ」の問題に揺れ動いていた。区長選挙をめぐる贈収賄事件による現職議員の逮捕や、派閥パーティー券をめぐる政治資金収支報告上の不正裏金疑惑など、政治倫理に関わる問題が国会議員の立場を大きく揺るがせる問題となっている。そもそも、政治とはわたしたちがよりよい生活を送っていくために行われているはずで、それは選挙でも公約として掲げられている。にもかかわらず、政治に対する不信感が拭われず、有権者の声が政治や行政に反映されていないのか。本講義では、現代日本政治の抱える諸問題を、主に行政の側面から取り上げて歴史や制度の背景を講述していく。	
憲法 I (統治機構)	○	近代憲法の思想的淵源である近代立憲主義を踏まえつつ、憲法の総論および統治機構についての講義を行い、憲法の意義や役割、政治制度（国会、内閣、裁判所、地方自治）の仕組みと働きについて検討する。憲法総論および統治機構に関する諸問題について、学説や判例に関する基本的な知識を習得するとともに、それらが現実の政治の運用において持つ意味を自分なりに考えることができる能力が備わるよう、指導します。	
民法 I (入門・財産法①)	○	我が国の民法は、総則、物権、債権、親族、相続の全5編からなる1000条を超える膨大な法典である。この講義では、総則について学んでいく。第1編総則については、通則、人、法人、物、法律行為、期間の計算、時効の全7章を対象に、民法の全体構造と民法に共通のルールを学んでいく。民法の総則は、民法が司法の一般法であることから、司法のすべての領域において総則と作用することとなる。	
国際政治史	○	この講義では、主権国家成立後の国際秩序の形成、変化及び現状を概観し、国際政治構造変化のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。国際政治学の諸概念を考察しながら国際社会のありかたを探究する講義である。競争と協力は近代国際社会形成の両輪である。講義中、エネルギーの利用、医療技術の進歩、通信技術の革新、社会組織形態の変容など競争の視点から国際政治構造の変動を分析する。同時に国家間の協力の必要性及び協力の形態についても考察を加える。	
国際政治学	○	グローバル化の進む現代社会では、様々なビジネスシーンや公的機関の業務に於いて、諸外国・国際社会との関わりは不可避となっている。大学卒業後にビジネスマンや公務員として第一線で活躍する為には、国際政治と国際関係に関する基礎知識が要求される。本講義では、現実の国際政治を理解する上での、基本的な概念、学説や理論について解説する。講義の後半部分では、軍事・安全保障の側面から国際政治を分析する。	
健康社会学	○	感染症や生活習慣病の現状とその要因について理解を深めることを目標とする。そのために、健康問題を科学的に理解する視点について学習し、その視点によって食生活、身体活動、飲酒、喫煙といった生活習慣と健康との関連について理解を深める。感染症については、性感染症（HIVや梅毒）と世界三大感染症について取り上げる。また、リプロダクティブヘルスライツについても学習する。	
社会福祉政策論	○	社会福祉政策を社会における福祉資源の分配の基本方針として解説する。一般的に福祉資源は、家族による贈与、市場における交換によって入手されるが、それが困難な人々に対しては社会サービスとして再分配されることになる。その分配形態は、特別な人々にのみ行う選別的な分配や、すべての人々を対象とした普遍的な分配など様々である。講義を通じて、人間が福祉を達成するために必要な福祉資源の開発および分配形態の種類やその特徴について理解を深める。	
日本経済論	○	基礎的な経済学の素養のある学生を対象とするハイクラスの講義である。現代日本経済が直面する様々な問題を最新のデータや新聞・雑誌等からピックアップした資料を用いて論じる。現代日本経済が直面する短期的・中長期的課題についての考えを深めるとともに、マスコミ等による日本経済に関する報道を理解し、それらの問題点や展望を自分の言葉で発信できるよう導く。	
世界経済論	○	「経済・通貨統合」という壮大な歴史的実験にあるヨーロッパの経済、社会や日米関係をより良く理解することが肝要なアメリカの経済、経済成長の過程にあるアジアの経済をそれぞれ概観し、易しく解説していく。その上で、日本とヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国との相互関係についても講義し、世界の経済を理解するために重要な視点を要請していくことを目指している。	

経営学総論	○	この講義では、経営学の観点から、企業活動やビジネスに関する基礎知識について解説する。企業は商品やサービスを生み出して人々に提供する生産者であり、現代社会を支える重要な存在である。企業の活動や仕組みを理解するために、この講義では、組織、戦略、ガバナンス、財務、知識・情報、社会的責任といった多様な切り口から、具体例を挙げながら解説する。	
マーケティング総論	○	マーケティングの考え方やその戦略要素と関連する法規や業界慣習との関連について、毎回出される具体的な課題を考えながら、網羅的に説明する。専門用語、商品やサービスの市場規模、業界構造などの具体的な知識を増やすことを目的とする。経営、マーケティングの専門用語、市場規模、業界構造などの基礎的知識を増やすこと目標に進める。DDPの科目に入っているため、数字・統計を用いることが多くなる。学位との関連では“ビジネス・ベーシック・スキルを養うこと”を目的とする。	
基礎簿記Ⅰ	○	複式簿記は企業の経済的な取引を貨幣という尺度で記録し、計算し、会計報告書にまとめていくための、企業会計の重要な手段である。今日ほとんどの企業で、この計算方法が用いられており、企業を理解するための言語としての役割を果たしている。複式簿記は、単に他の会計に関する科目を学ぶ上で必要不可欠であるばかりでなく、企業の業績や財政状態を理解することを可能にすることから、社会人が身につけておくべき前提知識となっている。本講義では、とすれば学習の障りとなる専門用語の理解に配慮しながら、企業が行う日常の取引の処理を中心に、複式簿記のしくみを明らかにしていく。	
基礎簿記Ⅱ	○	複式簿記は企業の経済的な取引を貨幣という尺度で記録し、計算し、会計報告書にまとめていくための、企業会計の重要な手段である。今日ほとんどの企業で、この計算方法が用いられており、企業を理解するための言語としての役割を果たしている。複式簿記は、単に他の会計に関する科目を学ぶ上で必要不可欠であるばかりでなく、企業の業績や財政状態を理解することを可能にすることから、社会人が身につけておくべき前提知識となっている。本講義では、とすれば学習の障りとなる専門用語の理解に配慮しながら、企業が行う日常の取引の処理を中心に、複式簿記のしくみを明らかにしていく。	
International Relations	○	As you begin your study of international relations - often referred to simply as 'IR' - it is worth asking some basic questions. What distinguishes international relations from the study of history, law, economics or political science? When did it emerge as an academic discipline, with its own university departments and publications? How has international relations changed over time? What does IR contribute to the sum of human knowledge? The purpose of this course is to help you answer these fundamental questions. It will do so by familiarising you with key international relations issues and introducing you to some of the specialised IR topics that you may choose to study in the coming years. We will look in some detail at both the real-world problems that IR addresses, and some of the essential theories it uses to understand the international system. 国際関係学（単に「IR」と呼ばれることも多い）の勉強を始めるにあたって、いくつかの基本的な質問を投げかけてみる価値はあるだろう。国際関係学は歴史学、法学、経済学、政治学と何が違うのか？国際関係学が学問分野として確立し、大学の学部や出版物ができたのはいつなのか。国際関係は時代とともにどのように変化してきたのか。国際関係学は人類の知の総体としてどのような貢献をしているのだろうか。このコースの目的は、このような基本的な疑問に答える手助けをすることである。このコースでは、国際関係の主要な問題に慣れ親しみ、今後数年間で学ぶことになるであろう専門的なIRのトピックのいくつかを紹介することによって、そうします。このコースでは、国際関係学が扱う現実的な問題と、国際システムを理解するために国際関係学が用いる本質的な理論について詳しく説明します。	

	Business Management	○	経営学に関連する諸問題の入門コースである。（オムニバス方式/全15回）1. コーポレートファイナンスの基礎（18小田信之）2. 将来キャッシュフローの評価 貨幣の時間価値、割引キャッシュフロー評価、債券評価、株式評価（18小田信之）3. 資本予算 正味現在価値やその他の投資基準（18小田信之）4. 資本コストと長期財務政策（18小田信之）5. 企業財務に関するまとめ・試験（18小田信之）6. ビジネスとマーケティング基礎知識（42加藤拓）7. マーケティングプロセス概論①（42加藤拓）8. マーケティングプロセス概論②（42加藤拓）9. マーケティングプロセス概要③（42加藤拓）10. マーケティングに関するまとめ・試験（42加藤拓）11. 経済の知識とスキル（8マルコム・ヘンリ・フィルト [®] ）12. 技術・組織・イノベーション（8マルコム・ヘンリ・フィルト [®] ）13. テクノロジーと組織（8マルコム・ヘンリ・フィルト [®] ）14. 未来のための学習・研修・能力開発（8マルコム・ヘンリ・フィルト [®] ）15. 最終課題（8マルコム・ヘンリ・フィルト [®] ）	オムニバス形式
学 科 専 門 科 目	ミクロ経済学	○	私たちの身のまわりで見られるさまざまな経済現象を理解するうえで、経済学の考え方やメカニズムについて学んでおくことはとても重要である。この授業では、経済学の分野のなかで、ミクロ経済学に関する入門的な内容を取り扱う。ミクロ経済学では、消費者や生産者といった個々の経済主体の行動や、市場メカニズムについての分析などについて学んでいく。経済学の考え方やメカニズムについて学んでいくためには、専門的な用語の意味や、論理的な思考、グラフを用いた視覚的な理解についても必要となる。そのため授業では、論理的・抽象的な内容も多く取り上げられる。こうした考え方・視点は、現実経済のさまざまな状況を理解するうえでのヒントを与えてくれることも多い。この授業を通じて、経済学の考え方などを身に付けるとともに、現実の経済現象についての関心も高めていってもらいたいと考えている。	
	マクロ経済学	○	マクロ経済学の入門講義である。経済の全体的な活動水準を測る尺度としての国内総生産と、それに関連する集計量の意味を学ぶ。加えて、好況や不況といった形でそれらが全体的として変動するメカニズム、およびそれに対する政府の財政・金融政策について論ずる。経済コースにおけるさまざまな応用科目の基礎理論を身に付けるとともに、新聞やテレビの経済ニュースを、その背後のメカニズムとともに理解できるようになる。	
	経済統計	○	統計分析の基本的かつ重要な方法である回帰分析（理論および手法）を中心的に学ぶ。また、回帰分析の周辺分野の統計学についても、基礎知識を学習する。さらに、現実の経済の状況を捉えるために利用されるさまざまな経済関連の統計データについても勉強する。統計学や回帰分析は、データを科学的に分析する道具である。経済学などの社会科学や自然科学の分野はもちろん、最近では各種のビジネスや政策企画といった分野でも、それらの知識や技術が必須となっている。本講義では、入門的な知識の習得から出発して、より実践的な応用技術を身に付けることを目指す。特に、3回のPC実習を活用して、実際に活用可能な分析スキルを習得する。	
	国際経済学	○	国際収支表と為替レートの経済学、国境を越えた経済取引の実態、および国際貿易の理論、実証、政策について講義する。 具体的には、国際収支表の読み方、外国為替市場の諸制度、国際貿易体制及び地域貿易枠組みについて学ぶ。加えて、為替レートが円高になったり、円安になったりするメカニズムについても解説する。	
	国際政治経済学	○	国際社会はアナーキーである。つまり、国内社会と異なり、中央政府が存在しないのである。しかしながら、そのことは国際社会に秩序が存在しないことを意味するのではない。国際社会は様々な制度を構築することにより、国境を越える経済的に問題に対処してきたのである。本講義では、国際政治経済学の基礎を体系的に学ぶことを目指していく。具体的には、近代以降の国家間の経済関係（特に貿易や投資の自由化）の政治的側面に焦点を当て、概観して行いく。	

公共経済学	○	私たちの経済活動において、政府の果たす役割は非常に大きい。しかしながら、政府の活動が大きくなり過ぎることも別の形で問題となりう。政府をはじめとする公共部門はどのような役割を果たすべきか。こうした問題を考えていくことは私たちの経済や社会のあり方を考えていくうえでとても重要である。本講義では、公共部門の経済活動について考えるための学問である公共経済学について取り上げていく。講義の内容は大きく3つに分かれるが、これは公共部門の役割が多様化していることを反映している。公共経済学は経済学の応用分野の1つであるが、他の分野と重なる重要な話題を掘り下げて考えるため、他の科目と重なる話題も多いかもしれない。本講義をつうじて、政府の役割やあり方について考えてもらいたい。	
金融財政論	○	現代の経済社会において重要な役割を有する金融および財政に関し、入門的なレベルから始め、最終的には最新のトピックスに至るまで、その全体像を理解するための講義である。具体的には、金融の分野では、金融や貨幣の定義、金融機関のビジネスモデルとその変遷、決済システムや金融市場等の金融取引、中央銀行制度や金融政策・ブルードン政策を、また財政の分野では、政府の役割、予算、租税、社会保障等の仕組みや諸課題について政治経済学的観点から学んでいく。	
環境経済学	○	環境汚染がなぜ起こるのか、それをどのように解決していったらよいか、ということについては、いろいろな学問的立場から考えていくことができる。この授業では、社会の仕組みをとらえる学問の1つである経済学の立場から環境問題を眺めていく。講義は大きく3つの部分から構成されている。まず地球温暖化やオゾン層破壊など、地球規模での環境問題を例にとって経済学的な切り口を中心として掘り下げていく。次に環境問題が悪化してしまう要因、あるいは環境保全がなかなか進まない背景について、経済活動と環境負荷の関係に注目しながら考えていく。そして最後に環境保全と経済活動をどのように両立させていったらよいかを考えていく。ここでは環境ビジネスについても取り上げていく予定である。環境問題のすべてを経済学の視点だけで考えていくことは難しいかもしれないが、経済学の切り口から新たに明らかにになるものもある	
経営組織論	○	古代ギリシャの哲学者のアリストテレスは人間を社会的な生き物（Zoon politikon）であると述べた。家族、学校、職場など人間は産まれたときから何らかの組織に属していると言うことができる。しかし、あまりにも当然すぎるがゆえにその実態や、意義、危険性について深く理解している人は多くないかもしれない。この機会に組織についてじっくり学んでみよう。本科目では、経営学における組織論の基礎的な理論や考え方を中心に学ぶ。組織論はマクロ組織論とミクロ組織論に大別される。マクロ組織論は組織全体や組織群、産業、社会全体などより広範なレベルで組織を考察するが、ミクロ組織論は々の組織内部、特に個人や小グループのレベルでの行動と相互作用に注目する。前者は組織構造、組織文化、組織学習、組織変革など、後者はリーダーシップ、モチベーション、コミットメントなどが該当する。この授業では両方を扱うものの、どちらかと言えばマクロ組織論を中心に講義を進めていく。また、グローバル化、デジタル化、多様性と包摂、持続可能性など、現代組織が直面する課題についても適宜言及する。	
経営戦略論	○	本講義は、事例を通して経営戦略論の理論や考え方を学ぶ入門的な講義である。経営戦略論では、企業がいかに競争を避けながら、競争優位を構築するかが議論されている。本講義では、経営戦略論の発展を時系列的に紹介しながら、ドメインや競争戦略、資源ベースの戦略などについて学んでいく。適宜、経営学の関連分野についての補足説明も行う。	
イノベーション論	○	今日、イノベーションという言葉は様々な場面で使われている。本講義では、経営学におけるイノベーション論の歴史を振り返って、企業が持続的成長を実現するために、どのようにイノベーションを生み出したのかについて解説する。イノベーションに関わる諸理論を理解するとともに、企業のイノベーションマネジメントの内容と重要性を理解することを本授業の到達目標とする。	
流通論	○	流通において重要な役割を果たしている小売・サービス業のうち“チェーンストア企業”の本社が管理すべき事柄について、出される具体的な課題を考えながら、網羅的に説明する。専門用語、商品やサービスの市場規模、業界構造、関連する仕事や公的資格などの具体的な知識を増やすことを目的とし、ビジネスの専門用語、市場規模、業界構造などの具体的な知識を増やすことを目指す。	

国際経営論	○	世界は情報通信や交通手段のグローバル化によって国境や地理的距離の意味が無くなっていると言つてよいであろう。この地球的大変化の原動力となっているのが企業による事業の国際経営の進展である。今では企業の経営は国内のみに留まらない。否、地球規模での経営視野を持たなければ経営は成立・維持できない時代に入っている。本講義では経営の本質とは何かを論じ、その経営が自国の国内市場から海外市場に視野を拡大し、やがては地球を球体市場として活動の場を広げていく状況を動態的に論じる。	
ベンチャー企業論	○	新たなビジネスアイデアや技術を基盤として設立される新興企業をベンチャー企業（以下、スタートアップ）と呼ぶ。スタートアップはイノベーションを通じて、大企業や伝統的な企業では成しえない新しいビジネスモデルや技術革新の源泉となり、社会に新たな価値を提供することで経済成長に貢献するとされている。しかし、スタートアップはリスクも高く、ユニコーンと呼ばれる大成長を遂げる企業もあるが、数年で倒産してしまう企業も珍しくない。起業家としての関わり方、メンバーとしての貢献方法について学びながら、フランチャイズ加盟による起業についても説明する。さらに、実際のスタートアップ事例を提示し、理論と実践の結びつきを強化する。スタートアップに興味がある学生、将来起業を考えている学生、大企業だけでなくスタートアップも就職先の選択肢に考えたい学生、イノベーションと経済成長や産業振興政策に興味がある学生にとって有益である。	
組織行動論	○	組織行動論とは、組織における人間の行動を調べ体系的に研究すること学問領域であり、経営学の一分野であるが、心理学や社会学といった関連領域の視点も取り入れた分野である。本講義では、モチベーション、意思決定、個人が組織に対して行う貢献である組織コミットメント、チームマネジメント、リーダーシップ、ダイバーシティなどについて考えていく。	
消費者行動論	○	現代のマーケティングでは、製造・販売する企業の視点から、購買する消費者の視点に、重点が移行している。消費者行動とは、人が財貨やサービスを購買し、使用するまでの過程の行動である。本講義では、消費者の感情や嗜好、習慣やライフスタイル、社会のトレンドや変化など、多様な要因が消費者の行動とどのように関係しているのかを明らかにしていく。	
財務会計論	○	財務会計は企業の取引を貨幣金額をもって継続的に記録計算し、その結果を財務諸表という形式で株主や債権者等の、企業の外部の利害関係者に報告する体系である。本講義では会計の処理手続を進める前提となる判断の基盤である、企業会計の理論的基盤を明らかにしていく。本講義は会計の認識・測定・報告における判断の基準について、伝統的な会計理論、新しい会計理論を理解することを到達目標としている。	
管理会計論	○	会計は、企業外部の利害関係者に対してだけでなく、企業内部の意思決定者に対しても有用な情報を提供する。本講義は、企業内部の意思決定に活用される管理会計について学習するものである。自分自身が経営者になったつもりで、経営の全体像をつかむ経営管理、業績評価、意思決定の方法などを学んでいただきたい。なお、原価計算はあくまでも管理会計の一手段であり、本講義は原価計算を学ぶものではないことに留意されたい。	
国際会計論	○	近年、多国籍企業の増大、経済・資本市場のボーダレス化、金融の自由化・国際化にともない、会計制度は急速にグローバル化されてきた。本講義では国際会計の諸問題を、国際取引会計、比較制度会計、会計制度の国際的統一の3つのカテゴリーに分けながら、それぞれについて詳説していくことにする。その際、現在、IFRSやIASという名称で話題になっている、会計制度の国際的統一の問題に力点を入れながら、最新の状況を織り込みながら、講義していく。	
監査論	○	本講義は、主として公認会計士によって行われる財務諸表監査（外部監査）を対象とする。経営者が作成した財務諸表は、専門家たる公認会計士の監査を受け、監査意見とともに公表される。しかし、このような制度があるにもかかわらず、企業の粉飾事例が後を絶たないのはなぜか。本講義では、財務諸表監査の概要を学び、その目的と意義を理解する。さらに、企業が公表する財務諸表の、情報としての特性と限界とを考察する。	

税務会計論	○	本講義では、企業会計の損益計算を基礎とした法人税法の税額計算と、所得税における税額計算の方法を学んでいく。法人税額計算は、企業会計上の当期純利益に法人税法独自の調整を加えることにより、課税標準を算定し、税率を乗じて申告納付税額を算定する。したがって本講義では、企業会計における収益費用の概念と法人税法における益金損金の概念の相違を明らかにすることで、法人税における調整計算の意味を考え、その計算方法を解説する。また所得税については、課税標準を構成する各種所得の計算方法や所得控除の内容を解説し、所得税における税額計算法に関する基本的な知識や技術の習得に努めるものである。	
商業簿記Ⅰ	○	企業会計の手続的基盤となっている複式簿記を段階的に学ぶ。「基礎簿記Ⅰ」「基礎簿記Ⅱ」の講義で学んだ複式簿記の基礎を下に、株式会社の企業簿記について、株式会社特有の事象である純資産勘定の処理、増資や減資の処理、損益の繰延処理、繰延資産の会計処理、特殊商品売買、伝票式会計などの簿記処理について論じる。なお、日本商工会議所検定簿記試験の商業簿記2級の範囲を主として対象とする。	
商業簿記Ⅱ	○	「商業簿記Ⅰ」に続き、企業会計の手続的基盤となっている複式簿記を段階的に学ぶ。「基礎簿記Ⅰ」「基礎簿記Ⅱ」の講義で学んだ複式簿記の基礎を下に、株式会社の企業簿記について、帳簿組織、外貨建て取引、本支店会計、税効果会計、連結会計の意義と簿記処理について論じる。なお、日本商工会議所検定簿記試験の商業簿記2級の範囲を主として対象とする。	
会計データ分析論	○	企業経営において、経営者が解決しなければならない問題は多い。広告宣伝費を多くすれば売り上げは向上するのか、配当金を株主支払う経営者を株主は評価するのか当期純利益を多く上げたにもかかわらず株価が上がらない企業などがある経営者行動の研究は仮説を構築し、その仮説を検証するプロセスを用いている。例えば、経営者は赤字を回避するためには、意図的な経費の削減や、押し込み販売などを行うのではないかと、といったようなことである。会計データ分析論では、企業会計研究の仮説検証型アプローチ型の論文の理解を目的とする。仮説検証型の論文の輪読およびデータのダウンロード、加工および外れ値や各変数の検討について学ぶ。	
企業取引法	○	企業取引の主体である企業組織に関する基本的理解を前提に、企業取引活動に関する基本的な制度および法的問題点の分析・検討を行う。企業取引法は、その範囲が非常に広く、また、まとまった一つの法律となっていないため、多岐にわたる分野を、効率的に実務的な視点を積極的に加えながら説明をする。民法債権法の改正、運送法改正も含め、近時の企業取引及び法規制の動向をふまえながら進めていく。我々は企業と無縁な生活を送ることは考えられず、日々、企業と取引等を通じて関係をもっている。その意味でも、企業およびその取引活動に関する基本的なルールを学ぶことは有意義といえよう。授業終了後に確認のための簡単なレポートを作成してもらい、履修者の理解度を確認しながら、授業を進行する。また、時事問題に関し企業法の視点から分析する動画を適宜提示し、企業取引法を実践的に理解してもらおう。	
民法Ⅱ（財産法②）	○	我が国の民法は、総則、物権、債権、親族、相続の全5編からなる1000条を超える膨大な法典である。この講義では、物件、債権について学んでいく。第2編、第3編の物件、債権について扱う財産法は、財産について人と人の間に発生する諸関係を規律する一般的なルールについて体系的に記されており、契約を中心として財産の移動の関係を学習する。	
国際法Ⅰ	○	本講義では、国際法の機能、国際社会の主たる構成員である領域主権国家の成立、国家機関、国家の権利・義務・責任など国際法の基本について理解を深める。また、最新の事例をとりあげて、現代社会が直面する重要課題について、国際法に基づき自ら考え、その課題を明らかにする能力を養う。国際関係を規律する法である国際法の基礎知識を習得し、国際法の構造および機能を理解することを目標とする。	
国際法Ⅱ	○	本講義では、人権、平和といったグローバルイシューに関連する法規範を理解する。また、国際紛争の平和的解決について理解を深める。講義において、最新の事例をとりあげて、現代社会が直面する重要課題について、国際法に基づき自ら考え、その課題を明らかにする能力を養う。国際関係を規律する法である国際法の基礎知識を習得し、国際法の構造および機能を理解することを目標とする。	

会社法Ⅰ (ガバナンス)	○	この講義では、現代社会において重要な役割を担う会社、特に株式会社に関する法制度を解説する。会社法Ⅰでは、まず企業形態における株式会社の位置付け・特色を明らかにしたうえで、株式会社に対する法規制の基本的な仕組みを理解してもらうための解説を行う。そのうえで、機関構造、設立、各種会社について、近時の法改正や将来的な課題をふまえながら、具体的な解説を行う。実務界の事例にも論及しながら、身近なわかりやすい講義としたい。毎回、授業終了時に確認のための簡単なレポートを作成してもらい、履修者の理解度を確認しながら、授業を進行する。また、時事問題を取り上げ、会社法の視点から分析を行う動画を適宜提示することにより、実践的に会社法を理解してもらう。	
会社法Ⅱ (ファイナンス)	○	この講義では、現代社会において重要な役割を担う会社、特に株式会社に関する法制度を解説する。2007年5月から施行された会社法は、多くの問題を背景に大改正がなされ、新たな問題も指摘されている。そこで、会社法Ⅱ（ファイナンス）では、株式会社に対する法規制の基本的な仕組みを理解してもらうために、株式制度、資金調達、計算、企業再編の各分野に関し、近時の法改正や将来的な課題をふまえながら、具体的な解説を行う。実務界の事例にも論及しながら（動画によっても適宜提示する）、身近なわかりやすい講義としたい。授業終了後に確認のための簡単なレポートを作成してもらい、履修者の理解度を確認しながら、授業を進行する。	
社会保障論	○	本講義では、主に日本の社会保障制度の仕組みを他国との比較も交えて基礎から解説することで、社会保障の意義と、現在の日本が抱える課題をより良く理解することを目指す。問題意識の向上と理解の促進のため、質疑応答により履修者の理解度を確認しながら授業を進行する。さまざまな基礎知識を身に付けるとともに、政治学・経済学・法学などの分野横断的な視点から現実の社会を分析する力を身に付けることを目標とする。	
ICTビジネス論	○	情報通信技術の影響は、コンピュータ、ソフトウェア、メディアコンテンツ産業に留まらず、インターネットの普及に伴ってあらゆる産業へと波及している。この授業では、ICTの発展がもたらした影響を理解し、ビジネスにおける活用の事例と今後の方向性を検討する。またDX、5G、IoT、ビックデータ、AIなどの直近のテーマに関わる内容についても取り扱う。	
グローバル・キャリア・ディベロップメント	○	民間企業はもちろんのこと、政府関係者やNGOなど、様々な領域からグローバルに活躍されている社会人の方々をお呼びし、「グローバルに働くとはどういうことか」をテーマに幅広く語っていただく、オムニバス形式の授業である。将来、グローバルなキャリアを歩みたいと考える学生にとっては、そのような仕事に求められる資質や心構えがどのような点にあるのか、そして今後どのような点が重要となってくるのかを知る、よい機会となるだろう。（79鈴木典比古、10三浦秀之、49Michele Joy Joel）	共同
Economics	○	Why do we prefer one consumption bundle over another? Why are the movie tickets cheaper in the morning? What are the business's goals, and how do the firms in the same industry share the market? Those are some of the typical questions from microeconomics. In macroeconomics, we discover the factors that cause economic growth and the relationship between savings and consumption. In this introduction to economics course, there is a microeconomic section, which is the first half of the semester, and in the second half, we focus on macroeconomics. Microeconomics covers the utility theory and the market structure. The macroeconomics section covers the classical and growth theory. The students are encouraged to understand the content intuitively rather than master the mathematical skills. The course is taught in English. なぜ私たちは、ある消費束を他の消費束より好むのか？なぜ映画のチケットは午前中の方が安いのか？ビジネスの目標は何か、同じ業界の企業はどのように市場をシェアしているのか？これらはミクロ経済学の典型的な質問である。マクロ経済学では、経済成長を引き起こす要因や貯蓄と消費の関係を発見します。本経済学入門コースでは、学期の前半にミクロ経済学のセクションがあり、後半はマクロ経済学に焦点を当てます。ミクロ経済学では効用理論と市場構造について学びます。マクロ経済学では、古典論と成長論を扱います。学生には、数学的なスキルを習得することよりも、内容を直感的に理解することを奨励しています。授業は英語で行われる。	

		Marketing Strategy	○	The purpose of this class is mainly to understand technical terms in marketing literature and their definition as precisely as possible. Then, you will learn how you should use your brain if you would be a marketer in firms in the future. 本講義は、主にマーケティングの専門用語とその定義をできるだけ正確に理解することである。そのうえで、将来企業のマーケティング担当者になった場合に、どのように考えるべきかを学ぶ。	
		Business Strategy	○	Strategic Management（経営戦略論）は、企業が直面する複雑な外部・内部環境の分析を通じて、適切な方向性を定め、目標に到達するための戦略を策定するプロセスを学ぶ分野だ。この分野は20世紀半ば以降、経営学の中心的分野として発展してきた。経営戦略はマーケティング、財務、人事、組織行動など、他の多くの経営学分野とも密接に関連している。本講義では、Strategic Managementの基礎から応用まで幅広く学ぶ。ケースメソッドを中心に、講義、グループディスカッション、シミュレーション、プロジェクトベースの学習を取り入れる。ケースは主に英語で提供されるが、日本語訳も用意する。終盤には、学んだ知識とスキルを活用するグループワークを実施し、実践的な戦略立案の経験を積むことに重点を置く。	
専門演習科目	演習・卒業研究	演習Ⅰ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	
		演習Ⅱ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	
		演習Ⅲ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	
		演習Ⅳ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	
		演習Ⅴ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	

学問領域別演習	演習Ⅵ	○	演習は、専門科目を担当する教員が、それぞれの専門分野について学生とともに学ぶ場として2年次より開講される。専門領域によって多少の違いはあるものの、概して、2年次は分野に関する基礎知識を習得するために文献を輪読や、具体的事例に触れるためにフィールドワークを行うなどしながら、課題発見力、課題解決力の素養を養う。3年次は、グループワークを通じて仲間とともに学ぶ経験を積み、研究内容についてのプレゼンテーションを行うことで、論理的思考や伝達力を高めていく。4年次は、自ら卒業研究を行うことと並行して、下級生へのアドバイスをを行うことで、指導力も身につけていく。	
	卒業研究Ⅰ	○	演習に所属する学生は、演習担当教員のもとで、演習に所属しない場合は指導担当教員のもとで（希望者のみ）、これまでの学びの集大成として卒業研究を行う。一般的には、指導教員のもとで各自の研究報告を行うとともに、研究手法や論文執筆などの技法について学ぶ。具体的には、一次資料の重要性、著作権、論理構成など、アカデミックライティングについて理解するほか、先行研究の整理やテーマ設定、研究内容について履修者と綿密に相談しながら研究を進めていく。半期に3～4回程度の報告会を通じ、演習の仲間と情報共有と切磋琢磨を通じて卒業研究の完成を目指す。	
	卒業研究Ⅱ	○	演習に所属する学生は、演習担当教員のもとで、演習に所属しない場合は指導担当教員のもとで（希望者のみ）、これまでの学びの集大成として卒業研究を行う。一般的には、指導教員のもとで各自の研究報告を行うとともに、研究手法や論文執筆などの技法について学ぶ。具体的には、一次資料の重要性、著作権、論理構成など、アカデミックライティングについて理解するほか、先行研究の整理やテーマ設定、研究内容について履修者と綿密に相談しながら研究を進めていく。半期に3～5回程度の報告会を通じ、演習の仲間と情報共有と切磋琢磨を通じて卒業研究の完成を目指す。	
	学問領域別演習Ⅰ	○	（学生は4年間で2つまで、当該演習を履修することが可能である） 本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について、毎年それぞれテーマを決めて、そのテーマについてそれぞれ20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。各テーマはそれぞれの学問領域でトピックとなっているテーマや、学問領域の根底をなす歴史や哲学的背景、1つの領域におけるなど、複数のテーマにまたがる領域など、様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、4内藤高雄、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、43松井孝太）	共同
	学問領域別演習Ⅱ	○	（学生は4年間で2つまで、当該演習を履修することが可能である） 本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について、毎年それぞれテーマを決めて、そのテーマについてそれぞれ20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。各テーマはそれぞれの学問領域でトピックとなっているテーマや、学問領域の根底をなす歴史や哲学的背景、1つの領域におけるなど、複数のテーマにまたがる領域など、様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、4内藤高雄、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、44松井孝太）	共同
	学際演習Ⅰ	○	本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について学際的（複数の専門領域を横断的に捉える）に、問題提起、課題発見、課題解決を行っていく。分野の異なる複数の教員が担当し、20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。グループワークを行い、数回のプレゼンテーションを経て最終報告を行うものや、書物を輪読して報告をするゼミ形式のものなど、進め方は様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、44松井孝太、48Chunmei HUANG、49Michele Joy Joel）	共同

学際演習	学際演習Ⅱ	○	本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について学際的（複数の専門領域を横断的に捉える）に、問題提起、課題発見、課題解決を行っていく。分野の異なる複数の教員が担当し、20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。グループワークを行い、数回のプレゼンテーションを経て最終報告を行うものや、書物を輪読して報告をするゼミ形式のものなど、進め方は様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、44松井孝太、48Chunmei HUANG、49Michele Joy Joel）	共同
	学際演習Ⅲ	○	本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について学際的（複数の専門領域を横断的に捉える）に、問題提起、課題発見、課題解決を行っていく。分野の異なる複数の教員が担当し、20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。グループワークを行い、数回のプレゼンテーションを経て最終報告を行うものや、書物を輪読して報告をするゼミ形式のものなど、進め方は様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、44松井孝太、48Chunmei HUANG、49Michele Joy Joel）	共同
	学際演習Ⅳ	○	本演習は政治、法律、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計といった社会科学の諸分野について学際的（複数の専門領域を横断的に捉える）に、問題提起、課題発見、課題解決を行っていく。分野の異なる複数の教員が担当し、20～30名程度の受講生と深く広く考えていく少人数制の演習である。グループワークを行い、数回のプレゼンテーションを経て最終報告を行うものや、書物を輪読して報告をするゼミ形式のものなど、進め方は様々である。 （1大川昌利、2小田信之、3斉藤崇、5西孝、6原田奈々子、7糟谷崇、8加藤拓、9高田京子、10三浦秀之、11伊藤敦司、12岡村裕、13川村真理、14北島勉、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、18マルコム・ヘンリ・フィールド、19劉迪、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、41島村直幸、44松井孝太、48Chunmei HUANG、49Michele Joy Joel）	共同
	特別演習Ⅰ		特別演習は、海外研修の一部、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。	
特別演習	特別演習Ⅱ		特別演習は、海外研修の一部、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。	
	特別演習Ⅲ		特別演習は、海外研修の一部、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。	
	特別演習Ⅳ		特別演習は、海外研修の一部、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。	
プロジェクト演習	プロジェクト演習Ⅰ		集中講義等で開設される科目に対して、教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。学部の専門研究領域ではないものの、その周辺領域に属する画像、動画作成の方法などを学ぶ演習形式の講義、民間企業や業界等団体による寄付金等をもとに期限付きで開講される寄附講座等が該当する。	
	プロジェクト演習Ⅱ		集中講義等で開設される科目に対して、教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。学部の専門研究領域ではないものの、その周辺領域に属する画像、動画作成の方法などを学ぶ演習形式の講義、民間企業や業界等団体による寄付金等をもとに期限付きで開講される寄附講座等が該当する。	

専門演習科目	海外演習	プロジェクト演習Ⅲ	集中講義等で開設される科目に対して、教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。学部の専門研究領域ではないものの、その周辺領域に属する画像、動画作成の方法などを学ぶ演習形式の講義、民間企業や業界等団体による寄付金等をもとに期限付きで開講される寄附講座等が該当する。	
		プロジェクト演習Ⅳ	集中講義等で開設される科目に対して、教授会が単位を認定するための科目である。認定科目となるため、履修登録を行う必要はない。学部の専門研究領域ではないものの、その周辺領域に属する画像、動画作成の方法などを学ぶ演習形式の講義、民間企業や業界等団体による寄付金等をもとに期限付きで開講される寄附講座等が該当する。	
	海外演習	海外演習基礎Ⅰ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習基礎Ⅱ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習応用Ⅰ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習応用Ⅱ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習発展Ⅰ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習発展Ⅱ	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	
		海外演習実践	学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設されている授業科目に相当しない場合には、教務委員会の議を経た教授会の審査の上、これを海外演習科目として認定する。海外演習科目に関する事項については、海外演習の履修に関する内規で定める。認定は、海外演習基礎Ⅰ→海外演習基礎Ⅱ→海外演習応用Ⅰ→海外演習応用Ⅱ→海外演習発展Ⅰ→海外演習発展Ⅱ→海外演習実践の順に行われる。	

導入科目	プレゼミナールⅠ	○	新入生を対象として、大学生活への導入を行い、就職意識を高め、そのために必要な基礎的能力の訓練・演習など行う。とりわけ、プレゼミナールⅠでは、大学での学びに欠くことができない、講義を受講するための基礎作業として、リモート講義の受講の仕方、ノートテイキングや各種データベースの活用について学ぶ。また、はじめての定期試験やレポート課題の作成に戸惑いが見られる学生が多いため、基礎的な講義受講に関するスキルを体得する。このほか、スライドの作成やグループワークについての素養を身につける。	
	プレゼミナールⅡ	○	プレゼミナールⅠから継続して、大学生活をより充実したものにするための指導を行う。プレゼミナールⅡにおいては、2年次から始まる演習（ゼミナール）へのシームレスな接続を目指す。専門科目への理解を深めるために各専門科目群担当教員が科目の紹介を行ったり、各プレゼミごとの演習に加え、他のクラスとの合同でプレゼミナールを行ったりするなど、演習の環境に近づけた形で学びを深化させることで、円滑に演習での学びを進めていきたい。	
	時事問題研究 A	○	世の中には様々なニュースが存在する。そのニュースを理解するためには、適切な基礎知識が必要となってくる。本講義では世の中のニュースを理解するための基礎知識を身につけていく。なお以下に記す時事問題の講義の順番・内容については、その時の状況により変更することもありうる。	
	時事問題研究 B	○	国際政治経済の時事問題について、レジュメや新聞記事などを題材にして理解を深めていく。2016年は、アメリカ大統領選挙や日本の参議院選挙など、国際的に選挙の年であった。2017年は、ドナルド・トランプがアメリカの新しい大統領となった。2018年にはトランプ外交が本格的に始動した。2018年から2020年にかけては、米中貿易戦争が勃発している。米中間で「新しい冷戦」まで指摘された。2020年は、アメリカ大統領選挙があり、2021年にジョセフ・バイデンが新しい大統領となった。また、BRICSなど新興国の台頭を受け、地政学が復活した、という議論もある。「イスラーム国（IS）」の脅威の衰退後も、シリアの内戦やイラン問題など、中東情勢は混迷を深めている。アメリカ外交は、オバマ政権の下で、迷走を深めた。トランプ外交は、混迷を極めた。「インド太平洋戦略」と「中間層のための外交」を推進するバイデン政権の政策対応が注目される。21世紀の国際秩序は、いかなる方向へ向かうのであろうか。	
	課題発見演習	○	第1 Semester で学んだ「ライフ・プランニング」および7つ分野で設置してあるベーシック科目を基礎に、大学で学ぶ各自の課題を発見し、その課題解決のために必要な科目や履修の仕方を指導する、少人数制の演習である。そういう意味では、単に大学で学ぶ指針となるだけでなく、学生一人一人が生きていくための指針を提供することをも、考えている。（3齊藤崇、4内藤高雄、9高田京子、10三浦秀之、12岡村裕、15木暮健太郎、16進邦徹夫、17半田英俊、20渡辺剛、39大西健司、40北田真理、43松井孝太、）	共同
	情報リテラシー A	○	社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっている。この授業では、Word、PowerPointの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力やプレゼンテーションの能力を養う。	
	情報リテラシー B	○	社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられる。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が、国際的な常識となっている。この授業では、Excelの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力を養う。さらに、データ駆動型社会への転換の中で必須となっているデータサイエンスの基礎知識の習得を行う。	

	情報社会論	○	本講義では、ICT活用による社会変容によって生じた社会の諸問題について理解し、考察することを目的としている。 【オムニバス方式・共同/全15回】 1. イントロダクション(7糟谷崇)2. 技術発展と社会の変化(7 糟谷崇)3. 市場・生産・消費の変容(2小田信之、3齊藤崇、5西孝)4. コンピュータと情報技術(22池田一磨、33坪下幸寛、47吉田清隆)5. 通信技術とインターネット(23大森拓哉、52西田豊)6. メディアと情報社会(80久江雅彦)7. 会計システムの発達(9高田京子、4 内藤高雄、6 原田奈々子)8. 地方政府とDX(15木暮健太郎、16 進邦徹夫)9. 介護・福祉とICT(12岡村裕、14北島勉、43松井孝太)10. 情報社会と知的財産権(39大西健司、40北田真理)11. 情報社会におけるセキュリティ(30田中薫、82橋本晃生、37山田慎)12. 認知戦争・経済安全保障(10三浦秀之、20渡辺剛)13. 日本防衛とサイバー対策(80久江雅彦)14. 情報技術がもたらすビジネスの変化(7 糟谷崇、8加藤拓)15. 情報社会をめぐる政策動向(7糟谷崇)	オムニバス方式 共同
一般教養科目	保健・医療の現状と未来Ⅰ		杏林大学は医学部(附属病院)、保健学部、総合政策学部、そして外国語学部の4学部より成る総合大学である。しかし、自身の所属学部のこととは知り得るものの、特に医学部(附属病院)はどのような学問を学び、またどのような医療を提供しているか理解する機会が無い。そこで、本科目では、杏林大学病院の各医局で行われている診療内容について説明する。内容は主に医学部に入学した学生向けに作られた授業内容ではあるが、平易に説明してある。	
	保健・医療の現状と未来Ⅱ		杏林大学は医学部(附属病院)、保健学部、総合政策学部、そして外国語学部の4学部より成る総合大学である。しかし、自身の所属学部のこととは理解できるものの、特に医学部病院ではどのような医療を提供しているか、あるいは保健学部ではどのような勉強をしているのか理解する機会が無い。本科目では、杏林大学病院の各医局が行っている専門分野のトピック、保健学部の特徴的な授業を紹介し、杏林大学について理解を深める。1回目～11回目までの内容は主に医学部生向けに作られた授業内容ではあるが、平易に説明してある。	
	社会と大学Ⅰ		社会科学について、法律、政治、国際関係、福祉政策、経済、経営、会計の各分野が、社会をどのように捉え、考えているか講述していく。(オムニバス方式/全15回) 1. 社会科学とはなにか: 科学とはなにか、社会科学は科学か? (16進邦徹夫) 2. 法学から社会を考える(1) (11伊藤敦司) 3. 法学から社会を考える(2) (11 伊藤敦司) 4. 国際関係学から社会を考える(1) (20渡辺剛) 5. 国際関係学から社会を考える(2) (19劉迪) 6. 国際関係学から社会を考える(3) (41島村直幸) 7. 政治学から社会を考える (17半田英俊) 8. 福祉政策から社会を考える (12岡村裕) 9. 会計学から社会を考える(1) (4内藤高雄) 10. 会計学から社会を考える(2) (6原田奈々子) 11. 経営学から社会を考える(1) (7糟谷崇) 12. 経営学から社会を考える(2) (8加藤拓) 13. 経済学から社会を考える(1) (1大川昌利) 14. 経済学から社会を考える(2) (2小田信之) 15. グローバルな視点から社会を考える (48ChunmeiHuang)	オムニバス方式
	社会と大学Ⅱ		本講義では、持続可能な開発目標(SDGs)についての理解を深めるとともに、SDGsを通じてどのように取り組むべきかについて考える。(オムニバス形式/全15回) 1. イントロダクション・SDGsと国連 (13川村真理) 2. 日本政府によるSDGsの取り組み (43松井孝太) 3. コーポレートガバナンスと監査 (9高田京子) 4. SDGsと地方自治体 (15木暮健太郎) 5. ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (14北島勉) 6. 生態系の保全 (3齊藤崇) 7. アフリカの貧困・飢餓・格差: (69知原信良) 8. 構造としての差別と法政策 (39大西健司) 9. ジェンダー格差をなくす教育のあり方 (40北田真理) 10. 高齢者の介護問題 (12岡村裕) 11. 住み続けられるまちづくり (16進邦徹夫) 12. Society5.0時代のガバナンス・イノベーション (62尾崎愛美) 13. 持続可能な企業活動と社会的責任 (7糟谷崇) 14. 公平な多角的貿易体制 (10三浦秀之) 15. ポストコロナの経済成長 (5西孝)	オムニバス方式

社会と大学Ⅲ		本科目は、様々な場面において「ことば」が果たす役割を理解し、必要な異文化理解の基礎となる力を身につけることを目的とする。（オムニバス方式/全15回） 1. オリエンテーション（34古本泰之）2. 言語景観 その1（27倉林秀男）3. 言語景観 その2（27倉林秀男）4. 人種差別とアメリカ（1）（56渡邊俊）5. 人種差別とアメリカ（2）（56渡邊俊）6. 多文化共生と日本語（21嵐洋子）7. 中国に親しむ-中国語入門（55藤田由香利）8. 古代における日中交流（44森和）9. 日中語彙交流について（31千野万里子）10. 日中関係-戦後から最近まで（50池田尚広）11. これも日本語!?（46梁井久江）12. 日本の国際観光の現状と課題（45安江枝里子）13. 観光地域景観の諸相-日本と世界-（28小堀貴亮）14. ホスピタリティの概念（29志村良浩）15. ヒューマンエラーの原因と対策（35真野靖久）	オムニバス方式
心理学		〇〇心理学という名前がつく学問は、現代では多数あり、また取り扱うテーマ・その研究課題も多様である。そのような心理学の多様性は、それだけ人間そのものが複雑であり、人間の心を理解するためには多様な観点が必要であることも示しているのか。本講義では、心理学の誕生から現代までの全体像を概観し、基礎的な心理学ともいえる学習心理学・認知心理学・社会心理学・発達心理学などの心理学から得られた知識や研究方法、実験を紹介する予定である。そして、臨床心理士・公認心理師というカウンセラーの資格も今日では有名で聴いたことのある方も多いかもしい。これらの資格のベースとなるような、人間の深層心理を扱う心理学やカウンセリング、心理検査など、臨床心理学をベースとした心理学も本講義では紹介する予定である。広く浅くという知識になることはやむをえないが、広く心理学を学び、ふと思いつけるような講義となればと思っている。	
歴史学		歴史というと暗記するもの、という考えを持っている学生が多いと思う。しかし、出来事や人物を見ていく際に、その行動に至った背景などを追ひ、その出来事がなぜ起こったのかを考えることで、一つの大きな流れをつかむことができる。春学期の講義では、のちのイングランド（イギリス）の方向性に大きな影響を与えた16世紀前半のテューダー朝についてみていく。特にイングランド国教会を設立したヘンリ8世の治世を中心に、ヨーロッパ内でのイングランドの立ち位置やイングランドの政策を、より広い視点で捉えていく。	
文学		五・七・五・七・七の韻律からなる短歌（和歌）は、古代から今日に至るまで、日本の文化・文学の歴史を通して享受されてきた。それぞれの時代の人びとが前時代の作品を読んで新たな作品を作り、新しい作品が生まれ続けている。8世紀に成立した『万葉集』は、今から1200年以上も前のものだが、社会環境や人々の生活が大きく変わったにもかかわらず、現代の私たちの心にも響く作品が少なくない。本授業では、古代から現代にいたる代表的な作品を鑑賞しながら、短歌（和歌）の文化を現代へとたどる。この短い詩形の魅力に心奪われたのは日本人ばかりではない。外国人研究者らの評価や、外国語訳も随時紹介し、受講生と共に作品理解を深めたい。本講義では、この詩形の魅力を、講義と作品鑑賞を通して考える。	
音楽		クラシック音楽を語る上で、作曲家や作品と比較して、楽器自体が注目されることは多くない。とりわけ19世紀までは、新しい楽器が誕生したり、楽器の改良が頻繁におこなわれたりしており、たとえ同じ名前であっても、現在、我々が一般的に目にする楽器と過去のものには、異なる部分が見られる場合がある。その一方、それまで使われていた楽器が、演奏の場や音楽自体の変化の中で衰退する例も見られ、当時の政治状況など、一見すると音楽とは関連性が低いと思われる分野とも、密接に結びついていることがある。楽器を音楽作品自体だけでなく、音楽受容や政治や社会様相と結びつけて注目し、音楽をより深く知る手がかりを示していく。なお、音楽についての講義であるため楽譜を扱うことがあるが、解説をしながら楽譜を見てもらうため、楽譜を自力で読める必要はない。	
日本国憲法		日本国憲法の思想的淵源である近代立憲主に遡りながら近代憲法の意義と役割とを確認しつつ、個々の条文の解釈論や判例に関する基礎的知識の修得を目指す。この授業では、憲法総論と基本的人権を中心に扱う。日本国憲法の成り立ちや、その背景思想である近代立憲主義を理解した上で、人権規定の基礎的な解釈論や判例法理を習得してほしい。	

	日本史	中学社会および高校地歴などを教えるにあたり、日本史分野の理解は不可欠である。この講義では、歴史を暗記教科とみなすのではなく、それぞれの時代や地域で起こった数々の出来事を流れの中で把握し、全体像をとらえてから理解するために、どのような視点を持つとよいかという点に注意を向けて進めていく。受講者はテキストや参考となる書籍を熟読し、その時代やその地域の全体像を把握するとともに、生徒たちに教える際にどのような点を軸にしていかなど、指導法も考えてもらう。そして、自分の理解度を確認するため、また、指導のコンセプトをまとめるために課題に取り組んでもらう。	
	外国史	中学社会および高校地歴などを教えるにあたり、世界史分野の理解は不可欠である。この講義では、歴史を暗記教科とみなすのではなく、それぞれの時代や地域で起こった数々の出来事を流れの中で把握し、全体像をとらえてから理解するために、どのような視点を持つとよいかという点に注意を向けて進めていく。受講者はテキストや参考となる書籍を熟読し、その時代やその地域の全体像を把握するとともに、生徒たちに教える際にどのような点を軸にしていかなど、指導法も考えてもらう。そして、自分の理解度を確認するため、また、指導のコンセプトをまとめるために課題に取り組んでもらう。	
	地理学	地理学は地域の人文・社会・自然現象を総合的に把握し、その性格や特色を明らかにし、地域の成り立ちや空間的分布、地域構造を考察していくことを目的としている。授業では、まず地理学の学習において必要である地図に関する講義を行う。続いて地球の大きさや形、世界の自然環境などについて講義する。さらに世界の国家や国連、国家のつながりについて講義する。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、地理学の基礎的な事項に関しても講義する予定である。	
	地誌学	地誌学／地誌学IIは日本の地誌をテーマとする。まず最初に地理学的な見方と地誌学的な見方の違いに関して講義する。続けて、日本の地方区分、関東地方、江戸と東京に関する講義を行う。さらに、地形図の見方・使い方を学び、地形図を用いて、地域変容を読み取る作業を行う。高等学校で「地理」を履修しなかった学生にも理解できるように、地理学の基礎的な内容にもふれる予定である。	
	哲学	本講義は、じっさいに哲学するといういとなみをつうじて、「哲学」とはどういう学問かを「体得する」ことを目的とする。 生きること、よく生きることの意味を考える。自身の生について、たとえわずかでも疑問を感じたことがあるなら、このとき、そのひとは哲学／倫理学への入り口に立っていることになる。生きることの意味の有無が一義的に決まらないのであれば、哲学／倫理学とは答えのない問いを問ういとなみである、といってよい。そのような一宗教者であれば、さしずめ「行」とでも呼ぶであろういとなみを、自分のそれとして引き受けること。哲学／倫理学という学の学習目標は、このことを措いてほかにはありえないはずである。	
	倫理学	本講義は、「現代社会が抱える諸問題に「倫理学」はいかに答える（ことができる）か」を考えることを目的とする。まずは問題が奈辺にあり、それがいかなる構造をしているかを見きわめることから始める。そのうえで、それらに対する対処法を、従来の思想家たちの辿った道筋を辿りなおしながら、われわれ自身の頭で考える。	
	社会学	本講義はとりわけ「消費」と「労働」と呼ばれる社会生活の中でも重要なトピックに注目するとともに、社会学独自の視点である「文化」の概念から両者の関係を紐解くこととする。本講義ではとりわけポストフォーディズムと呼ばれるような状況の中で生産と労働の関係がどのように結びついていったかに着目し、現在働くうえでも重要な意味を持つことを具体的なフィールド資料をもとに議論する。	
体育	健康と体育	心身の健康維持・増進のための「体力づくり」について講義と身体活動を伴う演習を交互に行いながら、健康とスポーツ・身体活動に関する理論的基礎と実践力を身につける。講義では、主に運動生理学的な知見から、スポーツや身体活動がヒトの身体に及ぼす影響や効果を概説する。一方、演習では自分自身の体力(持久力・筋力・瞬発力)を把握し、効果的に体力を高めるためのスポーツ・身体活動の実践を通して運動習慣を身につけることの重要性を理解する。知識および運動スキルの獲得に留まらず、個人のメンタルコントロールやコミュニケーション能力などの社会的スキルの向上も目指す。 (53平澤愛、56新垣太世)	共同

外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Listening and Speaking A	○	The purpose of the course is to develop listening and speaking skills and to help you become a more effective communicator in English. The emphasis will be on understanding and sharing ideas in general conversation and presentation. This course will be taught in English. Students are expected to use English for all communication in the classroom in order to create an environment for English practice. 本講義の目的は、リスニングとスピーキングのスキルを向上させ、英語でより効果的なコミュニケーターになることである。本講義は英語で行う。英語を練習する環境を作るため、教室でのコミュニケーションはすべて英語で行う。	
		英語Ⅱ Reading and Writing A	○	The purpose of the course is to develop reading and writing skills and to help you become a more effective communicator in English. The emphasis will be on noticing the form of English. Understanding when a form should be used and how to use different grammatical forms to best express ideas will help you become a better writer. This course will be taught in English. Students are expected to use English for all communication in the classroom in order to create an environment for English practice. 本講義の目的は、リーディングとライティングのスキルを伸ばし、より効果的な英語でのコミュニケーション能力を身につけることである。英語の形に気づくことに重点を置く。講義は英語で行う。英語を練習する環境を作るため、教室ではすべてのコミュニケーションを英語で行う。	
		英語Ⅲ Listening and Speaking B	○	During the second term, you will be challenged to build on the skills you developed in the first term. There will also be a stronger emphasis on responding to listening and reading material with your own ideas and taking notes as you listen to spoken English. You will also continue to develop basic presentation skills. This course will be taught in English. Students are expected to use English for all communication in the classroom in order to create an environment for English practice. 秋学期は、春学期に培ったスキルをさらに発展させることに挑戦する。また、リスニングやリーディングの教材に自分の考えで反応したり、スピーキングを聞きながらメモを取ったりすることにも重点を置いていく。講義は英語で行う。英語練習の環境を作るため、教室でのコミュニケーションはすべて英語で行う。	
		英語Ⅳ Reading and Writing B	○	During the second term, you will be challenged to build on the skills you developed in the first term. There will also be a stronger emphasis on responding to listening and reading material with your own ideas and taking notes as you listen to spoken English. You will also continue to develop basic presentation skills. This course will be taught in English. Students are expected to use English for all communication in the classroom in order to create an environment for English practice. 秋学期は、春学期に培ったスキルをさらに発展させることに挑戦する。また、リスニングやリーディングの教材に自分の考えで反応したり、スピーキングを聞きながらメモを取ったりすることにも重点を置いていく。講義は英語で行う。英語練習の環境を作るため、教室でのコミュニケーションはすべて英語で行う。	

選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ	このコースは、TOEICテスト受験の準備をしている学生を対象としている。対象は、TOEICテストでスコア350以上を得点しているか、又は英検準2級以上に合格している学生である。 This course is designed for students preparing for the TOEIC test. The target level is students who scored above 350 on the TOEIC or have EIKEN pre 2 or higher. This class is designed to help you improve your vocabulary skills and processing speed in English. These skills will help you understand TOEIC questions. You will learn the structure of the TOEIC test, the different types of questions used in each section, and test-taking strategies for best approaching each section. This course will also focus on developing general language skills because the TOEIC test is a comprehensive exam designed to reflect your overall language ability. All language studies will come together and will be reflected in your TOEIC score. TOEICテストの構成、各セクションで使用される問題の種類、各セクションに最適にアプローチするための受験戦略を学ぶ。また、TOEICテストは総合的な語学力を測る試験であるため、このコースでは一般的な語学力を伸ばすことに焦点をあてる。	
	発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ	このコースは、TOEICテスト受験の準備をしている学生を対象としている。対象は、TOEICテストでスコア350以上を得点しているか、又は英検準2級以上に合格している学生である。 This course is designed for students preparing for the TOEIC test. The target level is students who scored above 350 on the TOEIC or have EIKEN pre 2 or higher. This class is designed to help you improve your vocabulary skills and processing speed in English. These skills will help you understand TOEIC questions. You will learn the structure of the TOEIC test, the different types of questions used in each section, and test-taking strategies for best approaching each section. This course will also focus on developing general language skills because the TOEIC test is a comprehensive exam designed to reflect your overall language ability. All language studies will come together and will be reflected in your TOEIC score. TOEICテストの構成、各セクションで使用される問題の種類、各セクションに最適にアプローチするための受験戦略を学ぶ。また、TOEICテストは総合的な語学力を測る試験であるため、このコースでは一般的な語学力を伸ばすことに焦点をあてる。	
	中国語Ⅰ	「中国語Ⅰ」は中国語初学者を対象とした科目である。週1コマの授業を行い、中国語の入門を学べるように設定してある。発音の基礎から学び始めて、基礎的な語彙と文法へと学習を進めていく。テキストは発音と基礎の文法がしっかり身につくように書かれたものを使用する。	
	中国語Ⅱ	「中国語Ⅱ/中国語B」は「中国語Ⅰ/中国語A」を履修した学生を対象とした科目である。週1コマの授業を行い、中国語の入門を学べるように設定してある。「中国語Ⅰ//中国語A」で学んだ内容を復習しながら、基礎的な語彙と文法についてさらに学んでいく。テキストは発音と基礎の文法がしっかり身につくように書かれたものを使用する。	
	フランス語Ⅰ	初級文法規則を運用し、家族、学校、職業、買い物、趣味、一日のできごとなど日常的な話題に関する会話をすることができ、短い文章の内容を理解し聞き取り、さらに短い文章を書くことができることを目指す。フランス語を学ぶことにより、フランス語圏の文化に関する知識を自然に習得することも目的とする。	
	フランス語Ⅱ	初級文法規則を運用し、家族、学校、職業、買い物、趣味、一日のできごとなど日常的な話題に関する会話をすることができ、短い文章の内容を理解し聞き取り、さらに短い文章を書くことができることを目指す。フランス語を学ぶことにより、フランス語圏の文化に関する知識を自然に習得することも目的とする。	
	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を学ぶ。テーマは、現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	

		ドイツ語Ⅱ		Iで習得したことを基盤として、引き続き4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を学ぶ。テーマは、現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	
		スペイン語Ⅰ		スペイン語4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を学ぶ。テーマは、現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	
		スペイン語Ⅱ		スペイン語4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を引き続き学ぶ。テーマは、引き続き現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	
		韓国語Ⅰ		韓国語4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を学ぶ。テーマは、現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	
		韓国語Ⅱ		韓国語4技能（聞く、話す、読む、書く）の初歩を引き続き学ぶ。テーマは、引き続き現地での生活・コミュニケーションに関するものとする。	
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	○	高校時代までの振り返りを行い、詳細な自分史を作成させることによって、セルフ・ブランディングに向けた大学時代の過ごし方を学生に意識させるとともに、自己分析の手法を2名の教員による合同授業で伝授する。特に、初年次の夏季休暇から始まり、1～2年次の長期スパンでの計画を意識させ、課外での目標を具体的に設定させることによって、学修のモチベーションを高めていく。課外活動の選択肢として、学内プログラム・資格取得・インターンシップ等の紹介をする。また、学生が直面する性や家庭の問題、体調管理の問題を扱うとともに、今後のライフイベントと金銭面を具体的に考えてもらうことによって、将来の職を考えるきっかけを提供する。	共同
		キャリア開発基礎	○	就職活動の際に求められる基本的な物事の見え方や知識、スキル等を学び、就職活動に対する情報・知識面における学生たちの資源を増やすことを目的とする。具体的には、PCスキルと一般教養を同時に高めるトレーニング課題、働くことをイメージしやすくするような基本的な内容の説明（会社の仕組み、営業とは、どのような仕事か？、会社で働くことのイメージなど）、業界研究や企業研究の進め方、就職活動を展開するにあたって必要となるSPI関連の対策演習など、学生のためになると考えられる事柄を多く含める。	
		キャリア開発演習Ⅰ	○	人生のキャリアを考えていく上で、社会人としての基礎能力を身につけるための特別科目である。この授業科目を通じて、3年次には始まる就職活動をサポートする。また、「就活トライアルイベント」に備え、エントリーシート、面接、グループディスカッションについての具体的な対応方法を学ぶ。就活トライアルイベントの参加と並行し、学生各自の「就活力」のアップを図る実践的カリキュラムである。	
		キャリア開発演習Ⅱ	○	人生のキャリアを考えていく上で、社会人としての基礎能力を身につけるための特別科目である。この授業科目を通じて、3年時には始まる就職活動をサポートする。また「就活トライアルイベント」（秋学期12月の土曜日に実施予定）に備え、エントリーシート、面接、グループディスカッションについての具体的な対応方法を学ぶ。就活トライアルイベントの参加と並行し、学生各自の「就活力」のアップを図る実践的カリキュラムである。	
		インターンシップⅠ		インターンシップは、学生が一定期間、企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度である。この授業では、夏休みの就業体験の事前指導を行う。目的は、各人が自主的・積極的な姿勢で、自信を持って就業体験に望めるようにすることである。業界・企業分析に習熟するとともに、企業人の研修に携わっているベテランビジネスマナー講師による講義、グループ討議、ロールプレイ等で構成される実践的授業である。また、秋学期以降、インターンシップ先企業を自力で見つけることができるように、エントリーシート作成の指導も行う。（12北田真理、42加藤拓）	共同

		インターンシップⅡ	インターンシップは、学生が一定期間、企業や自治体等で働き、自分の将来に関係のある就業体験を行う制度である。この科目は、春学期に開講されるインターンシップⅠの授業を受講して、インターンシップの研修が決まった者が履修することができる（Ⅰを履修したものは必ずⅡを履修する必要がある）。授業の内容は、企業等でのインターンシップの研修と、研修後の体験発表や事後指導となる。	
		申告型インターンシップA	学生自らが選択した企業のインターンシップに長期休暇を使って、5日間以上参加する必要がある。インターンシップの参加が決まった学生が履修申告を行うことにより履修が開始する。最大で2回、4単位の申告の機会があり、1回目の申告で本授業を履修する。参加前の事前学習として、業界研究・企業研究を自らで行い、就業体験を充実させるための準備を行うとともに目標設定を行い、就業体験中は活動日誌をつけ、日々の活動を振り返る。また、インターンシップ参加後は、事前学習の成果と関連させながら活動内容を報告し、学びと気づきを整理する。当初設定した目標の達成度を検証するとともに、今後の目標設定を行い、就職活動につなげていく。	
		申告型インターンシップB	学生自らが選択した企業のインターンシップに長期休暇を使って、5日間以上参加する必要がある。インターンシップの参加が決まった学生が履修申告を行うことにより履修が開始する。最大で2回、4単位の申告の機会があり、1回目の申告で本授業を履修する。参加前の事前学習として、業界研究・企業研究を自らで行い、就業体験を充実させるための準備を行うとともに目標設定を行い、就業体験中は活動日誌をつけ、日々の活動を振り返る。また、インターンシップ参加後は、事前学習の成果と関連させながら活動内容を報告し、学びと気づきを整理する。当初設定した目標の達成度を検証するとともに、今後の目標設定を行い、就職活動につなげていく。	
グローバル・キャリア・プログラム科目	グローバル・キャリア・プログラム	Introduction to GCP	グローバルキャリア修了に必要な概要に加え、グローバル知識の重要性、国際貿易への依存を学ぶ(45三浦秀之/5回) 1. 日本のグローバル化、2. 日本企業の国際化、3. 国内産業の海外対応の必要性、4. 孤立する日本、5. 国際競争力を高める重要性。 グローバルな舞台で働く際の異文化コミュニケーションと理解の重要性を学ぶ。(15Chunmei HUANG/5回) 6. 異文化コミュニケーションとは？7. 異文化コミュニケーション理論 8. 海外に住む日本人 9. 日本で働く外国人 10. 職場での外国人とのコミュニケーション プログラム修了に必要なアカデミック・スキルに焦点を当て、留学オプションも紹介する。(16Michele Joy Joel/5回) 11. 期待されることの概要 12. 勉強と生活のバランス戦略、組織化スキル、クラスワーク管理戦略 13. 読書とノートの取り方 14. 留学の準備 15. 留学のメリット	オムニバス方式
		Academic Writing I	Writing well begins with thinking clearly. This class will focus on thinking in detail and putting that thinking on paper. This class will focus on basic written communication, developing ideas, and expressing them clearly in paragraph form. You will read examples of different kinds of writing to help you develop your writing style and understanding of the written word. You will develop your writing as a life skill and will be expected to apply what you learn in this class to writing for all your classes. This class will be taught in English. この講義では、基本的なライティング・コミュニケーションに焦点を当て、アイディアを発展させ、パラグラフ形式で明確に表現することに焦点を当てる。また、この講義で学んだことをすべての授業で活用することが期待される。この講義は英語で行われる。	
		Academic Writing II	In the second term, you will continue to review writing styles through reading and be challenged to develop your ability to write clearly and follow rules of structure and organization when writing different types of paragraphs. You will be asked to evaluate classmates' writing and work together to improve written communication. This class will be taught in English. 秋学期では、読書を通してライティングスタイルを復習し、様々なタイプのパラグラフを書く際に、構成や構成のルールに従って明確に書く能力を伸ばすことに挑戦する。クラスメートのライティングを評価し、ライティング・コミュニケーションを向上させるために協力することが求められる。	

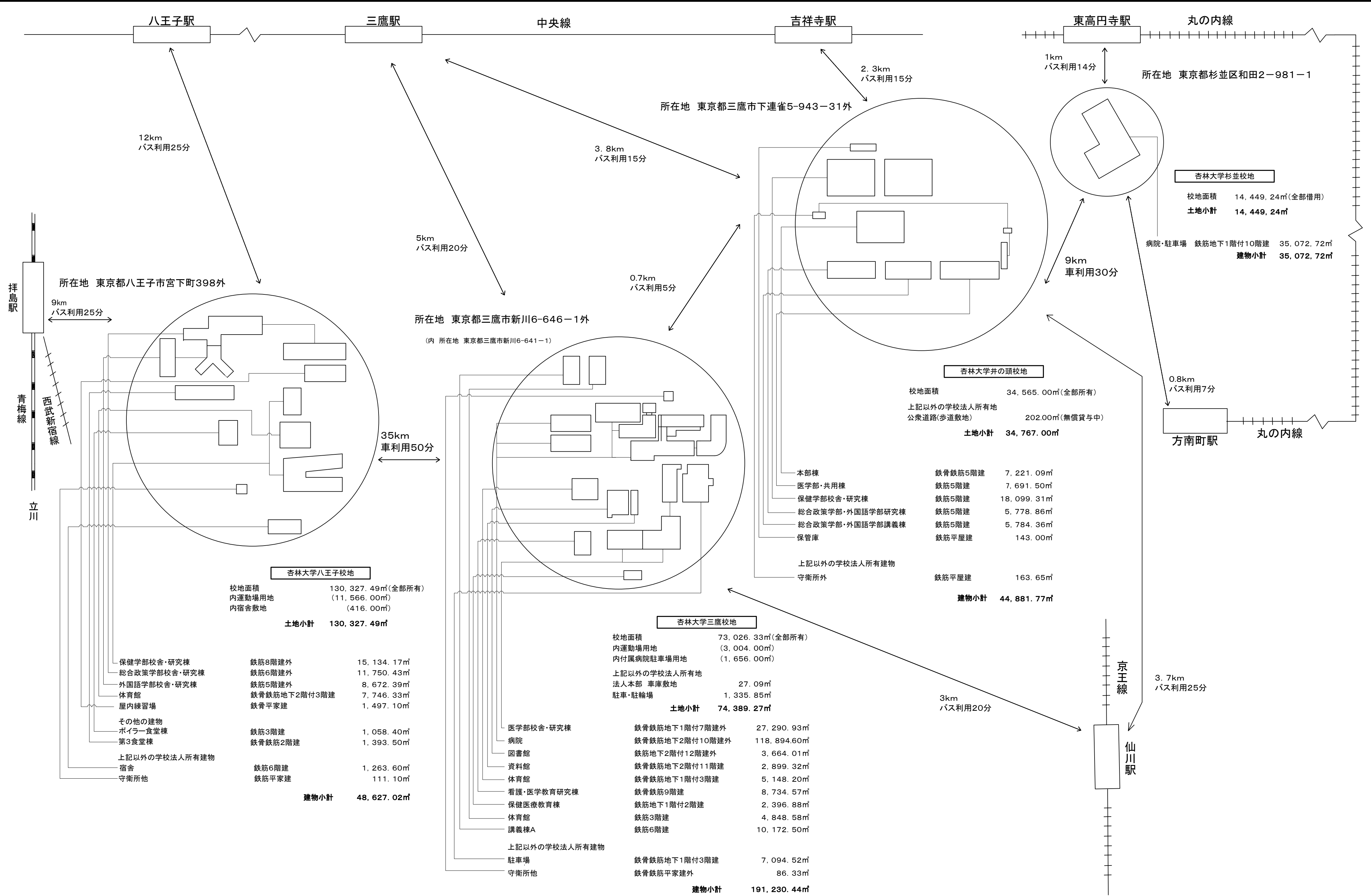
Academic Reading I		The purpose of this class is to provide students with the skills necessary to be able to read articles and books for social science research. Specifically, the class aims to develop students' ability to read English texts by reading articles in newspapers and on the Internet, as well as to increase their vocabulary of technical terms. This class will be taught in English. 英語で社会科学の授業を受けるにあたって必要な知識を身につけることを目的としている。具体的には、学生に英字新聞や英語で記されたインターネット記事、書籍を読ませて、教員が解説を行うことで、読解力を養うとともに、専門用語の語彙をも増やすことをも目的としている。最初は簡単なエッセイを読むことから始めるが、社会科学の授業を英語で受けるための理解力や知識を身につけるために、徐々に難易度を上げていく形をとる。	
Academic Reading II		This class follows on from Academic Writing and aims to develop the skills needed to read articles and books for social science research. In addition to reading newspaper articles, research papers, and books dealing with social science issues, students will learn to develop practical reading skills such as holding discussions, giving presentations, and compiling reports based on the reading. This class will be taught in English. 英語で社会科学の授業を受けるにあたって必要な知識を身につけることを目的としている。具体的には、学生に英字新聞や英語で記されたインターネット記事、書籍を読ませて、教員が解説を行うことで、読解力を養うとともに、専門用語の語彙をも増やすことをも目的としている。最初は簡単なエッセイを読むことから始めるが、社会科学の授業を英語で受けるための理解力や知識を身につけるために、徐々に難易度を上げていく形をとる。	
Organization Culture and Communication		This course is taught in English. We will discuss the basic theories of culture (see Culture in Context course). We will then apply these ideas to organizations. We will also discuss different leadership styles. We will also consider SWOT analyses. media for business communication. We will also critique different ways communication is used between Japanese and English. Finally, all these discussions will culminate in understanding why organizations often struggle to meet their goals. この講義は英語で行われる。文化の基本的な理論（Culture in Contextコースを参照）について話し合う。そして、これらの考え方を組織に応用していく。また、さまざまなリーダーシップ・スタイルについても議論する。また、SWOT分析についても検討する。また、日本語と英語のコミュニケーション方法についても批評する。最後に、これらのディスカッションは、なぜ組織がしばしば目標を達成するのに苦労するのかを理解することに結実する。	
Professional Writing		The purpose of the course is to introduce you to formal writing commonly used in business settings. The focus will be on practical writing such as e-mail and letter writing. You will also learn basic report and proposal formats. This class will be taught in English. Academic Writingが基礎的な英作文の技術を身につけることを目的としていることに対して、Professional WritingはAcademic Writingの発展授業となっており、ビジネスシーンでも利用できる書類の作成方法について学ぶ。具体的には、ビジネスにおけるE-mailの書き方や手紙の書き方、会社における初歩的な報告書の書き方や提案書・企画書の書き方も学んでいき、最終的には長文の報告書や論文が書けるようになることを目的としている。	

Reading for Social Sciences		The purpose of this class is to provide students with the skills necessary to understand research papers in the social sciences. Specifically, by reading and understanding research papers, students will learn how to structure papers, how to use language, technical terms, how to add footnotes and endnotes, and how to include references. By reading papers written in English, the course also aims to provide students with the skills necessary for writing papers in English. AcademicReadingが基礎的な英文の読解力を身につけることを目的としていることに対して、Reading for Social SciencesはAcademicReadingの発展授業となっており、更なる文法の解説や社会科学に関する語彙力を身につけることを目的としている。特に、この授業では、英語の長文について、どのような構造になっているのか、重要なポイントは何かというリーディングスキルに重点を置くこととする。	
Recent Topics in English		This course will expose students to current news that affects their world and learn to evaluate current events from different viewpoints. The course will also help students build confidence in accessing authentic news media which will come into use when pursuing their future international endeavors. The language of instruction is English. この講義では、自分たちの世界に影響を与える時事ニュースに触れ、さまざまな視点から時事問題を評価することを学ぶ。また、本物のニュースメディアにアクセスする自信を養うことで、将来国際的な活躍を目指す際に役立つ。	
Speaking in Professional Contexts		This course will expose students to current news that affects their world and learn to evaluate current events from different viewpoints. The course will also help students build confidence in accessing authentic news media which will come into use when pursuing their future international endeavors. The language of instruction is English. この講義の目的は、人前で話すスキルを向上させることである。テキストと実際のビジネスプレゼンテーションの両方を使用し、プレゼンテーションの実体験を積んでいく。この講義は英語で行われる。	
Critical Thinking		The goal of this course is to expose you to new ways of thinking. Critical Thinking (CT) discusses different kinds of CT, logic, cognitive bias, logical fallacies, and risk. The CT course is not only about theory, as anyone can teach theoretical ideas, it requires students to demonstrate their CT skills with practices and fun tasks. &nbsp;You should expect to engage in self-directed learning and study outside the class. As with all GCP courses, our goal is to link classroom practices and study to your real world futures. この講義の目的は、新しい思考法に触れることである。クリティカル・シンキング (CT) では、さまざまな種類のCT、論理、認知バイアス、論理的誤謬、リスクについて議論する。クリティカル・シンキング (CT) コースでは、理論的な考え方を誰でも教えることができるように、理論だけでなく、実践や楽しい課題でCTスキルを実証することが求められる。他のGCP科目と同様、教室での実践と学習を実社会の未来につなげることが目標である。	
Writing for Social Sciences		This class is designed to help students develop the skills necessary to write research papers in the social sciences. Students will gain an understanding of the significance of academic research and the research process, and will deepen their understanding of the writing structure, logic, organization, and the use of charts and graphs required for writing research papers. This lecture is taught in English. Writing for Social Sciencesは、社会科学の研究論文を英語で書くために必要な技術を身につけるための授業となっている。まず、学術研究の意義や研究経過について理解を深め、次に、研究論文を書くために必要な文章の構成、論理、構成、図表の使い方などについて理解を深める。最後に、学生たちは初歩的な研究目標を設定してもらい、その目標に従って研究を進めてもらう。その後、学生たちは、順番で、それぞれの研究について中間報告をしてもらい、教員がアドバイスをしながら、研究小論文の完成を目指していく。	

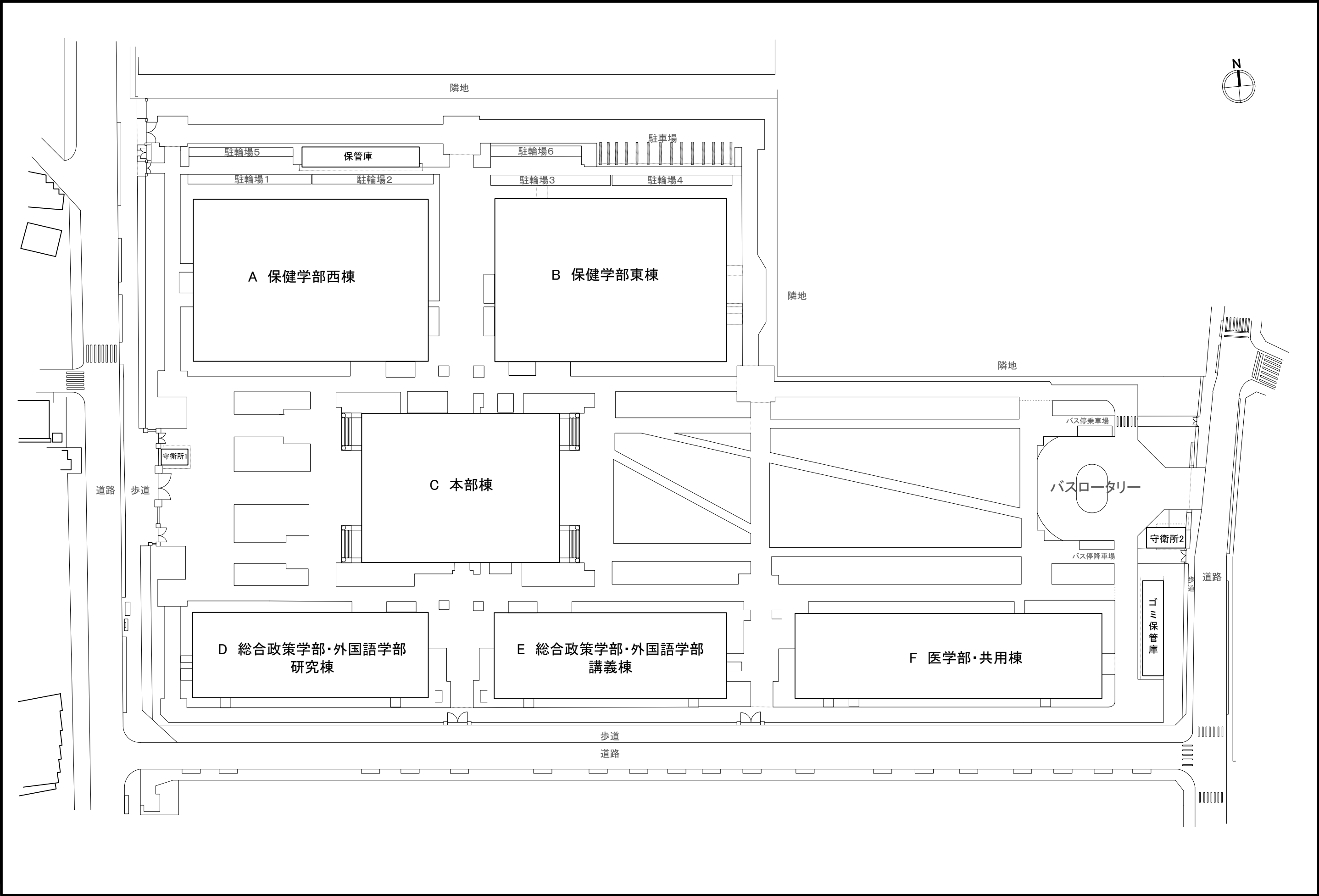
		Social Sciences Discussion	This class is designed to develop skills in debating social science issues in English. Through group discussion, negotiation, problem finding, and problem solving, students will not only acquire discussion skills, but also the ability to organize and analyze a variety of data and resources provided in English. The goal is to be able to discuss not only data and resources on the Internet, but also library books and databases. This lecture is taught in English. Social Sciences Discussionは、社会科学の問題について英語でディベートを行う技術を身につけることを目的としている。グループディスカッション、交渉、問題発見、問題解決を通して、ディスカッション能力だけでなく、英語で提供される様々なデータや資料を整理し、分析する能力を身につける。インターネット上のデータや資料だけでなく、図書館の本やデータベースについても議論できるようになることが目標である。	
コミュニティ・ベースド・ラーニング		コミュニティ・ベースド・ラーニング概論	コミュニティ・ベースド・ラーニング（以下、CBL: community based learning）概論とは、地域に対する理解を深め、国内地域留学に向けてさまざまな準備を行うことを目的とする。授業では、地域で活動する上で必要不可欠な基本的な内容について理解する授業内容については、国内地域留学の派遣先であり、本学と包括地域連携を結ぶ宮城県石巻市、東松島市、あるいは他の受け入れ先自治体との協議を踏まえて構成されている。授業後半では、実践編として、大学周辺で地域活動を行う人や団体に対するインタビューも実施する。この授業では、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。※【重要】認定科目であるCBL基礎Ⅰ・ⅡおよびCBL応用Ⅰ・Ⅱの単位修得に対しては、CBL概論の単位修得が「必須条件」となるので注意すること。（岡村裕、5木暮健太郎、45三浦秀之）	共同
		コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ	本科目はコミュニティ・ベースド・ラーニング概論を履修し、単位を修得した学生のみを対象とする科目である。具体的には、国内地域留学として、夏期休暇ないし春期休暇の期間において、2週間から1カ月の間、地方都市に滞在する。また、当該地域の課題発見と課題解決に向けた活動に従事するものとする。地域の現場に出るため、この授業では、「受け身」の姿勢であることは認められず、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。	共同
		コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ	本科目はコミュニティ・ベースド・ラーニング概論を履修し、単位を修得した学生のみを対象とする科目である。具体的には、国内地域留学として、夏期休暇ないし春期休暇の期間において、2週間から1カ月の間、地方都市に滞在する。また、当該地域の課題発見と課題解決に向けた活動に従事するものとする。地域の現場に出るため、この授業では、「受け身」の姿勢であることは認められず、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。	共同
		コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ	本科目はコミュニティ・ベースド・ラーニング概論を履修し、単位を修得した学生のみを対象とする科目である。具体的には、国内地域留学として、夏期休暇ないし春期休暇の期間において、2週間から1カ月の間、地方都市に滞在する。また、当該地域の課題発見と課題解決に向けた活動に従事するものとする。地域の現場に出るため、この授業では、「受け身」の姿勢であることは認められず、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。	共同
		コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ	本科目はコミュニティ・ベースド・ラーニング概論を履修し、単位を修得した学生のみを対象とする科目である。具体的には、国内地域留学として、夏期休暇ないし春期休暇の期間において、2週間から1カ月の間、地方都市に滞在する。また、当該地域の課題発見と課題解決に向けた活動に従事するものとする。地域の現場に出るため、この授業では、「受け身」の姿勢であることは認められず、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。	共同

データ・デザイン・プログラム	プログラミング A		ICTを基盤とする現代社会を生き抜いていくためには、まずはその状況や仕組みを理解することが必要である。情報技術は単なるユーザーであるだけでは危険で、理論や仕組みを理解した上で利用することが今後社会で活躍する人物には必須となる。本講義では情報技術の基盤となるプログラミングについて、知識ゼロの状態から展開し、アルゴリズムとプログラミングの技法について理解する。具体的にはVisuarBasicおよびJavaScriptを使用言語としてとりあげ、プログラミングの基礎とウェブプログラミングについて学ぶ。	
	プログラミング B		ICTを基盤とする現代社会の一步先を生き抜いていくためには、情報技術のユーザーであるだけでなく、その理論や仕組みを理解した上で新たな枠組みの開発者となりうる技術や知識を身につけることが必要である。本講義では情報技術の基盤となるプログラミングについて、アルゴリズムとプログラミングの技法について理解する。具体的にはC言語およびJavaを使用言語としてとりあげ、プログラミングの原理と開発について学ぶ。	
	データ・サイエンス A		情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがインターネットに接続され、多量のデジタルデータが生み出されている。蓄積された多量のデジタルデータはビッグデータと呼ばれ、ビッグデータの台頭は人工知能(AI: Artificial Intelligence)の急速な進展を生んだ。このように現代社会ではデータが主役であり、そのデータを正しく扱い、適切な方法で分析し、価値のある情報を見出すことが求められている。本講義では、データに基づいて課題解決を行っていくデータサイエンスの入門編として、データの解析に必須となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法をエクセルを用いた演習で習得する。	
	データ・サイエンス B		統計学の実用的な応用知識および機械学習分野の主な分析手法を学び、統計的問題解決力の更なる充実を目指す。統計学にとどまらず、クラスタリングや識別学習などデータサイエンスの基礎を学ぶ。データサイエンスでは、実際のデータに分析アルゴリズムを適用することを繰り返すことで、どのようなデータにどのような手法を適用すると何が発見できるかということを経験することが大切である。そこで本授業では、(1) データ分析手法の説明、(2) データ分析ツールPythonによる分析アルゴリズムの実践、(3) 分析結果の可視化、というフローを毎回の授業で繰り返し実践し、データマイニング技術を自在に活用できるスキルを身につけることを目的としたい。	
	データ・デザイナー概論		本科目は、DDP（データ・デザイン・プログラム）における「データ・デザイン」という概念を理解するために開設されている。「データ・デザイン」というテーマのもとで、システム開発やデータサイエンスなどで活躍する社会人のゲスト講師との対話を通じて、ビジネスにおける実務的な知識を理解し、この分野におけるキャリアについて検討することを目的としている。	

学校の位置及び校地、校舎の配置図の概要



井 の 頭 校 地 及 び 建 物 配 置 図
三 鷹 市 下 連 雀 5 丁 目 9 4 3 番 3 1 外
34, 767. 00㎡(敷地)



図面 2

○杏林大学学則

制定 改正	昭和45年	3月17日	昭和50年	8月11日
	昭和49年	4月23日	昭和53年	12月25日
	昭和52年	11月17日	昭和57年	4月1日
	昭和54年	10月25日	昭和60年	1月9日
	昭和59年	4月1日	昭和63年	4月1日
	昭和61年	4月1日	平成3年	9月25日
	平成2年	12月21日	平成6年	1月24日
	平成4年	9月21日	平成8年	10月23日
	平成7年	7月3日	平成9年	5月30日
	平成9年	3月28日	平成10年	12月11日
	平成10年	3月27日	平成11年	6月21日
	平成11年	2月15日	平成11年	12月10日
	平成11年	9月20日	平成12年	9月18日
	平成12年	6月19日	平成14年	2月26日
	平成13年	5月30日	平成14年	9月13日
	平成14年	7月15日	平成15年	2月17日
	平成14年	12月6日	平成15年	12月5日
	平成15年	9月8日	平成17年	5月27日
	平成16年	5月28日	平成17年	10月26日
	平成17年	7月25日	平成18年	12月8日
	平成18年	3月29日	平成19年	12月7日
	平成19年	3月29日	平成20年	9月8日
	平成20年	5月29日	平成20年	10月20日
	平成20年	10月20日	平成21年	3月26日
	平成21年	5月29日	平成21年	10月26日
	平成21年	12月3日	平成22年	5月28日
	平成22年	10月27日	平成22年	12月3日
	平成23年	5月27日	平成23年	9月12日
	平成23年	12月2日	平成24年	3月30日
	平成24年	5月25日	平成24年	12月7日
	平成25年	5月24日	平成26年	2月17日
	平成26年	7月28日	平成26年	9月8日
	平成27年	3月27日	平成27年	5月29日
	平成27年	10月19日	平成28年	3月25日
	平成28年	5月27日	平成29年	3月24日
	平成29年	5月26日	平成30年	3月28日
	平成31年	3月29日	令和元年	5月31日
	令和元年	10月11日	令和2年	3月16日
	令和2年	5月29日	令和2年	12月4日
	令和3年	3月26日	令和3年	5月28日
	令和3年	9月6日	令和3年	12月3日
	令和4年	3月25日	令和4年	5月27日
	令和4年	9月7日	令和4年	12月2日
	令和5年	5月26日	令和5年	9月4日
	令和5年	12月1日	令和6年	3月27日
	令和6年	5月31日	令和6年	9月9日
	令和6年	9月27日		

第1章 目的、使命及び自己評価等

第3類（杏林大学学則）

（目的）

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命とする。

（自己評価等）

第1条の2 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。

3 本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を修得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

第2章 学部、大学院等

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科

保 健 学 部 臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、診療放射線技術学科、臨床心理学科及びリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻）

総合政策学部 法律政治学科及び経済経営学科

外国語学部 英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。

3 保健学部

（1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。

（2）健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び運動・スポーツの専門知識と技術をもち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。

（3）看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術をもち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを

第3類（杏林大学学則）

目的とする。

- (4) 臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。
- (5) 救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的とする。
- (6) 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (7) 臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。
- (8) リハビリテーション学科理学療法学専攻は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (9) リハビリテーション学科作業療法学専攻は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
- (10) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻は、他者を思いやれる豊かな人間性と高い倫理観を備え、科学的視点から多角的に分析を行い、医療・保健・福祉の領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

- (1) 法律政治学科は、社会を制度の視点から捉え、法律、政治、国際政経、福祉政策の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、課題発見から実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。
- (2) 経済経営学科は、社会を財・サービスの動きから捉え、経済、経営、会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

- (1) 英語学科は、英語の高度な運用能力と広範な背景的知識の獲得、ならびに非言語的表現も含めたコミュニケーション能力の開発に取り組み、これらを通じて、将来の予測が難しい時代を生き抜く力と専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。

第3類（杏林大学学則）

- (2) 中国語学科は、グローバル化の進展と中国語圏を中心とするアジア地域の発展に伴い、求められる実践的な中国語運用能力の開発と地域の社会・文化に関する知識の修得により、高度な中国語コミュニケーション能力を有するとともに、国際社会における相互理解を促進し、新たな協力の創造に寄与できる人材を養成することを目的とする。
- (3) 観光交流文化学科は、豊かで健全な社会生活に欠かすことのできない楽しみのための移動と滞在、それにともなうホスピタリティと人びとの交流について、観光学の学びを通じて多様な視点からその価値を捉え、持続的な観光の発展と交流文化の創造を先導する人材を養成することを目的とする。

(学生定員)

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	105 名	—	630 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	120 名	—	480 名
	健 康 福 祉 学 科	120 名	—	480 名
	看 護 学 科	150 名	—	600 名
	(看護学専攻)	(100 名)	(—)	(400 名)
	(看護養護教育学専攻)	(50 名)	(—)	(200 名)
	臨 床 工 学 科	60 名	—	240 名
	救 急 救 命 学 科	50 名	—	200 名
	診療放射線技術学科	66 名	—	264 名
	臨 床 心 理 学 科	80 名	—	320 名
	リハビリテーション学科	140 名	—	560 名
	(理学療法学専攻)	(65 名)	(—)	(260 名)
	(作業療法学専攻)	(50 名)	(—)	(200 名)
	(言語聴覚療法学専攻)	(25 名)	(—)	(100 名)
総合政策学部	法 律 政 治 学 科	130 名	4 名	528 名
	経 済 経 営 学 科	100 名	2 名	404 名
外国語学部	英 語 学 科	130 名	4 名	528 名
	中 国 語 学 科	32 名	2 名	132 名

第3類（杏林大学学則）

	観光交流文化学科	90 名	2 名	364 名

（大学院）

第4条 本学に大学院を置く。

2 大学院学則は別に定める。

（付属施設）

第5条 本学に付属図書館、付属図書館分館、医学部付属病院、医学部付属杉並病院、データサイエンス教育研究センター、入学センター、キャリアサポートセンター、国際交流センター、学生支援センター、保健センター、研究推進センター、総合情報センター、地域連携センター、高大接続推進室及び男女共同参画推進室を置く。これらに関する規程は別に定める。

第3章 教職員組織

（教員組織）

第6条 本学に学園長、学長、副学長、医学部付属病院長、医学部付属杉並病院長、付属図書館長、付属図書分館長、データサイエンス教育研究センター長、入学センター長、キャリアサポートセンター長、国際交流センター長、学生支援センター長、保健センター長、研究推進センター長、総合情報センター長、地域連携センター長、高大接続推進室長及び男女共同参画推進室長を置く。

2 各学部に学部長、教務部長及び学生部長を置く。

3 事務組織については、別に定める。

第7条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。

2 本学に客員教員又は特任教員を置くことができる。

3 教職員は専任、兼担及び兼任に区分する。

4 教職員の定員、資格、任免、勤務等に関しては、別に定める。

（学園長の任務）

第8条 学園長は、学園が設置する教育機関の教学に関する事項を総理し、教学面の諸事を司る。

（学長の任務）

第9条 学長は、本学並びに本学付属教育機関の教育及び研究に関する事項を統括する。

（副学長の任務）

第10条 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

2 副学長は、学長に事故があり学園長の指名を受けたときは、学長の任務を代行する。

（学部長の任務）

第11条 学部長は、当該学部の校務を掌理し、所属教職員を指揮監督して、教育及び研究の責に任ずる。

第3類（杏林大学学則）

第4章 教授会

（教授会）

第12条 各学部に教授会を置く。

2 各学部の教授会（以下「各教授会」という。）は、それぞれの学部長が招集しその議長となる。

3 各教授会は、それぞれの学部の専任教授をもって組織する。

4 各教授会は、必要に応じ准教授その他の教職員の意見を聴くことができる。

5 各教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）学位の授与

（3）第1号及び第2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（1）教育に関する事項

（2）教員人事に関する事項

（3）学生に関する事項

（4）研究に関する事項

（5）その他各号に関連し、学長等が必要と認めた事項

7 前項第2号の事項中教授の選考に関する事項の審議については、別に定める教授選考委員会において予め審議するものとする。

8 学園長、学長、副学長は各教授会に出席し意見を述べることができる。

9 教授会運営に関する細則は、別に定める。

（大学評議会）

第12条の2 本学に杏林大学評議会（以下「評議会」という。）を置く。

2 評議会は、学長が招集しその議長となる。

3 評議会は、次に掲げる評議会委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

（1）学園長

（2）学長

（3）副学長

（4）学部長

（5）附属図書館長

（6）各教授会構成員の中から教授会により選任された者、各2名

4 前項6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の途中で委員の交替のあったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 評議会は、必要に応じ委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

第3類（杏林大学学則）

6 評議会においては、次の事項を審議し議決する。

- （1）学則及びこれに基づく諸規程の制定、改廃並びにこれらの解釈に関する事項
- （2）大学の自己評価に関する事項
- （3）その他大学全般の教学に関し、学長が必要と認める事項

7 評議会運営に関する規程は別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

（学年）

第13条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。ただし、秋入学者は9月15日に始まり、翌年9月14日に終る。

（学期）

第14条 学年を分けて前期又は春学期、後期又は秋学期の2学期とする。

2 前項の学期の呼称及び期間は、各学部において定める。

（休業日）

第15条 休業日は次のとおりとする。ただし、第4号から第6号の休業期間の始期及び終期は、年度ごとに学長が定める。

- （1）日曜日
 - （2）国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - （3）杏林学園創立記念日 11月11日
 - （4）春季休業
 - （5）夏季休業
 - （6）冬季休業
- 2 学長は、必要により臨時に休業日を設け、又は休業日を授業日に変更することができる。

第6章 修業年限及び在学年限

（修業年限）

第16条 修業年限は次のとおりとする。

医 学 部	6 年
保 健 学 部	4 年
総合政策学部	4 年
外国語学部	4 年

2 3年次に総合政策学部及び外国語学部に編入学した者は、2年とする。

（在学年限）

第17条 卒業までの在学年限は、原則として各学部とも前条の修業年限の2倍を超えることができない。ただし、医学部においては、同一学年の在学年限を2年以内とする。

第7章 入 学

（入学の時期）

第18条 入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）

第3類（杏林大学学則）

第19条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程における12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者
で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が
定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学
大臣が定める日以後に修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外
教育施設の当該課程を修了した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度
認定試験（旧大学入学資格検定）に合格した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上
の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
(入学志願)

第20条 入学を志願する者は、所定の入学願書に別に定める入学検定料を添えて、
提出しなければならない。

(入学手続)

第21条 入学選考試験に合格した者は、所定の期日までに所定の入学料その他の学
納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2 入学選考試験合格の通知を受け、前項の手続を完了した者は、入学を許可する。

(転入学)

第22条 次の各号の一に該当する者で、本学への転入学を志願する者があるときは、
欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に転入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者又は退学した者
- (2) 他の大学に在学している者

(編入学)

第22条の2 短期大学、高等専門学校を卒業した者及び第19条の各号の一に該当
しその後専修学校の専門課程を卒業し文部科学大臣の定める基準を満たすものを修
了した者又はその他法令で定めるところにより資格があるとされている者は、選考
の上、相当年次に編入学を許可する。

(転入学、編入学の入学志願等)

第22条の3 転入学、編入学の志願及び入学手続きについては、第20条及び第2
1条の規定を準用する。

(単位の認定等)

第22条の4 転入学、編入学又は再入学を許可された者の修得した単位の認定及び
修業年限について、当該学部教授会にて審議する。

第8章 教育課程、履修方法、授業期間、授業の方法、単位の計算方法等

第3類（杏林大学学則）

（教育課程の編成及び履修方法）

第23条 教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成する。ただし、履修方法の細部については、各学部において定める。

（教育課程）

第23条の2 授業科目の種類並びにその単位数は、次に定めるとおりとする。

医 学 部 別表1

保 健 学 部 別表2

総合政策学部 別表3

外国語学部 別表4

（1年間の授業期間）

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（各授業科目の授業期間）

第24条の2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

（授業の方法）

第25条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところ（平成13年文部科学省告示第51号）により、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところ（平成15年文部科学省告示第43号）により、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

（単位の計算方法）

第26条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習については、毎週1時間から2時間15週の授業をもって1単位とする。

（2）実験、実習及び実技については、毎週2時間から3時間15週の授業をもって1単位とする。

（3）授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前

第3類（杏林大学学則）

各号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（単位の授与）

第26条の2 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

ただし、第26条第2項の授業科目については、論文審査等の適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与える。

（試験及び進級の認定）

第27条 試験は各授業科目ごとに行う。

- 2 試験は、口頭又は筆記により行う。ただし、科目の性質によりあらかじめ定めたものについては、他の方法によることができる。
- 3 試験の成績は、S（90点以上～100点）、A（80点以上～90点未満）、B（70点以上～80点未満）、C（60点以上～70点未満）、D（60点未満）の5種とし、S A B Cを合格、Dを不合格とする。合格した授業科目については所定の単位を与える。
- 4 進級の認定については、各学部の学修規程又は履修規程に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第27条の2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するもの（平成16年文部科学省告示第176号）の当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第27条の3 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が定める学修（平成3年文部省告示第68号）を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、第27条の2第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第27条の4 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学入学後に本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第3類（杏林大学学則）

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に行った第27条の3第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前項及び前々項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第27条の2第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）及び第27条の3第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（成績評価基準等の明示等）

第27条の5 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学生に対して、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的研修等）

第27条の6 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位互換）

第28条 単位の互換に関する規程は別に定める。

第29条 削 除

第9章 休学、転学、留学、退学等

（休学）

第30条 疾病その他やむを得ない事由のため、3か月以上修学できないときは、学長に願い出て休学することができる。この場合その事由が病気であるときは、医師の診断書を添付しなければならない。

2 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事情があると認められるときは、さらに1年を限り延長することがある。

第31条 疾病のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は当該学部長の申請により休学を命ずることができる。

（復学）

第32条 休学の期間中であっても、その事由が消滅したときは、当該学部長を経て、学長に願い出て復学することができる。この場合、休学の事由が病気である場合には、本学付属病院の医師の診断書を添付しなければならない。

第33条 休学の期間は、第16条の修業年限及び第17条の在学年限に算入しない。

2 休学の期間は、通算して3年を超えることはできない。

（転学・転学部等）

第34条 本学から他の大学に転学しようとする者は、理由書を添えて、当該学部長を経て学長に願い出て、許可を得なければならない。

2 本学内で他学部の学科又は同一学部内の他学科へ転学部又は転学科を志願した者

第3類（杏林大学学則）

は選考の上、これを許可することがある。転学部又は転学科した者の在学年数には、元の学部学科の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

（留学）

第35条 本学は在学中に外国の大学等に留学することを認める。

2 留学に関する事項については、杏林大学学生国際交流規程に定める。

（退学）

第36条 疾病その他の事由により、退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署のうえ当該学部長を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。この場合、退学の事由が疾病によるときは、医師の診断書を添付しなければならない。ただし、死亡の場合は、死亡診断書等の確認により、死亡した日をもって退学とする。

2 退学願の提出と退学の許可については、本学則に定めるところによるほか、医学部においては、学修規程に定めるところによる。

（再入学）

第37条 前条により退学した者で、2年以内に退学の事由が消滅し、再び入学を願う者があるときは、学長は当該学部長の申請により、相当年次に再入学を認めることができる。

（除籍）

第38条 次の各号の一に該当する者は、当該教授会の議を経て学長がこれを除籍する。

- （1）故なくして、3ヵ月以上授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- （2）第30条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- （3）第17条に定める在学年限を超える者
- （4）行方不明で失踪の届出があった者

第10章 卒業

（卒業の要件）

第39条 医学部においては、別表1-1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1-2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-3の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1-5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。別表1-6の適用を受ける者は、6年以上在学し210単位を修得しなければならない。別表1-7の適用を受ける者は、6年以上在学し211単位を修得しなければならない。別表1-8の適用を受ける者は、6年以上在学し207単位を修得しなければならない。別表1-9の適用を受ける者は、6年以上在学し201単位を修得しなければならない。

2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科看護学専攻におい

第3類（杏林大学学則）

ては4年以上在学し137単位以上を、看護学科看護養護教育学専攻及びリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻においては4年以上在学し133単位以上を、診療放射線技術学科においては4年以上在学し132単位以上を、リハビリテーション学科理学療法学専攻、リハビリテーション学科作業療法学専攻においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。

3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。

6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。

7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。

（卒業の認定）

第40条 前条に定める卒業の要件をみたした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

（学位）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
リハビリテーション学科	
理学療法学専攻	学士（理学療法学）
作業療法学専攻	学士（作業療法学）
言語聴覚療法学専攻	学士（言語聴覚療法学）
総合政策学部	
法律政治学科	学士（法律政治学）
経済経営学科	学士（経済経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）

第3類（杏林大学学則）

観光交流文化学科
(教育職員免許状)

学士（観光交流文化学）

第41条の2 本学に教職課程を置く。

2 教職に関する専門科目の種類及び単位数は、別表5－1のとおりとする。

(教育職員免許取得に必要な科目及び単位数)

第41条の3 教育職員免許を得ようとする者は、別に定める本学教職課程履修に関する規程及び教育職員免許法並びに同法施行規則の定めるところに従い、それぞれ所定の科目及び単位を修得しなければならない。

(免許状の種類及び履修学部・学科)

第41条の4 前条に規定する単位を修得することによって得られる免許状の種類並びに履修する学部・学科・専攻は次のとおりとする。

履修する学部・学科・専攻	免許状の種類	
保健学部健康福祉学科	養護教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	養護 保健 保健
保健学部看護学科 看護養護教育学専攻	養護教諭一種免許状	養護
総合政策学部法律政治学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民
総合政策学部経済経営学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民
外国語学部英語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語 英語

第11章 賞罰

(表彰)

第42条 学業その他が特にすぐれ、他の学生の範となる者があるときは、学長は教授会の議を経て、適当な方法でこれを表彰することができる。

(懲戒)

第43条 本学の建学精神、教育方針に違背し、又は学生としての本分に反した行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒は、その軽重に応じ、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みのないと認められる者

(2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者

(3) 正当の理由がなくて、出席常でない者

(4) 本学の定める諸規程に反し、又は学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第3類（杏林大学学則）

第12章 委託学生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生

（委託学生）

第44条 公共又は民間の諸機関等から、委託学生の受入れについて申し入れがあったときは、欠員があり、教育上支障のない限り教授会の議を経て受入れることができる。

- 2 委託学生には本学則を準用する。ただし、委託学生として在学した期間及びその修得単位は、第39条に定める在学期間及び単位として換算することはできない。

（聴講生）

第45条 本学学生にあらざる者で、本学の授業科目の一部を聴講することを希望する者があるときは、教育研究上支障のない限り、聴講生としてこれを許すことができる。

- 2 聴講生となることが出来る者は、聴講する科目を理解するに足る学力があると教授会が認めた者に限るものとする。
- 3 聴講生には本学則を準用する。ただし、聴講生として在学した期間は、第39条に定める在学期間に通算しない。また、単位は授与しない。

（科目等履修生）

第46条 本学学生にあらざる者で本学の授業科目の一部を履修することを希望する者がいるときは、教育研究上支障のない限り、科目等履修生としてこれを許可することができる。

- 2 科目等履修生となることが出来る者は、履修する科目を理解するに足る学力があると教授会が認めた者に限るものとする。
- 3 科目等履修生には本学則を準用する。
- 4 本学科目等履修生として単位を修得した後に本学に入学した場合、当該単位の修得により当該学部教育課程の一部を履修したと当該学部が認めたときは、その単位数等に応じて、相当期間を当該学部の修業年限の2分の1を超えない範囲で第39条に定める在学期間として通算することができる。
- 5 科目等履修生には第26条の2の定めにより履修した科目の単位を授与する。

（外国人留学生）

第47条 外国人であって、本学学生としての教育を受けることを希望する者があるときは、外国人留学生として入学させることができる。

- 2 外国人留学生の入学者選抜に関しては、必要ある場合は日本語の能力に関する試験を加える。

第13章 学納金

（入学検定料、入学料等の納入）

第48条 本学に入学を志願する者は、別に定める入学検定料を納入しなければならない。

- 2 入学選考試験に合格した者は、別表6-1及び別表6-2に定める入学料、授業料その他の学納金を納入しなければならない。
- 3 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。

第3類（杏林大学学則）

（授業料等の納入）

第49条 本学学生は別表6－1及び別表6－2に定める授業料等その他の学納金を納入しなければならない。

- 2 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。
- 3 休学又は停学中であっても、授業料等は徴収する。ただし、休学の期間が6か月以上にわたる者の授業料その他の学納金については別に定めるところにより、減免することがある。
- 4 海外留学する場合、本学に納入すべき費用については別に定める。
- 5 除籍の場合における授業料は、その納期に属する分はこれを徴収する。
- 6 授業料、実験実習費・施設設備費等を所定の期日までに納入しない者には、授業への出席、図書の閲覧、その他施設の利用を認めない。

第50条 入学料、授業料その他既納の学納金は、如何なる理由があってもこれを還付しない。

第14章 名誉学長・名誉教授

（名誉学長）

第51条 本学は、名誉学長の称号を与えることができる。

- 2 名誉学長の詳細については、別に定める。

（名誉教授）

第52条 本学は、名誉教授の称号を与えることができる。

- 2 名誉教授の詳細については、別に定める。

第15章 雑則

（改正）

第53条 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場合は、関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、評議会及び理事会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則は、昭和45年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、教授の3分の2以上が出席した医学部教授会において、出席者の3分の2以上の賛成を得なければならない。
- 3 前項の学則の改正については、理事会の承認を要するものとする。

附 則

本学則は、昭和49年 4月26日から施行する。

附 則

本学則は、昭和51年 4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和53年 4月 1日から施行する。

附 則

第3類（杏林大学学則）

- 1 本学則は、昭和54年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、両学部に関連する事項については、各学部の教授会に、医学部に関連する事項については、医学部教授会に、保健学部に関連する事項については、保健学部教授会に諮り、それぞれの賛成を得なければならない。各学部教授会は、所定の構成員たる教授の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成をもって議決する。

附 則

- 1 本学則は、昭和55年 4月 1日から施行する。
- 2 第3条の規定に拘らず保健学部の総定員は、次のとおりとする。

年度 学科	54年度	55年度	56年度	57年度以降
臨床検査技術学科	50名	100名	150名	200名
保健学科	50名	100名	150名	200名

附 則

本学則は、昭和57年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、昭和59年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場合は関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成をもって議決するものとする。

附 則

本学則は、昭和60年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和61年 4月 1日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	100名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	50名
	保 健 学 科	50名
社会科学部	社 会 科 学 科	300名

附 則

- 1 本学則は、昭和63年 4月 1日から施行する。ただし、別表2-2（第24条関連）の適用については次の各号による。
 - (1) 昭和60年度入学生については適用しない。
 - (2) 昭和61年度入学生については、臨床検査技師、衛生検査技師に関する法律施行令第12条第3号の規定に基づく指定科目に限りこの表の該当科目を適用する。
 - (3) 昭和62年度入学生については、この表を適用する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

本学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	90 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	65 名
	保 健 学 科	65 名
社 会 科 学 部	社 会 科 学 科	330 名
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科	160 名
	中 国 語 学 科	70 名
	日 本 語 学 科	70 名

附 則

- 1 本学則は、平成 3 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 学則第24条別表3は、平成 4 年 4 月 1 日在籍の学生から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表1－2は平成5年度入学生から適用する。
- 3 平成4年度以前の入学生は別表1－1を適用する。ただし、平成5年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成4年度以前の入学生は別表1－2を適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表1－2は平成6年度入学生から適用する。
- 3 平成5年度の別表1－2の適用者は、平成6年度の別表1－2に読みかえる。
- 4 別表1－1の時間数は、別表1－2の同名科目単位数を時間数に換算して読みかえる。
- 5 別表1－1を適用する学生に別表1－2で開講する科目を受講させることができるものとする。ただし、その履修により修得した単位は、卒業の単位に算入しない。
- 6 保健学部臨床検査技術学科及び保健学科において、平成6年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成5年度以前の入学生は、保健学部履修規程に定める授業科目対応表により、別表2－2の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表2－1A及び2－1Bの授業科目で行う。
- 7 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場合は、関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、評議会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表2－3及び別表6－2は平成8年度入学生から適用する。

第3類（杏林大学学則）

- 3 保健学部臨床検査技術学科、保健学科及び看護学科において、平成8年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成6年度及び平成7年度の入学生は保健学部履修規程に定める授業科目対応表により、別表2－3の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表2－2の授業科目で行う。

附 則

本学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成10年 4 月 1 日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、平成10年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	90 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	65 名
	保 健 学 科	65 名
	看 護 学 科	80 名
社会科学部	社 会 科 学 科	330 名
外国語学部	英 米 語 学 科	160 名
	中 国 語 学 科	70 名
	日 本 語 学 科	100 名

附 則

- 1 本学則は、平成11年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表2－3は平成11年度入学生から適用する。
- 3 保健学部臨床検査技術学科、保健学科及び看護学科において、平成11年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成6年度から平成10年度までの入学生は保健学部履修規程に定める授業科目対応表により別表2－3の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、平成6年度及び平成7年度入学生は、別表2－1の授業科目で行い、平成8年度から平成10年度までの入学生は別表2－2の授業科目で行う。

附 則

- 1 本学則は、平成11年 7 月 1 日から施行する。
- 2 第48条第1項は、平成12年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成12年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

学 部	学 科	入 学 定 員				
		平成12 年 度	平成13 年 度	平成14 年 度	平成15 年 度	平成16 年 度
医 学 部	医 学 科	90 名	90 名	90 名	90 名	90 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	55 名	55 名	55 名	55 名	55 名
	保 健 学 科	55 名	55 名	55 名	55 名	55 名
	看 護 学 科	80 名	80 名	80 名	80 名	80 名
社会科学部	社 会 学 科	330 名	330 名	330 名	310 名	290 名
外国語学部	英 米 語 学 科	160 名	160 名	160 名	160 名	160 名
	中 国 語 学 科	70 名	50 名	50 名	50 名	50 名
	日 本 語 学 科	100 名	100 名	80 名	80 名	80 名

3 別表1－1は、削除する。

4 別表1－4は、平成12年度入学生から適用する。

5 平成8年度以前の入学生は、別表1－2、及び平成11年度以前の入学生は、別表1－3を適用する。ただし平成12年度以降の学年進行に組み入れる平成11年度以前の入学生は、別表1－4を適用する。

附 則

1 本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。ただし、第6条の規定は、平成12年 7月 1日から施行する。

2 第2条の規定にかかわらず、平成13年 3月31日までに外国語学部英米語学科、中国語学科及び日本語学科に在籍する学生は、改正前の学則を適用するものとする。

3 第3条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員			
		平成13 年 度	平成14 年 度	平成15 年 度	平成16 年 度
医 学 部	医 学 科	90 名	90 名	90 名	90 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	55 名	55 名	55 名	55 名
	保 健 学 科	55 名	55 名	55 名	55 名
	看 護 学 科	80 名	80 名	80 名	80 名
社会科学部	社 会 学 科	330 名	330 名	310 名	290 名
外国語学部	外 国 語 学 科	310 名	290 名	290 名	290 名

附 則

本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

- 1 本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。
- 2 第2条の規定にかかわらず、平成14年 3月31日までに社会科学部社会科学科に在籍する学生は、平成14年 4月 1日以降、社会科学部社会科学科に在籍する学生の当該学年に、編入若しくは転学部等によって入学する学生についても、改正前の学則を適用するものとする。
- 3 第3条の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員		
		平成14年度	平成15年度	平成16年度
医 学 部	医 学 科	90名	90名	90名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	55名	55名	55名
	保 健 学 科	55名	55名	55名
	看 護 学 科	80名	80名	80名
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	330名	310名	290名
外国語学部	外 国 語 学 科	290名	290名	290名

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年10月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 第19条第1項第7号の規定は、平成16年度入学生から適用する。
- 3 別表1－3は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

本学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

第3類（杏林大学学則）

- 1 本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条、第3条、第41条、第41条の3及び第41条の4は、平成18年4月1日以降の入学生に適用し、平成17年10月1日以前の入学生及び平成19年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。なお、第3条に定める総合政策学部企業経営学科及び外国語学部の編入学定員は、平成20年4月1日以降の編入学生から適用する。また、学校図書館司書教諭講習修了証書の取得に関する専門科目の種類及び単位数は、別表5－2のとおりとする。ただし、別表5－2は、平成17年10月1日以前の入学生に適用する。
- 3 この学則による別表2－1保健学科の項中「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅲ」「社会福祉援助技術演習Ⅳ」「社会福祉援助技術演習Ⅴ」「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術現場実習指導」については、平成18年4月1日以降の履修者に適用し、平成17年4月1日以前の「社会福祉援助技術Ⅰ」「社会福祉援助技術Ⅱ」「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習Ⅱ」の履修者については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成17年 8月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条、第3条、第39条第2項、第41条、第41条の4及び別表2－2の規定は、平成19年4月1日以降の入学生に適用し、平成18年10月1日以前の入学生並びに平成19年10月1日以前の2年次編入学生及び平成20年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。なお、第3条に定める編入学定員は、平成20年4月1日以降の2年次編入学生並びに平成21年4月1日以降の3年次編入学生から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、保健学部臨床工学科については、別表2－1を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の別表4－2の規定は、平成18年4月1日以降の入学生

第3類（杏林大学学則）

に適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第2条、第3条及び第41条の規定は、平成20年4月1日以降の入学生に適用し、平成19年10月1日以前の入学生並びに平成21年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 別表3-2、別表3-3の改正は当該別表に定める入学生より適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第39条、第41条の4及び別表2-3の規定は、平成21年4月1日以降の入学生に適用し、平成20年10月1日以前の入学生及び平成21年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成22年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。

- 3 前項の規定にかかわらず、保健学部臨床工学科については別表2-1を、救急救命学科については別表2-2を適用する。

- 4 別表3-1、別表5-1-1及び別表6-1は、適用学生が平成20年3月31日付けで卒業したことに伴い、それぞれ削除することとし、以降順次繰り上げ、改正後の別表3-1、別表3-2、別表5-1-1、別表5-1-2、別表5-1-3、別表6-1、別表6-2、別表6-3及び別表6-4は、平成20年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条及び第41条の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生並びに平成23年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の別表3－3及び別表5－1－4は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生及び平成22年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成23年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則改正による改正後の別表2－4は、平成22年4月1日以降の入学生から適用し、平成21年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条、第41条、別表2－5及び別表4－5の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年10月1日以前の入学生並びに平成24年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条、第39条、第41条、別表2－5及び別表4－5の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年10月1日以前の入学生並びに平成24年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の第39条及び別表2－6、別表5－1－5は、平成24

第3類（杏林大学学則）

年4月1日以降の入学生に適用し、平成23年10月1日以前の入学生及び平成24年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成25年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成23年10月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の別表1－5は、平成24年4月1日以降の入学生から適用し、平成23年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の別表1－6は、平成25年4月1日以降の入学生から適用し、平成24年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の別表1－7は、平成26年4月1日以降の入学生から適用し、平成25年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。
- 3 この学則による改正後の別表3－3は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、別表3－2は、平成22年4月1日より平成25年9月15日までの入学生並びに平成24年4月1日より平成27年9月15日以前の編入学生に適用し、別表3－1は、平成18年4月1日より平成21年10月1日以前の入学生並びに平成20年4月1日より平成23年10月1日以前の編入学生に適用する。
- 4 この学則による改正後の別表4－4は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、平成25年9月15日以前の入学生並びに平成27年9月15日以前の編入学生については、改正前の学則（改正前の別表4－3、4－4、4－5）を適用する。

附 則

（施行期日）

第3類（杏林大学学則）

- 1 本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第48条、第49条、別表2－8及び別表6－5は、平成27年4月1日以降の入学生に適用し、平成26年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成26年11月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第39条及び別表2－8は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の別表1－8及び別表2－9は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。別表3－4及び別表4－5は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年9月15日以前の入学生並びに平成29年9月15日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条の2及び別表2－10は、平成29年4月1日以降の入学生から適用し、平成28年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日からの入学者は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

学 部	学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	117 名	—	702 名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120 名	—	480 名
	健 康 福 祉 学 科	50 名	—	200 名
	看 護 学 科	150 名	—	600 名
	（看護学専攻）	（100 名）	（—）	（400 名）
	（看護養護教育学専攻）	（50 名）	（—）	（200 名）
	臨 床 工 学 科	60 名	—	240 名
	救 急 救 命 学 科	50 名	—	200 名
	理 学 療 法 学 科	56 名	—	224 名
	作 業 療 法 学 科	54 名	—	216 名
	診療放射線技術学科	66 名	—	264 名
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	150 名	3 名	606 名
	企 業 経 営 学 科	80 名	3 名	326 名
外国語学部	英 語 学 科	130 名	4 名	528 名
	中 国 語 学 科	30 名	5 名	130 名
	観 光 交 流 文 化 学 科	90 名	3 名	366 名

附 則

（施行期日）

- 第2条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学部、学科は、次のとおりとする。

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科

保健学部 臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科及び臨床心理学科

総合政策学部 総合政策学科及び企業経営学科

外国語学部 英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

- 第2条の2の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学部又は学科の目的は、次のとおりとする。

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

- 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。

- 保健学部

- （1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力

第3類（杏林大学学則）

を持つ人材を養成することを目的とする。

- (2) 健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術を持ち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。
- (3) 看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術を持ち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。
- (4) 臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。
- (5) 救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的とする。
- (6) 理学療法学科は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (7) 作業療法学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
- (8) 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (9) 臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々のQOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

- (1) 総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。
- (2) 企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備

第3類（杏林大学学則）

えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

- (1) 英語学科は、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。
- (2) 中国語学科は、社会のニーズに対応できる実践的な中国語運用能力を開発し、高度な知見と技能の修得により、日中間の交流を担う、中国語の高度なコミュニケーション能力を具備した人材を養成することを目的とする。
- (3) 観光交流文化学科は、観光産業の現場における有益な人材を輩出するため、十分な外国語運用能力に基づいたコミュニケーション力を修得した上で、正しい異文化理解、さらには産業の現状把握を通じて「ホスピタリティ」を学習し、実践的に応用できる人材を養成することを目的とする。

- 3 第3条の規定及び上記附則2の入学定員にかかわらず、平成30年 4月 1日からの入学定員は、下記のとおりとする。

（学生定員）

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	117 名	—	702 名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120 名	—	480 名
	健 康 福 祉 学 科	50 名	—	200 名
	看 護 学 科	150 名	—	600 名
	(看護学専攻)	(100 名)	(—)	(400 名)
	(看護養護教育学専攻)	(50 名)	(—)	(200 名)
	臨 床 工 学 科	60 名	—	240 名
	救 急 救 命 学 科	50 名	—	200 名
	理 学 療 法 学 科	56 名	—	224 名
	作 業 療 法 学 科	54 名	—	216 名
	診療放射線技術学科	66 名	—	264 名
	臨 床 心 理 学 科	80 名	—	320 名
総 合 政 策 学 部	総 合 政 策 学 科	150 名	3 名	606 名
	企 業 経 営 学 科	80 名	3 名	326 名
外 国 語 学 部	英 語 学 科	130 名	4 名	528 名
	中 国 語 学 科	30 名	5 名	130 名
	観 光 交 流 文 化 学 科	90 名	3 名	366 名

- 4 第39条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から卒業の要件は、次のとおりとする。

（卒業の要件）

第39条 医学部においては、別表1－1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1－2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1－3の適用を

第3類（杏林大学学則）

受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1－4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1－5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。

2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科及び診療放射線技術学科においては4年以上在学し133単位以上を、理学療法学科及び作業療法学科においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。

3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。

6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。

7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。

5 第41条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学位は、次のとおりとする。

（学位）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）

第3類（杏林大学学則）

外国語学部

英語学科

中国語学科

観光交流文化学科

学士（文学）

学士（中国語コミュニケーション学）

学士（観光交流文化学）

- 6 平成30年 4月 1日から別表2-11を追加する。

附 則

- 1 本学則は、平成30年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の別表5-1-3は、平成28年4月1日以降の入学生に適用する。
- 3 この学則による改正後の別表2-11は、平成30年4月1日以降の入学生に適用する。
- 4 この学則による改正後の第41条の4、別表3-5、別表4-4及び別表5-1-4は、平成31年4月1日以降の入学生及び平成33年4月1日以降の編入学生から適用する。

附 則

本学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
令和2年度	115名	—	700名
令和3年度	115名	—	698名
令和4年度	105名	—	686名
令和5年度	105名	—	674名
令和6年度	105名	—	662名
令和7年度	105名	—	650名
令和8年度	105名	—	640名

附 則

本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。ただし、第5条及び第6条の規定は、令和 2年 6月 1日から施行する。
- （経過措置）

第3類（杏林大学学則）

- 2 この学則による改正後の別表2－14は、令和3年4月1日以降の入学生から適用し、令和2年4月1日以前の学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和3年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 第3条の規定にかかわらず、令和4年4月1日からの入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	105 名	—	630 名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	120 名	—	480 名
	健 康 福 祉 学 科	120 名	—	480 名
	看 護 学 科	150 名	—	600 名
	（看護学専攻）	（100 名）	（—）	（400 名）
	（看護養護教育学専攻）	（50 名）	（—）	（200 名）
	臨 床 工 学 科	60 名	—	240 名
	救 急 救 命 学 科	50 名	—	200 名
	理 学 療 法 学 科	56 名	—	224 名
	作 業 療 法 学 科	54 名	—	216 名
	診療放射線技術学科	66 名	—	264 名
	臨 床 心 理 学 科	80 名	—	320 名
総 合 政 策 学 部	総 合 政 策 学 科	150 名	4 名	608 名
	企 業 経 営 学 科	80 名	2 名	324 名
外 国 語 学 部	英 語 学 科	130 名	4 名	528 名
	中 国 語 学 科	32 名	2 名	132 名
	観光交流文化学科	90 名	2 名	364 名

- 3 第3条の規定及び上記附則2にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和2年度	115名	—	700名
令和3年度	115名	—	698名
令和4年度	105名	—	686名
令和5年度	105名	—	674名
令和6年度	105名	—	662名
令和7年度	105名	—	650名
令和8年度	105名	—	640名

4 この学則による改正後の別表4－5及び5－1－5は、令和3年4月1日以降の入学生から適用し、令和2年9月15日以前の学生については、改正前の学則を適用する。

5 この学則による改正後の別表2－15は、令和4年4月1日以降の入学生から適用する。

附 則

本学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

1 本学則は、令和4年4月1日から施行する。

2 第3条の規定にかかわらず、令和4年度から令和9年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和4年度	117名	—	698名
令和5年度	105名	—	686名
令和6年度	105名	—	674名
令和7年度	105名	—	662名
令和8年度	105名	—	652名
令和9年度	105名	—	642名

附 則

（施行期日）

1 本学則は、令和4年4月1日より施行する。

2 第2条の規定にかかわらず、令和5年4月1日から学部、学科は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科

保健学部 臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、診療放射線技術学科、臨床心理学科及びリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻）

総合政策学部 総合政策学科及び企業経営学科

外国語学部 英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

3 第2条の2の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日から学部又は学科の目的は、次のとおりとする。

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。

3 保健学部

（1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。

（2）健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術を持ち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。

（3）看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術を持ち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。

（4）臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。

（5）救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的とする。

（6）診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。

第3類（杏林大学学則）

- （7）臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々の QOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。
- （8）リハビリテーション学科理学療法学専攻は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。
- （9）リハビリテーション学科作業療法学専攻は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々の QOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
- （10）リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻は、他者を思いやれる豊かな人間性と高い倫理観を備え、科学的視点から多角的に分析を行い、医療・保健・福祉の領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

- （1）総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。
- （2）企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

- （1）英語学科は、英語の高度な運用能力と広範な背景的知識の獲得、ならびに非言語的表現も含めたコミュニケーション能力の開発に取り組み、これらを通じて、将来の予測が難しい時代を生き抜く力と専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。
- （2）中国語学科は、グローバル化の進展と中国語圏を中心とするアジア地域の発展に伴い、求められる実践的な中国語運用能力の開発と地域の社会・文化に関する知識の修得により、高度な中国語コミュニケーション能力を有するとともに、国際社会における相互理解を促進し、新たな協力の創造に寄与できる人材を養成することを目的とする。
- （3）観光交流文化学科は、豊かで健全な社会生活に欠かすことのできない楽しみのための移動と滞在、それにとまなうホスピタリティと人びとの交流について、観光学の学びを通じて多様な視点からその価値を捉え、持続的な観光の発展と交流文化の創造を先導する人材を養成することを目的とする。

4 第3条の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日からの入学者は、次のとお

第3類（杏林大学学則）

りとする。

（学生定員）

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学 定員	3年次編 入学定員	収容 定員
医 学 部	医 学 科	105 名	—	630 名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120 名	—	480 名
	健 康 福 祉 学 科	120 名	—	480 名
	看 護 学 科	150 名	—	600 名
	（看護学専攻）	(100 名)	(—)	(400 名)
	（看護養護教育学専攻）	(50 名)	(—)	(200 名)
	臨 床 工 学 科	60 名	—	240 名
	救 急 救 命 学 科	50 名	—	200 名
	診 療 放 射 線 技 術 学 科	66 名	—	264 名
	臨 床 心 理 学 科	80 名	—	320 名
	リハビリテーション学科	140 名	—	560 名
	（理学療法学専攻）	(65 名)	—	(260 名)
	（作業療法学専攻）	(50 名)	—	(200 名)
	（言語聴覚療法学専攻）	(25 名)	—	(100 名)
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	150 名	4 名	608 名
	企 業 経 営 学 科	80 名	2 名	324 名
外国語学部	英 語 学 科	130 名	4 名	528 名
	中 国 語 学 科	32 名	2 名	132 名
	観 光 交 流 文 化 学 科	90 名	2 名	364 名

5 第39条の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日からの入学者は、次のとおりとする。

（卒業の要件）

第39条 医学部においては、別表1－1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1－2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1－3の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1－4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1－5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。別表1－6の適用を受ける者は、6年以上在学し210単位を修得しなければならない。

2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科看護学専攻においては、4年以上在学し137単位以上を、看護学科看護養護教育学専攻においては4年以上在学し133単位以上を、診療放射線技術学科においては4年以上在学し132単位以上を、リハビリテーション学科理学療法学専攻、リハビリテーション学科作業療法学専攻及びリハビリテーショ

第3類（杏林大学学則）

- ン学科言語聴覚療法学専攻においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。
- 3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
- 4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
- 5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。
- 6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。
- 7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。
- 6 第41条の規定にかかわらず、令和5年4月1日からの入学者は、次のとおりとする。

（学位）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
リハビリテーション学科	
理学療法学専攻	学士（理学療法学）
作業療法学専攻	学士（作業療法学）
言語聴覚療法学専攻	学士（言語聴覚療法学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）
観光交流文化学科	学士（観光交流文化学）

- 7 令和5年4月1日から別表2-12を追加する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

本学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和 4 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和5年度から令和10年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和5年度	118名	—	699名
令和6年度	105名	—	687名
令和7年度	105名	—	675名
令和8年度	105名	—	665名
令和9年度	105名	—	655名
令和10年度	105名	—	643名

附 則

本学則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和6年度から令和11年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和6年度	119名	—	701名
令和7年度	105名	—	689名
令和8年度	105名	—	679名
令和9年度	105名	—	669名
令和10年度	105名	—	657名
令和11年度	105名	—	644名

附 則

- 1 本学則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

第3類（杏林大学学則）

- 2 この学則による改正後の別表2-10の新設科目「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神保健）」は、令和4年4月1日以降の入学生についても遡及して適用する。

附 則

本学則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和7年度から令和12年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和7年度	118名	—	702名
令和8年度	105名	—	692名
令和9年度	105名	—	682名
令和10年度	105名	—	670名
令和11年度	105名	—	657名
令和12年度	105名	—	643名

附 則

本学則は、令和8年4月1日から施行する。

第3類（杏林大学学則）

別表1－1

医学部授業科目及び単位数

〈平成20年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A	8			
		医療科学B	4			
		医療科学C	3			
		生物学	6			
		生体化学	8			
		医学物理学	8			
		医学統計学	2			
		プレチュートリアル	2			
	外国語	英語A	5			
		英語B	5			
		医学英語A	2			
		医学英語B	1			
		ドイツ語A			5	
		ドイツ語B			5	
		フランス語A			5	
		フランス語B			5	
		中国語A			5	
		中国語B			5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学	8			
		組織解剖学	5			
	人体の機能	分子生物学	6			
		細胞生物学	3			
		代謝生化学A	6			
		代謝生化学B	2			
		生体統御生理学	4			
		細胞生理学	4			
	生との発	薬理学総論	4			
		病理学総論	3			

第3類（杏林大学学則）

		感染と防御	6			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	2			
		衛生学	4			
		公衆衛生学	5			
臨床統合講義	器官の構造・機能とその異常	臨床医学総論	3			
		神経	5			
		呼吸器	4			
		循環器	4			
		消化器	6			
		腎・尿路	4			
		内分泌・代謝	3			
		血液	3			
		精神	2			
		感覚器	3			
		運動器	2			
		皮膚・形成	2			
		女性医学	2			
	老化・誕生・成長・	妊娠・分娩	2			
		発育・小児	2			
		老化と老年病	1			
		生活習慣病	1			
	系統的異常	感染症	2			
		免疫・アレルギー	2			
		腫瘍	1			
		救命と救急医療	2			
		麻酔・全身管理	1			
臨床実習	グループ実習	臨床診断総論	8			
		内科学Ⅰ実習	6			
		内科学Ⅱ実習	4			
		内科学Ⅲ実習	4			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		外科学実習	4			

第 3 類（杏林大学学則）

	小児外科学実習	1			
	救急医学実習	2			
	脳神経外科学実習	2			
	心臓血管外科学実習	2			
	整形外科実習	2			
	皮膚科学実習	2			
	形成外科学実習	1			
	泌尿器科学実習	2			
	眼科学実習	1			
	耳鼻咽喉科学実習	1			
	産科婦人科学実習	2			
	放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1			
	臨床検査医学実習	1			
	病理学実習	1			
応用 実習	チュートリアル	2			
	臨床応用実習	6			
	臨床総合演習	1 6			
計					2 5 5 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－2

医学部授業科目及び単位数

〈平成24年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A	8			
		医療科学B	3			
		総合医療・地域医療学	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	6			
		生体化学	8			
		医学物理学	8			
		医学統計学	2			
		プレチュートリアル	2			
	外国語	英語A	5			
		英語B	5			
		医学英語A	2			
		医学英語B	1			
		ドイツ語A			5	
		ドイツ語B			5	
		フランス語A			5	
		フランス語B			5	
		中国語A			5	
		中国語B			5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学	8			
		組織解剖学	5			
	人体の機能	分子生物学	6			
		細胞生物学	3			
		代謝生化学A	6			
		代謝生化学B	2			
		生体統御生理学	4			
		細胞生理学	4			

第3類（杏林大学学則）

	異常の発生と制御	薬理学 病理学総論 感染と防御 熱帯病・寄生虫学 法医学 衛生学 公衆衛生学	4 3 6 2 2 4 4			
	臨床医学講義	臨床医学総論 呼吸器内科学 腎臓内科学 リウマチ膠原病学 神経内科学 循環器病学A 循環器病学B 血液内科学 内分泌・代謝内科学 消化器内科学 高齢医学 精神神経科学 小児科学A 小児科学B 外科学総論 消化器外科学 呼吸器・甲状腺・乳腺外科学 小児外科学 救急医学 脳神経外科学 整形外科・リハビリテーション医学 皮膚科・形成外科学 泌尿器科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 産科婦人科学A 産科婦人科学B 放射線医学	1 2 2 1 2 3 4 2 2 3 1 2 1 2 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2			

第3類（杏林大学学則）

		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		病理学各論A	3			
		病理学各論B	2			
		腫瘍学	1			
		感染症学	2			
		生活習慣病学	1			
臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		内科学Ⅰ実習	6			
		内科学Ⅱ実習	4			
		内科学Ⅲ実習	4			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		外科学実習	4			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		臨床検査医学実習	1			
	病理学実習	1				
	応用実習	チュートリアル	1			
		臨床応用実習	6			
		臨床総合演習	16			
計						252単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－3

医学部授業科目及び単位数

〈平成25年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A 医療科学B 総合医療・地域医療学 和漢医学概論 生物学 生体化学 医学物理学 医学統計学 プレチュートリアル	8 3 1 1 6 8 8 2 2			
	外国語	英語A 英語B 医学英語A 医学英語B ドイツ語A ドイツ語B フランス語A フランス語B 中国語A 中国語B	5 5 2 1		5 5 5 5 5 5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学 組織解剖学	8 5			
	人体の機能	分子生物学 細胞生物学 代謝生化学A 代謝生化学B 生体統御生理学 細胞生理学	6 3 6 2 4 4			
	異常の発生と制御	薬理学 病理学総論 感染と防御 熱帯病・寄生虫学 法医学 衛生学 公衆衛生学	4 3 6 2 2 4 4			

第3類（杏林大学学則）

臨床医学講義	臨床医学	臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	2			
		腎臓内科学	2			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学	2			
		循環器病学A	3			
		循環器病学B	4			
		血液内科学	2			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	3			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	2			
		小児科学A	1			
		小児科学B	2			
		外科学総論	1			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	2			
		脳神経外科学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	2			
		皮膚科・形成外科学	2			
		泌尿器科学	2			
		眼科学	2			
		耳鼻咽喉科学	2			
		産科婦人科学A	1			
		産科婦人科学B	1			
		放射線医学	2			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		病理学各論A	3			
		病理学各論B	2			
		腫瘍学	1			
		感染症学	2			
		生活習慣病学	1			

第3類（杏林大学学則）

臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	2			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	2			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		臨床検査医学実習	1			
	病理学実習	1				
	応用実習	チュートリアル	1			
		臨床応用実習	6			
		臨床総合演習	1 6			
計						2 5 2 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－4

医学部授業科目及び単位数

〈平成26年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A 医療科学B 総合医療・地域医療学 和漢医学概論 生物学 生体化学 医学物理学 医学統計学 プレチュートリアル	8 3 1 1 6 8 8 2 2			
	外国語	英語・医学英語Ⅰ 英語・医学英語Ⅱ 英語・医学英語Ⅲ 英語・医学英語Ⅳ 英語・医学英語Ⅴ ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	5 2 2 1		1 5 5 5 5 5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学 組織解剖学	8 5			
	人体の機能	分子生物学 細胞生物学 代謝生化学A 代謝生化学B 生体統御生理学 細胞生理学	6 3 6 2 4 4			

第3類（杏林大学学則）

	異常の発生と制御	薬理学	4			
		病理学総論	3			
		感染と防御	6			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	2			
		衛生学	4			
		公衆衛生学	4			
臨床医学講義	臨床医学	臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	2			
		腎臓内科学	2			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学	2			
		循環器病学A	3			
		循環器病学B	4			
		血液内科学	2			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	3			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	2			
		小児科学A	1			
		小児科学B	2			
		外科学総論	1			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	2			
		脳神経外科学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	2			
		皮膚科・形成外科学	2			
		泌尿器科学	2			
		眼科学	2			
		耳鼻咽喉科学	2			
		産科婦人科学A	1			
		産科婦人科学B	1			
		放射線医学	2			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		病理学各論A	3			
		病理学各論B	2			
		腫瘍学	1			
		感染症学	2			
		生活習慣病学	1			

第3類（杏林大学学則）

臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	2			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	2			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		臨床検査医学実習	1			
	病理学実習	1				
	応用実習	チュートリアル	1			
		臨床応用実習	6			
		臨床総合演習	1 6			
計						2 4 9 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－5

医学部授業科目及び単位数

〈平成28年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択必修	自由選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A	4			
		医療科学B	2			
		地域と大学	2			
		和漢医学概論	1			
		生物学	4			
		生体化学	4			
		医学物理学	4			
		医学統計学	1			
		プレチュートリアル	2			
	外国語	英語・医学英語Ⅰ	2			
		英語・医学英語Ⅱ	2			
		英語・医学英語Ⅲ	2			
		英語・医学英語Ⅳ	1			
		英語・医学英語Ⅴ			1	
		ドイツ語Ⅰ			2	
		ドイツ語Ⅱ			2	
		フランス語Ⅰ			2	
		フランス語Ⅱ			2	
		中国語Ⅰ			2	
		中国語Ⅱ			2	
医学の基礎	構人 造体 の	肉眼解剖学Ⅰ	3			
		肉眼解剖学Ⅱ	3			
		組織解剖学	5			
	人 体 の 機 能	分子生物学	3			
		細胞生物学	2			
		代謝生化学	5			
		統合生理学	4			
		細胞生理学	4			
	異 常 の 発 生 と 制 御	薬理学	4			
		病理学A	3			
		病理学B	1			
		感染症・免疫学	5			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	1			
		衛生学	2			
		公衆衛生学	3			

第3類（杏林大学学則）

臨床医学講義	臨床医学	臨床医学入門Ⅰ	1			
		臨床医学入門Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	2			
		循環器病学A	2			
		循環器病学B	2			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			
		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
		臨床診断学	4			
臨床実習	グループ実習	呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			
		脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			

第 3 類（杏林大学学則）

	小児科学実習	2			
	消化器外科学実習	2			
	呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
	乳腺外科学実習	1			
	小児外科学実習	1			
	救急医学実習	2			
	救急総合医療学実習	1			
	脳神経外科学実習	1			
	心臓血管外科学実習	1			
	整形外科・リハビリテーション医学実習	2			
	皮膚科学実習	1			
	形成外科学実習	1			
	泌尿器科学実習	1			
	眼科学実習	1			
	耳鼻咽喉科学実習	1			
	産科婦人科学実習	2			
	放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1			
	病理学実習	1			
実応 習用	チュートリアル	1			
	臨床応用実習 A	1 2			
	臨床応用実習 B	1 2			
	臨床総合演習	1 4			
計					2 0 5 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－6

医学部授業科目及び単位数

〈平成31年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と 教養	科学と 医療	情報科学 生命倫理と医療安全 人文生命科学特論 行動科学Ⅰ 行動科学Ⅱ 地域と大学（早期体験学習Ⅰ） 早期体験学習Ⅱ 早期体験学習Ⅲ 和漢医学概論 生物学 生体化学 医学物理学 医学統計学 プレチュートリアル	1 1 1 2 1 2 2 1 1 4 4 4 1 2			
	外国語	英語・医学英語Ⅰ 英語・医学英語Ⅱ 英語・医学英語Ⅲ 英語・医学英語Ⅳ 英語・医学英語Ⅴ 実践英語Ⅰ 実践英語Ⅱ ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	2 2 2 1 2		1 2 2 2 2 2 2	
医学の 基	構人 造体 の	肉眼解剖学Ⅰ 肉眼解剖学Ⅱ 組織解剖学	1 5 5			
		分子生物学 細胞生物学 代謝生化学 統合生理学 病態生理学	3 2 5 4 4			
	異	薬理学	4			

第3類（杏林大学学則）

礎	常 の 発 生 と 制 御	病理学A	3			
		病理学B	1			
		感染症・免疫学	5			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	1			
		衛生学	2			
		公衆衛生学	3			
臨床 医学 講 義	臨床 医学	臨床医学入門Ⅰ	1			
		臨床医学入門Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	2			
		循環器病学A	2			
		循環器病学B	2			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			
		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
		臨床診断学	4			
		臨床総合演習	1 4			
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			

第 3 類（杏林大学学則）

臨床 実習	基本 実習	脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	2			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		救急総合医療学実習	1			
		脳神経外科学実習	1			
		心臓血管外科学実習	1			
		整形外科・リハビリテーション医学実習	2			
		皮膚科学実習	1			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	1			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		病理学実習	1			
	実応 習用	チュートリアル	1			
		臨床応用実習 A	1 2			
		臨床応用実習 B	1 2			
計						2 1 0 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－7

医学部授業科目及び単位数

〈令和4年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医 療 と 教 養	科学 と 医 療	情報科学	1			
		生命倫理と医療安全	1			
		人文・生命科学特論	1			
		行動科学Ⅰ	2			
		行動科学Ⅱ	1			
		早期体験学習Ⅰ	2			
		早期体験学習Ⅱ	2			
		早期体験学習Ⅲ	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	4			
		生体化学	4			
		医学物理学	4			
		医学統計学	1			
		プレチュートリアル	2			
		社会と大学Ⅰ			2	
		社会と大学Ⅱ			2	
		社会と大学Ⅲ			2	
	外 国 語	英語・医学英語Ⅰ	2			
		英語・医学英語Ⅱ	2			
		英語・医学英語Ⅲ	2			
		英語・医学英語Ⅳ	1			
		英語・医学英語Ⅴ			1	
		実践英語Ⅰ	2			
		実践英語Ⅱ			2	
		ドイツ語Ⅰ			2	
		ドイツ語Ⅱ			2	
		フランス語Ⅰ			2	
		フランス語Ⅱ			2	
		中国語Ⅰ			2	
		中国語Ⅱ			2	

第3類（杏林大学学則）

医 学 の 基 礎	造 人体の構	肉眼解剖学Ⅰ	1			
		肉眼解剖学Ⅱ	5			
		組織解剖学	5			
	人体の機能	分子生物学	3			
		細胞生物学	2			
		代謝生化学	5			
		統合生理学	4			
		病態生理学	4			
	異常の発生と制御	薬理学	4			
		病理学A	2			
		病理学B	2			
		基礎感染症学	4			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	1			
		衛生学	2			
		免疫学	2			
		遺伝医学	1			
		公衆衛生学	3			
臨 床 医 学 講 義	臨 床 医 学	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1			
		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	2			
		循環器病学	3			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			

第3類（杏林大学学則）

		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		臨床感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
		臨床診断学	4			
		臨床総合演習	1 4			
臨床 実習	基 本 実 習	呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			
		脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	2			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		救急総合医療学実習	1			
		脳神経外科学実習	1			
		心臓血管外科学実習	1			
		整形外科・リハビリテーション医学実習	2			

第 3 類（杏林大学学則）

		皮膚科学実習	1			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	1			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		病理学実習	1			
	実 応 習 用	チュートリアル	1			
		臨床応用実習 A	1 2			
		臨床応用実習 B	1 2			
計						2 1 1 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－8

医学部授業科目及び単位数

〈令和5年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医 療 と 教 養	科学 と 医 療	情報科学	1			
		生命倫理と医療安全	1			
		人文・生命科学特論	1			
		行動科学Ⅰ	2			
		行動科学Ⅱ	1			
		早期体験学習Ⅰ	2			
		早期体験学習Ⅱ	2			
		早期体験学習Ⅲ	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	3			
		生体化学	2			
		医学物理学	3			
		医学統計学	1			
		プレチュートリアル	2			
		社会と大学Ⅰ			2	
		社会と大学Ⅱ			2	
		社会と大学Ⅲ			2	
	外 国 語	英語・医学英語Ⅰ	2			
		英語・医学英語Ⅱ	2			
		英語・医学英語Ⅲ	2			
		英語・医学英語Ⅳ	1			
		英語・医学英語Ⅴ			1	
		実践英語Ⅰ	2			
		実践英語Ⅱ			2	
		ドイツ語Ⅰ			2	
		ドイツ語Ⅱ			2	
		フランス語Ⅰ			2	
		フランス語Ⅱ			2	
		中国語Ⅰ			2	
		中国語Ⅱ			2	

第3類（杏林大学学則）

医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ 肉眼解剖学Ⅱ 組織解剖学	1 5 5			
	人体の機能	分子生物学 細胞生物学 代謝生化学 統合生理学 病態生理学	3 2 5 4 4			
	異常の発生と制御	薬理学 病理学A 病理学B 基礎感染症学 熱帯病・寄生虫学 法医学 衛生学 免疫学 遺伝医学 公衆衛生学	4 2 2 4 2 1 2 2 1 3			
臨床医学講義	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅰ 保健・医療の現状と未来Ⅱ 臨床医学総論 呼吸器内科学 腎臓内科学 リウマチ膠原病学 神経内科学・脳卒中医学 循環器病学 血液内科学 内分泌・代謝内科学 消化器内科学 高齢医学 精神神経科学 小児科学 消化器外科学 呼吸器・甲状腺・乳腺外科学 小児外科学 救急医学	1 1 1 1 1 1 2 3 1 2 2 1 1 2 1 1 1 1			

第3類（杏林大学学則）

		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		臨床感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
		臨床診断学	4			
		臨床総合演習	1 4			
臨床 実 習	基 本 実 習	呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			
		脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	2			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		救急総合医療学実習	1			
		脳神経外科学実習	1			
		心臓血管外科学実習	1			
		整形外科・リハビリテーション医学実習	2			

第 3 類（杏林大学学則）

		皮膚科学実習	1		
		形成外科学実習	1		
		泌尿器科学実習	1		
		眼科学実習	1		
		耳鼻咽喉科学実習	1		
		産科婦人科学実習	2		
		放射線医学実習	1		
		麻酔科学実習	1		
		病理学実習	1		
	実 応 習 用	チュートリアル	1		
		臨床応用実習 A	1 2		
		臨床応用実習 B	1 2		
計					2 0 7 単位

第3類（杏林大学学則）

別表1－9

医学部授業科目及び単位数

〈令和6年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医 療 と 教 養	科学 と 医 療	情報科学	1			
		生命倫理と医療安全	1			
		人文・生命科学特論	1			
		行動科学Ⅰ	2			
		行動科学Ⅱ	1			
		早期体験学習Ⅰ	2			
		早期体験学習Ⅱ	2			
		早期体験学習Ⅲ	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	3			
		生体化学	2			
		医学物理学	3			
		医学統計学	1			
		プレチュートリアル	2			
		社会と大学Ⅰ			2	
		社会と大学Ⅱ			2	
		社会と大学Ⅲ			2	
	外 国 語	英語・医学英語Ⅰ	2			
		英語・医学英語Ⅱ	2			
		英語・医学英語Ⅲ	2			
		英語・医学英語Ⅳ	1			
		英語・医学英語Ⅴ			1	
		実践英語Ⅰ	2			
		実践英語Ⅱ			2	
		ドイツ語Ⅰ			2	
		ドイツ語Ⅱ			2	
		フランス語Ⅰ			2	
		フランス語Ⅱ			2	
		中国語Ⅰ			2	
		中国語Ⅱ			2	

第3類（杏林大学学則）

医 学 の 基 礎	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ	1			
		肉眼解剖学Ⅱ	5			
		組織解剖学	4			
	人体の機能	分子生物学	3			
		細胞生物学	2			
		代謝生化学	5			
		統合生理学	4			
		病態生理学	4			
	異常の発生と制御	薬理学	4			
		病理学A	2			
		病理学B	2			
		基礎感染症学	3			
		熱帯病・寄生虫学	1			
		法医学	1			
		衛生学	2			
		免疫学	2			
		遺伝医学	1			
		公衆衛生学	3			
臨 床 医 学 講 義	臨 床 医 学	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1			
		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	1			
		循環器病学	3			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			

第3類（杏林大学学則）

		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		臨床感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
		臨床診断学	4			
		臨床総合演習	12			
臨床 実習	基 本 実 習	呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			
		脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	2			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		救急総合医療学実習	1			
		脳神経外科学実習	1			
		心臓血管外科学実習	1			

第 3 類（杏林大学学則）

		整形外科科学・リハビリテーション医学実習	2			
		皮膚科学実習	1			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	1			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
		麻酔科学実習	1			
		病理学実習	1			
	実 応 習 用	チュートリアル	1			
		臨床応用実習 A	12			
		臨床応用実習 B	12			
計						201 単位

第3類（杏林大学学則）

別表2－1

保健学部学科目構成

（平成27年度入学生から適用）

健康福祉学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
哲 学		2		
心 理 学		2		
法 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
社 会 学		2		
生 命 倫 理 学	2			10単位以上
教 育 心 理 学		2		
発 達 心 理 学		2		
芸 術 学		2		
倫 理 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
基 礎 数 学		1		
情 報 処 理 演 習	2			
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学	1			
無 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
自 然 科 学 実 験	1			
言語系				
英 語 I	2			
英 語 II		2		
英 語 III		2		
医 学 英 語	2			
英 会 話		2		
基礎医学系				

第3類（杏林大学学則）

医 学 概 論	2		
医 学 基 礎 実 習	1		
公 衆 衛 生 学 I	2		
公 衆 衛 生 学 II		2	
解 剖 学	2		
病 理 学	2		
生 理 学	2		
生 化 学	2		
免 疫 学	2		
微 生 物 学	2		
微 生 物 学 実 験		1	
薬 理 学	2		
小 児 疾 患 の 病 態 学	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 I	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 II		2	
内 科 疾 患 の 病 態 学 III		2	
外 科 疾 患 の 病 態 学	2		
精 神 医 学		1	
救 命 救 助 法		1	
保健学系			
保 健 学 概 論	2		
健 康 福 祉 学	4		
健 康 福 祉 学 実 習	1		
疫 学		2	
小 児 保 健 学	2		
精 神 保 健 学	2		
保 健 栄 養 学	2		食品学を含む
健 康 教 育 学	2		
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2	
社会福祉学系			
社 会 福 祉 学	2		
社 会 福 祉 政 策 論		2	
老 人 福 祉 論		2	

第3類（杏林大学学則）

高 齡 保 健 学		2		
障 害 者 福 祉 論		2		
児 童 福 祉 論	2			
社 会 保 障 論		4		
公 的 扶 助 論		2		
地 域 福 祉 論		4		
社会福祉援助技術総論Ⅰ		4		
社会福祉援助技術総論Ⅱ		2		
社会福祉援助技術論Ⅰ		2		
社会福祉援助技術論Ⅱ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅰ		1		
社会福祉援助技術演習Ⅱ		1		
社会福祉援助技術演習Ⅲ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅳ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅴ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅵ		2		
社会福祉援助技術実習		6		180時間
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		1		30時間（実習）
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		4		60時間（講義・演習）
医 療 福 祉 論		2		
社 会 調 査 概 論	1			
福祉行政と福祉計画概論		1		
社 会 福 祉 経 営 論		1		
就 労 支 援 概 論		1		
権利擁護と成年後見概論		1		
更 生 保 護 概 論		1		
介 護 福 祉 論		2		
学校保健学系				
学 校 保 健 学Ⅰ		2		学校安全を含む
学 校 保 健 学Ⅱ		2		
学 校 看 護 学		1		
健 康 相 談Ⅰ		2		

第3類（杏林大学学則）

健康相談Ⅱ		1	
養護学概論		2	
カウンセリング	2		
保健科指導研究Ⅰ		2	
保健科指導研究Ⅱ		2	
保健科教育法－1		2	
保健科教育法－2		2	
看護学Ⅰ		2	
看護学Ⅱ		2	
看護学Ⅲ		2	
看護学実習		2	
救急看護学		2	
環境・食品学系			
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
環境科学		2	
放射線概論		2	
分析化学		2	
分析化学実験		1	
食品栄養学		2	
食品衛生学		2	
食品製造学		2	
職業適性論		2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
総合			
移植コーディネータ論		2	
特別講義Ⅰ		2	
特別講義Ⅱ		2	
特別演習Ⅰ		1	
特別演習Ⅱ		1	
ボランティア活動		2	

第 3 類（杏林大学学則）

フィールドスタディ		4		
計	5 9	1 6 4		1 2 4 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-2

保健学部学科目構成

（平成28年度入学生から適用）

看護学科看護学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
看護師課程				
基礎分野				
人間科学系				
哲 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
心 理 学		2		
発 達 心 理 学	2			
福 祉 ・ 地 域 と 大 学	2			
現 代 教 育 論		2		
ホ ス ピ タ リ テ ィ 論		2		
国 際 協 力 論		2		
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2		
自然科学系				
統 計 学		2		
人 類 遺 伝 学		2		
物 理 学 概 論		1		
化 学 概 論		1		
生 命 科 学 概 論		2		
情 報 処 理 論	2			
語学系				
英 語 I	2			
英 語 II	2			
英 語 III		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
日 本 語 表 現 法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				
形 態 ・ 機 能 学	2			

第3類（杏林大学学則）

代 謝 ・ 栄 養 学	2			
薬 理 学	2			
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			
病 態 治 療 論 I	2			
病 態 治 療 論 II	2			
病 態 治 療 論 III	2			
病 態 治 療 論 IV	1			
病 態 治 療 論 V	1			
健康支援と社会保障制度				
公 衆 衛 生 学	1			
健 康 支 援 と 法 律	1			
保 健 福 祉 行 政 論 I	1			
保 健 福 祉 行 政 論 II	2			
健 康 教 育 学	2			
産 業 保 健 学 概 論		1		
学 校 保 健 学 概 論		1		
疫学と統計				
疫 学	2			
保 健 統 計	2			
基礎看護学				
基礎看護学系				
看 護 学 概 論	2			
看 護 援 助 論	1			
生 活 行 動 援 助 技 術 I	2			
生 活 行 動 援 助 技 術 II	2			
ヘルスアセスメント技術	1			
看 護 過 程	1			
治 療 ・ 処 置 の 技 術	2			
基 礎 看 護 学 実 習 I	1			
基 礎 看 護 学 実 習 II	2			
専門看護学				
成人看護学系				
成 人 看 護 学 概 論	2			
成 人 看 護 学 I	2			
成 人 看 護 学 II	2			
成 人 看 護 学 演 習	2			

保健師課程選択者は必修

第3類（杏林大学学則）

成人看護学実習Ⅰ	3			
成人看護学実習Ⅱ	3			
高齢者看護学系				
高齢者看護学概論	2			
高齢者看護学	2			
高齢者看護学演習	1			
高齢者看護学実習Ⅰ	2			
高齢者看護学実習Ⅱ	2			
小児看護学系				
小児看護学概論	2			
小児看護学	2			
小児看護学演習	1			
小児看護学実習	2			
母性看護学系				
母性看護学概論	2			
母性看護学	2			
母性看護学演習	1			
母性看護学実習	2			
精神看護学系				
精神看護学概論	2			
精神看護学	2			
精神看護学演習	1			
精神看護学実習	2			
在宅看護学系				
在宅看護学	2			
在宅看護学演習	2			
在宅看護学実習	2			
公衆衛生看護学系				
公衆衛生看護学概論	2			
家族相談支援論	1			
公衆衛生看護学実習Ⅰ	1			
応用看護学				
応用看護学系				
看護研究	4			
看護管理		2		
家族看護		2		
				看護師課程選択者は

第3類（杏林大学学則）

クリティカルケア		2		選択必修 4 単位以上
がん看護		2		
応用看護学実習	2			
特別講義	2			
保健師課程				
公衆衛生看護学				
公衆衛生看護学系				
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ		2		保健師課程選択者は必修
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ		1		
公衆衛生看護活動論Ⅰ		2		
公衆衛生看護活動論Ⅱ		2		
地域診断演習		1		
公衆衛生看護管理		1		
公衆衛生看護学実習Ⅱ		2		
公衆衛生看護学実習Ⅲ		3		
助産師課程				
助産学専攻				
助産学系				
助産学概論		2		助産師課程選択者は必修
周産期医学Ⅰ		2		
周産期医学Ⅱ		1		
助産診断・技術学Ⅰ		1		
助産診断・技術学Ⅱ		2		
助産診断・技術学Ⅲ		2		
助産診断・技術学Ⅳ		1		
助産診断・技術学Ⅴ		2		
地域助産活動論		1		
助産管理学		2		
助産学特別講義		1		
助産学実習Ⅰ		1		
助産学実習Ⅱ		7		
助産学実習Ⅲ		2		
助産学実習Ⅳ		1		
計	1 1 5	8 2		1 3 3 単位以上

第3類（杏林大学学則）

看護学科看護養護教育学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
日 本 国 憲 法	2			
芸 術		2		
教 育 心 理 学	2			
生 命 倫 理 学		2		
学 校 教 育 環 境 づ くり	1			
健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2			
健 康 教 育 学 概 論	2			
ホ ス ピ タ リ テ ィ 論		2		
国 際 協 力 論		2		
日 本 語 学		2		
日 本 人 の 言 語 行 動 学		2		
自然科学系				
基 礎 生 物 学		1		
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
基 礎 数 学		1		
情 報 処 理 論	2			
生 化 学		2		
医 用 機 器 概 論		2		
語学系				
実 用 英 語 I	2			
実 用 英 語 II	2			
英 会 話	2			
看 護 英 語		2		
日 本 語 表 現 法		2		
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				
解剖学(解剖学実習を含む)	2			
生 理 学	2			
病 理 学	2			
薬 理 学	2			

第3類（杏林大学学則）

感 染 症 ・ 免 疫 学	2			
栄養学（食品学を含む。）	2			
疾 病 の 成 り 立 ち I	2			
疾 病 の 成 り 立 ち II	2			
疾 病 の 成 り 立 ち III	2			
疾 病 の 成 り 立 ち IV	2			
疾 病 の 成 り 立 ち V	2			
健康支援と社会保障制度				
公 衆 衛 生 学	2			
学 校 保 健 学 概 論	2			
福 祉 ・ 地 域 と 大 学	2			
健 康 支 援 と 法 律	1			
保 健 統 計	2			
疫 学	2			
基礎看護学分野				
基礎看護学系				
看 護 学 概 論 I	1			
看 護 学 概 論 II	2			
看 護 基 本 技 術 I	2			
看 護 基 本 技 術 II	2			
看 護 基 本 技 術 III	1			
アセスメントと援助技術I	1			
看 護 過 程	1			
救 命 救 助 法	1			
看 護 基 礎 実 習 I	1			
看 護 基 礎 実 習 II	2			
専門看護学分野				
成人看護学系				
成 人 看 護 学 概 論	1			
成 人 看 護 学 I	2			
成 人 看 護 学 II	2			
アセスメントと援助技術II	1			
成 人 看 護 方 法	1			
成 人 看 護 学 実 習 I	3			
成 人 看 護 学 実 習 II	3			
老年看護学系				
老 年 看 護 学 概 論	1			

第3類（杏林大学学則）

老 年 看 護 学	2			
老 年 看 護 方 法	1			
老 年 看 護 学 実 習 I	2			
老 年 看 護 学 実 習 II	2			
小児看護学系				
小 児 看 護 学 概 論	1			
小 児 看 護 学	2			
小 児 看 護 方 法	1			
小 児 看 護 学 実 習	2			
母性看護学系				
母 性 看 護 学 概 論	1			
母 性 看 護 学	2			
母 性 看 護 方 法	1			
母 性 看 護 学 実 習	2			
精神看護学系				
精 神 看 護 学 概 論	2			
精神看護学（演習含む）	2			
精 神 看 護 学 実 習	2			
統合分野				
在宅看護学系				
在 宅 看 護 学 概 論	2			
在宅看護学（演習含む）	2			
在 宅 看 護 学 実 習	2			
公衆衛生看護学系				
公 衆 衛 生 看 護 学 概 論	2			
ヘルスプロモーション系				
小 児 保 健 学	2			
養 護 実 践 学 I	2			
養 護 実 践 学 II	2			
健 康 相 談 活 動	2			
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動		1		
看護の統合と実践				
発 達 障 害 と 特 別 支 援	2			
統合看護学実習（発達障害）	2			
看 護 ト ピ ッ ク ス		1		
医 療 看 護 英 文 読 解	1			

第3類（杏林大学学則）

国際看護学実習基礎分野		1		
国際看護学実習応用分野		1		
領域別ゼミナール(看護系)	2			
領域別ゼミナール(養護系)		2		
看護研究	2			
計	128	30		133単位以上

理学療法学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学		2		
生命倫理学		2		
芸術		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		
情報処理論	2			
基礎物理学		1		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
語学系				
英語 I	2			
英語 II	2			
英語 III		2		
英語 IV		2		

第3類（杏林大学学則）

英 会 話	2		8単位以上
医 学 英 語	2		
日 本 語 表 現 法	2		
専門基礎分野			
医学系			
解 剖 学	2		
リハビリテーション解剖学	1		
解 剖 学 実 習	1		
リハビリテーション解剖学実習	1		
生 理 学 I	2		
生 理 学 II	1		
生 理 学 実 習	1		
病 理 学 概 論	1		
人 間 発 達 学	2		
リハビリテーション概論	1		
臨 床 心 理 学	1		
精 神 医 学	2		
内 科 学 I	2		
内 科 学 II	2		
小 児 科 学	1		
神 経 内 科 学	2		
外 科 学	1		
整 形 外 科 学	2		
脳 神 経 外 科 学	1		
リハビリテーション医学	1		
医 療 安 全 論	1		
感 染 症 ・ 免 疫 学	2		
薬 理 学	1		
栄 養 学	1		
保健学・衛生学系			
産 業 保 健 学	2		
公 衆 衛 生 学 I	2		
公 衆 衛 生 学 II	2		
環 境 衛 生 工 学	2		
救 命 救 助 法	1		
労 働 衛 生 法 規 I	2		
			「医学系」より 必修27単位を 含めて30単位以上
			「保健学・衛生学系」 より4単位以上

第3類（杏林大学学則）

労働衛生法規Ⅱ		2		
専門分野				
基礎理学療法学系				
理学療法概論	1			
理学療法用語論		1		
運動学	1			
運動学実習	1			
病態運動学		1		
運動解剖学		1		
理学療法評価学系				
理学療法評価学概論	1			
理学療法評価学Ⅰ	1			
理学療法評価学Ⅱ	2			
理学療法評価学実習	1			
動作分析学		1		
理学療法治療学系				
理学療法治療学総論		1		
運動療法学	2			
運動療法学実習	1			
物理療法学	2			
物理療法学実習	1			
義肢学	1			
装具学	1			
義肢装具学実習	1			
日常生活技術学	1			
日常生活技術学実習	1			
運動器障害系理学療法学	2			
神経障害系理学療法学	2			
内部障害系理学療法学	2			
小児理学療法学	2			
高次脳機能障害学	1			
高齢者理学療法学		1		
急性期理学療法学		1		
スポーツ障害理学療法学		1		
マニュアルセラピー		1		
プロフェッショナルスキル	2			

「専門分野」より
必修57単位を
含めて69単位以上

第3類（杏林大学学則）

クリニカルリーズニング		1		
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
総合臨床実習	14			
総合領域				
理学療法特論		2		
理学療法研究法		1		
応用理学療法学		1		
基礎ゼミ	2			
特別講義		2		
卒業研究	2			
計	91	75		125単位以上

作業療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学		2		
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		

「人間科学系」より
必修1単位を含めて
7単位以上

第3類（杏林大学学則）

情報処理論	2				
基礎物理学		1			
物理学概論		2			
基礎化学		1			
生化学概論		2			
基礎生物学		1			
生命科学概論		2			
分子生物学		2			
人類遺伝学		2			
語学系					
英語 I	2				
英語 II	2				
英語 III		2			
英語 IV		2			
英会話		2			
医学英語		2			
日本語表現法		2			
専門基礎分野					
医学系					
解剖学	2				
リハビリテーション解剖学	1				
解剖学実習	1				
リハビリテーション解剖学実習	1				
生理学 I	2				
生理学 II	1				
生理学実習	1				
運動学	1				
運動学実習	1				
病態運動学実習		1			
病理学	1				
人間発達学	2				
リハビリテーション概論	1				
臨床心理学概論	1				
精神医学	2				
内科学 I	2				
内科学 II		2			
「自然科学系」より 必修2単位を含めて 7単位以上					
「語学系」より 必修4単位を含めて 8単位以上					
「医学系」より 必修29単位を 含めて30単位以上					

第3類（杏林大学学則）

小 児 科 学	1				
神 経 内 科 学	2				
外 科 学	1				
整 形 外 科 学	2				
脳 神 経 外 科 学	1				
リハビリテーション医学	1				
医 療 安 全 論	1				
感 染 症 ・ 免 疫 学		2			
薬 理 学		1			
栄 養 学		1			
保健学・衛生学系					
産 業 保 健 学		2			
公 衆 衛 生 学 I		2			
公 衆 衛 生 学 II		2			
環 境 衛 生 工 学		2			
救 命 救 助 法		1			
労 働 衛 生 法 規 I		2			
労 働 衛 生 法 規 II		2			
専門分野					
基礎作業療法学系					
作 業 療 法 学 概 論	1				
基 礎 作 業 学 概 論	1				
基礎作業学実習Ⅰ（作業活動の基礎）	1				
基礎作業学実習Ⅱ（作業活動の応用）	1				
作業分析学Ⅰ（基本的分析）	1				
作業分析学Ⅱ（応用的分析）	1				
作 業 療 法 管 理 運 営		1			
作 業 療 法 諸 理 論		1			
作業療法評価学系					
作業療法評価学Ⅰ（総論）	1				
作業療法評価学Ⅱ（疾患別）	1				
作業療法評価学実習Ⅰ（中枢神経障害）	1				
作業療法評価学実習Ⅱ（発達、精神障害）	1				
作業療法評価学実習Ⅲ（老年期障害）	1				
認 知 機 能 評 価 法		1			
作業療法治療学系					

「保健学・衛生学系」
より4単位以上

第3類（杏林大学学則）

身体障害作業療法学Ⅰ（内科系疾患）	1				
身体障害作業療法学Ⅱ（運動器系疾患）	1				
身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系疾患：脳血管）	1				
身体障害作業療法学Ⅳ（中枢神経系疾患：進行性）	1				
身体障害作業療法学演習	1				
高次脳機能障害作業療法学	1				
精神障害作業療法学Ⅰ（総論）	1				
精神障害作業療法学Ⅱ（疾患別）	1				
精神障害作業療法学演習	1				
発達障害作業療法学Ⅰ（総論）	1				
発達障害作業療法学Ⅱ（疾患別）	1				
発達障害作業療法学演習	1				
老年期障害作業療法学	1				
認知障害作業療法学	1				
職業関連作業療法学	1				
身体機能代償学		1			
義肢装具学	1				
義肢装具学実習	1				
福祉用具適応学	1				
日常生活活動学Ⅰ（総論）	1				
日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1				
バリアフリー論		1			
レクリエーション概論		1			
クリニカルリーズニング		1			
ハンドセラピー学	1				
地域作業療法学系					
地域生活作業療法学	1				
地域ケアシステム論	1				
住環境整備論	1				
地域生活作業療法学演習	1				
作業療法国際事情		1			
臨床実習系					
見学実習	1				
評価実習Ⅰ	2				
評価実習Ⅱ	4				
総合臨床実習	14				
総合領域					

「専門分野」より
必修63単位を
含めて69単位以上

第 3 類（杏林大学学則）

作 業 療 法 学 特 論 I		1		
作 業 療 法 学 特 論 II		1		
作 業 療 法 研 究 法		1		
応 用 作 業 療 法 学		1		
基 礎 ゼ ミ	2			
特 別 講 義		1		
卒 業 研 究	4			
計	9 9	7 8		1 2 5 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-3

保健学部学科目構成

（平成28年度入学生から適用）

臨床検査技術学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
心理学		2		
日本国憲法		2		
芸術学		2		
発達心理学		2		
社会福祉学		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大	1			
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		
基礎物理学		1		
物理学		2		
物理実験		1		
基礎化学		1		
化学実験		1		
基礎生物学		1		
生物実験		1		
語学系				
日本語表現法		2		
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
英語Ⅳ		2		
英会話		2		
医学英語	2			
学科基礎系				
医療情報処理演習		2		
生命科学	2			
遺伝子工学		1		
分子細胞生物学		1		
無機化学		2		
生物有機化学Ⅰ		2		
生物有機化学Ⅱ		2		
分析化学	2			
分析化学実験	1			
医療情報科	2			

第3類（杏林大学学則）

医救医放生	療命用用射命	学救工工線倫	概助学概实概理	論法論驗論学	1	1	集中（実践的防災論を含む）		
基礎医学系									
公公解組組病生生生血免微医薬	衆衆	衛衛	生生	学学	2			2	放射性同位元素検査学を含む
			剖		2				
			組織		2				
	織	学		実	1				
	理	学		総	2				
	理		学	I	2				
				II	2				
		化		学	2				
		液		学	2				
		疫		学	2				
	生		物	学	2				
	動		物	学	2				
		理		学	2				
臨床検査学系					2				
生生理生生理生生理臨生臨臨遺遺病病病細細血血医細真細免	理理								

第3類（杏林大学学則）

輸血・移植検査学	2			
免疫検査学実習	1			
輸血検査学実習	1			
一般検査学	2			
一般検査学実習	1			
臨床病態学	2			
臨床検査総合演習		4		
検査管理学	1			
臨床検査機器総論	2			
臨地実習		7		
臨床検査概論	1			
医療安全管理学	1			
精度管理学	1			
臨床検査基礎実習	2			
臨床検査学特論 （アドバンスドクラス）		1		
画像検査技術				
臨床検査学特論 （アドバンスドクラス）		1		
血液検査技術				
臨床検査学特論 （アドバンスドクラス）		1		
病理組織検査技術				
臨床検査学特論 （アドバンスドクラス）		1		
微生物検査技術				
臨床検査学特論 （アドバンスドクラス）		1		
輸血検査技術				
衛生学系				
産業保健学	2			
環境衛生工学	2			
環境科学	2			
食品栄養学	2			
食品衛生学	2			
食品製造学	2			
職業適性論	2			
労働衛生法規Ⅰ	2			
労働衛生法規Ⅱ	2			
細胞検査士養成課程				
入門細胞診断学演習	1			
婦人科細胞診断学演習	1			
呼吸器細胞診断学演習	1			
乳腺細胞診断学演習	1			
総合細胞診断学演習	1			
				1単位以上
				細胞検査士養成課程 選択者は必修

第3類（杏林大学学則）

臨床細胞診断学		4		
自由専攻				
特別演習		1		
総合				
総合医療演習		1		
卒業研究		4		
国際医療検査特論		1		細胞検査士養成課程選択者以外は必修
計	100	100		124単位以上

臨床工学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
心理学		2		
日本国憲法		2		
発達心理学		2		
芸術		2		
健康スポーツ科学		2		
職業適性論		2		
生命倫理学	1			必修を含めて 6単位以上
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大衆学	1			
数学系				
基礎数学		1		
数学	2			
統計学演習		1		
医療情報科学	2			
計算機演習	2			
応用数学	2			
物理学系				
基礎物理学		1		
基礎電気学	2			
基礎電子回路	2			
医用工学概論	2			
化学系				
基礎化学		1		
無機化学		2		
生物有機化学		2		2単位以上
化学実験		1		
生物学系				
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		1単位以上

第3類（杏林大学学則）

生物学実験		1	
言語系			
日本語表現法	2		
英語Ⅰ		2	
英語Ⅱ		2	
英語Ⅲ		2	
英語Ⅳ		2	
医学英語	2		
英語会話		2	
基礎医学系			
医学概論	2		
公衆衛生学Ⅰ	2		
公衆衛生学Ⅱ		2	
解剖学Ⅰ	2		
解剖学Ⅱ		2	
病理学Ⅰ	2		
病理学Ⅱ	2		
生理学Ⅰ	2		
生理学Ⅱ	2		
生理学実験	1		
生化学Ⅰ		2	
生化学Ⅱ		2	
免疫学Ⅰ		2	
免疫学Ⅱ		2	
薬理学		2	
看護学		2	
医学検査系			
生理学検査Ⅰ	2		
生理学検査Ⅱ	2		
画像診断技術		2	
生理学検査実習		1	
臨床工学系			
医用電気工学	2		
医用電気工学実習		1	
医用電子工学	2		
医用電子工学実習		1	
システム工学		2	
医用情報処理工学	2		
医用情報処理工学実習		1	
医用計測工学	2		
医用計測工学実習		1	
医用機械工学	2		
生体物性学	2		
生体材料工学		2	
医用機器学概論	2		
医用計測機器学	2		
			必修2単位を含めて 8単位以上
			2単位以上

第3類（杏林大学学則）

医用計測機器学実習	2	1	集中(実践的防災論を含む)
医用治療機器学		1	
医用治療機器学実習	2	2	
生体機能代行装置学概論		1	
生体機能代行装置学基礎実習	2	2	
呼吸関連機器学		1	
呼吸関連機器学実習	2	2	
血液浄化装置学		1	
応用血液浄化装置学	2	2	
血液浄化装置学実習		1	
体外循環機器学	2	2	
体外循環機器学実習		1	
医用機器安全管理学Ⅰ	2	2	
医用機器安全管理学Ⅱ		1	
安全管理学実習	2	2	
臨床医学各論Ⅰ		2	
臨床医学各論Ⅱ	2	2	
臨床医学各論Ⅲ		2	
臨床医学各論Ⅳ	2	2	
医療関係法規		1	
臨床実習講義	2	3	
臨床実習		2	
衛生学系	2	2	
産業保健学		2	
環境衛生工学	2	2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ	2	1	
救命救助法		2	
総合	4	2	
特別講義Ⅰ		2	
特別講義Ⅱ	4	1	
特別演習Ⅰ		1	
特別演習Ⅱ	4	2	
総合演習		2	
卒業研究	4	2	
計		69	106
計	69	106	124単位以上

救急救命学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
日本国憲法学		2		
心理法学		2		

第3類（杏林大学学則）

発達心理学		2		
芸術生命倫理学	1	2		必修を含めて 10単位以上
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大	1			
数学・物理学系				
基礎物理学		1		
物理学		2		
医用工学概論		2		4単位以上
統計学		2		
医療情報科学		2		
情報処理演習		2		
化学系				
基礎化学		1		
無機化学		2		3単位以上
生物有機化学Ⅰ		2		
生物有機化学Ⅱ		2		
生物学系				
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		3単位以上
細胞生物学		2		
人類遺伝学		2		
言語系				
日本語表現法		2		
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			
英会話		2		
プレホスピタル救急英会話Ⅰ		2		6単位以上
プレホスピタル救急英会話Ⅱ		2		
医学英語		2		
体育学系				
体育実技Ⅰ	2			
体育実技Ⅱ	2			
体育実技Ⅲ		2		
体育実技Ⅳ		1		
基礎医学系				
医学概論		2		
公衆衛生学Ⅰ	2			
公衆衛生学Ⅱ		2		
解剖学Ⅰ	2			
解剖学Ⅱ		2		
生理学Ⅰ	2			

第3類（杏林大学学則）

生	理	学	II	2			
生	化	学	学	2			
病	理	学	学	2			
微	生	物	学	2			
血	液	学	学		2		
免	疫	学	学		2		
薬	理	学	学	2			
救	命	救	助	1			集中
救急医学系							
内	科	学	I	2			
内	科	学	II	2			
内	科	学	III	2			
内	科	学	IV		2		
内	科	学	V		2		
内	科	学	VI		2		
医療	コミュニケーション	学			2		
救	急	医	学	概	論	2	
救	急	処	置	総	論	2	
救	急	処	置	各	論	2	
災	害	医	学			1	
外	科	学	学			2	
法	医	学	学			1	
外	傷	学	学			2	
環境	障害・急性中毒	学	I			2	
環境	障害・急性中毒	学	II			2	
救	急	搬	送	論		2	
小	児	科	学			1	
産	婦	人	科	学		1	
整	形	外	科	学		2	
脳	外	科	学			2	
精	神	医	学			2	
放	射	線	概	論		2	
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	I	2	
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	II	2	
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	III	2	
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	IV		3
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	V		3
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	VI		2
シミュレ	ー	シ	ョ	ン	VII		2
救	急・防	災	実	習		1	見学含む
臨	床	実	候	習		6	
実	践	救	急	症	候	1	
救	急	車	同	乗	実		2
実	践	的	防	災	論		1
							演習含む

第 3 類（杏林大学学則）

衛生学系				
産 業 保 健 学		2		
環 境 衛 生 工 学		2		
職 業 適 性 論		2		
労 働 衛 生 法 規 I		2		
労 働 衛 生 法 規 II		2		
総合				
特 別 講 義 I		2		
特 別 講 義 II		2		
特 別 講 義 III		2		
特 別 講 義 IV		2		
卒 業 研 究	4			演習含む
計	5 1	1 2 9		1 2 4 単 位 以 上

第3類（杏林大学学則）

別表2-4

保健学部学科目構成

（平成29年度入学生から適用）

診療放射線技術学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
哲学		2		4単位以上 (必修1単位を含む)
心理学		2		
生命倫理学		2		
日本国憲法		2		
社会学		2		
芸術学		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
基礎数学		1		14単位以上 (必修12単位を含む)
微分積分学	1			
応用数学	1			
基礎物理学Ⅰ	1			
基礎物理学Ⅱ	1			
計算機演習	1			
統計学演習	1			
基礎化学	1			
無機化学		2		
生物有機化学		2		
基礎生物学	1			
生命科学概論		2		
遺伝学		2		
基礎画像工学	2			
基礎科学実験Ⅰ	1			
基礎科学実験Ⅱ	1			
語学系				
英語Ⅰ	2			8単位以上 (必修6単位を含む)
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
英語Ⅳ		2		

第3類（杏林大学学則）

英 会 話		2		
医 学 英 語	2			
日 本 語 表 現 法		2		
専門基礎分野				
人体の構造と機能および疾病の成り立ち				
解 剖 学	2			
臨 床 生 理 学	2			
臨 床 生 理 学 実 習	1			
生 化 学		2		
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			
薬 理 学		2		
公 衆 衛 生 学	2			
疾病の成り立ちⅠ（感覚器系・脳神経・脳血管系）	2			
疾病の成り立ちⅡ（消化器系・腎泌尿器系）	2			
疾病の成り立ちⅢ（呼吸器系）	2			
疾病の成り立ちⅣ（循環器系）	2			
救 命 救 助 法	1			
保健医療福祉における理工学の基礎並びに放射線の科学および技術				
医 用 電 気 工 学	2			
医 用 電 子 工 学	2			
医 用 工 学 実 験	1			
放 射 線 生 物 学	2			
放 射 線 生 物 学 演 習		1		
放 射 線 物 理 学 Ⅰ	2			
放 射 線 物 理 学 Ⅱ	2			
放 射 線 物 理 学 演 習		1		
放 射 化 学	2			
放 射 化 学 演 習		1		
放 射 線 計 測 学	2			
放 射 線 計 測 学 演 習		1		
放 射 線 計 測 学 実 験	1			
放 射 線 線 量 測 定 学	1			
専門分野				
診療画像技術学				
放射線画像検査技術学概論	1			
診療画像検査技術学Ⅰ	2			
診療画像検査技術学Ⅱ	2			

第3類（杏林大学学則）

診療画像検査技術学Ⅲ	2			
診療画像検査技術学Ⅳ	2			
診療画像検査技術学実習Ⅰ	1			
診療画像検査技術学実習Ⅱ	1			
診療画像検査技術学実習Ⅲ	1			
診療画像検査機器学Ⅰ	2			
診療画像検査機器学Ⅱ	2			
診療画像検査機器学Ⅲ	2			
診療画像検査機器学実習	1			
画像解剖学	2			
画像解剖学演習		1		
画像医学	2			
乳房検査技術学		1		
救急撮影技術学		1		
MRI検査技術学		1		
核医学検査技術学				
核医学検査技術学Ⅰ	2			
核医学検査技術学Ⅱ	2			
核医学検査機器学	2			
放射性医薬品学		1		
核医学検査技術学実習	1			
放射線治療技術学				
放射線治療技術学Ⅰ	2			
放射線治療技術学Ⅱ	2			
放射線腫瘍学	2			
放射線治療機器学	1			
放射線治療技術学実習	1			
医用画像情報学				
医療画像情報学Ⅰ	2			
医療画像情報学Ⅱ	2			
医療画像工学	2			
医療システム情報学	2			
医療画像情報学実習Ⅰ	1			
医療画像情報学実習Ⅱ	1			
放射線安全管理学				
放射線安全管理技術学	2			
放射線安全管理技術学演習		1		

第 3 類（杏林大学学則）

放射線安全管理技術学実習	1			
放 射 線 関 係 法 規	2			
医療安全管理学				
医 療 安 全 学	2			
医 療 倫 理	1			
臨床実習				
画像検査技術学臨床実習	6			
核医学検査技術学臨床実習	2			
放射線治療技術学臨床実習	2			
総合領域				
医 療 総 合 演 習	2			
医 用 統 計 学 演 習		1		
原 書 講 読		1		
特 別 講 義		1		
医 療 の 最 先 端		1		
卒 業 研 究	4			
計	1 2 6	5 1		1 3 3 単 位 以 上

第3類（杏林大学学則）

別表2-5

保健学部学科目構成

（平成30年度入学生から適用）

臨床心理学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
人文・社会学系				
哲 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
法 学		2		
社 会 学		2		必修を含めて10単位以上
芸 術 論		2		
職 業 適 性 論		2		
日 本 語 学 概 論		2		
こ と ば と 社 会 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
情 報 処 理 論	2			
基 礎 生 物 学		1		
基 礎 化 学		1		
基 礎 数 学		1		
言語系				
日 本 語 表 現 法	2			
英 語 I	2			
英 語 II	2			
英 語 III	2			必修を含めて12単位以上
英 語 IV		2		
医 学 英 語		2		
英 会 話		2		
基礎医学系				
公 衆 衛 生 学	1			
医 学 概 論	1			
人体の構造と機能及び疾病 （人体の構造と機能Ⅰ）	2			
人体の構造と機能及び疾病 （人体の構造と機能Ⅱ）	2			
人体の構造と機能及び疾病 （ 疾 病 ）	2			

第3類（杏林大学学則）

病 態 病 理 学		1		
精 神 疾 患 と そ の 治 療 I	2			
精 神 疾 患 と そ の 治 療 II	2			
緩 和 医 療 学 (演 習 を 含 む)	2			
救 急 医 療		1		
救 命 救 助 法	1			
看護学・精神科リハビリテーション学系				
看 護 学		2		
精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2			
精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	2			
心理学基礎科目系				
心 理 学 概 論	2			
心 理 学 研 究 法	2			
心 理 学 統 計 法	2			
心 理 学 実 験 I	2			
心 理 学 実 験 II	2			
心 理 演 習	2			
心理学発展科目系				
臨 床 心 理 学 概 論	2			
知 覚 ・ 認 知 心 理 学 入 門	2			
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2			
学 習 ・ 言 語 心 理 学	2			
感 情 ・ 人 格 心 理 学	2			
神 経 ・ 生 理 心 理 学	2			
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 I	2			
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 II	2			
発 達 心 理 学	2			
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学	2			
心 理 的 ア セ ス メ ン ト	2			
心 理 学 的 支 援 法	2			
健 康 ・ 医 療 心 理 学	2			
福 祉 心 理 学	2			
教 育 ・ 学 校 心 理 学	2			
司 法 ・ 犯 罪 心 理 学	2			
産 業 ・ 組 織 心 理 学	2			
認 知 行 動 療 法		2		
発 達 臨 床 心 理 学		2		

第3類（杏林大学学則）

乳幼児・児童心理学		2		
思春期・青年期心理学		2		
隣接領域				
社会福祉学		2		
学校教育学		2		
児童福祉学		2		
老人福祉学		2		
高齢保健学		2		14単位以上
医療福祉学		2		
公的扶助学		2		
障害者福祉学		2		
社会福祉政策学		2		
心理実習系				
公認心理師の職責	2			
関係行政論	2			
心理基礎実習	1			
心理実習Ⅰ	1			
心理実習Ⅱ	3			
総合領域				
総合実習		2		
臨床心理学特別講義Ⅰ		2		
臨床心理学特別講義Ⅱ		2		総合実習
心理特別演習Ⅰ		1		インターンシップ
心理特別演習Ⅱ		1		ボランティア活動
インターンシップ		2		の中から2単位以上
ボランティア活動		2		
基礎ゼミ	2			総合領域以外の選択科目
卒業研究	4			から5単位以上
計	91	69		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2－6

保健学部学科目構成

（平成31年度入学生から適用）

健康福祉学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
哲 学		2		
心 理 学		2		
法 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
社 会 学		2		
生 命 倫 理 学	2			10単位以上
教 育 心 理 学		2		
発 達 心 理 学		2		
芸 術 学		2		
倫 理 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
基 礎 数 学		1		
情 報 処 理 演 習	2			
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学	1			
無 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
自 然 科 学 実 験	1			
言語系				
英 語 I	2			
英 語 II		2		
英 語 III		2		
医 学 英 語	2			
英 会 話		2		
基礎医学系				

第3類（杏林大学学則）

医 学 概 論	2		
医 学 基 礎 実 習	1		
公 衆 衛 生 学 I	2		
公 衆 衛 生 学 II		2	
解 剖 学	2		
病 理 学	2		
生 理 学	2		
生 化 学	2		
免 疫 学	2		
微 生 物 学	2		
微 生 物 学 実 験		1	
薬 理 学	2		
小 児 疾 患 の 病 態 学	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 I	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 II		2	
内 科 疾 患 の 病 態 学 III		2	
外 科 疾 患 の 病 態 学	2		
精 神 医 学		1	
救 命 救 助 法		1	
保健学系			
保 健 学 概 論	2		
健 康 福 祉 学	4		
健 康 福 祉 学 実 習	1		
疫 学		2	
小 児 保 健 学	2		
精 神 保 健 学	2		
保 健 栄 養 学	2		食品学を含む
健 康 教 育 学	2		
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2	
社会福祉学系			
社 会 福 祉 学	2		
社 会 福 祉 政 策 論		2	
老 人 福 祉 論		2	

第3類（杏林大学学則）

高 齡 保 健 学		2		
障 害 者 福 祉 論		2		
児 童 福 祉 論	2			
社 会 保 障 論		4		
公 的 扶 助 論		2		
地 域 福 祉 論		4		
社会福祉援助技術総論Ⅰ		4		
社会福祉援助技術総論Ⅱ		2		
社会福祉援助技術論Ⅰ		2		
社会福祉援助技術論Ⅱ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅰ		1		
社会福祉援助技術演習Ⅱ		1		
社会福祉援助技術演習Ⅲ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅳ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅴ		2		
社会福祉援助技術演習Ⅵ		2		
社会福祉援助技術実習		6		180時間
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		1		30時間（実習）
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		4		60時間（講義・演習）
医 療 福 祉 論		2		
社 会 調 査 概 論	1			
福祉行政と福祉計画概論		1		
社 会 福 祉 経 営 論		1		
就 労 支 援 概 論		1		
権利擁護と成年後見概論		1		
更 生 保 護 概 論		1		
介 護 福 祉 論		2		
学校保健学系				
学 校 保 健 学Ⅰ		2		学校安全を含む
学 校 保 健 学Ⅱ		2		
学 校 看 護 学		1		
健 康 相 談Ⅰ		2		

第3類（杏林大学学則）

健康相談Ⅱ		1	
養護学概論		2	
カウンセリング	2		
保健科指導法Ⅰ		2	
保健科指導法Ⅱ		2	
保健科教育法－1		2	
保健科教育法－2		2	
看護学Ⅰ		2	
看護学Ⅱ		2	
看護学Ⅲ		2	
看護学実習		2	
救急看護学		2	
環境・食品学系			
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
環境科学		2	
放射線概論		2	
分析化学		2	
分析化学実験		1	
食品栄養学		2	
食品衛生学		2	
食品製造学		2	
職業適性論		2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
総合			
移植コーディネータ論		2	
特別講義Ⅰ		2	
特別講義Ⅱ		2	
特別演習Ⅰ		1	
特別演習Ⅱ		1	
ボランティア活動		2	

第 3 類（杏林大学学則）

フィールドスタディ		4		
計	5 9	1 6 4		1 2 4 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-7

保健学部学科目構成

（令和2年度入学生から適用）

理学療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学		2		
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
ことばと社会学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		
情報処理論	2			
基礎物理学		1		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
語学系				
英語 I	2			
英語 II	2			
英語 III		2		
英語 IV		2		
英会話		2		
医学英語		2		
日本語表現法	2			
専門基礎分野				
医学系				

「基礎分野」より
必修9単位を含めて
14単位以上

第3類（杏林大学学則）

解剖学	2			
リハビリテーション解剖学	1			
解剖学実習	1			
リハビリテーション解剖学実習	1			
生理学Ⅰ	2			
生理学Ⅱ	1			
生理学実習	1			
リハビリテーション基礎医学	2			
リハビリテーション基礎医学演習	1			
病理学概論	1			
人間発達学	2			
臨床心理学	1			
精神医学	2			
内科学Ⅰ	2			
内科学Ⅱ		2		
小児科学	1			
神経内科学	2			
外科学		1		
整形外科学	2			
脳神経外科学	1			
感染症・免疫学		2		
薬理学		1		
栄養学		1		
リハビリテーション概論	1			
リハビリテーション医学	1			
保健学・衛生学系				
公衆衛生学Ⅰ	2			
公衆衛生学Ⅱ		2		
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
救命救助法		1		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
専門分野				
基礎理学療法学系				
理学療法概論	1			
理学療法用語論		1		

「医学系」より
必修28単位を含めて
31単位以上

「保健・衛生学系」より
必修2単位を含めて
4単位以上

「専門分野」より

第3類（杏林大学学則）

運 動 学	2				必修69単位を含めて 76単位以上
運 動 学 演 習	1				
運 動 学 実 習	1				
病 態 運 動 学 演 習		1			
運 動 解 剖 学 演 習	1				
理学療法評価学系					
理 学 療 法 評 価 学 概 論	1				
理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	1				
理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	1				
理 学 療 法 評 価 学 実 習	1				
動 作 分 析 学 演 習	1				
高 次 脳 機 能 障 害 学	1				
理学療法治療学系					
理 学 療 法 治 療 学 総 論		1			
運 動 療 法 学	1				
運 動 療 法 学 実 習	1				
物 理 療 法 学	1				
物 理 療 法 学 実 習	1				
義 肢 装 具 学	1				
義 肢 装 具 学 実 習	1				
日 常 生 活 技 術 学	1				
日 常 生 活 技 術 学 実 習	1				
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学	2				
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1				
神 經 障 害 系 理 学 療 法 学	2				
神 經 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1				
内 部 障 害 系 理 学 療 法 学	2				
内 部 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1				
小 児 理 学 療 法 学	2				
小 児 理 学 療 法 学 演 習	1				
高 齢 者 理 学 療 法 学 演 習	1				
急 性 期 理 学 療 法 学		1			
ス ポ ー ツ 障 害 理 学 療 法 学		1			
徒 手 理 学 療 法 学 演 習		1			
臨 床 理 学 療 法 学 実 習	2				
臨 床 理 学 療 法 推 論 学 演 習		1			
理学療法管理学系					

第3類（杏林大学学則）

理学療法管理学	2			
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
生活環境学	1			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
地域理学療法実習	1			
総合臨床実習	14			
総合領域				
障害者スポーツ演習		1		
理学療法統計学演習		1		
理学療法研究法		1		
理学療法解析手法演習		1		
応用理学療法学演習	1			
基礎理学療法学演習Ⅰ	2			
基礎理学療法学演習Ⅱ	2			
卒業研究	2			
計	108	67		125単位以上

作業療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学	2			
生命倫理学		2		
芸術		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
ことばと社会		2		
地域と大学	1			

「人間科学系」より
必修3単位を含めて
7単位以上

第3類（杏林大学学則）

自然科学系							
数		学		2			
統	計	学		2			
情	報	処	理	論	2		
基	礎	物	理	学	1		
物	理	学	概	論	2		
基	礎	化	学		1		
生	化	学	概	論	2		
基	礎	生	物	学	1		
生	命	科	学	概	論	2	
分	子	生	物	学	2		
人	類	遺	伝	学	2		
語学系							
英	語	I		2			
英	語	II		2			
英	語	III		2			
英	語	IV		2			
英	会	話		2			
医	学	英	語	2			
日	本	語	表	現	法	2	
専門基礎分野							
医学系							
解	剖	学		2			
リハビリテーション	解剖学			1			
解	剖	学	実	習	1		
リハビリテーション	解剖学	実	習	1			
生	理	学	I	2			
生	理	学	II	1			
生	理	学	実	習	1		
運	動	学		2			
運	動	学	実	習	1		
病	態	運	動	学	実	習	1
病	理	学		1			
人	間	発	達	学	1		
リハビリテーション	概	論		1			
臨	床	心	理	学	概	論	1
精	神	医	学	2			

「自然科学系」より
必修2単位を含めて
7単位以上

「語学系」より
必修4単位を含めて
8単位以上

「医学系」より
必修29単位を含めて
30単位以上

第3類（杏林大学学則）

内 科 学Ⅰ	2				
内 科 学Ⅱ		2			
小 児 科 学		1			
神 経 内 科 学	2				
外 科 学	1				
整 形 外 科 学	2				
脳 神 経 外 科 学	1				
リハビリテーション医学	1				
感 染 症 ・ 免 疫 学		2			
薬 理 学	1				
栄 養 学	1				
保健学・衛生学系					
産 業 保 健 学		2			
公 衆 衛 生 学Ⅰ	2			「保健学・衛生学系」より 必修3単位を含めて 5単位以上	
公 衆 衛 生 学Ⅱ		2			
環 境 衛 生 工 学		2			
救 命 救 助 法	1				
労 働 衛 生 法 規Ⅰ		2			
労 働 衛 生 法 規Ⅱ		2			
専門分野					
基礎作業療法学系					
作 業 療 法 学 概 論	1				
基 礎 作 業 学 概 論	1				
基 礎 作 業 学 実 習	1				
作 業 分 析 学	1			「専門分野」より 必修6・7単位を含めて 6・8単位以上	
作 業 分 析 学 演 習	1				
作 業 療 法 諸 理 論		1			
作業療法評価学系					
作業療法評価学Ⅰ（総論）	1				
作業療法評価学Ⅱ（疾患別）	1				
作業療法評価学実習Ⅰ（中枢神経障害）	1				
作業療法評価学実習Ⅱ（発達、精神障害）	1				
作業療法評価学実習Ⅲ（老年期障害）	1				
認 知 機 能 評 価 法		1			
作業療法治療学系					
身体障害作業療法学Ⅰ	1				
身体障害作業療法学Ⅱ	1				

第3類（杏林大学学則）

身体障害作業療法学演習	1				
高次脳機能障害作業療法学	1				
精神障害作業療法学Ⅰ	1				
精神障害作業療法学Ⅱ	1				
精神障害作業療法学演習	1				
発達障害作業療法学Ⅰ	1				
発達障害作業療法学Ⅱ	1				
発達障害作業療法学演習	1				
老年期障害作業療法学	1				
認知障害作業療法学	1				
職業関連作業療法学	1				
高次機能代償学		1			
義肢装具学	1				
義肢装具学実習	1				
福祉用具適応学	1				
日常生活活動学Ⅰ（総論）	1				
日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1				
バリアフリー概論		1			
レクリエーション概論		1			
クリニカルリーズニング		1			
ハンドセラピー概論	1				
作業療法管理学系					
作業療法管理学	2				
地域作業療法学系					
地域生活作業療法学	1				
地域ケアシステム学	1				
住環境整備学	1				
地域生活作業療法学演習	1				
作業療法国際事情		1			
臨床実習系					
見学実習	1				
評価実習Ⅰ	1				
評価実習Ⅱ	4				
総合臨床実習	16				
地域・訪問実習	1				
総合領域					
作業療法学演習Ⅰ	1				

第 3 類（杏林大学学則）

作 業 療 法 学 演 習 II	1				
作 業 療 法 学 演 習 III	1				
作 業 療 法 学 演 習 IV	2				
卒 業 研 究 I	1				
卒 業 研 究 II	3				
計	1 0 8	6 6		1 2 5 单 位 以 上	

第3類（杏林大学学則）

別表2－8

保健学部学科目構成

（令和3年度入学生から適用）

健康福祉学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
哲学		2		10単位以上
心理学		2		
日本国憲		2		
社会学	2	2		
生命倫理		2		
教育心理		2		
発達心理		2		
芸域と大	1	2		
自然科学系				
基礎数学		1		6単位以上
情報処理演習		2		
基礎物理		1		
基礎化学		1		
無機化学		2		
基礎生物		1		
言語系				
英語 I	2			6単位以上
英語 II	2			
英語 III		2		
医学英語		2		
英語会話		2		
基礎医学系				
医学概論	2			
医学基礎実習	1			
公衆衛生学 I	2			
公衆衛生学 II		2		
解剖生理学	2			
病理生理学	2			
生化学	2			
免疫学		2		
微生物学	2			
微生物学実験		1		

第3類（杏林大学学則）

薬	理	学		2		
小児疾患の病態学				2		
内科疾患の病態学Ⅰ	2					
内科疾患の病態学Ⅱ	2					
外科疾患の病態学	2					
精神医		学		1		
救命救助法				1		
保健学・福祉学系						
健康福祉学	4					
健康福祉学実習	1					
疫		学		2		
小児保健学	2					
精神保健学	2					
高齢保健学				2		
健康スポーツ科学				2		
応用保健学				2		
社会福祉学	2					
社会福祉政策論				2		
高齢者福祉論				2		
障害者福祉論				2		
児童福祉論	2					
社会保障論				4		
公的扶助論				2		
地域福祉論				4		
ソーシャルワーク総論Ⅰ	4					
ソーシャルワーク総論Ⅱ	2					
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1					
社会調査概論	1					
社会福祉学系						
ソーシャルワーク論Ⅰ				2		
ソーシャルワーク論Ⅱ				2		
ソーシャルワーク演習Ⅰ				1		
ソーシャルワーク演習Ⅱ				1		
ソーシャルワーク演習Ⅲ				2		
ソーシャルワーク演習Ⅳ				2		
ソーシャルワーク演習Ⅴ				2		
ソーシャルワーク演習Ⅵ				2		
ソーシャルワーク実習				8		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				4		
医療福祉論				2		
社会福祉経営論				1		
権利擁護と成年後見概論				1		

第3類（杏林大学学則）

更生保護概論	2		
介護福祉社論	2		
学校保健学系			
学校保健学 I	2		学校安全を含む
学校保健学 II	2		
学校看護学	1		
健康相談 I	2		
健康相談 II	1		
健康教育学	2	2	
保健栄養学	2		食品学を含む
養護学概論	2		
力ウンセリン	2		
保健科指導法 I	2		
保健科指導法 II	2		
保健科教育法 一	2		
保健科教育法 二	2		
看護学 I	2		
看護学 II	2		
看護学 III	2		
看護学実習	2		
救急看護	2		
環境・食品学系			
産業保健学	2		
環境衛生工学	2		
環境科学	2		
放射線概論	2		
分析化学	2		
分析化学実験	1		
食品栄養学	2		
食品衛生学	2		
食品製造学	2		
職業適性論	2		
労働衛生法規 I	2		
労働衛生法規 II	2		
総合			
特別講義 I	2		
特別講義 II	2		
特別演習 I	1		
特別演習 II	1		
ボランティア活動	2		
フィールドスタディ I	3		

第3類（杏林大学学則）

フィールドスタディⅡ		1		
計	52	163		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2－9

保健学部学科目構成

（令和4年度入学生から適用）

健康福祉学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
哲学		2		10単位以上
心理学		2		
日本国憲		2		
社会学		2		
生命倫理	2			
教育心理		2		
発達心理		2		
芸術		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
自然科学系				
基礎数学		1		6単位以上
情報処理演習		2		
基礎物理		1		
基礎化学		1		
無機化学		2		
基礎生物		1		
言語系				
英語Ⅰ	2			6単位以上
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
医学英語		2		
英語会話		2		
基礎医学系				
医学概論	2			
医学基礎実習Ⅰ	1			
公衆衛生Ⅰ	2			
公衆衛生Ⅱ		2		
解剖生理学	2			
病理生理学	2			

第3類（杏林大学学則）

生 化 学	2		
免 疫 学		2	
微 生 物 学	2		
微 生 物 学 実 験		1	
薬 理 学		2	
小 児 疾 患 の 病 態 学		2	
内 科 疾 患 の 病 態 学 I	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 II	2		
外 科 疾 患 の 病 態 学	2		
精 神 医 学		1	
救 命 救 助 法		1	
保健学・福祉学系			
健 康 福 祉 学	4		
健 康 福 祉 学 実 習	1		
疫 学		2	
小 児 保 健 学	2		
精 神 保 健 学	2		
高 齢 保 健 学		2	
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2	
応 用 保 健 学		2	
社 会 福 祉 学	2		
社 会 福 祉 政 策 論		2	
高 齢 者 福 祉 論		2	
障 害 者 福 祉 論		2	
児 童 福 祉 論	2		
社 会 保 障 論		4	
公 的 扶 助 論		2	
地 域 福 祉 論		4	
ソーシャルワーク総論 I	4		
ソーシャルワーク総論 II	2		
ソーシャルワーク実習指導 I	1		
社 会 調 査 概 論	1		
社会福祉学系			
ソーシャルワーク論 I		2	
ソーシャルワーク論 II		2	
ソーシャルワーク演習 I		1	
ソーシャルワーク演習 II		1	
ソーシャルワーク演習 III		2	
ソーシャルワーク演習 IV		2	
ソーシャルワーク演習 V		2	
ソーシャルワーク演習 VI		2	
ソーシャルワーク実習		8	

第3類（杏林大学学則）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4		
医療福祉論	2		
社会福祉経営論	1		
権利擁護と成年後見概論	1		
更生保護概論	2		
介護福祉論	2		
精神保健福祉学系			
社会福祉調査の基礎	2		
精神疾患とその治療	2		
精神医療	2		
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2		
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2		
精神保健福祉の原理Ⅰ	2		
精神保健福祉の原理Ⅱ	2		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（精神保健）	2		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（精神保健）	2		
精神障害リハビリテーション	2		
精神保健福祉制度論	2		
ソーシャルワーク演習Ⅰ（精神保健）	1		
ソーシャルワーク演習Ⅱ（精神保健）	1		
ソーシャルワーク演習Ⅲ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅳ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク実習指導（精神保健）	4		
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神保健）	1		
ソーシャルワーク実習（精神保健）	8		
精神保健福祉特論	2		
学校保健学系			
学校保健学Ⅰ	2		学校安全を含む
学校保健学Ⅱ	2		
学校看護学	1		
健康相談Ⅰ	2		
健康相談Ⅱ	1		
健康教育学	2		
保健栄養学	2		食品学を含む
養護学概論	2		
カウンセリング	2		

第3類（杏林大学学則）

保健科指導法 I		2		
保健科指導法 II		2		
保健科教育法 Ⅰ		2		
保健科教育法 Ⅱ		2		
看護学 I		2		
看護学 II		2		
看護学 III		2		
看護学実習		2		
救急看護		2		
環境・食品学系				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
環境科学		2		
放射線概論		2		
分析化学		2		
分析化学実験		1		
食品栄養学		2		
食品衛生学		2		
食品製造学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規 I		2		
労働衛生法規 II		2		
総合				
特別講義 I		2		
特別講義 II		2		
特別演習 I		1		
特別演習 II		1		
ボランティア活動		2		
フィールドスタディ I	3			
フィールドスタディ II		1		
計	5 1	2 2 0		1 2 4 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-10

保健学部学科目構成

（令和4年度入学生から適用）

看護学科看護学専攻

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
看護師課程				
基礎分野				
人間科学系				
生命倫理学		2		「人間科学系」より 必修2単位を含めて 10単位以上
日本国憲法		2		
心理学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
キャリア形成論		1		
現代教育論		2		
国際看護学		1		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 6単位以上
健康スポーツ科学		2		
自然科学系				
統計学		2		
人類遺伝学		2		
物理学概論		1		
化学概論		1		「語学系」より 必修6単位を含めて 10単位以上
生命科学概論		2		
情報処理論	2			
語学系				
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			「語学系」より 必修6単位を含めて 10単位以上
英語Ⅲ		2		
英会話		2		
医学英語		2		
日本語表現法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				

第3類（杏林大学学則）

形態・機能学Ⅰ	2			
形態・機能学Ⅱ	2			
代謝・栄養学	2			
薬理	2			
感染症・免疫学	2			
病態治療論Ⅰ	2			
病態治療論Ⅱ	2			
病態治療論Ⅲ	1			
病態治療論Ⅳ	1			
病態治療論Ⅴ	1			
病態治療論Ⅵ	1			
健康支援と社会保障制度				
公衆衛生学	1			
健康支援と法律	1			
保健福祉行政論Ⅰ	1			
保健福祉行政論Ⅱ	2			
健康教育学	2			
産業保健学概論		1		保健師課程選択者は必修
学校保健学概論		1		
疫学と統計				
疫学	2			
保健統計	2			
基礎看護学				
基礎看護学系				
看護学概論	2			
看護援助論	1			
生活行動援助技術Ⅰ	2			
生活行動援助技術Ⅱ	2			
ヘルスアセスメント技術	1			
看護過程	1			
治療・処置の技術	2			
基礎看護学実習Ⅰ	1			
基礎看護学実習Ⅱ	2			
専門看護学				
地域・在宅看護学系				
地域・在宅看護学概論	2			

第3類（杏林大学学則）

在宅看護学	2			
在宅看護学演習	2			
在宅看護学実習	2			
成人看護学系				
成人看護学概論	2			
成人看護学Ⅰ	2			
成人看護学Ⅱ	2			
成人看護学演習	2			
急性・周術期看護学実習	3			
慢性看護学実習	3			
高齢者看護学系				
高齢者看護学概論	2			
高齢者看護学	2			
高齢者看護学演習	1			
高齢者看護学実習Ⅰ	2			
高齢者看護学実習Ⅱ	2			
小児看護学系				
小児看護学概論	2			
小児看護学	2			
小児看護学演習	1			
小児看護学実習	2			
母性看護学系				
母性看護学概論	2			
母性看護学	2			
母性看護学演習	1			
母性看護学実習	2			
精神看護学系				
精神看護学概論	2			
精神看護学	2			
精神看護学演習	1			
精神看護学実習	2			
公衆衛生看護学系				
公衆衛生看護学概論	2			
家族相談支援論	1			
地域包括ケア実習	1			
応用看護学				

第3類（杏林大学学則）

応用看護学系				
看護研究	4			
看護管理		1		
看護倫理		1		
健康危機管理論		1		
家族看護		2		
クリティカルケア		2		
がん看護		2		
応用看護学実習	2			
特別講義	2			
保健師課程				
公衆衛生看護学				
公衆衛生看護学系				
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ		2		
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ		2		
公衆衛生看護活動論Ⅰ		2		
公衆衛生看護活動論Ⅱ		2		
地域診断演習		1		
地域活動支援論		1		
公衆衛生看護管理		2		
公衆衛生看護学実習Ⅰ		2		
公衆衛生看護学実習Ⅱ		3		
助産師課程				
助産学専攻				
助産学系				
助産学概論		2		
周産期医学Ⅰ		2		
周産期医学Ⅱ		1		
助産診断・技術学Ⅰ		2		
助産診断・技術学Ⅱ		2		
助産診断・技術学Ⅲ		2		
助産診断・技術学Ⅳ		1		
助産診断・技術学Ⅴ		2		
地域助産活動論		2		
助産管理学		2		
助産学特別講義		1		

看護師課程選択者は
選択必修4単位以上

保健師課程選択者
は必修

助産師課程選択者
は必修

第 3 類（杏林大学学則）

助産学実習Ⅰ		7		
助産学実習Ⅱ		3		
助産学実習Ⅲ		1		
計	1 1 7	9 2		1 3 7 単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）
看護学科看護養護教育学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
日 本 国 憲 法	2			「人間科学系」より必修6単位を含 めて10単位以上
教 育 心 理 学	2			
健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				
基 礎 生 物 学		1		「自然科学系」より必修4単位を含 めて5単位以上
情 報 処 理 論	2			
情 報 科 学	2			
生 化 学		1		
医 用 機 器 概 論		2		
語学系				
実 用 英 語 Ⅰ	2			
実 用 英 語 Ⅱ	2			
英 会 話	2			
日 本 語 表 現 法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				
解剖学（解剖学実習を含む）	2			
生 理 学	2			
薬 理 学	2			
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			
栄養学（食品学を含む）	2			
疾 病 の 成 り 立 ち Ⅰ	2			
疾 病 の 成 り 立 ち Ⅱ	2			
疾 病 の 成 り 立 ち Ⅲ	1			
疾 病 の 成 り 立 ち Ⅳ	1			

第3類（杏林大学学則）

疾病の成り立ちⅤ	1			
疾病の成り立ちⅥ	1			
小児の疾病の成り立ち	1			
健康支援と社会保障制度				
公衆衛生学	2			
学校保健学概論	2			
健康支援と法律	1			
疫学・保健統計	2			
専門分野				
基礎看護学系				
看護学概論Ⅰ	1			
看護学概論Ⅱ	2			
看護基本技術Ⅰ	2			
看護基本技術Ⅱ	2			
看護基本技術Ⅲ	1			
フィジカルアセスメント	1			
看護過程	1			
救命救助法	1			
基礎看護学実習Ⅰ	1			
基礎看護学実習Ⅱ	2			
地域・在宅看護学系				
公衆衛生看護学概論	2			
地域・在宅看護学概論	1			
地域・在宅看護学	2			
地域・在宅看護方法	1			
地域・在宅看護学実習Ⅰ	1			
地域・在宅看護学実習Ⅱ	2			
成人看護学系				
成人看護学概論	1			
成人看護学Ⅰ	2			
成人看護学Ⅱ	2			
成人看護方法Ⅰ	1			
成人看護方法Ⅱ	1			
成人看護学実習Ⅰ	3			

第3類（杏林大学学則）

成人看護学実習Ⅱ	3			
老年看護学系				
老年看護学概論	1			
老年看護学	2			
老年看護方法	1			
老年看護学実習Ⅰ	2			
老年看護学実習Ⅱ	2			
小児看護学系				
小児看護学概論	1			
小児看護学	2			
小児看護方法	1			
小児看護学実習	2			
母性看護学系				
母性看護学概論	1			
母性看護学	2			
母性看護方法	1			
母性看護学実習	2			
精神看護学系				
精神看護学概論	2			
精神看護学	2			
精神看護学実習	2			
ヘルスプロモーション系				
子どもの発達	1			
子どもの保健	1			
学校教育環境づくり	1			
健康教育学概論	2			
養護実践学Ⅰ	2			
養護実践学Ⅱ	2			
健康相談活動	2			
ボランティア活動		1		
看護の統合と実践				
発達障害と特別支援	2			
統合看護学実習（発達障害）	2			
看護トピックス	1			
医療看護英文読解		1		
領域別ゼミナール（看護系）	2			

第 3 類（杏林大学学則）

領域別ゼミナール（養護系）		2		
生 命 倫 理		2		
卒 業 研 究 I	2			
卒 業 研 究 II	2			
計	1 2 8	2 0		1 3 3 単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）
臨床検査技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活				
心 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
保健・医療の現状と未来		2		
保健・医療の現状と未来		2		4単位以上
社 会 と 大 学 I		2		
社 会 と 大 学 II		2		
社 会 と 大 学 III		2		
科学的思考の基礎				
生 命 科 学 概 論	2			
数 学		2		
統 計 学		2		
物 理 学		2		
物 理 学 実 験		1		必修2単位を含めて
放 射 線 概 論		2		6単位以上
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
化 学 実 験		1		
生 物 学 実 験		2		
生 物 学 実 験		1		
外国語				
英語プレゼンテーション		2		
英 語 読 解		2		必修2単位を含めて
保 健 医 療 英 語		2		6単位以上
英 会 話		2		
医 学 英 語	2			
専門基礎分野				
公衆衛生学				
医 療 学 概 論	2			
公 衆 衛 生 学 I	2			
公 衆 衛 生 学 II		2		
医用工学概論				
医 療 情 報 科 学	1			
医 用 工 学 概 論	2			
医 用 工 学 実 習	1			
分 析 化 学	2			
分 析 化 学 実 習	1			
病態学				
解 剖 学	2			
解 剖 学 実 習	2			

第3類（杏林大学学則）

生 化 学	2			
生 化 学 実 習	1			
生 理 学	2			
生 理 学 実 習	1			
病 理 学 総 論	2			
微 生 物 学	2			
栄 養 薬 理 学	2			
専門分野				
病態学				
救 命 救 助 法	1			
病 理 学 各 論	2			
臨 床 病 態 学	2			
臨 床 検 査 総 合 演 習 I		4		
臨 床 検 査 総 合 演 習 II		2		
血液検査学				
血 液 学	2			
血 液 検 査 学	2			
血 液 検 査 学 実 習	2			
病理検査学				
病 理 検 査 学	2			
病 理 検 査 学 実 習	2			
細 胞 診 断 学	1			
細 胞 診 断 学 実 習	1			
尿・糞便等一般検査学				
医 動 物 学（実 習 含 む）	2			
一 般 検 査 学	2			
一 般 検 査 学 実 習	1			
生化学検査学				
臨 床 化 学 検 査 学	2			
生 体 分 子 検 査 学	2			
臨 床 化 学 検 査 学 実 習	2			
免疫検査学				
免 疫 学	2			
免 疫 検 査 学	2			
免 疫 検 査 学 実 習	1			
遺伝子関連・染色体検査学				
遺 伝 子 ・ 染 色 体 検 査 学	2			
遺 伝 子 ・ 染 色 体 検 査 学 実 習	1			
輸血・移植検査学				
輸 血 ・ 移 植 検 査 学 I	2			
輸 血 ・ 移 植 検 査 学 II	1			
輸 血 ・ 移 植 検 査 学 実 習	1			
微生物検査学				
細 菌 検 査 学	2			

第3類（杏林大学学則）

細菌・真菌検査学実習	2			
真菌・ウイルス検査学	2			
生理検査学				
生理検査学Ⅰ	2			
生理検査学Ⅱ	2			
生理検査学Ⅲ	2			
生理検査技術	1			
生理機能検査学実習	3			
臨床検査総合管理学				
検査管理学	2			
臨床検査概論	1			
精度管理学	1			
臨床検査基礎実習	1			
医療統計学	1			
医療安全管理学				
医療安全管理学（実習含 臨地実習）	2			
臨地実習		1 2		
遺伝子分析・バイオ技術				
臨床遺伝学		1		
遺伝子工学		1		
分子細胞生物学		1		
衛生学				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
環境科学		2		
食品栄養学		2		
食品衛生学		2		
食品製造学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
データサイエンス				
データサイエンスリテラシー		2		
医用画像AI解析		2		
医療データマイニング		2		
細胞検査士養成課程				
入門細胞診断学演習		1		
細胞診断学演習Ⅰ		1		
細胞診断学演習Ⅱ		1		
細胞診断学演習Ⅲ		1		
細胞診断学演習Ⅳ		1		
臨床細胞診断学		4		
				細胞検査士養成課程 選択者は必修

第 3 類（杏林大学学則）

総合領域 卒業 特別 研究 演習		4 1		細胞検査士養成課程選択者以外は必修
計	9 5	1 0 0		1 2 4 単 位 以 上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）
診療放射線技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活				
心 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
こ と ば と 社 会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
科学的思考の基礎				
基 礎 数 学		1		
微 分 積 分 学	1			
応 用 数 学	1			
基 礎 物 理 学 Ⅰ	1			
基 礎 物 理 学 Ⅱ	1			
計 算 機 演 習	1			
統 計 学 演 習	1			
基 礎 化 学	1			
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
生 命 科 学 概 論		2		
遺 伝 学		2		
基 礎 画 像 工 学	2			
基 礎 科 学 実 験 Ⅰ	1			
基 礎 科 学 実 験 Ⅱ	1			
外国語				
英語プレゼンテーション		2		
英 語 読 解		2		
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能および疾病の成り立ち				
解 剖 学	2			
臨 床 生 理 学	2			
臨 床 生 理 学 実 習	1			
生 化 学		2		
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			

第3類（杏林大学学則）

薬理	学	2		
公衆衛生学	2			
疾病の成り立ちⅠ（感覚器系・脳神経・脳血管系）	2			
疾病の成り立ちⅡ（消化器系・腎泌尿器系）	2			
疾病の成り立ちⅢ（呼吸器系）	2			
疾病の成り立ちⅣ（循環器系）	2			
救命救助法	1			
保健医療福祉における理工学の基礎並びに放射線の科学および技術				
医用電気工学	2			
医用電子工学	1			
放射線生物学	2			
放射線生物学演習		1		
放射線物理学Ⅰ	2			
放射線物理学Ⅱ	2			
放射線物理学演習		1		
放射化学	2			
放射化学演習		1		
放射線計測学	2			
放射線計測学演習		1		
放射線計測学実験	1			
放射線線量測定学	1			
専門分野				
診療画像技術学・臨床画				
診療画像検査技術学	1			
診療画像検査技術学	2			
診療画像検査技術学	2			
診療画像検査技術学	2			
診療画像検査技術学実習Ⅰ	1			
診療画像検査技術学実習Ⅱ	1			
診療画像検査機器学	2			
診療画像検査機器学	2			
診療画像検査機器学	2			
診療画像検査機器学	1			
臨床画像学Ⅰ	2			
臨床画像学Ⅱ	2			
臨床画像学演習		1		
乳房検査技術学		1		
救急撮影技術学		1		
MRI検査技術学		1		
マクロ解剖画像診断		1		
核医学検査技術学				
核医学検査技術学Ⅰ	2			
核医学検査技術学Ⅱ	2			
核医学検査機器学	2			

必修15単位を含めて
18単位以上

第 3 類（杏林大学学則）

放 射 性 医 薬 品 学	1			
核医学検査技術学実	1			
放射線治療技術学				
放射線治療技術学Ⅰ	2			
放射線治療技術学Ⅱ	2			
放 射 線 腫 瘍 学	2			
放射線治療機器学	1			
放射線治療技術学実	1			
医療画像情報学				
医療画像情報学Ⅰ	2			
医療画像情報学Ⅱ	2			
医 療 画 像 工 学	2			
医療画像情報学実習	1			
医療画像情報学実習	1			
放射線安全管理学				
放射線安全管理学	2			
放射線安全管理学演		1		
放射線安全管理学実	1			
放 射 線 関 係 法 規	2			
医療安全管理学				
医 療 安 全 管 理 学	2			
実践臨床画像学				
実 践 臨 床 画 像 学	2			
実践臨床画像学実習	1			
臨床実習				
画像検査技術学臨床	8			
核医学検査技術学臨床実習	2			
放射線治療技術学臨床実習	2			
総合領域				
医 療 総 合 演 習	2			
医用統計学演習		1		
原 書 講 読		1		
臨床実習総合演習		1		
診療放射線国際事情		1		
卒 業 研 究	4			
計	1 1 9	5 1		1 3 2 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-11

保健学部学科目構成

（令和5年度入学生から適用）
リハビリテーション学科理学療法学専攻

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				「基礎分野」より 必修8単位を含めて 14単位以上
人間科学系				
心理学		2		
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
ことばと社会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		
情報処理論	2			
基礎物理学		1		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
語学系				
英語プレゼンテーション	2			
英語読解	2			
保健医療英語		2		
英会話		2		
医学英語		2		

第3類（杏林大学学則）

日 本 語 表 現 法	2				
専門基礎分野					
医学系					
解 剖 学	2				
リハビリテーション解剖学	1				
解 剖 学 実 習	1				
リハビリテーション解剖学実習	1				
生 理 学 I	2				
生 理 学 II	1				
生 理 学 実 習	1				
リハビリテーション基礎医学	2				
リハビリテーション基礎医学演習	1				
病 理 学 概 論	1				
人 間 発 達 学	2				
臨 床 心 理 学	1				
精 神 医 学	2				
内 科 学 I	2				
内 科 学 II		2			
小 児 科 学	1				
神 経 内 科 学	2				
外 科 学		1			
整 形 外 科 学	2				
脳 神 経 外 科 学	1				
感 染 症 ・ 免 疫 学		2			
薬 理 学		1			
栄 養 学		1			
リハビリテーション概論	1				
リハビリテーション医学	1				
保健学・衛生学系					
公 衆 衛 生 学 I	2				
公 衆 衛 生 学 II		2			
産 業 保 健 学		2			
環 境 衛 生 工 学		2			
救 命 救 助 法		1			
労 働 衛 生 法 規 I		2			
労 働 衛 生 法 規 II		2			
専門分野					

「医学系」より
必修28単位を含めて
31単位以上

「保健・衛生学系」より
必修2単位を含めて
4単位以上

第3類（杏林大学学則）

基礎理学療法学系					
理 学 療 法 概 論	1				「専門分野」より 必修69単位を含めて 76単位以上
理 学 療 法 用 語 論		1			
運 動 学	2				
運 動 学 演 習	1				
運 動 学 実 習	1				
病 態 運 動 学 演 習		1			
運 動 解 剖 学 演 習	1				
理学療法評価学系					
理 学 療 法 評 価 学 概 論	1				
理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	1				
理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	1				
理 学 療 法 評 価 学 実 習	1				
動 作 分 析 学 演 習	1				
高 次 脳 機 能 障 害 学	1				
理学療法治療学系					
理 学 療 法 治 療 学 総 論		1			
運 動 療 法 学	1				
運 動 療 法 学 実 習	1				
物 理 療 法 学	1				
物 理 療 法 学 実 習	1				
義 肢 装 具 学	1				
義 肢 装 具 学 実 習	1				
日 常 生 活 技 術 学	1				
日 常 生 活 技 術 学 実 習	1				
運動器障害系理学療法学	2				
運動器障害系理学療法学演習	1				
神経障害系理学療法学	2				
神経障害系理学療法学演習	1				
内部障害系理学療法学	2				
内部障害系理学療法学演習	1				
小 児 理 学 療 法 学	2				
小 児 理 学 療 法 学 演 習	1				
高 齢 者 理 学 療 法 学 演 習	1				
急 性 期 理 学 療 法 学		1			
ス ポ ー ツ 障 害 理 学 療 法 学		1			

第3類（杏林大学学則）

徒手理学療法学演習		1		
臨床理学療法学実習	2			
臨床理学療法推論学演習		1		
理学療法管理学系				
理学療法管理学	2			
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
生活環境学	1			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
地域理学療法実習	1			
総合臨床実習	14			
総合領域				
障害者スポーツ演習		1		
理学療法統計学演習		1		
理学療法研究法		1		
理学療法解析手法演習		1		
応用理学療法学演習	1			
基礎理学療法学演習Ⅰ	2			
基礎理学療法学演習Ⅱ	2			
卒業研究	2			
計	107	75		125単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和5年度入学生から適用）

リハビリテーション学科作業療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
心 生 命 理 倫 理 学	2	2		「人間科学系」より 必修2単位を含めて 6単位以上
芸 術 学		2		
社 会 福 祉 学		2		
発 達 心 理 学		2		
職 業 適 性 論		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
日 本 語 学		2		
こ と ば と 社 会		2		
保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I		2		
保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II		2		
社 会 と 大 学 I		2		
社 会 と 大 学 II		2		
社 会 と 大 学 III		2		
自然科学系				
数 学		2		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 8単位以上
統 計 学		2		
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
物 理 学 概 論		2		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
分 子 生 物 学		2		
人 類 遺 伝 学		2		
語学系				
英 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	2			「語学系」より 必修4単位を含めて 8単位以上
英 語 読 解	2			
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		

第3類（杏林大学学則）

医	学	英	語		2		
日	本	語	表	現	法	2	
専門基礎分野							
医学系							
解	剖	学		2			
リハビリテーション	解剖学			1			
解	剖	学	実	習	1		
リハビリテーション	解剖学	実	習	1			
生	理	学	I	2			
生	理	学	II	1			
生	理	学	実	習	1		
運	動	学		2			
運	動	学	実	習	1		
病	態	運	動	学	実	習	1
病	理	学		1			
人	間	発	達	学	1		
リハビリテーション	概	論		1			
臨	床	心	理	学	概	論	1
精	神	医	学	2			
内	科	学	I	2			
内	科	学	II		2		
小	児	科	学		1		
神	経	内	科	学	2		
外	科	学		1			
整	形	外	科	学	2		
脳	神	経	外	科	学	1	
リハビリテーション	医	学		1			
感	染	症	・	免	疫	学	2
薬	理	学		1			
栄	養	学		1			
保健学・衛生学系							
産	業	保	健	学		2	
公	衆	衛	生	学	I	2	
公	衆	衛	生	学	II		2
環	境	衛	生	工	学		2
救	命	救	助	法	1		
労	働	衛	生	法	規	I	2

「医学系」より
必修29単位を含めて
30単位以上

「保健学・衛生学系」より
必修3単位を含めて
5単位以上

第3類（杏林大学学則）

労働衛生法規Ⅱ		2		
専門分野				
基礎作業療法学系				
作業療法学概論	1			
基礎作業学概論	1			
基礎作業学実習	1			
作業分析学	1			
作業分析学演習	1			
作業療法諸理論		1		
作業療法評価学系				
作業療法評価学Ⅰ（総論）	1			
作業療法評価学Ⅱ（疾患別）	1			
作業療法評価学実習Ⅰ（中枢神経障害）	1			
作業療法評価学実習Ⅱ（発達、精神障害）	1			
作業療法評価学実習Ⅲ（老年期障害）	1			
認知機能評価法		1		
作業療法治療学系				
身体障害作業療法学Ⅰ	1			
身体障害作業療法学Ⅱ	1			
身体障害作業療法学演習	1			
高次脳機能障害作業療法学	1			
精神障害作業療法学Ⅰ	1			
精神障害作業療法学Ⅱ	1			
精神障害作業療法学演習	1			
発達障害作業療法学Ⅰ	1			
発達障害作業療法学Ⅱ	1			
発達障害作業療法学演習	1			
老年期障害作業療法学	1			
認知障害作業療法学	1			
職業関連作業療法学	1			
高次機能代償学		1		
義肢装具学	1			
義肢装具学実習	1			
福祉用具適応学	1			
日常生活活動学Ⅰ（総論）	1			
日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1			
バリアフリー概論		1		

「専門分野」より
必修67単位を含めて
68単位以上

第3類（杏林大学学則）

レクリエーション概論		1		
クリニカルリーズニング		1		
ハンドセラピー概論	1			
作業療法管理学系				
作業療法管理学	2			
地域作業療法学系				
地域生活作業療法学	1			
地域ケアシステム学	1			
住環境整備学	1			
地域生活作業療法学演習	1			
作業療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	1			
評価実習Ⅱ	4			
総合臨床実習	16			
地域・訪問実習	1			
総合領域				
作業療法学演習Ⅰ	1			
作業療法学演習Ⅱ	1			
作業療法学演習Ⅲ	1			
作業療法学演習Ⅳ	2			
卒業研究Ⅰ	1			
卒業研究Ⅱ	3			
計	107	74		125単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和5年度入学生から適用）

リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人文・社会科学系				
生 命 倫 理 学		2		
芸 術 学		2		
職 業 適 性 論		2		
こ と ば と 社 会		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
教 育 学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				
数 学		2		
統 計 学	2			
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
物 理 学 概 論		2		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
人 類 遺 伝 学		2		
語学系				
英 語 プレゼンテーション	2			
英 語 読 解	2			
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
専門基礎分野				
言語聴覚基礎系				
言 語 の 表 現 法	2			

必修10単位と「職業適性論」、「保健・医療の現状と未来Ⅰ」及び「保健・医療の現状と未来Ⅱ」を含め、16単位以上

第3類（杏林大学学則）

言	語	学	2			
音	声	学	2			
音響学・聴覚心理学			2			
言語発達学			2			
心理言語学			2			
基礎医学系						
医学総論			1			
解剖学			2			
解剖学実習			1			
生理学Ⅰ			2			
生理学Ⅱ				1		
生理学実習				1		
病理学				2		
人間発達学				1		
運動学				2		
運動学実習				1		
病態運動学実習				1		
衛生学Ⅰ		2				
衛生学Ⅱ				2		
臨床医学系						
精神医学		2				
臨床神経学		1				
内科Ⅰ		2				
内科Ⅱ				2		
小児科		1				
神経内科		2				
外科				1		
耳鼻咽喉科		2				
形成外科		1				
臨床歯科医学		1				
口腔外科		1				
脳神経外科学		1				
リハビリテーション医学		1				
感染症・免疫学				2		
薬理学				1		
栄養学				1		
救命救助法		1				
音声・言語・聴覚医学系						

必修51単位と「病理学」、その他選択科目6単位を含め、59単位以上
(専門基礎分野)

第3類（杏林大学学則）

呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1			
聴覚系の構造・機能・病態	1			
神経系の構造・機能・病態	2			
心理系				
臨床心理学概論	2			
学習・言語心理学	2			
生涯発達心理学	2			
心理的アセスメント	2			
地域包括支援・社会福祉・教育系				
社会福祉学	2			
リハビリテーション概論	1			
専門分野				
言語聴覚基礎系				
言語聴覚障害学概論	1			
言語聴覚障害診断学	1			
言語聴覚障害の評価診断・治療				
高次脳機能障害学	2			
失語・高次脳機能障害学Ⅰ	2			
失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	1			
失語・高次脳機能障害学Ⅱ	2			
失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	1			
言語発達障害学Ⅰ	2			
言語発達障害学演習Ⅰ	1			
言語発達障害学Ⅱ	2			
言語発達障害学演習Ⅱ	1			
音声障害学	2			
吃音学	1			
構音障害学Ⅰ	2			
構音障害学Ⅱ	2			
構音障害学演習	1			
摂食嚥下障害学	2			
摂食嚥下障害学演習	1			
聴覚障害学Ⅰ（成人・重複障害含む）	2			
聴覚障害学演習Ⅰ	1			
聴覚障害学Ⅱ（小児）	2			
聴覚障害学演習Ⅱ	1			
聴覚補償論（補聴器・人工内耳）	1			
			必修57単位 （専門分野）	

第 3 類（杏林大学学則）

言語聴覚療法マネジメント				
言語聴覚療法管理学	2			
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習	4			
総合実習	10			
総合領域				
臨床言語聴覚療法演習	1			
総合言語聴覚療法演習	1			
言語聴覚学研究法	1			
卒業研究	3			
計	118	57		132 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-12

保健学部学科目構成

（令和5年度入学生から適用）

臨床工学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活・社会の理解				
心 理 学		2		6 単 位 以 上
日 本 国 憲 法		2		
発 達 心 理 学		2		
健康スポーツ科学		2		
こ と ば と 社 会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
日 本 語 表 現 法		2		
科学的思考の基盤				
医 療 情 報 科 学		2		6 単 位 以 上
物 理 学		1		
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
生 物 学		2		
生 命 科 学 概 論		2		
外国語				
英語プレゼンテーション		2		必修を含めて 6 単 位 以 上
英 語 読 解		2		
保 健 医 療 英 語		2		
医 学 英 語	2			
英 会 話		2		
専門基礎分野				
人体の構造及び機能と医学的基礎				
解 剖 学	2			
生 理 学 Ⅰ	2			
生 理 学 Ⅱ	2			

第3類（杏林大学学則）

生 理 学 実 験	1			
生 化 学		2		
医 学 概 論	2			
公衆衛生学Ⅰ	2			
病 理 学		2		
薬 理 学		2		
免 疫 学		2		
チーム医療概論		2		
理工学的基礎				
数 学	2			
応 用 数 学		2		
統 計 学 演 習		1		
基 礎 電 気 学	2			
医 用 電 気 工 学	2			
医用電気工学実習		1		
基 礎 電 子 回 路	2			
医 用 電 子 工 学	2			
医用電子工学実習		1		
医 用 機 械 工 学	2			
医 用 計 測 工 学	2			
医療情報技術とシステム工学の基礎				
計 算 機 演 習	2			
医用情報処理工学	2			
医用情報処理工学実習		1		
シ ス テ ム 工 学		2		
専門分野				
医用生体工学				
生 体 物 性 学	2			
医 用 材 料 工 学		2		
医 用 工 学 概 論	2			
臨 床 工 学 概 論	2			
医用機器学及び臨床支援技				
医 用 機 器 学 概 論	2			
医 用 治 療 機 器 学	2			
医用機器学実習Ⅰ		1		
医 用 計 測 機 器 学	2			
医用機器学実習Ⅱ		1		

第3類（杏林大学学則）

臨床支援技術学		2		
臨床支援技術学実習		1		
生体機能代行技術学				
生体機能代行装置学概論		2		
生体機能代行装置学基礎実習		1		
呼吸関連機器学	2			
呼吸関連機器学実習		1		
血液浄化装置学	2			
血液浄化装置学実習		1		
体外循環機器学	2			
体外循環機器学実習		1		
医療安全管理学				
医用機器安全管理学Ⅰ	2			
医用機器安全管理学Ⅱ		2		
安全管理学実習		1		
医療関係法規		2		
関連臨床医学				
臨床医学各論Ⅰ	2			
臨床医学各論Ⅱ	2			
臨床医学各論Ⅲ		2		
臨床生理学検査	2			
臨床実習				
臨床実習基礎演習		1		臨床実習を未履修の場合、履修できない。
臨床実習		6		
衛生学				
公衆衛生学Ⅱ		2		
職業適性論		2		
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
救命救助法		1		集中（実践的防災論を含む）
総合領域				
特別講義		2		
卒業研究	4			
計	61	100		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2－13

保健学部学科目構成

（令和6年度入学生から適用）

臨床心理学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
人文・社会学系				人文・社会学系と自然科学系を合わせ、必修を含めて12単位以上
生 命 倫 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
法 学		2		
社 会 学		2		
芸 術		2		
職 業 適 性 論		2		
こ と ば と 社 会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				必修を含めて12単位以上
情 報 処 理 論	2			
基 礎 生 物 学		1		
基 礎 化 学		1		
基 礎 数 学		1		
言語系				
日 本 語 表 現 法	2			
英 語 Ⅰ	2			
英 語 Ⅱ	2			
英 語 Ⅲ	2			
英 語 Ⅳ		2		
医 学 英 語		2		
英 会 話		2		
基礎医学系				
公 衆 衛 生 学	1			
医 学 概 論	1			
人体の構造と機能及び疾病（人体の構造と機能Ⅰ）	2			

第3類（杏林大学学則）

人体の構造と機能及び疾病 （人体の構造と機能Ⅱ）	2			
人体の構造と機能及び疾病 （ 疾 病 ）	2			
病 態 病 理 学		1		
精 神 疾 患 と そ の 治 療 Ⅰ	2			
精 神 疾 患 と そ の 治 療 Ⅱ	2			
緩和医療学（演習を含む）	2			
救 急 医 療		1		
救 命 救 助 法	1			
看護学・精神科リハビリテーション学系				
看 護 学		1		
精神科リハビリテーション 学	2			
多 職 種 連 携 論		2		
心理学基礎科目系				
心 理 学 概 論	2			
心 理 学 研 究 法	2			
心 理 学 統 計 法	2			
心 理 学 実 験 Ⅰ	2			
心 理 学 実 験 Ⅱ	2			
心理学発展科目系				
臨 床 心 理 学 概 論	2			
実 験 心 理 学 入 門	2			
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2			
学 習 ・ 言 語 心 理 学	2			
感 情 ・ 人 格 心 理 学	2			
神 経 ・ 生 理 心 理 学	2			
社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会心理学	2			
社会・集団・家族心理学Ⅱ（家族・コミュニティ心理学）	2			
発 達 心 理 学	2			
障害者・障害児心理学	2			
心理的アセスメント	2			
心 理 学 的 支 援 法	2			
健 康 ・ 医 療 心 理 学	2			
福 祉 心 理 学	2			
教 育 ・ 学 校 心 理 学	2			
司 法 ・ 犯 罪 心 理 学	2			

第3類（杏林大学学則）

産業・組織心理学	2			
公認心理師の職責	2			
関係行政論	2			
認知行動療法		2		
発達臨床心理学		2		
乳幼児・児童心理学		2		
思春期・青年期心理学		2		
隣接領域				
社会福祉学		2		
学校教育学		2		
児童福祉学		2		
老人福祉学		2		
高齢保健学		2		
医療福祉学		2		
公的扶助学		2		
障害者福祉学		2		
社会福祉政策学		2		
心理実習系				
心理実習Ⅰ	1			
心理実習Ⅱ	1			
心理実習Ⅲ		2		
心理実習Ⅳ		1		
心理演習	2			
心理特別演習Ⅰ		1		
心理特別演習Ⅱ		1		
総合領域				
臨床心理学特別講義Ⅰ		2		
臨床心理学特別講義Ⅱ		2		
臨床心理学特別講義Ⅲ		1		
臨床心理学特別講義Ⅳ		2		
キャリアデザイン		2		
基礎ゼミ	2			
卒業研究	4			
計	85	78		124単位以上

6単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2－14

保健学部学科目構成

（令和7年度入学生から適用）

健康福祉学科健康福祉コース

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				人文・社会学系と自然科学系を 合わせ、必修を含めて12単位 以上
哲学		2		
心理学		2		
日本国憲		2		
社会学		2		
生命倫理		2		
教育心理		2		
発達心理		2		
芸術		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
自然科学系				
基礎数学		1		
情報処理演習	2			
基礎物理		1		
基礎化学		1		
基礎生物		1		
言語系				
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
医学英語		2		
英語会話		2		
基礎医学系				
医学概論	2			
公衆衛生学Ⅰ	2			
公衆衛生学Ⅱ		2		
解剖学		2		
病理学		2		
生理学		2		
生化学		2		

第3類（杏林大学学則）

免 疫 学		2	
微 生 物 学		2	
薬 理 学		2	
小 児 疾 患 の 病 態 学		2	
内 科 疾 患 の 病 態 学 I	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 II	2		
外 科 疾 患 の 病 態 学	2		
精 神 医 学		1	
救 命 救 助 法		1	
保健学系			
健 康 福 祉 学	4		
健 康 福 祉 学 実 習		1	
疫 学		2	
小 児 保 健 学	2		
精 神 保 健 学	2		
高 齢 保 健 学		2	
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2	
健 康 エ コ ロ ジ ー	2		
社会福祉学系			
社 会 福 祉 学		2	
社 会 福 祉 政 策 論		2	
高 齢 者 福 祉 サ ー ビ ス 論		2	
障 害 者 福 祉 論		2	
児 童 福 祉 論		2	
社 会 保 障 論		4	
公 的 扶 助 論		2	
地 域 福 祉 論		4	
ソーシャルワーク総論 I		4	
ソーシャルワーク総論 II		2	
社 会 調 査 概 論	1		
ソーシャルワーク論 I		2	
ソーシャルワーク論 II		2	
ソーシャルワーク演習 I		1	
ソーシャルワーク演習 II		1	
ソーシャルワーク演習 III		2	
ソーシャルワーク演習 IV		2	
ソーシャルワーク演習 V		2	
ソーシャルワーク演習 VI		2	
ソーシャルワーク実習指導 I		1	
ソーシャルワーク実習指導 II		4	
ソーシャルワーク実習		8	
医 療 福 祉 論		2	
			150時間（演習）
			30時間（実習）
			60時間（講義・演習）
			240時間（実習）

第3類（杏林大学学則）

社会福祉経営論	1		
権利擁護と成年後見概論	1		
更生保護概論	2		
介護福祉論	2		
精神保健福祉学系			
社会福祉調査の基礎	2		
精神疾患とその治療	2		
精神医療	2		
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2		
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2		
精神保健福祉の原理Ⅰ	2		
精神保健福祉の原理Ⅱ	2		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（精神保健）	2		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（精神保健）	2		
精神障害リハビリテーション論	2		
精神保健福祉制度論	2		
ソーシャルワーク演習Ⅰ（精神保健）	1	150時間（演習）	
ソーシャルワーク演習Ⅱ（精神保健）	1		
ソーシャルワーク演習Ⅲ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅳ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神保健）	2		
ソーシャルワーク実習指導（精神保健）	4	60時間（講義・演習）	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神保健）	1	30時間（実習）	
ソーシャルワーク実習（精神保健）	7	210時間（実習）	
精神保健福祉特論	2		
学校保健学系			
学校保健学Ⅰ	2	学校安全を含む	
学校保健学Ⅱ	2		
学校看護学	1		
健康相談Ⅰ	2		
健康相談Ⅱ	1		
健康教育学	2		
保健栄養学	2	食品学を含む	
養護学概論	2		
カウンセリング	2		
保健科指導法Ⅰ	2		
保健科指導法Ⅱ	2		

第3類（杏林大学学則）

保健科教育法Ⅰ	2		
保健科教育法Ⅱ	2		
看護学Ⅰ	2		
看護学Ⅱ	2		
看護学Ⅲ	2		
看護学実習	2		
救急看護	2		
環境・食品学系			
産業保健学	2		
環境衛生工学	2		
環境科学	2		
放射線概論	2		
分析化学	2		
食品栄養学	2		
食品衛生学	2		
職業適性論	2		
労働衛生法規Ⅰ	2		
労働衛生法規Ⅱ	2		
総合			
特別講義Ⅰ	1		
特別講義Ⅱ	1		
特別講義Ⅲ	2		
特別講義Ⅳ	2		
特別演習Ⅰ	1		
特別演習Ⅱ	1		
特別演習Ⅲ	2		
特別演習Ⅳ	2		
ボランティア活動	2		
総括ゼミナール	4		
計	31	238	124単位以上

健康福祉学科健康スポーツコース

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
人文・社会学系				人文・社会学系と自然科学系を 合わせ、必修を含めて12単位 以上
ス ポ ー ツ 心 理 学		2		
社 会 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
運 動 指 導 の 心 理 学		2		
キ ャ リ ア 発 達 の 心 理 学		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		

第3類（杏林大学学則）

保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
自然科学系				
基礎数学		1		
情報処理演習	2			
基礎生物学		1		
言語系				
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
医学英語		2		
基礎医学系				
スポーツ医学概論	2			
公衆衛生学	2			
運動解剖学		2		
運動生理学		2		
生化学		2		
免疫学		2		
微生物学		2		
運動薬理学		2		
小児疾患の病態学		2		
内科疾患の病態学	2			
外科疾患の病態学	2			
救命救助法		1		
保健学系				
健康福祉学	4			
健康福祉学実習		1		
精神保健学	2			
高齢保健学		2		
健康エコロジー	2			
社会福祉学系				
社会福祉学		2		
障害者福祉論		2		
社会調査概論	1			
精神保健福祉学系				
社会福祉調査の基礎		2		

第3類（杏林大学学則）

精神医療		2		
リハビリテーション概論		2		
学校保健学系				
健康相談		2		
健康教育学		2		
看護学Ⅰ		2		
看護学Ⅱ		2		
環境・食品学系				
環境科学		2		
食品栄養学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規		2		
健康スポーツ学系				
健康スポーツ科学		2		
運動栄養学		2		
スポーツメンタルトレーニング		2		
トレーニング学Ⅰ	2			
トレーニング学Ⅱ	2			
トレーニング演習	2			
コーチング学	2			
障害者スポーツ演習	1			
見学実習（障害者・高齢者施設）	2			
スポーツアロマセラピー学	2			
スポーツキャリア指導	2			
総合				
特別講義Ⅰ		1		
特別講義Ⅱ		1		
特別講義Ⅲ		2		
特別講義Ⅳ		2		
特別演習Ⅰ		1		
特別演習Ⅱ		1		
特別演習Ⅲ		2		
特別演習Ⅳ		2		
ボランティア活動		2		
総合ゼミナール	4			
計	42	90		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和7年度入学生から適用）

リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活・社会の理解				
生 命 倫 理 学		2		
芸 術		2		
職 業 適 性 論		2		
こ と ば と 社 会		2		
日 本 国 憲 法		2		
教 育 学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
英語プレゼンテーション	2			
英 語 読 解	2			
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
科学的思考の基礎				
数 学		2		
統 計 学	2			
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
物 理 学 概 論		2		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
人 類 遺 伝 学		2		
言語聴覚療法の基盤				
言 語 の 表 現 法		2		
専門基礎分野				
人体のしくみ・疾病と治療				
医 学 総 論	1			

必修10単位と「言語の表現法」を含め20単位以上

第3類（杏林大学学則）

解剖学	2				必修45単位と 「病理学」を含め 47単位以上
解剖学実習	1				
生理学Ⅰ	2				
生理学Ⅱ		1			
病理学		2			
人間発達学		1			
衛生学		2			
精神医学	2				
臨床神経学	1				
内科学Ⅰ	2				
内科学Ⅱ		2			
小児科学	1				
神経内科学		2			
外科		1			
耳鼻咽喉科学	2				
形成外科学	1				
臨床歯科医学	1				
口腔外科学	1				
脳神経外科学		1			
リハビリテーション医学	1				
感染症・免疫学		2			
薬理学		1			
栄養学		1			
救命救助法	1				
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1				
聴覚系の構造・機能・病態	1				
神経系の構造・機能・病態	2				
心の働き					
臨床心理学概論	2				
学習・言語心理学	2				
生涯発達心理学	2				
心理的アセスメント	2				
言語とコミュニケーション					
言語学	2				
音声学	2				
音響学・聴覚心理学	2				
言語発達学	2				

第3類（杏林大学学則）

心 理 言 語 学	2				
社会保障・教育とリハビリテーション					
社 会 福 祉 学	2				
多 職 種 連 携 論	1				
リハビリテーション概論	1				
専門分野					
言語聴覚基礎系					
言 語 聴 覚 障 害 学 概 論	1				
言 語 聴 覚 障 害 診 断 学	1				
言語聴覚療法マネジメント					
言 語 聴 覚 療 法 管 理 学	2				
言語聴覚障害の評価診断・治療					
高次脳機能障害学Ⅰ	2				
高次脳機能障害学Ⅱ	2				
高次脳機能障害学演習	1				
失 語 症 学 Ⅰ	2				
失 語 症 学 演 習 Ⅰ	1				
失 語 症 学 Ⅱ	2				
失 語 症 学 演 習 Ⅱ	1				
言 語 発 達 障 害 学 Ⅰ	2				
言 語 発 達 障 害 学 演 習 Ⅰ	1				
言 語 発 達 障 害 学 Ⅱ	2				
言 語 発 達 障 害 学 演 習 Ⅱ	1				
音 声 障 害 学	2				
吃 音 学	2				
構 音 障 害 学 Ⅰ	2				
構 音 障 害 学 Ⅱ	2				
発声・発語障害学演習Ⅰ	1				
発声・発語障害学演習Ⅱ	1				
摂食嚥下障害学	2				
摂食嚥下障害学演習	1				
聴覚障害学Ⅰ（成人・重複障害含む）	2				
聴 覚 障 害 学 演 習 Ⅰ	1				
聴覚障害学Ⅱ（小児）	2				
聴 覚 障 害 学 演 習 Ⅱ	1				
聴覚補償論（補聴器・人工内耳）	1				
地 域 言 語 聴 覚 療 法 学	2				

第 3 類（杏林大学学則）

臨床実習系				
見 学 実 習	1			
評 価 実 習	5			
総 合 実 習	9			
総合領域				
臨床言語聴覚療法演習Ⅰ	1			
臨床言語聴覚療法演習Ⅱ	1			
総合言語聴覚療法演習	2			
言語聴覚学 研究 法	1			
卒 業 研 究	3			
計	1 2 1	5 7		1 3 3 単 位 以 上

第3類（杏林大学学則）

別表3－1（平成22年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

1 基礎教養科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必 修	選 択	自 由	
社 会 の し く み I					2			8 単位以上
社 会 の し く み II					2			
近 現 代 史 論						2		
読 解 力 演 習						2		
文 章 力 演 習						2		
計 算 力 演 習						2		
国 語 力 演 習						2		

2 専門科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必 修	選 択	自 由	
共通科目	国 際 関 係 論 I					2		32 単位以上
	国 際 関 係 論 II					2		
	経 済 原 論 I					2		
	経 済 原 論 II					2		
	憲 法 I					2		
	憲 法 II					2		
	民 法 総 論 I					2		
	民 法 総 論 II					2		
	日 本 政 治 論 I					2		
	日 本 政 治 論 II					2		
	社 会 福 祉 学 I					2		
	社 会 福 祉 学 II					2		
	環 境 保 全 論 I					2		
	環 境 保 全 論 II					2		
	健 康 科 学 I					2		
	健 康 科 学 II					2		
	財 政 金 融 論 I					2		

第3類（杏林大学学則）

	財 政 金 融 論 II		2		
	外 交 政 策 論 I		2		
	外 交 政 策 論 II		2		
	刑 事 法 概 論 I		2		
	刑 事 法 概 論 II		2		
	ヒューマンエコロジー I		2		
	ヒューマンエコロジー II		2		
国際政経 コース 基本科目	国 際 協 力 論 I		2		— 16 単位以上
	国 際 協 力 論 II		2		
	国 際 政 治 学 I		2		
	国 際 政 治 学 II		2		
	経 済 政 策 論 I		2		
	経 済 政 策 論 II		2		
	国 際 貿 易 論 I		2		
	国 際 貿 易 論 II		2		
	国 際 金 融 論 I		2		
	国 際 金 融 論 II		2		
	日 本 経 済 論		2		
	ア ジ ア 経 済 論		2		
	ア メ リ カ 経 済 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
	世 界 経 済 論		2		
	国 際 投 資 論		2		
	経 済 開 発 論		2		
	国 際 経 営 論		2		
	環 境 経 済 学 I		2		
	環 境 経 済 学 II		2		
	環 境 政 策 論		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	国 際 政 治 史		2		
	比 較 政 治 学		2		
	ア ジ ア 政 治 論		2		
	ア メ リ カ 政 治 論		2		
	ロ シ ア 政 治 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		

第3類（杏林大学学則）

国際政経 コース 発展科目	資源エネルギー論	2	34単位以上
	経営学総論Ⅰ	2	
	経営学総論Ⅱ	2	
	マーケティング総論Ⅰ	2	
	マーケティング総論Ⅱ	2	
	基礎簿記Ⅰ	2	
	基礎簿記Ⅱ	2	
	キャリア開発論Ⅰ	2	
	キャリア開発論Ⅱ	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップⅠ	2	
	インターンシップⅡ	2	
	キャリア開発演習Ⅰ	2	
	キャリア開発演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅰ	2	
	学際演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅲ	2	
	学際演習Ⅳ	2	
	演習	8	
	卒業研究	4	
法律行政 コース 基本科目	物権法Ⅰ	2	16単位以上
	物権法Ⅱ	2	
	家族法Ⅰ	2	
	家族法Ⅱ	2	
	刑法Ⅰ	2	
	刑法Ⅱ	2	
	行政学Ⅰ	2	
	行政学Ⅱ	2	

第3類（杏林大学学則）

	公 共 選 択 論 I		2		
	公 共 選 択 論 II		2		
法律行政 コース 発展科目	行 政 法 I		2		
	行 政 法 II		2		
	債 権 法 I		2		
	債 権 法 II		2		
	労 働 法 I		2		
	労 働 法 II		2		
	会 社 法 I		2		
	会 社 法 II		2		
	民 事 訴 訟 法		2		
	刑 事 訴 訟 法		2		
	経 済 刑 法		2		
	医 事 法 総 論		2		
	医 事 法 各 論		2		
	企 業 法 総 論		2		
	企 業 取 引 法		2		
	税 法 I		2		
	税 法 II		2		
	基 礎 簿 記 I		2		
	基 礎 簿 記 II		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	環 境 法		2		
	情 報 法 制		2		
	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2		
	比 較 政 治 学		2		— 34単位以上
	日 本 法 制 史		2		
	日 本 政 治 史		2		
	政 策 過 程 論		2		
	立 法 過 程 論		2		
	地 方 政 府 論		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 I		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 II		2		
	憲 法 概 論		2		
	民 法 概 論		2		

第3類（杏林大学学則）

	政治学概論	2		
	経済原論演習	2		
	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		
	インターンシップⅠ	2		
	インターンシップⅡ	2		
	キャリア開発演習Ⅰ	2		
	キャリア開発演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅰ	2		
	学際演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅲ	2		
	学際演習Ⅳ	2		
	演習	8		
	卒業研究	4		
環境福祉 コース 基本科目	社会保障論Ⅰ	2		16単位以上
	社会保障論Ⅱ	2		
	環境科学概論Ⅰ	2		
	環境科学概論Ⅱ	2		
	保健医療システム論Ⅰ	2		
	保健医療システム論Ⅱ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅰ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅱ	2		
	環境経済学Ⅰ	2		
	環境経済学Ⅱ	2		
	環境保健学	2		
	カウンセリング論	2		
	社会福祉政策論	2		
	児童福祉論	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅰ	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅱ	2		
	経済政策論Ⅰ	2		
	経済政策論Ⅱ	2		
	環境政策論	2		

第3類（杏林大学学則）

環境福祉 コース 発展科目	資源エネルギー論	2			
	産業社会学Ⅰ	2			
	産業社会学Ⅱ	2			
	経営戦略論Ⅰ	2			
	経営戦略論Ⅱ	2			
	国際協力論Ⅰ	2			
	国際協力論Ⅱ	2			
	医事法総論	2			
	医事法各論	2			
	環境法	2			
	年金・労働保険法	2			
	労働法Ⅰ	2			
	労働法Ⅱ	2			
	経営学総論Ⅰ	2			
	経営学総論Ⅱ	2			
	マーケティング総論Ⅰ	2			
	マーケティング総論Ⅱ	2			
	基礎簿記Ⅰ	2			
	基礎簿記Ⅱ	2			
	キャリア開発論Ⅰ	2			
	キャリア開発論Ⅱ	2			
	憲法概論	2			
	民法概論	2			
	政治学概論	2			
	経済原論演習	2			
	憲法演習	2			
	民法演習	2			
	行政法演習	2			
	行政学演習	2			
	政治学演習	2			
	インターンシップⅠ	2			
	インターンシップⅡ	2			
	キャリア開発演習Ⅰ	2			
	キャリア開発演習Ⅱ	2			
	学際演習Ⅰ	2			
	学際演習Ⅱ	2			

— 34単位以上

第3類（杏林大学学則）

	学 際 演 習 III		2		
	学 際 演 習 IV		2		
	演 習		8		
	卒 業 研 究		4		

3 専門関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
1 類	人文科学 分 野	宗 教 学 A		2		— 16単位以上
		宗 教 学 B		2		
		哲 学 A		2		
		哲 学 B		2		
		倫 理 学 A		2		
		倫 理 学 B		2		
		歴 史 学 A		2		
		歴 史 学 B		2		
		文 学 A		2		
		文 学 B		2		
		音 楽 A		2		
		音 楽 B		2		
		人 文 科 学 概 論		2		
	社会科学 分 野	社 会 学 A		2		
		社 会 学 B		2		
		法 学 A		2		
		法学B（日本国憲法）		2		
		政 治 学 A		2		
		政 治 学 B		2		
		地 理 学 A		2		
		地 理 学 B		2		
		経 済 学 A		2		
		経 済 学 B		2		
		数 学 A		2		
		数 学 B		2		
		統 計 学 A		2		
		統 計 学 B		2		
		物 理 学 A		2		

第3類（杏林大学学則）

	自然科学分野	物理学 B		2		
		化学 A		2		
		化学 B		2		
		生物学 A		2		
		生物学 B		2		
		心理学 A		2		
		心理学 B		2		
2 類	第 1 外国語	自然科学概論		2		
		英語 I	2			
		英語 II	2			
		日本語 A	2			
	第 2 外国語	日本語 B	2			留学生のみ
		発展英語 A		2		最大8単位まで 発展科目に繰り 入れる
		発展英語 B		2		
		ドイツ語 A		2		
		ドイツ語 B		2		
		フランス語 A		2		
		フランス語 B		2		
		スペイン語 A		2		
		スペイン語 B		2		
		中国語 A		2		
		中国語 B		2		
		韓国語 A		2		
		韓国語 B		2		
3 類		プレゼミナール A	2			
		プレゼミナール B	2			
		基礎演習 I		2		
		基礎演習 II		2		
		特別演習 I		2		
		特別演習 II		2		
		特別演習 III		2		
		特別演習 IV		2		
		特別演習 V		2		
		特別演習 VI		2		
		プロジェクト演習 I		2		
		プロジェクト演習 II		2		

第3類（杏林大学学則）

	プロジェクト演習Ⅲ		2		
	プロジェクト演習Ⅳ		2		
4 類	体 育 実 技 A		1		
	体 育 実 技 B		1		
	体 育 理 論		2		
自 由 科 目					

4 教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必 修	選 択	自 由	
日	本	史	I			2	
日	本	史	II			2	
外	国	史	I			2	
外	国	史	II			2	
地	誌	学	I			2	
地	誌	学	II			2	

企業経営学科

1 基礎教養科目

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数			備 考
						必 修	選 択	自 由	
社 会 の し く み	I	2				8 単位以上			
社 会 の し く み	II	2							
近 現 代 史 論			2						
読 解 力 演 習			2						
文 章 力 演 習			2						
計 算 力 演 習			2						
国 語 力 演 習			2						

— 8単位以上

2 専門科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
	経 営 学 総 論 I		2		
	経 営 学 総 論 II		2		

第3類（杏林大学学則）

共通科目	マーケティング総論Ⅰ		2	— 32単位以上
	マーケティング総論Ⅱ		2	
	経営情報論Ⅰ		2	
	経営情報論Ⅱ		2	
	キャリア開発論Ⅰ		2	
	キャリア開発論Ⅱ		2	
	基礎簿記Ⅰ		2	
	基礎簿記Ⅱ		2	
	商業簿記Ⅰ		2	
	商業簿記Ⅱ		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	会社法Ⅰ		2	
	会社法Ⅱ		2	
	経営管理総論Ⅰ		2	
	経営管理総論Ⅱ		2	
	人材マネジメント論Ⅰ		2	
	人材マネジメント論Ⅱ		2	
	工業簿記Ⅰ		2	
	工業簿記Ⅱ		2	
経営戦略 コース 基本科目	基礎簿記各論Ⅰ		2	— 16単位以上
	基礎簿記各論Ⅱ		2	
	経営史Ⅰ		2	
	経営史Ⅱ		2	
	経営戦略論Ⅰ		2	
	経営戦略論Ⅱ		2	
	財務管理論Ⅰ		2	
	財務管理論Ⅱ		2	
	流通システム論Ⅰ		2	
	流通システム論Ⅱ		2	
	経営組織論Ⅰ		2	
	経営組織論Ⅱ		2	
	中小企業経営論		2	
	国際経営論		2	
	産業社会学Ⅰ		2	

第3類（杏林大学学則）

経営戦略 コース 発展科目	産業社会学Ⅱ	2		
	財務会計各論Ⅰ	2		
	財務会計各論Ⅱ	2		
	商業簿記各論Ⅰ	2		
	商業簿記各論Ⅱ	2		
	工業簿記各論Ⅰ	2		
	工業簿記各論Ⅱ	2		
	税法Ⅰ	2		
	税法Ⅱ	2		
	労働法Ⅰ	2		
	労働法Ⅱ	2		
	企業法総論	2		
	企業取引法	2		
	行政法Ⅰ	2		
	行政法Ⅱ	2		
	経済刑法	2		
	年金・労働保険法	2		
	国際法Ⅰ	2		
	国際法Ⅱ	2		
	行政学Ⅰ	2		
	行政学Ⅱ	2		
	国際政治学Ⅰ	2		
	国際政治学Ⅱ	2		
	経済原論Ⅰ	2		
	経済原論Ⅱ	2		
	財政金融論Ⅰ	2		
	財政金融論Ⅱ	2		
	憲法概論	2		
	民法概論	2		
	政治学概論	2		
	経済原論演習	2		
	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		

— 34単位以上

第3類（杏林大学学則）

	インターンシップⅠ		2		
	インターンシップⅡ		2		
	キャリア開発演習Ⅰ		2		
	キャリア開発演習Ⅱ		2		
	学際演習Ⅰ		2		
	学際演習Ⅱ		2		
	学際演習Ⅲ		2		
	学際演習Ⅳ		2		
	演習		8		
	卒業研究		4		
経営会計 コース 基本科目	財務会計各論Ⅰ		2		16単位以上
	財務会計各論Ⅱ		2		
	商業簿記各論Ⅰ		2		
	商業簿記各論Ⅱ		2		
	工業簿記各論Ⅰ		2		
	工業簿記各論Ⅱ		2		
	税法Ⅰ		2		
	税法Ⅱ		2		
	労働法Ⅰ		2		
	労働法Ⅱ		2		
	産業社会学Ⅰ		2		
	産業社会学Ⅱ		2		
	流通システム論Ⅰ		2		
	流通システム論Ⅱ		2		
	中小企業経営論		2		
	国際経営論		2		
	経営組織論Ⅰ		2		
	経営組織論Ⅱ		2		
	経営戦略論Ⅰ		2		
	経営戦略論Ⅱ		2		
	財務管理論Ⅰ		2		
	財務管理論Ⅱ		2		
	経営史Ⅰ		2		
	経営史Ⅱ		2		
	企業法総論		2		
	企業取引法		2		

第3類（杏林大学学則）

経営会計 コース 発展科目	家族法 I	2	— 34単位以上
	家族法 II	2	
	行政法 I	2	
	行政法 II	2	
	税法各論 I	2	
	税法各論 II	2	
	経済刑法	2	
	年金・労働保険法	2	
	国際法 I	2	
	国際法 II	2	
	行政学 I	2	
	行政学 II	2	
	国際政治学 I	2	
	国際政治学 II	2	
	経済原論 I	2	
	経済原論 II	2	
	財政金融論 I	2	
	財政金融論 II	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップ I	2	
	インターンシップ II	2	
	キャリア開発演習 I	2	
	キャリア開発演習 II	2	
	学際演習 I	2	
	学際演習 II	2	
	学際演習 III	2	
	学際演習 IV	2	
	演習	8	

第3類（杏林大学学則）

	卒業研究		4		

3 専門関連科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
1 類	人文科学分野	宗 教 学 A		2			16 単位以上
		宗 教 学 B		2			
		哲 学 A		2			
		哲 学 B		2			
		倫 理 学 A		2			
		倫 理 学 B		2			
		歴 史 学 A		2			
		歴 史 学 B		2			
		文 学 A		2			
		文 学 B		2			
		音 楽 A		2			
		音 楽 B		2			
		人 文 科 学 概 論		2			
	社会科学分野	社 会 学 A		2			
		社 会 学 B		2			
		法 学 A		2			
		法学B（日本国憲法）		2			
		政 治 学 A		2			
		政 治 学 B		2			
		地 理 学 A		2			
		地 理 学 B		2			
		経 済 学 A		2			
		経 済 学 B		2			
	自然科学分野	数 学 A		2			
		数 学 B		2			
		統 計 学 A		2			
		統 計 学 B		2			
		物 理 学 A		2			
		物 理 学 B		2			
		化 学 A		2			
		化 学 B		2			
		生 物 学 A		2			

第3類（杏林大学学則）

		生 物 学 B		2		
		心 理 学 A		2		
		心 理 学 B		2		
		自 然 科 学 概 論		2		
2 類	第 1 外 国 語	英 語 I	2			
		英 語 II	2			
		日 本 語 A	2			留学生のみ
		日 本 語 B	2			
	第 2 外 国 語	発 展 英 語 A		2		
		発 展 英 語 B		2		
		ド イ ツ 語 A		2		
		ド イ ツ 語 B		2		
		フ ラ ン ス 語 A		2		
		フ ラ ン ス 語 B		2		
		ス ペ イ ン 語 A		2		
		ス ペ イ ン 語 B		2		
		中 国 語 A		2		
		中 国 語 B		2		
		韓 国 語 A		2		
		韓 国 語 B		2		
3 類		プレゼミナール A	2			
		プレゼミナール B	2			
		基 礎 演 習 I		2		
		基 礎 演 習 II		2		
		特 別 演 習 I		2		
		特 別 演 習 II		2		
		特 別 演 習 III		2		
		特 別 演 習 IV		2		
		特 別 演 習 V		2		
		特 別 演 習 VI		2		
		プロジェクト演習 I		2		
		プロジェクト演習 II		2		
		プロジェクト演習 III		2		
		プロジェクト演習 IV		2		
4 類		体 育 実 技 A		1		
		体 育 実 技 B		1		

第3類（杏林大学学則）

	体 育 理 論		2		
自 由 科 目					

4 教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必 修	選 択	自 由	
日	本	史	I			2	
日	本	史	II			2	
外	国	史	I			2	
外	国	史	II			2	
地	誌	学	I			2	
地	誌	学	II			2	
職	業	指	導			2	

第3類（杏林大学学則）

別表3－2（平成26年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

1 基礎教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
社 会 の し く み I		2			8 単位以上
社 会 の し く み II		2			
地 域 と 大 学		2			
近 現 代 史 論			2		
読 解 力 演 習			2		
文 章 力 演 習			2		
計 算 力 演 習			2		
国 語 力 演 習			2		

2 専門科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
共通科目	国 際 関 係 論 I		2		32 単位以上
	国 際 関 係 論 II		2		
	経 済 原 論 I		2		
	経 済 原 論 II		2		
	憲 法 I		2		
	憲 法 II		2		
	民 法 総 論 I		2		
	民 法 総 論 II		2		
	日 本 政 治 論 I		2		
	日 本 政 治 論 II		2		
	社 会 福 祉 学 I		2		
	社 会 福 祉 学 II		2		
	環 境 保 全 論 I		2		
	環 境 保 全 論 II		2		
	健 康 科 学 I		2		
	健 康 科 学 II		2		
	財 政 金 融 論 I		2		

第3類（杏林大学学則）

	財 政 金 融 論 II		2		
	外 交 政 策 論 I		2		
	外 交 政 策 論 II		2		
	刑 事 法 概 論 I		2		
	刑 事 法 概 論 II		2		
	ヒューマンエコロジー I		2		
	ヒューマンエコロジー II		2		
国際政経 コース 基本科目	国 際 協 力 論 I		2		— 16 単位以上
	国 際 協 力 論 II		2		
	国 際 政 治 学 I		2		
	国 際 政 治 学 II		2		
	経 済 政 策 論 I		2		
	経 済 政 策 論 II		2		
	国 際 貿 易 論 I		2		
	国 際 貿 易 論 II		2		
	国 際 金 融 論 I		2		
	国 際 金 融 論 II		2		
	日 本 経 済 論		2		
	ア ジ ア 経 済 論		2		
	ア メ リ カ 経 済 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
	世 界 経 済 論		2		
	国 際 投 資 論		2		
	経 済 開 発 論		2		
	国 際 経 営 論		2		
	環 境 経 済 学 I		2		
	環 境 経 済 学 II		2		
	環 境 政 策 論		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	国 際 政 治 史		2		
	比 較 政 治 学		2		
	ア ジ ア 政 治 論		2		
	ア メ リ カ 政 治 論		2		
	ロ シ ア 政 治 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		

第3類（杏林大学学則）

国際政経 コース 発展科目	資源エネルギー論	2	34単位以上
	経営学総論Ⅰ	2	
	経営学総論Ⅱ	2	
	マーケティング総論Ⅰ	2	
	マーケティング総論Ⅱ	2	
	基礎簿記Ⅰ	2	
	基礎簿記Ⅱ	2	
	キャリア開発論Ⅰ	2	
	キャリア開発論Ⅱ	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップⅠ	2	
	インターンシップⅡ	2	
	キャリア開発演習Ⅰ	2	
	キャリア開発演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅰ	2	
	学際演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅲ	2	
	学際演習Ⅳ	2	
	演習	8	
	卒業研究	4	
法律行政 コース 基本科目	物権法Ⅰ	2	16単位以上
	物権法Ⅱ	2	
	家族法Ⅰ	2	
	家族法Ⅱ	2	
	刑法Ⅰ	2	
	刑法Ⅱ	2	
	行政学Ⅰ	2	
	行政学Ⅱ	2	

第3類（杏林大学学則）

	公 共 選 択 論 I		2		
	公 共 選 択 論 II		2		
法律行政 コース 発展科目	行 政 法 I		2		
	行 政 法 II		2		
	債 権 法 I		2		
	債 権 法 II		2		
	労 働 法 I		2		
	労 働 法 II		2		
	会 社 法 I		2		
	会 社 法 II		2		
	民 事 訴 訟 法		2		
	刑 事 訴 訟 法		2		
	経 済 刑 法		2		
	医 事 法 総 論		2		
	医 事 法 各 論		2		
	企 業 法 総 論		2		
	企 業 取 引 法		2		
	税 法 I		2		
	税 法 II		2		
	基 礎 簿 記 I		2		
	基 礎 簿 記 II		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	環 境 法		2		
	情 報 法 制		2		
	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2		
	比 較 政 治 学		2		— 34単位以上
	日 本 法 制 史		2		
	日 本 政 治 史		2		
	政 策 過 程 論		2		
	立 法 過 程 論		2		
	地 方 政 府 論		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 I		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 II		2		
	憲 法 概 論		2		
	民 法 概 論		2		

第3類（杏林大学学則）

	政治学概論	2		
	経済原論演習	2		
	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		
	インターンシップⅠ	2		
	インターンシップⅡ	2		
	キャリア開発演習Ⅰ	2		
	キャリア開発演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅰ	2		
	学際演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅲ	2		
	学際演習Ⅳ	2		
	演習	8		
	卒業研究	4		
環境福祉 コース 基本科目	社会保障論Ⅰ	2		16単位以上
	社会保障論Ⅱ	2		
	環境科学概論Ⅰ	2		
	環境科学概論Ⅱ	2		
	保健医療システム論Ⅰ	2		
	保健医療システム論Ⅱ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅰ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅱ	2		
	環境経済学Ⅰ	2		
	環境経済学Ⅱ	2		
	環境保健学	2		
	カウンセリング論	2		
	社会福祉政策論	2		
	児童福祉論	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅰ	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅱ	2		
	経済政策論Ⅰ	2		
	経済政策論Ⅱ	2		
	環境政策論	2		

第3類（杏林大学学則）

環境福祉 コース 発展科目	資源エネルギー論	2			
	産業社会学Ⅰ	2			
	産業社会学Ⅱ	2			
	経営戦略論Ⅰ	2			
	経営戦略論Ⅱ	2			
	国際協力論Ⅰ	2			
	国際協力論Ⅱ	2			
	医事法総論	2			
	医事法各論	2			
	環境法	2			
	年金・労働保険法	2			
	労働法Ⅰ	2			
	労働法Ⅱ	2			
	経営学総論Ⅰ	2			
	経営学総論Ⅱ	2			
	マーケティング総論Ⅰ	2			
	マーケティング総論Ⅱ	2			
	基礎簿記Ⅰ	2			
	基礎簿記Ⅱ	2			
	キャリア開発論Ⅰ	2			
	キャリア開発論Ⅱ	2			
	憲法概論	2			
	民法概論	2			
	政治学概論	2			
	経済原論演習	2			
	憲法演習	2			
	民法演習	2			
	行政法演習	2			
	行政学演習	2			
	政治学演習	2			
	インターンシップⅠ	2			
	インターンシップⅡ	2			
	キャリア開発演習Ⅰ	2			
	キャリア開発演習Ⅱ	2			
	学際演習Ⅰ	2			
	学際演習Ⅱ	2			

— 34単位以上

第3類（杏林大学学則）

	学 際 演 習 III		2		
	学 際 演 習 IV		2		
	演 習		8		
	卒 業 研 究		4		

3 専門関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
1 類	人文科学 分 野	宗 教 学 A		2		16 単位以上
		宗 教 学 B		2		
		哲 学 A		2		
		哲 学 B		2		
		倫 理 学 A		2		
		倫 理 学 B		2		
		歴 史 学 A		2		
		歴 史 学 B		2		
		文 学 A		2		
		文 学 B		2		
		音 楽 A		2		
		音 楽 B		2		
		人 文 科 学 概 論		2		
	社会科学 分 野	社 会 学 A		2		
		社 会 学 B		2		
		法 学 A		2		
		法学B（日本国憲法）		2		
		政 治 学 A		2		
		政 治 学 B		2		
		地 理 学 A		2		
		地 理 学 B		2		
		経 済 学 A		2		
		経 済 学 B		2		
		数 学 A		2		
		数 学 B		2		
		統 計 学 A		2		

第3類（杏林大学学則）

	自然科学分野	統計学 B		2		
		物理学 A		2		
		物理学 B		2		
		化学 A		2		
		化学 B		2		
		生物学 A		2		
		生物学 B		2		
		心理学 A		2		
		心理学 B		2		
		自然科学概論		2		
2 類	第 1 外国語	英語 I	2			
		英語 II	2			
		日本語 A	2			
		日本語 B	2			— 留学生のみ
	第 2 外国語	発展英語 A		2		
		発展英語 B		2		
		ドイツ語 A		2		
		ドイツ語 B		2		
		フランス語 A		2		
		フランス語 B		2		
		スペイン語 A		2		
		スペイン語 B		2		
		中国語 A		2		
		中国語 B		2		
		韓国語 A		2		
		韓国語 B		2		
		プレゼミナール A	2			
		プレゼミナール B	2			
		基礎演習 I		2		
		基礎演習 II		2		
3 類		特別演習 I		2		
		特別演習 II		2		
		特別演習 III		2		
		特別演習 IV		2		
		特別演習 V		2		
		特別演習 VI		2		

第3類（杏林大学学則）

	プロジェクト演習Ⅰ		2		
	プロジェクト演習Ⅱ		2		
	プロジェクト演習Ⅲ		2		
	プロジェクト演習Ⅳ		2		
4 類	体 育 実 技 A		1		
	体 育 実 技 B		1		
	体 育 理 論		2		
自 由 科 目					

4 教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必 修	選 択	自 由	
日 本 史 Ⅰ						2	
日 本 史 Ⅱ						2	
外 国 史 Ⅰ						2	
外 国 史 Ⅱ						2	
地 誌 学 Ⅰ						2	
地 誌 学 Ⅱ						2	
職 業 指 導						2	

企業経営学科

1 基礎教養科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必 修	選 択	自 由	
社 会 の し く み Ⅰ					2			
社 会 の し く み Ⅱ					2			
地 域 と 大 学					2			
近 現 代 史 論						2		
読 解 力 演 習						2		
文 章 力 演 習						2		
計 算 力 演 習						2		
国 語 力 演 習						2		

8 単位以上

第3類（杏林大学学則）

2 専門科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
共通科目	経 営 学 総 論 I		2		— 32単位以上
	経 営 学 総 論 II		2		
	マーケティング総論 I		2		
	マーケティング総論 II		2		
	経 営 情 報 論 I		2		
	経 営 情 報 論 II		2		
	キャリア開発論 I		2		
	キャリア開発論 II		2		
	基 礎 簿 記 I		2		
	基 礎 簿 記 II		2		
	商 業 簿 記 I		2		
	商 業 簿 記 II		2		
	財 務 会 計 論 I		2		
	財 務 会 計 論 II		2		
	会 社 法 I		2		
	会 社 法 II		2		
	経 営 管 理 総 論 I		2		
	経 営 管 理 総 論 II		2		
	人材マネジメント論 I		2		
	人材マネジメント論 II		2		
経営戦略 コース 基本科目	工 業 簿 記 I		2		— 16単位以上
	工 業 簿 記 II		2		
	基 礎 簿 記 各 論 I		2		
	基 礎 簿 記 各 論 II		2		
	経 営 史 I		2		
	経 営 史 II		2		
	経 営 戦 略 論 I		2		
	経 営 戦 略 論 II		2		
	財 務 管 理 論 I		2		
	財 務 管 理 論 II		2		
	流 通 シ ス テ ム 論 I		2		
	流 通 シ ス テ ム 論 II		2		
	経 営 組 織 論 I		2		

第3類（杏林大学学則）

	經 営 組 織 論 II		2		
経営戦略 コース 発展科目	中 小 企 業 經 営 論		2		— 3 4 単位以上
	国 際 經 営 論		2		
	産 業 社 会 学 I		2		
	産 業 社 会 学 II		2		
	財 務 会 計 各 論 I		2		
	財 務 会 計 各 論 II		2		
	商 業 簿 記 各 論 I		2		
	商 業 簿 記 各 論 II		2		
	工 業 簿 記 各 論 I		2		
	工 業 簿 記 各 論 II		2		
	税 法 I		2		
	税 法 II		2		
	労 働 法 I		2		
	労 働 法 II		2		
	企 業 法 総 論		2		
	企 業 取 引 法		2		
	行 政 法 I		2		
	行 政 法 II		2		
	経 済 刑 法		2		
	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	行 政 学 I		2		
	行 政 学 II		2		
	国 際 政 治 学 I		2		
	国 際 政 治 学 II		2		
	経 済 原 論 I		2		
	経 済 原 論 II		2		
	財 政 金 融 論 I		2		
	財 政 金 融 論 II		2		
憲 法 概 論		2			
民 法 概 論		2			
政 治 学 概 論		2			
経 済 原 論 演 習		2			

第3類（杏林大学学則）

	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		
	インターンシップⅠ	2		
	インターンシップⅡ	2		
	キャリア開発演習Ⅰ	2		
	キャリア開発演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅰ	2		
	学際演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅲ	2		
	学際演習Ⅳ	2		
	演習	8		
	卒業研究	4		
経営会計 コース 基本科目	財務会計各論Ⅰ	2	16単位以上	
	財務会計各論Ⅱ	2		
	商業簿記各論Ⅰ	2		
	商業簿記各論Ⅱ	2		
	工業簿記各論Ⅰ	2		
	工業簿記各論Ⅱ	2		
	税法Ⅰ	2		
	税法Ⅱ	2		
	労働法Ⅰ	2		
	労働法Ⅱ	2		
	産業社会学Ⅰ	2		
	産業社会学Ⅱ	2		
	流通システム論Ⅰ	2		
	流通システム論Ⅱ	2		
	中小企業経営論	2		
	国際経営論	2		
	経営組織論Ⅰ	2		
	経営組織論Ⅱ	2		
	経営戦略論Ⅰ	2		
	経営戦略論Ⅱ	2		
	財務管理論Ⅰ	2		

第3類（杏林大学学則）

経営会計 コース 発展科目	財 務 管 理 論 II	2		
	経 営 史 I	2		
	経 営 史 II	2		
	企 業 法 総 論	2		
	企 業 取 引 法	2		
	家 族 法 I	2		
	家 族 法 II	2		
	行 政 法 I	2		
	行 政 法 II	2		
	税 法 各 論 I	2		
	税 法 各 論 II	2		
	経 済 刑 法	2		
	年 金 ・ 労 働 保 険 法	2		
	国 際 法 I	2		
	国 際 法 II	2		
	行 政 学 I	2		
	行 政 学 II	2		
	国 際 政 治 学 I	2		
	国 際 政 治 学 II	2		
	経 済 原 論 I	2		
	経 済 原 論 II	2		
	財 政 金 融 論 I	2		
	財 政 金 融 論 II	2		
	憲 法 概 論	2		
	民 法 概 論	2		
	政 治 学 概 論	2		
	経 済 原 論 演 習	2		
	憲 法 演 習	2		
	民 法 演 習	2		
	行 政 法 演 習	2		
	行 政 学 演 習	2		
	政 治 学 演 習	2		
	インターンシップ I	2		
	インターンシップ II	2		
	キャリア開発演習 I	2		
	キャリア開発演習 II	2		
			— 34単位以上	

第3類（杏林大学学則）

	学	際	演	習	I		2		
	学	際	演	習	II		2		
	学	際	演	習	III		2		
	学	際	演	習	IV		2		
	演				習		8		
	卒	業	研	究			4		

3 専門関連科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必 修	選 択	自 由	
1 類	人文科学分野	宗 教 学	A			2		16 単位以上
		宗 教 学	B			2		
		哲 学	A			2		
		哲 学	B			2		
		倫 理 学	A			2		
		倫 理 学	B			2		
		歴 史 学	A			2		
		歴 史 学	B			2		
		文 学	A			2		
		文 学	B			2		
		音 楽	A			2		
		音 楽	B			2		
		人 文 科 学 概 論				2		
	社会科学分野	社 会 学	A			2		
		社 会 学	B			2		
		法 学	A			2		
		法学B（日本国憲法）				2		
		政 治 学	A			2		
		政 治 学	B			2		
		地 理 学	A			2		
		地 理 学	B			2		
		経 済 学	A			2		
		経 済 学	B			2		
		数 学	A			2		
		数 学	B			2		

第3類（杏林大学学則）

	自然科学分野	統計学 A		2		
		統計学 B		2		
		物理学 A		2		
		物理学 B		2		
		化学 A		2		
		化学 B		2		
		生物学 A		2		
		生物学 B		2		
		心理学 A		2		
		心理学 B		2		
		自然科学概論		2		
2 類	第 1 外国語	英語 I	2			
		英語 II	2			
		日本語 A	2			
		日本語 B	2			— 留学生のみ
	第 2 外国語	発展英語 A		2		
		発展英語 B		2		
		ドイツ語 A		2		
		ドイツ語 B		2		
		フランス語 A		2		
		フランス語 B		2		
		スペイン語 A		2		
		スペイン語 B		2		
		中国語 A		2		
		中国語 B		2		
		韓国語 A		2		
		韓国語 B		2		
		プレゼミナール A	2			
		プレゼミナール B	2			
		基礎演習 I		2		
		基礎演習 II		2		
3 類		特別演習 I		2		
		特別演習 II		2		
		特別演習 III		2		
		特別演習 IV		2		

第3類（杏林大学学則）

	特 別 演 習 V		2		
	特 別 演 習 VI		2		
	プロジェクト演習 I		2		
	プロジェクト演習 II		2		
	プロジェクト演習 III		2		
	プロジェクト演習 IV		2		
4 類	体 育 実 技 A		1		
	体 育 実 技 B		1		
	体 育 理 論		2		
自 由 科 目					

4 教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必 修	選 択	自 由	
日	本	史	I			2	
日	本	史	II			2	
外	国	史	I			2	
外	国	史	II			2	
地	誌	学	I			2	
地	誌	学	II			2	
職	業	指	導			2	

第3類（杏林大学学則）

別表3-3（平成28年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地 域 と 大 学		2			

コース別専門科目（政治）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 課 目	政 治 心 理 学		2		16単位以上
		政治コミュニケーション論		2		
		現代日本政治A		2		
		現代日本政治B		2		
		現代行政学A		2		
		現代行政学B		2		
		立法過程論		2		
		政策過程論		2		
		ローカル・ガバメント論A		2		
		ローカル・ガバメント論B		2		
		政治史		2		
		法制史		2		
	応 用 科 目	比較政治学		2		
		外交政策論A		2		
		外交政策論B		2		
		国際政治経済学		2		

第3類（杏林大学学則）

		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		ア メ リ カ 政 治 論		2		
		ア ジ ア 政 治 論		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		
		国 際 政 治 史		2		
		憲 法 I（統 治 機 構）		2		
		憲 法 II（人 権）		2		
		行 政 法 I		2		
		行 政 法 II		2		
		地 方 自 治 と 法		2		

コース別専門科目（経済）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	マ ク ロ 経 済 学		2		16単位 以上
		ミ ク ロ 経 済 学		2		
		国 際 経 済 学 A（貿 易）		2		
		国 際 経 済 学 B（金 融）		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		開 発 経 済 学		2		
		公 共 経 済 学		2		
		経 済 政 策 論		2		
		金 融 論		2		
		財 政 論		2		
	応 用 科 目	日 本 経 済 論		2		
		経 済 統 計		2		
		行 動 経 済 学		2		
		環 境 経 済 学		2		
		医 療 経 済 学		2		
		人 口 学		2		
		ア メ リ カ 経 済 論		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
		ア ジ ア 経 済 論		2		
		中東・アフリカの政治・経済		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		日 本 の 貿 易 政 策		2		

第3類（杏林大学学則）

		法と経済		2		
		経済学説史		2		
		ゲーム理論		2		

コース別専門科目（法律）

授業科目の名称			単位数			備考
			必修	選択	自由	
専門科目	コア科目	法情報調査		2		16単位以上
		法学の現代的課題		2		
		会社法Ⅰ（ガバナンス）		2		
		会社法Ⅱ（ファイナンス）		2		
		民法総論		2		
		物権法		2		
		契約法		2		
		家族法		2		
		憲法Ⅰ（統治機構）		2		
		憲法Ⅱ（人権）		2		
	応用科目	刑法Ⅰ（総論）		2		
		刑法Ⅱ（各論）		2		
		行政法Ⅰ		2		
		行政法Ⅱ		2		
		民事訴訟法		2		
		刑事訴訟法		2		
		租税法Ⅰ		2		
		租税法Ⅱ		2		
		企業法総論		2		
		企業取引法		2		
		国際法Ⅰ		2		
		国際法Ⅱ		2		
		環境法		2		
		労働法		2		
		社会保険法		2		
		医事法		2		
		法と経済		2		
		法制史		2		
		比較法文化論		2		
		メディア・コンテンツと法		2		

第3類（杏林大学学則）

		地 方 自 治 と 法		2		
		倒 産 処 理 と 法		2		
		不 動 産 取 引 と 法 I		2		
		不 動 産 取 引 と 法 II		2		

コース別専門科目（国際関係）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	国 際 政 治 学 A		2		16単位 以上
		国 際 政 治 学 B		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		比 較 政 治 学		2		
		マ ク ロ 経 済 学		2		
		外 交 政 策 論 A		2		
		外 交 政 策 論 B		2		
		国 際 機 構 論		2		
		政 策 過 程 論		2		
		国 際 政 治 史		2		
	応 用 科 目	国 際 法 I		2		
		国 際 法 II		2		
		開 発 経 済 学		2		
		現 代 行 政 学 A		2		
		政 治 心 理 学		2		
		ア ジ ア 経 済 論		2		
		ア ジ ア 政 治 論		2		
		ア メ リ カ 経 済 論		2		
		ア メ リ カ 政 治 論		2		
		国 際 関 係 論 演 習		2		
		国 際 協 力 論		2		
		国 際 経 営 論		2		
		国 際 経 済 学 A（貿易）		2		
		政 治 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2		
		中 東 ・ ア フ リ カ の 政 治 ・ 経 済		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		
		経 済 統 計		2		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	社 会 福 祉 学		2		16単位 以上
		健 康 社 会 学		2		
		健 康 科 学		2		
		人 口 学		2		
		児 童 福 祉 論		2		
		障 害 者 福 祉 論		2		
		老 人 福 祉 論		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		社 会 保 障 論 I		2		
		社 会 保 障 論 II		2		
		環 境 保 全 論 I		2		
		環 境 保 全 論 II		2		
	応 用 科 目	医 療 経 済 学		2		
		環 境 経 済 学		2		
		公 共 経 済 学		2		
		介 護 政 策 論		2		
		社会福祉援助技術総論 I		2		
		社会福祉援助技術総論 II		2		
		カ ウ ン セ リ ン グ 論		2		
		環 境 政 策 論		2		
		ローカル・ガバメント論 A		2		
		ローカル・ガバメント論 B		2		
		日 本 経 済 論		2		
		経 済 政 策 論		2		
		財 政 論		2		
		民 法 総 論		2		
		ヒューマンエコロジー		2		
		現 代 日 本 政 治 A		2		
		現 代 日 本 政 治 B		2		
		政 策 過 程 論		2		
		憲 法 I（統治機構）		2		
		憲 法 II（人権）		2		
		家 族 法		2		
		租 税 法 I		2		

第3類（杏林大学学則）

		労働法		2		
		医事法		2		
		環境法		2		

演習

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目		演 習 I			2		
		演 習 II			2		
		演 習 III			2		
		演 習 IV			2		
		演 習 V			2		
		演 習 VI			2		
		卒業研究 I			2		
		卒業研究 II			2		
	学 際 演 習	学 際 演 習 I			2		4 単位 以上
		学 際 演 習 II			2		
		学 際 演 習 III			2		
		学 際 演 習 IV			2		
		学 際 演 習 V			2		
		学 際 演 習 VI			2		
		学 際 演 習 VII			2		
		学 際 演 習 VIII			2		
	特 別 演 習	特 別 演 習 I			2		
		特 別 演 習 II			2		
		特 別 演 習 III			2		
		特 別 演 習 IV			2		
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I			2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II			2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III			2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV			2		

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
プレゼミ ナール	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A		2			
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B		2			

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
一般教養科目	生	活	と		2		10単位以上
	日	本	国		2		
	基	礎	簿		2		
	基	礎	簿		2		
	人	文	地		2		
	自	然	地		2		
	社		会		2		
	統		計		2		
	宗		教		2		
	哲				2		
	倫		理		2		
	心		理		2		
	歴		史		2		
	文				2		
	音				2		
	ダ	イ	バ		2		
	イ	バ	ー		2		
	シ	テ	ィ		2		
	入	門			2		
	人	文	科		2		
	学	概	論		2		
	自	然	科		2		
	学	概	論		2		

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英	語	I	2		
		英	語	II	2		
		英	語	III	2		
		英	語	IV	2		
	選択外国語	発	展	英	語	I	4単位以上
		発	展	英	語	II	
		中	国	語	A	2	
		中	国	語	B	2	
		韓	国	語	A	2	
		韓	国	語	B	2	
		フ	ラ	ン	ス	語	
		フ	ラ	ン	ス	語	

第3類（杏林大学学則）

		フ ラ ン ス 語 B		2		
		ド イ ツ 語 A		2		
		ド イ ツ 語 B		2		
		ス ペ イ ン 語 A		2		
		ス ペ イ ン 語 B		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
キャリア関連科目	基礎 教養 分野	時 事 問 題 研 究 A	2			
		時 事 問 題 研 究 B	2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 I	2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 II	2			
		計 算 力 演 習 I	2			
		計 算 力 演 習 II	2			
		情 報 処 理 演 習 A		2		
		情 報 処 理 演 習 B		2		
	ライフ デザイン 分野	ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ I	2			
		ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ II	2			
		キ ャ リ ア 開 発 論 I	2			
		キ ャ リ ア 開 発 論 II	2			
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 I	2			
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 II	2			
		イ ン タ ー ン シ ッ プ I		2		
		イ ン タ ー ン シ ッ プ II		2		

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
英 語 科 目	Oral Communication 1		2		
	Oral Communication 2		2		
	Academic Writing 1		2		
	Academic Writing 2		2		
	Academic Writing 3		2		
	Recent Topics in English		2		
	Business Communication 1		2		

第3類（杏林大学学則）

		Business Communication 2		2		
関 連 科 目		Critical Thinking		2		
		Global Career Development		2		
		Communication for Business		2		
		Japan Studies		2		
		Public Speaking		2		
グ ロ ー バ ル 専 門 科 目	Introductory	Introduction to Business		2		
		Introduction to Economics		2		
		Introduction to Global Health Issues		2		
		Introduction to International Relations		2		
	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2		
		Culture and Business		2		
		Global Health and Social Justice		2		
		Marketing		2		
		History of Innovation and Science		2		
		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日	本	史	I			2	
	日	本	史	II			2	
	外	国	史	I			2	
	外	国	史	II			2	
	地	誌	学	I			2	
	地	誌	学	II			2	
	職	業	指	導			2	
	体	育	理	論			1	
	体	育	実	技			1	

第3類（杏林大学学則）

企業経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地 域 と 大 学		2			

コース別専門科目（経営）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
コア科目		経営学総論Ⅰ		2		16単位以上
		経営学総論Ⅱ		2		
		経営管理論		2		
		経営組織論		2		
		現代企業論		2		
		経営戦略論		2		
		マーケティング総論		2		
		流通論		2		
		経営史		2		
		ミクロ経済学		2		
		財務会計論		2		
		管理会計論		2		
専門科目	応用科目	国際経営論		2		
		ベンチャー企業論		2		
		イノベーション論		2		
		経営情報論		2		
		財務管理論		2		

第3類（杏林大学学則）

	人 的 資 源 管 理	2	
	出 店 戦 略	2	
	販 売 戦 略	2	
	原 価 計 算	2	
	会 社 法 I（ガバナンス）	2	
	企 業 取 引 法	2	
	労 働 法	2	
	租 税 法 I	2	
	現 代 ビ ジ ネ ス 演 習	2	
	経 営 特 殊 講 義	2	
	国 際 政 治 学 A	2	
	国 際 政 治 学 B	2	
	国 際 経 済 学 A（貿易）	2	
	国 際 経 済 学 B（金融）	2	
	社 会 福 祉 学	2	
	社 会 福 祉 政 策 論	2	
	行 動 経 済 学	2	
	ゲ ー ム 理 論	2	

コース別専門科目（会計）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	財 務 会 計 論	2		16単位 以上
		国 際 会 計 論	2		
		監 査 論	2		
		管 理 会 計 論	2		
		商 業 簿 記 I	2		
		商 業 簿 記 II	2		
		工 業 簿 記	2		
		原 価 計 算	2		
		会 社 法 I（ガバナンス）	2		
		会 社 法 II（ファイナンス）	2		
		租 税 法 I	2		
		租 税 法 II	2		
		会 計 史	2		
		税 務 会 計 論	2		
		基 礎 簿 記 演 習	2		

第3類（杏林大学学則）

応用科目	財務諸表作成演習	2	
	会計特殊講義	2	
	企業法総論	2	
	企業取引法	2	
	経営学総論Ⅰ	2	
	経営学総論Ⅱ	2	
	経営管理論	2	
	経営組織論	2	
	現代企業論	2	
	経営戦略論	2	
	マーケティング総論	2	
	流通論	2	
	財務管理論	2	
	出店戦略	2	
	販売戦略	2	
	労働法	2	
	契約法	2	
	民法総論	2	
	国際法Ⅰ	2	
	国際法Ⅱ	2	
	環境経済学	2	
	マクロ経済学	2	
	ミクロ経済学	2	

演習

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門演習科目		演習Ⅰ			2		
		演習Ⅱ			2		
		演習Ⅲ			2		
		演習Ⅳ			2		
		演習Ⅴ			2		
		演習Ⅵ			2		
		卒業研究Ⅰ			2		
		卒業研究Ⅱ			2		
		学際演習Ⅰ			2		4単位
		学際演習Ⅱ			2		

第3類（杏林大学学則）

	学 際 演 習	学	際	演	習	Ⅲ		2		以上			
		学	際	演	習	Ⅳ		2					
		学	際	演	習	Ⅴ		2					
		学	際	演	習	Ⅵ		2					
		学	際	演	習	Ⅶ		2					
		学	際	演	習	Ⅷ		2					
	特 別 演 習	特	別	演	習	Ⅰ		2					
		特	別	演	習	Ⅱ		2					
		特	別	演	習	Ⅲ		2					
		特	別	演	習	Ⅳ		2					
	プ ロ ジ エ ク ト 演 習	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅰ		2	
		プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅱ		2	
		プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅲ		2	
		プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅳ		2	

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
プレゼミ ナール	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A	2			
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	生 活 と 法		2		10単位 以上
	日 本 国 憲 法		2		
	基 礎 簿 記 Ⅰ		2		
	基 礎 簿 記 Ⅱ		2		
	人 文 地 理 学		2		
	自 然 地 理 学		2		
	社 会 学		2		
	統 計 学		2		
	宗 教 学		2		
	哲 学		2		
	倫 理 学		2		
	心 理 学		2		

第3類（杏林大学学則）

	歴	史	学		2		
	文		学		2		
	音		楽		2		
	人	文	科	学	概	論	
	自	然	科	学	概	論	

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英 語	I		2			
		英 語	II		2			
		英 語	III		2			
		英 語	IV		2			
	選択外国語	発 展 英 語	I			2		4単位 以上
		発 展 英 語	II			2		
		中 国 語	A			2		
		中 国 語	B			2		
		韓 国 語	A			2		
		韓 国 語	B			2		
		フ ラ ン ス 語	A			2		
		フ ラ ン ス 語	B			2		
		ド イ ツ 語	A			2		
		ド イ ツ 語	B			2		
		ス ペ イ ン 語	A			2		
		ス ペ イ ン 語	B			2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
キャリア関連科目	基礎教養分野	時 事 問 題 研 究	A		2			
		時 事 問 題 研 究	B		2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習	I		2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習	II		2			
		計 算 力 演 習	I		2			
		計 算 力 演 習	II		2			
		情 報 処 理 演 習	A			2		

第3類（杏林大学学則）

		情報処理演習 B		2		
	ライフデザイン分野	ライフ・プランニング I	2			
		ライフ・プランニング II	2			
		キャリア開発論 I	2			
		キャリア開発論 II	2			
		キャリア開発演習 I	2			
		キャリア開発演習 II	2			
		インターンシップ I		2		
		インターンシップ II		2		

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
英語科目	Oral Communication 1		2		
	Oral Communication 2		2		
	Academic Writing 1		2		
	Academic Writing 2		2		
	Academic Writing 3		2		
	Recent Topics in English		2		
	Business Communication 1		2		
	Business Communication 2		2		
関連科目	Critical Thinking		2		
	Global Career Development		2		
	Communication for Business		2		
	Japan Studies		2		
	Public Speaking		2		
グローバル専門科目	Introductory	Introduction to Business	2		
		Introduction to Economics	2		
		Introduction to Global Health Issues	2		
		Introduction to International Relations	2		
	Progressive	Monetary Policy and Financial System	2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan	2		
		Culture and Business	2		
		Global Health and Social Justice	2		
		Marketing	2		
		History of Innovation & Science	2		

第3類（杏林大学学則）

		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日	本	史	I			2	
	日	本	史	II			2	
	外	国	史	I			2	
	外	国	史	II			2	
	地	誌	学	I			2	
	地	誌	学	II			2	
	職	業	指	導			2	
	体	育	理	論			1	
	体	育	実	技			1	

第3類（杏林大学学則）

別表3-4（平成31年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地 域 と 大 学		2			

コース別専門科目（政治）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コア科目	政治心理学	2		16単位以上
		政治コミュニケーション論	2		
		現代日本政治A	2		
		現代日本政治B	2		
		現代行政学A	2		
		現代行政学B	2		
		立法過程論	2		
		政策過程論	2		
		ローカル・ガバメント論A	2		
		ローカル・ガバメント論B	2		
		政治史	2		
		法制史	2		
	応用科目	比較政治学	2		
		外交政策論A	2		
		外交政策論B	2		
		国際政治経済学	2		
		国際政治学A	2		

第3類（杏林大学学則）

	国 際 政 治 学 B	2	
	ア メ リ カ 政 治 論	2	
	ア ジ ア 政 治 論	2	
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論	2	
	国 際 政 治 史	2	
	憲 法 I（統 治 機 構）	2	
	憲 法 II（人 権）	2	
	行 政 法 I	2	
	行 政 法 II	2	
	地 方 自 治 と 法	2	

コース別専門科目（経済）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	マ ク ロ 経 済 学	2		16 単位 以上
		ミ ク ロ 経 済 学	2		
		国 際 経 済 学 A（貿 易）	2		
		国 際 経 済 学 B（金 融）	2		
		国 際 政 治 経 済 学	2		
		開 発 経 済 学	2		
		公 共 経 済 学	2		
		経 済 政 策 論	2		
		金 融 論	2		
		財 政 論	2		
	応 用 科 目	日 本 経 済 論	2		
		経 済 統 計	2		
		行 動 経 済 学	2		
		環 境 経 済 学	2		
		医 療 経 済 学	2		
		人 口 学	2		
		ア メ リ カ 経 済 論	2		
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	2		
		ア ジ ア 経 済 論	2		
		中東・アフリカの政治・経済	2		
		社 会 福 祉 政 策 論	2		
		日 本 の 貿 易 政 策	2		
		法 と 経 済	2		

第3類（杏林大学学則）

		経済学説史		2		
		ゲーム理論		2		

コース別専門科目（法律）

授業科目の名称			単位数			備考
			必修	選択	自由	
専門科目	コア科目	法情報調査		2		16単位以上
		法学の現代的課題		2		
		会社法Ⅰ（ガバナンス）		2		
		会社法Ⅱ（ファイナンス）		2		
		民法総論		2		
		物権法		2		
		契約法		2		
		家族法		2		
		憲法Ⅰ（統治機構）		2		
		憲法Ⅱ（人権）		2		
		刑法Ⅰ（総論）		2		
		刑法Ⅱ（各論）		2		
	応用科目	行政法Ⅰ		2		
		行政法Ⅱ		2		
		民事訴訟法		2		
		刑事訴訟法		2		
		租税法Ⅰ		2		
		租税法Ⅱ		2		
		企業法総論		2		
		企業取引法		2		
		国際法Ⅰ		2		
		国際法Ⅱ		2		
		環境法		2		
		労働法		2		
		社会保障法		2		
		医事法		2		
		法と経済		2		
		法制史		2		
		比較法文化論		2		
		メディア・コンテンツと法		2		
		地方自治と法		2		

第3類（杏林大学学則）

		倒産処理と法		2		
		不動産取引と法Ⅰ		2		
		不動産取引と法Ⅱ		2		

コース別専門科目（国際関係）

授業科目の名称			単位数			備考
			必修	選択	自由	
専門科目	コア科目	国際政治学 A		2		16 単位以上
		国際政治学 B		2		
		国際政治経済学		2		
		比較政治学		2		
		マクロ経済学		2		
		外交政策論 A		2		
		外交政策論 B		2		
		国際機構論		2		
		政策過程論		2		
		国際政治史		2		
		国際法Ⅰ		2		
		国際法Ⅱ		2		
	応用科目	開発経済学		2		
		現代行政学 A		2		
		政治心理学		2		
		アジア経済論		2		
		アジア政治論		2		
		アメリカ経済論		2		
		アメリカ政治論		2		
		国際関係論演習		2		
		国際協力論		2		
		国際経営論		2		
		国際経済学 A（貿易）		2		
		政治コミュニケーション論		2		
		中東・アフリカの政治・経済		2		
		ヨーロッパ経済論		2		
		ヨーロッパ政治論		2		
		経済統計		2		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	社 会 福 祉 学		2		16 単位 以上
		社 会 学		2		
		健 康 科 学		2		
		人 口 学		2		
		児 童 福 祉 論		2		
		障 害 者 福 祉 論		2		
		老 人 福 祉 論		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		社 会 保 障 論 I		2		
		社 会 保 障 論 II		2		
		環 境 保 全 論 I		2		
		環 境 保 全 論 II		2		
	応 用 科 目	医 療 経 済 学		2		
		環 境 経 済 学		2		
		公 共 経 済 学		2		
		介 護 政 策 論		2		
		社会福祉援助技術総論 I		2		
		社会福祉援助技術総論 II		2		
		カ ウ ン セ リ ン グ 論		2		
		環 境 政 策 論		2		
		ローカル・ガバメント論 A		2		
		ローカル・ガバメント論 B		2		
		日 本 経 済 論		2		
		経 済 政 策 論		2		
		財 政 論		2		
		民 法 総 論		2		
		ヒ ュ ー マ ン エ コ ロ ジ ー		2		
		現 代 日 本 政 治 A		2		
		現 代 日 本 政 治 B		2		
		政 策 過 程 論		2		
		憲 法 I （ 統 治 機 構 ）		2		
		憲 法 II （ 人 権 ）		2		
		家 族 法		2		
		租 税 法 I		2		

第3類（杏林大学学則）

		労働法		2		
		医事法		2		
		環境法		2		

演習

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数			備 考
						必修	選択	自由	
専門演習科目		演習 I					2		
		演習 II					2		
		演習 III					2		
		演習 IV					2		
		演習 V					2		
		演習 VI					2		
		卒業研究 I					2		
		卒業研究 II					2		
	学際演習	学際演習 I					2		4単位以上
		学際演習 II					2		
		学際演習 III					2		
		学際演習 IV					2		
		学際演習 V					2		
		学際演習 VI					2		
		学際演習 VII					2		
		学際演習 VIII					2		
	特別演習	特別演習 I					2		
		特別演習 II					2		
		特別演習 III					2		
		特別演習 IV					2		
	プロジェクト演習	プロジェクト演習 I					2		
		プロジェクト演習 II					2		
		プロジェクト演習 III					2		
		プロジェクト演習 IV					2		

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
プレゼミ	プレゼミナール A		2			
ナール	プレゼミナール B		2			

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	生 活 と 法 法				2		10 単位 以上
	日 本 国 憲 法				2		
	基 礎 簿 記 I				2		
	基 礎 簿 記 II				2		
	人 文 地 理 学				2		
	自 然 地 理 学				2		
	社 会 計 学				2		
	統 計 学				2		
	宗 教 学				2		
	哲 学				2		
	倫 理 学				2		
	心 理 学				2		
	歴 史 学				2		
	文 学				2		
	音 楽				2		
	ダ イ バ ー シ テ ィ 入 門				2		
	人 文 科 学 概 論				2		
	自 然 科 学 概 論				2		

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
外 国 語 科 目	必 修 外 国 語	英 語 I		2			
		英 語 II		2			
		英 語 III		2			
		英 語 IV		2			
	選 択 外 国 語	発 展 英 語 I			2		4 単位 以上
		発 展 英 語 II			2		
		中 国 語 A			2		
		中 国 語 B			2		
		韓 国 語 A			2		
		韓 国 語 B			2		
		フ ラ ン ス 語	A		2		

第3類（杏林大学学則）

		フ ラ ン ス 語 B		2		
		ド イ ツ 語 A		2		
		ド イ ツ 語 B		2		
		ス ペ イ ン 語 A		2		
		ス ペ イ ン 語 B		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
キ ャ リ ア 関 連 科 目	基 礎 教 養 分 野	時 事 問 題 研 究 A	2			
		時 事 問 題 研 究 B	2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 I	2			
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 II	2			
		計 算 力 演 習 I	2			
		計 算 力 演 習 II	2			
		情 報 処 理 演 習 A		2		
		情 報 処 理 演 習 B		2		
	ラ イ フ デ ザ イ ン 分 野	ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ I	2			
		ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ II	2			
		キ ャ リ ア 開 発 論 I	2			
		キ ャ リ ア 開 発 論 II	2			
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 I	2			
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 II	2			
		イ ン タ ー ン シ ッ プ I		2		
		イ ン タ ー ン シ ッ プ II		2		

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
英 語 科 目	Oral Communication 1		2		
	Oral Communication 2		2		
	Academic Writing 1		2		
	Academic Writing 2		2		
	Academic Writing 3		2		
	Recent Topics in English		2		
	Business Communication 1		2		

第3類（杏林大学学則）

		Business Communication 2		2		
関 連 科 目		Critical Thinking		2		
		Global Career Development		2		
		Communication for Business		2		
		Japan Studies		2		
		Public Speaking		2		
グ ロ ー バ ル 専 門 科 目	Introductory	Introduction to Business		2		
		Introduction to Economics		2		
		Introduction to Global Health Issues		2		
		Introduction to International Relations		2		
	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2		
		Culture and Business		2		
		Global Health and Social Justice		2		
		Marketing		2		
		History of Innovation and Science		2		
		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日	本	史	I			2	
	日	本	史	II			2	
	外	国	史	I			2	
	外	国	史	II			2	
	地	誌	学	I			2	
	地	誌	学	II			2	
	体	育	理	論			1	
	体	育	実	技			1	

第3類（杏林大学学則）

企業経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地 域 と 大 学		2			

コース別専門科目（経営）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	経営学総論Ⅰ		2		16単位以上
		経営学総論Ⅱ		2		
		経営管理論		2		
		経営組織論		2		
		現代企業論		2		
		経営戦略論		2		
		マーケティング総論		2		
		流通論		2		
		経営史		2		
		ミクロ経済学		2		
		財務会計論		2		
		管理会計論		2		
		国際経営論		2		
		ベンチャー企業論		2		
		イノベーション論		2		
		経営情報論		2		

第3類（杏林大学学則）

応用科目	財務管理論	2	
	人的資源管理	2	
	現代ビジネス演習	2	
	経営特殊講義	2	
	出店戦略	2	
	販売戦略	2	
	原価計算	2	
	会社法Ⅰ（ガバナンス）	2	
	企業取引法	2	
	不動産取引と法Ⅰ	2	
	不動産取引と法Ⅱ	2	
	労働法	2	
	憲法Ⅰ（統治機構）	2	
	憲法Ⅱ（人権）	2	
	租税法Ⅰ	2	
	法と経済	2	
	国際経済学A（貿易）	2	
	国際経済学B（金融）	2	
	行動経済学	2	
	ゲーム理論	2	
	経済政策論	2	
	日本の貿易政策	2	
	社会福祉学	2	
	社会福祉政策論	2	
	国際政治学A	2	
	国際政治学B	2	
	現代日本政治A	2	
	現代日本政治B	2	

コース別専門科目（会計）

授業科目の名称						単位数		備考
						必修	選択	自由
		財務会計論					2	
		国際会計論					2	
		監査論					2	
		管理会計論					2	
		商業簿記Ⅰ					2	

第3類 (杏林大学学則)

専門科目	コア科目	商業簿記Ⅱ	2		16 単位 以上
		工業簿記	2		
		原価計算	2		
		会社法Ⅰ（ガバナンス）	2		
		会社法Ⅱ（ファイナンス）	2		
		租税法Ⅰ	2		
		租税法Ⅱ	2		
	応用科目	会計史	2		
		税務会計論	2		
		基礎簿記演習	2		
		財務諸表作成演習	2		
		会計特殊講義	2		
		企業法総論	2		
		企業取引法	2		
		経営学総論Ⅰ	2		
		経営学総論Ⅱ	2		
		経営管理論	2		
		経営組織論	2		
		現代企業論	2		
		経営戦略論	2		
		マーケティング総論	2		
		流通論	2		
		財務管理論	2		
		出店戦略	2		
		販売戦略	2		
		民法総論	2		
		契約法	2		
物権法	2				
家族法	2				
法学の現代的課題	2				
国際法Ⅰ	2				
国際法Ⅱ	2				
労働法	2				
社会保険法	2				
社会保険論Ⅰ	2				
社会保険論Ⅱ	2				
マクロ経済学	2				

第3類（杏林大学学則）

		ミ	ク	ロ	経	済	学		2		
		金			融		論		2		
		財			政		論		2		
		環	境	経	済	学			2		
		環	境	政	策	論			2		

演習

授 業 科 目 の 名 称							単 位 数			備 考
							必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目		演	習	I				2		
		演	習	II				2		
		演	習	III				2		
		演	習	IV				2		
		演	習	V				2		
		演	習	VI				2		
		卒 業 研 究	I					2		
		卒 業 研 究	II					2		
	学 際 演 習	学 際 演 習	I					2		4 単位 以上
		学 際 演 習	II					2		
		学 際 演 習	III					2		
		学 際 演 習	IV					2		
		学 際 演 習	V					2		
		学 際 演 習	VI					2		
		学 際 演 習	VII					2		
		学 際 演 習	VIII					2		
	特 別 演 習	特 別 演 習	I					2		
		特 別 演 習	II					2		
		特 別 演 習	III					2		
		特 別 演 習	IV					2		
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	I					2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	II					2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	III					2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	IV					2		

第3類（杏林大学学則）

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
プレゼミ ナール	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A			2			
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B			2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
一般教養科目	生 活 と 法				2		10 単位 以上
	日 本 国 憲 法				2		
	基 礎 簿 記 I				2		
	基 礎 簿 記 II				2		
	人 文 地 理 学				2		
	自 然 地 理 学				2		
	社 会 計 学				2		
	統 計 学				2		
	宗 教 学				2		
	哲 学				2		
	倫 理 学				2		
	心 理 学				2		
	歴 史 学				2		
	文 学				2		
	音 楽 論				2		
	人 文 科 学 概 論				2		
	自 然 科 学 概 論				2		

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英 語 I		2			
		英 語 II		2			
		英 語 III		2			
		英 語 IV		2			

第3類（杏林大学学則）

選択外国語	発展英語 I	2	4単位以上
	発展英語 II	2	
	中国語 A	2	
	中国語 B	2	
	韓国語 A	2	
	韓国語 B	2	
	フランス語 A	2	
	フランス語 B	2	
	ドイツ語 A	2	
	ドイツ語 B	2	
	スペイン語 A	2	
	スペイン語 B	2	

キャリア関連科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
キャリア関連科目	基礎教養分野	時事問題研究 A	2				
		時事問題研究 B	2				
		ライティング演習 I	2				
		ライティング演習 II	2				
		計算力演習 I	2				
		計算力演習 II	2				
		情報処理演習 A			2		
		情報処理演習 B			2		
	ライフデザイン分野	ライフ・プランニング I	2				
		ライフ・プランニング II	2				
		キャリア開発論 I	2				
		キャリア開発論 II	2				
		キャリア開発演習 I	2				
		キャリア開発演習 II	2				
		インターンシップ I			2		
		インターンシップ II			2		

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
英語科目	Oral Communication 1		2		
	Oral Communication 2		2		
	Academic Writing 1		2		
	Academic Writing 2		2		
	Academic Writing 3		2		
	Recent Topics in English		2		
	Business Communication 1		2		
	Business Communication 2		2		
関連科目	Critical Thinking		2		
	Global Career Development		2		
	Communication for Business		2		
	Japan Studies		2		
	Public Speaking		2		
グローバル専門科目	Introductory		2		
			2		
			2		
			2		
	Progressive		2		
			2		
			2		
			2		
			2		
			2		
			2		
			2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
教 職 課 程	日 本 史	I					2	
	日 本 史	II					2	
	外 国 史	I					2	
	外 国 史	II					2	
	地 誌 学	I					2	

第 3 類（杏林大学学則）

科目	地 体 体	誌 育 育	学 理 実	Ⅱ 論 技			2	
							1	
							1	

第 3 類（杏林大学学則）

別表 3－5

総 合 政 策 学 部 学 科 目 構 成
(令和 4 年度入学生から適用)
総合政策学科
ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベ ー シ ッ ク 政 治		1		4 単位 以上
	ベ ー シ ッ ク 経 済		1		
	ベ ー シ ッ ク 法 律		1		
	ベ ー シ ッ ク 国 際 関 係		1		
	ベ ー シ ッ ク 福 祉 政 策		1		
	ベ ー シ ッ ク 経 営		1		
	ベ ー シ ッ ク 会 計		1		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目(政治)

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	政 治 心 理 学		2		12 単位 以上
		政 治 コミュニケーション論		2		
		現 代 日 本 政 治 A (政 治)		2		
		現 代 日 本 政 治 B (行 政)		2		
		現 代 行 政 学 A		2		
		現 代 行 政 学 B		2		
		立 法 過 程 論		2		
		政 策 過 程 論		2		
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 A		2		
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 B		2		
		日 本 政 治 史 A		2		
		日 本 政 治 史 B		2		
	応 用 科 目	比 較 政 治 学		2		8 単位 以上
		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		外 交 政 策 論 A		2		
		外 交 政 策 論 B		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		ア メ リ カ 政 治 論		2		
		ア ジ ア 政 治 論		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		
		国 際 政 治 史		2		
		社 会 保 障 史		2		
		憲 法 I (統 治 機 構)		2		
		憲 法 II (人 権)		2		
		行 政 法 I (総 論)		2		
		行 政 法 II (救 済 法)		2		
		社 会 学		2		

第 3 類（杏林大学学則）

コース別専門科目（経済）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア リ ク ル ス 目	ミ ク ロ 経 済 学		2		12 単位 以上
		マ ク ロ 経 済 学		2		
		経 済 統 計		2		
		国 際 経 済 学 A（ 貿 易 ）		2		
		国 際 経 済 学 B（ 金 融 ）		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		開 発 経 済 学		2		
		公 共 経 済 学		2		
		経 済 政 策 論		2		
		金 融 論		2		
		財 政 論		2		
		日 本 経 済 論		2		
	応 用 科 目	行 動 経 済 学		2		8 単位 以上
		環 境 経 済 学		2		
		医 療 経 済 学		2		
		ア メ リ カ 経 済 論		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
		ア ジ ア 経 済 論		2		
		中 東・アフリカの政治・経済		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		法 と 経 済		2		
		経 済 学 説 史		2		
		ゲ ー ム 理 論		2		
		産 業 社 会 学		2		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（法律）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	憲 法 I（統 治 機 構） 憲 法 II（人 権） 民 法 I（民 法 入 門・総 則） 民 法 II（物 権・担 保 物 権） 民 法 III（債 権 総 論・各 論） 民 法 IV（家 族） 刑 法 I（総 論） 刑 法 II（各 論） 会 社 法 I（ガ バ ナ ン ス） 会 社 法 II（フ ァ イ ナ ン ス） 情 報 法 I（総 論） 情 報 法 II（各 論）		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		12 単位 以上
	応 用 科 目	法 学 の 現 代 的 課 題 I 法 学 の 現 代 的 課 題 II 行 政 法 I（総 論） 行 政 法 II（救 済 法） 不 動 産 取 引 と 法 企 業 法 総 論 企 業 取 引 法 労 働 法 医 事 法 倒 産 処 理 と 法 民 事 訴 訟 法 刑 事 訴 訟 法 租 税 法 I 租 税 法 II 国 際 法 I 国 際 法 II 法 と 経 済		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		8 単位 以上

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（国際関係）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	国 際 法 I		2		12 単位 以上
		国 際 法 II		2		
		国 際 機 構 論		2		
		国 際 協 力 論		2		
		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		外 交 政 策 論 A		2		
		外 交 政 策 論 B		2		
		比 較 政 治 学		2		
		国 際 政 治 史		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		マ ク ロ 経 済 学		2		
	応 用 科 目	開 発 経 済 学		2		8 単位 以上
		現 代 行 政 学 A		2		
		政 策 過 程 論		2		
		ア ジ ア 経 済 論		2		
		ア メ リ カ 経 済 論		2		
		国 際 経 営 論		2		
		国 際 経 済 学 A（貿易）		2		
		政 治 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2		
		中 東・アフリカの政治・経済		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
		経 済 統 計		2		
		ア ジ ア 政 治 論		2		
		ア メ リ カ 政 治 論		2		
		環 境 経 済 学		2		
		ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア ー ド 目	健 康 社 会 学		2		12 単位 以上
		医 療 経 済 学		2		
		児 童 福 祉 論		2		
		障 害 者 福 祉 論		2		
		老 人 福 祉 論		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		社 会 保 障 論		2		
		環 境 保 全 論		2		
		環 境 経 済 学		2		
		医 事 法		2		
		ローカル・ガバメント論 A		2		
		ローカル・ガバメント論 B		2		
	応 用 科 目	経 済 政 策 論		2		8 単位 以上
		財 政 論		2		
		公 共 経 済 学		2		
		憲 法 II（人 権）		2		
		民 法 I（民法入門・総則）		2		
		労 働 法		2		
		ヒューマンエコロジー		2		
		カウンセリング論		2		
		政 治 心 理 学		2		
		経 営 管 理 論		2		
		基 礎 簿 記 I		2		
		基 礎 簿 記 II		2		

演習

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目	演 習・卒 業 研 究	演 習 I		2		
		演 習 II		2		
		演 習 III		2		
		演 習 IV		2		
		演 習 V		2		

第 3 類（杏林大学学則）

		演 習 VI		2		
		卒 業 研 究 I		2		
		卒 業 研 究 II		2		
	学 際 演 習	学 際 演 習 I		2	2 単位 以上	
		学 際 演 習 II		2		
		学 際 演 習 III		2		
		学 際 演 習 IV		2		
		学 際 演 習 V		2		
		学 際 演 習 VI		2		
	特 別 演 習	特 別 演 習 I		2		
		特 別 演 習 II		2		
		特 別 演 習 III		2		
		特 別 演 習 IV		2		
	プロジェクト演習	プロジェクト演習 I		2		
		プロジェクト演習 II		2		
		プロジェクト演習 III		2		
		プロジェクト演習 IV		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング	コミュニティ・ベースド・ラーニング 概 論		2		
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 基礎 I		2		
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 基礎 II		2		
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 応用 I		2		
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 応用 II		2		

導入教育

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
導入教育	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A	2		
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B	2		
	時 事 問 題 研 究 A	2		
	時 事 問 題 研 究 B	2		

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I		2		6 単位 以上
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II		2		
	社 会 と 大 学 I		2		
	社 会 と 大 学 II（SDGs）		2		
	社 会 と 大 学 III		2		
	心 理 学		2		
	歴 史 学		2		
	文 学		2		
	音 楽		2		
	J a p a n S t u d i e s		2		
	M e d i a L i t e r a c y		2		
	C r i t i c a l T h i n k i n g		2		

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Focus on FormsⅠ	2				
		英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ	2				
		英語Ⅲ Focus on FormsⅡ	2				
		英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ	2				
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ			2		
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ			2		
		中国語Ⅰ			2		
		中国語Ⅱ			2		
		フランス語Ⅰ			2		
		フランス語Ⅱ			2		
		ドイツ語Ⅰ			2		
		ドイツ語Ⅱ			2		
		スペイン語Ⅰ			2		
		スペイン語Ⅱ			2		
		韓国語Ⅰ			2		
		韓国語Ⅱ			2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
キャリア関連科目		ライフ・プランニングⅠ	2			
		ライフ・プランニングⅡ	2			
		キャリア開発論Ⅰ	2			
		キャリア開発論Ⅱ	2			
		キャリア開発演習Ⅰ	2			
		キャリア開発演習Ⅱ	2			
		計算力演習Ⅰ		2		
		計算力演習Ⅱ		2		
		インターンシップⅠ		2		
		インターンシップⅡ		2		

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
アカデミックス スキル科目	Academic Writing I		2		
	Academic Writing II		2		
	Oral Communication I		2		
	Oral Communication II		2		
	Business Communication I		2		
	Business Communication II		2		
キャリア関 連科目	Organization Culture and Communication		2		
	Global Career Development		2		
ブリッジ 科目	Recent Topic in English		2		
	Writing for the Business World		2		
	Speaking in Professional Contexts		2		
	Writing for Social Sciences I		1		
	Writing for Social Sciences II		1		
	Writing for Social Sciences III		1		
	Writing for Social Sciences IV		1		
	Social Sciences Discussion I		1		
	Social Sciences Discussion II		1		
	Social Sciences Discussion III		1		
	Social Sciences Discussion IV		1		
海外演習	海外演習基礎 I		2		
	海外演習基礎 II		2		
	海外演習応用 I		2		
	海外演習応用 II		2		
	海外演習発展 I		2		
	海外演習発展 II		2		
	海外演習実践		2		
グローバル 専門科目	Introductory	Economics	2		
		International Relations	2		
		Law	2		
		Business & Management	2		
		Governance and Social Policy	2		
		Culture in Context	2		
	Progressive	Marketing Strategy	2		
		Business Strategy	2		
		Monetary Policy and Financial System	2		
		Fiscal Policy	2		
		Bioethics and Welfare Policy	2		
		Global Health Issues	2		
		History of Innovation & Science	2		

第3類（杏林大学学則）

データ・デザイン・プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
データ・デザイン・プログラム	情 報 社 会 論	2			
	I C T ビ ジ ネ ス 論		2		
	情 報 リ テ ラ シ ー A	1			
	情 報 リ テ ラ シ ー B	1			
	デ ー タ デ ザ イ ナ ー 概 論		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 応 用		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 基 礎		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 応 用		2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
教職課程科目	日 本 国 憲 法			2	
	日 本 史			2	
	外 国 史			2	
	地 理 学			2	
	地 誌 学			2	
	哲 学			2	
	倫 理 学			2	
体 育	健 康 と 体 育			2	

企業経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベ ー シ ッ ク 政 治		1		4 単位 以上
	ベ ー シ ッ ク 経 済		1		
	ベ ー シ ッ ク 法 律		1		
	ベ ー シ ッ ク 国 際 関 係		1		
	ベ ー シ ッ ク 福 祉 政 策		1		
	ベ ー シ ッ ク 経 営		1		
	ベ ー シ ッ ク 会 計		1		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（経営）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	経 営 学 総 論		2		12 単位 以上
		経 営 管 理 論		2		
		経 営 組 織 論		2		
		経 営 戦 略 論		2		
		イ ノ ベ ー シ ョ ン 論		2		
		社 会 学		2		
		ミ ク ロ 経 済 学		2		
		マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論		2		
		流 通 論		2		
		経 営 情 報 論		2		
		財 務 会 計 論		2		
		財 務 管 理 論		2		
	応 用 科 目	経 営 史		2		8 単位 以上
		産 業 社 会 学		2		
		現 代 企 業 論		2		
		国 際 経 営 論		2		
		ベ ン チ ャ ー 企 業 論		2		
		管 理 会 計 論		2		
		会 計 デ ー タ 分 析 論		2		
		出 店 戦 略		2		
		販 売 戦 略		2		
		原 価 計 算		2		
		会 社 法 I（ガバナンス）		2		
		会 社 法 II（ファイナンス）		2		
		企 業 取 引 法		2		
		行 動 経 済 学		2		
		ゲ ー ム 理 論		2		
		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		現 代 日 本 政 治 A（政治）		2		
		現 代 日 本 政 治 B（行政）		2		
		民 法 I（民法入門・総則）		2		

コース別専門科目（会計）

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
	コ	財 務 会 計 論		2		
		国 際 会 計 基 準 論		2		

第3類（杏林大学学則）

専門科目	ア	基礎簿記Ⅰ	2			12単位 以上
	基	基礎簿記Ⅱ	2			
	目	監査論	2			
	管	理会計論	2			
	財	務諸表論	2			
	商	業簿記	2			
	原	価計算	2			
	税	務会計論	2			
	会	社法Ⅰ（ガバナンス）	2			
	会	社法Ⅱ（ファイナンス）	2			
応用科目	会	計の歴史と課題	2			8単位 以上
	財	務諸表作成演習Ⅰ	2			
	財	務諸表作成演習Ⅱ	2			
	会	計データ分析	2			
	会	計データ分析演習	2			
	企	業法総論	2			
	企	業取引法	2			
	租	税法Ⅰ	2			
	租	税法Ⅱ	2			
	経	営学総論	2			
	経	営管理論	2			
	経	営組織論	2			
	マ	ーケティング総論	2			
	財	務管理論	2			
	労	働法	2			
	国	際法Ⅰ	2			
	国	際法Ⅱ	2			
	マ	クロ経済学	2			

第3類（杏林大学学則）

演習

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数			備 考
						必修	選択	自由	
専門演習科目	演習・卒業研究	演 習	I		2				
		演 習	II		2				
		演 習	III		2				
		演 習	IV		2				
		演 習	V		2				
		演 習	VI		2				
		卒業研究	I		2				
		卒業研究	II		2				
	学際演習	学 際 演 習	I		2				2 単位 以上
		学 際 演 習	II		2				
		学 際 演 習	III		2				
		学 際 演 習	IV		2				
		学 際 演 習	V		2				
		学 際 演 習	VI		2				
	特別演習	特 別 演 習	I		2				
		特 別 演 習	II		2				
		特 別 演 習	III		2				
		特 別 演 習	IV		2				
	プロジェクト演習	プロジェクト演習	I		2				
		プロジェクト演習	II		2				
		プロジェクト演習	III		2				
		プロジェクト演習	IV		2				
	コミュニティ・ベースド・ラーニング	コミュニティ・ベースド・ラーニング 概論			2				
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 基礎 I			2				
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 基礎 II			2				
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 応用 I			2				
		コミュニティ・ベースド・ラーニング 応用 II			2				

第3類（杏林大学学則）

導入教育

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
導入教育	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A	2			
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B	2			
	時 事 問 題 研 究 A	2			
	時 事 問 題 研 究 B	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I		2		6 単位 以上
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II		2		
	社 会 と 大 学 I		2		
	社 会 と 大 学 II (S D G s)		2		
	社 会 と 大 学 III		2		
	心 理 学		2		
	歴 史 学		2		
	文 学		2		
	音 楽		2		
	J a p a n S t u d i e s		2		
	M e d i a L i t e r a c y		2		
	C r i t i c a l T h i n k i n g		2		

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Focus on FormsⅠ	Ⅰ	2			
		英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ	Ⅰ	2			
		英語Ⅲ Focus on FormsⅡ	Ⅱ	2			
		英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ	Ⅱ	2			
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ			2		
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ			2		
		中国語Ⅰ	Ⅰ		2		
		中国語Ⅱ	Ⅱ		2		
		フランス語Ⅰ	Ⅰ		2		
		フランス語Ⅱ	Ⅱ		2		
		ドイツ語Ⅰ	Ⅰ		2		
		ドイツ語Ⅱ	Ⅱ		2		
		スペイン語Ⅰ	Ⅰ		2		
		スペイン語Ⅱ	Ⅱ		2		
		韓国語Ⅰ	Ⅰ		2		
		韓国語Ⅱ	Ⅱ		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
キャリア関連科目		ライフ・プランニングⅠ	Ⅰ	2			
		ライフ・プランニングⅡ	Ⅱ	2			
		キャリア開発論Ⅰ	Ⅰ	2			
		キャリア開発論Ⅱ	Ⅱ	2			
		キャリア開発演習Ⅰ	Ⅰ	2			
		キャリア開発演習Ⅱ	Ⅱ	2			
		計算力演習Ⅰ	Ⅰ		2		
		計算力演習Ⅱ	Ⅱ		2		
		インターンシップⅠ	Ⅰ		2		
		インターンシップⅡ	Ⅱ		2		

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
アカデミックス 科目	Academic Writing I		2		
	Academic Writing II		2		
	Oral Communication I		2		
	Oral Communication II		2		
	Business Communication I		2		
	Business Communication II		2		
キャリア関 連科目	Organization Culture and Communication		2		
	Global Career Development		2		
ブリッジ 科目	Recent Topic in English		2		
	Writing for the Business World		2		
	Speaking in Professional Contexts		2		
	Writing for Social Sciences I		1		
	Writing for Social Sciences II		1		
	Writing for Social Sciences III		1		
	Writing for Social Sciences IV		1		
	Social Sciences Discussion I		1		
	Social Sciences Discussion II		1		
	Social Sciences Discussion III		1		
	Social Sciences Discussion IV		1		
海外演習	海外演習基礎 I		2		
	海外演習基礎 II		2		
	海外演習応用 I		2		
	海外演習応用 II		2		
	海外演習発展 I		2		
	海外演習発展 II		2		
	海外演習実践		2		
グローバル専 門科目	Introductory		Economics	2	
			International Relations	2	
			Law	2	
			Business & Management	2	
			Governance and Social Policy	2	
			Culture in Context	2	
	Progressive		Marketing Strategy	2	
			Business Strategy	2	
			Monetary Policy and Financial System	2	
			Fiscal Policy	2	
			Bioethics and Welfare Policy	2	
			Global Health Issues	2	
			History of Innovation & Science	2	

第3類（杏林大学学則）

データ・デザイン・プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
データ・デザイン・プログラム	情 報 社 会 論	2			
	I C T ビ ジ ネ ス 論		2		
	情 報 リ テ ラ シ ー A	1			
	情 報 リ テ ラ シ ー B	1			
	デ ー タ デ ザ イ ナ ー 概 論		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 応 用		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 基 礎		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 応 用		2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
教職課程科目	日 本 国 憲 法			2	
	日 本 史			2	
	外 国 史			2	
	地 理 学			2	
	地 誌 学			2	
	哲 学			2	
	倫 理 学			2	
体 育	健 康 と 体 育			2	

第3類（杏林大学学則）

別表3-6

総合政策学部学科目構成

（令和8年度入学生から適用）

法律政治学科

ベーシック科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
ベーシック科目		1		4単位以上
ベーシック政治		1		
ベーシック経済		1		
ベーシック法律		1		
ベーシック国際関係		1		
ベーシック福祉政策		1		
ベーシック経営		1		
ベーシック会計		1		

学部共通専門科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
学部共通専門科目		2		10単位以上
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		
		2		

第3類 (杏林大学学則)

学科專門科目

[illegible]

第3類（杏林大学学則）

	グローバル・キャリア・ディベロップメント		2		
	Governance and Social Policy		2		
	Bioethics and Welfare Policy		2		
	Global Health Issues		2		

専門演習科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
専門演習科目	演習・卒業研究	演 習 I				2		
		演 習 II				2		
		演 習 III				2		
		演 習 IV				2		
		演 習 V				2		
		演 習 VI				2		
		卒 業 研 究 I				2		
		卒 業 研 究 II				2		
	学問領域別演習	学 問 領 域 別 演 習 I				2		学問領域別 演習と学際 演習を合わせ て2単位以上
		学 問 領 域 別 演 習 II				2		
	学際演習	学 際 演 習 I				2		
		学 際 演 習 II				2		
		学 際 演 習 III				2		
		学 際 演 習 IV				2		
	特別演習	特 別 演 習 I				2		
		特 別 演 習 II				2		
		特 別 演 習 III				2		
		特 別 演 習 IV				2		
	プロジェクト演習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I				2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II				2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III				2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV				2		
	海外演習	海 外 演 習 基 礎 I				2		
		海 外 演 習 基 礎 II				2		
		海 外 演 習 応 用 I				2		
		海 外 演 習 応 用 II				2		
		海 外 演 習 発 展 I				2		
		海 外 演 習 発 展 II				2		
		海 外 演 習 実 践				2		

第3類（杏林大学学則）

導入教育

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
導入教育	プレゼミナールⅠ	2			
	プレゼミナールⅡ	2			
	時事問題研究A	2			
	時事問題研究B	2			
	課題発見演習	2			
	情報リテラシーA	1			
	情報リテラシーB	1			
	情報社会論	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一般教養科目	保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		6単位 以上
	保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
	社会と大学Ⅰ		2		
	社会と大学Ⅱ		2		
	社会と大学Ⅲ		2		
	心理史学		2		
	歴史学		2		
	文学		2		
	音楽学		2		
	日本国憲法		2		
	日本国史		2		
	外国史		2		
	地理学		2		
	地誌学		2		
	哲学		2		
	倫理学		2		
	社会学		2		
体育	健康と体育		2		

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Listening and Speaking A	2			
		英語Ⅱ Reading and Writing A	2			
		英語Ⅲ Listening and Speaking B	2			
		英語Ⅳ Reading and Writing B	2			
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ		2		
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ		2		
		中 国 語 Ⅰ		2		
		中 国 語 Ⅱ		2		
		フ ラ ン ス 語 Ⅰ		2		
		フ ラ ン ス 語 Ⅱ		2		
		ド イ ツ 語 Ⅰ		2		
		ド イ ツ 語 Ⅱ		2		
		ス ペ イ ン 語 Ⅰ		2		
		ス ペ イ ン 語 Ⅱ		2		
		韓 国 語 Ⅰ		2		
		韓 国 語 Ⅱ		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
キャリア関連科目	ライフ・プランニング	2			
	キャリア開発基礎	2			
	キャリア開発演習Ⅰ	1			
	キャリア開発演習Ⅱ	1			
	インターンシップⅠ		2		
	インターンシップⅡ		2		
	申告型インターンシップA		2		
	申告型インターンシップB		2		

第3類（杏林大学学則）

プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
グローバル・キャリア・プログラム	Introduction to GCP		2		
	Academic Writing I		2		
	Academic Writing II		2		
	Academic Reading I		2		
	Academic Reading II		2		
	Organization Culture and Communication		2		
	Professional Writing		2		
	Reading for Social Sciences		2		
	Recent Topics in English		2		
	Speaking in Professional Contexts		2		
	Critical Thinking		2		
	Writing for Social Sciences		2		
	Social Sciences Discussion		2		
コミュニティ・ベースド・ラーニング	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ		2		
プログラミング・デザイン・データ・プログラマー	プログラミング A		2		
	プログラミング B		2		
	データ・サイエンス A		2		
	データ・サイエンス B		2		
	データ・デザイナー 概論		2		

第3類（杏林大学学則）

経済経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		1		4単位 以上
	ベーシック経済		1		
	ベーシック法律		1		
	ベーシック国際関係		1		
	ベーシック福祉政策		1		
	ベーシック経営		1		
	ベーシック会計		1		

学部共通専門科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
学部共通科目	現代日本政治A（政治）		2		10単位 以上
	現代日本政治B（行政）		2		
	憲法I（統治機構）		2		
	民法I（入門・財産法①）		2		
	国際政治史		2		
	国際政治学		2		
	健康社会学		2		
	社会福祉政策論		2		
	日本経済論		2		
	世界経済論		2		
	経営学総論		2		
	マーケティング総論		2		
	基礎簿記I		2		
	基礎簿記II		2		
	International Relations		2		
	Business Management		2		

第3類（杏林大学学則）

学科専門科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
学科専門科目	ミ	ク	ロ	経	済	学	24 単位 以上
	マ	ク	ロ	経	済	学	
	経	済	統	計			
	国	際	経	済	学		
	国	際	政	治	経	済	
	公	共	経	済	学		
	金	融	財	政	論		
	環	境	経	済	学		
	経	営	組	織	論		
	経	営	戦	略	論		
	イ	ノ	ベ	ー	シ	ョ	
	流	通	論				
	国	際	経	営	論		
	ベ	ン	チ	ャ	ー	企	
	組	織	行	動	論		
	消	費	者	行	動	論	
	財	務	会	計	論		
	管	理	会	計	論		
	国	際	会	計	論		
	監	査	論				
	税	務	会	計	論		
	商	業	簿	記	I		
	商	業	簿	記	II		
	会	計	デ	ー	タ	分	
	企	業	取	引	法		
	民	法	II	（	財	産	
	国	際	法	I			
	国	際	法	II			
	会	社	法	I	（	ガ	
	会	社	法	II	（	フ	
	社	会	保	障	論		
	I	C	T	ビ	ジ	ネ	
	グ	ロ	ー	パ	ル	・	
	E	c	o	n	o	m	
	i	c	s				

第3類（杏林大学学則）

	Marketing Strategy		2		
	Business Strategy		2		

専門演習科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
専門演習科目	演習・卒業研究	演 習 I				2		
		演 習 II				2		
		演 習 III				2		
		演 習 IV				2		
		演 習 V				2		
		演 習 VI				2		
		卒業研究 I				2		
		卒業研究 II				2		
	別演習 学問領域	学問領域別演習 I				2		学問領域別 演習と学際 演習を合わせ て2単位 以上
		学問領域別演習 II				2		
	学際演習	学 際 演 習 I				2		
		学 際 演 習 II				2		
		学 際 演 習 III				2		
		学 際 演 習 IV				2		
	特別演習	特 別 演 習 I				2		
		特 別 演 習 II				2		
		特 別 演 習 III				2		
		特 別 演 習 IV				2		
	プロジェクト 演習	プロジェクト演習 I				2		
		プロジェクト演習 II				2		
		プロジェクト演習 III				2		
		プロジェクト演習 IV				2		
	海外演習	海外演習基礎 I				2		
		海外演習基礎 II				2		
		海外演習応用 I				2		
		海外演習応用 II				2		
		海外演習発展 I				2		
		海外演習発展 II				2		
		海外演習実践				2		

第3類（杏林大学学則）

導入教育

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
導入教育	プレゼミナールⅠ	2			
	プレゼミナールⅡ	2			
	時事問題研究 A	2			
	時事問題研究 B	2			
	課題発見演習	2			
	情報リテラシー A	1			
	情報リテラシー B	1			
	情報社会論	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一般教養科目	保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
	保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
	社会と大学Ⅰ		2		
	社会と大学Ⅱ		2		
	社会と大学Ⅲ		2		
	心理史学		2		
	歴史学		2		
	文学		2		
	音楽学		2		
	日本国憲法		2		
	日本国史		2		
	外国史		2		
	地理学		2		
	地誌学		2		
	哲学		2		
	倫理学		2		
体育	健康と体育		2		

6単位
以上

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Listening and Speaking A	2			
		英語Ⅱ Reading and Writing A	2			
		英語Ⅲ Listening and Speaking B	2			
		英語Ⅳ Reading and Writing B	2			
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ		2		
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ		2		
		中 国 語Ⅰ		2		
		中 国 語Ⅱ		2		
		フ ラ ン ス 語Ⅰ		2		
		フ ラ ン ス 語Ⅱ		2		
		ド イ ツ 語Ⅰ		2		
		ド イ ツ 語Ⅱ		2		
		ス ペ イ ン 語Ⅰ		2		
		ス ペ イ ン 語Ⅱ		2		
		韓 国 語Ⅰ		2		
		韓 国 語Ⅱ		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
キャリア関連科目	ライフ・プランニング	2			
	キャリア開発基礎	2			
	キャリア開発演習Ⅰ	1			
	キャリア開発演習Ⅱ	1			
	インターンシップⅠ		2		
	インターンシップⅡ		2		
	申告型インターンシップA		2		
	申告型インターンシップB		2		

第3類（杏林大学学則）

プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
グローバル・キャリア・プログラム	Introduction to GCP		2		
	Academic Writing I		2		
	Academic Writing II		2		
	Academic Reading I		2		
	Academic Reading II		2		
	Organization Culture and Communication		2		
	Professional Writing		2		
	Reading for Social Sciences		2		
	Recent Topics in English		2		
	Speaking in Professional Contexts		2		
	Critical Thinking		2		
	Writing for Social Sciences		2		
	Social Sciences Discussion		2		
ラーニング ベースド・ コミュニティ・	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ		2		
	コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ		2		
データ・デザイン・ プログラム	プログラミング A		2		
	プログラミング B		2		
	データ・サイエンス A		2		
	データ・サイエンス B		2		
	データ・デザイナー 概 論		2		

第 3 類（杏林大学学則）

別表 4－1（平成 23 年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数		備 考
						必 修	選 択	
専 門 外 国 語 科 目	英 語 I	—	1	1	1			英語及び中国語（留学生 は日本語から 4 単位選択） 必修 12 単位
	英 語 I	—	2	1	1			
	英 語 II	—	1	1	1			
	英 語 II	—	2	1	1			
	英 語 III	—	1	1	1			
	英 語 III	—	2	1	1			
	英 語 IV	—	1	1	1			
	英 語 IV	—	2	1	1			
	中 国 語 I	—	1	1	1			
	中 国 語 I	—	2	1	1			
	中 国 語 II	—	1	1	1			
	中 国 語 II	—	2	1	1			
	中 国 語 III	—	1		1		1	
	中 国 語 III	—	2		1		1	
	中 国 語 IV	—	1		1		1	
	中 国 語 IV	—	2		1		1	
	日 本 語 I	—	1		1		1	
	日 本 語 I	—	2		1		1	
	日 本 語 II	—	1		1		1	
	日 本 語 II	—	2		1		1	
	日 本 語 III	—	1		1		1	
	日 本 語 III	—	2		1		1	
	日 本 語 IV	—	1		1		1	
	日 本 語 IV	—	2		1		1	
専 門 科	英 語 学	—	1	2	2			
	英 語 学	—	2	2	2			
	英 語 音 声 学	—	1	2	2			
	英 語 音 声 学	—	2	2	2			
	英 語 史	—	1				2	

第3類（杏林大学学則）

目 A	英 語 史 ー 2		2	
	日 米 比 較 文 化 概 論		2	
	英 語 の 文 化 誌		2	
	ヨーロッパの社会と文化		2	
	英 米 文 化 論		2	
	英 米 文 学		2	
	児 童 文 学 論		2	
	社 会 言 語 学 ー 1		2	
	社 会 言 語 学 ー 2		2	
	対 照 言 語 学 ー 1		2	
	対 照 言 語 学 ー 2		2	
	認 知 言 語 学 ー 1		2	
	認 知 言 語 学 ー 2		2	
	言語獲得のメカニズムー1		2	
	言語獲得のメカニズムー2		2	
	アメリカ近現代史概説		2	
	ヨーロッパ近現代史概説		2	
	英 語 文 法 I ー 1	1		
	英 語 文 法 I ー 2	1		
	英 語 文 法 II ー 1		1	
	英 語 文 法 II ー 2		1	
	英 語 会 話 ー 1	1		
	英 語 会 話 ー 2	1		
	実 用 英 語 I		1	
	実 用 英 語 II		1	
	実 用 英 語 III		1	
	実 用 英 語 IV		1	
	I T イ ン グ リ ッ シ ュ	1		
	英 語 作 文 ー 1	1		
	英 語 作 文 ー 2	1		
	現 代 英 語 購 読 I ー 1	1		
	現 代 英 語 購 読 I ー 2	1		
	現 代 英 語 購 読 II ー 1		1	
	現 代 英 語 購 読 II ー 2		1	
	実 用 英 語 演 習 I	1		
	実 用 英 語 演 習 II	1		
	実 用 英 語 演 習 III	1		

第3類（杏林大学学則）

	実用英語演習Ⅳ	1		
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専門科目 B	国際コミュニケーション論	2		英語ビジネスコミュニケーションコース
	グローバルビジネス論－1	2		
	グローバルビジネス論－2	2		
	現代北米ビジネス事情		2	
	現代ヨーロッパビジネス事情		2	
	マーケティング総論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ政治外交論		2	
	ヨーロッパ経済論		2	
	ヨーロッパ政治外交論		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	1		
	ビジネスイングリッシュⅡ	1		
	ビジネスイングリッシュⅢ	1		
	ビジネスイングリッシュⅣ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		1	
専門科目 C	英語教育論－1	2		英語教育コース
	英語教育論－2	2		
	英語音声学特論－1	2		
	英語音声学特論－2	2		
	英語学特論－1		2	
	英語学特論－2		2	
	英語科教育法－1		2	
	英語科教育法－2		2	
	児童英語教育論－1		2	
	児童英語教育論－2		2	
	児童英語教育教材研究		1	
	児童英語教育実習		1	
	英語発音聴取	1		
	英語文章表現法－1	1		
	英語文章表現法－2	1		

第3類（杏林大学学則）

	英語聴解・討論－1		1	
	英語聴解・討論－2		1	
専門 関連 科目 A	比較文化論Ⅰ－1		2	
	比較文化論Ⅰ－2		2	
	比較文化論Ⅱ－1		2	
	比較文化論Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅰ－1		2	
	地域圏研究Ⅰ－2		2	
	地域圏研究Ⅱ－1		2	
	地域圏研究Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅲ－1		2	
	地域圏研究Ⅲ－2		2	
	地域圏研究Ⅳ－1		2	
	地域圏研究Ⅳ－2		2	
	地域圏研究Ⅴ－1		2	
	地域圏研究Ⅴ－2		2	
	地域圏研究Ⅵ－1		2	
	地域圏研究Ⅵ－2		2	
	国際関係論Ⅰ		2	
	国際関係論Ⅱ		2	
	経済原論Ⅰ		2	
	経済原論Ⅱ		2	
	西洋史－1		2	
	西洋史－2		2	
	中国史－1		2	
	中国史－2		2	
	日本史－1		2	
	日本史－2		2	
	言語学－1		2	
	言語学－2		2	
	言語と文化－1		2	
	言語と文化－2		2	
	神話学－1		2	
	神話学－2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－2		2	

第3類（杏林大学学則）

	英語総合講座－1		2	
	英語総合講座－2		2	
	英語特論－1		2	
	英語特論－2		2	
	コミュニケーション概論－1	2		
	コミュニケーション概論－2	2		
	基礎演習－1	1		
	基礎演習－2	1		
	キャリア指導Ⅰ－1	1		
	キャリア指導Ⅰ－2	1		
	キャリア指導Ⅱ－1	1		
	キャリア指導Ⅱ－2	1		
	ホスピタリティ実習－1	1		
	ホスピタリティ実習－2	1		
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語Ⅰ－1		1	
	ドイツ語Ⅰ－2		1	
	ドイツ語Ⅱ－1		1	
	ドイツ語Ⅱ－2		1	
	ドイツ語Ⅲ－1		1	
	ドイツ語Ⅲ－2		1	
	フランス語Ⅰ－1		1	
	フランス語Ⅰ－2		1	
	フランス語Ⅱ－1		1	
	フランス語Ⅱ－2		1	
	フランス語Ⅲ－1		1	
	フランス語Ⅲ－2		1	
	スペイン語Ⅰ－1		1	
	スペイン語Ⅰ－2		1	
	スペイン語Ⅱ－1		1	
	スペイン語Ⅱ－2		1	
	スペイン語Ⅲ－1		1	
	スペイン語Ⅲ－2		1	

第3類（杏林大学学則）

	インドネシア語Ⅰ－1	1	
	インドネシア語Ⅰ－2	1	
	インドネシア語Ⅱ－1	1	
	インドネシア語Ⅱ－2	1	
	インドネシア語Ⅲ－1	1	
	インドネシア語Ⅲ－2	1	
	韓国語Ⅰ－1	1	
	韓国語Ⅰ－2	1	
	韓国語Ⅱ－1	1	
	韓国語Ⅱ－2	1	
	韓国語Ⅲ－1	1	
	韓国語Ⅲ－2	1	
	口語英語Ⅰ－1	1	
	口語英語Ⅰ－2	1	
	口語英語Ⅱ－1	1	
	口語英語Ⅱ－2	1	
	口語英語Ⅲ－1	1	
	口語英語Ⅲ－2	1	
	口語英語Ⅳ－1	1	
	口語英語Ⅳ－2	1	
	口語中国語Ⅰ－1	1	
	口語中国語Ⅰ－2	1	
	口語中国語Ⅱ－1	1	
	口語中国語Ⅱ－2	1	
	口語中国語Ⅲ－1	1	
	口語中国語Ⅲ－2	1	
	口語中国語Ⅳ－1	1	
	口語中国語Ⅳ－2	1	
専門 関 連 科 目 C	哲学－1	2	
	哲学－2	2	
	宗教学－1	2	
	宗教学－2	2	
	歴史学－1	2	
	歴史学－2	2	
	文学－1	2	
	文学－2	2	

第3類（杏林大学学則）

	音 楽 一 1	2	
	音 楽 一 2	2	
	日 本 国 憲 法 学	2	
	政 治 学 一 1	2	
	政 治 学 一 2	2	
	地 理 学 一 1	2	
	地 理 学 一 2	2	
	経 済 学 一 1	2	
	経 済 学 一 2	2	
	数 学 一 1	2	
	数 学 一 2	2	
	物 理 学 一 1	2	
	物 理 学 一 2	2	
	化 学 一 1	2	
	化 学 一 2	2	
	生 物 学 一 1	2	
	生 物 学 一 2	2	
	健 康 科 学	2	
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー	2	
	心 理 学 一 1	2	
	心 理 学 一 2	2	
	統 計 学 一 1	2	
	統 計 学 一 2	2	
	情 報 処 理	2	
	体 育 理 論	2	
	体 育 実 技 一 1	1	
	体 育 実 技 一 2	1	
専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 育 概 説	2	
	日 本 語 教 授 法 概 論	2	
	日 本 語 学 概 論	2	
	日 本 語 音 声 学	2	
	日 本 語 文 法 論	2	
	日 本 語 意 味 論	2	
	日 本 語 教 材 教 具 論	2	
	試 験 と 評 価	2	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 語 彙 論		2	
	日 本 語 文 字 表 記 概 説		2	
	日 本 語 史		2	
	日 本 人 の 言 語 行 動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日 本 語 教 授 法 演 習		1	
	日 本 語 教 育 実 習		1	
	日 本 語 学 演 習		1	
専 科 門 目 関 連 E	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 科 由 目				

中国語学科

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数		備 考
						必 修	選 択	
専 門 外 国 語 科 目	英 語	I	—	1	1			英語及び中国語（留学生 は日本語から8単位選択） 必修16単位
	英 語	I	—	2	1			
	英 語	II	—	1	1			
	英 語	II	—	2	1			
	英 語	III	—	1	1			
	英 語	III	—	2	1			
	英 語	IV	—	1	1			
	英 語	IV	—	2	1			
	中 国 語	I	—	1	1			
	中 国 語	I	—	2	1			
	中 国 語	II	—	1	1			
	中 国 語	II	—	2	1			
	中 国 語	III	—	1	1			
	中 国 語	III	—	2	1			
	中 国 語	IV	—	1	1			
	中 国 語	IV	—	2	1			

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 I ー 1		1	
	日 本 語 I ー 2		1	
	日 本 語 II ー 1		1	
	日 本 語 II ー 2		1	
	日 本 語 III ー 1		1	
	日 本 語 III ー 2		1	
	日 本 語 IV ー 1		1	
	日 本 語 IV ー 2		1	
	日 本 語 V ー 1		1	
	日 本 語 V ー 2		1	
	日 本 語 VI ー 1		1	
	日 本 語 VI ー 2		1	
	日 本 語 VII ー 1		1	
	日 本 語 VII ー 2		1	
専 門 科 目 A	異文化コミュニケーション	2		
	日 本 文 化 論		2	
	インテンシブ中国語 I ー 1	1		
	インテンシブ中国語 I ー 2	1		
	インテンシブ中国語 II ー 1	1		
	インテンシブ中国語 II ー 2	1		
	インテンシブ中国語 III ー 1	1		
	インテンシブ中国語 III ー 2	1		
	インテンシブ中国語 IV ー 1	1		
	インテンシブ中国語 IV ー 2	1		
	実 用 中 国 語 演 習 I		1	
	実 用 中 国 語 演 習 II		1	
	実 用 中 国 語 演 習 III		1	
	実 用 中 国 語 演 習 IV		1	
	発 展 英 語 ー 1		1	
	発 展 英 語 ー 2		1	
	中国語文章表現法 ー 1		1	
	中国語文章表現法 ー 2		1	
	中国語聴解・討論 ー 1		1	
	中国語聴解・討論 ー 2		1	
	ゼ ミ ナ ー ル ー 1	2		

第3類（杏林大学学則）

	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専門科目 B	中国語学概論－1	2		
	中国語学概論－2	2		
	中国語音声学－1	2		
	中国語音声学－2	2		
	中国語コミュニケーション論－1	2		
	中国語コミュニケーション論－2	2		
	中国語通訳概論－1	2		
	中国語通訳概論－2	2		
	中国語翻訳概論－1	2		
	中国語翻訳概論－2	2		
	中国文学史－1		2	
	中国文学史－2		2	
	中国古典概説－1		2	
	中国古典概説－2		2	
	日中比較文化論Ⅰ－1		2	
	日中比較文化論Ⅰ－2		2	
	日中コミュニケーション研究－1		2	
	日中コミュニケーション研究－2		2	
	中国経済概論－1		2	
	中国経済概論－2		2	
	アジア経済論		2	
	中国政治外交論		2	
	実践中国語演習Ⅰ－1		1	
	実践中国語演習Ⅰ－2		1	
	実践中国語演習Ⅱ－1		1	
	実践中国語演習Ⅱ－2		1	
	実践中国語演習Ⅲ－1		1	
	実践中国語演習Ⅲ－2		1	
	実践中国語演習Ⅳ－1		1	
	実践中国語演習Ⅳ－2		1	
	時事中国語－1		1	
	時事中国語－2		1	

第3類（杏林大学学則）

	商 業 中 国 語 一 1		1	
	商 業 中 国 語 一 2		1	
専 門 関 連 科 目 A	比 較 文 化 論 I 一 1		2	
	比 較 文 化 論 I 一 2		2	
	比 較 文 化 論 II 一 1		2	
	比 較 文 化 論 II 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 I 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 I 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 II 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 II 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 III 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 III 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 IV 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 IV 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 V 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 V 一 2		2	
	地 域 圏 研 究 VI 一 1		2	
	地 域 圏 研 究 VI 一 2		2	
	国 際 関 係 論 I		2	
	国 際 関 係 論 II		2	
	経 済 原 論 I		2	
	経 済 原 論 II		2	
	西 洋 史 一 1		2	
	西 洋 史 一 2		2	
	中 国 史 一 1		2	
	中 国 史 一 2		2	
	日 本 史 一 1		2	
	日 本 史 一 2		2	
	言 語 学 一 1		2	
	言 語 学 一 2		2	
	言 語 と 文 化 一 1		2	
	言 語 と 文 化 一 2		2	
	神 話 学 一 1		2	
	神 話 学 一 2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論-1		2	

第3類（杏林大学学則）

	クリエイティブ・コミュニケーション論-2		2	
	英語総合講座-1		2	
	英語総合講座-2		2	
	英語特論-1		2	
	英語特論-2		2	
	コミュニケーション概論-1	2		
	コミュニケーション概論-2	2		
	基礎演習-1	1		
	基礎演習-2	1		
	キャリア指導Ⅰ-1	1		
	キャリア指導Ⅰ-2	1		
	キャリア指導Ⅱ-1	1		
	キャリア指導Ⅱ-2	1		
	ホスピタリティ実習-1	1		
	ホスピタリティ実習-2	1		
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関 連 科 目 B	ドイツ語Ⅰ-1		1	
	ドイツ語Ⅰ-2		1	
	ドイツ語Ⅱ-1		1	
	ドイツ語Ⅱ-2		1	
	ドイツ語Ⅲ-1		1	
	ドイツ語Ⅲ-2		1	
	フランス語Ⅰ-1		1	
	フランス語Ⅰ-2		1	
	フランス語Ⅱ-1		1	
	フランス語Ⅱ-2		1	
	フランス語Ⅲ-1		1	
	フランス語Ⅲ-2		1	
	スペイン語Ⅰ-1		1	
	スペイン語Ⅰ-2		1	
	スペイン語Ⅱ-1		1	
	スペイン語Ⅱ-2		1	

第3類（杏林大学学則）

	スペイン語Ⅲ－1	1	
	スペイン語Ⅲ－2	1	
	インドネシア語Ⅰ－1	1	
	インドネシア語Ⅰ－2	1	
	インドネシア語Ⅱ－1	1	
	インドネシア語Ⅱ－2	1	
	インドネシア語Ⅲ－1	1	
	インドネシア語Ⅲ－2	1	
	韓国語Ⅰ－1	1	
	韓国語Ⅰ－2	1	
	韓国語Ⅱ－1	1	
	韓国語Ⅱ－2	1	
	韓国語Ⅲ－1	1	
	韓国語Ⅲ－2	1	
	口語英語Ⅰ－1	1	
	口語英語Ⅰ－2	1	
	口語英語Ⅱ－1	1	
	口語英語Ⅱ－2	1	
	口語英語Ⅲ－1	1	
	口語英語Ⅲ－2	1	
	口語英語Ⅳ－1	1	
	口語英語Ⅳ－2	1	
	口語中国語Ⅰ－1	1	
	口語中国語Ⅰ－2	1	
	口語中国語Ⅱ－1	1	
	口語中国語Ⅱ－2	1	
	口語中国語Ⅲ－1	1	
	口語中国語Ⅲ－2	1	
	口語中国語Ⅳ－1	1	
	口語中国語Ⅳ－2	1	
専門 関連	哲学－1	2	
	哲学－2	2	
	宗教学－1	2	
	宗教学－2	2	
	歴史学－1	2	
	歴史学－2	2	

第3類（杏林大学学則）

科目C	文	学	—	1	2				
	文	学	—	2	2				
	音	楽	—	1	2				
	音	楽	—	2	2				
	日	本	国	憲	法	2			
	法				学	2			
	政	治	学	—	1	2			
	政	治	学	—	2	2			
	地	理	学	—	1	2			
	地	理	学	—	2	2			
	経	済	学	—	1	2			
	経	済	学	—	2	2			
	数	学	—	1	2				
	数	学	—	2	2				
	物	理	学	—	1	2			
	物	理	学	—	2	2			
	化	学	—	1	2				
	化	学	—	2	2				
	生	物	学	—	1	2			
	生	物	学	—	2	2			
	健	康	科	学	2				
	食と健康のエコロジー				2				
	心	理	学	—	1	2			
	心	理	学	—	2	2			
	統	計	学	—	1	2			
	統	計	学	—	2	2			
	情	報	処	理	2				
	体	育	理	論	2				
	体	育	実	技	—	1			
	体	育	実	技	—	2			
専門	日	本	語	教	育	概	説	2	
	日	本	語	教	授	法	概	論	2
	日	本	語	学	概	論	2		
	日	本	語	音	声	学	2		
	日	本	語	文	法	論	2		

第 3 類（杏林大学学則）

関連科目 D	日本語意味論		2	
	日本語教材教具論		2	
	試験と評価		2	
	日本語語彙論		2	
	日本語文字表記概説		2	
	日本語史		2	
	日本人の言語行動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日本語教授法演習		1	
	日本語教育実習		1	
	日本語学演習		1	
	日本語教育演習		1	
専科 門目 関連 E	他学部 の 設置 科目			
自科 由目				

観光交流文化学科

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数		備 考
						必 修	選 択	
専 門 外 国 語 科 目	英 語	I	—	1	1			英語及び中国語 8 単位、又は 英語及び韓国語 8 単位 (留 学 生は日本語 8 単位) 必修 1 6 単位
	英 語	I	—	2	1			
	英 語	II	—	1	1			
	英 語	II	—	2	1			
	英 語	III	—	1	1			
	英 語	III	—	2	1			
	英 語	IV	—	1	1			
	英 語	IV	—	2	1			
	中 国 語	I	—	1			1	
	中 国 語	I	—	2			1	
	中 国 語	II	—	1			1	
	中 国 語	II	—	2			1	
	中 国 語	III	—	1			1	

第3類（杏林大学学則）

中国語Ⅲ－2	1	
中国語Ⅳ－1	1	
中国語Ⅳ－2	1	
韓国語Ⅰ－1	1	
韓国語Ⅰ－2	1	
韓国語Ⅱ－1	1	
韓国語Ⅱ－2	1	
韓国語Ⅲ－1	1	
韓国語Ⅲ－2	1	
韓国語Ⅳ－1	1	
韓国語Ⅳ－2	1	
日本語Ⅰ－1	1	
日本語Ⅰ－2	1	
日本語Ⅱ－1	1	
日本語Ⅱ－2	1	
日本語Ⅲ－1	1	
日本語Ⅲ－2	1	
日本語Ⅳ－1	1	
日本語Ⅳ－2	1	
日本語Ⅴ－1	1	
日本語Ⅴ－2	1	
日本語Ⅵ－1	1	
日本語Ⅵ－2	1	
日本語Ⅶ－1	1	
日本語Ⅶ－2	1	
インテンシブ中国語Ⅰ－1	1	
インテンシブ中国語Ⅰ－2	1	
インテンシブ中国語Ⅱ－1	1	
インテンシブ中国語Ⅱ－2	1	
インテンシブ中国語Ⅲ－1	1	
インテンシブ中国語Ⅲ－2	1	
インテンシブ中国語Ⅳ－1	1	
インテンシブ中国語Ⅳ－2	1	
観光交流文化論	2	
ホスピタリティ論	2	

第3類 (杏林大学学則)

専門科目 A	国際観光論	2			
	交流文化論	2			
	異文化コミュニケーション論	2			
	サービス文化論	2			
	サービス日本語	2			
	紀行文文学論		2		
	観光メディア論		2		
	観光心理学		2		
	観光人類学		2		
	観光地理学		2		
	観光保健論		2		
	福祉観光論		2		
	観光マーケティング論		2		
	キャリアデザインⅠ	2			
	キャリアデザインⅡ	2			
	基礎英語Ⅰ－1	1			
	基礎英語Ⅰ－2	1			
	基礎英語Ⅱ－1	1			
	基礎英語Ⅱ－2	1			
	観光英語Ⅰ－1	1			
	観光英語Ⅰ－2	1			
	観光英語Ⅱ－1	1			
	観光英語Ⅱ－2	1			
	観光中国語－1		1		
	観光中国語－2		1		
	観光韓国語－1		1		
	観光韓国語－2		1		
	観光手話基礎		1		
	観光手話		1		
	実用英語－1	1			
	実用英語－2	1			
	観光基礎演習－1	1			
	観光基礎演習－2	1			
	ゼミナール－1	2			
	ゼミナール－2	2			
	ゼミナール－3	2			

8単位以上

観光中国語－1・2(各1単位)又は観光韓国語－1・2(各1単位)のどちらかを選択必修

第3類（杏林大学学則）

	卒業論文・課題指導		4	
専門科目 B	サービス産業論	2		
	ファシリテーション論	2		
	ファシリテーション実習	1		
	航空産業論		2	
	航空サービス論		2	
	宿泊産業論		2	
	宿泊サービス論		2	
	外食産業論		2	
	外食サービス論		2	
	旅行産業論		2	
	旅行サービス論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	観光政策・行政論		2	
	風景・景観論		2	
	イベント・コンベンション論		2	
	エンターテインメント産業論		2	
	ツアーガイド論		2	
	ブライダルコーディネート論		2	
	多摩八王子観光論		2	
	世界遺産観光論		2	
	旅行医学概論		2	
	サービス衛生論		2	
	観光交流文化特論Ⅰ		2	
	観光交流文化特論Ⅱ		2	
	観光交流文化特論Ⅲ		2	
	観光交流文化特論Ⅳ		2	
	観光交流文化特論Ⅴ		2	
	観光交流文化特論Ⅵ		2	
専門 関 連	比較文化論Ⅰ－1		2	
	比較文化論Ⅰ－2		2	
	比較文化論Ⅱ－1		2	
	比較文化論Ⅱ－2		2	
	アメリカ社会論－1		2	
	アメリカ社会論－2		2	

第3類（杏林大学学則）

科目 A	中国事情	2	
	韓国事情	2	
	地域圏研究Ⅰ－1	2	
	地域圏研究Ⅰ－2	2	
	地域圏研究Ⅱ－1	2	
	地域圏研究Ⅱ－2	2	
	地域圏研究Ⅲ－1	2	
	地域圏研究Ⅲ－2	2	
	地域圏研究Ⅳ－1	2	
	地域圏研究Ⅳ－2	2	
	地域圏研究Ⅴ－1	2	
	地域圏研究Ⅴ－2	2	
	地域圏研究Ⅵ－1	2	
	地域圏研究Ⅵ－2	2	
	国際関係論Ⅰ	2	
	国際関係論Ⅱ	2	
	経済原論Ⅰ	2	
	経済原論Ⅱ	2	
	西洋史－1	2	
	西洋史－2	2	
	中国史－1	2	
	中国史－2	2	
	日本史－1	2	
	日本史－2	2	
	言語学－1	2	
	言語学－2	2	
	言語と文化－1	2	
	言語と文化－2	2	
	日中文化交流史－1	2	
	日中文化交流史－2	2	
	日韓文化交流史－1	2	
	日韓文化交流史－2	2	
	神話学	2	
	文化人類学	2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－1	2	

第3類（杏林大学学則）

	クリエイティブ・コミュニケーション論-2		2	
	英語総合講座-1		2	
	英語総合講座-2		2	
	英語特論-1		2	
	英語特論-2		2	
	コミュニケーション概論	2		
	基礎演習-1	1		
	基礎演習-2	1		
	キャリア指導Ⅰ-1	1		
	キャリア指導Ⅰ-2	1		
	キャリア指導Ⅱ-1	1		
	キャリア指導Ⅱ-2	1		
	ホスピタリティ実習-1	1		
	ホスピタリティ実習-2	1		
	インターンシップⅠ		1	インターンシップⅠ～Ⅳ のうち1科目選択必修
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語Ⅰ-1		1	
	ドイツ語Ⅰ-2		1	
	ドイツ語Ⅱ-1		1	
	ドイツ語Ⅱ-2		1	
	ドイツ語Ⅲ-1		1	
	ドイツ語Ⅲ-2		1	
	フランス語Ⅰ-1		1	
	フランス語Ⅰ-2		1	
	フランス語Ⅱ-1		1	
	フランス語Ⅱ-2		1	
	フランス語Ⅲ-1		1	
	フランス語Ⅲ-2		1	
	スペイン語Ⅰ-1		1	
	スペイン語Ⅰ-2		1	
	スペイン語Ⅱ-1		1	
	スペイン語Ⅱ-2		1	
	スペイン語Ⅲ-1		1	

第3類（杏林大学学則）

ス ペ イ ン 語 III - 2	1	
インドネシア語 I - 1	1	
インドネシア語 I - 2	1	
インドネシア語 II - 1	1	
インドネシア語 II - 2	1	
インドネシア語 III - 1	1	
インドネシア語 III - 2	1	
情 報 英 語 I	1	
情 報 英 語 II	1	
情 報 中 国 語 I	1	
情 報 中 国 語 II	1	
情 報 日 本 語	1	
口 語 英 語 I - 1	1	
口 語 英 語 I - 2	1	
口 語 英 語 II - 1	1	
口 語 英 語 II - 2	1	
口 語 英 語 III - 1	1	
口 語 英 語 III - 2	1	
口 語 英 語 IV - 1	1	
口 語 英 語 IV - 2	1	
口 語 英 語 V - 1	1	
口 語 英 語 V - 2	1	
中 国 語 演 習 I - 1	2	
中 国 語 演 習 I - 2	2	
中 国 語 演 習 II - 1	2	
中 国 語 演 習 II - 2	2	
中 国 語 演 習 III - 1	2	
中 国 語 演 習 III - 2	2	
中 国 語 実 習 I - 1	1	
中 国 語 実 習 I - 2	1	
中 国 語 実 習 II - 1	1	
中 国 語 実 習 II - 2	1	
中 国 語 実 習 III - 1	1	
中 国 語 実 習 III - 2	1	
哲 学 - 1	2	
哲 学 - 2	2	

第3類（杏林大学学則）

専門 関連 科目 C	宗 教 学	—	1	2
	宗 教 学	—	2	2
	歴 史 学	—	1	2
	歴 史 学	—	2	2
	文 学	—	1	2
	文 学	—	2	2
	音 楽	—	1	2
	音 楽	—	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	法 学			2
	政 治 学	—	1	2
	政 治 学	—	2	2
	地 理 学	—	1	2
	地 理 学	—	2	2
	経 済 学	—	1	2
	経 済 学	—	2	2
	数 学	—	1	2
	数 学	—	2	2
	物 理 学	—	1	2
	物 理 学	—	2	2
	化 学	—	1	2
	化 学	—	2	2
	生 物 学	—	1	2
	生 物 学	—	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	—	1	2
	心 理 学	—	2	2
	統 計 学	—	1	2
	統 計 学	—	2	2
	情 報 処 理			2
	体 育 理 論			1
	体 育 実 技	—	1	1
	体 育 実 技	—	2	1
	日 本 語 教 育 概 説			2

第3類（杏林大学学則）

専門 関連 科目 D	日本語教授法概論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語音声学		2	
	日本語文法論		2	
	日本語意味論		2	
	日本語教材教具論		2	
	試験と評価		2	
	日本語語彙論		2	
	日本語文字表記概説		2	
	日本語史		2	
	日本人の言語行動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日本語教授法演習		1	
	日本語教育実習		1	
	日本語学演習		1	
	日本語教育演習		1	
専科 関連 目 E	他学部 の 設置 科目			
自科 由 目				

第 3 類（杏林大学学則）

別表 4－2（平成 26 年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数		備 考
						必 修	選 択	
専 門 外 国 語 科 目	英 語 I	—	1	1	1			英語及び中国語（留学生 は日本語から 4 単位選択） 必修 12 単位
	英 語 I	—	2	1	1			
	英 語 II	—	1	1	1			
	英 語 II	—	2	1	1			
	英 語 III	—	1	1	1			
	英 語 III	—	2	1	1			
	英 語 IV	—	1	1	1			
	英 語 IV	—	2	1	1			
	中 国 語 I	—	1	1	1			
	中 国 語 I	—	2	1	1			
	中 国 語 II	—	1	1	1			
	中 国 語 II	—	2	1	1			
	中 国 語 III	—	1		1		1	
	中 国 語 III	—	2		1		1	
	中 国 語 IV	—	1		1		1	
	中 国 語 IV	—	2		1		1	
	日 本 語 I	—	1		1		1	
	日 本 語 I	—	2		1		1	
	日 本 語 II	—	1		1		1	
	日 本 語 II	—	2		1		1	
	日 本 語 III	—	1		1		1	
	日 本 語 III	—	2		1		1	
	日 本 語 IV	—	1		1		1	
	日 本 語 IV	—	2		1		1	
専 門 科	英 語 学	—	1	2	2			
	英 語 学	—	2	2	2			
	英 語 史	—	1		2		2	
	英 語 史	—	2		2		2	
	日 米 比 較 文 化 概 論				2		2	

第3類（杏林大学学則）

目	ヨーロッパの社会と文化			2	
A	英 米 文 化 論			2	
	英 米 文 学			2	
	児 童 文 学 論			2	
	社 会 言 語 学 ー 1			2	
	社 会 言 語 学 ー 2			2	
	対 照 言 語 学 ー 1			2	
	対 照 言 語 学 ー 2			2	
	認 知 言 語 学 ー 1			2	
	認 知 言 語 学 ー 2			2	
	アメリカ近現代史概説			2	
	ヨーロッパ近現代史概説			2	
	グ ロー バ ル 人 材 論			2	
	グローバルシチズンシップ論			2	
	アジアン・ホスピタリティ論			2	
	交 流 フ ィ ー ル ド ワ ー ク			1	
	英 語 文 法 I ー 1	1			
	英 語 文 法 I ー 2	1			
	英 語 文 法 II ー 1		1		
	英 語 文 法 II ー 2		1		
	英 語 会 話 ー 1	1			
	英 語 会 話 ー 2	1			
	実 用 英 語 I		1		
	実 用 英 語 II		1		
	英 語 作 文 ー 1	1			
	英 語 作 文 ー 2	1			
	現 代 英 語 購 読 I ー 1	1			
	現 代 英 語 購 読 I ー 2	1			
	現 代 英 語 購 読 II ー 1		1		
	現 代 英 語 購 読 II ー 2		1		
	実 用 英 語 演 習 I	1			
	実 用 英 語 演 習 II	1			
	実 用 英 語 演 習 III	1			
	実 用 英 語 演 習 IV	1			
	ゼ ミ ナ ー ル ー 1	2			
	ゼ ミ ナ ー ル ー 2	2			
	ゼ ミ ナ ー ル ー 3	2			

第3類（杏林大学学則）

	卒業論文・課題指導		4	
専門科目 B	国際コミュニケーション論	2		英語ビジネスコミュニケーションコース
	グローバルビジネス論－1	2		
	グローバルビジネス論－2	2		
	現代北米ビジネス事情		2	
	現代ヨーロッパビジネス事情		2	
	マーケティング総論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ政治外交論		2	
	ヨーロッパ経済論		2	
	ヨーロッパ政治外交論		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	1		
	ビジネスイングリッシュⅡ	1		
	ビジネスイングリッシュⅢ	1		
	ビジネスイングリッシュⅣ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		1	
専門科目 C	英語教育論－1	2		英語教育コース
	英語教育論－2	2		
	英語音声学－1	2		
	英語音声学－2	2		
	英語音声学特論－1	2		
	英語音声学特論－2	2		
	英語学特論Ⅰ－1		2	
	英語学特論Ⅰ－2		2	
	英語学特論Ⅱ－1		2	
	英語学特論Ⅱ－2		2	
	英語科教育法－1		2	
	英語科教育法－2		2	
	児童英語教育論－1		2	
	児童英語教育論－2		2	
	児童英語教育教材研究		1	
	児童英語教育実習		1	
	英語発音聴取	1		
	英語文章表現法－1	1		
	英語文章表現法－2	1		

第3類（杏林大学学則）

	英語聴解・討論－1		1	
	英語聴解・討論－2		1	
専門 関連 科目 A	比較文化論Ⅰ－1		2	
	比較文化論Ⅰ－2		2	
	比較文化論Ⅱ－1		2	
	比較文化論Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅰ－1		2	
	地域圏研究Ⅰ－2		2	
	地域圏研究Ⅱ－1		2	
	地域圏研究Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅲ－1		2	
	地域圏研究Ⅲ－2		2	
	地域圏研究Ⅳ－1		2	
	地域圏研究Ⅳ－2		2	
	地域圏研究Ⅴ－1		2	
	地域圏研究Ⅴ－2		2	
	地域圏研究Ⅵ－1		2	
	地域圏研究Ⅵ－2		2	
	国際関係論Ⅰ		2	
	国際関係論Ⅱ		2	
	経済原論Ⅰ		2	
	経済原論Ⅱ		2	
	西洋史－1		2	
	西洋史－2		2	
	中国史－1		2	
	中国史－2		2	
	日本史－1		2	
	日本史－2		2	
	言語学－1		2	
	言語学－2		2	
	言語と文化－1		2	
	言語と文化－2		2	
	神話学－1		2	
	神話学－2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－2		2	

第3類（杏林大学学則）

	英語総合講座－1		2	
	英語総合講座－2		2	
	英語特論－1		2	
	英語特論－2		2	
	コミュニケーション概論－1	2		
	コミュニケーション概論－2	2		
	地域と大学	2		
	基礎演習－1	1		
	基礎演習－2	1		
	キャリア指導Ⅰ－1	1		
	キャリア指導Ⅰ－2	1		
	キャリア指導Ⅱ－1	1		
	キャリア指導Ⅱ－2	1		
	ホスピタリティ実習	1		
	プロジェクト演習Ⅰ		1	
	プロジェクト演習Ⅱ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語Ⅰ－1		1	
	ドイツ語Ⅰ－2		1	
	ドイツ語Ⅱ－1		1	
	ドイツ語Ⅱ－2		1	
	ドイツ語Ⅲ－1		1	
	ドイツ語Ⅲ－2		1	
	フランス語Ⅰ－1		1	
	フランス語Ⅰ－2		1	
	フランス語Ⅱ－1		1	
	フランス語Ⅱ－2		1	
	フランス語Ⅲ－1		1	
	フランス語Ⅲ－2		1	
	スペイン語Ⅰ－1		1	
	スペイン語Ⅰ－2		1	
	スペイン語Ⅱ－1		1	
	スペイン語Ⅱ－2		1	

第3類（杏林大学学則）

	ス ペ イ ン 語 III	ー	1	1	
	ス ペ イ ン 語 III	ー	2	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 I	ー	1	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 I	ー	2	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 II	ー	1	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 II	ー	2	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 III	ー	1	1	
	イ ン ド ネ シ ア 語 III	ー	2	1	
	韓 国 語 I	ー	1	1	
	韓 国 語 I	ー	2	1	
	韓 国 語 II	ー	1	1	
	韓 国 語 II	ー	2	1	
	韓 国 語 III	ー	1	1	
	韓 国 語 III	ー	2	1	
	口 語 英 語 I	ー	1	1	
	口 語 英 語 I	ー	2	1	
	口 語 英 語 II	ー	1	1	
	口 語 英 語 II	ー	2	1	
	口 語 英 語 III	ー	1	1	
	口 語 英 語 III	ー	2	1	
	口 語 英 語 IV	ー	1	1	
	口 語 英 語 IV	ー	2	1	
	口 語 中 国 語 I	ー	1	1	
	口 語 中 国 語 I	ー	2	1	
	口 語 中 国 語 II	ー	1	1	
	口 語 中 国 語 II	ー	2	1	
	口 語 中 国 語 III	ー	1	1	
	口 語 中 国 語 III	ー	2	1	
	口 語 中 国 語 IV	ー	1	1	
	口 語 中 国 語 IV	ー	2	1	
専 門 関 連	哲 学	ー	1	2	
	哲 学	ー	2	2	
	宗 教 学	ー	1	2	
	宗 教 学	ー	2	2	
	歴 史 学	ー	1	2	
	歴 史 学	ー	2	2	

第3類（杏林大学学則）

科目C	文	学	—	1	2				
	文	学	—	2	2				
	音	楽	—	1	2				
	音	楽	—	2	2				
	日	本	国	憲	法	2			
	法				学	2			
	政	治	学	—	1	2			
	政	治	学	—	2	2			
	地	理	学	—	1	2			
	地	理	学	—	2	2			
	経	済	学	—	1	2			
	経	済	学	—	2	2			
	数	学	—	1	2				
	数	学	—	2	2				
	物	理	学	—	1	2			
	物	理	学	—	2	2			
	化	学	—	1	2				
	化	学	—	2	2				
	生	物	学	—	1	2			
	生	物	学	—	2	2			
	健	康	科	学	2				
	食と健康のエコロジー				2				
	心	理	学	—	1	2			
	心	理	学	—	2	2			
	統	計	学	—	1	2			
	統	計	学	—	2	2			
	情	報	処	理	2				
	体	育	理	論	2				
	体	育	実	技	—	1			
	体	育	実	技	—	2			
専門 関連	日	本	語	教	育	概	説	2	
	日	本	語	教	授	法	概	論	2
	日	本	語	学	概	論	2		
	日	本	語	音	声	学	2		
	日	本	語	文	法	論	2		
	日	本	語	意	味	論	2		

第3類（杏林大学学則）

科目 D	日本語教材教具論		2	
	試験と評価		2	
	日本語語彙論		2	
	日本語文字表記概説		2	
	日本語史		2	
	日本人の言語行動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日本文化論		2	
	日本語教授法演習		1	
	日本語教育実習		1	
	日本語学演習		1	
	日本語教育演習		1	
	日本文化演習Ⅰ		1	
	日本文化演習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅲ		1	
	日本語表現演習		1	
専科 門目 関連 E	他学部設置科目			
自科 由目				

中国語学科

授業科目の名称						単位数		備考
						必修	選択	
専門 外国 語 科 目	英語Ⅰ	—	1	1		1		英語及び中国語（留学生は日本語から8単位選択） 必修16単位
	英語Ⅰ	—	2	1		1		
	英語Ⅱ	—	1	1		1		
	英語Ⅱ	—	2	1		1		
	英語Ⅲ	—	1	1		1		
	英語Ⅲ	—	2	1		1		
	英語Ⅳ	—	1	1		1		
	英語Ⅳ	—	2	1		1		
	中国語Ⅰ	—	1	1		1		

第3類（杏林大学学則）

	中国語 I	—	2	1		
	中国語 II	—	1	1		
	中国語 II	—	2	1		
	中国語 III	—	1	1		
	中国語 III	—	2	1		
	中国語 IV	—	1	1		
	中国語 IV	—	2	1		
	日本語 I	—	1		1	
	日本語 I	—	2		1	
	日本語 II	—	1		1	
	日本語 II	—	2		1	
	日本語 III	—	1		1	
	日本語 III	—	2		1	
	日本語 IV	—	1		1	
	日本語 IV	—	2		1	
	日本語 V	—	1		1	
	日本語 V	—	2		1	
	日本語 VI	—	1		1	
	日本語 VI	—	2		1	
	日本語 VII	—	1		1	
	日本語 VII	—	2		1	
専門科目 A	異文化コミュニケーション			2		
	日本文化論				2	
	インテンシブ中国語 I	—	1	1		
	インテンシブ中国語 I	—	2	1		
	インテンシブ中国語 II	—	1	1		
	インテンシブ中国語 II	—	2	1		
	インテンシブ中国語 III	—	1	1		
	インテンシブ中国語 III	—	2	1		
	インテンシブ中国語 IV	—	1	1		
	インテンシブ中国語 IV	—	2	1		
	実用中国語演習 I				1	
	実用中国語演習 II				1	
	実用中国語演習 III				1	
	実用中国語演習 IV				1	

第3類（杏林大学学則）

	発展英語－1		1	
	発展英語－2		1	
	中国語文章表現法－1		1	
	中国語文章表現法－2		1	
	中国語聴解・討論－1		1	
	中国語聴解・討論－2		1	
	グローバル人材論		2	
	グローバルシチズンシップ論		2	
	アジアン・ホスピタリティ論		2	
	交流フィールドワーク		1	
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専門科目 B	中国語学概論－1	2		
	中国語学概論－2	2		
	中国語音声学－1	2		
	中国語音声学－2	2		
	中国語コミュニケーション論－1	2		
	中国語コミュニケーション論－2	2		
	中国語通訳概論－1	2		
	中国語通訳概論－2	2		
	中国語翻訳概論－1	2		
	中国語翻訳概論－2	2		
	中国文学史－1		2	
	中国文学史－2		2	
	中国古典概説－1		2	
	中国古典概説－2		2	
	日中比較文化論Ⅰ－1		2	
	日中比較文化論Ⅰ－2		2	
	日中コミュニケーション研究－1		2	
	日中コミュニケーション研究－2		2	
	中国経済概論－1		2	
	中国経済概論－2		2	

第3類（杏林大学学則）

	ア ジ ア 経 済 論	2	
	中 国 政 治 外 交 論	2	
	実 践 中 国 語 演 習 I - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 I - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 II - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 II - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 III - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 III - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 IV - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 IV - 2	1	
	時 事 中 国 語 - 1	1	
	時 事 中 国 語 - 2	1	
	商 業 中 国 語 - 1	1	
	商 業 中 国 語 - 2	1	
専 門 関 連 科 目 A	比 較 文 化 論 I - 1	2	
	比 較 文 化 論 I - 2	2	
	比 較 文 化 論 II - 1	2	
	比 較 文 化 論 II - 2	2	
	地 域 圏 研 究 I - 1	2	
	地 域 圏 研 究 I - 2	2	
	地 域 圏 研 究 II - 1	2	
	地 域 圏 研 究 II - 2	2	
	地 域 圏 研 究 III - 1	2	
	地 域 圏 研 究 III - 2	2	
	地 域 圏 研 究 IV - 1	2	
	地 域 圏 研 究 IV - 2	2	
	地 域 圏 研 究 V - 1	2	
	地 域 圏 研 究 V - 2	2	
	地 域 圏 研 究 VI - 1	2	
	地 域 圏 研 究 VI - 2	2	
	国 際 関 係 論 I	2	
	国 際 関 係 論 II	2	
	経 済 原 論 I	2	
	経 済 原 論 II	2	
	西 洋 史 - 1	2	

第3類（杏林大学学則）

西洋史	－	2		2
中国史	－	1		2
中国史	－	2		2
日本史	－	1		2
日本史	－	2		2
言語学	－	1		2
言語学	－	2		2
言語と文化	－	1		2
言語と文化	－	2		2
神話学	－	1		2
神話学	－	2		2
クリエイティブ・コミュニケーション論	－	1		2
クリエイティブ・コミュニケーション論	－	2		2
英語総合講座	－	1		2
英語総合講座	－	2		2
英語特論	－	1		2
英語特論	－	2		2
コミュニケーション概論	－	1	2	
コミュニケーション概論	－	2	2	
地域と大学			2	
基礎演習	－	1	1	
基礎演習	－	2	1	
キャリア指導	I	－	1	
キャリア指導	I	－	2	
キャリア指導	II	－	1	
キャリア指導	II	－	2	
ホスピタリティ実習	－	1	1	
ホスピタリティ実習	－	2	1	
プロジェクト演習	I			1
プロジェクト演習	II			1
インターンシップ	I			1
インターンシップ	II			1
インターンシップ	III			1
インターンシップ	IV			1

第3類（杏林大学学則）

専門 関連 科目 B	ドイツ語 I	ー	1		1	
	ドイツ語 I	ー	2		1	
	ドイツ語 II	ー	1		1	
	ドイツ語 II	ー	2		1	
	ドイツ語 III	ー	1		1	
	ドイツ語 III	ー	2		1	
	フランス語 I	ー	1		1	
	フランス語 I	ー	2		1	
	フランス語 II	ー	1		1	
	フランス語 II	ー	2		1	
	フランス語 III	ー	1		1	
	フランス語 III	ー	2		1	
	スペイン語 I	ー	1		1	
	スペイン語 I	ー	2		1	
	スペイン語 II	ー	1		1	
	スペイン語 II	ー	2		1	
	スペイン語 III	ー	1		1	
	スペイン語 III	ー	2		1	
	インドネシア語 I	ー	1		1	
	インドネシア語 I	ー	2		1	
	インドネシア語 II	ー	1		1	
	インドネシア語 II	ー	2		1	
	インドネシア語 III	ー	1		1	
	インドネシア語 III	ー	2		1	
	韓国語 I	ー	1		1	
	韓国語 I	ー	2		1	
	韓国語 II	ー	1		1	
	韓国語 II	ー	2		1	
	韓国語 III	ー	1		1	
	韓国語 III	ー	2		1	
	口語英語 I	ー	1		1	
	口語英語 I	ー	2		1	
	口語英語 II	ー	1		1	
	口語英語 II	ー	2		1	

第 3 類 (杏林大学学則)

	口 語 英 語 III - 1	1	
	口 語 英 語 III - 2	1	
	口 語 英 語 IV - 1	1	
	口 語 英 語 IV - 2	1	
	口 語 中 国 語 I - 1	1	
	口 語 中 国 語 I - 2	1	
	口 語 中 国 語 II - 1	1	
	口 語 中 国 語 II - 2	1	
	口 語 中 国 語 III - 1	1	
	口 語 中 国 語 III - 2	1	
	口 語 中 国 語 IV - 1	1	
	口 語 中 国 語 IV - 2	1	
専 門 関 連 科 目 C	哲 学 - 1	2	
	哲 学 - 2	2	
	宗 教 学 - 1	2	
	宗 教 学 - 2	2	
	歴 史 学 - 1	2	
	歴 史 学 - 2	2	
	文 学 - 1	2	
	文 学 - 2	2	
	音 楽 - 1	2	
	音 楽 - 2	2	
	日 本 国 憲 法 学	2	
	法 学	2	
	政 治 学 - 1	2	
	政 治 学 - 2	2	
	地 理 学 - 1	2	
	地 理 学 - 2	2	
	経 済 学 - 1	2	
	経 済 学 - 2	2	
	数 学 - 1	2	
	数 学 - 2	2	
	物 理 学 - 1	2	
	物 理 学 - 2	2	
	化 学 - 1	2	
	化 学 - 2	2	

第3類（杏林大学学則）

	生 物 学 ー 1		2	
	生 物 学 ー 2		2	
	健 康 科 学		2	
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー		2	
	心 理 学 ー 1		2	
	心 理 学 ー 2		2	
	統 計 学 ー 1		2	
	統 計 学 ー 2		2	
	情 報 処 理		2	
	体 育 理 論		2	
	体 育 実 技 ー 1		1	
	体 育 実 技 ー 2		1	
専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 育 概 説		2	
	日 本 語 教 授 法 概 論		2	
	日 本 語 学 概 論		2	
	日 本 語 音 声 学		2	
	日 本 語 文 法 論		2	
	日 本 語 意 味 論		2	
	日 本 語 教 材 教 具 論		2	
	試 験 と 評 価		2	
	日 本 語 語 彙 論		2	
	日 本 語 文 字 表 記 概 説		2	
	日 本 語 史		2	
	日 本 人 の 言 語 行 動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日 本 語 教 授 法 演 習		1	
	日 本 語 教 育 実 習		1	
	日 本 語 学 演 習		1	
	日 本 語 教 育 演 習		1	
	日 本 文 化 演 習 I		1	
	日 本 文 化 演 習 II		1	
	日 本 文 化 演 習 III		1	
	日 本 語 表 現 演 習		1	
専 科 門 目 関 連 E	他 学 部 の 設 置 科 目			

第3類（杏林大学学則）

自 科 由 目				

観光交流文化学科

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数		備 考
						必 修	選 択	
専 門 外 国 語 科 目	英 語	I	—	1	1	1		英語及び中国語8単位、又は 英語及び韓国語8単位(留學 生は日本語8単位) 必修16単位
	英 語	I	—	2	1			
	英 語	II	—	1	1			
	英 語	II	—	2	1			
	英 語	III	—	1	1			
	英 語	III	—	2	1			
	英 語	IV	—	1	1			
	英 語	IV	—	2	1			
	中 国 語	I	—	1			1	
	中 国 語	I	—	2			1	
	中 国 語	II	—	1			1	
	中 国 語	II	—	2			1	
	中 国 語	III	—	1			1	
	中 国 語	III	—	2			1	
	中 国 語	IV	—	1			1	
	中 国 語	IV	—	2			1	
	韓 国 語	I	—	1			1	
	韓 国 語	I	—	2			1	
	韓 国 語	II	—	1			1	
	韓 国 語	II	—	2			1	
	韓 国 語	III	—	1			1	
	韓 国 語	III	—	2			1	
	韓 国 語	IV	—	1			1	
	韓 国 語	IV	—	2			1	
	日 本 語	I	—	1			1	
	日 本 語	I	—	2			1	
	日 本 語	II	—	1			1	
	日 本 語	II	—	2			1	
	日 本 語	III	—	1			1	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 III ー 2		1	
	日 本 語 IV ー 1		1	
	日 本 語 IV ー 2		1	
	日 本 語 V ー 1		1	
	日 本 語 V ー 2		1	
	日 本 語 VI ー 1		1	
	日 本 語 VI ー 2		1	
	日 本 語 VII ー 1		1	
	日 本 語 VII ー 2		1	
専 門 科 目 A	観 光 学 入 門	2		フィールドスタディー I～IV、および交流フ ィールドワークのうち 1科目選択必修
	ホ ス ピ タ リ テ ィ 論	2		
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー I		1	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー II		1	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー III		1	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー IV		1	8 単位以上
	交 流 フ ィ ー ル ド ワ ー ク		1	
	国 際 観 光 論	2		
	交 流 文 化 論	2		
	日 本 語 表 現 論	2		
	文 章 表 現 法	2		
	異文化コミュニケーション論		2	
	サ ー ビ ス 文 化 論		2	
	観 光 心 理 学		2	
	観 光 人 類 学		2	
	観 光 地 理 学		2	
	観 光 保 健 論		2	
	福 祉 観 光 論		2	
	観 光 マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2	
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	英 語 文 法 I ー 1	1		
	英 語 文 法 I ー 2	1		
	英 語 文 法 II ー 1		1	
	英 語 文 法 II ー 2		1	
	英 語 会 話 ー 1	1		
	英 語 会 話 ー 2	1		

第3類（杏林大学学則）

	英語作文－1	1		
	英語作文－2	1		
	観光英語－1	1		
	観光英語－2	1		
	観光中国語－1		1	観光中国語－1・2（各1単位）又は観光韓国語－1・2（各1単位）のどちらかを選択必修
	観光中国語－2		1	
	観光韓国語－1		1	
	観光韓国語－2		1	
	観光手話基礎		1	
	観光手話		1	
	実用英語－1	1		
	実用英語－2	1		
	グローバル人材論		2	
	グローバルシチズンシップ論		2	
	アジアン・ホスピタリティ論		2	
	観光基礎演習－1	1		
	観光基礎演習－2	1		
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専門科目B	サービス産業論	2		
	ファシリテーション論	2		
	ファシリテーション実習	1		
	航空産業論		2	
	航空サービス論		2	
	宿泊産業論		2	
	宿泊サービス論		2	
	外食産業論		2	
	外食サービス論		2	
	旅行産業論		2	
	旅行サービス論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	観光政策・行政論		2	
	風景・景観論		2	
	イベント・コンベンション論		2	

第3類（杏林大学学則）

	エンターテインメント産業論	2	
	ブライダルコーディネート論	2	
	世界遺産観光論	2	
	旅行医学概論	2	
	サービス衛生論	2	
	リスクマネジメント論	2	
	観光交流文化特論Ⅰ	2	
	観光交流文化特論Ⅱ	2	
	観光交流文化特論Ⅲ	2	
	観光交流文化特論Ⅳ	2	
専門 関 連 科 目 A	比較文化論Ⅰ－1	2	
	比較文化論Ⅰ－2	2	
	比較文化論Ⅱ－1	2	
	比較文化論Ⅱ－2	2	
	地域圏研究Ⅰ－1	2	
	地域圏研究Ⅰ－2	2	
	地域圏研究Ⅱ－1	2	
	地域圏研究Ⅱ－2	2	
	地域圏研究Ⅲ－1	2	
	地域圏研究Ⅲ－2	2	
	地域圏研究Ⅳ－1	2	
	地域圏研究Ⅳ－2	2	
	地域圏研究Ⅴ－1	2	
	地域圏研究Ⅴ－2	2	
	地域圏研究Ⅵ－1	2	
	地域圏研究Ⅵ－2	2	
	国際関係論Ⅰ	2	
	国際関係論Ⅱ	2	
	経済原論Ⅰ	2	
	経済原論Ⅱ	2	
	西洋史－1	2	
	西洋史－2	2	
	中国史－1	2	
	中国史－2	2	
	日本史－1	2	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 史	－	2		2	
	言 語 学	－	1		2	
	言 語 学	－	2		2	
	言 語 と 文 化	－	1		2	
	言 語 と 文 化	－	2		2	
	神 話 学	－	1		2	
	神 話 学	－	2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論	－	1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論	－	2		2	
	英 語 総 合 講 座	－	1		2	
	英 語 総 合 講 座	－	2		2	
	英 語 特 論	－	1		2	
	英 語 特 論	－	2		2	
	コミュニケーション概論	－	1	2		
	コミュニケーション概論	－	2	2		
	地 域 と 大 学			2		
	基 礎 演 習	－	1	1		
	基 礎 演 習	－	2	1		
	キャリア指導	I	－	1	1	
	キャリア指導	I	－	2	1	
	キャリア指導	II	－	1	1	
	キャリア指導	II	－	2	1	
	ホスピタリティ実習			1		
	プロジェクト演習	I		1		
	プロジェクト演習	II		1		
	インターンシップ	I			1	インターンシップ I～IV のうち1科目選択必修
	インターンシップ	II			1	
	インターンシップ	III			1	
	インターンシップ	IV			1	
専 門 関 連	ド イ ツ 語	I	－	1	1	
	ド イ ツ 語	I	－	2	1	
	ド イ ツ 語	II	－	1	1	
	ド イ ツ 語	II	－	2	1	
	ド イ ツ 語	III	－	1	1	
	ド イ ツ 語	III	－	2	1	

第3類（杏林大学学則）

科目 B	フランス語 I	ー	1	1
	フランス語 I	ー	2	1
	フランス語 II	ー	1	1
	フランス語 II	ー	2	1
	フランス語 III	ー	1	1
	フランス語 III	ー	2	1
	スペイン語 I	ー	1	1
	スペイン語 I	ー	2	1
	スペイン語 II	ー	1	1
	スペイン語 II	ー	2	1
	スペイン語 III	ー	1	1
	スペイン語 III	ー	2	1
	インドネシア語 I	ー	1	1
	インドネシア語 I	ー	2	1
	インドネシア語 II	ー	1	1
	インドネシア語 II	ー	2	1
	インドネシア語 III	ー	1	1
	インドネシア語 III	ー	2	1
	口語英語 I	ー	1	1
	口語英語 I	ー	2	1
	口語英語 II	ー	1	1
	口語英語 II	ー	2	1
	口語英語 III	ー	1	1
	口語英語 III	ー	2	1
	口語英語 IV	ー	1	1
	口語英語 IV	ー	2	1
	口語中国語 I	ー	1	1
	口語中国語 I	ー	2	1
	口語中国語 II	ー	1	1
	口語中国語 II	ー	2	1
	口語中国語 III	ー	1	1
	口語中国語 III	ー	1	1
	口語中国語 IV	ー	1	1
	口語中国語 IV	ー	2	1
	哲学	ー	1	2
	哲学	ー	2	2

第3類（杏林大学学則）

専門 関連 科目 C	宗 教 学	—	1	2
	宗 教 学	—	2	2
	歴 史 学	—	1	2
	歴 史 学	—	2	2
	文 学	—	1	2
	文 学	—	2	2
	音 楽	—	1	2
	音 楽	—	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	法 学			2
	政 治 学	—	1	2
	政 治 学	—	2	2
	地 理 学	—	1	2
	地 理 学	—	2	2
	経 済 学	—	1	2
	経 済 学	—	2	2
	数 学	—	1	2
	数 学	—	2	2
	物 理 学	—	1	2
	物 理 学	—	2	2
	化 学	—	1	2
	化 学	—	2	2
	生 物 学	—	1	2
	生 物 学	—	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	—	1	2
	心 理 学	—	2	2
	統 計 学	—	1	2
	統 計 学	—	2	2
	情 報 処 理			2
	体 育 理 論			2
	体 育 実 技	—	1	1
	体 育 実 技	—	2	1
	日 本 語 教 育 概 説			2

第3類（杏林大学学則）

専門 関連 科目 D	日本語教授法概論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語音声学		2	
	日本語文法論		2	
	日本語意味論		2	
	日本語教材教具論		2	
	試験と評価		2	
	日本語語彙論		2	
	日本語文字表記概説		2	
	日本語史		2	
	日本人の言語行動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日本文化論		2	
	日本語教授法演習		1	
	日本語教育実習		1	
	日本語学演習		1	
	日本語教育演習		1	
	日本文化演習Ⅰ		1	
	日本文化演習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅲ		1	
	日本語表現演習		1	
専門 関連 科目 E	他学部設置科目			
自由 科目				

第3類（杏林大学学則）

別表4－3（平成28年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考
				必修	選択	
外国語科目A	英語	I		1		留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修
	英語	II		1		
	英語	III		1		
	英語	IV		1		
	英語	V		1		
	英語	VI		1		
	英語	VII		1		
	英語	VIII		1		
	英語文法	I		1		
	英語文法	II		1		
	英語作文	I		1		
	英語作文	II		1		
	実用英語	I		1		
	実用英語	II		1		
	実用英語	III		1		
	実用英語	IV		1		
	実用英語演習	I		1		
	実用英語演習	II		1		
	中国語	I		1		
	中国語	II		1		
	中国語	III		1		
	中国語	IV		1		
	中国語	V		1		
	中国語	VI		1		
	日本語	I			1	
	日本語	II			1	
	日本語	III			1	
	日本語	IV			1	
	日本語	V			1	
	日本語	VI			1	
	日本語	VII			1	
	日本語	VIII			1	

第3類（杏林大学学則）

外国語科目B	目的別英語演習Ⅰ		2	
	目的別英語演習Ⅱ		2	
	目的別英語演習Ⅲ		2	
	目的別英語演習Ⅳ		2	
	目的別英語演習Ⅴ		2	
	目的別英語演習Ⅵ		2	
	目的別英語演習Ⅶ		2	
	目的別中国語演習Ⅰ		2	
	目的別中国語演習Ⅱ		2	
	目的別中国語演習Ⅲ		2	
	目的別中国語演習Ⅳ		2	
	目的別中国語演習Ⅴ		2	
	韓国語Ⅰ		2	
	韓国語Ⅱ		2	
	韓国語Ⅲ		2	
	韓国語Ⅳ		2	
	ドイツ語Ⅰ		2	
	ドイツ語Ⅱ		2	
	ドイツ語Ⅲ		2	
	ドイツ語Ⅳ		2	
	フランス語Ⅰ		2	
	フランス語Ⅱ		2	
	フランス語Ⅲ		2	
	フランス語Ⅳ		2	
	スペイン語Ⅰ		2	
	スペイン語Ⅱ		2	
	スペイン語Ⅲ		2	
	スペイン語Ⅳ		2	
	口語英語Ⅰ		1	
	口語英語Ⅱ		1	
	口語英語Ⅲ		1	
	口語英語Ⅳ		1	
	口語英語Ⅴ		1	
	口語英語Ⅵ		1	
	口語英語Ⅶ		1	
	口語英語Ⅷ		1	

第3類（杏林大学学則）

		口 語 中 国 語 I		1	
		口 語 中 国 語 II		1	
		口 語 中 国 語 III		1	
		口 語 中 国 語 IV		1	
		口 語 中 国 語 V		1	
		口 語 中 国 語 VI		1	
		口 語 中 国 語 VII		1	
		口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目		大 学 入 門 I	1		
		大 学 入 門 II	1		
		日 本 語 表 現 実 習 I	1		
		日 本 語 表 現 実 習 II	1		
		グローバルコミュニケーション論	2		
		グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
		日 本 文 化 論	2		
		ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
		地 域 と 大 学	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
		キャリアデザイン演習		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
		イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	
教 養 こ と		異文化コミュニケーション		2	
		こ と ば と 文 化		2	
		こ と ば と 社 会		2	
		言 語 の 歴 史 (英)		2	

第3類（杏林大学学則）

科目	ば	言語の歴史（中）		2	
	と	言語の歴史（日）		2	
文化	英	米	文	学	2
	児	童	文	学	2
	アジアの文学・文化（日）			2	
	アジアの文学・文化（中）			2	
	アジアの文学・文化（韓）			2	
グローバル社会と地域	グ	グローバル社会と国際協力		2	
	ロ	ダイバーシティ入門		2	
	バ	日本と世界の近現代史		2	
	ル	生活と法		2	
	社	日本国憲法		2	
	会	社会学		2	
	と	ミクロ経済学		2	
	地	マクロ経済学		2	
	域	統計学		2	
		観光学入門		2	
		マーケティング入門		2	
		ホスピタリティ入門		2	
		アジアン・ホスピタリティ		2	
		人文地理学		2	
		自然地理学		2	
		地域圏研究Ⅰ		2	
		地域圏研究Ⅱ		2	
		地域圏研究Ⅲ		2	
		地域圏研究Ⅳ		2	
		地域圏研究Ⅴ		2	
		地域圏研究Ⅵ		2	
人間と健康	哲	学		2	
	人	倫理学		2	
	間	心理学		2	
	と	宗教学		2	
	健	健康科学Ⅰ		2	
	康	健康科学Ⅱ		2	
		体育理論		1	
		体育実技		1	

第3類（杏林大学学則）

日本語教育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	
	日本語教育学特論Ⅰ		2	
	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実践Ⅰ		2	
	日本語授業の実践Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
	日本文化演習Ⅱ		2	
専門科目 （英語ビジネスコミュニケーション）	発展英文法		2	
	発展英語読解		2	
	発展英作文		2	
	発展英語聴解		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	2		
	ビジネスイングリッシュⅡ	2		
	グローバルビジネス論Ⅰ	2		
	グローバルビジネス論Ⅱ	2		
	ビジネスコミュニケーション論Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション論Ⅱ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	Introduction to Business		2	
	Introduction to Economics		2	
	Business Cycle and Monetary Policy		2	
	現代企業論		2	
	経営戦略論		2	
	人材マネジメント論		2	
	国際会計論		2	

第3類（杏林大学学則）

シ ョ ン コ ー ス)	国 際 経 済 学 I		2	
	国 際 経 済 学 II		2	
	ア メ リ カ 政 治 論		2	
	ア メ リ カ 経 済 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
	ア ジ ア 政 治 論		2	
	ア ジ ア 経 済 論		2	
	ゼ ミ ナ ー ル I	2		
	ゼ ミ ナ ー ル II	2		
専 門 科 目 （ 英 語 教 育 コ ー ス ）	ゼ ミ ナ ー ル III	2		4 単位以上
	卒 業 論 文 ・ 課 題 指 導		4	
	発 展 英 文 法		2	
	発 展 英 語 読 解		2	
	発 展 英 作 文		2	
	発 展 英 語 聴 解		2	
	英 語 発 音 聴 取	2		
	英 語 翻 訳 論		2	
	英 語 翻 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ		2	
	比 較 文 化 と 異 文 化 理 解		2	
	英 語 学 特 論 I		2	
	英 語 学 特 論 II		2	
	英 語 学 特 論 III		2	
	英 語 学 特 論 IV		2	
	英 語 学 演 習 I		2	
	英 語 学 演 習 II		2	
	英 語 学 演 習 III		2	
	英 語 学 演 習 IV		2	
	英 語 音 声 学	2		
	社 会 言 語 学		2	
	認 知 言 語 学		2	
	英 語 教 育 論 I	2		
	英 語 教 育 論 II	2		
	英 語 科 教 育 法 I		2	
	英 語 科 教 育 法 II		2	
	児 童 英 語 教 育 論 I		2	

第3類（杏林大学学則）

	児童英語教育論Ⅱ		2	
	児童英語教育教材研究		2	
	児童英語教育実習		1	
	英語教育演習Ⅰ		2	
	英語教育演習Ⅱ		2	
	情報処理		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部 の 設置科目			
自由科目				

中国語学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考
				必修	選択	
外国語科目A	英語	I		1		留学生等本学が指定する 学生は日本語8単位必修
	英語	Ⅱ		1		
	英語	Ⅲ		1		
	英語	Ⅳ		1		
	英語	V		1		
	英語	Ⅵ		1		
	中国語	I		1		
	中国語	Ⅱ		1		
	中国語	Ⅲ		1		
	中国語	Ⅳ		1		
	中国語	V		1		
	中国語	Ⅵ		1		
	中国語	Ⅶ		1		
	中国語	Ⅷ		1		
	日本語	I			1	
	日本語	Ⅱ			1	
	日本語	Ⅲ			1	
	日本語	Ⅳ			1	
	日本語	V			1	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 VI		1	
	日 本 語 VII		1	
	日 本 語 VIII		1	
外国語科目B	目的別英語演習 I		2	
	目的別英語演習 II		2	
	目的別英語演習 III		2	
	目的別英語演習 IV		2	
	目的別英語演習 V		2	
	目的別英語演習 VI		2	
	目的別英語演習 VII		2	
	目的別中国語演習 I		2	
	目的別中国語演習 II		2	
	目的別中国語演習 III		2	
	目的別中国語演習 IV		2	
	目的別中国語演習 V		2	
	韓 国 語 I		2	
	韓 国 語 II		2	
	韓 国 語 III		2	
	韓 国 語 IV		2	
	ド イ ツ 語 I		2	
	ド イ ツ 語 II		2	
	ド イ ツ 語 III		2	
	ド イ ツ 語 IV		2	
	フ ラ ン ス 語 I		2	
	フ ラ ン ス 語 II		2	
	フ ラ ン ス 語 III		2	
	フ ラ ン ス 語 IV		2	
	ス ペ イ ン 語 I		2	
	ス ペ イ ン 語 II		2	
	ス ペ イ ン 語 III		2	
	ス ペ イ ン 語 IV		2	
	口 語 英 語 I		1	
	口 語 英 語 II		1	
	口 語 英 語 III		1	
	口 語 英 語 IV		1	
	口 語 英 語 V		1	

第3類（杏林大学学則）

	口 語 英 語 VI		1	
	口 語 英 語 VII		1	
	口 語 英 語 VIII		1	
	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	
	異文化コミュニケーション		2	

第3類 (杏林大学学則)

教 養 科 目	こ と ば と 文 化	2		
	こ こ と ば と 社 会	2		
	こ 言 語 の 歴 史 (英)	2		
	ば 言 語 の 歴 史 (中)	2		
	と 言 語 の 歴 史 (日)	2		
	文 英 米 文 学	2		
	化 児 童 文 学	2		
	アジアの文学・文化(日)	2		
	アジアの文学・文化(中)	2		
	アジアの文学・文化(韓)	2		
	グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域	グローバル社会と国際協力	2	
		ダイバーシティ入門	2	
		日本と世界の近現代史	2	
		生 活 と 法	2	
		日 本 国 憲 法	2	
		社 会 学	2	
		ミ ク ロ 経 済 学	2	
マ ク ロ 経 済 学		2		
統 計 学		2		
観 光 学 入 門		2		
マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門		2		
ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門		2		
アジアン・ホスピタリティ		2		
人 文 地 理 学		2		
自 然 地 理 学		2		
地 域 圏 研 究 I	2			
地 域 圏 研 究 II	2			
地 域 圏 研 究 III	2			
地 域 圏 研 究 IV	2			
地 域 圏 研 究 V	2			
地 域 圏 研 究 VI	2			
人 間 と	哲 学	2		
	倫 理 学	2		
	心 理 学	2		
	宗 教 学	2		
	健 康 科 学 I	2		

第3類（杏林大学学則）

	健康	健康科学Ⅱ		2	
		体育理論		1	
		体育実技		1	
	日本語教育	ファシリテーション論		2	
		日本語学概論		2	
		日本語教育概論		2	
		日本語学特論Ⅰ		2	
		日本語学特論Ⅱ		2	
		日本語学特論Ⅲ		2	
		日本語学特論Ⅳ		2	
		日本語教育学特論Ⅰ		2	
		日本語教育学特論Ⅱ		2	
		日本語教育学特論Ⅲ		2	
		日本語教育学特論Ⅳ		2	
		日本語授業の実践Ⅰ		2	
		日本語授業の実践Ⅱ		2	
		日本語教育実習Ⅰ		1	
		日本語教育実習Ⅱ		1	
		日本文化演習Ⅰ		2	
		日本文化演習Ⅱ		2	
専門科目		インテンシブ中国語Ⅰ		1	4単位以上
		インテンシブ中国語Ⅱ		1	
		インテンシブ中国語Ⅲ		1	
		インテンシブ中国語Ⅳ		1	
		インテンシブ中国語Ⅴ		1	
		インテンシブ中国語Ⅵ		1	
		インテンシブ中国語Ⅶ		1	
		インテンシブ中国語Ⅷ		1	
		中国語発音実習Ⅰ		1	
		中国語発音実習Ⅱ		1	
		ビジネス中国語Ⅰ		2	
		ビジネス中国語Ⅱ		2	
		中国語通訳法Ⅰ		2	
		中国語通訳法Ⅱ		2	
		中国語翻訳法Ⅰ		2	
		中国語翻訳法Ⅱ		2	

第3類（杏林大学学則）

	中国語演習Ⅰ		2	
	中国語演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅲ		2	
	中国語演習Ⅳ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅰ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅱ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅲ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅳ		2	
	中国語学概論	2		
	中国語文法論	2		
	中国語音声学		2	
	中国文学史Ⅰ		2	
	中国文学史Ⅱ		2	
	日中比較文化論Ⅰ	2		
	日中比較文化論Ⅱ	2		
	アジア政治論		2	
	アジア経済論		2	
	中国経済概論		2	
	中国語翻訳ワークショップ		2	
	認知言語学		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			
自由科目				

観光交流文化学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考
				必修	選択	
	英	語	I	1		留学生等本学が指定する 学生は日本語 6 単位選択 必修
	英	語	II	1		
	英	語	III	1		

第 3 類（杏林大学学則）

外国語科目 A	英語	IV	1		
	英語	V	1		
	英語	VI	1		
	英語	VII	1		
	英語	VIII	1		
	英語 文 法	I		1	
	英語 文 法	II		1	
	英語 作文	I		1	
	英語 作文	II		1	
	実用 英語	I	1		
	実用 英語	II	1		
	実用 英語	III	1		
	実用 英語	IV	1		
	実用 英語 演習	I	1		
	実用 英語 演習	II	1		
	中国語	I	1		
	中国語	II	1		
	中国語	III	1		
	中国語	IV	1		
	中国語	V	1		
	中国語	VI	1		
	日本語	I		1	
	日本語	II		1	
	日本語	III		1	
	日本語	IV		1	
	日本語	V		1	
	日本語	VI		1	
	日本語	VII		1	
	日本語	VIII		1	
外国語科目 B	目的別 英語 演習	I		2	
	目的別 英語 演習	II		2	
	目的別 英語 演習	III		2	
	目的別 英語 演習	IV		2	
	目的別 英語 演習	V		2	
	目的別 英語 演習	VI		2	
	目的別 英語 演習	VII		2	

第3類（杏林大学学則）

	目的別中国語演習Ⅰ		2	
	目的別中国語演習Ⅱ		2	
	目的別中国語演習Ⅲ		2	
	目的別中国語演習Ⅳ		2	
	目的別中国語演習Ⅴ		2	
韓	国語Ⅰ		2	
韓	国語Ⅱ		2	
韓	国語Ⅲ		2	
韓	国語Ⅳ		2	
ド	イツ語Ⅰ		2	
ド	イツ語Ⅱ		2	
ド	イツ語Ⅲ		2	
ド	イツ語Ⅳ		2	
フ	ランス語Ⅰ		2	
フ	ランス語Ⅱ		2	
フ	ランス語Ⅲ		2	
フ	ランス語Ⅳ		2	
ス	ペイン語Ⅰ		2	
ス	ペイン語Ⅱ		2	
ス	ペイン語Ⅲ		2	
ス	ペイン語Ⅳ		2	
口	英語Ⅰ		1	
口	英語Ⅱ		1	
口	英語Ⅲ		1	
口	英語Ⅳ		1	
口	英語Ⅴ		1	
口	英語Ⅵ		1	
口	英語Ⅶ		1	
口	英語Ⅷ		1	
口	中国語Ⅰ		1	
口	中国語Ⅱ		1	
口	中国語Ⅲ		1	
口	中国語Ⅳ		1	
口	中国語Ⅴ		1	
口	中国語Ⅵ		1	
口	中国語Ⅶ		1	

第3類（杏林大学学則）

	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		2 単位以上
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	
教 養 科 目	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	
	こ と ば と 社 会		2	
	言 語 の 歴 史 (英)		2	
	言 語 の 歴 史 (中)		2	
	言 語 の 歴 史 (日)		2	
	英 米 文 学		2	
	児 童 文 学		2	
	アジアの文学・文化(日)		2	
	アジアの文学・文化(中)		2	
	アジアの文学・文化(韓)		2	

第3類（杏林大学学則）

グローバル社会と地域	グローバル社会と国際協力		2	
	ダイバーシティ入門		2	
	日本と世界の近現代史		2	
	生活と法		2	
	日本国憲法学		2	
	社会		2	
	ミクロ経済学		2	
	マクロ経済学		2	
	統計学		2	
	観光学入門	2		
	マーケティング入門		2	
	ホスピタリティ入門	2		
	アジアン・ホスピタリティ		2	
	人文地理学		2	
	自然地理学		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
人間と健康	地域圏研究Ⅲ		2	
	地域圏研究Ⅳ		2	
	地域圏研究Ⅴ		2	
	地域圏研究Ⅵ		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心理学		2	
健康	宗教学		2	
	健康科学Ⅰ		2	
	健康科学Ⅱ		2	
	体育理論		1	
	体育実技		1	
日本語教育	ファッション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	

第3類（杏林大学学則）

	日本語教育学特論Ⅰ		2	
	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実際Ⅰ		2	
	日本語授業の実際Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
	日本文化演習Ⅱ		2	
専門科目 A	国際観光論		2	
	交流文化論		2	
	サービス文化論		2	
	観光心理学		2	
	観光人類学		2	
	観光地理学		2	
	観光保健論		2	
	福祉観光論		2	
	観光マーケティング論		2	
	観光英語Ⅰ	2		
	観光英語Ⅱ	2		
	観光英語Ⅲ		2	
	観光英語Ⅳ		2	
	観光中国語Ⅰ		2	
	観光中国語Ⅱ		2	
	観光手話基礎		2	
	観光手話		2	
	プロジェクト演習Ⅰ	2		
	プロジェクト演習Ⅱ		2	
	観光基礎演習Ⅰ	2		
	観光基礎演習Ⅱ	2		
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
	サービス産業論		2	

第3類（杏林大学学則）

専門科目 目 B	基礎簿記Ⅰ	2	
	基礎簿記Ⅱ	2	
	旅行産業論	2	
	旅行サービス論	2	
	ホスピタリティマネジメント論	2	
	航空産業論	2	
	航空サービス論	2	
	宿泊産業論	2	
	宿泊サービス論	2	
	フードビジネス論	2	
	フードビジネスサービス論	2	
	観光政策・行政論	2	
	風景・景観論	2	
	イベント・コンベンション論	2	
	エンターテインメント産業論	2	
	ブライダルコーディネート論	2	
	世界遺産観光論	2	
	旅行医学概論	2	
	観光リスクマネジメント論	2	
	観光交流文化特論Ⅰ	2	
	観光交流文化特論Ⅱ	2	
	観光交流文化特論Ⅲ	2	
	観光交流文化特論Ⅳ	2	
関連科目	他学部設置科目		
自由科目			

第3類（杏林大学学則）

別表4－4（平成31年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考
				必修	選択	
外国語科目A	英語	I		1		留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修
	英語	II		1		
	英語	III		1		
	英語	IV		1		
	英語	V		1		
	英語	VI		1		
	英語	VII		1		
	英語	VIII		1		
	英語文法	I		1		
	英語文法	II		1		
	英語作文	I		1		
	英語作文	II		1		
	実用英語	I		1		
	実用英語	II		1		
	実用英語	III		1		
	実用英語	IV		1		
	実用英語演習	I		1		
	実用英語演習	II		1		
	中国語	I		1		
	中国語	II		1		
	中国語	III		1		
	中国語	IV		1		
	中国語	V		1		
	中国語	VI		1		
	日本語	I			1	
	日本語	II			1	
	日本語	III			1	
	日本語	IV			1	
	日本語	V			1	
	日本語	VI			1	
	日本語	VII			1	
	日本語	VIII			1	

第3類（杏林大学学則）

外国語科目B	目的別英語演習Ⅰ	2	
	目的別英語演習Ⅱ	2	
	目的別英語演習Ⅲ	2	
	目的別英語演習Ⅳ	2	
	目的別英語演習Ⅴ	2	
	目的別英語演習Ⅵ	2	
	目的別英語演習Ⅶ	2	
	目的別中国語演習Ⅰ	2	
	目的別中国語演習Ⅱ	2	
	目的別中国語演習Ⅲ	2	
	目的別中国語演習Ⅳ	2	
	目的別中国語演習Ⅴ	2	
	韓国語Ⅰ	2	
	韓国語Ⅱ	2	
	韓国語Ⅲ	2	
	韓国語Ⅳ	2	
	ドイツ語Ⅰ	2	
	ドイツ語Ⅱ	2	
	ドイツ語Ⅲ	2	
	ドイツ語Ⅳ	2	
	フランス語Ⅰ	2	
	フランス語Ⅱ	2	
	フランス語Ⅲ	2	
	フランス語Ⅳ	2	
	スペイン語Ⅰ	2	
	スペイン語Ⅱ	2	
	スペイン語Ⅲ	2	
	スペイン語Ⅳ	2	
	口語英語Ⅰ	1	
	口語英語Ⅱ	1	
	口語英語Ⅲ	1	
	口語英語Ⅳ	1	
	口語英語Ⅴ	1	
	口語英語Ⅵ	1	
	口語英語Ⅶ	1	
	口語英語Ⅷ	1	

第3類（杏林大学学則）

	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キャリアデザイン演習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	
	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	
	こ と ば と 社 会		2	
	言 語 の 歴 史 (英)		2	

第3類（杏林大学学則）

教 養 科 目	こ と ば と 文 化	言 語 の 歴 史 （ 中 ）		2	
		言 語 の 歴 史 （ 日 ）		2	
		英 語 文 学 I		2	
		英 語 文 学 II		2	
		アジアの文学・文化（日）		2	
		アジアの文学・文化（中）		2	
		アジアの文学・文化（韓）		2	
	グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域	グローバル社会と国際協力		2	
		ダイバーシティ入門		2	
		日本と世界の近現代史		2	
		生 活 と 法		2	
		日 本 国 憲 法		2	
		社 会 学		2	
		ミ ク ロ 経 済 学		2	
		マ ク ロ 経 済 学		2	
		統 計 学		2	
		観 光 学 入 門		2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門		2	
		ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門		2	
		アジアン・ホスピタリティ		2	
		人 文 地 理 学		2	
		自 然 地 理 学		2	
		地 域 圏 研 究 I		2	
		地 域 圏 研 究 II		2	
		地 域 圏 研 究 III		2	
		地 域 圏 研 究 IV		2	
		地 域 圏 研 究 V		2	
		地 域 圏 研 究 VI		2	
人 間 と 健 康		哲 学		2	
		倫 理 学		2	
		心 理 学		2	
		宗 教 学		2	
		健 康 科 学 I		2	
		健 康 科 学 II		2	
		体 育 理 論		1	
		体 育 実 技		1	

第3類（杏林大学学則）

日本語教育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	
	日本語教育学特論Ⅰ		2	
	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実践Ⅰ		2	
	日本語授業の実践Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
	日本文化演習Ⅱ		2	
専門科目 （英語ビジネスコミュニケーション）	Writing Strategies		2	
	Communication Strategies		2	
	Integrated EnglishⅠ		2	
	Integrated EnglishⅡ		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	2		
	ビジネスイングリッシュⅡ	2		
	グローバルビジネス論Ⅰ	2		
	グローバルビジネス論Ⅱ	2		
	ビジネスコミュニケーション論Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション論Ⅱ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	Introduction to Business		2	
	Introduction to Economics		2	
	Business Cycle and Monetary Policy		2	
	現代企業論		2	
	経営戦略論		2	
	人材マネジメント論		2	
	国際会計論		2	

第3類（杏林大学学則）

シ ョ ン コ ー ス)	国 際 経 済 学 I		2	
	国 際 経 済 学 II		2	
	ア メ リ カ 政 治 論		2	
	ア メ リ カ 経 済 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
	ア ジ ア 政 治 論		2	
	ア ジ ア 経 済 論		2	
	ゼ ミ ナ ー ル I	2		
	ゼ ミ ナ ー ル II	2		
専 門 科 目 （ 英 語 教 育 コ ー ス ）	ゼ ミ ナ ー ル III	2		4 単位以上
	卒 業 論 文 ・ 課 題 指 導		4	
	Writing Strategies		2	
	Communication Strategies		2	
	Integrated English I		2	
	Integrated English II		2	
	英 語 発 音 聴 取	2		
	英 語 翻 訳 論		2	
	英語翻訳ワークショップ		2	
	異 文 化 交 流		2	
	英 語 学 特 論 I		2	
	英 語 学 特 論 II		2	
	英 語 学 特 論 III		2	
	英 語 学 特 論 IV		2	
	英 語 学 演 習 I		2	
	英 語 学 演 習 II		2	
	英 語 学 演 習 III		2	
	英 語 学 演 習 IV		2	
	英 語 音 声 学	2		
	社 会 言 語 学		2	
	認 知 言 語 学		2	
	英 語 教 育 論 I	2		
	英 語 教 育 論 II	2		
	英 語 科 教 育 法 I		2	
	英 語 科 教 育 法 II		2	
	児 童 英 語 教 育 論 I		2	

第3類（杏林大学学則）

	児童英語教育論Ⅱ		2	
	児童英語教育教材研究		2	
	児童英語教育実習		1	
	英語教育演習Ⅰ		2	
	英語教育演習Ⅱ		2	
	情報処理		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			
自由科目				

中国語学科

授業科目の名称				単位数		備考
				必修	選択	
外国語科目A	英語Ⅰ			1		留学生等本学が指定する学生は日本語8単位必修
	英語Ⅱ			1		
	英語Ⅲ			1		
	英語Ⅳ			1		
	英語Ⅴ			1		
	英語Ⅵ			1		
	中国語Ⅰ			1		
	中国語Ⅱ			1		
	中国語Ⅲ			1		
	中国語Ⅳ			1		
	中国語Ⅴ			1		
	中国語Ⅵ			1		
	中国語Ⅶ			1		
	中国語Ⅷ			1		
	日本語Ⅰ				1	
	日本語Ⅱ				1	
	日本語Ⅲ				1	
	日本語Ⅳ				1	
	日本語Ⅴ				1	
	日本語Ⅵ				1	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 VII		1	
	日 本 語 VIII		1	
外国語科目B	目的別英語演習 I		2	
	目的別英語演習 II		2	
	目的別英語演習 III		2	
	目的別英語演習 IV		2	
	目的別英語演習 V		2	
	目的別英語演習 VI		2	
	目的別英語演習 VII		2	
	目的別中国語演習 I		2	
	目的別中国語演習 II		2	
	目的別中国語演習 III		2	
	目的別中国語演習 IV		2	
	目的別中国語演習 V		2	
	韓国語 I		2	
	韓国語 II		2	
	韓国語 III		2	
	韓国語 IV		2	
	ドイツ語 I		2	
	ドイツ語 II		2	
	ドイツ語 III		2	
	ドイツ語 IV		2	
	フランス語 I		2	
	フランス語 II		2	
	フランス語 III		2	
	フランス語 IV		2	
	スペイン語 I		2	
	スペイン語 II		2	
	スペイン語 III		2	
	スペイン語 IV		2	
	口語英語 I		1	
	口語英語 II		1	
	口語英語 III		1	
	口語英語 IV		1	
	口語英語 V		1	
	口語英語 VI		1	

第3類（杏林大学学則）

	口 語 英 語 VII		1	
	口 語 英 語 VIII		1	
	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キャリアデザイン演習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	
	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	

第3類（杏林大学学則）

教 養 科 目	こ と ば と 文 化	こ と ば と 社 会		2	
		言 語 の 歴 史 (英)		2	
		言 語 の 歴 史 (中)		2	
		言 語 の 歴 史 (日)		2	
		英 語 文 学 I		2	
		英 語 文 学 II		2	
		アジアの文学・文化(日)		2	
		アジアの文学・文化(中)		2	
		アジアの文学・文化(韓)		2	
	グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域	グローバル社会と国際協力		2	
		ダイバーシティ入門		2	
		日本と世界の近現代史		2	
		生 活 と 法		2	
		日 本 国 憲 法 学		2	
		社 会 学		2	
		ミ ク ロ 経 済 学		2	
		マ ク ロ 経 済 学		2	
		統 計 学		2	
		観 光 学 入 門		2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門		2	
		ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門		2	
		ア ジ ア ン ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ		2	
		人 文 地 理 学		2	
		自 然 地 理 学		2	
		地 域 圏 研 究 I		2	
		地 域 圏 研 究 II		2	
		地 域 圏 研 究 III		2	
		地 域 圏 研 究 IV		2	
		地 域 圏 研 究 V		2	
		地 域 圏 研 究 VI		2	
人 間 と 健 康		哲 学		2	
		倫 理 学		2	
		心 理 学		2	
		宗 教 学		2	
		健 康 科 学 I		2	
		健 康 科 学 II		2	

第3類（杏林大学学則）

		体 育 理 論		1	
		体 育 実 技		1	
日 本 語 教 育		フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン 論		2	
		日 本 語 学 概 論		2	
		日 本 語 教 育 概 論		2	
		日 本 語 学 特 論 I		2	
		日 本 語 学 特 論 II		2	
		日 本 語 学 特 論 III		2	
		日 本 語 学 特 論 IV		2	
		日 本 語 教 育 学 特 論 I		2	
		日 本 語 教 育 学 特 論 II		2	
		日 本 語 教 育 学 特 論 III		2	
		日 本 語 教 育 学 特 論 IV		2	
		日 本 語 授 業 の 実 際 I		2	
		日 本 語 授 業 の 実 際 II		2	
		日 本 語 教 育 実 習 I		1	
		日 本 語 教 育 実 習 II		1	
		日 本 文 化 演 習 I		2	
		日 本 文 化 演 習 II		2	
専 門 科 目		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 I		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 II		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 III		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 IV		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 V		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VI		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VII		1	
		イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VIII		1	
		中 国 語 発 音 実 習 I		1	
		中 国 語 発 音 実 習 II		1	
		ビ ジ ネ ス 中 国 語 I		2	
		ビ ジ ネ ス 中 国 語 II		2	
		中 国 語 通 訳 法 I		2	
		中 国 語 通 訳 法 II		2	
		中 国 語 翻 訳 法 I		2	
		中 国 語 翻 訳 法 II		2	
		中 国 語 演 習 I		2	
					4 単位以上

第3類（杏林大学学則）

	中国語演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅲ		2	
	中国語演習Ⅳ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅰ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅱ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅲ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅳ		2	
	中国語学概論	2		
	中国語文法論	2		
	中国語音声学		2	
	中国文学史Ⅰ		2	
	中国文学史Ⅱ		2	
	日中比較文化論Ⅰ	2		
	日中比較文化論Ⅱ	2		
	アジア政治論		2	
	アジア経済論		2	
	中国経済概論		2	
	中国語翻訳ワークショップ		2	
	認知言語学		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			
自由科目				

観光交流文化学科

授業科目の名称				単位数		備考
				必修	選択	
外国	英語Ⅰ		1			留学生等本学が指定する学生は日本語6単位選択必修
	英語Ⅱ		1			
	英語Ⅲ		1			
	英語Ⅳ		1			

第 3 類（杏林大学学則）

語 科 目 A	英	語	V	1		
	英	語	VI	1		
	英	語	VII	1		
	英	語	VIII	1		
	英	語	文 法 I		1	
	英	語	文 法 II		1	
	英	語	作 文 I		1	
	英	語	作 文 II		1	
	実	用	英 語 I	1		
	実	用	英 語 II	1		
	実	用	英 語 III	1		
	実	用	英 語 IV	1		
	実	用	英 語 演 習 I	1		
	実	用	英 語 演 習 II	1		
	中	国	語 I	1		
	中	国	語 II	1		
	中	国	語 III	1		
	中	国	語 IV	1		
	中	国	語 V	1		
	中	国	語 VI	1		
	日	本	語 I		1	
	日	本	語 II		1	
	日	本	語 III		1	
	日	本	語 IV		1	
	日	本	語 V		1	
	日	本	語 VI		1	
	日	本	語 VII		1	
	日	本	語 VIII		1	
外 国 語 科 目 B	目 的 別	英 語 演 習 I			2	
	目 的 別	英 語 演 習 II			2	
	目 的 別	英 語 演 習 III			2	
	目 的 別	英 語 演 習 IV			2	
	目 的 別	英 語 演 習 V			2	
	目 的 別	英 語 演 習 VI			2	
	目 的 別	英 語 演 習 VII			2	
	目 的 別	中 国 語 演 習 I			2	

第3類（杏林大学学則）

目的別中国語演習Ⅱ	2	
目的別中国語演習Ⅲ	2	
目的別中国語演習Ⅳ	2	
目的別中国語演習Ⅴ	2	
韓国語Ⅰ	2	
韓国語Ⅱ	2	
韓国語Ⅲ	2	
韓国語Ⅳ	2	
ドイツ語Ⅰ	2	
ドイツ語Ⅱ	2	
ドイツ語Ⅲ	2	
ドイツ語Ⅳ	2	
フランス語Ⅰ	2	
フランス語Ⅱ	2	
フランス語Ⅲ	2	
フランス語Ⅳ	2	
スペイン語Ⅰ	2	
スペイン語Ⅱ	2	
スペイン語Ⅲ	2	
スペイン語Ⅳ	2	
口語英会話Ⅰ	1	
口語英会話Ⅱ	1	
口語英会話Ⅲ	1	
口語英会話Ⅳ	1	
口語英会話Ⅴ	1	
口語英会話Ⅵ	1	
口語英会話Ⅶ	1	
口語英会話Ⅷ	1	
口語中国語Ⅰ	1	
口語中国語Ⅱ	1	
口語中国語Ⅲ	1	
口語中国語Ⅳ	1	
口語中国語Ⅴ	1	
口語中国語Ⅵ	1	
口語中国語Ⅶ	1	
口語中国語Ⅷ	1	

第3類（杏林大学学則）

基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		2 単位以上
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キャリアデザイン I	2		
	キャリアデザイン II	2		
	キャリアデザイン III	2		
	キャリアデザイン IV	2		
	キャリアデザイン V	2		
	キャリアデザイン VI	2		
	キャリアデザイン演習		2	
	フィールドスタディ I		2	
	フィールドスタディ II		2	
	フィールドスタディ III		2	
	フィールドスタディ IV		2	
	フィールドスタディ V		2	
	インターンシップ I		1	
	インターンシップ II		1	
	インターンシップ III		1	
教 養 科 目	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	
	こ と ば と 社 会		2	
	言 語 の 歴 史 (英)		2	
	言 語 の 歴 史 (中)		2	
	言 語 の 歴 史 (日)		2	
	英 語 文 学 I		2	
	英 語 文 学 II		2	
	アジアの文学・文化(日)		2	
	アジアの文学・文化(中)		2	
	アジアの文学・文化(韓)		2	
	グローバル社会と国際協力		2	

第3類（杏林大学学則）

グローバル社会と地域	ダイバーシティ入門		2	
	日本と世界の近現代史		2	
	生活と法		2	
	日本国憲法		2	
	社会学		2	
	ミクロ経済学		2	
	マクロ経済学		2	
	統計学		2	
	観光学入門	2		
	マーケティング入門		2	
	ホスピタリティ入門	2		
	アジアン・ホスピタリティ		2	
	人文地理学		2	
	自然地理学		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
	地域圏研究Ⅲ		2	
	地域圏研究Ⅳ		2	
	地域圏研究Ⅴ		2	
	地域圏研究Ⅵ		2	
人間と健康	哲学		2	
	倫理学		2	
	心理学		2	
	宗教学		2	
	健康科学Ⅰ		2	
	健康科学Ⅱ		2	
	体育理論		1	
	体育実技		1	
日本語教育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	
	日本語教育学特論Ⅰ		2	

第3類（杏林大学学則）

		日本語教育学特論Ⅱ		2	
		日本語教育学特論Ⅲ		2	
		日本語教育学特論Ⅳ		2	
		日本語授業の実際Ⅰ		2	
		日本語授業の実際Ⅱ		2	
		日本語教育実習Ⅰ		1	
		日本語教育実習Ⅱ		1	
		日本文化演習Ⅰ		2	
		日本文化演習Ⅱ		2	
専門科目 A		国際観光論		2	
		交流文化論		2	
		サービス文化論		2	
		観光心理学		2	
		観光人類学		2	
		観光地理学		2	
		観光保健論		2	
		福祉観光論		2	
		観光マーケティング論		2	
		観光英語Ⅰ	2		
		観光英語Ⅱ	2		
		観光英語Ⅲ		2	
		観光英語Ⅳ		2	
		観光中国語Ⅰ		2	
		観光中国語Ⅱ		2	
		観光手話基礎		2	
		観光手話		2	
		プロジェクト演習Ⅰ	2		
		プロジェクト演習Ⅱ		2	
		観光基礎演習Ⅰ	2		
		観光基礎演習Ⅱ	2		
		ゼミナールⅠ	2		
		ゼミナールⅡ	2		
		ゼミナールⅢ	2		
		卒業論文・課題指導		4	
		サービス産業論		2	
		基礎簿記Ⅰ		2	

第3類（杏林大学学則）

専門科目 目 B	基礎簿記Ⅱ		2	
	旅行産業論		2	
	旅行サービス論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	航空産業論		2	
	航空サービス論		2	
	宿泊産業論		2	
	宿泊サービス論		2	
	フードビジネス論		2	
	フードビジネスサービス論		2	
	観光政策・行政論		2	
	風景・景観論		2	
	イベント・コンベンション論		2	
	エンターテインメント産業論		2	
	ブライダルコーディネート論		2	
	世界遺産観光論		2	
	旅行医学概論		2	
	観光リスクマネジメント論		2	
	観光交流文化特論Ⅰ		2	
	観光交流文化特論Ⅱ		2	
	観光交流文化特論Ⅲ		2	
	観光交流文化特論Ⅳ		2	
関連科目	他学部 の 設置 科目			
自由科目				

第3類（杏林大学学則）

別表4－5（令和3年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称							単 位 数		備 考
							必修	選択	
外国語科目A	英語	I	2						
	英語	II	2						
	英語	III	2						
	英語	IV	2						
	実用英語演習	I		2					
	実用英語演習	II		2					
	中国語	I		2					
	中国語	II		2					
	韓国語	I		2					
	韓国語	II		2					
	ドイツ語	I		2					
	ドイツ語	II		2					
	フランス語	I		2					
	フランス語	II		2					
	スペイン語	I		2					
	スペイン語	II		2					
	日本語	I		2					
	日本語	II		2					
	日本語	III		2					
	日本語	IV		2					
	日本語	V		2					
	日本語	VI		2					
外国語科目B	英語特別演習	I		2					
	英語特別演習	II		2					
	中国語	III		2					
	中国語	IV		2					
	中国語特別演習	I		2					
	中国語特別演習	II		2					
	中国語特別演習	III		2					
	中国語特別演習	IV		2					
	韓国語	III		2					
	韓国語	IV		2					

第3類（杏林大学学則）

	実 用 韓 国 語		2	
	ド イ ツ 語 III		2	
	ド イ ツ 語 IV		2	
	フ ラ ン ス 語 III		2	
	フ ラ ン ス 語 IV		2	
	ス ペ イ ン 語 III		2	
	ス ペ イ ン 語 IV		2	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門	2		2単位以上
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅰ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅱ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅲ		2	
	サービスラーニングⅠ		2	
	サービスラーニングⅡ		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統計学		2	
	情報処理		2	
	異文化コミュニケーション		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
	地域圏研究Ⅲ		2	
	ダイバーシティ論		2	
	フィールドスタディⅠ		2	
	フィールドスタディⅡ		2	
	フィールドスタディⅢ		2	
	フィールドスタディⅣ		2	
	キャリアデザインⅠ	2		
	キャリアデザインⅡ	2		
	キャリアデザインⅢ		2	
	キャリアデザインⅣ		2	
	インターンシップⅠ		2	
	インターンシップⅡ		2	
	インターンシップⅢ		2	
	日本語学概論		2	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 学 特 論 I		2	
	日 本 語 学 特 論 II		2	
	日 本 語 学 特 論 III		2	
	日 本 語 教 育 学 概 論		2	
	日 本 語 教 育 実 習 I		2	
	日 本 語 教 育 実 習 II		2	
	日 本 語 教 育 実 習 III		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 I		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 II		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 III		2	
	日 本 文 化 演 習		2	
	海 外 語 学 実 習 I		1	
	海 外 語 学 実 習 II		1	
	海 外 語 学 実 習 III		1	
	海 外 語 学 実 習 IV		1	
	国 内 語 学 実 習 I		1	
	国 内 語 学 実 習 II		1	
教 養 科 目	文 学		2	
	社 会 学		2	
	地 理 学		2	
	経 営 学		2	
	哲 学		2	
	倫 理 学		2	
	心 理 学		2	
	ホスピタリティ・コミュニケーション		2	
	歴 史 学		2	
	日 本 国 憲 法		2	
	健 康 と 体 育		2	
	社 会 と 大 学 I		2	
	社 会 と 大 学 II		2	
	社 会 と 大 学 III		2	
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I		2	
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II		2	
	英 語 の 世 界	2		専 門 科 目 か ら 66単 位 以 上
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と 人 間	2		
	英 語 文 法 I		2	

第3類（杏林大学学則）

専門科目	英語文法Ⅱ	2	2単位以上
	目的別英語演習Ⅰ	2	
	目的別英語演習Ⅱ	2	
	目的別英語演習Ⅲ	2	
	目的別英語演習Ⅳ	2	
	目的別英語演習Ⅴ	2	
	目的別英語演習Ⅵ	2	2
	目的別英語演習・上級Ⅰ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅱ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅲ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅳ	2	
	英語文献講読Ⅰ	2	
	英語文献講読Ⅱ	2	
	英語音声学	2	
	英語発音聴取	2	
	英語翻訳論	2	
	英語翻訳演習	2	
	Writing Strategies	2	
	Communication Strategies	2	
	Integrated EnglishⅠ	2	
	Integrated EnglishⅡ	2	
	英語学演習Ⅰ	2	
	英語学演習Ⅱ	2	
	英語学演習Ⅲ	2	
	英語学演習Ⅳ	2	
	英語学演習Ⅴ	2	
	英語学特論Ⅰ	2	
	英語学特論Ⅱ	2	
	英語学特論Ⅲ	2	
	英語学特論Ⅳ	2	
	英語学特論Ⅴ	2	
	表象文化論Ⅰ	2	2
	表象文化論Ⅱ	2	
	異文化コミュニケーション特論	2	
	異文化交	2	
	西洋的思考と哲学	2	

第3類（杏林大学学則）

	G l o b a l I s s u e s I		2	
	G l o b a l I s s u e s II		2	
	英 文 学 特 論 I		2	
	英 文 学 特 論 II		2	
	米 文 学 特 論 I		2	
	米 文 学 特 論 II		2	
	英 語 文 学		2	
	社 会 言 語 学		2	
	認 知 言 語 学		2	
	英 語 教 育 論 I		2	
	英 語 教 育 論 II		2	
	英 語 科 教 育 法 I		2	
	英 語 科 教 育 法 II		2	
	ゼ ミ ナ ー ル I	2		
	ゼ ミ ナ ー ル II	2		
	ゼ ミ ナ ー ル III	2		
	卒 業 論 文 ・ 課 題 指 導	4		
関 連 目	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 由 科 目				

中国語学科

外国語学科						単 位 数		備 考
授 業 科 目 の 名 称						必修	選択	
外国語 科目 A	英			語	I	2		
	英			語	II	2		
	実	用	英	語	演 習	I	2	
	実	用	英	語	演 習	II	2	
	韓		国		語	I	2	
	韓		国		語	II	2	
	ド	イ		ツ	語	I	2	
	ド	イ		ツ	語	II	2	
	フ	ラ	ン		ス 語	I	2	
	フ	ラ	ン		ス 語	II	2	
	ス	ペ	イ		ン 語	I	2	
	ス	ペ	イ		ン 語	II	2	

第3類（杏林大学学則）

	日 本 語 I	2		
	日 本 語 II	2		
	日 本 語 III	2		
	日 本 語 IV	2		
	日 本 語 V	2		
	日 本 語 VI	2		
外国語科目B	英語コミュニケーション I	2		
	英語コミュニケーション II	2		
	英語特別演習 I		2	
	英語特別演習 II		2	
	中国語特別演習 I		2	
	中国語特別演習 II		2	
	中国語特別演習 III		2	
	中国語特別演習 IV		2	
	韓国語 III		2	
	韓国語 IV		2	
	実用韓国語		2	
	ドイツ語 III		2	
	ドイツ語 IV		2	
	フランス語 III		2	
	フランス語 IV		2	
	スペイン語 III		2	
	スペイン語 IV		2	
基盤教育科目	大学入門	2		
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	
	テーマで学ぶ現代社会 I		2	
	テーマで学ぶ現代社会 II		2	
	テーマで学ぶ現代社会 III		2	
	サービスラーニング I		2	
	サービスラーニング II		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統計学		2	
	情報処理		2	
	異文化コミュニケーション		2	

2単位以上

第3類（杏林大学学則）

	地 域 圏 研 究 I		2	
	地 域 圏 研 究 II		2	
	地 域 圏 研 究 III		2	
	ダ イ バ ー シ テ ィ 論		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン III		2	
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン IV		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		2	
	日 本 語 学 概 論		2	
	日 本 語 学 特 論 I		2	
	日 本 語 学 特 論 II		2	
	日 本 語 学 特 論 III		2	
	日 本 語 教 育 学 概 論		2	
	日 本 語 教 育 実 習 I		2	
	日 本 語 教 育 実 習 II		2	
	日 本 語 教 育 実 習 III		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 I		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 II		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 III		2	
	日 本 文 化 演 習		2	
	海 外 語 学 実 習 I		1	
	海 外 語 学 実 習 II		1	
	海 外 語 学 実 習 III		1	
	海 外 語 学 実 習 IV		1	
	国 内 語 学 実 習 I		1	
	国 内 語 学 実 習 II		1	
	文 学		2	
	社 会 学		2	
	地 理 学		2	

第3類（杏林大学学則）

教 養 科 目	経 営 学	2	
	哲 学	2	
	倫 理 学	2	
	心 理 学	2	
	ホスピタリティ・コミュニケーション	2	
	歴 史 学	2	
	日 本 国 憲 法	2	
	健 康 と 体 育	2	
	社 会 と 大 学 I	2	
	社 会 と 大 学 II	2	
	社 会 と 大 学 III	2	
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I	2	
	保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II	2	
専 門 科 目	インテンシブ中国語 I	2	専門科目から 66単位以上
	インテンシブ中国語 II	2	
	インテンシブ中国語 III	2	
	インテンシブ中国語 IV	2	
	インテンシブ中国語 V	2	
	インテンシブ中国語 VI	2	
	インテンシブ中国語 VII	2	
	インテンシブ中国語 VIII	2	
	インテンシブ中国語 IX	2	
	インテンシブ中国語 X	2	
	インテンシブ中国語 X I	2	
	インテンシブ中国語 X II	2	
	インテンシブ中国語 X III	2	
	インテンシブ中国語 X IV	2	
	インテンシブ中国語 X V	2	
	インテンシブ中国語 X VI	2	
	中国語発音矯正 I	2	
	中国語発音矯正 II	2	
	中国語学概論	2	
	中国語の文法	2	
	中国語の音声	2	
	デジタル時代の中国語	2	
	地域研究入門	2	

第3類（杏林大学学則）

	中国の地誌		2	
	中国語圏研究	2		
	韓国語圏研究		2	
	韓国の文学・文化		2	
	中国文学史Ⅰ		2	
	中国文学史Ⅱ		2	
	日中比較文化論Ⅰ		2	
	日中比較文化論Ⅱ		2	
	アジア政治論		2	
	アジア経済論		2	
	中国の政治・経済		2	
	中国の思想		2	
	中国の歴史		2	
	近代中国と日本Ⅰ		2	
	近代中国と日本Ⅱ		2	
	中国語プレゼンテーション		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅰ		2	
	中国語演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅲ		2	
	中国語演習Ⅳ		2	
	中国語通訳法Ⅰ	2		
	中国語通訳法Ⅱ	2		
	中国語翻訳法Ⅰ		2	
	中国語翻訳法Ⅱ		2	
	中日通訳・翻訳Ⅰ		2	
	中日通訳・翻訳Ⅱ		2	
	日中通訳・翻訳Ⅰ		2	
	日中通訳・翻訳Ⅱ		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			

第3類（杏林大学学則）

自 科 由 目							
観光交流文化学科							
授 業 科 目 の 名 称		単 位 数		備 考			
		必修	選択				
外国語科目A	英語	I	2				
	英語	Ⅱ	2				
	英語	Ⅲ	2				
	英語	Ⅳ	2				
	実用英語演習	I		2			
	実用英語演習	Ⅱ		2			
	中国語	I		2			
	中国語	Ⅱ		2			
	韓国語	I		2			
	韓国語	Ⅱ		2			
	ドイツ語	I		2			
	ドイツ語	Ⅱ		2			
	フランス語	I		2			
	フランス語	Ⅱ		2			
	スペイン語	I		2			
	スペイン語	Ⅱ		2			
	日本語	I		2			
	日本語	Ⅱ		2			
日本語	Ⅲ		2				
日本語	Ⅳ		2				
日本語	V		2				
日本語	Ⅵ		2				
外国語科目B	英語	V	2				
	英語	Ⅵ	2				
	英語	Ⅶ	2				
	英語	Ⅷ	2				
	英語特別演習	I		2			
	英語特別演習	Ⅱ		2			
	中国語	Ⅲ		2			
	中国語	Ⅳ		2			
	中国語特別演習	I		2			
	中国語特別演習	Ⅱ		2			

第3類（杏林大学学則）

	中国語特別演習Ⅲ		2	
	中国語特別演習Ⅳ		2	
	韓国語Ⅲ		2	
	韓国語Ⅳ		2	
	実用韓国語		2	
	ドイツ語Ⅲ		2	
	ドイツ語Ⅳ		2	
	フランス語Ⅲ		2	
	フランス語Ⅳ		2	
	スペイン語Ⅲ		2	
	スペイン語Ⅳ		2	
基 盤 教 育 科 目	大学入門	2		2単位以上
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅰ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅱ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅲ		2	
	サービスラーニングⅠ		2	
	サービスラーニングⅡ		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統計学		2	
	情報処理		2	
	異文化コミュニケーション		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
	地域圏研究Ⅲ		2	
	ダイバーシティ論		2	
	フィールドスタディⅠ		2	
	フィールドスタディⅡ		2	
	フィールドスタディⅢ		2	
	フィールドスタディⅣ		2	
	キャリアディベロップメントⅠ	2		
	キャリアディベロップメントⅡ	2		
	キャリアデザインⅢ	2		
	キャリアデザインⅣ	2		

第3類（杏林大学学則）

	インターンシップ I		2	
	日本語学概論		2	
	日本語学特論 I		2	
	日本語学特論 II		2	
	日本語学特論 III		2	
	日本語教育学概論		2	
	日本語教育実習 I		2	
	日本語教育実習 II		2	
	日本語教育実習 III		2	
	日本語教育学特論 I		2	
	日本語教育学特論 II		2	
	日本語教育学特論 III		2	
	日本文化演習		2	
	海外語学実習 I		1	
	海外語学実習 II		1	
	海外語学実習 III		1	
	海外語学実習 IV		1	
	国内語学実習 I		1	
	国内語学実習 II		1	
教養科目	文学		2	
	社会学		2	
	地理学		2	
	経営学		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心理学		2	
	ホスピタリティ・コミュニケーション		2	
	歴史学		2	
	日本国憲法		2	
	健康と体育		2	
	社会と大学 I		2	
	社会と大学 II		2	
	社会と大学 III		2	
	保健・医療の現状と未来 I		2	
	保健・医療の現状と未来 II		2	
	ホスピタリティ入門	2		専門科目から

第3類（杏林大学学則）

専 門 科 目	観 光 学 入 門	2	66単位以上
	現代社会と観光ホスピタリティ	2	
	観 光 基 礎 演 習	2	
	観 光 調 査 法	2	
	交 流 文 化 論	2	
	観 光 心 理 学	2	
	観 光 地 理 学	2	
	観 光 政 策 論	2	
	観 光 マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2	
	人 的 資 源 管 理 論	2	
	フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン 実 習	2	
	ホ ス ピ タ リ テ ィ 財 務 会 計 論	2	
	観 光 リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト 論	2	
	観 光 メ デ ィ ア 論	2	
	観 光 資 源 論 I	2	
	観 光 資 源 論 II	2	
	観 光 コ ン テ ン ツ デ ザ イ ン 実 習	2	
	T o u r i s m E n g l i s h I	2	
	T o u r i s m E n g l i s h II	2	
	観 光 実 用 英 語 イ ン テ ン シ ブ I	2	
	観 光 実 用 英 語 イ ン テ ン シ ブ II	2	
	健 康 科 学 の 基 礎	2	
	ウ ェ ル ネ ス ツ ー リ ズ ム 論	2	
	温 泉 観 光 学	2	
	観 光 衛 生 論	2	
	福 祉 観 光 論	2	
	観 光 手 話 I	2	
	観 光 手 話 II	2	
	ウ ェ ル ネ ス ツ ー リ ズ ム 実 習	2	
	温 泉 療 養 学	2	
	旅 行 医 学 概 論	2	
	疾 病 地 域 論	2	
	観 光 交 通 論	2	
	航 空 産 業 論	2	
	航 空 サ ー ビ ス 論	2	
	ホ テ ル オ ペ レ ー シ ョ ン	2	

第3類（杏林大学学則）

	宿 泊 産 業 論		2	
	フ ー ド ビ ジ ネ ス 論		2	
	旅 行 産 業 論		2	
	ホスピタリティ・ビジネスインターンシップ		2	
	ホスピタリティ・ビジネス演習		2	
	ホスピタリティ・ビジネス特論Ⅰ		2	
	ホスピタリティ・ビジネス特論Ⅱ		2	
	観 光 ま ち づ くり 論		2	
	国 際 協 力 と 観 光		2	
	地 域 創 造 インターンシップ		2	
	コ ン テ ン ツ ・ ツ ー リ ズ ム 論		2	
	エ コ ツ ー リ ズ ム 論		2	
	地 域 リ ー ダ ー シ ッ プ 論		2	
	N P O ・ N G O 論		2	
	地 域 型 プ ロ ジ ェ ク ト 演 習		2	
	地 域 創 造 特 論 Ⅰ		2	
	地 域 創 造 特 論 Ⅱ		2	
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2		
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2		
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2		
	卒 業 論 文 ・ プ ロ ジ ェ ク ト 指 導		6	
関 連 科 目	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 由 科 目				

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－1

教 職 に 関 す る 科 目 構 成

（平成22年度入学生から適用）

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教 育 原 理	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
保 健 科 教 育 法 ー 1	2	
保 健 科 教 育 法 ー 2	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
商 業 科 教 育 法 ー 1	2	
商 業 科 教 育 法 ー 2	2	
英 語 科 教 育 法 ー 1	2	
英 語 科 教 育 法 ー 2	2	
保 健 科 指 導 研 究 I	2	
保 健 科 指 導 研 究 II	2	
社 会 科 指 導 研 究	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 研 究	2	
英 語 科 指 導 研 究 I	2	
英 語 科 指 導 研 究 II	2	
道 徳 教 育 の 研 究	2	
特 別 活 動 の 研 究	2	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	2	
生 徒 指 導 の 研 究	2	
進 路 指 導 の 研 究	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教 職 実 践 演 習 （ 中 ・ 高 ）	2	
教 職 実 践 演 習 （ 養 護 教 諭 ）	2	
教 育 実 習 I	1	
教 育 実 習 II	2	
教 育 実 習 III	2	
養 護 実 習 I	1	
養 護 実 習 II	4	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目とし卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－2

教職に関する科目構成

（平成24年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
保健科教育法－1	2	
保健科教育法－2	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
商業科教育法－1	2	
商業科教育法－2	2	
英語科教育法－1	2	
英語科教育法－2	2	
保健科指導研究Ⅰ	2	
保健科指導研究Ⅱ	2	
社会科指導研究	2	
社会科・公民科指導研究	2	
英語科指導研究Ⅰ	2	
英語科指導研究Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
特別活動指導論	2	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	2	
進路指導論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目とし卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－3

教 職 に 関 す る 科 目 構 成
（平成28年度入学生から適用）

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教 育 原 理	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅰ	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅱ	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
商 業 科 教 育 法 Ⅰ	2	
商 業 科 教 育 法 Ⅱ	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	
保 健 科 指 導 研 究 Ⅰ	2	
保 健 科 指 導 研 究 Ⅱ	2	
社 会 科 指 導 研 究	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 研 究	2	
英 語 科 指 導 研 究 Ⅰ	2	
英 語 科 指 導 研 究 Ⅱ	2	
道 徳 教 育 指 導 論	2	
特 別 活 動 指 導 論	2	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	2	
生 徒 指 導 論	2	
進 路 指 導 論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教 育 実 習 Ⅰ	1	
教 育 実 習 Ⅱ	2	
教 育 実 習 Ⅲ	2	
養 護 実 習 Ⅰ	1	
養 護 実 習 Ⅱ	4	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	
教 職 実 践 演 習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-4

教職に関する科目構成
（平成31年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理（教育課程を含む）	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
特別支援教育論	2	
保健科教育法Ⅰ	2	
保健科教育法Ⅱ	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
英語科教育法Ⅰ	2	
英語科教育法Ⅱ	2	
保健科指導法Ⅰ	2	
保健科指導法Ⅱ	2	
社会科指導法	2	
社会科・公民科指導法	2	
英語科指導法Ⅰ	2	
英語科指導法Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
総合的な学習の時間の指導法	1	
特別活動指導論	1	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	1	
進路指導論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－5

教 職 に 関 す る 科 目 構 成
（令和3年度入学生から適用）

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教育原理（教育課程を含む）	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
特 別 支 援 教 育 論	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅰ	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅱ	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅰ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅱ	2	
社 会 科 指 導 研 究	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 研 究	2	
英 語 科 指 導 研 究 Ⅰ	2	
英 語 科 指 導 研 究 Ⅱ	2	
道 徳 教 育 指 導 論	2	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	1	
特 別 活 動 指 導 論	1	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	2	
生 徒 指 導 論	1	
進 路 指 導 論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教 育 実 習 Ⅰ	1	
教 育 実 習 Ⅱ	2	
教 育 実 習 Ⅲ	2	
養 護 実 習 Ⅰ	1	
養 護 実 習 Ⅱ	4	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	
教 職 実 践 演 習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－6

教 職 に 関 す る 科 目 構 成
(令和4年度入学生から適用)

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教 育 原 理 (教 育 課 程 を 含 む)	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
特 別 支 援 教 育 論	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅰ	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅱ	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅰ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅱ	2	
社 会 科 指 導 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 法	2	
英 語 科 指 導 法 Ⅰ	2	
英 語 科 指 導 法 Ⅱ	2	
道 徳 教 育 指 導 論	2	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	1	
特 別 活 動 指 導 論	1	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	1	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	
生 徒 指 導 論	1	
進 路 指 導 論	1	
教 育 相 談 (カ ウ ン セ リ ン グ を 含 む)	2	
教 育 実 習 Ⅰ	1	
教 育 実 習 Ⅱ	2	
教 育 実 習 Ⅲ	2	
養 護 実 習 Ⅰ	1	
養 護 実 習 Ⅱ	4	
教 職 実 践 演 習 (中 ・ 高)	2	
教 職 実 践 演 習 (養 護 教 諭)	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5－1－7

教 職 に 関 す る 科 目 構 成

（令和5年度入学生から適用）

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教 育 原 理（教 育 課 程 を 含 む）	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
特 別 支 援 教 育 論	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅰ	2	
保 健 科 教 育 法 Ⅱ	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	
英 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅰ	2	
保 健 科 指 導 法 Ⅱ	2	
社 会 科 指 導 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 法	2	
英 語 科 指 導 法 Ⅰ	2	
英 語 科 指 導 法 Ⅱ	2	
道 徳 教 育 指 導 論	2	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	1	
総 合 的 な 探 究 の 時 間 の 指 導 法	1	
特 別 活 動 指 導 論	1	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	1	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	
生 徒 指 導 論	1	
進 路 指 導 論	1	
教 育 相 談（カ ウ ン セ リ ン グ を 含 む）	2	
教 育	1	
教 育 実 習 Ⅱ	2	
教 育 実 習 Ⅲ	2	
養 護 実 習 Ⅰ	1	
養 護 実 習 Ⅱ	4	
教 職 実 践 演 習（中 ・ 高）	2	
教 職 実 践 演 習（養 護 教 諭）	2	

第 3 類（杏林大学学則）

別表 6－1

入学料・授業料等の額

	医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
入 学 料	1,500,000円	250,000円	250,000円	250,000円
授 業 料	3,000,000円 (年額)	1,150,000円 (年額)	720,000円 (年額)	720,000円 (年額)
実 験 実 習 費	1,000,000円 (年額)	健康福祉学科、 臨床心理学科 50,000円 (年額)		
		上記を除く 全学科 300,000円 (年額)		
施 設 設 備 費	4,000,000円 (初年度) 1,500,000円 (2年次以降)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)

- 1 平成27年度入学生から適用する。ただし、臨床心理学科については平成30年度入学生から適用する。
- 2 各学部において、学習指導資料費及び特定科目の履修費を別に定めるところにより徴収する。

第3類（杏林大学学則）

別表6－2

入学料・授業料等の額

	医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
入 学 料	1,500,000 円	250,000 円	250,000 円	250,000 円
授 業 料	3,000,000 円 (年額)	940,000 円 (初年度) 1,220,000 円 (2年次以降)	920,000 円 (年額)	920,000 円 (年額)
実 験 実 習 費	1,000,000 円 (年額)	健康福祉学科、 臨床心理学科 50,000 円 (年額)		
		上記を除く 全学科 300,000 円 (年額)		
施 設 設 備 費	4,000,000 円 (初年度) 1,500,000 円 (2年次以降)	健康福祉学科、 臨床心理学科 200,000 円 (年額)	200,000 円 (年額)	200,000 円 (年額)
		上記を除く 全学科 250,000 円 (年額)		

- 1 令和7年度入学生から適用する。
- 2 各学部において、学習指導資料費及び特定科目の履修費を別に定めるところにより徴収する。

○杏林大学教授会規程

制定 昭和49年12月 6日
改正 昭和54年 4月 1日

第1条 杏林大学学則（以下「学則」という。）第12条に規定する本学の各学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、同条第8項の規定に基づき、この規程を定める。

第2条 学則第12条第2項の規定に関し、当該学部の学部長に事故あるときは、教務部長たる教授又は学部長の指名する教授が、その職務を代行する。

第3条 教授会は原則として毎月1回定例にこれを開く。ただし、議長が必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。

第4条 教授会は、構成員の過半数の出席がなければ成立しない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数をもって決する。議事の表決が可否同数となった場合は、議長の決するところによる。

第5条 教授会の庶務は、各学部の事務部が、それぞれ担当する。

附 則

この規程は、昭和54年 4月 1日から施行する。

設置の趣旨を記載した書類

【本文目次】

①設置の趣旨及び必要性	- 2 -
②学部・学科等の特色	-14-
③大学、学部・学科等の名称及び学位の名称	-15-
④教育課程の編成の考え方及び特色	-15-
⑤教育方法、履修指導方法及び卒業要件	-21-
⑥多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	-24-
⑦編入学定員を設定する場合の具体的計画	-25-
⑧企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	-26-
⑨入学者選抜の概要	-27-
⑩教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色	-31-
⑪研究の実施についての考え方、体制、取組	-32-
⑫施設、設備等の整備計画	-33-
⑬管理運営	-34-
⑭自己点検・評価	-35-
⑮情報の公表	-37-
⑯教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	-40-
⑰社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	-41-

① 設置の趣旨及び必要性

I 設置の趣旨及び必要性

(1) 沿革と取組

杏林大学建学の精神は、『眞善美の探究』を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することである。この理念を社会科学の分野から実践するために、昭和59年に社会科学部が開設された。平成14年には、社会科学諸分野の素養を身に付けた問題解決型の人材養成を目指し、総合政策学部に変更した。

その後平成18年に企業経営学科を設置し、公共経営を学ぶ総合政策学科と企業経営を学ぶ企業経営学科の1学部2学科制へと移行した。2学科制において、社会科学の多様な分野にまたがる学際的な視野を涵養するとともに、公共あるいは民間に軸足を置いた高度に専門的な視野を具備するための高等教育活動を行ってきた。

新設された企業経営学科は、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成してきた。

令和3年度から杏林大学で全学的にデータサイエンス標準教育プログラムが開講され、翌令和4年に文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に認定されると、これに合わせて総合政策学部データ・デザイン・プログラム（以下DDPとする）が開講された。当該プログラムは、主として企業経営学科の学生の履修を見込み、データサイエンス教育について初歩的な素養を実装し、ICTを活用してビジネス全体をデザインする人材の育成を進めている。

(2) 設置の趣旨

しかるにDDPのプログラムを展開する中で、経済学を主として学ぶ学生がDDPに取り組んでいる事例が多く見受けられた。現行のカリキュラムでは、経営学・会計学と経済学の科目が異なる学科に配置されていることから、企業経営学科での学修と経済学分野の一部を同時に学べる環境の整備が急がれた。さりとて総合政策学部の学修においても、とりわけ国際関係分野において経済学分野の学修を欠くことはできない。そこで本学では、総合政策学部の教育課程に大きな変更を加えることなく、総合政策学科と企業経営学科の募集を停止し、令和8年度より法律政治学科と経済経営学科を新設することとしたいと考えた。法律政治学科は、社会科学部時代の法律政治コースにも見られる名称であり、総合政策学科が目指してきた社会科学の公共分野を学修する学科とする。具体的には法律政治学科は、社会を制度の視点から捉え、法律、政治、国際政経、福祉政策の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、課題発見から実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする学科とする。

経済経営学科は、社会科学部の経営情報コースから発展した学科であり、経済、経営、会計を体系的に学ぶことを通じ、企業経営学科が目指してきた社会科学の民間分野を学修する学科とする。具体的には経済経営学科は、社会を財・サービスの動きから捉え、経済、経営、会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。また、学科間の垣根を低くすることで、学際性のある学修が可能となる現行のプログラムを最大限に活かすことで、幅広い視

点を持ち課題発見から、実践的に解決するための能力を備えた人材を育成するために、従前の学科で行われてきた教育研究機能をさらに充実、発展させつつ、時代に即した教育プログラムを展開していく（【資料1】カリキュラムマップ）。

Ⅱ 養成する人材像、教育上の目的

（1）総合政策学部

設置の趣旨及び必要性を踏まえ、本学部の人材養成の目的を以下のように定める。

総合政策学部においては、社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察し、法律、政治、国際政経、福祉政策、経済、経営、会計の幅広い教養を身につけるとともに、学際的な視点から考察するに足る専門知識を修得し、実践的な学びを通じて社会で活躍する人材を養成することを目的とする。

かかる目的を達成するために、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー〔以下DPという〕）を以下のように定める。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合政策学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。

（1）多角的な視野

社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。

（2）地域・国際社会に通じる実践力

地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。

（3）幅広い教養

高い倫理感を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。

（4）学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門的な知識

学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。

（5）コミュニケーション・コラボレーション能力

自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。

（6）データ分析・活用能力

情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。

（7）ライフ・デザイン・スキル

社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。

卒業認定・学位授与の方針を達成するために、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー〔以下CPという〕）を以下のように定める。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合政策学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、ベーシック科目、学部共通科目、学科専門科目、専門演習科目（演習・卒業演習、学際演習・学問領域別演習、特別演習、プロジェクト演習、海外演習から構成）、導入教育科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、プログラム科目を、順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの区分に科目内容による系統を置き、段階的理解度を高めるため、「学習目標」及び、学年進行と履修科目との関係を示したうえで、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、ディプロマ・ポリシーとの関係を「カリキュラム・マップ」で確認できるようにする。さらに、模範的な科目構成を「履修モデル」として明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。教育内容、教育方法については以下のように定める。

（１）教育内容

（１-１）大学での学びへの円滑な導入を図るために

- ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。

（１-２）多角的視野を涵養するために

- ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。

（１-３）地域・国際社会に通じる実践力・幅広い教養を身につけるために

- ・地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践を通して認識し、高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うための科目を配置する。
- ・地域における課題や問題点を見出し、大学での学びを役立てながら解決策について検討する力を身につけるための科目を１年次から配置する。

- ・「ベーシック科目」群及び導入教育を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。

（１-４）学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を身につけるために

- ・学部に通じて求められる基礎的な知識を身につけるための共通専門科目と、学科ごとの応用的な知識を身につけるための専門科目に分類し、順次性に配慮して配置する。

（１-５）コミュニケーション・コラボレーション能力を育むために

- ・社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をし、他者とのコミュニケーションを通じて実践的な問題を発見し、その解決に取り組む「演習」、「卒業研究」などを配置する。

- ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数

の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。

（1-6）データ分析・活用能力を身につけるために

・高度情報化社会における情報の利活用の能力を修得するための科目を配置する。

（1-7）自分のキャリアを描く能力を身につけるために

・働き方が多様化し、人生 100 年時代を迎え、大学卒業後のキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するためのスキルを醸成することを目的として科目を配置している。まず、多様な働き方や労使問題などの現状のほか、マネープランとライフイベントを含めたキャリア形成のために必要な基礎知識を習得する。次に、社会で活躍する様々な人々の知見に接し、ロールモデルを知ることによって自らのキャリア形成をより具体化させるとともに、インターンシップによる就業体験に必要な基礎力を養う。さらに、面接やグループ・ディスカッションといった実際の就職活動を疑似体験するとともに、実際の進路選びに必要な知識を習得し、キャリアプランを完成させるよう科目を配置している。

（2）教育方法

（2-1）学際性を重視した教育を行うため

・ベーシック科目 7 科目のうち、4 科目を選択必修とし、さまざまな分野に関してその概要を修得させる。

・専門科目の履修に際しては、各学科の専門科目を、横断的に履修できるようにする。

（2-2）社会のグローバル化への要請に対応するため

・ネイティブの教員、英会話等、実践を重視した英語教育を行うため、グローバル・キャリア・プログラムを置く。なお、このプログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。

（2-3）高度情報化社会に対応するため

・進展する情報化社会の基幹となる情報技術と社会システムについて理解し、かかる技術をビジネスに活用できる高度な能力を身につけるための科目を体系的に配置する。また、このような能力を体系的に修得するためのプログラムとして、データ・デザイン・プログラムを置く。

（2-4）地域社会に有為な人材を育成するため

・多様化する地域社会の需要に応え、地域課題を発見し、合意形成をデザインし、課題解決を行う有為な人材を養成するための科目を体系的に配置する。かかる人材を育成するためのプログラムとして、コミュニティ・ベースド・ラーニングを置く。

（2-5）高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

卒業認定・学位授与の方針を達成し、教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な知識や能力を備えた人材を獲得するために、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー〔以下APという〕）を以下のように定める。

総合政策学部は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

(1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人

(1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人

(1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人

(1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人

(1-5) 政治・法律・国際関係・福祉・経済・経営及び会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

(2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。(知識・理解・表現力)

・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。

(2-2) 知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。(思考力・判断力)

(2-3) 自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力)

(2-4) 社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲)

(2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性)

(2) 法律政治学科

法律政治学科は、社会を制度の視点から捉え、法律、政治、国際政経、福祉政策の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、課題発見から実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。

かかる目的を達成するために、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を以下のように

に定める。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

総合政策学部法律政治学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（法律政治学）の学位を授与する。

（１）多角的な視野

社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。

（２）地域・国際社会に通じる実践力

地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。

（３）幅広い教養

高い倫理感を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。

（４）学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門的な知識

学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。

（５）コミュニケーション・コラボレーション能力

自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。

（６）データ分析・活用能力

情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。

（７）ライフ・デザイン・スキル

社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。

卒業認定・学位授与の方針を達成するために、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合政策学部法律政治学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、ベーシック科目、部共通科目、学科専門科目、専門演習科目（演習・卒業演習、学際演習・学問領域別演習、特別演習、プロジェクト演習、海外演習から構成）、導入教育科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、プログラム科目を順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの区分に科目内容による系統を置き、段階的理解度を高めるため、「学習目標」及び、学年進行と履修科目との関係を示したうえで、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、ディプロマ・ポリシーとの関係を「カリキュラム・マップ」で確認できるようにする。さらに、模範的な科目構成を「履修モデル」として明

示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。

教育内容、教育方法については以下のように定める。

（１）教育内容

（１-１）大学での学びへの円滑な導入を図るために

- ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。

（１-２）多角的視野を涵養するために

- ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。

（１-３）地域・国際社会に通じる実践力・幅広い教養を身につけるために

- ・地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践を通して認識し、高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うための科目を配置する。

- ・地域における課題や問題点を見出し、大学での学びを役立てながら解決策について検討する力を身につけるための科目を１年次から配置する。

- ・「ベーシック科目」群及び導入教育を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。

（１-４）学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を身につけるために

- ・学部に通じて求められる基礎的な知識を身につけるための学部共通科目と、学科ごとの応用的な知識を身につけるための専門科目に分類し、順次性に配慮して配置する。

- ・社会を制度の視点から捉え、法律、政治、国際政経、福祉政策の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、課題発見から実践的に解決するための知識と能力を修得する。

（１-５）コミュニケーション・コラボレーション能力を育むために

- ・社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をし、他者とのコミュニケーションを通じて実践的な問題を発見し、その解決に取り組む「演習」、「卒業研究」などを配置する。

- ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。

（１-６）データ分析・活用能力を身につけるために

- ・高度情報化社会における情報の利活用能力を修得するための科目を配置する。

（１-７）自分のキャリアを描く能力を身につけるために

- ・働き方が多様化し、人生100年時代を迎え、大学卒業後のキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するためのスキルを醸成することを目的として科目を配置している。まず、多様な働き方や労使問題などの現状のほか、マネープランとライフイベントを含めたキャリア形成のために必要な基礎知識を習得する。次に、社会で活躍する様々な人々の知見に接

し、ロールモデルを知ることによって自らのキャリア形成をより具体化させるとともに、インターンシップによる就業体験に必要な基礎力を養う。さらに、面接やグループ・ディスカッションといった実際の就職活動を疑似体験するとともに、実際の進路選びに必要な知識を習得し、キャリアプランを完成させるよう科目を配置している。

(2) 教育方法

(2-1) 学際性を重視した教育を行うために

- ・ベーシック科目7科目のうち、4科目を選択必修とし、さまざまな分野に関してその概要を修得させる。
- ・専門科目の履修に際しては、各学科の専門科目を、横断的に履修できるようにする。

(2-2) 社会のグローバル化への要請に対応するために

- ・ネイティブの教員、英会話等、実践を重視した英語教育を行うため、グローバル・キャリア・プログラムを置く。なお、このプログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。

(2-3) 高度情報化社会に対応するため

- ・進展する情報化社会の基幹となる情報技術と社会システムについて理解し、かかる技術をビジネスに活用できる高度な能力を身につけるための科目を体系的に配置する。また、このような能力を体系的に修得するためのプログラムとして、データ・デザイン・プログラムを置く。

(2-4) 地域社会に有為な人材を育成するために

- ・多様化する地域社会の需要に応え、地域課題を発見し、合意形成をデザインし、課題解決を行う有為な人材を養成するための科目を体系的に配置する。かかる人材を育成するためのプログラムとして、コミュニティ・ベースド・ラーニングを置く。

(2-5) 高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- ・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

卒業認定・学位授与の方針を達成し、教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な知識や能力を備えた人材を獲得するために、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を以下のように定める。

総合政策学部法律政治学科は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

(1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人

(1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人

(1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーション

を図ろうとする態度を持つ人

（1-4）社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人

（1-5）政治・法律・国際関係・福祉・経済・経営及び会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

（2） 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

（2-1）入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。（知識・理解・表現力）

・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。

（2-2）知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。（思考力・判断力）

（2-3）自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力）

（2-4）社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲）

（2-5）積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性）

（3）経済経営学科

経済経営学科は、社会を財・サービスの動きから捉え、経済、経営、会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

かかる目的を達成するために、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のように定める。

総合政策学部経済経営学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（経済経営学）の学位を授与する。

（1）多角的な視野

社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。

（2）地域・国際社会に通じる実践力

地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。

(3) 幅広い教養

高い倫理感を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的的好奇心を身につけ、社会で活躍できる。

(4) 学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門的な知識

学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。

(5) コミュニケーション・コラボレーション能力

自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えけるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。

(6) データ分析・活用能力

情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。

(7) ライフ・デザイン・スキル

社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。

卒業認定・学位授与の方針を達成するために、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合政策学部経済経営学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、ベーシック科目、学部共通科目、学科専門科目、専門演習科目（演習・卒業演習、学際演習・学問領域別演習、特別演習、プロジェクト演習、海外演習から構成）、導入教育科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、プログラム科目を順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの区分に科目内容による系統を置き、段階的理解度を高めるため、「学習目標」及び、学年進行と履修科目との関係を示したうえで、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、ディプロマ・ポリシーとの関係を「カリキュラム・マップ」で確認できるようにする。さらに、模範的な科目構成を「履修モデル」として明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。

教育内容、教育方法については以下のように定める。

(1) 教育内容

(1-1) 大学での学びへの円滑な導入を図るために

・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立

て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。

（1-2）多角的視野を涵養するために

- ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。

（1-3）地域・国際社会に通じる実践力・幅広い教養を身につけるために

- ・地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践を通して認識し、高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うための科目を配置する。

- ・地域における課題や問題点を見出し、大学での学びを役立てながら解決策について検討する力を身につけるための科目を1年次から配置する。

- ・「ベーシック科目」群及び導入教育を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。

（1-4）学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を身につけるために

- ・学部に通して求められる基礎的な知識を身につけるための学部共通科目と、学科ごとの応用的な知識を身につけるための専門科目に分類し、順次性に配慮して配置する。

- ・社会を財・サービスの動きから捉え、経済、経営、会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を修得する。

（1-5）コミュニケーション・コラボレーション能力を育むために

- ・社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をし、他者とのコミュニケーションを通じて実践的な問題を発見し、その解決に取り組む「演習」、「卒業研究」などを配置する。

- ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。

（1-6）データ分析・活用能力を身につけるために

- ・高度情報化社会における情報の利活用の能力を修得するための科目を配置する。

（1-7）自分のキャリアを描く能力を身につけるために

- ・働き方が多様化し、人生100年時代を迎え、大学卒業後のキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するためのスキルを醸成することを目的として科目を配置している。まず、多様な働き方や労使問題などの現状のほか、マネープランとライフイベントを含めたキャリア形成のために必要な基礎知識を習得する。次に、社会で活躍する様々な人々の知見に接し、ロールモデルを知ることによって自らのキャリア形成をより具体化させるとともに、インターンシップによる就業体験に必要な基礎力を養う。さらに、面接やグループ・ディスカッションといった実際の就職活動を疑似体験するとともに、実際の進路選びに必要な知識を習得し、キャリアプランを完成させるよう科目を配置している。

（２）教育方法

（２-１）学際性を重視した教育を行うために

- ・ベーシック科目 7 科目のうち、4 科目を選択必修とし、さまざまな分野に関してその概要を修得させる。
- ・専門科目の履修に際しては、各学科の専門科目を、横断的に履修できるようにする。

（２-２）社会のグローバル化への要請に対応するために

- ・ネイティブの教員、英会話等、実践を重視した英語教育を行うため、グローバル・キャリア・プログラムを置く。なお、このプログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。

（２-３）高度情報化社会に対応するために

- ・進展する情報化社会の基幹となる情報技術と社会システムについて理解し、かかる技術をビジネスに活用できる高度な能力を身につけるための科目を体系的に配置する。また、このような能力を体系的に修得するためのプログラムとして、データ・デザイン・プログラムを置く。

（２-４）地域社会に有為な人材を育成するために

- ・多様化する地域社会の需要に応え、地域課題を発見し、合意形成をデザインし、課題解決を行う有為な人材を養成するための科目を体系的に配置する。かかる人材を育成するためのプログラムとして、コミュニティ・ベースド・ラーニングを置く。

（２-５）高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために

- ・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。

卒業認定・学位授与の方針を達成し、教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な知識や能力を備えた人材を獲得するために、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を以下のように定める。

総合政策学部経済経営学科は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

（１）求める学生像、資質

（１-１）多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人

（１-２）様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人

（１-３）様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人

（１-４）社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に

活躍する強い意志と意欲を持つ人

（1-5）政治・法律・国際関係・福祉・経済・経営及び会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

（2） 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

（2-1）入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。（知識・理解・表現力）

・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。

（2-2）知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。（思考力・判断力）

（2-3）自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力）

（2-4）社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲）

（2-5）積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性）

Ⅲ 中心的な学問分野

総合政策学部については、社会科学全般にわたる学問分野となる。

法律政治学科については、法律（公法・私法）、政治（日本政治・政治理論）、国際政経（国際関係・国際政治経済）、福祉政策（社会福祉・公衆衛生）分野が中心的な学問分野となる。

経済経営学科は、経済（ミクロ経済・マクロ経済）、経営（経営戦略・マーケティング）、会計分野（会計・監査）が中心的な学問分野となる。

② 学部・学科等の特色

総合政策学部は、社会課題の発見・解決を多角的な視野と知見で行う人材を養成することを目的としているが、社会を制度の視点から捉える法律政治学科と、社会を財やサービスの移動から捉える経済経営学科の2学科からなる。法律政治学科では、法学、政治学、行政学を幅広く学び制度の視点から学修し、経済経営学科では、経済学、経営学、会計学を学ぶことで財やサービスの移動の視点から学修する。

いっぽうで、多角的な視野を修得させるために、学科の科目だけでなく、学科間の履修を柔軟に行えるカリキュラム設計を行った。このような学修を通じ、課題発見・理解・分析・考察を行える人材

を養成していく。また、地域をフィールドとしたコミュニティ・ベースド・ラーニング（以下 CBL とする）、国際社会をフィールドとするグローバル・キャリア・プログラム（以下 GCP とする）を開講し、実践力を養成していく。さらに、DDP では経済経営学科のみならず、法律政治学科でも履修可能であるため、企業のみならず自治体でも進められるDXに対応できる人材の養成を行う。

中央教育審議会による答申、「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」で示される機能のうち、「3. 幅広い職業人養成」、「4. 総合的教養教育」、「7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」に重点を置くこととなる。とりわけ、「7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」では、CBL が地域貢献、DDP が産学官連携、GCP が国際交流の土台となり、中央教育審議会の答申に応えうる学部であると思料する。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

総合政策学部は、かかる社会の要請に応えるために設置され、公共経営に軸足を置く総合政策学科と、企業経営に軸足を置く企業経営学科の2学科を配置してきた。平成24年に、本学が文部科学省グローバル人材育成事業に採択されたことを契機に、平成28年には学部でGCPが開講され、国際社会で活躍する人材を育成する取り組みが進められている。また、令和4年にはCBLとDDPのプログラムが展開され、3つのプログラムを並行して開講している。3つのプログラムは、学部での学びを実践する機会として展開されており、今後さらなる充実を図ることを企図している。これらのプログラムは、公共経営の視点、企業経営の視点だけでは解決できない社会課題を対象とした実践的取り組みとなり、多角的な視点を養成する本学部にあふさわしいものであると言える。このため、学部名称については引き続き総合政策学部とした。

他方、法律政治学科と経済経営学科の2学科を置くのは、社会科学が多岐にわたる学問分野を包摂していることから社会を「制度」と「財やサービスの移動」という視点から捉え直し、学修の軸足をいずれかの学科に置き、教育・研究の効果をあげることを企図している。総合政策学部として多角的な視野を持つ学際性は重視する一方で、学際性を発揮するための専門的学修を進めやすい2学科制を採ることとしたい。

なお、学部・学科の名称及び学位の名称は下表の通りとする。

学部・学科名称		学位名称
総合政策学部 (Faculty of Social Sciences)	法律政治学科 [Department of Law and Political Science]	学士（法律政治学） 【Bachelor of Law and Political Science】
	経済経営学科 [Department of Economics and Management]	学士（経済経営学） 【Bachelor of Economics and Management】

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

I 教育課程の体系性について

総合政策学部では、学力の3要素をバランスよく身につけさせ、多角的な視野を持ち、実践的に課題解決に当たることのできる人材を養成することを目標としている。かかる人材を養成するためには、

軸となる専門的な知見と学際的な視点を学部教育課程に順次的に配置する必要がある〔カリキュラム・ポリシー（以下CPとする）（1-4）、（2-1）〕（この項目で扱う科目のシラバスについては、【資料2】を参照されたい）。

（1）専門科目

学部で学修する専門分野すべてを網羅したベーシック科目を1年次に学修することで、大学における専門教育を受講する基礎的な素養を身につける。また、学部共通科目では、法律、政治、国際政経、福祉政策、経済、経営、会計の各分野における導入にあたる科目を広く学修することで、2年次以降の専門科目学修の軸足を見定めていく。その上で2年次以降、学科専門科目・専門演習科目へと学修を深化させていく。なお学科専門科目・専門演習科目については、法律政治学科、経済経営学科へと学科名を変更することで学科において専門性を強調し、コース制を廃することとした。このことで、本学部の教育課程は、社会科学を基盤とした幅広い学際性を有する体系となった。

【ベーシック科目】

学部で扱う専門分野、法律、政治、国際政経、福祉政策、経済、経営、会計の各分野における基礎的知識や最新動向について学修する〔CP(1-3)〕。1セメスターに配当される科目で、初年次教育の一環であり、自らが軸足を置くべき専門分野を模索し、また、学際的な視点を涵養するきっかけとなる講義として位置づけられる。

【学部共通科目】

ベーシック科目で見定めた軸足とする専門分野について、一步踏み込んだ学びを進めていく科目である。専門分野の導入として位置づけ、2セメスターから履修することができる。各分野の基礎的知識や理論枠組みについて学修し、専門科目の履修に備える〔CP(1-4)〕。

【学科専門科目】

ベーシック科目・学部共通科目の履修を経て、順次的に専門科目を履修する。学科ごとに配当される科目は異なるが、多角的な視野を涵養する目的から、その履修に際しては他学科の専門科目について横断的に履修できるようにする〔CP(2-1)〕。

【専門演習科目】

昭和59年に社会科学部を開設以来、「真善美の探求」を通じて豊かな人間性を育むために「パーソン・トゥ・パーソン（Person to person）」を教育理念とし、この理念を実現すべく、少人数教育を進めてきた。後述のプレゼミナール（1・2セメスター配当）での学びを経て、指導教員の専門分野を通じた少人数教育となる演習（ゼミナール）と卒業研究を設置している。また、異なる専門分野の教員が2～3名で担当する学際演習では、一つのテーマに基づき、それぞれの専門分野から多角的な視点から捉える能力を身につける〔CP(1-2)〕。また、それぞれの専門分野に特化した視点から社会事象を捉える、学問領域別演習では、専門分野での学修を深化させる〔CP(2-5)〕。

なお、教授会が単位認定を行う認定科目となる科目として、特別演習とプロジェクト演習を置く。特別演習は、海外研修の一部、資格取得、他大学との単位互換制度等により教授会が単位を認定するための科目である。プロジェクト演習は、集中講義等で開設される科目であり、期限付きで開講される寄附講座などが該当する。

さらに海外演習科目は、学生が学生国際交流において履修した授業科目が、本学部において開設さ

れている授業科目に相当しない場合には、教授会の審査の上、認定する科目である。

（２）導入教育・一般教養科目・外国語科目・体育

学士課程への円滑な移行を進めるための初年次教育については、「パーソン・トゥ・パーソン」の理念を具現化すべく、プレゼミナール〔CP(1-1)〕が中心的な機能を担っている。プレゼミナールでは、初年次教育としてアカデミックスキルの修得を目指す。先述の通り、これは２年次よりはじまる演習（ゼミナール）での学修を見据えたもので、本学部教育課程の大きな特徴である〔CP(1-5)〕。

いっぽう社会科学以外の知見を得、専門分野をさらに幅広い視点から捉える【一般教育科目】〔CP(1-3)〕、外国語の修得はもとより、国際的なコミュニケーション能力を持つ人材を育成するための【外国語科目】を配置している〔CP(1-5)〕。

【導入教育】

・プレゼミナール

新入生を対象として、大学生活への導入を行い、アカデミックスキルの修得を目指す。大学での学びに欠くことができない、講義を受講するための基礎作業として、講義の受講の仕方、ノートテイキングや図書館の利用、図書館所蔵各種データベースの活用などのスキルを身につける。

また、はじめての定期試験やレポート課題の作成に戸惑いが見られる学生が多いため、基礎的な講義受講に関するスキルを体得し、プレゼンテーションスキルやグループワークについての素養を身につける、２年次以降の学修に備える。とりわけ、２年次からはじまる演習（ゼミナール）への円滑な接続を目指すため、１年次の秋学期には専門分野ごとの科目紹介や、演習の個別紹介などを実施する。

・時事問題研究

本学部が研究教育の対象とする社会事象は、日々刻々と変化する。これら事象を認識し、理解し、分析するためには、その背景にある問題への理解が不可欠である。本講義では、学部で学ぶ専門科目を理解する上で身につけておきたい事象や理論について講述する。

・課題発見演習

本学部では「社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる」多角的視野の修得を目指す〔DP(1)〕。その視点を涵養するために、本演習では、後述するライフ・プランニング及び７つ分野で設置してあるベーシック科目を基礎に、大学で学ぶ各自の課題発見の進め方を学んでいく〔CP(2-5)〕。

・情報リテラシー A/B

本講義では、大学での学びを進めるうえで欠くことができない「Office の操作と活用する能力」を身につける。情報リテラシー A では、Microsoft の Word、PowerPoint の基礎的な操作を身につける。情報リテラシー B では、Microsoft の Excel の基本操作やデータ分析について習得することを目指す。さらに、データ駆動型社会への転換の中で必須となっているデータサイエンスの基礎知識の習得を行う。

・情報社会論

本講義では、ICT 活用による社会変容によって生じた社会の諸問題について理解し、考察することを目的としている。情報社会における経済・法律・政治・国際関係・福祉政策・経営・会計に関

わる諸問題を理解するほか、リテラシー・スキルの必要性を理解し、本学部での学びに活用していく。

【一般教養科目】

・社会と大学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

杏林大学の文科系の学部である総合政策学部と外国語学部が提供する、オムニバス科目である。社会と大学Ⅰでは、法学、政治学、国際関係学、福祉政策学、経済学、経営学、会計学などの諸分野が社会をどのように捉え分析しようとしているか講述する。社会と大学Ⅱでは、SDGsを主題とし、17項目の目標について総合政策学部の教員が個々の専門領域に立脚した視点で講述する。社会と大学Ⅲでは、「ことば」を通じた異文化理解を目指すとともに、「観光・ホスピタリティの視点」で国際社会を学んでいく。

・保健・医療の現状と未来Ⅰ・Ⅱ

杏林大学は、医学部・保健学部・総合政策学部・外国語学部の4つの学部からなる総合大学である。かかる本学の特徴を活かし、保健・医療分野の基礎的な知見を得ることを目指す。保健・医療の現状と未来Ⅰでは、本学医学部附属病院の各医局における診療内容について講述する。保健・医療の現状と未来Ⅱでは、Ⅰで講述しきれなかった医局に関する診療内容、また保健学部におけるリハビリテーション、臨床工学、健康スポーツ科学などについて講述し、保健医療分野の学びを垣間見る。

【外国語科目】

・必修外国語〔英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ〕

英語Ⅰ・Ⅱでは、リーディングとライティングのスキルを伸ばし、より効果的な英語でのコミュニケーション能力修得を目指す。英語Ⅲ・Ⅳでは、リスニングやリーディングの教材に応答したり、スピーキングの内容についてメモを取ったりするなど、より実践的な英語活用を目指す。教室ではすべてのコミュニケーションを英語で行い、実践的英語力を修得していく。

・発展英語

本講義では、必修外国語に加えてさらに英語の修得を目指す。TOEICテストの構成、各セクションで使用される問題の種類、各セクションに最適にアプローチするための受験戦略を学ぶ。受講にあたっては、TOEICのスコア350点以上、実用英語技能検定準2級レベルの取得が求められる。

・中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語

英語以外の外国語として、聞く、話す、読む、書くの4技能を中心に日常的な会話レベルの実力を身につけることをめざす。また、言語を基礎として、各国の文化的な背景についての理解を深める。

(3) キャリア関連科目

【キャリア関連科目】

本学部では、「社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる」〔DP(7)〕人材を養成することを目指している。このためには自らのキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するための

スキルを醸成することを目的として以下の科目を順次的に配置している。

- ・ライフ・プランニング

1 セメスターに配当し、高校時代までの振り返りを行い、詳細な自分史を作成させる、セルフ・ブランディングに向けた大学時代の過ごし方を学生に意識させる。とりわけ、初年次の夏季休暇から始まり、1～2年次の長期スパンでの計画を意識させ、学修のモチベーションを高めていく。その選択肢として、学内プログラム・資格取得・インターンシップ等の紹介をする。また、今後のライフイベントと金銭面を具体的に考えてもらうことによって、将来の職を考えるきっかけを提供する。2 セメスターの課題発見演習と連携し、学部で修得する学びと就業との連関を意識させる。

- ・キャリア開発基礎

就職活動の際に求められる基本的な物事の考え方や知識、スキル等を学び、就職活動に対する情報・知識面における学生たちの資源を増やすことを目的とする。具体的には、PCスキルと一般教養を同時に高めるトレーニング課題、働くことをイメージしやすくするような基本的な内容の説明

(会社の仕組み、営業とは、どのような仕事か？会社で働くことのイメージなど)、業界研究や企業研究の進め方、就職活動を展開するにあたって必要となるSPI 関連の対策演習など、学生のためになると考えられる事柄を講述する。

- ・キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ

4 セメスター、5 セメスターに配当され、社会人としての基礎能力を身につけるための科目である。この授業科目を通じて、3年次に始まる就職活動をサポートする。また、「就活トライアルイベント」に備え、エントリーシート、面接、グループ・ディスカッションについての具体的な対応方法を学ぶ。就活トライアルイベントの参加と並行し、学生各自の「就活力」のアップを図る実践的科目となる。

- ・インターンシップⅠ・Ⅱ

学生が一定期間、企業等の中で研修生として自分の将来に関連のある就業体験を行う制度であるインターンシップについて、本学部の学生が積極的に参加すべくインターンシップⅠでは、インターンシップの事前指導を行い、企業人の研修に携わっているベテランビジネスマナー講師による講義、グループ討議、ロールプレイ等を行う。インターンシップⅡでは、企業等でのインターンシップの研修と、研修後の体験発表や事後指導を行う。

- ・申告型インターンシップA/B

自ら選択した企業のインターンシップに、参加が決まった学生が履修申告を行うことにより履修が開始される。長期休暇を使って、5日間以上インターンシップに参加する必要がある。最大で2回、4単位の履修することができる。初回の履修時は、参加前の事前学習として、業界研究・企業研究を自らで行い、準備を行うとともに目標設定を行い、就業体験中に活動日誌をつける。2回目の履修は、インターンシップ参加後に行い、事前学習の成果と関連させながら活動内容を報告し、学びと気づきを整理する。

(4) プログラム科目

総合政策学部には、GCP、CBL、DDP、の3つのプログラムが存在する。これらは希望者のみのプログラムであるが、本学部が目指す「地域・国際社会に通じる実践力」〔DP(1-3)〕、「データ分

析・活用能力」〔DP(1-6)〕を涵養するためのプログラムとして、推奨しているプログラムである。

【グローバル・キャリア・プログラム（GCP）】

社会科学の専門科目を英語で学ぶことを目標とし、英語の基礎から学び、英語漬けの中で「英語で考え、表現し、伝える」力を涵養するプログラムである。4セメスター時の留学を推奨しており、ビジネススキルを身につけ、専門科目を英語で学ぶことを目標としている。

【コミュニティ・ベースド・ラーニング（CBL）】

地域活動を通じて、課題を発見し、理解し、解決策を導く力を養成するプログラムである。本学部の所在する三鷹市近隣地域はもとより、東京以外の地域に一定期間滞在して、地域活性化、地域福祉など実践的に課題に取り組むプログラムである。教室で学んだ知識やスキルを、地域での実践に反映させ、さらに地域での学びによって、教室での学びを深めることを目標としている。

【データ・デザイン・プログラム（DDP）】

様々なデータをもとに社会の課題を発見し、解決できる人材を育成するプログラムである。ビジネスの最前線だけでなく、まちづくりの分野などでも数字を読み解く力は必須とされる。民間企業はもとより、政府の活動を分析するに際し、データサイエンスの視点を欠くことはできない。そこで全学生に対して、情報リテラシー A/B、情報社会論を必修として、文部科学省の定める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」（2021～2027年）に認定されている。これに加え、DDP の科目を中心に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎）」の認定を受け、修得した学生に認定証を授与している。

II 主要授業科目について

本学部では、学科ごとの専門科目を中心に、学部の学びに欠くことができない科目を主要授業科目と位置づけた。かかる科目は、本学部の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現するうえで肝要な科目であると思料する。

III 単位時間数

各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算するものとする。

①講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの授業時間をもって1 単位とする。

②実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの授業時間をもって1 単位とする。

IV 1年間の授業時間

本学部は、春学期（4 月1 日～9 月14日）と秋学期（9 月15日～3 月 31 日）の2 学期制（セメスター制）としている。授業は、原則として週1 回開講され、各学期15回開講される。

また、1 学期に修得することが望ましい推奨修得単位数を示しており、これにしたがって単位を修得することで、無理なく4 年間で卒業することができる。

学年	セメスター	推奨修得単位	学年末修得単位	修得可能単位
1	1	24	47	24
	2	23		48
2	3	24	94	72
	4	23		96
3	5	15	124	120
	6	15		144
4	7	6	136	168
	8	6		192

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

I 教育方法

総合政策学部では、多角的視点から社会を捉え、理解・分析・考察できる人材を育成することを第一義としている。1年次春学期にベーシック科目を配置することで、総合政策学部を構成する社会科学の7分野にわたる基礎的な素養を身につける。原則として、7科目すべてを履修するよう指導するが、4科目以上（4単位以上）の単位取得を卒業要件としている。このためベーシック科目については、履修する学生を前半と後半に分け、学生数を調整している。また、導入教育科目として設置する科目のうち、時事問題研究は、1年次春学期と秋学期に分かれ多様なメディアで見聞する事象を理解するうえでの基礎的な視点や知識を修得する。1年次秋学期からは、ベーシック科目に立脚する各専門分野の基礎的な知識や理論を理解するための、学部共通科目を履修することになる。

さらに、1年次では、専門科目を学ぶうえで必要なスキルやリテラシーを修得するために、プレゼミナールを春学期と秋学期ごとに開講（必修）し、秋学期に課題発見演習を置いているほか、情報リテラシー A/B、情報社会論の学修を通じてデータから社会課題を発見、分析、解決する基礎的な素養を身につける。1年次における専門科目への視座を確立し、アカデミックスキルを身につけることで、2年次からはじまるゼミナールにおける学修の基盤を涵養していく。

2年次以降の履修については、2年次には、個別の担当教員の専門分野によるゼミナール活動が開始され、4年次にはその集大成として卒業研究（卒業論文の執筆など）を取りまとめる。卒業研究については、アカデミックライティングや研究の手法など、これまでに身につけたスキルを再確認しながら、適切なテーマ設定、論文の論理展開の妥当性などを学生に理解させ、卒業研究としてふさわしい学修成果を完成させるための指導を行うとともに、それに応じて卒業研究の成果を評価し単位を授与する。

原則として、法律政治学科、経済経営学科の専門科目を履修していくことになるが、各学生の興味関心に応じた履修が行えるように、他学科の専門科目も履修することができる柔軟な教育課程となっている。

なおこれまでの教育課程に存した学科ごとのコース制を廃止したことから、学生のなかには履修に際し混乱が生じる者がでてくることが懸念される。このため、あらかじめ将来の目標に応じた履修モデルを提示することで、学生自身の興味関心や志望に応じた履修の選択を可能にしていく。

II 履修指導方法（【資料3】履修モデル）

1年次には、入学時に実施する新入生オリエンテーションのほか、プレゼミナール単位で学生を集め、個別にオリエンテーションを行う。その際、総合政策学部の教育課程を中心に、4年間の学修について説明をする他、実際にPCを操作しながら履修登録を行わせる。このことで、必修の履修漏れなどが生じないよう心がけている。

2・3・4年次の学生については、各セメスターに年次ごとにオリエンテーションを行い、それぞれの年次に応じた履修上の指導、注意を行っている。

さらに、各学期のオリエンテーション期間、履修登録期間中の概ね2週間にわたり、教務委員と教務課職員が中心となり、履修相談室を開設している。学部の履修に関する相談はもとより、卒業要件を満たした履修になっているか、GCP、CBL、DDPのプログラムの履修に不足した科目がないかなど、学生からの幅広い問い合わせに応じている。

以上、年次に応じながら総合政策学部の教育課程を理解させ、卒業までの履修についてイメージさせるなど徹底した履修指導を行っている。

III 卒業要件

総合政策学部の教育目標を達成するため、以下のように卒業要件を定める。

ベーシック科目、学部共通科目、学科専門科目、専門演習科目、導入教育科目、一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、プログラム科目の各卒業要件単位数を満たしたうえで、4年以上在学し、合計124単位以上履修しなければならない。

卒業要件

科 目	卒業に必要な単位
ベーシック科目…………… 4 単位以上	4 単位以上。
共通専門科目…………… 10 単位以上 専門科目…………… 54 単位以上 専門講義科目 専門演習科目 演習・卒業研究 学際演習・学問領域別演習…………… 2 単位 特別演習 プロジェクト演習 海外演習	所属学科から、共通専門科目 10 単位、学科専門科目 54 単位（所属学科専門科目 24 単位、かつこれを超えて履修した所属学科専門科目、他学科専門科目、専門演習科目から 30 単位）。
導入教育科目 プレゼミナール…………… 4 単位 時事問題研究…………… 4 単位 課題発見演習…………… 2 単位 情報リテラシー A…………… 1 単位 情報リテラシー B…………… 1 単位 情報社会論…………… 2 単位	プレゼミ及び時事問題研究各 4 単位、計 8 単位。 課題発見演習 2 単位。 DDP 科目（情報リテラシー A・B、情報社会論）計 4 単位。
一般教養科目…………… 6 単位 一般教養科目 体育科目	6 単位。
外国語科目 必修外国語科目…………… 8 単位 選択外国語科目	必修外国語 8 単位。
キャリア関連科目 必修（ライフ・プランニング、キャリア開発基礎、キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ）…………… 6 単位 選択（インターンシップ、申告型インターンシップ）	ライフ・プランニング、キャリア開発基礎各 2 単位、キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ各 1 単位計 2 単位、計 6 単位。
プログラム科目 グローバル・キャリア・プログラム コミュニティ・ベースド・ラーニング データ・デザイン・プログラム	
合計 124 単位以上	

卒業には、総単位数として 124 単位以上が必要である。なお、各科目の卒業条件単位数の総和（4 + 10 + 24 + 30 + 2 + 14 + 6 + 8 + 6）は、104 単位であり、不足の 20 単位については、ベーシック科目、学部専門科目一般教養科目、外国語科目、キャリア関連科目、プログラム科目のいずれによって充足しても構わない

（ただし、専門演習科目のうち特別演習及びプロジェクト演習による充足はそれぞれ 4 単位を限度とする）。

IV 履修登録単位数の上限

履修科目については、1単位あたりに必要な学修時間（45時間）を確保することで、単位の実質化を図るとともに、各学期にわたって適切に履修することで学修の質を向上されることを目的に、履修単位の上限を24単位と設定している（前学期のGPAが良好なもの〔前学期において3.5以上〕については、申請の上履修上限を緩和する。また、GPAが著しく低い場合〔前学期において0.5未満〕は、履修上限を制限することがある）。

なお、教職課程設置の自由科目、集中講義、学生国際交流による単位認定科目、CBL科目、資格取得による科目、その他教授会が認めた科目は、履修登録単位数の上限に含まれないものとする。

V GPA（GradePointAverage）制度の運用

成績の評価（自由科目及び単位認定科目は除く）に対して、GradePoint（以下「GP」という）を設定し、下記の計算式によりGPの平均（以下「GPA」という）を算出する。

$$GPA = \{ (各学期の評価を受けた科目のGP) \times (当該科目の単位数) \} の累計$$

$$/ (各学期配当の履修登録の単位数の合計) の累計$$

成績の評価に対するGPは、Sが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、D及びEが0点とする。

総合政策学部では、教授会が定める場合に利用する。前述のように、履修単位の上限を緩和、厳格化する場合のほか、学修指導に利用する。また学内外の奨学金選考基準、卒業時の代表選考、学生国際交流を希望する学生への派遣認定の際に利用する。

VI 他大学における授業科目の履修

教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

また大学間単位互換制度の一環として、大学コンソーシアム八王子における単位互換制度を取り入れている。総合政策学部在籍する3セメスター以上の学生は、学部が履修対象として選定した単位互換科目を4単位まで、履修することができる。

VII 留学生の在籍管理の方法や入学後の履修指導、生活指導について

留学生の在籍については、留学生を担当する事務部門（国際交流課）が中心となって査証の管理を徹底して行っている。入学後の履修指導、生活指導については、ゼミナールやプレゼミナールなどの担当教員（ゼミに所属しない学生は「個別指導教員制度」による対応）が対応している。

⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学部では、杏林大学学則第25条第2項に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。文部科学省のメディア授業告示第1号によるところの同時双方向型を「リアルタイム型の遠隔授業」、第2号によるところのオンデマンド型を「オンデマンド型の遠隔授業」と呼称する。

I 実施場所

- ・リアルタイム型の遠隔授業

本学では、在学生全員に WEB 会議システムZoomアカウントを付与し、これを利用した授業を実施している。授業受講は面接授業でも提供されるが、遠隔授業を受講している者については、学習管理システムUNIVERSAL PASSPORT（以下 UNIPA）を利用して教員とコミュニケーションを図ることができるよう、双方向性を確保している。

学生は、入学時にノートパソコンを所持しており、大学内では Wi-Fi を通じてネットワーク接続が可能な環境が整備されている。またZoomや UNIPA の利用に際しては、学生固有のアカウントが付与され、ログイン時にパスワード認証が求められることとなっている。

・オンデマンド型の遠隔授業

UNIPA により、授業動画が配信される。学生は UNIPA 上、もしくは指定された場所にアップロードされた授業動画を視聴し、UNIPA 上で示される授業資料を見ながら、指示された課題に取り組む形で学習を行う。リアルタイム型の遠隔授業と同様に、教員との双方向性を担保した授業が実施されている。

II 実施方法

多様なメディアを高度に利用した授業科目については、総合政策学部の教授会において科目選定の方針を定めており、面接授業と同等の教育効果が得られることが担保されている。

リアルタイム型の遠隔授業は、面接授業と同様に開講曜日、時限を定め、同時性と双方向性が確保されるようにZoomにて配信される。受講生間の意見交換はZoomのブレイクアウトルーム（数名単位で個別に議論ができる）などを活用することで、受講生と教員の質疑応答などは、UNIPA の Q&A 機能を活用することで面接授業と同等の環境を提供している。

オンデマンド型の遠隔授業は、学生は15回の講義動画を視聴し、動画視聴後に課題に取り組む。課題に求められる資料については、UNIPA 上で配信されるほか、受講生間、課題の添削指導を含めた受講生と教員の意見交換については、MicrosoftTeamsのチャット機能を活用して行われる。

以上のように、リアルタイム型の遠隔授業、オンデマンド型の遠隔授業の実施方法は、文部科学省のメディア授業告示の要件を満たすものであると料する。

⑦ 編入学定員を設定する場合の具体的計画

総合政策学部では、学則第22条の2に定めるように、短期大学や高等専門学校、専修学校専門課程（専門学校）を卒業した者を対象として編入学試験を実施する。また学則第22条の4に定めるように、在籍していた学校において修得した単位の認定及び修業年限について、教授会にて審議する（【資料4-1】履修モデル、【資料4-2】編転入学生の単位認定）。

I 単位認定

編入学生の卒業に必要な単位数は124単位であるが、これまで在籍していた学校において修得した単位は、その62単位までを本学部において取得したものとみなし、教授会にて一括認定する。

II 履修指導方法

編入学生に対し、学期初のアオリエンテーションにおいて、履修指導を行う。新入生同様に少人数の学生に分け、履修指導を行う。ノートパソコン等を持参させ、個別に指導し、将来の進路な

どの相談に応じながら履修を行う。また、履修単位の認定については、その認定のプロセスを含め、この時点で明示する。

Ⅲ 教育上の配慮等

2年間で62単位以上を取得することになるため、ゼミナールの指導教員等含め、教務委員を中心に丁寧にフォローアップしていく。比較的進路を明確にしている学生が多いことから、進路に応じた履修モデルを提示し、目標に向けた学修を行うよう指導する。

⑧ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

I 企業実習（【資料5-1】インターンシップ学生派遣先）

総合政策学部は、カリキュラム・ポリシーでも謳われるように〔CP(1-7)〕、インターンシップを講義科目として設定している。対象学年は、2年生（3、4セメスター）及び3年生（5、6セメスター）となっている。令和4年度25名を21社に、令和5年度27名を19社に派遣している。インターンシップⅠでは、インターンシップの事前指導を行い、企業人の研修に携わっているベテランビジネスマナー講師による講義、グループ討議、ロールプレイ等を行う。インターンシップⅡでは、企業等でのインターンシップの研修と、研修後の体験発表や事後指導を行う。

また、申告型インターンシップでは、自ら選択した企業のインターンシップに、参加が決まった学生が履修申告を行うことにより履修が開始される。長期休暇を使って、5日間以上インターンシップに参加する必要がある。最大で2回、4単位の履修することができる。初回の履修時は、参加前の事前学習として、業界研究・企業研究を自らで行い、準備を行うとともに目標設定を行い、就業体験中に活動日誌をつける。2回目の履修は、インターンシップ参加後に行い、事前学習の成果と関連させながら活動内容を報告し、学びと気づきを整理する。本講義は、令和8年度より新設されるものであり、学生の自主性を育み、インターンシップへの積極的参加を促すねらいもある。

ア 実習先の確保の状況

実習先については、総合政策学部の就職委員会において選択を行い、2024年度は、33箇所を確保している。内訳は、4箇所の地方公共団体と29箇所の民間企業となっている。

イ 実習先との連携体制

就職委員会の教職員が、本学のキャリアサポートセンターと連携しながら、実習の前後に実習先の企業を訪問し、実習の意義を説明するとともに、学生の活動状況についての具体的な報告を伺うこととしている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

インターンシップ、申告型インターンシップいずれも、連続してⅠ・Ⅱを履修することになる。

Ⅰでは事前学習として、業界研究や企業研究を行うこと、事前の準備と目標設定を1学期目に実施する。Ⅰでは、授業中の発言、発表等の授業への取り組み姿勢、グループ活動への積極姿勢を評価の基準とする。単位認定は、科目担当者がこれを行う。

Ⅱでは、研修後の体験発表や、実際の就職活動を視野に入れた事後指導を行う。履修者は、インターンシップでは、インターンシップⅡの受講期間中に、申告型インターンシップでは、（Ⅰの受講後）長期休業中に、実習に参加する。その成果は、報告書としてまとめられるほか、実習参加者は自らが参加した実習先での体験や学びを、他の学生の前で報告し、実習先のご担当者にお越しい

ただいて直接指導していただく。Ⅱでは、研修への参加姿勢、派遣先の担当者による勤務評価、各自の研修内容の報告、体験発表等に基づき評価する。単位認定は、科目担当者がこれを行う。

Ⅱ 海外語学研修等（【資料5-2】海外研修先一覧）

本学の教育理念は、「眞善美の探究」を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することであり、グローバル人材の育成に取り組んでいる。総合政策学部においては、国際な人材育成の一環として、グローバル・キャリア・プログラム（GCP）として、グローバルに活躍するビジネスパーソンを育成するためのキャリア育成プログラムを導入している。近年、GCP 所属の学生を中心に、多くの学生が留学を経験しているが、事前に海外語学研修に参加する学生も存在する。留学や語学研修における単位認定は、海外演習基礎Ⅰ・Ⅱ、海外演習応用Ⅰ・Ⅱ、海外演習発展Ⅰ・Ⅱ、海外演習実践において行われることになる。

ア 実習先の確保の状況

海外研修については、セメスターごとに概ね5つ程度の研修先を認定している。実習先の選定にあたっては、本学の国際交流課が候補を挙げ、学部の国際交流委員会に諮り、最終的に教授会において実施の可否を判断する。また、単位認定をすることの可否については、国際交流委員会での審議と並行して学部の教務委員会に諮り、教授会において判断している。

イ 実習先との連携体制

すべての研修に旅行代理店が関わっており、事前の情報提供などを受けている。渡航先との情報共有については、教職員が引率する場合は当該教職員と、引率のない場合は学生本人と、国際交流課がメールやオンライン会議を通じて行っている。また不測の事態に備え、「海外研修留学時の緊急連絡網による伝達」を年度当初に作成し、学長以下教職員の連絡、対応の体制を整えている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

海外演習基礎Ⅰ・Ⅱ、海外演習応用Ⅰ・Ⅱ、海外演習発展Ⅰ・Ⅱ、海外演習実践については、帰国後に提出された研修先からの成績証明書に基づいて行われる。また研修先で受講し単位取得している科目については、本学の教育課程に準じていることを確認し、60単位を限度として教授会の審査により本学の学科目に認定できる。これら単位認定は、まず教務委員会がこれを行い、最終的に教授会が判断する。

⑨ 入学者選抜の概要

Ⅰ アドミッション・ポリシー

社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察し、幅広い教養を身につけるとともに、学際的な視点から考察するに足る専門知識を修得し、実践的な学びを通じて社会で活躍する人材を養成することを目的とする。このため、以下の資質を備える学生を求めている。

（1-1）多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人

（1-2）様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人

（1-3）様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーション

ンを図ろうとする態度を持つ人

(1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人

(1-5) 政治・法律・国際関係・福祉・経済・経営及び会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

II 入学者選抜の選考方式（【資料6】学生募集要項）

ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、以下の知識・技能や能力を備えた人材を求めている。

(2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。（知識・理解・表現力）

- ・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

- ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。

(2-2) 知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。（思考力・判断力）

(2-3) 自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力）

(2-4) 社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲）

(2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性）

かかる学習成果を持つ学生を選抜するために、入学者選抜は、複数の選抜方式で多面的かつ総合的に判定を行い、公正かつ適切な方法でこれを実施する。

面接試験では、大学での勉学意欲やキャリア形成についての具体的な将来像を描いているかを問う。また、入学後に学ぶ社会問題への関心、分析力、解決力を見るため、試験官の質問を理解しているか、適切に自らの言葉で伝えることができるかを確認している。試験官によって採点に差が出ないよう、審査においては「知識理解・表現力」、「論理性」〔アドミッション・ポリシー（2-1）【以下AP（2-1）と表記】〕、「思考力・判断力」〔AP（2-2）〕、「技能・表現力」〔AP（2-3）〕、「関心・意欲」〔AP（2-4）〕、「協働性」〔AP（2-5）〕、を主軸として点数化している。

書類審査（調査書や志望理由書）においては、受験生の高等学校等における学習や課外活動の成果〔AP（2-1）、AP（2-3）〕、や、本学の学びに対する理解度〔AP（2-4）〕を重視し、適性を審査する。なお、高等学校等在学時に取得した資格等についても、明示した上で評価の対象として審査する。

学力試験においては、高等学校までの教育課程で学習成果が、正確に理解されているかを評価する。試験の対象とする学習範囲は、学習指導要領に準拠したものであり、理解力、読解力、語学力、数理能力、など本学での研究・教育活動に十分な基礎学力を有しているかを

判断する。

なお入学試験の実施は、文部科学省の入学者選抜実施要項を遵守して行われる。

1 学校推薦型選抜（指定校制推薦型選抜、公募制学校推薦選抜）

出身高等学校長の推薦書及び調査書、志望理由書、小論文などを判定資料とするほか、公募制型においては、資格取得や試験結果を評価として採用している。また面接試験を行うことで、総合政策学部への関心と学修意欲、社会課題への関心と観察力、課題発見、分析、解決力について、志願者の適性と能力を確認する。

2 総合型選抜（事前課題型、授業受講型、基礎知識・理解力調査型、高大連携校型）

志願者から提出された調査書、志望理由書、小論文などを判定資料とし、総合的に可否を判断する。面接試験を実施する試験では、総合政策学部への関心と学習意欲を確認するほか、社会課題への関心と観察力、課題発見、分析、解決力について、志願者の適性と能力を確認する。事前課題型は、事前に示された課題に関する小論文を出願時に提出する。授業受講型では、簡単な授業を受講した後、小論文試験を実施する。基礎知識・理解力調査型では、総合政策学部での学びに関する授業を受講した後、授業内容について及び関連する基礎知識についての試験を実施する。高大連携校型では、夏季休業期間中に実施する高大接続授業を受講し、その成果によって志願者の適性と能力を審査する。

3 一般選抜（一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜）

もっぱら学力試験による選抜を行い、可否を判定している。学力試験については、本学で実施される個別試験の成績、大学入学共通テストの成績を利用する。出願資格は、高等学校または中等教育学校を卒業した者あるいは入試実施の年3月卒業見込みの者としており、これに準じて通常の課程による12年の学校教育を修了、学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者等の出願を認めている。

4 外国人留学生選抜（【資料7】留学生募集要項）

現代社会に関するテーマに基づく小論文と、面接試験、留学生の自国の出身高等学校等の成績証明書、日本語能力試験等の成績証明書等の書類審査をあわせ総合的に可否を判定している。日本語能力試験N2以上を取得していること、日本留学試験240点以上、実用日本語検定Cレベル以上のいずれかを満たすことを出願時の要件としている。経費支弁能力については、面接試験時に確認を行うほか、入国在留管理局に「在留資格認定証明書」の交付申請を行う際と在留資格の更新を行う際の確認によって把握している。在籍管理については、入学後国際交流課において管理され、教務課やプレゼミナール、ゼミナール担当教員との連携を図り留学生の現況について把握するよう心がけている。

入試区分	法律政治学科	経済経営学科	学部計
推薦型選抜	32	24	56
総合型選抜	43	33	76
一般選抜	53	42	95
外国人留学生選抜	2	1	3
計	130	100	230

Ⅲ アドミッション・ポリシーの各項目と入学者選抜方法等の整合性

アドミッション・ポリシーと入学者選抜方法の整合性については、以下の表に示される通りである。なお、表中に示す●は重点的に評価する項目、○は評価する項目である。

入試区分	選抜方式	AP2-1	AP2-2	AP2-3	AP2-4	AP2-5
学校推薦型選抜	面接	●	●	●	○	●
	調査書・推薦書	○	○	○	●	●
	志願者調書		○	○	●	●
	小論文	●	●	○		
	検定資格	●	●			●
総合型選抜	面接（口頭試問・プレゼンテーション含む）	●	●	●	○	●
	調査書	○	○	○	●	●
	志願者調書		○	○	●	●
	授業受講姿勢・理解力	●	●	●	○	○
一般選抜	学力試験	●	●		●	
外国人留学生選抜	面接	●	●	●	○	●
	高等学校等の成績	●	●	●	○	○
	日本語能力	●	●	●		

	着目する資質・能力
AP2-1	知識・技能、思考力・判断力・表現力
AP2-2	思考力・判断力
AP2-3	技能、表現力
AP2-4	知識、主体性
AP2-5	主体性・多様性・協働性

Ⅳ 聴講生・科目等履修生について（【資料8】杏林大学科目等履修生規程）

聴講生、科目等履修生については、学則第45条、第46条に定めのあるように、教育研究上支障のない限り、これを許可することができる。教授会の議を経て学長が許可をするもので、基幹教員や校地・校舎の現況に合わせて受け入れていく。

⑩ 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

I 教員配置の考え方

今回の学科名称変更にあたっては、教育研究実施組織は、既存の学科編制である総合政策学科と企業経営学科から、それぞれ法律政治学科、経済経営学科へと継承することになる。専任教員については経済関係の教員が、既存の総合政策学科から新設の経済経営学科に異動することになる。基幹教員のうち、定年規定に定める退職年齢を越える教員の割合が高いことが懸念されるため、とりわけ経済経営学科における教員組織編制については、今後計画的に進めていく（教職員の採用に関しては、【資料9-1】杏林学園職員人事考課規程、【資料9-2】教育職員資格審査基準、参照）。

（1）法律政治学科

法律政治学科の主要授業科目は、ベーシック科目や学部共通科目に配される科目のほか、「現代行政学」、「政策過程論」、「政治心理学」、「憲法Ⅱ（人権）」、「民法Ⅱ（財産法②）」、「国際政治経済学」、「社会保障論」などが挙げられ、いずれも基幹教員が担当する。教員については、法学、政治学分野の修士・博士の学位を有し、専攻分野に特に優れた知識や経験を有する教授10名、准教授4名、講師2名が総合政策学科から学内異動によって配置される。完成年度の3月31日における基幹教員数は、年齢別に40～49歳が2名、55～59歳が5名、60～65歳が5名、66～70歳が4名となっており、就業規則に定める定年を迎える教員が3名となる。これについては、定年退職者再雇用規程にしたがい、特任教員として本学部の完成年度末まで任用し、もって教育研究水準の維持発展に努める。

（2）経済経営学科

経済経営学科の主要授業科目は、ベーシック科目や学部共通科目に配される科目のほか、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「公共経済学」、「経営組織論」、「流通論」、「管理会計論」、「監査論」などが挙げられ、いずれも基幹教員が担当する。教員については、経済学、経営学、会計学分野の修士・博士の学位を有し、専攻分野に優れた知識や経験を有する教授6名、准教授4名が総合政策学科及び企業経営学科から学内異動によって配置される。完成年度の3月31日における基幹教員数は、年齢別に40代が1名、52～59歳が4名、66～73歳が5名となっており、就業規則に定める定年を迎える教員が5名となる。このため、法律政治学科同様に特任教員として本学部の完成年度末まで任用するとともに、計画的に後任の採用を進めることで教育研究水準の継続性を確保する。具体的には、令和9年度には1名、令和10年度には1名、さらに令和12年度には2名の経済学及び会計学の専任教員を採用する予定である。

II 中心となる研究分野

本学部は、法学、政治学を中心とした研究分野とする法律政治学科と、経済学、経営学、会計学を中心とした研究分野とする経済経営学科で構成され、社会科学全般を研究領域とする。両学科において、社会における課題発見、課題解決に資する研究を行う目的は共通している。さらに、学際的視点から社会課題を捉える視点は、下記に述べる学内外の研究活動において涵養するよう、心がけている。

III その他

教育研究活動等の運営や厚生補導等が組織的かつ効果的に行われるよう、学部において教員及び事務職員の協働が行われている。もっぱら教育課程の実施においては、教務委員会に教員及び事務職員が配され、学部の教育課程の実施における協働体制が構築されている。もっぱら厚生補導においては、学生委員会に教員及び事務職員が配され、学部の厚生補導の側面における共同体制が構築されている。

⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組

I 研究の実施についての考え方

本学は、学則第1条に定めるように「本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命」としている。これは、建学の精神である「眞善美の探究」を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成する、本学の教育理念を実現するものであり、その一環として平成26年4月に研究推進センターが置かれている。

またデータサイエンスに関する基礎的素養を具備した人材育成が大学教育に求められる中で、令和4年10月には、データサイエンス研究教育センターが設置された。同センターは教育面はもとより、研究上のデータサイエンスに関する研究推進や、統計分析を研究に活用するためのサポートを行っている。

II 研究実施についての体制

研究推進センターでは、4学部3研究科の研究環境を整備し、研究活動をより活性化させることを目的に学内に研究推進委員会を置いている。研究推進委員会での報告・審議事項は、学部の専任者会議で、学部教員全員に周知されている。

基幹教員には、専攻する学問分野に関する調査・研究を遂行するために必要な経費の支弁を目的に、年間に教授55万円、准教授53万円、講師50万円を限度とする個人研究費を配分している（学会や研究のための出張に係る旅費は基本額の30%まで）。

総合政策学部の体制としては、学部の常置委員会として研究委員会を置き、研究推進の主体としている。研究委員会では、学内の定例研究会を主催し、専任教員の教育研究活動の報告機会を提供している。また専任教員によって組織される「杏林大学社会科学学会」の刊行する学術雑誌『杏林社会科学研究』（年2回発刊）の編集作業も同委員会によって行われている。

III 研究実施についての取組

研究教育センターが中心となり、研究力向上、研究倫理に関するセミナーなどを開催する他、研究環境改善などの支援を行っている。競争的外部資金獲得については、科学研究費助成事業の採択に向けて、学内研究者に向けてセミナーやワークショップを開催し、申請書の執筆上留意すべき点などの情報共有を行っている。これに加え、英語論文執筆のためや、統計スキル向上のためのセミナーを開講するなどの研究支援体制が整えられている。

研究者の公正な研究活動については、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成19年2月15日文科科学大臣決定）第1節 機関内の責任体系の明確化に基づき、運営・管理に関わる者及びその責任と権限の体系を公開している。公的研究費の運

営・管理について、本学学長が最高管理責任者であり、統括管理責任者を医学部長、コンプライアンス推進責任者を医学部教務部長、保健学部長、総合政策学部長、外国語学部長、医学研究科長、保健学研究科長、国際協力研究科長及び事務局長が担うこととしている。

研究者の行動指針については、平成19年に「杏林大学研究者行動指針」を定め、公的研究費の運営・管理については、同年制定された「杏林大学における公的研究費の適正な運営、管理に関する規程」を定めることで、文部科学省の定めるガイドラインを反映した学内体制を構築している。さらに、平成27年度からは（助教以上の）専任教員すべてが、APRIN eラーニングプログラムの受講が義務化され、研究倫理教育が実践されており、5年毎に受講している。

⑫ 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

本学は、井の頭キャンパス（34,568.1㎡）に保健学部、総合政策学部、外国語学部、図書館及び管理棟等を、近接する三鷹キャンパスには体育館（5,148.20㎡）を配置し、学生が教育・課外活動を受けるにふさわしい広さを有している。

イ 校舎等施設の整備計画

本学部が主として利用する校地は、井の頭キャンパスとなる。教室及び教員の研究室は、以下の通りである。

1) 教室

教室については、外国語学部と共有する教室となる。50㎡規模の教室が25室、80㎡規模の教室が6室、100㎡規模の教室が4室、170㎡規模の教室が2室ある。

この他、他学部との共用教室が、150㎡規模の教室が3室、240㎡規模の教室が1室ある。

2) 教員研究室

本学部教員の個人研究室は34室（584.65㎡）となる。

3) コンピューター室

コンピューター室が3室（100㎡規模）ある。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画（【資料10】社会科学系井の頭図書館所蔵雑誌）

井の頭図書館の蔵書冊数はおよそ160,000冊、視聴覚資料ほか7,800点、製本雑誌54,000冊を整備している。2階は、ラーニングcommons、グループ学習室5部屋、3階は学習席、AVブース2席、個人学習席2席。4階は学習席を配置している。館内貸出用ノートPC60台を用意し、学生の利用に供する。

なお、学内で所蔵しない書籍等については、NACSIS-ILを利用し他大学図書との相互貸借、文献複写サービスを実施しているほか、国立国会図書館デジタルコレクションの図書館送信サービスを提供している。さらに学外からも電子ジャーナル、データベースが利用できるようリモートアクセスサービスを提供している。

図書館の機能が学習・教育研究活動に効果的に働くよう様々な図書館利用ガイダンスを企画している。目的の雑誌論文や新聞記事を効率的に探す手法の一環として図書館OPACの使い方ガイダンスや図書館ツアー、データベースガイダンスを計画的に行うとともに利用者の質問にいつでも対応、回答できる体制を整備している。

学部で必要な資料については、学部教員の推薦を元に図書委員会で購入決定をしている。シラバス掲載の資料について電子資料での出版があるものは収集につとめた。また、冊子体雑誌の電子ジャーナルへの移行をすすめている。購読している雑誌については、表 にまとめた。また以下の社会科学関連の主要データベースを利用に供している。

・朝日新聞クロスサーチプレミアムバリューパック、Britanica Online Japan、Business Source Complete、eol、iJAMP、Japan Knowledge、毎索、Nikkei Asia、日経BP記事検索サービス、日経テレコン21、PressReader、TKC ローライブラリー、東洋経済デジタルコンテンツライブラリー、ヨミダスなど

⑬ 管理運営

I 教授会

学則第12条に定めるように、各学部に教授会が置かれ、専任教授によって組織され、月1回開催される（8月は除く）。なお、入学試験の時期に臨時教授会が開かれることもある。構成員の過半数の出席をもって教授会は成立し、その議決は出席者の過半数とし、可否同数の場合は議長である学部長の決するところによる。なお、学位、教授選考、学則関係については、特別に教授会の成立及び議事承認を、過半数から2/3以上とする。

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 第1号及び第2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

教授会の審議する事項は、以下の通りである。

- (1) 教育に関する事項
- (2) 教員人事に関する事項
- (3) 学生に関する事項
- (4) 研究に関する事項
- (5) その他各号に関連し、学長等が必要と認めた事項

II 専任者会議

学部の運営、学事及び教育課程の編成について常置委員会より報告された内容を審議し教授会に付議することを目的に、専任者会議が置かれており、学部専任教員を持って組織されている。構成員の過半数の出席をもって、会議は成立する。議決については、出席者の過半数とし、可否同数の場合は議長である学部長の決するところによる。

専任者会議の審議する事項は、以下の通りである。

- (1) 教育に関する事項
- (2) 学生に関する事項
- (3) 研究に関する事項
- (4) その他、学部長等が必要と認めた事項

Ⅲ 学部常置委員会

学則第2条に規定する各学部の運営、学事及び学生関係等を円滑に遂行するため、本学の各学部に常置委員会を置かれている。総合政策学部に置かれる委員会は、以下の通りとなる。

(1) 運営委員会（制度・運営・予算・将来構想・HP）	学部長が主宰
(2) 教務委員会（教育・IT）	教務部長が主宰
(3) 学生委員会（指導・アメニティ・学園祭）	学生部長が主宰
(4) 入試委員会（入試作業・企画・広報）	委員長が主宰
(5) 図書委員会（図書）	委員長が主宰
(6) 研究委員会（研究・FD）	委員長が主宰

*この他、GCP、CBL、DDPの運営に当たる小委員会が置かれている。

⑭ 自己点検・評価

I 自己点検・評価への取り組み（【資料11】杏林大学内部質保証の方針）

平成23年度に、杏林大学自己点検・評価規程を改定し、自己点検・評価を毎年行うこと、及び自己点検・評価の妥当性と客観性を高めるため、外部評価委員会を設置し、この委員会からの評価結果を付して自己点検・評価報告書を学内外に公表することなど、新たな評価体制を整備した。自己点検・自己評価のためのデータブックを『杏林大学の現況』として毎年作成し、冊子体で公開している。これには学部及び大学院についての現況が記載されている。

令和元年には杏林大学内部質保証の方針を策定した。学長を議長とする学部長会議が内部質保証の推進に責任を負う組織とされ、学部長会議を中核としたPDCAサイクルを通して、恒常的な改善を図り、本学の内部質保証を推進することとしている。

令和4年には、大学基準協会による認証評価を受審し、適合認定を受けている。前回の評価よりも大幅に指摘事項を減らすことが出来たものの、大学基準協会からの有益な指摘を真摯に受け止め、引き続き教育研究活動の質を高め、理念・目的及び使命の達成を図っていく。

Ⅱ 実施体制と方法

学則の第1条で述べる、理念・目的及び使命の達成に向けて、教育研究活動を中心とした諸活動について点検及び評価を行い、その結果を踏まえて、質の向上に向けた不断の改善を図ることで、大学自らの手で内部質保証を推進する。本学の内部質保証の取り組みは、全学的な内部質保証推進組織が提示する大学全体としての基本方針のもと、各部門がその特性に応じて主体的に実施する。

(1) 組織体制

本学における内部質保証を推進するため、次のとおり組織体制を整備する。

- ①「学部長会議」は、内部質保証の推進に責任を負う総括的な組織であり、学長のもと、各学部長、各研究科長、事務局長、大学事務部長、総務部長、経理部長を構成員とする。
- ②学部の「運営委員会」は学部、研究科、センターなどの組織毎の内部質保証の推進に対して中心的な役割を担い、各部門の役職者（学部長、教務部長、学生部長など）を構成員とする。
- ③「自己点検・評価委員会」は、全学的な観点に立って学内諸活動につき自己点検・評価を行い、各学部の教務部長、各研究科委員会の教務担当各1名、研究推進センター長、入学センタ

一長、学生支援センター長、地域連携センター長、学長が指名する専任教員若干名、事務局長を構成員とする。

④「IR 推進室」は、大学の諸活動の効果検証や情報提供を行い、学長が任命した本学の教職員を構成員とする。

⑤「外部評価委員会」は、自己点検・評価の客観性や有効性、各部門の諸活動の成果などを第三者の視点で検証し、本学と直接の利害関係を有しない学外の有識者を構成員とする。

(2) 点検項目

自己点検・評価委員会が点検・評価する項目は、以下の通りである。

- (a) 自己点検・評価の基本方針及び実施要領の策定に関すること。
- (b) 自己点検・評価（外部評価を含む）の実施に関すること。
- (c) 自己点検・評価に関する報告書の作成。
- (d) 評価結果に基づく改善状況の検証。
- (e) 自己点検・評価結果の公表に関すること。
- (f) 学校教育法に定める認証評価に関すること。
- (g) 前各号の他、自己点検・評価に関し、本委員会が必要と認めた事項。

(3) 手続き

本学における内部質保証を実質化させるため、PDCA サイクルの基本的な考え方に則って教学マネジメントを機能させることで、恒常的な改善を図るものとする。

ア 計画

- ・学部長会議は、本学の建学の精神、理念・目的、将来計画及び行政・認証評価機関からの指示・指摘事項等に基づき、大学の基本的な方針を各部門に提示する。
- ・各部門は、教育、研究、社会貢献、その他諸活動に関して、部門運営委員会の指示のもと事業計画を策定する。

イ 実行

- ・各部門は、事業計画に基づき、教育、研究、社会貢献、その他諸活動を実施する。
- ・学部長会議は、各部門の取り組みを支援する。

ウ 評価

- ・各部門は、諸活動の実施状況を随時学部長会議に報告するとともに、事業計画の達成状況を毎年自己点検・評価し、結果を自己点検・評価委員会に報告する。
- ・自己点検・評価委員会は、各部門の自己点検・評価結果を全学的観点で評価し、その結果を学部長会議に報告する。
- ・学部長会議は、全学の自己点検・評価結果及び各部門の取り組み状況を第三者の観点から検証するため、外部評価委員会に評価を依頼する。また、必要に応じて IR 推進室に客観的なデータ分析に基づく諸活動の効果検証を依頼する。
- ・外部評価委員会は、学外の有識者が全学的な自己点検・評価結果の客観性や有効性、各部門の諸活動の成果などを検証し、学部長会議に報告する。
- ・学部長会議において、上記の各自己点検・評価の結果を評価・検討したうえで、学長は必

要に応じて、各部門に改善を指示する。また、自己点検・評価の結果を学内外に公表する。

エ 改善

・各部門は、部門内での評価結果に加え、学長からの改善指示を踏まえて、さらなる向上への取り組みを検討し、その結果を学部長会議に報告する。また、翌年度の事業計画に反映することで、螺旋型の改善へと繋げていく。

(4) 総合政策学部における取組

学部における教育研究を自己点検する取組が実施されている。年度初めに、各教員が「課題・目標」シートに当年度の教育・研究・校務等の課題や目標、及び前年度の到達度の検証を記載し、学部長に提出している。これをもとに、学部長との個別面談を行い、教員ごとの各項目に関する改善等を検討しているほか、学部や全学的な案件についても、改善を検討する機会としている。

Ⅲ 結果の活用及び公表

自己点検・評価の結果については、全学委員会が外部評価委員会からの評価結果を伏して自己点検・評価書を学内外に公表するものとする。

また、理事長及び学長は自己点検・評価を実施した結果、改善が必要であると認めた事項について、当該部門の長にその改善の実施を求め、実現を図る。

⑮ 情報の公表

I 情報公表の方針と考え方

本学は、学校教育法及び同施行規則に定められた教育研究活動、自己点検・評価結果、財務状況、その他の諸活動の状況についての情報をもれなく公表している。

II 情報公表の方法

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に係る公表事項については、ウェブページ上に「杏林大学研究業績」、「大学概要・基礎データ（教育情報の公開）」、「経営・財務情報」及び「自己点検・評価」のページを設けて、すべての情報を閲覧できるようにしている。公表している情報については、大学ウェブサイト上に公表する情報については、それぞれの情報を管理する部署が責任をもって作成しており、公表する情報の正確性、信頼性を確認することに加えて、ホームページ委員会で事前確認を行っている。なお更新等大学ウェブサイトの管理は、広報室で行っている。

【大学公式ウェブサイト】

<https://www.kyorin-u.ac.jp/>

【大学概要・基礎データ（教育情報の公開）】

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/>

(1) 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

【大学の教育研究上の目的】

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/mokuteki/>

【3つのポリシー】

- ・杏林大学
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/policy/>
 - ・各学部研究科のポリシー
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/>
 - ・総合政策学部
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/g_index.html
 - ・総合政策学科
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/g1_index.html
 - ・企業経営学科
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/g2_index.html
 - ・国際協力研究科（博士前期課程）
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/gil_index.html
 - ・国際開発専攻
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/gill_index.html
 - ・国際医療協力専攻
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/gil3_index.html
 - ・国際協力研究科（博士後期課程）
 - ・国際問題専攻
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/gi2_index.html
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
本学の基本組織については、「学園組織」のページにおいて公開している。
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/formation/>
- (3) 教育研究実施組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - ・教育研究実施組織
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/formation/>
 - ・教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/>
- (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - ・入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/g_index.html
 - ・入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は 修了した者の数
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/data_file.html
 - ・進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/career/data/r06data.pdf>
- (5) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/education/syllabus/

- ・シラバス

<https://portal2.kyorin-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/PPky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006>

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

卒業要件については、『履修案内』に掲載され、全学生に配布している他、ウェブ上で確認できるようになっている。

- ・ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/education/syllabus/

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/access/>

- ・耐震化率

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/taishinka.pdf>

- ・大学施設耐震化年次計画

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/taisinkakeikaku.pdf>

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・学費、奨学金

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/gakuhi/>

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生の修学、進路選択、学生生活一般に係る支援については、学生支援センターが中心として行っており、就学、進路選択及び心身の健康に係る支援の情報を公開している。なお、進路選択の一部業務は、キャリアサポートセンターが実施しており、支援の情報を公開している。

- ・学生支援センター

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/student/>

- ・キャリアサポートセンター

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/career/program/>

(10) その他

- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/education/department/

- ・学則等各種規程

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/kiyaku/>

- ・学部等の設置届出書及び設置計画履行状況報告書

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/secchi/>

- ・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/torikumi/evaluation/>

- ・事業計画、事業報告

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/financial/>

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

I 『杏林大学FD・SDの基本方針』について（【資料12】学部長会議2023.12.11資料⑥）

本学では、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を通じて、教育内容等の向上を図ってきた。しかるに2022年に受審した認証評価において、①個々の教職員の参加状況を把握し、参加率の改善を図る必要がある、②FD活動が教育・研究・大学運営の改善に寄与しているか、有効性を検証するべきである、という指摘を受けた。

このためFDの実質化と、そのための有効性の検証に全学的に取り組むため、2023年度に『杏林大学FD・SDの基本方針』を定めている。具体的には、全教職員に1回以上のFD・SDへの参加を求め、活動の参加者や内容、方法、効果の測定を行うことを通じて、継続的に改善に努めていくこととしている。

II 実施体制と手順

- （1）各学部・研究科のFD委員会は、FD・SDを企画・実施し、その参加者数を把握・管理する。
- （2）各学部・研究科のFD委員会は、FD・SDの効果を検証するために、活動実施後に参加者を対象としたアンケート調査を行い、その集計結果を教授会・研究科委員会等で報告し、改善について議論を行う。
- （3）各学部・研究科は、年度末に年間のFD・SD活動結果をIR推進室に報告する。IR推進室は、全教職員を対象にFD・SDの効果検証アンケートを作成し、各学部・研究科が調査を実施する。
- （4）IR推進室は、アンケートを分析し、結果を学部長会議で報告する。学長は、必要に応じて各学部・研究科に改善を指示する。
- （5）各学部・研究科は、IR推進室の分析結果に加えて、学長からの改善指示を踏まえて、さらなる教職員の質向上に結びつくFD・SDを検討し、次年度の計画に反映する。

III 研修実施について

（1）コアFDの実施

上記の基本方針に基づき、2024年度に学長を中心とした実施検討会議を行い、「コアFD」制度を導入することとなった。これは、学部や研究科が年度内に計画するFDのうち、最重要課題と捉えるものを「コアFD」と称し、すべての学部専任教員の参加（対面のほか、オンデマンドによる視聴も認める）を求めるものである。さらに年度末に「コアFD」受講により、各教員の行動変容がもたらされたかを調査し、もってFDの有効性を検証するとともに、次年度のFDに反映させることとした。

本学部では、2024年7月17日（水）に「教育の質向上」をテーマにFDを行い、各教員の実践する授業改善の取組を共有し、授業の質向上を目指した。出張や校務のため欠席の教員が5名ほどいたが、27名の専任教員すべてがオンデマンド視聴し、出席率100%となっている。その上でFDの有効性及び次回以降の参考にするため、年度末には効果検証アンケートを行った。

（2）FDの共催

総合政策学部では、コアFDを開催する他に、大学全体で実施されるFDや他学部のFDを共催し、

教育を担う教職員の資質能力の向上を図ることを目的として、組織的かつ継続的に FD を実施している。全学的なコアFDとして実施されたものとして、2024年 6 月16日（水）には高大接続に関するFDがある。

参加人数を把握できている直近のFD開催状況は、以下のようになっている。

時 間	タイトル	参加人数	備 考
13 時 00 分～14 時 20 分	学部の今後について	24/27	
18 時 30 分～19 時 30 分	AI時代の新しい教育ツール：ChatGPT の基本と学生への影響 (FD/SD)	13/27	
15 時 30 分～17 時 00 分	総合政策学部におけるデータサイエ ンス教育	17/27	
16 時 00 分～16 時 45 分	情報セキュリティ (FD/SD)	22/27	
13 時 30 分～16 時 00 分	学部改革に向けた検討	26/27	
17 時 00 分～18 時 25 分	今こそ真剣に考える一本来の高大連 携とは一 (FD/SD)	20/27	
15 時 45 分～16 時 45 分	教育の質の向上	27/27	学 部 コ ア FD

IVその他

(1) 授業評価アンケートについて

学生による授業評価の結果を用い、授業改善を図るための取り組みを行っている。春学期及び秋学期終了時に実施し、一定の基準以下の教員には、教務委員が中心となったピアサポートを行うこととしている。

一方評価の高い教員への顕彰する要素の一つとして、授業評価を活用している。

(2) 第三者によるシラバスチェックについて

シラバスの作成は、シラバス作成の意義や記入例及び注意すべき項目を明記した記入見本を示しながら依頼することで、授業の質保証を図っている。作成されたシラバスについては、主として分野ごとの教員（主として教務委員）が第三者として点検を行っている。

点検項目は、①ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の整合性、②課題等に対するフィードバック方法、③準備学習の具体的内容と時間、④授業における学習の到達目標と成績評価の方法や基準、⑤カリキュラム・ポリシーにおける位置づけや水準を示す数字や記号（＝科目ナンバリング）、等が示されているか、となっており、指摘された項目については修正を求める。

なお、上述の授業評価アンケートにおいて、授業がシラバス通りに実施されているかを問うており、計画通りの授業が行われているかの確認を行っている。

⑰ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

1 プレゼミナール

グループワークやディスカッションを通じて、協働作業を通じた対話力の向上を慣用する他、自分の考えを論理的に伝える技術を体得する。さらに、明快に主張を伝えるべくプレゼンテーションの技術をみがき、ディベートを通じて、多角的な視点を持ち、相手の意見を尊重する力を養いつつ、論理的に議論を進める技術を身に付けていく。

2 コミュニティ・ベースド・ラーニング概論

地域課題を発見、分析、解決する一連の取り組みを行う地域留学のための基礎的なスキルと理論を身につける。さらに、大学周辺の三鷹市周辺地域において、地域課題のインタビューを行うなど、積極的に課題発見、課題解決のために実践的活動を行う。

3 ライフ・プランニング、課題発見演習

ライフ・プランニングでは、将来設計を考え、目標を設定し、自らのキャリアプランニングを行う。さらに金融資産運用や、不動産、相続・事業継承など生涯設計を行っていくための基礎的な知識を身につける。ライフ・プランニングの知識と経験を踏まえ、課題発見演習では、学生が社会課題の発見と分析、課題解決までのプロセスを身につけることを目指している。

4 キャリア開発基礎、キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ

キャリア開発基礎では、PCスキルと一般教養を同時に高めるトレーニング課題、働くことをイメージしやすくするような基本的な内容の説明を行う。キャリア開発演習では、エントリーシートの書き方、面接の受け方、グループ・ディスカッションの進め方について、本番さながらの就活トライアルに参加し、実践的に学んでいく。

5 グローバル・キャリア・ディベロップメント

官民間問わず、社会の最前線で活躍するグローバル人材が、「グローバルに働く」ことをテーマに講述する。オムニバスの講義形式となるが、4～5回に1度振り返りを行い、聞いたこと学んだことを「自分ごと」として捉えられるようにしている。

イ 教育課程外の取組

1 学生活動

学生が中心となって企画運営を行い、リーダーシップや責任感を醸成する取り組みが複数存在する。全学的取り組みであるが、「ミタイノカシラ」は、オープンキャンパスにおいて、高校生や保護者等に大学の魅力を伝えるイベントの企画や接遇を行う。メンバーの学生の発想力と行動力は、年々高まっており、総合大学として多角的な視点を持ちつつ、多様性を尊重しながら企画立案する困難さと愉しさを実践的に学ぶ良い機会になっている。全73名のうち、総合政策学部生は28名で最多となっている（2024年10月現在）

2 地域活動への学生参加

教員の研究・地域貢献活動で繋がりができた地域の取組やイベントに、学生が参加することで、地域社会の実態を学ぶとともに、地域住民や地方公共団体の職員の方との交流を通じ、社会性を身につけることができる。教育課程の一環として、ゼミ活動などで地域社会との接点を持った学生が、自ら率先して地域活動に関わっていく事例も多々見られる。

3 キャリアサポートセンターのイベントへの参加

本学のキャリアサポートセンターが実施している、職業人講話・セミナー参加・起業体験プログラムへの参加を通じ、職業や業界への理解を深めるほか、履歴書や面接練習会など就職活動に先立った実践的なスキルを習得する機会を多く提供している。

ウ 適切な体制の整備について

キャリア教育は、学部の就職委員会、キャリアサポートセンター、教務委員会、教務課が、

密に連携を取りながら展開している。主としてキャリア教育や関連の企画については就職委員会が中心となって企画を行い、教育課程に落とし込み体系化を行っていく際に教務委員会と連動する。企画内容の学生への通知や、学生への連絡の仲立ちは教務課が行うなどしている。

なお、キャリア教育を含めたキャリア指導全般にわたって、全学的にキャリアサポートセンターがこれを主導し、各学年に対する就職ガイダンスや、卒業生との座談会、公務員受験及び資格取得のため講座なども展開している。各学部の就職委員会は、キャリアサポートセンターとの連携を密にし、キャリアデザインシステム「ピタゴラス」や、就職支援システム「学生ピタ」などを活用しながら個々の学生のキャリア支援を徹底的に行なっている。プレゼミナールや、ゼミナール（所属しない学生は個別指導教員が付く）の教員とも、キャリア支援の連携は密であり、一人も取り残さないキャリア支援を行っている。

設置の趣旨を記載した書類

【資料目次】

資料 1	杏林大学総合政策学部 法律政治学科・経済経営学科 カリキュラムマップ	2
資料 2	シラバス	3
資料 3	履修モデル	19
資料 4-1	編転入生向け時間割モデル	26
資料 4-2	杏林大学総合政策学部 編入学・転入学に関する内規	32
資料 5-1	総合政策学部 インターンシップ I 派遣先一覧	34
資料 5-2	総合政策学部海外研修一覧（2024 年度秋学期・2025 年度春学期）	35
資料 6	2025 年度杏林大学学生募集要項	37
資料 7	2025 年度杏林大学留学生募集要項	99
資料 8	杏林大学科目等履修生規程	137
資料 9-1	杏林学園職員人事考課規程	141
資料 9-2	杏林大学教育職員資格審査基準	146
資料 10	杏林大学井之頭図書館所蔵の社会科学系の購入雑誌	148
資料 11	杏林大学内部質保証の方針	151
資料 12	学部長会議資料	153

杏林大学総合政策学部 法律政治学科 カリキュラムマップ

カリキュラム・ポリシー	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	ディプロマ・ポリシー						
CP1-2 多角的視野を涵養するために、グローバル・ガバメント論、日本政治史A、日本政治史B、比較政治学など	ベーシック政治 ベーシック経済 ベーシック法律 ベーシック国際関係 ベーシック福祉政策 ベーシック経営 ベーシック会計	現代日本政治A(政治) 現代日本政治B(行政) 憲法Ⅰ(統治機構) 民法Ⅰ(入門・財産法Ⅰ) 国際政治史 国際政治学 健康社会学 社会福祉政策論 日本経済論 世界経済論 経営学総論 マーケティング総論 基礎簿記Ⅰ 基礎簿記Ⅱ	政治心理学 現代行政学 政策過程論 憲法Ⅱ(人権) 民法Ⅱ(財産法Ⅱ) 民法Ⅲ(家族法) 刑法 行政法 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 国際機構論 国際協力論 医療経済学 児童福祉論 障害者福祉論 老人福祉論	ローカル・ガバメント論 日本政治史A 日本政治史B 比較政治学 など	会社法Ⅰ(ガバナンス) 会社法Ⅱ(ファイナンス) 企業取引法 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ など	国際政治経済学 アジア政治外交論 アメリカ政治外交論 金融財政論 など	DP1 多角的な視野 DP3 幅広い教養 DP4 学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門知識								
ベーシック科目 学科共通科目								学科専門科目 (法律政治学科)	他学科 専門科目	金融財政論 経営戦略論 環境経済学 経済統計	公共経済学 ミクロ経済学 マクロ経済学	経営組織論 経営戦略論 イノベーション論 流通論	ベンチャー企業論 消費者行動論 組織行動論 など	財務会計論 管理会計論 国際会計論 監査論	税務会計論 商業簿記Ⅰ 商業簿記Ⅱ
カリキュラム・ポリシー	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	ディプロマ・ポリシー						
CP1-1 大学での学びへの到達は導入のために	プレゼミナルA	プレゼミナルB	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	演習Ⅴ	演習Ⅵ	DP1 多角的な視野 DP3 幅広い教養 DP4 学際的視点からの考察に必要なそれぞれの分野の専門知識 DP5 コミュニケーション、コラボレーション力 DP6 データ分析・活用能力						
CP1-3 地域に通じる実践力を身につけるために	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論 コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅱ コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅰ コミュニティ・ベースド・ラーニング応用Ⅱ								DP2 地域・国際社会に通じる実践力						
CP1-7 自分のキャリアを磨く能力を身につけるために	英語Ⅰ Focus on FormsⅠ 英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ	英語Ⅲ Focus on FormsⅡ 英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ 中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ フランス語Ⅰ ドイツ語Ⅰ スペイン語Ⅰ	発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ 中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ フランス語Ⅱ ドイツ語Ⅱ スペイン語Ⅱ					DP7 ライフデザインスキル						
CP1-3 幅広い教養を身につけるために	保健・医療の現状と未来Ⅰ 保健・医療の現状と未来Ⅱ 社会と大学Ⅰ 社会と大学Ⅱ(SDGs) 社会と大学Ⅲ	心理学 歴史学 文学 音楽	Japan Studies Critical Thinking	Media Literacy				DP3 幅広い教養							
CP1-3 国際社会に通じる実践力を身につけるために	ライフ・プランニング	課題発見演習	キャリア開発基礎	キャリア開発演習Ⅰ	キャリア開発演習Ⅱ インターンシップⅠ 申告型インターンシップA	インターンシップⅡ 申告型インターンシップB	DP7 ライフデザインスキル								
CP1-3 国際社会に通じる実践力を身につけるために	Academic WritingⅠ Academic WritingⅡ Oral CommunicationⅠ Oral CommunicationⅡ Global Career Development		Business CommunicationⅠ Writing for the Business World Organization Culture and Communication Recent Topics in English Speaking in Professional Contexts Writing for Social SciencesⅠ～Ⅳ Social Sciences DiscussionⅠ～Ⅳ		Business CommunicationⅡ Marketing Strategy Monetary Policy and Financial System Law Economics Bioethics and Welfare Policy International Relations Business & Management Business Strategy		Culture in Context Fiscal Policy Global Health Issues History of Innovation & Science Governance and Social Policy 海外演習基礎Ⅰ～Ⅱ 海外演習応用Ⅰ～Ⅱ 海外演習発展Ⅰ～Ⅱ 海外演習実践			DP2 地域・国際社会に通じる実践力					
CP1-6 データ分析・活用能力を身につけるために	情報リテラシーA 情報社会論	情報リテラシーB ICTビジネス論	データデザイナー概論 データサイエンス基礎 プログラミング基礎	データサイエンス応用 プログラミング応用	DP6 データ分析・活用能力										

杏林大学総合政策学部 経済経営学科 カリキュラムマップ

カリキュラム・ポリシー	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	ディプロマ・ポリシー
CP1-2 多角的視野を涵養するために、地域・国際社会に適応する能力・幅広い教養を培う。 CP1-3 地域に適応する実践力を養う。 CP1-4 学際的視点から考察に必要なそれぞれの分野の専門知識を身につける。	ベーシック政治 ベーシック経済 ベーシック法律 ベーシック国際関係 ベーシック福祉政策 ベーシック経営 ベーシック会計	日本経済論 世界経済論 経営学総論 マーケティング総論 基礎簿記Ⅰ 基礎簿記Ⅱ 現代日本政治A(政治) 現代日本政治B(行政) 憲法Ⅰ(統治機構) 民法Ⅰ(入門・財産法Ⅰ) 国際政治史 国際政治学 健康社会学 社会福祉政策論	学 科 専 門 科 目 （ 経 済 経 営 学 科 ） 						

開講開始年度	2024年度
授業コード	3L0001
担当教員	岡村 裕
科目	コミュニティ・ベースト・ラーニング概論 [春]
授業概要	コミュニティ・ベースト・ラーニング（以下、CBL：community based learning）概論とは、地域に対する理解を深め、国内地域留学に向けてさまざまな準備を行うことを目的とする。授業では、地域で活動する上で必要不可欠な基本的な内容について理解する。具体的な内容としては、①地域活動でのマナーや心構え、②大学が行っているさまざまな地域活動、③地域留学先のプログラムや活動内容について理解すること、などである。なお、授業内容については、国内地域留学の派遣先であり、本学と包括地域連携を結ぶ宮城県石巻市、東松島市、あるいは他の受け入れ先自治体との協議を踏まえて構成されている。 授業では、グループワークなどを積極的に取り入れ、いわゆるアクティブ・ラーニング形式で実施する予定である。また、授業後半では、実践編として、大学周辺で地域活動を行う人や団体に対するインタビューも実施する予定である。この授業では、「受け身」の姿勢であることは認められず、常に受講者の積極的かつ前向きな姿勢が求められるので、その点を理解した上で受講することを求めたい。 なお、授業科目の性質上、履修上限（30名程度）を設定する。履修希望者が履修上限を上回った場合は、抽選を行って履修者を決めることとしたい。 ※【重要】 認定科目であるCBL基礎Ⅰ・ⅡおよびCBL応用Ⅰ・Ⅱの単位修得に対しては、CBL概論の単位修得が「必須条件」となるので注意すること。
学位授与方針の 関連 到達目標	【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、この科目は総合政策学部が卒業認定・学位授与の方針に定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(2) 地域・国際社会に通じる実践力の獲得を目指す。 【到達目標】 ①大学が地域社会に貢献する意義と役割について理解し、総合政策学部の専門性を活かして主体的に地域活動へ参画しようとする態度を育む。 ②他者と協調して課題解決に主体的に取り組むことができる。 ③一定期間の地域留学に必要な基礎的な能力を獲得する。
授業計画	第1回 「イントロダクション・CBLの目的と意義」 [講義・質疑応答] CBLとは何か、何を目的としているかを理解する。 第2回 「地域で学ぶ意義1」 [講義・質疑応答・グループワーク] なぜ地域で学ぶ必要があるのか、どのようなスキルを獲得すべきかを理解する。 第3回 「地域で学ぶ意義2」 [講義・質疑応答・グループワーク] なぜ地域で学ぶ必要があるのか、どのようなスキルを獲得すべきかを理解する。 第4回 「地域活動の事例1」 [講義・質疑応答・グループワーク] これまでに総合政策学部が行ってきた地域活動を理解する。 第5回 「地域活動の事例2」 [講義・質疑応答] これまでに総合政策学部が行ってきた地域活動を理解する。 第6回 「地域留学先のプログラム1」 [講義・質疑応答] 一か月程度の地域留学プログラムについて理解する。 第7回 「地域留学先のプログラム2」 [講義・質疑応答・グループワーク] 一か月程度の地域留学プログラムについて理解する。 第8回 「地域留学先のプログラム3」 [プレゼンテーション・質疑応答] 一か月程度の地域留学プログラムについて理解する。 第9回 「地域留学先のプログラム4」 [講義・質疑応答・グループワーク] 一か月程度の地域留学プログラムについて理解する。 第10回 「地域留学先のプログラム5」 [講義・質疑応答・グループワーク] 一か月程度の地域留学プログラムについて理解する。 第11回 「実践編：インタビュー1」 [プレゼンテーション・質疑応答] 大学の近隣で地域活動を行う人や団体へのインタビューを行う。 第12回 「実践編：インタビュー2」 [講義・質疑応答] 大学の近隣で地域活動を行う人や団体へのインタビューを行う。 第13回 「インタビュー報告会1」 [講義・質疑応答・グループワーク] インタビューの内容を授業内で報告する。 第14回 「インタビュー報告会2」 [プレゼンテーション・質疑応答] インタビューの内容を授業内で報告する。 第15回 「振り返りとまとめ」 [講義・質疑応答] これまでの授業を振り返るとともに、希望する地域活動について大まかな方向性を決定する。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。
授業外学習（予習・復習等）の 具体的内容と必要な標準的な時間	第1回（予習60分・復習60分） 大学生の地域活動について、インターネット等を通じて調べておく。 第2回（予習60分・復習60分） 大学生が地域で学ぶ意義について、自分なりの意見を整理しておく。 第3回（予習60分・復習60分） 大学生が地域で学ぶ意義について、自分なりの意見を整理しておく。

	第4回（予習60分・復習60分） これまでの地域活動について理解し、自分自身がどのように関われる可能性があるかを検討する。 第5回（予習60分・復習60分） これまでの地域活動について理解し、自分自身がどのように関われる可能性があるかを検討する。 第6回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第7回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第8回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第9回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第10回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第11回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第12回（予習60分・復習60分） 地域留学先のプログラムにつて、自分なりに情報を集め、整理しておく。 第13回（予習60分・復習60分） インタビューの準備と発表に向けた情報の整理を各チームで行う。 第14回（予習60分・復習60分） インタビューの準備と発表に向けた情報の整理を各チームで行う。 第15回（予習60分・復習60分） 授業全体を振り返り、大学生が地域で学ぶことの意義を改めて整理しておく。 ※授業外学習時間(予習・復習)は、60時間(2単位)必要であるため、不足分は休暇等を利用して関心のある分野の文献を読むことで補うこと
テキスト	特に指定はありません。
参考書	毎回適宜指示します。
成績評価の方法・基準	平常点（20%） グループワークなど授業への取り組み・姿勢(30%） インタビューへの取り組み・発表内容(50%） 評価には授業回数の3分の2以上の出席が必要となる。また、この科目は、地域活動に関わるトレーニングという目的があるため、責任感なども含めた授業への姿勢を重視する。そのため、授業への無断欠席、無断遅刻などは厳禁とし、著しくルールを逸脱する場合は、授業途中でであっても評価対象としない扱いとする。
URL	
備考	①受講生は、本講義を受講する集団の一員としての「規律」を守り、積極的な参加、自主的な行動が求められる。当然ながら、遅刻・私語・睡眠・電話・メール・飲食・講義と関係のない書物等の閲覧など、講義を妨げる行為は一切禁止であり、禁止事項に反した場合は、退室指示・欠席扱いなどにより厳しく対処する。 ②ゲストスピーカーの都合により、スケジュールは変更されることがある。 【科目単位数】 2 単位 【科目ナンバリング】 COSP101

開講開始年度	2024年度
授業コード	3M2002
担当教員	鈴木 典比古
科目	Global Career Development
授業概要	本講義は、世界を股にかける業務に従事し、グローバルに活躍している社会人の方々をお呼びし、「グローバルに働くとはどういうことか」をテーマに幅広く語っていただく、オムニバス形式の授業である。民間企業はもちろんのこと、政府関係者やNGOなど、様々な領域からグローバルに活躍されている社会人の方々から、自身のお仕事の内容や体験談（成功・失敗も含めて）、そしてそのやりがいや醍醐味、難しさなどについて語っていただく。 将来、グローバルなキャリアを歩みたいと考える学生にとっては、そのような仕事に求められる資質や心構えがどのような点にあるのか、そして今後どのような点が重要となってくるのかを知る、よい機会となるだろう。 なお、当科目は杏林推奨科目に指定されている。総合政策学部すべての学生はもちろんのこと、他学部生の受講も歓迎する。なお、これに関連して、授業で用いる言語は日本語とする。他言語話者をお招きする場合は、通訳を介した講演となる。 In this omnibus-style class, we invite working professionals who are active on a global scale to talk about what it means to work globally. They will talk about their work, their experiences (including successes and failures), and the challenges and rewards of working globally. Students who wish to have a global career in the future will have a good opportunity to learn what qualities and attitudes are required for such work, and what will be important in the future. This course is designated as an Kyorin recommended course. All students in the School of Policy Studies are welcome to attend this course. Japanese is the language of instruction in this course. In case a speaker of another language is invited, an interpreter will be provided.
学位授与方針の 関連 到達目標	「グローバルに働くとはどういうことか」という問いに対して、実際のグローバル人材の話に触れることで、自分なりにその仕事のイメージを構築し、説明できるようになること。特に世界を股にかけた業務に従事することを希望する者は、自分なりのキャリア・ビジョンを構築できるようになること。 学位授与との方針との関連：この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、特に（１）多角的視野、（３）問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力、（５）ライフ・デザイン・スキルを養うことを目的としている。 Students will be able to construct their own image of the job and explain it to others by talking about actual global personnel in response to the question "What does it mean to work globally? To be able to build your own career vision, especially for those who wish to work on a global scale. This course is designed to foster the following skills that students should acquire by graduation: (1) multiple perspectives, (3) problem-solving and international communication skills, and (5) life design skills, as defined by the School of Policy Studies in its policy for awarding degrees. ＊学位授与の方針との関連（2022年学則対象者）：この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(1)多角的視野 (5)コミュニケーション、 コラボレーション能力 (7)ライフ・デザイン・スキルとを養うことを目的としています。

授業計画	第1回 ガイダンス[講義・質疑応答] 第2回 民間企業社員による講演① ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第3回 民間企業社員による講演② ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第4回 民間企業社員による講演③ ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第5回 フィードバック①：これまでのゲストからどのようなキャリア形成のヒントを得たか、グループワークを通じて共有する。[グループワーク・質疑応答] 第6回 政府職員による講演① ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第7回 政府職員による講演② ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第8回 政府職員による講演③ ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第9回 フィードバック②：これまでのゲストからどのようなキャリア形成のヒントを得たか、グループワークを通じて共有する。[グループワーク・質疑応答] 第10回 NGO職員による講演① ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第11回 NGO職員による講演② ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第12回 NGO職員による講演③ ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第13回 卒業生による講演① ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第14回 卒業生による講演② ゲスト講師のライフヒストリーから、キャリア形成の重要性や難しさ、仕事のやりがいについて学ぶ。[講義・質疑応答] 第15回 総括 自分のキャリア形成において最も参考となったゲスト講師を一名選び、それぞれ選んだゲストごとにグループをつくり、それぞれが学んだ点についてグループディスカッションを行う。[グループワーク] ※授業内課題に対するフィードバックの方法：毎回授業内のディスカッションの最後に、教員が総括を行う。
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容と必要な標準的な時間	<予習> プログラムごとに、必要に応じて事前課題が課される。授業の進行のためにも、この事前課題に対する積極的な取り組みが必須である。（各45分程度） 第1回：シラバスをよく読み、特に興味を持ったゲスト講師の属性について予め調べておく。 第2回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第3回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第4回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第5回：これまでの講演の内容をまとめてくる。 第6回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第7回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第8回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第9回：これまでの講演の内容をまとめてくる。 第10回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第11回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第12回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第13回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第14回：ゲスト講師の職業、所属組織などについて予め調べておく。 第15回：これまでのゲストの講演について、自分のノートを見返しておくこと。 <復習>第1回～第15回すべてにおいて、その日のうちにノートを再検討した上、不明な箇所をチェックし、次回に備えて質問事項をまとめること（各45分程度） <休日学習>各ゲスト講師が紹介した参考文献・資料のうち一冊以上を読むこと。 * 授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。
テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法・基準	平常点（50％）と毎回のゲストの講演に対するコメントシートの提出（50％）によって評価する（期末試験は実施しない）。
URL	
備考	本講義は外部講師の講演、グループ討論・発表があるので、遅刻・欠席は認めない。また、初回のガイダンスへの参加、および受講希望届の提出を必須とする。講義時間外での作業時間が必要となるので注意すること。

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0001
担当教員	北田 真理
科目	◇ライフ・プランニングI
授業概要	・オムニバス形式で複数の教員が担当する。 ・大学入学後、更には卒業後に経験する可能性の高い主な出来事に関する基礎知識を体得する。
学位授与方針の 関連 到達目標	【目的】学位との関連では“ビジネス・ベーシック・スキルを養うこと” 【到達目標】大学入学後、更には卒業後に経験する可能性の高い出来事に関する基礎知識を体得し、それらをもとに自分の将来について”考え始め、何らかの新たな行動を起こす”こと。 この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めた卒業時点までに獲得すべき能力のうち、 【28年度学則】 (2) 幅広い教養、(4) ビジネス・ベーシック・スキル、(5) ライフデザインスキル、を養うことを目的としている。 【4年度学則】 (7) ライフデザインスキル、を養うことを目的としている。
授業計画	1. イントロダクション（1）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>①授業ガイダンス ②C S C講座「話し方、プレゼンテーションのスキル」 2. イントロダクション（2）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項> ・本学部のキャリア教育に関するガイダンス ・自己分析：これまでの自分を振り返り自分史を書く(5/11提出) 3. キャリアデザイン【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>キャリアシートの作成：これからの人生でチャレンジしたいことを（今の段階でできる、できないは考えずに）リストアップし、資金計画、能力開発計画を立てる。 4. C S C講座「ブラックバイトについて」【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>外部講師の話を聴く。 5. 起業について考える【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>会社の起こし方、業務を経験する方法など（自分が何かを表現・発信し、どれだけ集客できるか？） 6. 課外活動の選択肢を知る①-1（インターンシップ）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>インターンシップの捉え方、探し方、情報収集をしてみる 7. 課外活動の選択肢を知る①-2（インターンシップ）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>インターンシップの情報収集の報告→（できれば）収集された情報の学生間での共有を図りたい。 8. 課外活動の選択肢を知る②（資格・情報リテラシー）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>能力開発のための選択肢（公的資格、語学、進学など）：学部にある授業を組み合わせるとどのような資格に挑戦できるか？ 9. 課外活動の選択肢を知る③（語学・地域活動）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>能力開発のための選択肢（公的資格、語学、進学など）：学部にある授業を組み合わせるとどのような資格に挑戦できるか？ 10. 課外活動の選択肢を知る④（学内その他）【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>杏園祭実行委員、ミタイノカシラ、KDL（Kyorin Design Labo）、ボランティア（子供食堂）、二枚目の名刺など在学生の事例紹介。長い夏期休暇をどのように使うかの計画を立てる。 11. ライフコースと仕事1【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>バースコントロールなど 12. ライフコースと仕事2【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>マインドフルネスなど 13. ライフコースと仕事3【講義・アクティブラーニング・質疑応答】 <説明事項>家庭内のトラブル、子供を持ちつつ働くことなど 14. C S C講座「人生とお金」【講義・質疑応答】 <説明事項>外部講師の話を聴く。 15. GPSテスト【アクティブラーニング】 <説明事項>GPSテストの実施とまとめ *課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予習・復習等）の 具体的内容と必要 な標準的な時間	・毎回の内容を復習し、自分自身について考える時間を持つこと（毎回60分程度） ・講義内容を実践する、内容を踏まえて周囲を観察し何かに気づくことを習慣化すること。 授業外学習時間は、60時間必要となる。不足分は休暇等を利用して補うこと。
テキスト	特に指定しない。毎回レジュメ等を必要に応じて配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
成績評価の方法・基準	初回の授業において説明する。
URL	

備考	講義の日程や順番が入れ替わる可能性があります。 【28年度学則科目ナンバリング】CLD101 【4年度学則科目ナンバリング】COCA101 【科目単位数】 2 単位 【実務経験に基づいた授業内容】 自身の就職活動や企業での実務経験を踏まえ、セルフ・ブランディングに向けた学生時代の過ごし方を学生に意識させるようにしている。初年次の夏季休暇から始まり、1～2年次の長期スパンでの計画を意識させ、初年次学修のモチベーションを高める工夫をしている。計画・実行・評価・改善のプロセスを授業の中に取り入れ、振り返りの習慣を身につけさせている。

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0002
担当教員	高田 京子
科目	◇ライフ・プランニングII
授業概要	日本人の平均寿命は男性は約80歳、女性は86歳を超えています。人生80年の生涯生活設計（ライフ・プラン）を行うために必要な知識の習得が本科目の目的です。人生においては、就職や結婚、転居、子どもの誕生など様々なライフイベントが発生します。こうしたイベントには資金的な裏付けが必要です。また、大学卒業後の選択肢は、今まで以上に多様ですが、そうした選択のための知識を一朝一夕に身につけることはできません。本講義においては、皆さんの総合的なライフ・プランニングに必要な知識を身につけていただくとともに、在学中の現在から終末期に至るまでのプランニングをしていただきます。ライフ・プランニングIIではこのうち、金融資産運用と不動産、相続・事業承継などについて学びます。
学位授与方針の 関連 到達目標	ライフ・イベントにおいて必要となる金融、法律、社会に関連する様々な知識を身につけるとともに、そうした知識を利用したライフ・プランニングを自らが行えるようになること。 ＊学位授与の方針との関連：この科目は総合政策学部の学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち以下を目的としている 【4年学則】（7）ライフ・デザイン・スキル 【28年学則】（1）多角的視野（4）ビジネス・ベーシック・スキル（2）幅広い教養（5）ライフ・デザイン・スキル（6）学際性の軸となる専門的な知識
授業計画	第1回 後期ガイダンス【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 前期の振り返りを行いながら、後期において学習する内容を概観する。 第2回 所得税の基本 各所得の計算【講義・質疑応答】(担当教員 小田) 利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得等各種所得の計算について学ぶ。 第3回 「物価とはなにか」【講義・質疑応答】(担当教員 小田) ものの値段の決定はどのように行われているのかについて、様々な視点から検討を行う。 第4回 課税標準の計算 所得控除【講義・質疑応答】(担当教員 小田) 損益通算や譲渡損失の繰越控除の考え方、課税標準の計算について学習する。 第5回 税額の計算と税額控除【講義・質疑応答】(担当教員 斉藤) 所得控除の対象と各所得控除の金額、配当控除、住宅ローン控除などについて学習する。 第6回 所得税の申告と納付【講義・質疑応答】(担当教員 斉藤) 源泉徴収票の見方や確定申告、青色申告について学習する。 第7回 個人住民税と個人事業税【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 個人住民税、個人事業税とここまで触れてこなかった論点につき検討を行う。 第8回 ここまでのまとめと確認テスト【小テスト・演習】(担当教員 小田、斉藤、高田) ここまでの学習を通じての理解度を確認するとともに、それに基づいて知識の不足している部分について再確認を行う。 第9回 不動産の基本、不動産の取引【講義・質疑応答】(担当教員 斉藤) 不動産の4つの価格、不動産登記の効力、鑑定評価方法などについて検討を行う。 第10回 不動産に関する法令 不動産の税金【講義・質疑応答】(担当教員 斉藤) 都市計画法、建築基準法、農地法、借地借家法、区分所有法などについて検討を行う。 第11回 不動産の有効活用【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 事業方式による不動産の有効活用、不動産の投資判断指標について検討を行う。 第12回 相続の基本【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 相続法、相続のしくみや法定相続分の計算、遺留分、代襲相続などについて検討を行う。 第13回 相続税 贈与税【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 贈与の内容、非課税財産、計算方法、相続時精算課税などについて検討を行う。 第14回 財産の評価【講義・質疑応答】(担当教員 高田) 宅地の評価計算方法、相続税評価額、金融資産の評価額について、検討を行う。 第15回 ここまでのまとめと全体の振り返り【演習・質疑応答】(担当教員 高田) ここまでの学習を通じて、ライフ・プランニングのあり様についての疑問点や不明な点について質疑応答を通じてともに検討する。 *課題に対するフィードバックの方法：毎回の講義のはじめに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予 習・復習等）の 具体的内容と必 要な標準的な時 間	<復習>（各1時間程度） 第1回 後期ガイダンス配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第2回 所得税の基本 各所得の計算配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第3回 「物価とはなにか」配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第4回 課税標準の計算 所得控除配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第5回 税額の計算と税額控除配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第6回 所得税の申告と納付配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第7回 個人住民税と個人事業税配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第8回 ここまでのまとめと確認テスト配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第9回 不動産の基本、不動産の取引配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第10回 不動産に関する法令 不動産の税金配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第11回 不動産の有効活用配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第12回 相続の基本配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第13回 相続税 贈与税配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第14回 財産の評価配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する 第15回 ここまでのまとめと前期の振り返り配布レジュメを再確認し、【課題】について検討する *授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。

テキスト	レジュメを配布します。
参考書	みんなが欲しかった! FPの教科書 3級 2022-2023年 著者: 滝澤ななみ 出版社: TAC出版 ISBN:4300101396 みんなが欲しかった! FPの問題集 3級 2022-2023年 著者: 滝澤ななみ 出版社: TAC出版 ISBN:4300101434
成績評価の方法・基準	期末試験50% その他小テスト、講義参加への積極性等50%
URL	
備考	本科目は再試験対象外科目である。 【科目ナンバリング】 COCA102 【科目単位数】 2 単位

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0003
担当教員	加藤 拓
科目	◇△キャリア開発論I
授業概要	本講義は、主に2年生を対象とし、就職活動の際に求められる基本的な物事の考え方や知識、スキル等を学び、就職活動に対する情報・知識面における学生たちの資源を増やすことを目的とする。具体的には、PCスキルと一般教養を同時に高めるトレーニング課題、働くことをイメージしやすくするような基本的な内容の説明（会社の仕組み、営業とは？、会社で働くことのイメージなど）、業界研究や企業研究の進め方、就職活動を展開するにあたって必要となるSPI関連の対策演習など、学生のためになると考えられる事柄を多く含める。
学位授与方針の 関連 到達目標	①就職活動に関する基礎知識を向上する。 ②キャリア開発や就職について、具体的なイメージを構築できるようになる。 ③就職活動にむけて、今後の課題を発見する。 学位授与との方針との関連：この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、特に（7）ライフ・デザイン・スキルを養うことを目的としている。
授業計画	第1回 全体ガイダンス：敬語の練習ほか（加藤）[講義・質疑応答] 第2回 進路の選択肢：就職以外に考えられること（学を積む、起業など）、敬語の演習、算数（加藤）[講義・質疑応答] 第3回 会社の仕組み1（営業とは？）、SPI対策（加藤）[講義・質疑応答] 第4回 キャリア形成とアイデンティティ：キャリア形成とはなにか、キャリア形成を考える上で重要な概念は何か？、業界研究の初歩、SPI対策（加藤）[講義・質疑応答] 第5回 自分はどのような仕事に向いているかを考える、職種①SPI対策（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第6回 外部講師によるレクチャー：自分の特徴について考える（加藤）[講義・質疑応答] 第7回 会社の仕組み2（設立の方法ほか）（加藤）[講義・質疑応答] 第8回 会社の仕組み3（どの企業も共通して行っていること・目的）、SPI対策（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第9回 職種② SPI対策（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第10回 具体的な職業を知る：情報を作り発信する仕事（久江先生）[講義・質疑応答] 第11回 倒産事例の紹介、取締役の役割と責任など、SPI対策（加藤）[講義・質疑応答] 第12回 社会的信用とは？（ローン、金利の話）、SPI対策（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第13回 800文字作文演習1（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第14回 800文字作文演習2（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] 第15回 まとめ、期末課題の提示（加藤）[講義・質疑応答（授業内課題含む）] ＊課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予 習・復習等）の 具体的内容と必 要な標準的な時 間	<予習> 第1回～第15回すべてにおいて、事前配布の資料に目を通し、不明な箇所をチェックし、次回に備えて質問事項をまとめること（各45分程度） 第1回～第14回共通 ・事前課題の回答を作成してくること <復習> 第1回～第14回共通 ・PCスキル向上のための課題に取り組むこと。SPI対策の復習をすること。 ・自分について考えたことをノートに書くこと。 ＊授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。
テキスト	特に指定しない。
参考書	関連の書籍、参考書は授業内で随時指示する。
成績評価の 方法・基準	平常点30％、提出課題・ゲスト講義受講レポート40％、期末課題30％ 6回以上欠席した学生、および期末レポートを受験しなかった学生はE評価（＝評価不能）とする。
URL	
備考	【重要】当科目は、再試験対象外科目である。また、本講義は就職活動を意識したものであり、ゲスト講師の講演、グループ討論・発表がある。このため、遅刻・欠席を含む受講態度のマナーについては、初回の授業で明確な指示を与えるので、これに従うこと。また、講義時間外での作業時間も必要となるので注意すること。 【28年度学則科目ナンバリング】CLD201 【4年度学則科目ナンバリング】COCA201 【科目単位数】2単位

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0004
担当教員	糟谷 崇
科目	◇△キャリア開発論II
授業概要	本講義は、主に2年生を対象とし、就職先を検討する際に必要となる業界や個別企業に関する知識を学び、就職活動に対する情報・知識面における学生たちの資源を増やすことを目的とする。具体的には、業界個別企業に関する、歴史的経緯、特徴、ニュースなどの実態把握を通じ、学生自身のキャリア開発を支援する。本講義は、前期キャリア開発論Ⅰの受講を前提とし、より発展的な内容となっている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① 業界・企業に関する基礎知識を向上する。 ② 業界・企業の特徴・業務内容について、具体的なイメージを構築できるようになる。 ③ 就職先の検討にむけて、自身の関心を発見する。 学位授与との方針との関連：この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、特に（7）ライフ・デザイン・スキルを養うことを目的としている。
授業計画	第1回 全体ガイダンス：スケジュール概要説明：本講義の意義とその具体的な進め方について詳しく解説する。[講義・質疑応答] 第2回 業界分析の始め方：業界研究の手法と着眼点について学ぶ。[講義・質疑応答] 第3回 業界研究「小売」：「小売」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第4回 業界研究「アパレル」：「アパレル」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第5回 業界研究「運輸」：「運輸」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第6回 業界研究「鉄道」：「鉄道」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第7回 業界研究「旅行」：「旅行」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第8回 業界研究「不動産」：「不動産」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第9回 業界研究「金融（銀行）」：「金融（銀行）」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第10回 業界研究「金融（保険）」：「金融（保険）」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第11回 業界研究「金融（証券）」：「金融（証券）」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第12回 業界研究「情報（Sler）」：「情報（Sler）」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第13回 業界研究「情報（SE）」：「情報（SE）」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第14回 業界研究「メーカー」：「メーカー」業界についての分析・研究。[講義・質疑応答] 第15回 まとめ：今後の労働環境について[講義・質疑応答] ※授業内課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予習・復習等）の 具体的内容と必要な標準的な時間	< 予習 > 第1回～第15回すべてにおいて、事前配布の資料に目を通し、不明な箇所をチェックし、次回に備えて質問事項をまとめること（各45分程度） 第1回：シラバスをよく読んでくる。 第2回：事前配布資料をよく読んでくる。 第3回：事前配布資料をよく読んでくる。 第4回：事前配布資料をよく読んでくる。 第5回：事前配布資料をよく読んでくる。 第6回：事前配布資料をよく読んでくる。 第7回：事前配布資料をよく読んでくる。 第8回：事前配布資料をよく読んでくる。 第9回：事前配布資料をよく読んでくる。 第10回：事前配布資料をよく読んでくる。 第11回：事前配布資料をよく読んでくる。 第12回：事前配布資料をよく読んでくる。 第13回：事前配布資料をよく読んでくる。 第14回：事前配布資料をよく読んでくる。 第15回：事前配布資料をよく読んでくる。 < 復習 > 各回の最後に、翌週に向けての課題が課される。授業の進行のためにも、この事前課題に対する積極的な取り組みが必須である。（各45分程度） 第1回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第2回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第3回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第4回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第5回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する（ゲスト回の感想）。 第6回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第7回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第8回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第9回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する（ゲスト回の感想）。 第10回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第11回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第12回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第13回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する（ゲスト回の感想）。

	第14回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 第15回：事前配布資料およびノートを見直し、課題に取り組み提出する。 <休日学習>各プログラムで紹介された参考文献・資料を読むこと。 ＊授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。
テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
成績評価の方法・基準	平常点30%、リアクションペーパー40%、期末課題30%
URL	
備考	【28年度学則科目ナンバリング】CLD202 【4年度学則科目ナンバリング】COCA202 【科目単位数】2単位

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0005
担当教員	藤原 究
科目	◆△キャリア開発演習I
授業概要	人生のキャリアを考えていく上で、社会人としての基礎能力を身につけるための特別科目である。この授業科目を通じて、3年次に始まる就職活動をサポートする。 また、「就活トライアルイベント」に備え、エントリーシート、面接、グループディスカッションについての具体的な対応方法を学ぶ。就活トライアルイベントの参加と並行し、学生各自の「就活力」のアップを図る実践的カリキュラムである。
学位授与方針の 関連 到達目標	近い将来の「就活」に備え、直ちに開始できるスキルを習得する。 *学位授与の方針との関連：この科目は総合政策学部学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち以下を目的としている 【2022年学則】（7）ライフ・デザイン・スキル 【2016年学則】（1）多角的視野（4）ビジネス・ベーシック・スキル（2）幅広い教養（5）ライフ・デザイン・スキル（6）学際性の軸となる専門的な知識
授業計画	1 全体ガイダンス：履修説明、CSCガイダンスを行う。〔講義〕 2 業界・業種・職種を知る：仕事とは？就活スケジュールについて学ぶ。〔講義〕 3 就活トライアルイベント・ガイダンス：6月イベントの概要について説明する。〔講義〕 4 就活トライアルイベント・ガイダンス：6月イベントについて各自の対策を説明する。〔講義〕 5 身だしなみ・マナー講座：リクルートスーツの選び方、マナーについて学ぶ。〔講義〕 6 自己分析の手法：自己分析の手法を学ぶ。〔講義〕 7 自己分析の実施：各自、自己分析を実施する。〔講義・演習〕 8 エントリーシートの入力：各自のエントリーシートを作成する。〔演習〕 9 グループディスカッション＆面接の対策講座：GDおよび面接の受け方を学ぶ。〔講義〕 10 就活トライアルイベントの振り返り：イベント実施後のフォローを学ぶ。〔講義・アクティブラーニング〕 11 第1回就職ガイダンス：CSCによる全体ガイダンスを行う。〔講義〕 12 各種就職試験（SPI、一般常識試験等）の解説：SPI等の問題の解き方を学ぶ。〔講義〕 13 公募制インターンシップ・ガイダンス：夏のインターンシップの応募について学ぶ。〔講義〕 14 マナー講座or新聞の読み方等〔講義〕 15 総合ガイダンス：総まとめ、全体の授業の振り返りを学ぶ。〔講義〕 *一部、変更の可能性がある。初回の授業時に確定した用紙を配布する。 *課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予 習・復習等）の 具体的内容と必 要な標準的な時 間	授業外に実施する「就活トライアルイベント」の参加のための準備（エントリーシートの作成、提出など）を要する。 ＜予習＞ 各45分程度 1 オリエンテーションや各自の日常から、キャリア開発の必要性を調べる。 2 業界・業種・職種を調べる。自分の適性についても考えてみる。 3 就活における模擬面接の質問内容を調べる。 4 就活トライアルイベントにおける各自の目標・対策を準備する。 5 各自の身だしなみ・マナーについて不足をチェックしておく。 6 高校・大学時代の経験を整理し、自己分析に備える。 7 自己分析の結果を、文章にしてみる。 8 エントリーシートに書くべき事項をあらかじめ用意する。 9 グループディスカッション＆面接を受ける際の留意事項を調べる。 10 各自、就活トライアルイベントの体験を自分なりに振り返る。 11 今後、始まる就活のスケジュールを意識し、計画を立てる。 12 SPI、一般常識試験の内容にふれておく。 13 公募制インターンシップ・ガイダンスのサイトを調べる。 14 マナー講座or新聞の読み方に関する準備（未定） 15 夏休みおよびそれ以降の各自の計画を確定させる。 ＜復習＞ 各回において、その日のうちにノートを再検討し、不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（各45分程度） ＜休日学習＞ 参考文献や各自、関心を持ったキャリア開発に関する著書を読むこと。 *授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。
テキスト	指定しない。
参考書	・渡辺峻・伊藤健市著『学生のためのキャリアデザイン入門 第2版』中央経済社, 2013年。 ・渡辺峻著『女子学生のためのキャリア・ガイダンス』中央経済社, 2012年。 ・山崎政志著『文章力の「基本」が身につく本』学研パブリッシング, 2012年。

成績評価の方法・基準	平常点（小レボ等）50％、就活トライアルイベント50％（当日の参加および到達度） *受講姿勢が芳しく無い者は減点評価を行う。 *欠席回数が一定数に達した者は単位を認定しない。
URL	
備考	当科目は再試験対象外科目である。 【28年度学則科目ナンバリング】CLD301 【4年度学則科目ナンバリング】COCA301 *「就活トライアルイベント」には必ず出席のこと。 【科目単位数】 2 単位

開講開始年度	2024年度
授業コード	3G0006
担当教員	藤原 究
科目	◆△キャリア開発演習II
授業概要	人生のキャリアを考えていく上で、社会人としての基礎能力を身につけるための特別科目である。この授業科目を通じて、3年時には始まる就職活動をサポートする。 また「就活トライアルイベント」（秋学期12月の土曜日に実施予定）に備え、エントリーシート、面接、グループディスカッションについての具体的な対応方法を学ぶ。就活トライアルイベントの参加と並行し、学生各自の「就活力」のアップを図る実践的カリキュラムである。
学位授与方針の 関連 到達目標	近い将来の「就活」に備え、直ちに開始できるスキルを習得する。 ＊学位授与の方針との関連：この科目は総合政策学部学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち以下を目的としている 【4年学則】（7）ライフ・デザイン・スキル 【28年学則】（1）多角的視野（4）ビジネス・ベーシック・スキル（2）幅広い教養（5）ライフ・デザイン・スキル（6）学際性の軸となる専門的な知識
授業計画	第1回：全体ガイダンス 本講義の概要、趣旨、およびスケジュールについて説明を行う[講義・質疑応答] 第2回：就職模擬試験（SPI）[演習] 第3回：就職模擬試験（一般常識）[演習] 第4回：就職模擬試験解説[講義・質疑応答] 第5回：第2回就職ガイダンス＆就活トライアルイベント・ガイダンス 営業職とは？BtoB企業とは？企画・営業・事務職について解説する。[講義・質疑応答] 第6回：【業界研究】サービス業 企業から講師を招いて業界全体について講義。[講義・質疑応答] 第7回：【業界研究】金融業 企業から講師を招いて業界全体について講義。[講義・質疑応答] 第8回：【業界研究】卸売業 企業から講師を招いて業界全体について講義。[講義・質疑応答] 第9回：【業界研究】小売業 企業から講師を招いて業界全体について講義。加えて、地方就職に関連して、UIターンについて講義していただく。[講義・質疑応答] 第10回：ブラック企業・労働法について 労働法の正しい理解と利用法について、外部講師を招聘して講義していただく[講義・質疑応答] 第11回：グループディスカッションと面接について、外部専門講師に実践的な解説をしていただく。[講義・質疑応答] 第12回：就活トライアルイベントの振り返り 評価を行なった面接担当者に実際に就活トライアルイベントを講評していただく。[講義・質疑応答・アクティブラーニング] 第13回：企業人事担当者パネルディスカッション 企業の人事担当者をお招きし、パネルディスカッションの形で近年の動向を解説していただく。[講義・質疑応答] 第14回：内定者パネルディスカッション 内定を獲得した4年生の先輩方をお招きし、パネルディスカッションの形で実際の経験をお話していただく。[講義・質疑応答] 第15回：総合ガイダンス 秋学期の学びを振り返り、これから始まる就職活動について改めて概要をおさらいする。[講義・質疑応答] ＊第6～9回までの「業界研究」は、CSC業界研究セミナー、SPI対策講座の選択も可能とする。ただし、出席カウント数が異なる場合がある。 ＊一部、変更の可能性がある。初回の授業時に確定したスケジュール表を配布する。 ＊課題に対するフィードバックの方法：毎回授業の始めに前回の課題についてフィードバックを行う。
授業外学習（予習・復習等）の 具体的内容と必要な標準的な時間	授業外に実施する「就活トライアルイベント」のための参加のための準備（エントリーシートの作成、提出など）を要する。 <予習> 各45分程度 第1回 各自のシチュエーションに応じて、キャリア開発の必要性を改めて問い直し、調べてみる。 第2回 就職模擬試験（SPI）に関して、予めどのような出題傾向があるのかを調べておき、各自参考書等を用いて必要な対策を講じておく。 第3回 就職模擬試験（一般常識）に関して、予めどのような出題傾向があるのかを調べておき、各自参考書等を用いて必要な対策を講じておく。 第4回 各自過去二回の試験問題を振り返り、復習しておく。 第5回 業界・業種・職種を調べる、自分の適性についても考えてみる。 第6回 サービス業界の規模、特徴、主要企業等について調べておく。 第7回 金融業界の規模、特徴、主要企業等について調べておく。 第8回 卸売業界の規模、特徴、主要企業等について調べておく。 第9回 小売業界の規模、特徴、主要企業等について調べておく。地方就職の可能性について、予め検討しておく。 第10回 ブラック企業とはどのような企業か、何が問題なのかについて予め調べておく。 第11回 グループディスカッション＆面接を受ける際の留意事項を調べる。 第12回 各自、就活トライアルイベントの体験を自分なりに振り返り、反省点をまとめる。 第13回 パネルディスカッションとはなにか、企業人事担当者とはどのような仕事内容かについて予め調べておく 第14回 就職活動の具体的なスケジュールについて予め把握しておく。 第15回 冬休み以降の具体的な就職活動の計画を立ててみる。 <復習> 各回において、その日のうちにノートを再検討し、不明な箇所をチェックし、質問事項をまとめること（各45分程度） <休日学習> 参考文献や各自、関心を持ったキャリア開発に関する著書を読むこと。

	* 授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。
テキスト	指定しない。
参考書	・ 渡辺峻・伊藤健市著『学生のためのキャリアデザイン入門 第2版』中央経済社，2013年 ・ 渡辺峻著『女子学生のためのキャリア・ガイダンス』中央経済社，2012年 その他、関連する書籍、参考書は授業内で随時指示する。
成績評価の方法・基準	平常点（小レポート等）70％、就活トライアルイベント30％（当日の参加および到達度） なお、就活イベントの際の面接・グループディスカッションの結果について、学生に個別にフィードバックを行う（ビデオ指導および評価票の伝達）。
URL	
備考	【2016年度学則科目ナンバリング】CLD302 【2022年度学則科目ナンバリング】COCA302 * 「就活トライアルイベント」に必ず出席のこと。 【科目単位数】 2 単位

【資料3】

履修モデル 法律政治学科

対象とする学生

法律政治学科に所属し、法律を中心に学ぶ学生

分野

法律

履修の特徴

専門共通科目・学科別専門科目の中から法律に関わる科目を履修し、その上で政治・国際関係・福祉等の法律関連科目を履修

卒業後の進路

法律関連職種や企業法務に携わる人材に加えて、行政や福祉等の知識を備えた公務員・民間団体の職員等

学年		1年次				2年次				3年次				4年次				分野別取得単位	
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位		
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7	
		ベーシック経済	1																
		ベーシック法律	1																
		ベーシック国際関係	1																
		ベーシック福祉政策	1																
		ベーシック経営	1																
		ベーシック会計	1																
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)				憲法Ⅰ(統治機構)	2			現代日本政治B(行政)	2									12	
				民法Ⅰ(入門・財産法①)	2			国際政治学	2										
				現代日本政治A(政治)	2														
				国際政治史	2														
(学科専門科目54単位(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目					憲法Ⅱ(人権)	2		行政法	2	比較政治学	2	企業取引法	2				50	
						民法Ⅱ(財産法②)	2	民法Ⅲ(家族法)	2	国際協力論	2	国際機構論	2						
						刑法	2	会社法Ⅰ(ガバナンス)	2	医療経済学	2	児童福祉論	2						
						会社法Ⅱ(ファイナンス)	2	国際法Ⅱ	2	障害者福祉論	2	社会保障論	2						
						国際法Ⅰ	2	政策過程論	2	日本政治史A	2	老人福祉論	2						
						現代行政学	2	ローカル・ガバメント論	2	アジア政治外交論	2								
						政治心理学	2	日本政治史B	2										
						演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2		
														卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2		
						学際演習	2	学問領域別演習	2										20
	導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4
		時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4
		課題発見演習			課題発見演習	2													2
		情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1													4
	一般教養科目		情報社会論	2															
社会と大学Ⅰ			2	社会と大学Ⅱ	2	社会と大学Ⅲ	2											6	
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2													8	
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2														
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							14	
										インターンシップⅠ	2	インターンシップⅡ	2						
										申告型インターンシップⅠ	2	申告型インターンシップⅡ	2						
プログラム科目	DDP																	0	
	CBL																	0	
	GCP																	0	
修得単位		22		21		22		23		19		16		4		4		総取得 単位数	
学年合計単位数			43				45				35				8				
履修上限単位数			48				48				48				48				
合計単位数								124											131

履修モデル 法律政治学科

対象とする学生

地方自治体職員を目指す学生や、まちづくりに関心のある学生

分野

政治

履修の特徴

政治分野の科目を中心に、CBLの科目やDDP科目を履修

卒業後の進路

地方自治体、非営利団体、民間企業

学年		1年次			2年次			3年次			4年次			分野別取得単位												
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位		春学期	単位	秋学期	単位								
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7								
		ベーシック経済	1																							
		ベーシック法律	1																							
		ベーシック国際関係	1																							
		ベーシック福祉政策	1																							
		ベーシック経営	1																							
		ベーシック会計	1																							
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)				現代日本政治A(政治)	2	国際政治学	2	経営学総論	2									14								
				現代日本政治B(行政)	2	憲法Ⅰ(統治機構)	2	日本経済論	2																	
				社会福祉政策論	2																					
(学科専門科目54単位(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目					政治心理学	2	ローカル・ガバメント論		日本政治史A	2	経済統計	2	国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2	40								
						比較政治学	2	日本政治史B	2	公共経済学	2	環境経済学	2													
						現代行政学	2	政策過程論	2	行政法	2	国際政治経済学	2													
						環境保全論	2	憲法Ⅱ(人権)	2			イノベーション論	2													
								刑法	2			経営組織論	2													
								企業取引法	2																	
								金融財政論	2																	
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	20								
														卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2									
						学際演習	2			学問領域別演習	2															
導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4								
	時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4								
	課題発見演習			課題発見演習	2													2								
	情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1													4								
一般教養科目				社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2	社会と大学Ⅲ	2									6								
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2													8								
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2																					
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							10								
										インターンシップⅠ	2	インターンシップⅡ	2													
プログラム科目	DDP			ICTビジネス論	2	データ・デザイナー概論	2	データ・サイエンス応用	2	プログラミング基礎	2	プログラミング応用						10								
						データ・サイエンス基礎	2																			
	CBL	コミュニティ・ベースド・ラーニング概論	2	コミュニティ・ベースド・ラーニング基礎Ⅰ	2													4								
	GCP																	0								
修得単位		24			23			24			21			15			14			6			6			総取得単位数
学年合計単位数		47						45						29						12						
履修上限単位数		48						48						48						48						
合計単位数		124																	133							

履修モデル 法律政治学科
分野 国際政経

対象とする学生

海外と関わる業務を有する民間企業・公的機関・民間団体や国際機関の職員を目指す学生、国際協力に関心の有る学生

履修の特徴

国際経分野の科目を中心に、政治・経済・経営関連の科目を履修

卒業後の進路

民間企業、国際NGO、国際公務員、国家公務員、地方公務員

学年		1年次				2年次				3年次				4年次				分野別取得単位
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7
		ベーシック経済	1															
		ベーシック法律	1															
		ベーシック国際関係	1															
		ベーシック福祉政策	1															
		ベーシック経営	1															
		ベーシック会計	1															
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)				国政政治史	2	日本国憲法Ⅰ(統治機構)	2	基礎簿記Ⅰ	2									18
				国際政治学	2	現代日本政治A(政治)	2	民法Ⅰ(入門・財産法①)	2									
				世界経済論	2													
				International Relations	2													
				経営学総論	2													
専門科目 (学科専門科目54単位[(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目					比較政治学	2	グローバル・キャリア・ディベロップメント	2	アジア政治外交論	2	イノベーション論	2	政治心理学	2	経済統計	2	46
						国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2	公共経済学	2	ローカルガバメント論	2					
						国際協力論	2	国際機構論	2	国際会計論	2	政策過程論	2					
						国際経済学	2	ミクロ経済学	2	アメリカ政治外交論	2	国際政治経済学	2					
						経営組織論	2	マクロ経済学	2									
						現代行政学	2	ICTビジネス論	2									
						国際経営論	2											
						演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					学問領域別演習	2							卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	18
導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4
	時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4
	課題発見演習			課題発見演習	2													2
	情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1													4
一般教養科目		社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2													6
		外国史	2															
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2	発展英語Ⅰ	2	発展英語Ⅱ										10
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2													
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							14
										インターンシップⅠ	2	インターンシップⅡ	2					
										申告型インターンシップⅠ	2	申告型インターンシップⅡ	2					
プログラム科目	DDP																	0
	OBL																	0
	GCP																	0
修得単位		24		23		24		21		15		14		6		6		総取得 単位数 133
学年合計単位数			47				45				29				12			
履修上限単位数			48				48				48				48			
合計単位数							124											

履修モデル
分野

法律政治学科
福祉政策

対象とする学生
履修の特徴
卒業後の進路

グローバルな福祉関連課題への対処策に興味がある学生
GCP科目、海外留学を含み、グローバルな福祉関連課題に関わる科目を履修
国内外における福祉関連の職種(民間企業、非営利組織、公務員など)

学年		1年次				2年次				3年次				4年次				分野別取得単位
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7
		ベーシック経済	1															
		ベーシック法律	1															
		ベーシック国際関係	1															
		ベーシック福祉政策	1															
		ベーシック経営	1															
		ベーシック会計	1															
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)				健康社会学	2	国際政治学	2			International Relations	2							14
				社会福祉政策論	2	世界経済論	2											
				現代日本政治A(政治)	2													
				現代日本政治B(行政)	2													
専門科目 (学科専門科目54単位(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目					グローバル・キャリア・ディベロップメント	2			Governance and Social Policy	2	Global Health Issues	2	環境経済学	2	公共経済学	2	36
						医療経済学	2			Bioethics and Welfare Policy	2	児童福祉論	2					
						社会保障論	2			ローカル・ガバメント論	2	障害者福祉論	2					
						国際協力論	2			民法Ⅲ(家族法)	2	老人福祉論	2					
						国際政治経済学	2			国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2					
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	32
						学際演習	2							卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	
								海外演習基礎Ⅰ	2									
								海外演習基礎Ⅱ	2									
								海外演習応用Ⅰ	2									
								海外演習応用Ⅱ	2									
								海外演習発展Ⅰ	2									
								海外演習発展Ⅱ	2									
								海外演習実践	2									
		導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2											
時事問題研究	時事問題研究A		2	時事問題研究B	2												4	
課題発見演習				課題発見演習	2												2	
情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA		1	情報リテラシーB	1												4	
一般教養科目		社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2	保健・医療の現状と未来Ⅰ	2										6	
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2												4	
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2			キャリア開発演習Ⅰ	1						6	
プログラム科目										キャリア開発演習Ⅱ	1							
	DDP																0	
	CBL																0	
	GCP			Introduction to GCP	2	Academic WritingⅡ	2			Writing for Social Sciences	2						14	
				Academic WritingⅠ	2	Academic ReadingⅡ	2											
修得単位		22		23		24		16		18		14		6		6	総取得 単位数 133	
学年合計単位数		45				40				32				12				
履修上限単位数		48				48				48				48				
合計単位数						124												

履修モデル 経済経営学科

分野 経済

対象とする学生

履修の特徴

卒業後の進路

官公庁や一般企業で、経済統計を用いながら経済分析を行うことを目指す学生

経済学に軸足を起きながら、データ・デザイン・プログラム修了を目指し、経営学的視点を持つための履修

官公庁、一般企業

学年		1年次			2年次			3年次			4年次			分野別取得単位				
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位		春学期	単位	秋学期	単位
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7
		ベーシック経済	1															
		ベーシック法律	1															
		ベーシック国際関係	1															
		ベーシック福祉政策	1															
		ベーシック経営	1															
		ベーシック会計	1															
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)																		0
専門科目 (学科専門科目54単位(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目																	0
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	20
						学際演習	2	学問領域別演習	2					卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	
導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4
	時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4
	課題発見演習			課題発見演習	2													2
	情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1													4
		情報社会論	2															
一般教養科目		社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2	社会と大学Ⅲ	2											6
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2													8
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2													
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							14
										インターンシップⅠ	2	インターンシップⅡ	2					
										申告型インターンシップⅠ	2	申告型インターンシップⅡ	2					
プログラム科目	DDP																	0
	CBL																	0
	GCP																	0
修得単位		22		13		8		5		7		6		4		4		総取得 単位数
学年合計単位数			35				13				13				8			
履修上限単位数			48				48				48				48			
合計単位数								124										

履修モデル 経済経営学科

分野 経営

対象とする学生

履修の特徴

卒業後の進路

経営に関わる知識をつけたい学生、将来的に起業を考えている学生、家業を継承する予定がある学生など

経営、マーケティングを中心に、会計、金融、法規など企業経営に関連する周辺分野の基礎的な素養を養う。

民間企業（営業、経営企画、マーケティング職など）、コンサルティング業、起業、家業の継承など

学年		1年次				2年次				3年次				4年次				分野別取得単位
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7
		ベーシック経済	1															
		ベーシック法律	1															
		ベーシック国際関係	1															
		ベーシック福祉政策	1															
		ベーシック経営	1															
		ベーシック会計	1															
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)																		0
専門科目 (学科専門科目54単位(所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位))	専門講義科目																	0
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	20
						学際演習	2	学問領域別演習	2					卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	
導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4
	時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4
	課題発見演習			課題発見演習	2													2
	情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1													4
		情報社会論	2															
一般教養科目		社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2	社会と大学Ⅲ	2											6
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2													8
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2													
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							14
										インターンシップⅠ	2	インターンシップⅡ	2					
										申告型インターンシップⅠ	2	申告型インターンシップⅡ	2					
プログラム科目	DDP																	0
	CBL																	0
	GCP																	0
修得単位		22		13		8		5		7		6		4		4		総取得 単位数
学年合計単位数			35				13				13			8				
履修上限単位数			48				48				48			48				
合計単位数								124									69	

履修モデル 経済経営学科

対象とする学生

会計専門職や企業の経理担当業務、あるいは会計の知識を有する企画・営業等の分野で活躍するビジネスマンを目指す学生

分野 会計

履修の特徴

会計分野の科目を中心に、経済・経営・法律などの科目を履修

卒業後の進路

会計専門職、民間企業（経理担当、企画担当、営業担当）

学年		1年次				2年次				3年次				4年次				分野別取得単位
科目		春学期	単位数	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	春学期	単位	秋学期	単位	
ベーシック科目 (4単位以上)		ベーシック政治	1															7
		ベーシック経済	1															
		ベーシック法律	1															
		ベーシック国際関係	1															
		ベーシック福祉政策	1															
		ベーシック経営	1															
		ベーシック会計	1															
学部共通科目 (所属学科から10単位以上)				基礎簿記Ⅰ	2			基礎簿記Ⅱ	2									12
				経営学総論	2			民法Ⅰ（入門・財産法①）	2									
				マーケティング総論	2													
				日本経済論	2													
専門科目 (学科専門科目54単位〔所属学科専門科目24単位以上、これを超えて履修した所属学科・他学科専門科目、専門演習科目から30単位〕)	専門講義科目					財務会計論	2	国際会計論	2	税務会計論	2	企業取引法	2					52
						監査論	2	管理会計論	2	会計データ分析論	2	ベンチャー企業論	2					
						商業簿記Ⅰ	2	商業簿記Ⅱ	2	国際経営論	2	民法Ⅲ（家族法）	2					
						経営戦略論	2	会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2	国際政治経済学	2					
						経営組織論	2	ミクロ経済学	2	組織行動論	2	イノベーション論	2					
						金融財政論	2	マクロ経済学	2	民法Ⅱ	2	経済統計	2					
						流通論	2			国際経済学	2							
	専門演習科目 (学際演習、学問領域別演習のいずれかを2単位必修)					演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ	2	演習Ⅴ	2	演習Ⅵ	2	20
						学際演習	2	学問領域別演習	2					卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	
導入教育科目	プレゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2													4
	時事問題研究	時事問題研究A	2	時事問題研究B	2													4
	課題発見演習			課題発見演習	2													2
	情報リテラシー、情報社会論	情報リテラシーA	1	情報リテラシーB	1			IOTビジネス論	2									4
一般教養科目		社会と大学Ⅰ	2	社会と大学Ⅱ	2	社会と大学Ⅲ	2											6
外国語科目 (必修8単位)		英語Ⅰ	2	英語Ⅲ	2													8
		英語Ⅱ	2	英語Ⅳ	2													
キャリア関連科目		ライフ・プランニング	2			キャリア開発基礎	2	キャリア開発演習Ⅰ	1	キャリア開発演習Ⅱ	1							14
												インターンシップⅡ	2	インターンシップⅡ	2			
										申告型インターンシップⅠ	2	申告型インターンシップⅡ	2					
プログラム科目	DDP																	0
	CBL																	0
	GCP																	0
修得単位		22		21		22		23		21		18		4		4		総取得 単位数 133
学年会計単位数			43				45				39				8			
履修上限単位数			48				48				48				48			
合計単位数									124									

【資料4-1】

編転入生向け時間割モデル：政治コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						キャリア開発演習I
						必修
2限	ローカルガバメント論A			現代行政学A	国際政治学A	
	政治・コア			政治・コア	政治・応用	
3限	現代日本政治A（政治）	学際演習Ⅰ		アメリカ政治論	政治心理学	
	政治・コア	必修		政治・応用	政治・コア	
4限		日本政治史A				
		政治・コア				
5限		演習Ⅲ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自コア6コマ
自応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門0コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限				外交政策論A		
				政治・応用		
2限		立法過程論		中国の政治・経済	社会保障史	
		政治・コア		外語科目	政治・応用	
3限	憲法Ⅱ	国際法Ⅰ			近代中国と日本Ⅰ	
	政治・応用	専門講義			外語科目	
4限	国際政治史					
	政治・応用					
5限		演習Ⅴ	卒業研究Ⅰ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計10コマ
うち
自コア1コマ
自応用4コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門1コマ
外語科目2コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						キャリア開発演習Ⅱ
						必修
2限	ローカルガバメント論B			現代行政学B	国際政治学B	
	政治・コア			政治・コア	政治・応用	
3限	憲法Ⅰ			現代日本政治B（行政）	政治コミュニケーション論	
	政治・応用			政治・コア	政治・コア	
4限		日本政治史B		中国の歴史		
		政治・コア		外語科目		
5限		演習Ⅳ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自コア5コマ
自応用2コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
専門0コマ
外語科目1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						
2限	中東・アフリカの政治・経済	政策過程論		国際機構論	社会保障論	
	専門講義	政治・コア		専門講義	専門講義	
3限	比較政治学	国際法Ⅱ		ヨーロッパ政治論	近代中国と日本Ⅱ	
	政治・応用	専門講義		政治・応用	外語科目	
4限						
5限		演習Ⅵ	卒業研究Ⅱ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計10コマ
うち
自コア1コマ
自応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門4コマ
外語科目1

編転入生向け時間割モデル：経営・会計コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	マーケティング総論			ベーシック経営	旅行産業論	キャリア開発演習I
	経営・コア 会計・応用			ベーシック	外国語学部	必修
2限	企業法総論	財務会計論		基礎簿記Ⅰ	観光まちづくり論	
	会計・応用	会計・コア		会計・コア	外国語学部	
3限	アカデミックライティング	学際演習Ⅰ	経営管理論			
	外国語学部	必修	経営・コア 会計・応用			
4限	時事問題研究A					
	導入教育					
5限		演習Ⅲ				
		ゼミ・卒研				

合計12コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用3コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
外国語学部2コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	管理会計論					
	会計・コア					
2限	会社法Ⅱ				旅行産業論	
	経営・応用 会計・コア				外国語学部	
3限	International Relations	税務会計論	商業簿記	国際協力と観光	航空産業論	
	GCP	会計・コア	会計・コア	外国語学部	外国語学部	
4限						
5限		演習Ⅴ	卒業研究Ⅰ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計10コマ
うち
自・コア3コマ
自・応用0コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門0コマ
外国語学部2コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	会社法Ⅰ（ガバナンス）		経営情報論			キャリア開発演習Ⅱ
	経営・応用 会計・コア		経営コア			必修
2限	企業取引法	経営学総論	イノベーション論	基礎簿記Ⅱ		社会と大学Ⅱ
	経営・応用 会計・応用	経営・コア 会計・応用	経営コア	会計・コア		一般教養
3限	時事問題研究B			国際経営論	温泉療養学	
	導入教育			経営応用	外国語学部	
4限						
5限		演習Ⅳ				
		ゼミ・卒研				

合計12コマ
うち
自・コア2コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
専門3コマ
外国語学部1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	国際会計基準	現代企業論	観光マーケティング論			
	会計・コア	専門科目	外国語学部			
2限		財務諸表論				
		経営・コア 会計・応用				
3限	Critical Thinking			原価計算	アジア経済論	
	GCP			経営・応用 会計・コア	専門科目	
4限	地域圏研究Ⅰ （米国）		財務管理論		観光文化コミュニケーション特論	
	外国語学部		経営・応用 会計・コア		外国語学部	
5限		演習Ⅵ	卒業研究Ⅱ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計12コマ
うち
自・コア3コマ
自・応用1コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門3コマ
外国語学部2コマ

編転入生向け時間割モデル：経済コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						キャリア開発演習I
						必修
2限	学際演習I	経済政策論	金融論	行動経済学		
	必修	経済・コア	経済・コア	経済・応用		
3限	国際経済学B（金融）	経済学説史		財政論	アメリカ経済論	
	経済・コア	経済・応用		経済・コア	経済・応用	
4限						
5限		演習III			地域リーダーシップ論	
		ゼミ・卒研			外国語学部	

合計11コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用3コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
専門0コマ
外国語学部聴講1コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	環境経済学	民法I				
	経済・コア	専門講義				
2限	企業法総論	財務会計論	経営管理論		国際政治学A	
	専門講義	専門講義	専門講義		専門講義	
3限	観光メディア論				会計データ分析論	
	外国語学部				専門講義	
4限						
5限		演習V	卒業研究I		経営組織論	
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研		専門講義	

合計11コマ
うち
自・コア1コマ
自・応用0コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門7コマ
外国語学部聴講1コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						キャリア開発演習II
						必修
2限	マクロ経済学		日本経済論	ミクロ経済学	社会保障論	
	経済・コア		経済・コア	経済・コア	専門講義	
3限		ヨーロッパ経済論		経済統計	アジア経済論	
		経済・応用		経済・コア	経済・応用	
4限		観光心理学				
		外国語学部				
5限		演習IV			ベンチャー企業論	
		ゼミ・卒研			専門講義	

合計11コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門2コマ
外国語学部聴講1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	販売戦略					
	専門講義					
2限	ゲーム理論	経営学総論			国際政治学B	
	経済・応用	専門演習			専門演習	
3限	学際演習II	税務会計論		NPO・NGO論	会計データ分析演習	
	専門演習	専門演習		外国語学部	専門演習	
4限					開発経済学	
					経済・コア	
5限		演習VI	卒業研究II			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計11コマ
うち
自・コア1コマ
自・応用1コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門6コマ
外国語学部聴講1コマ

編転入生向け時間割モデル：法律コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限		民法Ⅰ（民法入門・総論）			労働法	キャリア開発演習Ⅱ
		法律・コア			法律・応用	必修
2限	民法Ⅱ（物権・担保物権）					
	法律・コア					
3限	憲法Ⅰ（統治機構）	国際法Ⅰ		国際協力論		
	法律・コア	法律・応用		専門科目		
4限	福祉観光論		刑法Ⅱ（各論）			
	外国語学部		法律・コア			
5限		演習Ⅲ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門1コマ
外国語学部1コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	会社法Ⅱ（ファイナンス）					
	法律・コア					
2限	企業法総論		刑事訴訟法		民事訴訟法	
	法律・応用		法律・応用		法律・応用	
3限	観光メディア論	法と経済				
	外国語学部	法律・応用				
4限						
5限		演習Ⅴ	卒業研究Ⅰ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計8コマ
うち
自・コア1コマ
自・応用4コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門0コマ
外国語学部1コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	会社法Ⅰ（ガバナンス）	民法Ⅳ（家族）				キャリア開発演習Ⅱ
	法律・コア	法律・コア				必修
2限	企業取引法					
	法律・応用					
3限	憲法Ⅱ（人権）	国際法Ⅱ		学際演習Ⅰ		
	法律・コア	法律・応用		必修		
4限		観光心理学	刑法Ⅱ（総論）			
		外国語学部	法律・コア			
5限		演習Ⅳ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
専門0コマ
外国語学部1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限		現代企業論				
		専門科目				
2限	マクロ経済学	医事法	日本経済論			
	専門科目	法律・応用	専門科目			
3限	民法Ⅲ（債権総論・各論）				交流文化論	
	法律・コア				外国語学部	
4限						
5限		演習Ⅵ	卒業研究Ⅱ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計8コマ
うち
自・コア1コマ
自・応用1コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門3コマ
外国語学部1コマ

編転入生向け時間割モデル：国際関係コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限				外交政策論A		キャリア開発演習II
				国関・コア		必修
2限		学際演習アジアビジネス		異文化交流	国際政治学A	
		必修		外語	国関・コア	
3限		国際法Ⅰ		アメリカ政治論	アジア政治論	
		国関・コア		国関・応用	国関・応用	
4限	国際政治史					
	国関・コア					
5限		演習Ⅲ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
他コース0コマ
外国語学部1コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						地域圏研究Ⅲアジア
						外語
2限				中東アフリカの政治経済		
				国関・応用		
3限	比較政治学	国際法Ⅱ		国際協力論	アメリカ経済論	
	国関・コア	国関・コア		国関・コア	国関・応用	
4限						
5限		演習Ⅴ	卒業研究Ⅰ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計8コマ
うち
自・コア3コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門0コマ
外国語学部1コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限		国際政治経済学				キャリア開発演習II
		国関・コア				必修
2限	マクロ経済学			国際機構論	国際政治学B	
	国関・コア			国関・コア	国関・コア	
3限	外交政策論B	国際経済学A		異文化コミュニケーション	アジア経済論	
	国関・コア	国関・応用		外語	国関・応用	
4限						
5限		演習Ⅳ				
		ゼミ・卒研				

合計10コマ
うち
自・コア5コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
他コース0コマ
外国語学部1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						
2限	現代行政学B	国際会計論				
	他コース	他コース				
3限		ヨーロッパ経済論		ヨーロッパ政治論	政治コミュニケーション論	
		国関・応用		国関・応用	国関・応用	
4限				西洋的思考と哲学		
				外語		
5限		演習Ⅵ	卒業研究Ⅱ			
		ゼミ・卒研	ゼミ・卒研			

合計8コマ
うち
自・コア0コマ
自・応用3コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
他コース2コマ
外国語学部1コマ

編転入生向け時間割モデル：福祉政策コースを選択する場合の一例

3年生春学期（5セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限	環境経済学				社会福祉政策論	キャリア開発演習I
	福祉・コア				福祉・コア	必修
2限	ローカル・ガバメント論A	経済政策論				
	福祉・コア	福祉・応用				
3限		学際演習Ⅰ	障害者福祉論			
		必修	福祉・コア			
4限						
5限			ヒューマンエコロジー	演習Ⅲ	地域リーダーシップ論	
			福祉・応用	ゼミ・卒研	外国語学部	

合計10コマ
うち
自・コア4コマ
自・応用2コマ
必修+ゼミ卒研3コマ
専門0コマ
外国語学部1コマ

4年生春学期（7セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限		医療経済学		環境保全論		
		福祉・コア		福祉・コア		
2限		立法過程論			基礎簿記Ⅱ	
		専門科目			福祉・応用	
3限	観光メディア論			国際協力論		
	外国語学部			専門科目		
4限						
5限			卒業研究Ⅰ	演習Ⅴ		
			ゼミ・卒研	ゼミ・卒研		

合計8コマ
うち
自・コア2コマ
自・応用1コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門2コマ
外国語学部1コマ

3年生秋学期（6セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限		健康社会学				キャリア開発演習Ⅱ
		福祉・コア				必修
2限	マクロ経済学	医事法		老人福祉論	基礎簿記Ⅰ	
	専門科目	福祉・コア		福祉・応用	福祉・応用	
3限	憲法Ⅱ（人権）			現代日本政治B		
	福祉・応用			専門科目		
4限		観光心理学				
		外国語学部				
5限				演習Ⅳ		
				ゼミ・卒研		

合計10コマ
うち
自・コア2コマ
自・応用3コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門2コマ
外国語学部1コマ

4年生秋学期（8セメ）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	オンデマ ンド授業
1限						
2限	ローカル・ガバメント論B	カウンセリング論	日本経済論	ミクロ経済学		
	福祉・コア	福祉・応用	専門科目	専門科目		
3限				NPO・NGO論	政治コミュニケーション論	
				外国語学部	専門科目	
4限						
5限			卒業研究Ⅱ	演習Ⅵ		
			ゼミ・卒研	ゼミ・卒研		

合計8コマ
うち
自・コア1コマ
自・応用1コマ
必修+ゼミ卒研2コマ
専門3コマ
外国語学部1コマ

杏林大学総合政策学部編入学・転入学に関する内規

制定	平成 14 年	4 月	1 日
改正	平成 18 年	4 月	1 日
	平成 22 年	1 月	1 日
	平成 29 年	4 月 18 日	
	令和 4 年	2 月 14 日	
	令和 7 年	2 月 10 日	

(単位認定)

第 1 条 杏林大学総合政策学部第 3 学年次に編入又は転入を許可された者（以下「編転入学生」という。）が、在籍していた大学、短期大学、高等専門学校又は専修学校専門課程（専門学校）において修得した単位は、その 62 単位（短期大学卒業に必要と定められている単位数）までを、本学部において取得したものとみなす。

(履修単位数)

第 2 条 編転入学生の本学における卒業に必要な単位数を 124 単位とする。

2 編転入学生は、前項に定める 124 単位のうち、62 単位（所属コースのコア科目 12 単位以上、応用科目 8 単位以上を含んだ所属コース専門科目 24 単位、杏林大学総合政策学部履修規定 第 2 条第 3 項第 3 号が定める専門講義・演習科目 32 単位、学際演習 2 単位、キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ）を取得しなければならない。

(その他の科目の履修に関する特別措置)

第 3 条 編転入学生は、前条第 2 項かっこ書きに規定する科目以外の科目の履修を希望する場合、履修申告時に教務委員会に申請しなければならない。

附 則

本内規は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本内規は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 本内規は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

1 平成 23 年 10 月 1 日以前に編入学した者については、従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 本内規は、平成 29 年 4 月 19 日から施行する。

(経過措置)

- 1 平成29年 9月15日以前に編入学した者については、従前の例による。

附 則

- 1 本内規は令和 6年 4月 1日以降に入学する編入学生に対して適用する。
- 2 令和 5年 9月15日以前に編入学した者については、本内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本内規は、令和 7年 4月 1日以降に入学する編転入学生に対して適用する。
- 2 令和 6年 9月15日以前に編転入学した者については、本内規の規定にかかわらず、従前の例による。

総合政策学部インターンシップⅠ派遣先一覧

企業名	所在地	受入可能人数
株式会社三徳	東京都新宿区大久保2-1-14	10
キーウェアソリューションズ株式会社	東京都世田谷区上北沢5-37-18	2
サミット株式会社	東京都杉並区永福3-57-14	20
センコー株式会社	東京都江東区潮見2-8-10	5
リゾートトラスト株式会社	東京都渋谷区代々木4-36-19リゾートトラスト東京ビル	2
羽村市	東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1	15
株式会社DUE	東京都中央区日本橋大伝馬町12-19T I Dビル5階C	1
株式会社KRL	東京都三鷹市新川6-9-28 SSビル2階	1
株式会社エービーシー商会	東京都千代田区永田町2-12-14	1
株式会社エコス	東京都昭島市中神町1160-1	3
株式会社コナカ	神奈川県横浜市戸塚区品濃町517-2	3
株式会社サイサン	埼玉県大宮市桜木町1-11-5	2
株式会社ジャパンセキュリティプロモーション	東京都板橋区坂下2-6-12	3
株式会社スズキ自販東京	東京都杉並区和泉1-32-18	4
株式会社ソフテム	神奈川県川崎市川崎区駅前本町11-2	1
株式会社ソルパック	東京都港区六本木4-1-4黒崎ビル8階	3
株式会社トップランク	東京都中央区新川1-3-3-2F	4
株式会社ベオスアイティーホールディングス	東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー23階	10
株式会社メディセオ	東京都中央区京橋3-1-1	1
株式会社紀伊國屋書店	東京都目黒区下目黒3-7-10	1
株式会社白川プロ	東京都渋谷区宇田川町10-2 いちご宇田川町ビル5階	1
株式会社武蔵境自動車教習所	東京都武蔵野市境2-6-43	5
吉祥寺エクセルホテル東急	東京都武蔵野市吉祥寺本町2-4-14	2
三鷹市	東京都三鷹市野崎1-1-1	1
叙々苑	東京都港区六本木6-1-24	2
水戸証券株式会社	東京都文京区小石川1-1-1 文京ガーデンゲートタワー7階	1
西武信用金庫	東京都中野区中野2-29-10	1
東鉄工業株式会社	東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル4階	1
東都自動車グループ ホテルマロウドチェーン	東京都豊島区西池袋5-13-13	3
日本ハウズイング株式会社	東京都新宿区新宿1-31-12	2
府中市	東京都府中市宮西町2-24	1
武蔵野市	東京都武蔵野市緑町2-2-28	1
銘林	東京都江東区新木場1-16-8	2

2024年度秋学期 総合政策学部海外研修予定一覧

	プログラム名	国	内容	参加時間数	旅行会社(予定)	研修期間(予定)	募集人数 (最小催行人数)	引率教員の有無
								引率教員名
1	オックスフォード研修	イギリス	英語研修	56.5時間	UTS国際教育センター	2025年3月9日(日)～3月24日(月) 2週間(予定)	7名	無
2	ホノルルフェスティバルプログラム	アメリカ	ボランティア	45時間	JTB神奈川西支店	2025年3月4日(火)～3月12日(水) 7泊9日間(暫定)	10名	無
3	アメリカグローバルキャリアプログラム	アメリカ	就業体験	18泊19日間:80～104時間 24泊25日間:110～144時間	ライトハウス (現地手配のみ)	2025年2月26日(水)～3月16日(日)または3月22日(土) 18泊19日間または24泊25日間(予定)	1名	無
4	サムライプロジェクト	タイ	起業体験	88時間	(株)スパイスアップ・アカデミア (現地手配のみ)	2025年2月23日(日)～3月9日(日) 2週間(予定)	1名	無

2025(令和7)年度春学期(夏期)総合政策学部海外研修一覧

	プログラム名	対象学部	参加時間数 (昨年・一昨年データ)	旅行会社(予定)	研修期間(未定) ※一部は昨年実績	募集人数 (最小催行人数)	引率教員の 有無	備考
1	チェンマイラチャパット大学 グローバルスタディコース	総合・外国語	24時間(推定)	UTS国際教育センター	2024年8月25日～8月31日 (1週間)	10名	有	継続
2	クツタウン大学夏期研修	総合	69時間	株式会社エイチ・アイ・エス	2024年9月1日～9月14日 (2週間)	未定 応募者数に 応じて検討	有	継続
3	北京語言大学夏期研修	総合・外国語	80時間	未定	2024年8月5日～8月30日 (4週間)	1名	無	継続
4	ベトナムインターンシップ	総合・外国語	139時間	ライトハウス	2024年8月3日～9月7日 (1カ月)	1名	無	継続
5	CCEL クライストチャーチ英語研修	総合・外国語	※新規:60時間	UTS国際教育センター	新規:2025年8月16日～9月7日 (3週間)	数名 ※他の大学と共同で 募集予定、 全体で6名以上で 催行	無	新規

2025年度 杏林大学 学生募集要項

総合型選抜（AO入試）

学校推薦型選抜

一般選抜

大学入学共通テスト利用選抜

編入学・転入学選抜

外国語学部
総合政策学部
保健学部
医学部

建学の精神

杏林大学の建学の精神は「真善美の探究」です。

「真善美の探究」を通じて、すぐれた人格を持ち、人のために尽くすことのできる人材を育成することが本学の教育理念です。



「真」

真理を究めるための学問をすることです。

真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味します。

「善」

倫理観を持ったよき人間性・人格を形成することです。

他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことです。

「美」

自然を愛し、他人を尊重し、自らの身を持するのに厳しくあれば、美しい風格ある人間に成長していくということです。

個人情報の取り扱い

出願および入学手続にあたってお知らせいただいた個人情報（氏名・住所等）は、①入学試験の実施（出願処理・試験実施）、②審査結果・合格発表、③入学手続と、これらに付随する事項を行うことを目的に利用します。上記業務の一部は、杏林大学入学センターより当該業務の委託を受けた業者において行いますが、個人情報に関しては安全管理を徹底し、目的の範囲内で使用します。

杏林大学プライバシーポリシー <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/privacy.html>

受験または修学上の配慮に関する事前相談

基本的人権を尊重し、障がいの有無や程度によって分け隔てることなく、能力と修学意志を持つ学生を受け入れることを基本方針とします。

障がいや疾病等により、入学試験を受ける際、または入学後の学生生活において特別の配慮を必要とする方は、本学の教育方法や支援体制および施設設備などで対応することが可能か事前に協議するため、原則出願前（試験の1カ月前迄）に申請が必要です（入学試験の可否に影響を及ぼすことはありません）。

なお、出願後に大きな病気や怪我をし、受験上の配慮が必要となった場合も、速やかに入学センターまでご連絡ください。

相談先 入学センター TEL. 0422-47-0077（直通）

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/support/>



目 次

I

1	アドミッション・ポリシー	2
2	募集人員	4
3	出願資格	6
4	出願書類	13
5	入学試験日程・選考方法等	16
外国語学部		
	総合型選抜（AO入試）	16
	学校推薦型選抜	18
	一般選抜	19
	大学入学共通テスト利用選抜	21
	編入学・転入学選抜	22
総合政策学部		
	総合型選抜（AO入試）	23
	学校推薦型選抜	25
	編入学・転入学選抜	25
	一般選抜	26
	大学入学共通テスト利用選抜	28
保健学部		
	総合型選抜（AO入試）	29
	学校推薦型選抜	31
	一般選抜	32
	大学入学共通テスト利用選抜	34
医学部		
	一般選抜	35
	大学入学共通テスト利用選抜	36

II

1	検定料	2
2	インターネット出願の手順	3
	インターネット出願の流れ	3
	事前準備	4
	出願方法	5
3	入学試験の注意事項	10
4	合格発表	11
	1. 合格発表の確認方法	11
	2. 補欠者への繰上合格の通知	12
	3. 入学試験の成績開示	12
5	入学手続	13
	1. 手続きの方法	13
	2. 学納金・諸費	14
	3. 入学辞退手続	16
	4. 奨学金・奨励金	17
	5. 海外研修・留学支援	19
6	試験会場	20
	1. キャンパス会場	20
	[井の頭キャンパス／三鷹キャンパス]	
	2. サテライト会場	21
	[パシフィコ横浜ノース／	
	東京たま未来メッセ]	
	本学までの案内図	22
	お問い合わせ一覧	23

I

1	アドミッション・ポリシー	2
2	募集人員	4
3	出願資格	6
4	出願書類	13
5	入学試験日程・選考方法等	16

1 アドミッション・ポリシー

杏林大学のアドミッション・ポリシー

本学の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人
- (1-2) 他者の考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-3) 柔軟な思考力と知的探究心を持ち、判断力や表現力を駆使して自発的に問題解決につなげる意欲を持つ人
- (1-4) 広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持ち、グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

- (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。(知識・理解・表現力)
- (2-2) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力)
- (2-3) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力)
- (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に貢献する意欲や経験がある。(関心・意欲・経験)
- (2-5) 他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とのコミュニケーションを図ろうとする態度を有している。(協調性・コミュニケーション能力)

各学部のアドミッション・ポリシー（抜粋）

各学部のアドミッション・ポリシーから「求める学生像、資質」を抜粋しています。

各学部のアドミッション・ポリシーの全文、各学科のアドミッション・ポリシーについては本学ホームページ
(<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/>) でご確認ください。



外国語学部

外国語学部と各学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 実践的な外国語運用能力を身につけ、グローバル化する実社会で活躍する仕事に就く意欲がある人
- (1-2) 外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-3) 外国語学部の各学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人
- (1-4) 外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人
- (1-5) グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人

総合政策学部

総合政策学部は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人
- (1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人
- (1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人
- (1-5) 政治・経済・法律・国際関係・福祉・経営および会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

保健学部

保健学部は、学部の理念・目的を理解し、その達成に向けて真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
- (1-2) 科学的視点を持ち合わせ、様々な現象について関心、興味を持てる人
- (1-3) 高い倫理観と職業意識を持ち、さらにあらゆる世代の人々と積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を持つ人
- (1-4) 疑問点などをそのまま放置せず、解決に向けた努力を怠らない人

医学部

医学部医学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲ある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 生涯を通じて医師として他人のため、社会のために奉仕する強い意欲をもつ人
- (1-2) 生命の尊厳を尊ぶ心をもつとともに、高い倫理観と豊かな人間性を備えた人
- (1-3) 柔軟な思考力と知的探究心を持ち、生涯を通じて医学の修得・研鑽に熱意をもって取り組める人
- (1-4) 協調性と高いコミュニケーション能力を持ち、周囲の人と良好な関係を築ける人

2

募集人員

■

外国語学部

	総合型選抜 (AO入試)		学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学共通テスト 利用選抜		外国人 留学生選抜	計	総合計
	前期日程	後期日程		前期日程	後期日程	前期日程	後期日程			
英 語 学 科	25 名	5 名	55 名	26 名	7 名	8 名	3 名	1 名	130 名	252 名
中 国 語 学 科	8 名	2 名	10 名	6 名	2 名	2 名	1 名	1 名	32 名	
観光交流文化学科	17 名	3 名	38 名	22 名	2 名	5 名	2 名	1 名	90 名	

■

総合政策学部

	総合型選抜 (AO入試)			学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学共通テスト 利用選抜		外国人 留学生選抜	計	総合計
	A日程	B日程	C日程		前期日程	後期日程	前期日程	後期日程			
総 合 政 策 学 科	28 名	4 名	5 名	40 名	② 24 名	6 名	② 9 名	6 名	2 名	150 名	230 名
					③ 20 名		③ 6 名				
企 業 経 営 学 科	17 名	2 名	3 名	20 名	② 13 名	3 名	② 5 名	3 名	1 名	80 名	
					③ 10 名		③ 3 名				

②（2科目型） ③（3科目型）

編入学・転入学【3年次】

		編入学選抜	外国人留学生 編入学選抜
外国語学部	英語学科	3 名	1 名
	中国語学科	1 名	1 名
	観光交流文化学科	1 名	1 名
総合政策学部	総合政策学科	3 名	1 名
	企業経営学科	1 名	1 名

※転入学募集人員：若干名

2

募集人員

■ 保健学部

		総合型選抜 (AO入試)		学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学 共通テスト 利用選抜	外国人 留学生選抜	計	総合計
		健康スポーツ コース	適性検査型		A日程	B日程				
臨床検査技術学科		—	26 名	30 名	45 名	15 名	3 名	1 名	120 名	786 名
健康福祉学科		50 名	24 名	24 名	14 名	4 名	3 名	1 名	120 名	
看護学科	看護学専攻	—	10 名	34 名	40 名	12 名	3 名	1 名	100 名	
	看護養護教育学専攻	—	10 名	15 名	14 名	7 名	3 名	1 名	50 名	
臨床工学科		—	18 名	20 名	12 名	6 名	3 名	1 名	60 名	
救急救命学科		—	18 名	15 名	10 名	4 名	2 名	1 名	50 名	
リハビリテーション学科	理学療法専攻	—	18 名	15 名	20 名	8 名	3 名	1 名	65 名	
	作業療法専攻	—	15 名	16 名	10 名	5 名	3 名	1 名	50 名	
	言語聴覚療法専攻	—	7 名	6 名	7 名	2 名	2 名	1 名	25 名	
診療放射線技術学科		—	16 名	12 名	24 名	10 名	3 名	1 名	66 名	
臨床心理学科		—	20 名	20 名	24 名	12 名	3 名	1 名	80 名	

2 募集人員

■ 医学部

	一般選抜	大学入学 共通テスト 利用選抜	外国人 留学生選抜	計
医学科	89 名	15 名	1 名	105 名

3 出願資格

外国語学部

総合型選抜（AO入試）

前期日程	次のすべての要件を満たす者。 1. 本学を専願する者（合格した場合に、外国語学部への入学を確約できる者）。 2. 一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜と同一。
後期日程	一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜と同一。

学校推薦型選抜

公募制（一般型）	次のすべての要件を満たす者。 1. 出身学校長の推薦する者。 2. 以下(1)、(2)のいずれかに該当する者。 (1) 日本の教育制度に基づく高等学校もしくは中等教育学校を2024年3月に卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 [経験・修得していることが望ましいこと] ▼英語学科 ①高等学校もしくは中等教育学校での海外研修・留学。 ▼中国語学科 ①高等学校もしくは中等教育学校での海外研修・留学。 ②高等学校もしくは中等教育学校で「中国語」の科目を履修・修得。 ▼観光交流文化学科 ①高等学校もしくは中等教育学校での海外研修・留学。 ②高等学校もしくは中等教育学校在学中、学校内活動（生徒会など）、スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動において、同一の活動または競技を1年以上行う。あるいは表彰を受けた。
公募制（資格取得型）	次のすべての要件を満たす者。 1. 出身学校長の推薦する者。 2. 本学を専願する者（合格した場合に、外国語学部への入学を確約できる者）。 3. 公募制（一般型）出願資格2.と同様。 4. 以下のうち一つ以上の資格を取得している者。 ▼3学科共通 ①（公財）日本英語検定協会による実用英語技能検定2級以上（S-CBTも可） ② TOEFL® iBT 43点以上（正式スコア） ③ TOEIC® Listening & Reading Test 425点以上 ④ TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests 85点以上 ⑤ TOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests 85点以上 ⑥ TOEIC Bridge® 170点以上 ⑦ GTEC 930点以上 ⑧ TEAP 240点以上またはTEAP CBT 420点以上 ⑨ IELTS 4.0以上（アカデミック・モジュール） ▼中国語学科 ⑩（一財）日本中国語検定協会による中国語検定4級以上 ⑪ 中国国家HSK委員会によるHSK（漢語水平考試）3級以上 ▼観光交流文化学科 ⑫ NPO法人世界遺産アカデミーによる世界遺産検定3級以上（CBTも可） ⑬（一社）全国旅行業協会による国内旅行業務取扱管理者 ⑭（一社）日本旅行業協会による総合旅行業務取扱管理者 ⑮ 旅行地理検定協会による国内（日本）もしくは世界（海外）旅行地理検定中級（3級）以上 ※資格取得時期は問わないが、各民間試験運営機関が定める有効期限がある場合は、出願期間内にそのスコアが有効であること。

3

出願資格

外国語学部

編入学・転入学選抜

編入学	以下1、2のいずれかに該当する者。 1. 短期大学または高等専門学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 2. 日本の専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時数1700時間以上）を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。
転入学	以下1、2のいずれかに該当する者。 1. 大学を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 2. 日本の大学において、2年の課程を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者で、62単位以上修得している者あるいは2025年3月までに修得見込みの者。

※外国において学校教育における14年以上の課程を修了した者は、出願書類提出前に本学入学センター（0422-47-0077）まで連絡を要する。

一般選抜／大学入学共通テスト利用選抜

以下のいずれかの要件を満たしていること。 (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者あるいは2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者。 (ア) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。 (イ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。 (ウ) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。 (エ) 文部科学大臣の指定した者。 (オ) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定を含む）に合格した者あるいは2025年3月31日までに合格見込みの者で、2025年3月31日までに18歳に達する者。 (カ) 本学において個別の入学資格審査（下記参照）により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2025年3月31日までに18歳に達する者。 ※大学入学共通テスト利用選抜においては、上記(1)～(3)のいずれかの条件を満たし、かつ令和7年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科・科目を受験する者。

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>

※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

総合政策学部

総合型選抜（AO入試）

A日程／B日程	一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜と同一。
C日程	次のすべての要件を満たす者。 1. 本学を専願する者（合格した場合に、総合政策学部への入学を確約できる者）。 2. 一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜と同一。

学校推薦型選抜

公募制	次のすべての要件を満たす者。 1. 出身学校長の推薦する者。 2. 以下(1)、(2)のいずれかに該当する者。 (1) 日本の教育制度に基づく高等学校もしくは中等教育学校を2024年3月に卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 3. 以下(1)、(2)のいずれかに該当する者。 (1) 全体の学習成績の状況（評定平均値）が3.2以上（最終学年1学期まで、または前期までの学習成績の状況（評定平均値））。 (2) 地理歴史の学習成績の状況（評定平均値）が4.0以上（※歴史総合および地理総合のみ履修でも可）。

編入学・転入学選抜

編入学	以下1、2のいずれかに該当する者。 1. 短期大学または高等専門学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 2. 日本の専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時数1700時間以上）を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。
転入学	以下1、2のいずれかに該当する者。 1. 大学を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 2. 日本の大学において、2年の課程を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者で、62単位以上修得している者あるいは2025年3月までに修得見込みの者。

※外国において学校教育における14年以上の課程を修了した者は、出願書類提出前に本学入学センター（0422-47-0077）まで連絡を要する。

一般選抜／大学入学共通テスト利用選抜

以下のいずれかの要件を満たしていること。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者あるいは2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者。
 - (ア) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (イ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (ウ) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (エ) 文部科学大臣の指定した者。
 - (オ) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定を含む）に合格した者あるいは2025年3月31日までに合格見込みの者で、2025年3月31日までに18歳に達する者。
 - (カ) 本学において個別の入学資格審査（下記参照）により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2025年3月31日までに18歳に達する者。
- ※大学入学共通テスト利用選抜においては、上記(1)～(3)のいずれかの条件を満たし、かつ令和7年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科・科目を受験する者。

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>

※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

保健学部

総合型選抜（AO入試）

健康スポーツコース	次のすべての要件を満たす者。 1. 高等学校時代に優れた競技成績を持ち、八王子キャンパスで実施する本学強化指定クラブ（硬式野球部、男子バスケットボール部）の「練習会」※に参加した者、もしくは本学の指導教員、監督、またはそれに準ずる者が推薦する者。 2. 本学入学後、健康や福祉について主体的に学習したうえで、強化指定クラブでのスポーツ活動を通じて実践しようとする者。 3. 本学を専願する者（合格した場合に、保健学部への入学を確約できる者）。 4. 以下のいずれかの要件を満たす者。 (1) 日本の教育制度に基づく高等学校もしくは中等教育学校を2024年3月に卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育（特別支援学校の高等部または高等専門学校第3年次）を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を、2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 ※練習会は8月9日、23日に行います。 参加方法は本学ホームページ受験生サイトのお知らせをご確認ください。
適性検査型	次のすべての要件を満たす者。 1. 本学を専願する者（合格した場合に、保健学部への入学を確約できる者）。 2. 以下のいずれかの要件を満たす者。 (1) 日本の教育制度に基づく高等学校もしくは中等教育学校を2024年3月に卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による12年の学校教育（特別支援学校の高等部または高等専門学校第3年次）を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を、2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。

学校推薦型選抜

公募制	次のすべての要件を満たす者。 1. 出身学校長の推薦する者。 2. 本学を専願する者（合格した場合に、保健学部への入学を確約できる者）。 3. 以下のいずれかに該当する者。 (1)高等学校もしくは中等教育学校を2024年3月に卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。 (2)通常の課程による12年の学校教育（特別支援学校の高等部または高等専門学校第3年次）を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月修了見込みの者。 (3)文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月修了見込みの者。 (4)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2024年3月に修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。

一般選抜／大学入学共通テスト利用選抜

以下のいずれかの要件を満たしていること。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者あるいは2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者。
 - (ア) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (イ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (ロ) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (ハ) 文部科学大臣の指定した者。
 - (ニ) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定を含む）に合格した者あるいは2025年3月31日までに合格見込みの者で、2025年3月31日までに18歳に達する者。
 - (ホ) 本学において個別の入学資格審査（下記参照）により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2025年3月31日までに18歳に達する者。
- ※大学入学共通テスト利用選抜においては、上記(1)～(3)のいずれかの条件を満たし、かつ令和7年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科・科目を受験する者。

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>

※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

医学部

一般選抜／大学入学共通テスト利用選抜

以下のいずれかの要件を満たしていること。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者あるいは2025年3月卒業見込みの者。
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者あるいは2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者。
 - (ア) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (イ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (ロ) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者あるいは2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (ハ) 文部科学大臣の指定した者。
 - (4) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定を含む）に合格した者あるいは2025年3月31日までに合格見込みの者で、2025年3月31日までに18歳に達する者。
 - (5) 本学において個別の入学資格審査（下記参照）により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2025年3月31日までに18歳に達する者。
- ※大学入学共通テスト利用選抜においては、上記(1)～(3)のいずれかの条件を満たし、かつ令和7年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科・科目を受験する者。

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>

※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

4 出願書類

※出願時に写真データが必要です。詳細はP.Ⅱ-4をご確認ください。

※出願書類の郵送先は願書センターです。杏林大学（井の頭、三鷹、八王子キャンパス）ではありません。

学 部	入 試 区 分		① 調 査 書	② 大 学 入 学 共 通 テ ス ト 成 績 請 求 票	③ 推 薦 書	④ 志 望 理 由 書	⑤ 卒 業 （ 見 込 ） 証 明 書 ／ 成 績 証 明 書	⑥ 小 論 文	⑦ 資 格 証 明 書
外国語学部	総合型選抜 (AO入試)	小論文型	○	-	-	○	-	○	△
		課題型	○	-	-	○	-	-	△
	学校推薦型選抜	公募制（一般型）	○	-	○	-	-	-	-
		公募制（資格取得型）	○	-	○	-	-	○	○
	一 般 選 抜		○	-	-	-	-	-	-
	大学入学共通テスト利用選抜		○	○	-	-	-	-	-
	編入学・転入学選抜		-	-	-	-	○	○	-
総合政策学部	総合型選抜 (AO入試)	授業受講型	○	-	-	○	-	-	△
		事前課題提出型	○	-	-	○	-	○	△
		課題プレゼンテーション型	○	-	-	○	-	-	△
	学校推薦型選抜		○	-	○	-	-	-	-
	一 般 選 抜		○	-	-	-	-	-	-
	大学入学共通テスト利用選抜		○	○	-	-	-	-	-
	編入学・転入学選抜		-	-	-	-	○	-	-
保健学部	総合型選抜 (AO入試)	健康スポーツコース	○	-	-	○	-	○	-
		適性検査型	○	-	-	○	-	-	△
	学校推薦型選抜		○	-	○	-	-	-	-
	一 般 選 抜		○	-	-	-	-	-	-
	大学入学共通テスト利用選抜		○	○	-	-	-	-	-
医学部	一 般 選 抜		○	-	-	-	-	-	-
	大学入学共通テスト利用選抜		○	○	-	-	-	-	-

○：必須

△：該当者のみ提出

出願書類のダウンロードはこちら



① 調査書

受験資格者	内 容
高等学校 または 中等教育学校の 卒業（見込）者 ----- 通常の課程による 12年の学校教育 修了（見込）者 ----- 文部科学大臣の 指定を受けた 専修学校高等課程の 修了者 ----- 在外教育施設の 課程修了（見込）者	「調査書」：在籍・出身学校長作成のもので、かつ2024年10月1日以降に発行され、厳封されているもの。学習の記録、学習成績の状況（評定平均値）、出欠の記録、並びに指導上参考となる諸事項（部活動・取得資格・課外活動への取り組み状況など）を合否判定の参考に使用。 10月1日より前に出願する場合 最終学年1学期または前期終了時までの学習成績の状況が記載されたもの。 最終学年の成績を反映したものが提出できない場合は、出願時点で発行できる最新のものを提出。 卒業・修了者の場合 卒業・修了後に発行されたものであれば、10月1日より前に発行されたものでも提出可能。 保存期間の経過、廃校等により調査書が発行できない場合 「調査書等発行不可証明書（所定様式）」、「卒業証明書」および「成績証明書」を提出。厳封されていない場合も構わない。 ※成績証明書や単位修得証明書が発行できない場合は、「調査書等発行不可証明書（所定様式）」と「卒業証明書」を提出してください。 ※調査書等発行不可証明書の内容を全て確認できる書類であれば、それをもって調査書等発行不可証明書に代えることが可能です。 ※調査書等発行不可証明書（所定様式）はこちらからダウンロード可能です。 https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/web_youkou/PDF/chousasyohuka.pdf 注 ※追加出願する場合、調査書の再提出が必要。
外国において 学校教育における 12年の課程 修了（見込）者	「卒業（見込）証明書」および「成績証明書」： 提出書類は和文もしくは英文で作成。その他の言語により作成された証明書等は、大使館または国で認可された公証役場等で公証印を受けた翻訳（和文または英文）を添付。 ※日本の高等学校または中等教育学校にも在籍している期間がある場合は「調査書」も提出。
高等学校卒業程度 認定試験の合格（見込）者、 大学入学資格 認定試験の合格者	「合格成績証明書」または「合格見込成績証明書」
本学が行う個別の 入学資格審査で 出願許可を得た者	「入学資格認定書の写し」
文部科学大臣の 指定した者	国際バカロレア等の、外国の入学資格を利用して出願する者は、その資格が確認できるものを提出。

※改姓等により、調査書等に記載されている氏名が現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できる書類を提出。

② 大学入学共通テスト成績請求票

大学入試センターから交付される「令和7年度大学入学共通テスト成績請求票私立大学・公私立短期大学用」を提出。
なお、前年度の成績による出願はできない。
※大学入学共通テスト成績請求票を貼付する台紙等はないので、調査書（厳封）にクリップ留めした上で提出。

③ 推薦書

内 容
所定様式により作成。厳封でなくても構わない。

④ 志望理由書

所定様式により作成。

⑤ 卒業（見込）証明書/成績証明書

在籍・出身学校作成のもので2024年10月1日以降に発行されたもの。厳封の必要はない。 ※卒業（見込）証明書/成績証明書に在籍期間の記載が無い場合、在籍期間が記載された証明書の提出が別途必要。 ※専修学校専門課程（専門学校）修了あるいは修了見込みの者は、修了（見込）証明書に加え、修業年限2年以上、修了必要総授業時数1700時間以上の専門課程であることを証明する書類を提出。

⑥ 小論文

指定されたテーマに基づきタイトルを設定し、所定様式により作成。

⑦ 資格証明書

各機関発行の証明書、賞状、免許、冊子の該当ページ等のコピーを提出。 ※オンラインで検定・資格の結果照会ができる場合は、各機関のウェブサイト上にて、受験者氏名および結果（取得級・スコア等）が表示された画面のプリントアウトでも提出可能。 ※英語の資格および検定試験のスコアは、オフィシャルスコアのみが対象。 ※資格取得時期は問わないが、各民間試験運営機関が定める有効期限がある場合は、出願期間内にそのスコアが有効であること。

5 入学試験日程・選考方法等

外国語学部

〔英語学科、中国語学科、観光交流文化学科〕

総合型選抜（AO入試）前期日程

専願

事前課題・出願書類等の
ダウンロードはこちら



日程	出 願 期 間	9 月 25 日 (水) 9:00 ～ 10 月 4 日 (金) 17:00 出願登録・検定料振込 (出願書類郵送 締切日 必着)												
	試 験 日	10 月 19 日 (土)												
	合 格 発 表 日	11 月 1 日 (金) 15:00 ～												
	入学手続締切日	11 月 15 日 (金) まで 締切日 必着												
選考方法等	出願時に「A. 小論文型」または「B. 課題型」のいずれか 1 つを選択する。													
	A. 小論文型 ●書類審査 (調査書、志望理由書) ●小論文 [出願時に提出] (3 学科共通課題) 以下のテーマについて、800～1000 字の日本語で述べなさい。 高等学校で積極的にまたは、高い関心を持って取り組み組んだ経験について、あなた自身の個性や人柄がわかるように、以下の 3 点を踏まえて述べなさい。なお、文末表現は常体 (だ・である) および敬体 (です・ます) のどちらでも構わない。 ①苦労や困難をどのように乗り越えたか。またはどのような成功 (失敗) をもたらしたのか。 ②周囲の人々との関係の変化もしくは自身の成長について。 ③これからの大学生活にどのように活かすことができるか。 ●面接 提出された小論文の内容に基づいた質疑応答、その他の提出書類に基づいた質疑応答を日本語で行う。面接の際、持参した資料等を使用することはできない。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>9:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。 B. 課題型 ●書類審査 (調査書、志望理由書) ●事前課題 [出願時に提出する必要なし] 英語学科：指定された英文 (英語学科課題) について、面接時にどのような質問をされても答えられるよう、個々の単語の意味や文の意味、文章全体の内容を正確に把握できるように学習する。また、指定された音声ファイルを参考にし、文章を正確に音読できるように練習する。 中国語学科：下記に示したテーマのうち 1 つを選び、面接時に説明できるよう自身の見解をまとめる。 ・現代において中国語を学習することの意義 ・日中の若者たちの相手に対する認識や理解 観光交流文化学科：下記の課題文に対して、自身で調べて考えをまとめたうえで、図解資料を作成する。資料は図 (写真、イラスト等を含む) や表を主に用いて A3 サイズ片面 1 枚にまとめる。レイアウト等は自由 (手書きも可)。参考資料等の出典を明記する。 〈課題文〉自身が夢中になった (なっている) ことや高い関心を抱いていることを活かした、独自の「○○○ツーリズム (観光)」を提案する。(○○○には、自分らしさや独自性を活かした言葉、フレーズを自由に創作し、当てはめて提案する。) その際、日本の観光における現状を踏まえて、提案する理由をその根拠 (データなど) とともに具体的に説明する。 ●面接 英語学科：事前課題の内容に関する音読のほか、課題の英文について以下の内容を含むいくつかの質問を行う。受験生は当日面接時に面接官より課題文を受け取り、これを見ながら質問に答える。持参した課題文を面接時に参照できない。 ①英文を音読する (選考資料として録音する場合がある)。 ②面接官より指示された箇所の単語、熟語、表現の意味を答える。 ③面接官より指示された箇所の文に関して説明する。 中国語学科：事前課題で選択したテーマについて、自身の見解を 3 ～ 5 分で説明する。その際、口頭のみで行う。その説明を踏まえて質疑応答を行う。参考資料等を使用することはできない。 観光交流文化学科：面接は日本語で行う。事前課題の図解資料 (原紙とコピー 2 部、計 3 部) を持参し、これをもとに 3 分程度の説明をする。その後いくつかの質疑応答がある。なお、資料は面接終了時に返却するので持ち帰ること。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>13:00～13:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>13:30～13:50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>13:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	面 接	9:50～	入 室 時 間	13:00～13:30	受験上の諸注意	13:30～13:50	面 接
入 室 時 間	9:00～9:30													
受験上の諸注意	9:30～9:50													
面 接	9:50～													
入 室 時 間	13:00～13:30													
受験上の諸注意	13:30～13:50													
面 接	13:50～													
併 願	学科併願不可、受験型併願不可													
試 験 会 場	井の頭キャンパス													

専願 合格した場合に、本学外国語学部への入学を確約できる者

5

入学試験日程・選考方法等

外国語学部

総合型選抜（AO入試）後期日程			出願書類はこちら						
日 程	出 願 期 間	11月20日(水) 9:00 ～ 12月 6 日(金) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）							
	試 験 日	12月14日(土)							
	合 格 発 表 日	12月19日(木) 15:00 ～							
	入学手続締切日	12月25日(水)まで 締切日 必着							
選考方法等	小論文型								
	●書類審査（調査書、志望理由書）								
	●小論文〔出願時に提出〕 （3学科共通課題） 以下のテーマについて、800～1000字の日本語で述べなさい。 高等学校で積極的にまたは、高い関心を持って取り組んだ経験について、あなた自身の個性や人柄がわかるように、以下の3点を踏まえて述べなさい。なお、文末表現は常体（だ・である）および敬体（です・ます）のどちらでも構わない。 ①苦労や困難をどのように乗り越えたか。またはどのような成功（失敗）をもたらしたのか。 ②周囲の人々との関係の変化もしくは自身の成長について。 ③これからの大学生活にどのように活かすことができるか。								
	●面接 提出された小論文の内容に基づいた質疑応答、その他の提出書類に基づいた質疑応答を日本語で行う。 面接の際、持参した資料等を使用することはできない。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>9:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。				入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	面 接
入 室 時 間	9:00～9:30								
受験上の諸注意	9:30～9:50								
面 接	9:50～								
併 願	学科併願不可								
試 験 会 場	井の頭キャンパス								

学校推薦型選抜

出願書類はこちら



日程	出願期間	11月1日(金) 9:00 ～ 11月12日(火) 17:00 出願登録・検定料振込 (出願書類郵送 締切日 必着)																
	試験日	11月23日(土)																
	合格発表日	12月2日(月) 15:00 ～																
	入学手続締切日	12月20日(金)まで 締切日 必着																
選考方法等	公募制（一般型）		公募制（資格取得型） 専願															
	●面接 ●小論文 （「コミュニケーション」に関するテーマ） 小論文、面接および調査書の内容から学習成果を総合評価する <table><tr><td>入室時間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>小論文</td><td>9:50～10:50 (60分)</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:50～11:15</td></tr><tr><td>面接</td><td>11:15～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。		入室時間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	小論文	9:50～10:50 (60分)	受験上の諸注意	10:50～11:15	面接	11:15～	●面接 ●小論文【出願時に提出】 （800字以内、テーマ：「外国語学部を志望する理由と今後の抱負」） 小論文、面接および調査書の内容から学習成果を総合評価する <table><tr><td>入室時間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>面接</td><td>9:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。	入室時間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	面接
入室時間	9:00～9:30																	
受験上の諸注意	9:30～9:50																	
小論文	9:50～10:50 (60分)																	
受験上の諸注意	10:50～11:15																	
面接	11:15～																	
入室時間	9:00～9:30																	
受験上の諸注意	9:30～9:50																	
面接	9:50～																	
併願	学科併願不可																	
試験会場	井の頭キャンパス																	

専願

 合格した場合に、本学外国語学部への入学を確約できる者

一般選抜 前期日程

日程	出 願 期 間	12月18日(水) 9:00 ～ 1月22日(水) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)																								
	試 験 日	1月31日(金)・2月1日(土) ※出願時に選択(両日受験可能)																								
	合 格 発 表 日	2月7日(金) 15:00 ～																								
	入学手続締切日	2月14日(金)まで 締切日 必着																								
選考方法	出願時にいずれかの科目型を選択する																									
	2科目(英語重視)型		3科目型																							
	《必須科目》 ●英語 《選択科目》 ●国語、世界史、日本史、政治・経済、数学の中から問題 配付後に1科目を選択 [試験時間・配点・形式] 必須科目200点 選択科目100点 合計300点満点 ※英語「100点を200点に換算」 マークシート形式		《必須科目》 ●英語 《選択科目》 ●国語、世界史、日本史、政治・経済、数学の中から問題 配付後に2科目を選択 [試験時間・配点・形式] 必須科目100点 選択科目200点(1科目100点) 合計300点満点 マークシート形式																							
	<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:30～10:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:00～10:20</td></tr><tr><td>必 須 科 目</td><td>10:20～11:20 (60分)</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>11:20～12:20</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>12:20～12:40</td></tr><tr><td>選 択 科 目</td><td>12:40～13:30 (50分)</td></tr></table>		入 室 時 間	9:30～10:00	受験上の諸注意	10:00～10:20	必 須 科 目	10:20～11:20 (60分)	昼 食 時 間	11:20～12:20	受験上の諸注意	12:20～12:40	選 択 科 目	12:40～13:30 (50分)	<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:30～10:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:00～10:20</td></tr><tr><td>必 須 科 目</td><td>10:20～11:20 (60分)</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>11:20～12:20</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>12:20～12:40</td></tr><tr><td>選 択 科 目</td><td>12:40～14:20 (100分)</td></tr></table>	入 室 時 間	9:30～10:00	受験上の諸注意	10:00～10:20	必 須 科 目	10:20～11:20 (60分)	昼 食 時 間	11:20～12:20	受験上の諸注意	12:20～12:40	選 択 科 目
入 室 時 間	9:30～10:00																									
受験上の諸注意	10:00～10:20																									
必 須 科 目	10:20～11:20 (60分)																									
昼 食 時 間	11:20～12:20																									
受験上の諸注意	12:20～12:40																									
選 択 科 目	12:40～13:30 (50分)																									
入 室 時 間	9:30～10:00																									
受験上の諸注意	10:00～10:20																									
必 須 科 目	10:20～11:20 (60分)																									
昼 食 時 間	11:20～12:20																									
受験上の諸注意	12:20～12:40																									
選 択 科 目	12:40～14:20 (100分)																									
併願	[出題範囲] ※両科目型共通																									
	- 英 語:「英語コミュニケーションⅠ」 「英語コミュニケーションⅡ」 「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」 「論理・表現Ⅱ」 「論理・表現Ⅲ」 - 国 語:「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ - 世界史:「世界史探究」 - 日本史:「日本史探究」 - 政治・経済:「政治・経済」 - 数 学:「数学Ⅰ」「数学A」																									
併 願	科目型併願不可、同一学部内において学科併願可能、試験日併願可能、試験日自由選択制																									
試験会場	井の頭キャンパス																									

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

一般選抜 後期日程

日 程	出 願 期 間	2 月 7 日 (金) 9:00 ～ 2 月 25 日 (火) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）	
	試 験 日	3 月 1 日 (土)	
	合 格 発 表 日	3 月 6 日 (木) 15:00 ～	
	入学手続締切日	3 月 13 日 (木) まで 締切日 必着	
選 考 方 法	《必須科目》		
	●英語		
	●国語		
	[試験時間・配点・形式]		
	200点満点（1 科目100点）		
	マークシート形式		
	入 室 時 間	9:30～10:00	
	受験上の諸注意	10:00～10:20	
	必 須 科 目	10:20～12:10（110分）	
	[出題範囲]		
・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」			
・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ			
併 願	同一学部内において学科併願可能		
試 験 会 場	井の頭キャンパス		

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

大学入学共通テスト利用選抜 前期日程

日 程	出 願 期 間	12月18日(水) 9:00 ~ 1月24日(金) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)
	試 験 日	大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日) ※個別学力検査は行わない
	合 格 発 表 日	2月12日(水) 15:00 ~
	入学手続締切日	2月19日(水)まで 締切日 必着
選 考 方 法	出願時にいずれかの科目型を選択する	
	2科目(外国語重視)型 《必須科目》 ▼英語学科／観光交流文化学科 ●「英語」 ▼中国語学科 ●「英語」または「中国語」 《選択科目》 ●以下①～⑧の中から1つ選択 ①「国語」(近代以降の文章のみ) ②「歴史総合, 世界史探究」 ③「歴史総合, 日本史探究」 ④「地理総合, 地理探究」 ⑤「公共, 政治・経済」 ⑥「数学Ⅰ」 ⑦「数学Ⅰ, 数学A」 ⑧「情報Ⅰ」 〔配点〕 必須科目200点、選択科目100点 合計300点満点 ※選択科目において2つ以上受験した場合は、受験科目 中高得点の1つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」	3科目型 《必須科目》 ▼英語学科／観光交流文化学科 ●「英語」 ▼中国語学科 ●「英語」または「中国語」 《選択科目》 ●以下①～⑧の中から2つ選択 ①「国語」(近代以降の文章のみ) ②「歴史総合, 世界史探究」 ③「歴史総合, 日本史探究」 ④「地理総合, 地理探究」 ⑤「公共, 政治・経済」 ⑥「数学Ⅰ」 ⑦「数学Ⅰ, 数学A」 ⑧「情報Ⅰ」 〔配点〕 必須科目100点、選択科目各100点 合計300点満点 ※選択科目において3つ以上受験した場合は、受験科目 中高得点の2つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点を 100点に換算」 ※中国語「200点を100点に換算」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」
併 願	科目型併願可能、同一学部内において学科併願可能	

大学入学共通テスト利用選抜 後期日程

日 程	出 願 期 間	2月7日(金) 9:00 ~ 2月25日(火) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)
	試 験 日	大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日) ※個別学力検査は行わない
	合 格 発 表 日	3月6日(木) 15:00 ~
	入学手続締切日	3月13日(木)まで 締切日 必着
選 考 方 法	《必須科目》 ▼英語学科／観光交流文化学科 ●「英語」 ▼中国語学科 ●「英語」または「中国語」 《選択科目》 ●以下①～⑧の中から1つ選択 ①「国語」(近代以降の文章のみ) ②「歴史総合, 世界史探究」 ③「歴史総合, 日本史探究」 ④「地理総合, 地理探究」 ⑤「公共, 政治・経済」 ⑥「数学Ⅰ」 ⑦「数学Ⅰ, 数学A」 ⑧「情報Ⅰ」 〔配点〕 必須科目100点、選択科目100点 合計200点満点 ※選択科目において2つ以上受験した場合は、受験科目 中高得点の1つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点を 100点に換算」 ※中国語「200点を100点に換算」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」	
併 願	同一学部内において学科併願可能	

〈大学入学共通テスト利用選抜における旧教育課程履修者への対応〉
旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目についても合否判定の対象とします。なお()内の科目名は上表の科目名との対応です。
「旧世界史B」(「歴史総合, 世界史探究」)、「旧日本史B」(「歴史総合, 日本史探究」)、「旧地理B」(「地理総合, 地理探究」)、「旧現代社会」(「旧政治・経済」(「公共, 政治・経済」)、「旧数学Ⅰ」(「数学Ⅰ」)、「旧数学Ⅰ・旧数学A」(「数学Ⅰ, 数学A」)

編入学・転入学選抜

出願書類はこちら



日程	出 願 期 間	11月1日(金) 9:00 ～ 11月12日(火) 17:00 出願登録・検定料振込 (出願書類郵送 締切日 必着)										
	試 験 日	11月23日(土)										
	合 格 発 表 日	12月2日(月) 15:00 ～										
	入学手続締切日	12月20日(金)まで 締切日 必着										
選 考 方 法	公募制											
	▼英語学科／観光交流文化学科											
	●英語											
	●面接											
	●書類審査 (学業成績証明書)											
	●小論文【出願時に提出】 (1600字以内、テーマ「外国語学部を志望する理由と今後の抱負」)											
	▼中国語学科											
	●中国語											
	●面接											
	●書類審査 (学業成績証明書)											
	●小論文【出願時に提出】 (1600字以内、テーマ「外国語学部を志望する理由と今後の抱負」)											
	<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>英 語 ・ 中 国 語</td><td>9:50～10:50 (60分)</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:50～11:15</td></tr><tr><td>面 接</td><td>11:15～</td></tr></table>			入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	英 語 ・ 中 国 語	9:50～10:50 (60分)	受験上の諸注意	10:50～11:15	面 接
入 室 時 間	9:00～9:30											
受験上の諸注意	9:30～9:50											
英 語 ・ 中 国 語	9:50～10:50 (60分)											
受験上の諸注意	10:50～11:15											
面 接	11:15～											
※面接の開始時刻は受験番号により異なる。												
編転入学年	第3学年 (※規程に基づき入学時に62単位を上限に本学の卒業単位として認定する。)											
試 験 会 場	井の頭キャンパス											

総合政策学部

[総合政策学科、企業経営学科]

総合型選抜（AO入試）A日程

出願書類はこちら



日程	出 願 期 間	9 月 25 日 (水) 9：00 ～ 10 月 4 日 (金) 17：00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）																	
	試 験 日	10 月 19 日 (土)																	
	合 格 発 表 日	11 月 1 日 (金) 15：00 ～																	
	入学手続締切日	11 月 15 日 (金) まで 締切日 必着																	
選考方法等	出願時に「授業受講型」または「事前課題提出型」のいずれか 1 つを選択する。																		
	授業受講型 ●書類審査（調査書、志望理由書） ●面接 ●授業受講・小論文 総合政策学部で扱うテーマの授業30分間（質疑応答を含む）を受講し、60分間で800字程度の小論文を作成する。小論文の詳細は試験当日に発表するが、内容は「授業内容のまとめと意見」。 ・授業中は、大学が用意した授業ノートにメモを取ることができる。 ・授業ノートは小論文とともに回収。 ・授業ノートは評価対象外。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9：00～9：30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9：30～9：50</td></tr><tr><td>授業受講・小論文</td><td>9：50～11：20（90分）</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>11：20～11：40</td></tr><tr><td>面 接</td><td>11：40～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。 事前課題提出型 ●書類審査（調査書、志望理由書） ●小論文【出願時に提出】 テーマ①～③のいずれかを選択し、800字以内で作成。 テーマ①：「グローバル社会における課題に関するもの」 テーマ②：「地域社会における課題に関するもの」 テーマ③：「情報社会における課題に関するもの」 ●面接 提出された小論文の内容に基づいた質疑応答を行う。 面接の際には、資料を持ち込むことはできない。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9：00～9：30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9：30～9：50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>9：50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。 事前課題提出型において、 テーマ①での合格者は、グローバル・キャリア・プログラム（GCP）への参加を希望する場合、入学時に実施されるGCPの選抜試験を免除される。			入 室 時 間	9：00～9：30	受験上の諸注意	9：30～9：50	授業受講・小論文	9：50～11：20（90分）	受験上の諸注意	11：20～11：40	面 接	11：40～	入 室 時 間	9：00～9：30	受験上の諸注意	9：30～9：50	面 接	9：50～
	入 室 時 間	9：00～9：30																	
	受験上の諸注意	9：30～9：50																	
授業受講・小論文	9：50～11：20（90分）																		
受験上の諸注意	11：20～11：40																		
面 接	11：40～																		
入 室 時 間	9：00～9：30																		
受験上の諸注意	9：30～9：50																		
面 接	9：50～																		
併 願	学科併願不可、受験型併願不可																		
試 験 会 場	井の頭キャンパス																		

総合型選抜（AO入試）B日程

出願書類はこちら



日程	出 願 期 間	11月 1 日 (金) 9:00 ～ 11月12日 (火) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）							
	試 験 日	11月23日 (土)							
	合 格 発 表 日	12月 2 日 (月) 15:00 ～							
	入学手続締切日	12月20日 (金) まで 締切日 必着							
選考方法等	課題プレゼンテーション型 ●書類審査（調査書、志望理由書） ●事前課題【出願時に提出する必要なし】 現代の日本社会が抱える問題とその解決方法のアイデアについて、面接時に説明できるように自身の考えをまとめる。 ●面接 事前課題について、自分の考えを説明する。その説明に関して質疑応答を行う。 面接の際には、資料を用いて説明することはできるが、以下の点に注意すること。 - 紙媒体の資料のみとする。 - ノートPCやタブレット端末等の電子機器を持ち込むことはできない。 - 資料を面接官に配付することはできない。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>13:00～13:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>13:30～13:50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>13:50～</td></tr></table>※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	13:00～13:30	受験上の諸注意	13:30～13:50	面 接	13:50～
	入 室 時 間	13:00～13:30							
受験上の諸注意	13:30～13:50								
面 接	13:50～								
併 願	学科併願不可								
試 験 会 場	井の頭キャンパス								

入室時間	13:00~13:30
受験上の諸注意	13:30~13:50
面接	13:50~

※面接の開始時刻は受験番号により異なる。

総合型選抜（AO入試）C日程

専願

出願書類はこちら



日 程	出 願 期 間	11月20日(水) 9:00 ～ 12月 6 日(金) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）							
	試 験 日	12月14日(土)							
	合 格 発 表 日	12月19日(木) 15:00 ～							
	入学手続締切日	12月25日(水) まで 締切日 必着							
選考方法等	課題プレゼンテーション型 ●書類審査（調査書、志望理由書） ●事前課題【出願時に提出する必要なし】 現代の日本社会が抱える問題とその解決方法のアイデアについて、面接時に説明できるように自身の考えをまとめる。 ●面接 事前課題について、自分の考えを説明する。その説明に関して質疑応答を行う。 面接の際には、資料を用いて説明することはできるが、以下の点に注意すること。 ・紙媒体の資料のみとする。 ・ノートPCやタブレット端末等の電子機器を持ち込むことはできない。 ・資料を面接官に配付することはできない。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>面 接</td><td>9:50～</td></tr></table>※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	面 接	9:50～
	入 室 時 間	9:00～9:30							
受験上の諸注意	9:30～9:50								
面 接	9:50～								
併 願	学科併願不可								
試 験 会 場	井の頭キャンパス								

入室時間	9:00~9:30
受験上の諸注意	9:30~9:50
面接	9:50~

※面接の開始時刻は受験番号により異なる。

専願 合格した場合に、本学総合政策学部への入学を確約できる者

学校推薦型選抜

出願書類はこちら



日程	出 願 期 間	11月 1 日(金) 9:00 ～ 11月12日(火) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）											
	試 験 日	11月23日(土)											
	合 格 発 表 日	12月 2 日(月) 15:00 ～											
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着											
選考方法	公募制 ●小論文（800字以内、「現代社会」に関するテーマ） ●面接 小論文、面接および調査書の内容から、学習成果を総合評価する。 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>小 論 文</td><td>9:50～10:30（40分）</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:30～10:55</td></tr><tr><td>面 接</td><td>10:55～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	小 論 文	9:50～10:30（40分）	受験上の諸注意	10:30～10:55	面 接	10:55～
	入 室 時 間	9:00～9:30											
	受験上の諸注意	9:30～9:50											
	小 論 文	9:50～10:30（40分）											
受験上の諸注意	10:30～10:55												
面 接	10:55～												
試験会場	井の頭キャンパス												

5

入学試験日程・選考方法等

編入学・転入学選抜

出願書類はこちら



日程	出 願 期 間	11月 1 日 (金) 9:00 ～ 11月12日 (火) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）	
	試 験 日	11月23日 (土)	
	合 格 発 表 日	12月 2 日 (月) 15:00 ～	
	入学手続締切日	12月20日 (金) まで 締切日 必着	
選 考 方 法	公募制		
	●書類審査（学業成績証明書）		
	●小論文（「現代社会」に関するテーマ）		
	●面接		
	入 室 時 間	9:00～9:30	
	受験上の諸注意	9:30～9:50	
小 論 文	9:50～10:30（40分）		
受験上の諸注意	10:30～10:55		
面 接	10:55～		
※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			
編転入学年	第 3 学 年（※規程に基づき入学時に62単位を上限に本学の卒業単位として認定する。）		
試 験 会 場	井の頭キャンパス		

総合政策学部

一般選抜 前期日程

日程

出 願 期 間

12月18日(水) 9:00 ～ 1月22日(水) 17:00

出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日**必着**)

試 験 日

1月31日(金)・2月1日(土)

※出願時に選択(両日受験可能)

合 格 発 表 日

2月7日(金) 15:00 ～

入学手続締切日

2月14日(金)まで 締切日**必着**

選考方法

出願時にいずれかの科目型を選択する

2科目型

《選択科目》

●英語、国語、世界史、日本史、政治・経済、数学の中から
問題配付後に2科目を選択

〔試験時間・配点・形式〕
300点満点
(1科目100点、高得点の科目を2倍に換算)
マークシート形式

入 室 時 間	9:30～10:30
受験上の諸注意	10:30～10:50
選 択 科 目	10:50～12:40 (110分)

3科目型

《必須科目》

●英語

《選択科目》

●国語、世界史、日本史、政治・経済、数学の中から
問題配付後に2科目を選択

〔試験時間・配点・形式〕
必須科目100点
選択科目200点(1科目100点)
合計300点満点
マークシート形式

入 室 時 間	9:30～10:00
受験上の諸注意	10:00～10:20
必 須 科 目	10:20～11:20 (60分)
昼 食 時 間	11:20～12:20
受験上の諸注意	12:20～12:40
選 択 科 目	12:40～14:20 (100分)

〔出題範囲〕※両科目型共通

・英 語：「英語コミュニケーションⅠ」
「英語コミュニケーションⅡ」
「英語コミュニケーションⅢ」
「論理・表現Ⅰ」
「論理・表現Ⅱ」
「論理・表現Ⅲ」

・国 語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし
近代以降の文章のみ
・世界史：「世界史探究」
・日本史：「日本史探究」
・政治・経済：「政治・経済」
・数 学：「数学Ⅰ」「数学A」

併 願

科目型併願不可、同一学部内において学科併願可能、試験日併願可能、試験日自由選択制

試 験 会 場

井の頭キャンパス

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

一般選抜 後期日程

日 程	出 願 期 間	2 月 7 日 (金) 9 : 00 ～ 2 月 25 日 (火) 17 : 00 出願登録・検定料振込 (出願書類郵送 締切日 必着)	
	試 験 日	3 月 1 日 (土)	
	合 格 発 表 日	3 月 6 日 (木) 15 : 00 ～	
	入学手続締切日	3 月 13 日 (木) まで 締切日 必着	
選 考 方 法	《必須科目》 ●英語 ●国語 〔試験時間・配点・形式〕 200点満点 (1 科目100点) マークシート形式		
	入 室 時 間	9 : 30～10:00	
	受験上の諸注意	10:00～10:20	
	必 須 科 目	10:20～12:10 (110分)	
	〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ		
併 願	同一学部内において学科併願可能		
試 験 会 場	井の頭キャンパス		

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

大学入学共通テスト利用選抜 前期日程

日程	出願期間	12月18日(水) 9:00 ~ 1月24日(金) 17:00	出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)
	試験日	大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日)	※個別学力検査は行わない
	合格発表日	2月12日(水) 15:00 ~	
	入学手続締切日	2月19日(水)まで 締切日 必着	
選考方法	出願時にいずれかの科目型を選択する		
	2科目型 《選択科目》 ●以下①～⑫の中から2つ選択 ①「英語」 ②「国語」(近代以降の文章のみ) ③「歴史総合, 世界史探究」 ④「歴史総合, 日本史探究」 ⑤「地理総合, 地理探究」 ⑥「公共, 政治・経済」 ⑦「数学Ⅰ」 ⑧「数学Ⅰ, 数学A」 ⑨「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 ⑩「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 (2出題範囲を選択) ⑪「物理」「化学」「生物」「地学」のうち1科目を選択 ただし、2科目を受験した場合は2科目中、高得点の1科目を合否判定に使用 ⑫「情報Ⅰ」 【配点】 選択科目各100点 合計200点満点 ※選択科目において3つ以上受験した場合は、受験科目中高得点の2つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点を100点に換算」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」 3科目型 《必須科目》 ●「英語」 《選択科目》 ●以下①～⑪の中から2つ選択 ①「国語」(近代以降の文章のみ) ②「歴史総合, 世界史探究」 ③「歴史総合, 日本史探究」 ④「地理総合, 地理探究」 ⑤「公共, 政治・経済」 ⑥「数学Ⅰ」 ⑦「数学Ⅰ, 数学A」 ⑧「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 ⑨「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 (2出題範囲を選択) ⑩「物理」「化学」「生物」「地学」のうち1科目を選択 ただし、2科目を受験した場合は2科目中、高得点の1科目を合否判定に使用 ⑪「情報Ⅰ」 【配点】 必須科目100点、選択科目各100点 合計300点満点 ※選択科目において3つ以上受験した場合は、受験科目中高得点の2つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点を100点に換算」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」		
併願	科目型併願可能、同一学部内において学科併願可能		

大学入学共通テスト利用選抜 後期日程

日程	出願期間	2月7日(金) 9:00 ~ 2月25日(火) 17:00	出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)
	試験日	大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日)	※個別学力検査は行わない
	合格発表日	3月6日(木) 15:00 ~	
	入学手続締切日	3月13日(木)まで 締切日 必着	
選考方法	《選択科目》 ●以下①～⑫の中から2つ選択 ①「英語」 ②「国語」(近代以降の文章のみ) ③「歴史総合, 世界史探究」 ④「歴史総合, 日本史探究」 ⑤「地理総合, 地理探究」 ⑥「公共, 政治・経済」 ⑦「数学Ⅰ」 ⑧「数学Ⅰ, 数学A」 ⑨「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 ⑩「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」(2出題範囲を選択) ⑪「物理」「化学」「生物」「地学」のうち1科目を選択 ただし、2科目を受験した場合は2科目中、高得点の1科目を合否判定に使用 ⑫「情報Ⅰ」 【配点】 選択科目各100点 合計200点満点 ※選択科目において3つ以上受験した場合は、受験科目中高得点の2つを合否判定に使用 ※英語「リーディング100点、リスニング100点、計200点を100点に換算」 ※国語(近代以降の文章のみ)「110点を100点に換算」		
併願	同一学部内において学科併願可能		

〈大学入学共通テスト利用選抜における旧教育課程履修者への対応〉
旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目についても合否判定の対象とします。なお()内の科目名は上表の科目名との対応です。
「旧世界史B」(「歴史総合, 世界史探究」)、「旧日本史B」(「歴史総合, 日本史探究」)、「旧地理B」(「地理総合, 地理探究」)、「旧現代社会」「旧政治・経済」(「公共, 政治・経済」)、「旧数学Ⅰ」(「数学Ⅰ」)、「旧数学Ⅰ・旧数学A」(「数学Ⅰ, 数学A」)、「旧数学Ⅱ」「旧数学Ⅱ・旧数学B」「旧簿記・会計」(「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」)

保健学部

臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、リハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻・言語聴覚療法専攻）、診療放射線技術学科、臨床心理学科

総合型選抜（AO入試）健康スポーツコース		専願	出願書類はこちら					
								
日程	出願期間	9月3日(火) 9:00 ～ 9月10日(火) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）						
	試験日	9月28日(土)						
	合格発表日	11月1日(金) 15:00 ～						
	入学手続締切日	11月15日(金) まで 締切日 必着						
選考方法	健康福祉学科							
	●面接 ●書類審査（調査書、志望理由・活動報告書） ●小論文〔出願時に提出〕400字程度 テーマ：「あなたが自身の将来像（将来の自分）をどのように思い描いているかについて、まず簡単に述べよ。つぎに、その将来の自分を実現するために4年間の大学生活では、『どのような目標をたてているのか』『どのようにその目標に向けて取り組みたいのか』を入れて、あなたの考えを述べよ。」							
	〔配点〕面接・書類審査 100点満点							
	<table><tr><td>入室時間</td><td>9:30～10:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:00～10:20</td></tr><tr><td>面接</td><td>10:20～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入室時間	9:30～10:00	受験上の諸注意	10:00～10:20	面接
入室時間	9:30～10:00							
受験上の諸注意	10:00～10:20							
面接	10:20～							
試験会場	井の頭キャンパス ただし「練習会」※は八王子キャンパス ※練習会は8月9日、23日に行います。 参加方法は本学ホームページ受験生サイトのお知らせをご確認ください。							

専願 合格した場合に、本学保健学部への入学を確約できる者

総合型選抜（AO入試）適性検査型				専願	出願書類はこちら																
日程	出願期間	9月25日(水) 9:00 ～ 10月4日(金) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）																			
	試験日	10月20日(日)																			
	合格発表日	11月1日(金) 15:00 ～																			
	入学手続締切日	11月15日(金) まで 締切日 必着																			
選考方法	臨床検査技術学科／ 看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）／ リハビリテーション学科（理学療法学専攻・言語聴覚療法学専攻）／ 診療放射線技術学科 ●適性検査Ⅰ 小論文 学科ごとに、テーマ型、課題文型（英文も含む）、資料解釈型の出題形式で、受験者の学習意欲、大学教育を受けるために必要な基礎知識、課題に対する理解力と論理的思考力、意見や感想、考えなどをもとに、本学学生としての適性を評価する。 ●適性検査Ⅱ 英文読解（記述式） 長文の英文を読んで設問に答える形式で、英文読解力を評価する。（設問は日本語。辞書の持ち込み・使用不可。） ●面接 ●書類審査（調査書、志望理由書） 〔配点〕 適性検査Ⅰ 50点、 適性検査Ⅱ 50点、 面接・書類審査 50点 合計150点満点 <table><tr><td>入室時間</td><td>8:30～9:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:00～9:20</td></tr><tr><td>適性検査Ⅱ</td><td>9:20～10:30（70分）</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:55～11:15</td></tr><tr><td>適性検査Ⅰ</td><td>11:15～12:25（70分）</td></tr><tr><td>昼食時間</td><td>12:25～13:15</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>13:15～13:35</td></tr><tr><td>面接</td><td>13:35～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。					入室時間	8:30～9:00	受験上の諸注意	9:00～9:20	適性検査Ⅱ	9:20～10:30（70分）	受験上の諸注意	10:55～11:15	適性検査Ⅰ	11:15～12:25（70分）	昼食時間	12:25～13:15	受験上の諸注意	13:15～13:35	面接	13:35～
	入室時間	8:30～9:00																			
受験上の諸注意	9:00～9:20																				
適性検査Ⅱ	9:20～10:30（70分）																				
受験上の諸注意	10:55～11:15																				
適性検査Ⅰ	11:15～12:25（70分）																				
昼食時間	12:25～13:15																				
受験上の諸注意	13:15～13:35																				
面接	13:35～																				
健康福祉学科／臨床工学科／救急救命学科／ リハビリテーション学科（作業療法学専攻）／ 臨床心理学科 ●適性検査Ⅰ 小論文 学科ごとに、テーマ型、課題文型（英文も含む）、資料解釈型の出題形式で、受験者の学習意欲、大学教育を受けるために必要な基礎知識、課題に対する理解力と論理的思考力、意見や感想、考えなどをもとに、本学学生としての適性を評価する。 ●面接 ●書類審査（調査書、志望理由書） 〔配点〕 適性検査Ⅰ 100点、 面接・書類審査 50点 合計150点満点 <table><tr><td>入室時間</td><td>10:20～10:55</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:55～11:15</td></tr><tr><td>適性検査Ⅰ</td><td>11:15～12:25（70分）</td></tr><tr><td>昼食時間</td><td>12:25～13:15</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>13:15～13:35</td></tr><tr><td>面接</td><td>13:35～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。						入室時間	10:20～10:55	受験上の諸注意	10:55～11:15	適性検査Ⅰ	11:15～12:25（70分）	昼食時間	12:25～13:15	受験上の諸注意	13:15～13:35	面接	13:35～				
入室時間	10:20～10:55																				
受験上の諸注意	10:55～11:15																				
適性検査Ⅰ	11:15～12:25（70分）																				
昼食時間	12:25～13:15																				
受験上の諸注意	13:15～13:35																				
面接	13:35～																				
試験会場	井の頭キャンパス																				

専願 合格した場合に、本学保健学部への入学を確約できる者

学校推薦型選抜		専願	出願書類はこちら																									
日程	出願期間	11月1日(金) 9:00 ～ 11月12日(火) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)																										
	試験日	11月24日(日)																										
	合格発表日	12月2日(月) 15:00 ～																										
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着																										
選考方法	公募制																											
	臨床検査技術学科／看護学科(看護学専攻・看護養護教育学専攻)／臨床工学科／救急救命学科／リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚療法学専攻)／診療放射線技術学科		健康福祉学科／臨床心理学科																									
	●面接 面接および調査書の内容から、学習成果を総合評価する ●適性検査 マークシート形式 英語(25問)、国語(15問)、数学(15問)、物理(15問)、化学(15問)、生物(15問)以上100問の中から科目を問わず50問を任意に選択 [出題範囲] - 英語:「英語コミュニケーションⅠ」 「英語コミュニケーションⅡ」 「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」 「論理・表現Ⅲ」 - 国語:「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ - 数学:「数学Ⅰ」「数学A」 - 物理:「物理基礎」 - 化学:「化学基礎」 - 生物:「生物基礎」 <table><tr><td>入室時間</td><td>8:30～9:10</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:10～9:30</td></tr><tr><td>適性検査</td><td>9:30～11:00 (90分)</td></tr><tr><td>昼食時間</td><td>11:00～12:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>12:30～12:50</td></tr><tr><td>面接</td><td>12:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は、受験番号によって異なる。		入室時間	8:30～9:10	受験上の諸注意	9:10～9:30	適性検査	9:30～11:00 (90分)	昼食時間	11:00～12:30	受験上の諸注意	12:30～12:50	面接	12:50～	●面接 面接および調査書の内容から、学習成果を総合評価する ●適性検査 マークシート形式 英語(25問)、国語(15問)、数学(15問)、物理(15問)、化学(15問)、生物(15問)以上100問の中から科目を問わず40問を任意に選択 [出題範囲] - 英語:「英語コミュニケーションⅠ」 「英語コミュニケーションⅡ」 「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」 「論理・表現Ⅲ」 - 国語:「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ - 数学:「数学Ⅰ」「数学A」 - 物理:「物理基礎」 - 化学:「化学基礎」 - 生物:「生物基礎」 <table><tr><td>入室時間</td><td>8:30～9:10</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:10～9:30</td></tr><tr><td>適性検査</td><td>9:30～11:00 (90分)</td></tr><tr><td>昼食時間</td><td>11:00～12:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>12:30～12:50</td></tr><tr><td>面接</td><td>12:50～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は、受験番号によって異なる。		入室時間	8:30～9:10	受験上の諸注意	9:10～9:30	適性検査	9:30～11:00 (90分)	昼食時間	11:00～12:30	受験上の諸注意	12:30～12:50	面接	12:50～
	入室時間	8:30～9:10																										
受験上の諸注意	9:10～9:30																											
適性検査	9:30～11:00 (90分)																											
昼食時間	11:00～12:30																											
受験上の諸注意	12:30～12:50																											
面接	12:50～																											
入室時間	8:30～9:10																											
受験上の諸注意	9:10～9:30																											
適性検査	9:30～11:00 (90分)																											
昼食時間	11:00～12:30																											
受験上の諸注意	12:30～12:50																											
面接	12:50～																											
試験会場	井の頭キャンパス																											

〈学校推薦型選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

専願 合格した場合に、本学保健学部への入学を確約できる者

一般選抜（A日程）

日程	出 願 期 間	12月18日(水) 9:00 ～ 1月16日(木) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）													
	試 験 日	1月29日(水)・30日(木) ※出願時に選択（両日受験可能）													
	合 格 発 表 日	2月6日(木) 15:00 ～													
	入学手続締切日	2月13日(木)まで 締切日 必着													
選考方法	臨床検査技術学科／臨床工学科／診療放射線技術学科														
	《必須科目》 ●英語 150点 《選択科目》 ●国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に2科目を選択（理科から2科目選択可）。200点（1科目100点） 〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」「物理」 ・化学：「化学基礎」「化学」〔高分子化合物〕を除く ・生物：「生物基礎」「生物」		<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:30～10:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:30～10:50</td></tr><tr><td>選 択 科 目</td><td>10:50～12:30（100分）</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>12:30～14:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>14:00～14:20</td></tr><tr><td>必 須 科 目</td><td>14:20～15:30（70分）</td></tr></table> ・マークシート形式 ・合計350点満点 ※調査書も参考に、総合評価する。	入 室 時 間	9:30～10:30	受験上の諸注意	10:30～10:50	選 択 科 目	10:50～12:30（100分）	昼 食 時 間	12:30～14:00	受験上の諸注意	14:00～14:20	必 須 科 目	14:20～15:30（70分）
	入 室 時 間	9:30～10:30													
	受験上の諸注意	10:30～10:50													
選 択 科 目	10:50～12:30（100分）														
昼 食 時 間	12:30～14:00														
受験上の諸注意	14:00～14:20														
必 須 科 目	14:20～15:30（70分）														
看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）／救急救命学科／リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）															
《必須科目》 ●英語 150点 《選択科目》 ●国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に2科目を選択（理科から2科目選択可）。200点（1科目100点） 〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」 ・化学：「化学基礎」 ・生物：「生物基礎」		<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:30～10:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:30～10:50</td></tr><tr><td>選 択 科 目</td><td>10:50～12:30（100分）</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>12:30～14:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>14:00～14:20</td></tr><tr><td>必 須 科 目</td><td>14:20～15:30（70分）</td></tr></table> ・マークシート形式 ・合計350点満点 ※調査書も参考に、総合評価する。	入 室 時 間	9:30～10:30	受験上の諸注意	10:30～10:50	選 択 科 目	10:50～12:30（100分）	昼 食 時 間	12:30～14:00	受験上の諸注意	14:00～14:20	必 須 科 目	14:20～15:30（70分）	
入 室 時 間	9:30～10:30														
受験上の諸注意	10:30～10:50														
選 択 科 目	10:50～12:30（100分）														
昼 食 時 間	12:30～14:00														
受験上の諸注意	14:00～14:20														
必 須 科 目	14:20～15:30（70分）														
健康福祉学科／リハビリテーション学科（言語聴覚療法学専攻）／臨床心理学科															
《必須科目》 ●英語 150点 《選択科目》 ●国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に1科目を選択。100点 〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」 ・化学：「化学基礎」 ・生物：「生物基礎」		<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>10:30～11:20</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>11:20～11:40</td></tr><tr><td>選 択 科 目</td><td>11:40～12:30（50分）</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>12:30～14:00</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>14:00～14:20</td></tr><tr><td>必 須 科 目</td><td>14:20～15:30（70分）</td></tr></table> ・マークシート形式 ・合計250点満点 ※調査書も参考に、総合評価する。	入 室 時 間	10:30～11:20	受験上の諸注意	11:20～11:40	選 択 科 目	11:40～12:30（50分）	昼 食 時 間	12:30～14:00	受験上の諸注意	14:00～14:20	必 須 科 目	14:20～15:30（70分）	
入 室 時 間	10:30～11:20														
受験上の諸注意	11:20～11:40														
選 択 科 目	11:40～12:30（50分）														
昼 食 時 間	12:30～14:00														
受験上の諸注意	14:00～14:20														
必 須 科 目	14:20～15:30（70分）														
試験会場	井の頭キャンパス・東京たま未来メッセ（定員超過の場合、三鷹キャンパス） ※試験会場は、受験票発行時に大学が指定する														
併 願	A・B日程併願可能、各試験日1学科（1専攻）出願可、試験日自由選択制（両日受験可）														

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。



保健学部一般選抜
入室時間に関するご注意

※屋内の入室前待機場所がないため、入室時間内に試験会場へ到着するようにご準備ください。
※入室開始直後は受付がたいへん混雑することが予想されます。

一般選抜（B日程）

日程	出 願 期 間	12月18日(水) 9:00 ～ 1月24日(金) 17:00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）													
	試 験 日	2月4日(火)													
	合 格 発 表 日	2月13日(木) 15:00 ～													
	入学手続締切日	2月20日(木)まで 締切日 必着													
選 考 方 法	臨床検査技術学科／臨床工学科／診療放射線技術学科														
	《必須科目》 ●英語 150点 ●小論文 テーマ型、課題文型（英文も含む）、資料解釈型のいずれかの出題形式にて、本学部のアドミッションポリシーに沿った内容で本学学生としての適性を評価する。 《選択科目》 ●数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に1科目を選択。100点														
	〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」「物理」 ・化学：「化学基礎」「化学」（高分子化合物）を除く ・生物：「生物基礎」「生物」 ・マークシート形式（英語・選択科目） ・合計250点満点 ※小論文、調査書も参考に総合評価する。														
	看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）／救急救命学科／リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）														
	《必須科目》 ●英語 150点 ●小論文 テーマ型、課題文型（英文も含む）、資料解釈型のいずれかの出題形式にて、本学部のアドミッションポリシーに沿った内容で本学学生としての適性を評価する。 《選択科目》 ●数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に1科目を選択。100点														
選 考 方 法	〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」 ・化学：「化学基礎」 ・生物：「生物基礎」 ・マークシート形式（英語・選択科目） ・合計250点満点 ※小論文、調査書も参考に総合評価する。														
	健康福祉学科／リハビリテーション学科（言語聴覚療法学専攻）／臨床心理学科														
	《必須科目》 ●英語 150点 ●小論文 テーマ型、課題文型（英文も含む）、資料解釈型のいずれかの出題形式にて、本学部のアドミッションポリシーに沿った内容で本学学生としての適性を評価する。 《選択科目》 ●国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配付後に1科目を選択。100点														
	一般選抜（B日程）時間割（全学科共通） <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:30～10:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:30～10:50</td></tr><tr><td>必須科目(英語)・選択科目</td><td>10:50～12:50（120分）</td></tr><tr><td>昼 食 時 間</td><td>12:50～14:20</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>14:20～14:40</td></tr><tr><td>必須科目（小論文）</td><td>14:40～15:40（60分）</td></tr></table>			入 室 時 間	9:30～10:30	受験上の諸注意	10:30～10:50	必須科目(英語)・選択科目	10:50～12:50（120分）	昼 食 時 間	12:50～14:20	受験上の諸注意	14:20～14:40	必須科目（小論文）	14:40～15:40（60分）
	入 室 時 間	9:30～10:30													
受験上の諸注意	10:30～10:50														
必須科目(英語)・選択科目	10:50～12:50（120分）														
昼 食 時 間	12:50～14:20														
受験上の諸注意	14:20～14:40														
必須科目（小論文）	14:40～15:40（60分）														
〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」 ・化学：「化学基礎」 ・生物：「生物基礎」 ・マークシート形式（英語・選択科目） ・合計250点満点 ※小論文、調査書も参考に総合評価する。															
試 験 会 場	井の頭キャンパス・東京たま未来メッセ（定員超過の場合、三鷹キャンパス）※試験会場は、受験票発行時に大学が指定する														
併 願	A・B日程併願可能、1学科（1専攻）出願可														

＜一般選抜における旧教育課程履修者への対応＞

2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。



保健学部一般選抜
入室時間に関するご注意

※屋内の入室前待機場所がないため、入室時間内に試験会場へ到着するようにご準備ください。
※入室開始直後は受付がたいへん混雑することが予想されます。

大学入学共通テスト利用選抜

日程	出願期間	12月18日(水) 9:00 ~ 1月24日(金) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)
	試験日	大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日) ※個別学力検査は行わない
	合格発表日	2月13日(木) 15:00 ~
	入学手続締切日	2月20日(木)まで 締切日 必着
選考方法	臨床検査技術学科／ 看護学科(看護学専攻・看護養護教育学専攻)／ 臨床工学科／救急救命学科／ リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)／ 診療放射線技術学科	
	健康福祉学科／ リハビリテーション学科(言語聴覚療法学専攻)／ 臨床心理学科	

〈大学入学共通テスト利用選抜における旧教育課程履修者への対応〉
旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目についても合否判定の対象とします。なお（ ）内の科目名は上表の科目名との対応です。
〔旧数学Ⅰ・旧数学A〕(「数学Ⅰ，数学A」)

医学部 [医学科]

一般選抜

日程

出 願 期 間

12月 2 日(月) 9:00 ～ 1 月 6 日(月) 17:00

出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日**必着**）

1 次試験

試 験 日

1 月23日(木)

合格発表日

1 月28日(火) 16:00 ～

2 次試験

試 験 日

1 月31日(金)・2 月 1 日(土) いずれかの 1 日

※ 2 次試験は 1 次試験合格者のみ

※ 2 次試験日は出願時に希望を取り、最終的には 1 次試験合格発表時に大学が指定する

合格発表日

2 月 5 日(水) 16:00 ～

入学手続締切日

2 月13日(木) まで 締切日**必着**

選考方法

1 次試験

《必須科目》

●英語

●数学

《選択科目》

●理科 3 科目（物理、化学、生物）の中から問題配付後に 2 科目を選択

[試験時間・配点・形式]

必須科目：英語100点

数学100点

選択科目：150点（1科目75点）

合計350点満点、マークシート形式

入 室 時 間	9:30～10:10
受験上の諸注意	10:10～10:30
理 科	10:30～12:10 (100分)
数 学	13:30～14:40 (70分)
英 語	15:40～16:40 (60分)

[出題範囲]

・英 語：「英語コミュニケーションⅠ」

「英語コミュニケーションⅡ」

「英語コミュニケーションⅢ」

「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」

・数 学：「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」

「数学C」

※「数学B」は、〔統計的な推測〕または〔確率分布と統計的な推測〕の章を除く

・物 理：「物理基礎」「物理」

・化 学：「化学基礎」「化学」

・生 物：「生物基礎」「生物」

2 次試験

《必須科目》

●小論文

●面接

入 室 時 間	8:00～8:20
面接資料作成	8:20～8:45
受験上の諸注意	8:45～9:00
小 論 文	9:00～10:00 (60分)
面 接	10:30～17:00

※入室時間より早く試験室に入ることはいけません。

※面接開始時刻は受験番号によって異なります。

終了時刻は予定よりも遅くなる場合があります。

※面接資料に記入された内容は面接の際に確認することになる。

丁寧に記入するために入室時間を厳守すること。

医学部のインターネット出願においては、以下の志願情報の入力が必要となります。志願情報は、2 次試験の面接時に面接資料として使用します。

志願情報（入力項目）

1. 本学でどのような大学生活を送りたいか。（具体的に記すこと）*200字以内

2. 高校時代のクラブ活動や課外活動（部内での役割も含めて記すこと）*200字以内

試験会場

[1 次試験] パシフィコ横浜ノース（定員超過の場合、三鷹キャンパス）

※ 1 次試験会場は受験票発行時に大学が指定

[2 次試験] 三鷹キャンパス

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉

2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

2次試験

《必須科目》

- 小論文
- 面接

入 室 時 間	8:00~8:20
面接資料作成	8:20~8:45
受験上の諸注意	8:45~9:00
小 論 文	9:00~10:00 (60分)
面 接	10:30~17:00

※入室時間より早く試験室に入ることはいけません。

※面接開始時刻は受験番号によって異なる。

終了時刻は予定よりも遅くなる場合があります。

※面接資料に記入された内容は面接の際に確認することになる。
丁寧に記入するために入室時間を厳守すること。

医学部のインターネット出願においては、以下の志願情報の入力が必要となります。志願情報は、2次試験の面接時に面接資料として使用します。

志願情報(入力項目)

1. 本学でどのような大学生活を送りたいか。(具体的に記すこと) *200字以内
2. 高校時代のクラブ活動や課外活動(部内での役割も含めて記すこと) *200字以内

大学入学共通テスト利用選抜

日程

出願期間

12月2日(月) 9:00 ～ 1月17日(金) 17:00

出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日**必着**）

1次試験

試験日

大学入学共通テスト 1月18日(土)・1月19日(日)

合格発表日

2月19日(水) 17:00 ～

2次試験

試験日

2月23日(日) ※2次試験は1次試験合格者のみ

合格発表日

2月26日(水) 16:00 ～

入学手続締切日

3月5日(水) まで 締切日**必着**

選考方法

1次試験

【大学入学共通テスト】

《必須科目》・「数学Ⅰ, 数学A」
・「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」

《選択科目1》以下の2科目から1科目を選択。
2科目を受験した場合は、
高得点の科目を合否判定に使用
・「英語」
・「国語」（近代以降の文章のみ）

《選択科目2》以下の3科目から2科目を選択
・「物理」
・「化学」
・「生物」

【配点】 英語または国語200点、数学各科目100点、理科各科目100点
合計600点満点
※英語「リーディング100点・リスニング100点、計200点」
※国語（近代以降の文章）「110点を200点に換算」

2次試験

【個別学力検査】

●小論文
●面接

入室時間	8:00～8:20
面接資料作成	8:20～8:45
受験上の諸注意	8:45～9:00
小論文	9:00～10:00（60分）
面接	10:30～17:00

※入室時間より早く試験室に入ることはいけません。
※面接開始時刻は受験番号によって異なる。
終了時刻は予定よりも遅くなる場合があります。
※面接資料に記入された内容は面接の際に確認することになる。
丁寧に記入するために入室時間を厳守すること。

医学部のインターネット出願においては、以下の
志願情報の入力が必要となります。志願情報は、
2次試験の面接時に面接資料として使用します。

志願情報（入力項目）
1. 本学でどのような大学生活を送りたいか。
（具体的に記すこと）＊200字以内
2. 高校時代のクラブ活動や課外活動（部内での
役割も含めて記すこと）＊200字以内

※事前に下書きを用意して入力することを推奨します。

試験会場

【2次試験】個別学力検査 三鷹キャンパス

〈大学入学共通テスト利用選抜における旧教育課程履修者への対応〉
旧教育課程履修者は、以下の経過措置科目についても合否判定の対象とします。なお()内の科目名は上表の科目名との対応です。
「旧数学Ⅰ・旧数学A」(「数学Ⅰ, 数学A」)、「旧数学Ⅱ・旧数学B」(「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」)

II

1	検定料	2
2	インターネット出願の手順	3
3	入学試験の注意事項	10
4	合格発表	11
5	入学手続	13
6	試験会場	20
	お問い合わせ一覧	23

1 検定料

出願登録時に選択したお支払い方法で入学検定料を支払います。一度納入された入学検定料は返還できません。
納入期間はP. I-16～36「**5 入学試験日程・選考方法等**」を確認し、間違いのないように注意してください。
※検定料のほかに、支払手数料（1,375円）が必要です。出願登録時の画面で確認してください。

■ 外国語学部・総合政策学部

●大学入学共通テスト利用選抜への出願**15,000円**、その他の選抜への出願**35,000円**を基本とします。

入 試 区 分			出願学科数	入学検定料	併願割引
総 合 型 選 抜（ＡＯ入試）			1 学科	35,000円	
学 校 推 薦 型 選 抜			1 学科	35,000円	
一 般 選 抜	前期日程	1 日につき (35,000円)	1 学科	35,000円	
			2 学科・ 3 学科	35,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
	後期日程		1 学科	35,000円	
			2 学科・ 3 学科	35,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
大学入学共通テスト利用選抜		前期日程 後期日程	1 学科	15,000円	
			2 学科・ 3 学科	15,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
編 入 学・転 入 学 選 抜			1 学科	35,000円	
外 国 人 留 学 生 選 抜			1 学科	35,000円	
外国人留学生編入学・転入学選抜			1 学科	35,000円	

※学科併願割引は、1 度に出願登録を行った場合に限り適用されますのでご注意ください。
※入学検定料・割引等は同一学部内において適用されます。

■ 保健学部

入 試 区 分		出願学科数	入学検定料
総合型選抜（AO入試）		1 学科（専攻）	35,000円
学 校 推 薦 型 選 抜		1 学科（専攻）	35,000円
一 般 選 抜	1 日につき (35,000円)	1 学科（専攻）	35,000円
大学入学共通テスト利用選抜		1 学科（専攻）	15,000円
外 国 人 留 学 生 選 抜		1 学科（専攻）	35,000円

※大学入学共通テスト利用選抜は、1 学科（専攻）に出願することに15,000円の入学検定料が発生します。

■ 医学部

入 試 区 分		入学検定料
一 般 選 抜		60,000円
大学入学共通テスト利用選抜		45,000円
外 国 人 留 学 生 選 抜		60,000円

2 インターネット出願の手順

本学の出願は、インターネットを利用して行います。以下のURL（インターネット出願サイト）にアクセスして出願してください。
願書・募集要項の販売、窓口配布、大学からの郵送は行っておりません。

インターネット出願サイト（9月2日（月）より公開）

<https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>



〈インターネット出願の流れ〉

事前準備	インターネット出願に必要なインターネット環境および写真データを準備してください。	P.Ⅱ-4
1 インターネット出願サイトにアクセス	パソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスしてください。	P.Ⅱ-5
2 マイページの登録	画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。なお、マイページの登録が済みの方は、次に進んでください。	P.Ⅱ-5
3 出願内容の登録	画面に従って出願登録を行ってください。	P.Ⅱ-6
4 入学検定料の支払い	支払い方法は、クレジットカード、ネットバンキング、コンビニエンスストア、Pay-easyです。	P.Ⅱ-7
5 必要書類の印刷と郵送	出願書類を郵送してください。 ※出願期間内「 必着 」です。	P.Ⅱ-8
出願完了	出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、不備のない必要書類が到着して完了となります。 ※登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。	P.Ⅱ-8
6 受験票の印刷	出願が受理されると、マイページから受験票がダウンロード可能になります。 必ず印刷し試験当日に持参してください。 ※受験票は郵送されません。	P.Ⅱ-9



[注意] ※出願書類は出願締切日**必着**です。消印有効ではありません。

※出願締切日時までに「出願登録」、「入学検定料の納入」、「不備の無い出願書類の到着」が全て完了していない場合、出願は受け付けません。

※入学検定料の支払後は、出願の取り消しや出願内容の変更はできません。

※一度納入された入学検定料は返還できません。

事前準備

インターネットで出願登録を行うには、以下のいずれかが必要となります。

パソコン / スマートフォン / タブレット端末

① インターネット環境を整える

- 下表を確認し、出願推奨環境を整えてください。
- ブラウザによっては「Cookieの有効化」「JavaScriptの有効化」「TLSの有効化」が必要ですが、画面の指示に従って環境を整えることができます。

ブ ラ ウ ザ	・ Google Chrome最新版 ・ Safari最新版 ・ Firefox最新版 ・ Microsoft Edge最新版	● いずれか1つ用意してください。 ● セキュリティソフトをインストールしている場合、正常に動作しない場合がありますので注意してください。
プ リ ン タ ー	A4の用紙が印刷できる機種 「出願用宛名ラベル」 「本人控え」 「受験票」を印刷します。	● プリンターを所有していなかったり、印刷できない場合、「出願用宛名ラベル」については封筒にその内容を手書きすることで代用できます。
メールアドレス	● 出願受付状況をお知らせするため、確認メール（「出願登録案内メール」「支払完了メール」）を送信します。 ● 頻繁に確認できるメールアドレスを用意してください。	

② 写真データを準備する

インターネット出願登録時に、受験者本人の写真データを登録する必要があります。試験時の本人照合に用いますので、証明写真機や写真店等で撮影された本人であることが確実に確認できる写真データを準備してください。

- 1) 最近3カ月以内に撮影（写真データ登録後、3カ月以上経過後に再度出願する場合、写真の差し替えは不要）
- 2) カラー写真（白黒は不可）
- 3) 正面、上半身、脱帽
- 4) 背景は無地（白が望ましい。風景、カーテンを背景にした写真データは不可）
- 5) データファイル形式「.jpg」
- 6) データサイズは200KB以上、10MB以下

〈注意〉

- 上述の条件を満たせば、スマートフォンで撮影した写真データを登録できます。
- 目元がはっきりと確認できない等、個人の判別が困難な写真データは不備扱いとなります。
- プリントされた写真をスマートフォン等で撮影（複写）した写真データは不備扱いとなります。
- 写真をアップロードする際には、出願サイトのトリミング機能等が利用できます。
- 制服・私服は問いません。なお、出願時に提出した写真は、入学手続き時に差し替えることができます。入学手続き時に提出した写真を、学生証用写真として使用します。詳細は入学手続き時にご案内します。

■ 正しい写真例



■ 受付できない写真例



■ 出願方法

1 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト
<https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>

または

大学ホームページ（受験生サイト）
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>

からアクセス

2 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、「3 出願内容の登録」に進んでください。

＜手順＞

- ① 初めて登録する方は **マイページ登録** をクリックしてください。
- ② メールアドレスの入力を行って **仮登録メールを送信＞** をクリックしてください。
- ③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。
- ④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』で **ログイン** をクリックしてください。
- ⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。
※個人情報を入力する際に、外字等が入力できない場合は代替文字がカタカナで入力してください。
代替文字例
高木 → 高木 山崎 → 山崎 Ⅲ（ローマ数字）→ III（アルファベットのアイ）
- ⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。
- ⑨ 登録完了となります。
マイページへ をクリックしてください。
- ⑩ 右記ページが表示されたらマイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続きを行う＞** ボタンをクリックすると出願手続きに進めます。

登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをおしてください。

①



②



⑦



⑩



2

インターネット出願の手順

出願方法

3 出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

〈手順〉

- ① マイページログイン後の **出願手続きを行う** ボタンから登録画面へ
- ② 入試選択と留意事項の確認
- ③ 志望学部等の選択
- ④ 顔写真のアップロード **写真選択へ** ボタンをクリックし
写真を選択します。
- ⑤ 個人情報（氏名・住所等）の入力 **※医学部のみ志願情報の入力があります。**
- ⑥ 申込登録完了
引き続き支払う ボタンをクリックし検定料のお支払い画面へ。
- ⑦ 入学検定料の支払い方法
 - クレジットカード
 - ネットバンキング
 - コンビニエンスストア
 - ペイジー対応銀行ATM

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMでお支払いください。
- ⑧ 本人控え書類PDF
※検定料納入後に出力可能となります。

③



④



⑤



2

インターネット出願の手順

出願方法

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元 (@e-apply.jp) からのメール受信を許可してください。

※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。

ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容を再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

4 入学検定料の支払い

1) クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

●ご利用可能なクレジットカード

VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、
MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOカード

出願登録時に支払い完了



2) ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

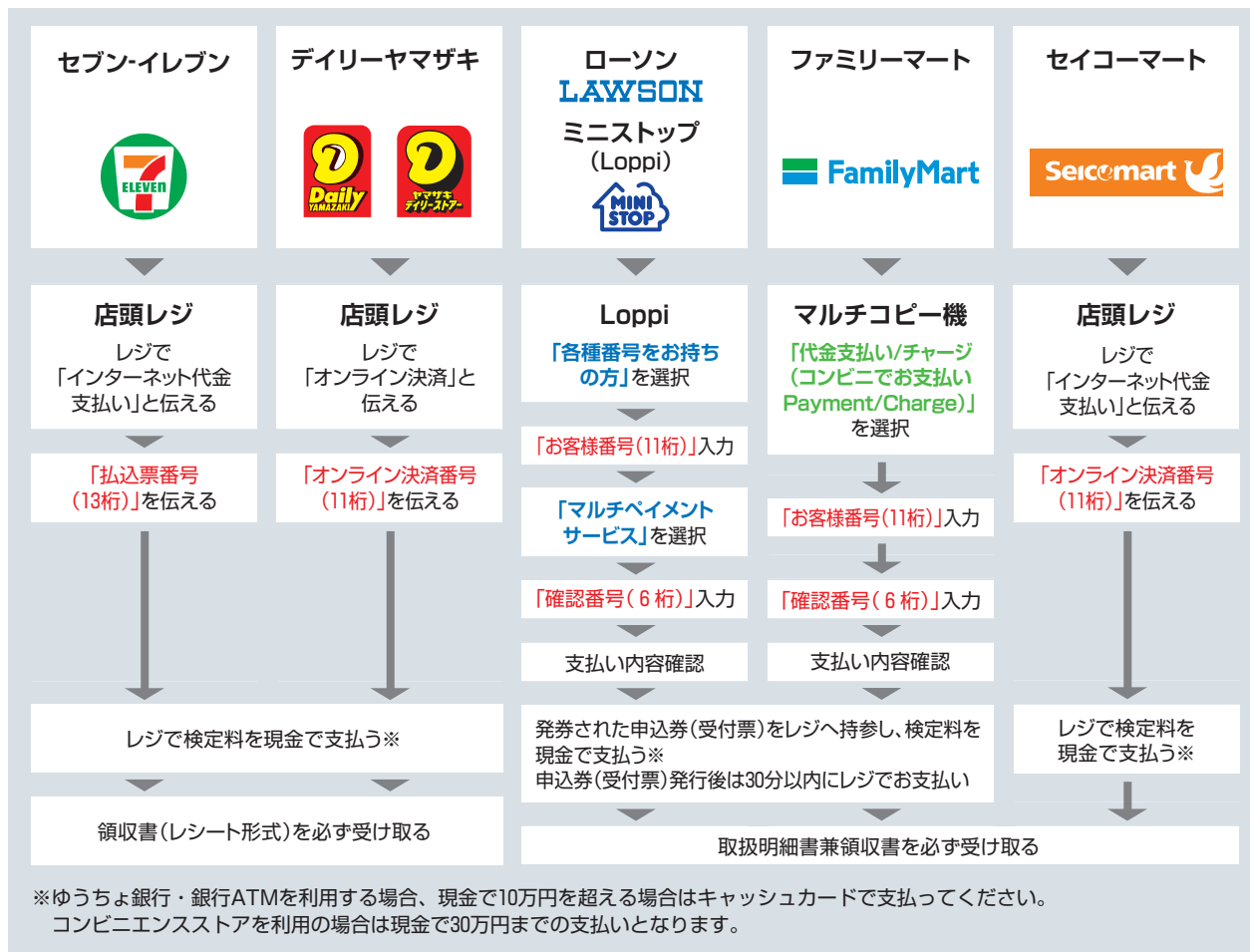
※決済する口座がネットバンキング契約されている必要があります。

インターネットで手続き完了

3) コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

各コンビニ端末画面の画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。



4) ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMで画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。



5 必要書類の印刷と郵送 インターネット上で登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

1) 「出願用宛名ラベル」の印刷

- 入学検定料を納入するとマイページの「出願確認」画面に「出願用宛名ラベル」のPDFファイルが表示されます。A4用紙で印刷してください。
 - 自宅にプリンターがない場合、内容を手書きすることで代用できます。

2) 「出願書類」の郵送

- ① 出願書類はP. I -13～15の「4 出願書類」を参照の上、間違いのないように出願書類をそろえてください。
- ② 確認後、印刷した「出願用宛名ラベル」を市販の角型2号封筒に貼り付け、出願書類を封入してください。
- ③ 郵便局の窓口から簡易書留・速達で下記の願書センター宛てに郵送してください。

送付先

〒270-1399 千葉県印西市中央南2-4
日本郵便株式会社 印西郵便局留
杏林大学 願書センター 宛

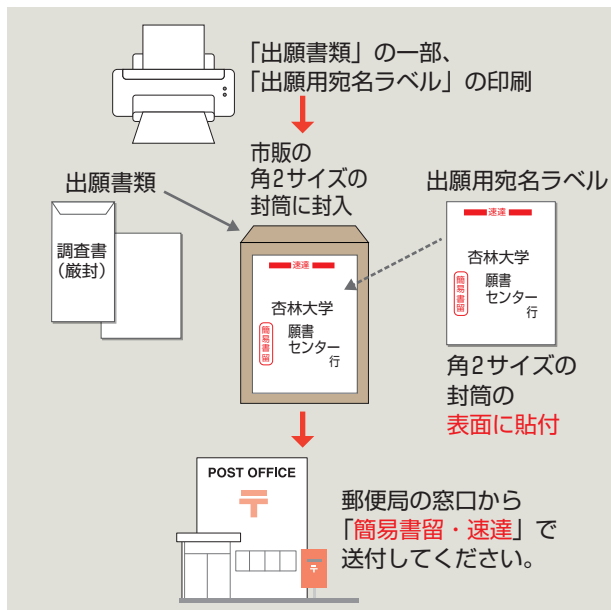
※外国人留学生選抜および外国人留学生編入学・転入学選抜の書類郵送先は、「杏林大学入学センター」です。

- ④ 出願締切日「**必着**」です。
出願期間はP. I -16～36の「6 入学試験日程・選考方法等」を確認してください。

- ※本学窓口での受付は一切行いません。
- ※出願書類に不備のあるものは受け付けません。
- ※提出された出願書類の返却・差替には一切応じられません。
- ※出願締切日（必着）以降に提出された出願書類は一切受け付けません。

インターネット出願サイトのマイページで、
出願書類の到着状況を確認できます。

願書センター（外国人留学生選抜は入学センター）が出願書類を受け取ると、右図のように「**出願書類到着**」のアイコンが表示されます。



角2封筒に手書きする場合の見本

速達	「速達」を表記
〒270-1399 千葉県印西市中央南2-4 日本郵便株式会社 印西郵便局留 杏林大学願書センター 宛	送付先を記入
受付番号 000000	受付番号 12ケタ
〒000-0000 東京都00区000000 000000	本人住所等を記入
氏名 キョウリン タロウ 氏名 杏林 太郎	氏名をカタカナと漢字で記入
志望学科 000000 出願入試区分 000000	志望学科等を記入
簡易書留	「簡易書留」を表記

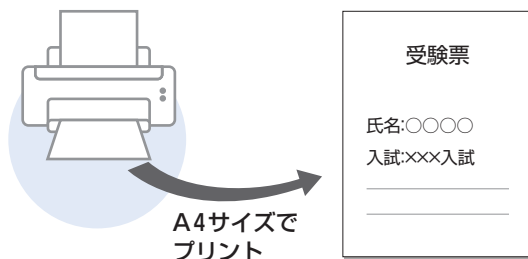
出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、不備のない必要書類が到着して完了となります。
登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

- ※インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日17時まで、入学検定料の支払いは出願登録時に指定される期限までに行ってください（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）。
- ※必要書類の郵送は出願締切日必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。
- ※出願書類に虚偽の記載があった場合は、合格を取り消すことがあります。

出願完了

- 入学検定料のお支払い、不備の無い出願書類の到着が確認でき次第、マイページ上に受験票ボタンが表示されます。また、インターネット出願時に登録したメールアドレスに、受験票を取得可能になった旨の通知メールが届きます。
※願書センターが書類を受け取ってから1週間程度で発行予定です。
- 下記の要領で各自マイページからダウンロードしてA4サイズで印刷してください。受験票の記載内容を必ずよく確認してください。
 - ①マイページにログインしたのち、「受験票」ボタンを押して受験票（PDF）を取得してください。
 - ②取得した受験票は、合格発表日まで大切に保管してください。試験当日は必ずプリントアウト（A4、片面印刷）し、持参してください。



- 以下の場合、願書センター（050-1744-7778）までお問い合わせください。
 - ・入学検定料のお支払い、出願書類の郵送が完了したあと、1週間以上受験票が発行されない場合
※年末から1月中旬頃は、出願が集中するため、受験票発行まで1週間以上掛かる場合があります。

3 入学試験の注意事項

試験会場の下見

事前に受験票に記載された試験会場の所在地を確認しておいてください。試験会場の下見は、外から建物を確認することは可能ですが、建物内（校舎等）への立ち入りはできません。

試験当日

- ① 受験票に記載された試験日、試験会場以外では受験できません。
- ② 受験票は、試験当日必ず印刷して持参し、試験会場内では常に携帯してください。受験票を忘れた場合は、係員に申し出てください。
- ③ 試験室へは、入室時間として定められた時間内に入室してください。入室開始時間より前に、試験室に入ることはできません。
- ④ 遅刻の場合（入室時間以降に試験会場へ到着する場合）は、直ちに係員に申し出て指示に従ってください。試験開始から30分を超えて遅刻した場合は受験することができません。
- ⑤ 試験会場付近の交通機関に大幅な乱れが生じた場合は、試験時間を繰り下げる場合があります。
なお、これに伴う受験者の個人的損害について本学は責任を負いません。
- ⑥ 試験開始から試験終了までは退室できません。
- ⑦ 試験時間中の飲食はできません。
- ⑧ 保護者等の受験者以外の方は試験会場に立ち入ることができません。
- ⑨ 駐車場および駐輪場の用意はありません。公共交通機関をご利用ください。
- ⑩ キャンパス内および試験会場内は禁煙です。

所持品等

- ① 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、黒鉛筆、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、腕時計、眼鏡、目薬、無地のハンカチ・フェイスタオル、ポケットティッシュです。詳細は、受験票に記載された机の上に置けるものをご確認ください。これら以外のものを使用または置いている場合には、解答を一時中断させて、試験終了まで預かることがあります。
- ② 以下のものを使用する場合、申請は不要です。ただし、試験開始前や不審な行為があった際に、監督者が確認する可能性があります。
座布団、クッション、ひざ掛け、手袋、サポーター、テーピング、包帯、湿布、ギプス、眼帯、コルセット
- ③ 耳栓の使用は禁止します。帽子、マフラーなどは原則として禁止します。
- ④ 英文字や地図等がプリントされている所持品の使用、服等は着用しないでください。着用している場合は、脱いでもらうことがあります。

不正行為

次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験ができなくなります。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とし、警察に被害届を提出する場合があります。

- ・ 解答用紙へ故意に虚偽の記入（本人以外の名前・受験番号を記入するなど）をすること。
- ・ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ・ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをしたりすること。
- ・ 配付された解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ・ 配付された問題冊子を、その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。
- ・ 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めたりすること。
- ・ 試験時間中に、定規、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ・ 試験時間中に、電子辞書、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末などの電子機器類を身に着けていたり、使用したりすること。
- ・ 試験時間中に携帯電話などの電子機器や時計などの音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らし、試験の進行に影響を与えること。
- ・ 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けたりすること。
- ・ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- ・ 試験会場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ・ 試験会場において監督者等の指示に従わないこと。
- ・ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

4 合格発表

1. 合格発表の確認方法

学内掲示（医学部のみ）、インターネットによる合否照会システムで、合否結果を確認することができます。確認方法により発表期間が異なりますのでご注意ください。

合否結果について、電話等による問い合わせには一切応じられません。

合格者には、合格通知および入学手続書類をインターネット出願サイト上で発行します。書類は郵送されません。

合否照会システム による合格発表	受験番号・生年月日を入力すると、合否結果が表示されます。補欠の場合には補欠順位が併記されます。利用期間は、原則として以下の通りです。 【総合型選抜（AO入試）、学校推薦型選抜、編入学・転入学選抜、外国人留学生選抜】 合格発表日から、入学手続締切日まで 【一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜】 合格発表日から、2025年3月31日（月）まで ただし、2次試験がある入試区分においては、1次試験の合格発表日から2次試験日の午前8時までが1次試験の合格発表期間です。 合否照会URL https://www.gouhi.com/kyorin-u/ ※合否照会の利用可能期間以外は、照会できません。  〈合否照会システム利用上の注意〉 ・合否照会システムの開始直後は回線が混み合いインターネットの画面表示が遅いことが予想されます。その場合には、しばらくたってから再度操作を行ってください。 ・電話による合否の確認、操作方法の問い合わせ、受験番号確認などについては一切応じられません。 ・合否照会システムの誤作動を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は一切認められません。 （合否照会画面） 								
学内掲示 による合格発表 （医学部のみ）	合格者の受験番号および補欠者の受験番号・補欠順位を掲示します。 ■ 掲示期間（発表時間） 発表日を含めて3日間です（日曜日・祝日は含みません）。 下記の時間で掲示を確認することができます。 <table><thead><tr><th></th><th>発表時間</th></tr></thead><tbody><tr><td>合格発表日当日</td><td>発表開始時間から17：00まで</td></tr><tr><td>翌日以降</td><td>原則平日9：00から17：00まで</td></tr><tr><td>土曜日</td><td>9：00から13：00まで</td></tr></tbody></table> ■ 掲示場所 医学資料情報センター棟1階掲示板（三鷹キャンパス）		発表時間	合格発表日当日	発表開始時間から17：00まで	翌日以降	原則平日9：00から17：00まで	土曜日	9：00から13：00まで
	発表時間								
合格発表日当日	発表開始時間から17：00まで								
翌日以降	原則平日9：00から17：00まで								
土曜日	9：00から13：00まで								

2. 補欠者への繰上合格の通知

補欠者は、2025年3月31日（月）まで、合否照会システムで補欠順位を確認することができます。補欠通知書は郵送されません。

※補欠者は、正規合格者の入学手続状況に欠員が生じた場合、補欠順位上位者から順に繰上合格となります。繰上合格が決定次第、本学より通知します。

※繰上合格の通知は、出願時に登録された複数の電話番号やメールアドレスに連絡します。

繰上合格のメッセージが届いたり、電話不在着信があった際は、速やかに担当部署へ折り返しご連絡ください。

不在だった場合は、何度か連絡をおこないます。

※補欠からの繰上合格は、年度によって状況が異なります。繰上合格の見込みなどについての問い合わせにはお答えできません。

■補欠者への繰上合格通知方法

外国語学部 総合政策学部 保健学部	入学センターよりSMS・メール・電話で通知
医学部	医学部事務課入試係より電話で通知

補欠者の繰上終了については、ホームページ（受験生サイト）

（<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>）でお知らせいたします。



3. 入学試験の成績開示

一般選抜の不合格者を対象として、受験者本人の申請により入学試験成績を開示します。希望者は下記要領により申請手続きを行ってください。

■成績開示対象・内容

外国語学部 総合政策学部	一般選抜（前期日程・後期日程）の不合格者を対象に、入学試験の総得点および順位を開示します。
保健学部	一般選抜の不合格者を対象に、入学試験の総得点および順位を開示します。
医学部	一般選抜1次試験の不合格者を対象に、入学試験（学科試験）の総得点および順位を開示します。

申込受付期間	2025年4月上旬（予定）
成績開示時期	2025年5月下旬（予定）

■申請方法

成績開示の申請方法は、2025年3月下旬にホームページ（受験生サイト）

（<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>）でお知らせします。

成績開示申請の際、「受験番号」が必要となりますので、必ず保管しておいてください。



■お問い合わせ先

杏林大学 入学センター

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 TEL：0422-47-0077

5 入学手続

本学の入学手続は、インターネットを利用して行います。

合格者は、各入試区分の合格発表日翌日の、午前10時以降に、インターネット出願サイトにログインし、入学手続を行ってください。

※入学手続書類は郵送されません。

※確認・印刷する書類が多いため、パソコンからのログインを推奨します。

インターネット出願サイト（9月2日（月）より公開） <https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>

1. 手続きの方法

インターネット出願サイト上で発行される入学手続書類（PDF）によって手続きを行ってください。入学手続締切日を [P.1-16～36の「5 入学試験日程・選考方法等」](#) で確認し、入試区分ごとに定められた入学手続締切日までに手続きを完了してください（入学手続は、各入試区分の合格発表日翌日の、午前10時から行えます。繰上合格者の入学手続期間は別途設定されます）。指定締切日までに入学手続を完了しない場合は入学を許可しません。

本学窓口に入入学手続書類を持参する場合は、平日9:00から16:00まで、土曜日9:00から12:00までの間に来校してください（日曜日・祝日および創立記念日（11月11日）・入試日・年末年始（12月29日～1月3日）は閉室しています）。ただし、本学窓口では現金の取り扱いができませんので、学納金は事前に金融機関で振込みを済ませておいてください。

※入学手続に関する詳細は合格者に通知します。

入学手続窓口

外国語学部・総合政策学部・保健学部	入学センター（井の頭キャンパスC棟1階）
医学部	医学部事務課（三鷹キャンパス 医学部講義棟A 1階）

学納金は、入学金等を除き各学年とも2期に分けて納入してください。

※1年次秋学期・後期以降の学納金の納入については、9月以降ご案内します。

※杏林大学では、入学に関連した寄付金・学債の募集は一切行っておりません。

〈高等教育修学支援新制度および日本学生支援機構奨学金の予約採用者の方へ〉

正式採用は入学後になりますので、入学前に奨学金をご活用いただくことはできません。入学手続時学納金・諸費は、入学手続期間内に全額を納入いただき、入学後、正式に採用決定され次第、給付奨学金の支援区分に応じて還付致します。

5

入学手続

1. 手続きの方法

2. 学納金・諸費

2025年度入学者の学納金および諸費は以下の通りです。（学納金は年度ごとに変更になる可能性があります。）学納金および諸費の入学手続時納入額は、入学手続締切日までに一括納入していただきます。

■ 外国語学部・総合政策学部

1 年次入学

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料	460,000円	460,000円	920,000円	460,000円	460,000円	920,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	810,000円	560,000円	1,370,000円	560,000円	560,000円	1,120,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,300円	—	3,300円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	10,000円	—	10,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
計	33,300円	—	33,300円	20,000円	—	20,000円

3 年次入学

学納金

	初 年 度			4 年 次		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料	460,000円	460,000円	920,000円	460,000円	460,000円	920,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	810,000円	560,000円	1,370,000円	560,000円	560,000円	1,120,000円

諸費

	初 年 度			4 年 次		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	1,750円	—	1,750円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	10,000円	—	10,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
計	31,750円	—	31,750円	20,000円	—	20,000円

（上表共通）

- ※¹ 入学時のみ納入。
- ※² 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。保険料は変更になる可能性があります。
- ※³ 入学時のみ納入。外国語学部・総合政策学部同窓会会則により、外国語学部・総合政策学部在学中の学生は同窓会員（準会員）となります。

課程費の納入について

入学後、以下の課程を履修する場合は、別途課程費が必要となります。納付時期、納付方法などは入学後にお知らせいたします。

課程費名称	課 程 費
教 職 課 程 費	50,000円

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などにパソコンを使用する機会が多くあります。パソコンの用意をお願いします。必要スペック等については、別途入学手続時にご案内します。

保健学部

健康福祉学科・臨床心理学科

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料※ ⁴	470,000円	470,000円	940,000円	610,000円	610,000円	1,220,000円
実験実習費	25,000円	25,000円	50,000円	25,000円	25,000円	50,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	845,000円	595,000円	1,440,000円	735,000円	735,000円	1,470,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,370円	—	3,370円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	50,000円	—	50,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
学生会費※ ¹	15,000円	—	15,000円	—	—	—
計	88,370円	—	88,370円	20,000円	—	20,000円

臨床検査技術学科・看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）・臨床工学科・救急救命学科・
リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚療法学専攻）・診療放射線技術学科

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料※ ⁴	470,000円	470,000円	940,000円	610,000円	610,000円	1,220,000円
実験実習費	150,000円	150,000円	300,000円	150,000円	150,000円	300,000円
施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円	125,000円	125,000円	250,000円
計	995,000円	745,000円	1,740,000円	885,000円	885,000円	1,770,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,370円	—	3,370円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	50,000円	—	50,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
学生会費※ ¹	15,000円	—	15,000円	—	—	—
計	88,370円	—	88,370円	20,000円	—	20,000円

（上表共通）

- ※¹ 入学時のみ納入。
※² 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。
保険料は変更になる可能性があります。
※³ 入学時のみ納入。保健学部同窓会（名称：杏里会）会則第 3 条により、保健学部 に在学中の学生は同窓会員（準会員）となります。
※⁴ 授業料は 2 年次以降 1,220,000円（年額）となります。

課程費の納入について

入学後、右記の課程を履修
する場合は、別途課程費が
必要となります。納付時期、
納付方法などは入学後にお
知らせいたします。

課程費名称	課 程 費
教 職 課 程 費	50,000円
助 産 師 課 程 費※ ¹	300,000円
保 健 師 課 程 費※ ¹	100,000円
社会福祉士課程費※ ²	50,000円
精神保健福祉士課程費※ ²	50,000円
細胞検査士養成課程費※ ¹	150,000円

- ※¹ 課程の履修にあたって、入学後に選考を実施する。
※² 社会福祉士課程と精神保健福祉士課程の両方を履
修する場合の課程費の合計は 75,000円とする。

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などに
パソコンを使用する機会が多くあります。
パソコンの用意をお願いします。必要ス
ペック等については、別途入学手続時に
ご案内します。

杏林大学では、入学に関連した寄付金・学債の募集は一切行っておりません。

■医学部

学納金

	初年度			2年次以降		
	入学手続時	後期	年額	前期	後期	年額
入学金※ ¹	1,500,000円	—	1,500,000円	—	—	—
授業料	1,500,000円	1,500,000円	3,000,000円	1,500,000円	1,500,000円	3,000,000円
実験実習費	500,000円	500,000円	1,000,000円	500,000円	500,000円	1,000,000円
施設設備費※ ²	2,000,000円	2,000,000円	4,000,000円	750,000円	750,000円	1,500,000円
計	5,500,000円	4,000,000円	9,500,000円	2,750,000円	2,750,000円	5,500,000円

諸費

		初年度のみ		
		入学手続時	後期	年額
杏会費※ ¹ (保護者会)	入会金	30,000円	—	30,000円
	会費 (6年分)	270,000円		270,000円
同窓会費※ ¹ ※ ³	入会金	50,000円		50,000円
	会費	250,000円		250,000円
学生会費※ ¹	入会金	40,000円		40,000円
	会費 (6年分)	96,000円		96,000円
学生教育研究災害傷害保険料※ ⁴		4,700円		4,700円
計		740,700円		740,700円

(上表共通)

- ※¹ 入学時のみ納入。
※² 施設設備費は2年次以降1,500,000円(年額)となります。
※³ 医学部同窓会会則第5条により、医学部に在学中の学生は同窓会員(学生会員)となります。
※⁴ 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。
保険料は変更になる可能性があります。

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などにパソコンを使用する機会が多くあります。パソコンの用意をお願いします。必要スペック等については、別途入学手続時にご案内します。

3. 入学辞退手続

学納金納入後に入学を辞退する場合は、以下の方法で期限内に手続を行ってください。
期限内に辞退手続が完了しない場合、辞退は認められず、既納付金の返還はできません。
期限内に辞退手続が完了した方には、入学金を除く既納付金が返還されます。詳細については、入学手続時にご案内します。

学部	辞退の連絡方法	連絡先	郵送について
外国語学部 総合政策学部 保健学部	2025年3月31日(月) 昼12時までに電話により 辞退の連絡を してください。	入学センター 井の頭キャンパスC棟1階 TEL 0422-47-0077	電話連絡をした際に指定された書式に必要事項を記入の上、期限内(2025年3月31日消印有効)に本学へ郵送してください。
医学部		医学部事務課 三鷹キャンパス TEL 0422-44-1865	電話連絡をした際に詳細をお伝えします。

5

入学手続

2. 学納金・諸費

3. 入学辞退手続

4. 奨学金・奨励金

① 杏林大学独自の奨学金（給付型）

- ・杏林大学には、学生の修学支援及び経済的負担の軽減を目的とした独自の給付型奨学金制度（返還義務なし）があります。
- ・募集のお知らせは、入学後に大学のシステム「UNIVERSAL PASSPORT」や掲示板で行います。
- ・以下の対象や給付金額等については予告なく変更する場合があります。

■ 杏林大学奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	【全学部2年生以上】 経済的理由により修学継続が困難な者 GPA、収入基準があります
給付金額	学部生 年間12万円～（各学部の給付金額については変更する場合があります）
募 集	1回／年

■ 杏林大学成績優秀学生表彰金 ※申込不要。選出された方には連絡します。

対 象	【全学部2～4年生（医学部は2～6年生）】 ①本学での前年度1年間の学業成績が各学科・学年において1位の者 ②人物・生活面で優れている者 ※①～②を全て満たす者
給付金額	5万円

■ 杏林大学特別表彰学生表彰金 ※まずは各学部賞への申込みをしてください。

対 象	難関資格の取得や社会貢献等で顕著な功績を残した者
給付金額	3万円

② 日本学生支援機構（JASSO）奨学金等について

（高校3年次に在籍高校で申込む方法と大学入学後に申込む方法があります）

- ・修学支援新制度 給付型奨学金（返還不要）
- ・貸与型奨学金（無利子または有利子で返還必要）
- ・入学時特別増額貸与奨学金（入学時のみの一時金で単独での申込は不可、有利子で返還が必要）

※上記についての詳細は、日本学生支援機構や文部科学省のホームページをご覧ください

※修学支援新制度 給付型奨学生に採用された方は、授業料等の減免を受けることができます

（所定の期間内に納入いただいた授業料等から支援区分に応じた額を大学より後日返還します）

※家計急変が発生した場合、随時受付可能です。申込可能な期間に制限がある場合がありますので、早めにご相談ください

奨学金等に関するお問い合わせ先：学生支援課 TEL（直通）：0422-47-8052

③ その他の奨学金（医学部対象）

■ 医学部優秀賞 ※申込不要。大学選出。

対 象	【医学部 2 ～ 6 年生】（各学年 3 名）
条 件	①本学での前年度 1 年間の学業成績が優れている。 ②人物・生活面で優れている。 ※①、②を全て満たし、各学年において 1 位から 3 位の者
給付金額	1 人当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ① 1 位の者を 30 万円 ② 2 位の者を 20 万円 ③ 3 位の者を 10 万円

■ 医学部研究優秀賞（STUDENT RESEARCH AWARD）※申込必要。選考あり。

対 象	【医学部 1 ～ 6 年生】（1 学年最大 10 名）
申込条件	国内外の学会等において、筆頭で発表等を行い、顕著な実績・功績を残し、優れた研究活動。
給付金額	1 件当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ① 1 件最大年額 10 万円～30 万円 ② 1 学年最大 10 件 × 6 学年

■ 医学部海外研修・留学助成金 ※申込必要。選考あり。

対 象	【医学部 1 ～ 6 年生】（①語学研修上限 50 名、②臨床実習上限 40 名）
申込条件	医学部で募集する海外研修（語学研修、臨床実習）に参加。
給付金額	1 人当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ①海外研修（語学研修） 年額 10 万円（年間上限 50 名） ②海外研修（臨床実習） 年額 10 万円（年間上限 30 名） 年額 20 万円（年間上限 10 名）

■ 茨城県地域医療医師修学資金貸与制度（医学部対象）については、以下問い合わせ先に連絡してください。

（問い合わせ先：茨城県 医療人材課医師確保グループ TEL 029-301-3191）

医学部対象の奨学金等に関するお問い合わせ先：医学部事務課 TEL（直通）：0422-44-1865

5. 海外研修・留学支援

■ 杏林大学海外研修・留学奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外研修、海外留学に参加する者【全学部】
申込条件	①国際交流センターで募集する研修・留学プログラムに参加する者 ②その他大学に認められた研修・留学に参加する者 ③前年度の成績（GPA値）が各学部・研究科の上位に位置している者 ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	①海外留学（1年） A採用70万円・B採用50万円・C採用30万円 ②海外留学（半年） A採用35万円・B採用25万円・C採用15万円 ※選考の評価の順位が上であるほど、より良い区分（A～C採用）での採用となります。
募集時期	年2回（6月頃、10月頃）

■ 外国語学部熊谷奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外留学（半年以上）に参加する者【 <u>外国語学部のみ</u> 】
申込条件	①国際交流センターで募集する留学プログラムに参加する者 ②大学が認めた留学に参加する者 ③留学出発時に外国語学部の2年生か3年生であること ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	・海外留学にかかる費用が50万円以下の場合は、その費用の75%を給付 ・海外留学にかかる費用が50万円を超える場合は、50万円を上限に給付 ・採用者全員への給付総額は100万円が上限
募集時期	年1回（10月頃）

■ 杏会海外留学奨励金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外留学（半年以上）に参加する者【 <u>総合政策学部・外国語学部</u> 】
申込条件	①国際交流センターで募集する留学プログラムに参加する者 ②大学が認めた留学に参加する者 ③留学出発時に在学中であること ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	総合政策学部生2万円、外国語学部生3万円（いずれも在学中1回のみ）
募集時期	年2回（6月頃、10月頃）

※上記は2023年度の実績です。

6 試験会場

1. キャンパス会場 [井の頭キャンパス／三鷹キャンパス]

井の頭キャンパス

[google map](#) 

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

JR 三鷹駅	南口 バス約15分
JR・京王井の頭線 吉祥寺駅	南口 バス約15分
京王線 仙川駅	北口 バス約20分
京王線 調布駅	北口 バス約25分
京王線 千歳烏山駅	北口 バス約25分

井の頭キャンパス
バス乗り場詳細はこちら



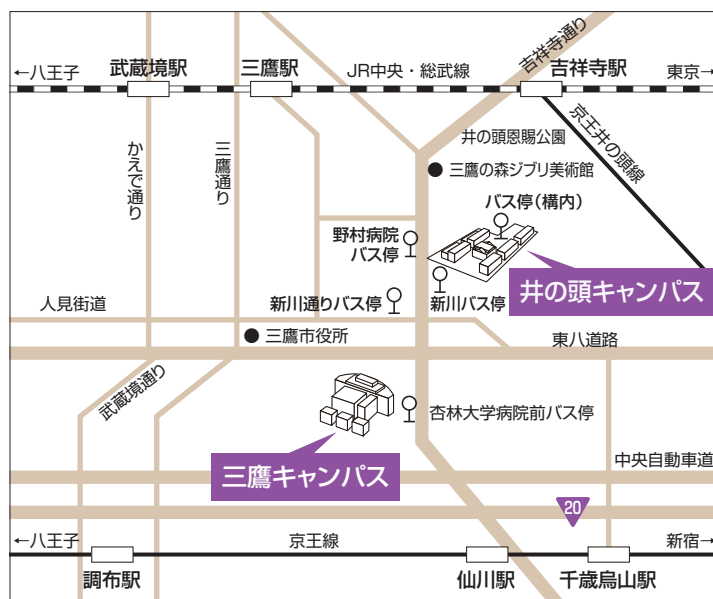
三鷹キャンパス

[google map](#) 

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

JR 三鷹駅	南口 バス約20分
JR・京王井の頭線 吉祥寺駅	南口 バス約20分
京王線 仙川駅	北口 バス約15分
京王線 調布駅	北口 バス約25分

三鷹キャンパス
バス乗り場詳細はこちら



[会場間違いにご注意ください]

井の頭キャンパス・三鷹キャンパスは異なる敷地にあり、最寄りのバス停が異なります。
バス路線によっては、両キャンパスの最寄りバス停に停留する路線もあります。試験会場へお越しの際は、試験会場および降車すべきバス停を必ず確認してください。試験会場として設定されていないキャンパスでは試験を受けることはできません。
※井の頭キャンパス・三鷹キャンパス間は約1km、徒歩約15分となります。

2. サテライト会場 [パシフィコ横浜ノース／東京たま未来メッセ]

パシフィコ横浜ノース



〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2

みなとみらい線 みなとみらい駅 2番出口 徒歩5分

※右記のとおり「みなとみらい駅」北改札を出て、
2番出口（いちょう通り口）をご利用ください。



6
試験会場

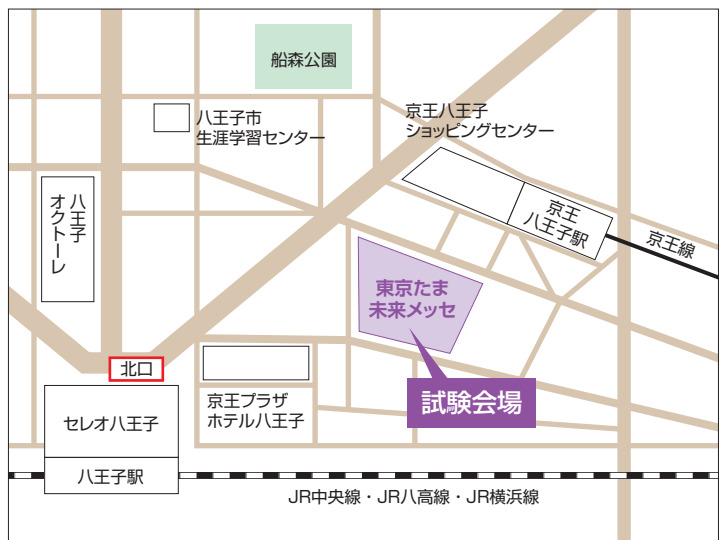
東京たま未来メッセ



〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目19-2

JR 八王子駅 北口 徒歩5分

京王線 京王八王子駅 中央口 徒歩2分



本学までの案内図



井の頭キャンパス 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

三鷹キャンパス 〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

八王子キャンパス 〒192-8508 東京都八王子市宮下町476

お問い合わせ一覧

よくある問い合わせについては、本学ホームページをご確認ください。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/qa/>



出願に関するお問い合わせ先

インターネット出願に関するお問い合わせ	株式会社キャリアス 「学び・教育」出願・申込サービス サポートセンター TEL.0120-202079（出願期間中は24時間対応）
出願書類に関するお問い合わせ	杏林大学 願書センター TEL.050-1744-7778 受付時間：平日 9：00～17：00（年末年始（12月28日～1月5日）を除く）
その他入試に関するお問い合わせ	入学センター（井の頭キャンパス） TEL.0422-47-0077 医学部事務課（三鷹キャンパス） TEL.0422-44-1865 受付時間：平日 9：00～17：00、土曜 9：00～13：00 日曜日・祝日および創立記念日（11月11日）・入試日・年末年始（12月29日～1月3日）の 事務取り扱いは行っておりません。

※悪天候や自然災害等の際は、受付時間が変更となる可能性があります。



杏林大学

www.kyorin-u.ac.jp/

2025年度 杏林大学 学生募集要項

外国人留学生選抜 公募制

外国人留学生編入学・転入学選抜 公募制

外国語学部
総合政策学部
保健学部
医学部

建学の精神

杏林大学の建学の精神は「真善美の探究」です。

「真善美の探究」を通じて、すぐれた人格を持ち、人のために尽くすことのできる人材を育成することが本学の教育理念です。



「真」

真理を究めるための学問をすることです。

真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味します。

「善」

倫理観を持ったよき人間性・人格を形成することです。

他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことです。

「美」

自然を愛し、他人を尊重し、自らの身を持するのに厳しくあれば、美しい風格ある人間に成長していくということです。

個人情報の取り扱い

出願および入学手続にあたってお知らせいただいた個人情報（氏名・住所等）は、①入学試験の実施（出願処理・試験実施）、②審査結果・合格発表、③入学手続と、これらに付随する事項を行うことを目的に利用します。上記業務の一部は、杏林大学入学センターより当該業務の委託を受けた業者において行いますが、個人情報に関しては安全管理を徹底し、目的の範囲内で使用します。

杏林大学プライバシーポリシー <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/privacy.html>

受験または修学上の配慮に関する事前相談

基本的人権を尊重し、障がいの有無や程度によって分け隔てることなく、能力と修学意志を持つ学生を受け入れることを基本方針とします。

障がいや疾病等により、入学試験を受ける際、または入学後の学生生活において特別の配慮を必要とする方は、本学の教育方法や支援体制および施設設備などで対応することが可能か事前に協議するため、原則出願前（試験の1カ月前迄）に申請が必要です（入学試験の可否に影響を及ぼすことはありません）。

なお、出願後に大きな病気や怪我をし、受験上の配慮が必要となった場合も、速やかに入学センターまでご連絡ください。

相談先 入学センター TEL. 0422-47-0077（直通）

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/support/>



目 次

I

1	アドミッション・ポリシー	2
2	募集人員	4
3	出願資格	6
4	出願書類	8
5	入学試験日程・選考方法等	10

II

1	検定料	2
2	インターネット出願の手順	3
	インターネット出願の流れ	3
	事前準備	4
	出願方法	5
3	入学試験の注意事項	10
4	合格発表	11
	1. 合格発表の確認方法	11
	2. 補欠者への繰上合格の通知	12
	3. 入学試験の成績開示	12
5	入学手続	13
	1. 手続きの方法	13
	2. 学納金・諸費	14
	3. 入学辞退手続	16
	4. 奨学金・奨励金	17
	5. 海外研修・留学支援	19
6	試験会場	20
	1. キャンパス会場	20
	[井の頭キャンパス／三鷹キャンパス]	
	2. サテライト会場	21
	[パシフィコ横浜ノース／	
	東京たま未来メッセ]	
	本学までの案内図	22
	お問い合わせ一覧	23

I

1	アドミッション・ポリシー	2
2	募集人員	4
3	出願資格	6
4	出願書類	8
5	入学試験日程・選考方法等	10

1 アドミッション・ポリシー

杏林大学のアドミッション・ポリシー

本学の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人
- (1-2) 他者の考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-3) 柔軟な思考力と知的探究心を持ち、判断力や表現力を駆使して自発的に問題解決につなげる意欲を持つ人
- (1-4) 広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持ち、グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー) 及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

- (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。(知識・理解・表現力)
- (2-2) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力)
- (2-3) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力)
- (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に貢献する意欲や経験がある。(関心・意欲・経験)
- (2-5) 他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とのコミュニケーションを図ろうとする態度を有している。(協調性・コミュニケーション能力)

各学部のアドミッション・ポリシー（抜粋）

各学部のアドミッション・ポリシーから「求める学生像、資質」を抜粋しています。

各学部のアドミッション・ポリシーの全文、各学科のアドミッション・ポリシーについては本学ホームページ
(<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/>) でご確認ください。



外国語学部

外国語学部と各学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 実践的な外国語運用能力を身につけ、グローバル化する実社会で活躍する仕事に就く意欲がある人
- (1-2) 外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-3) 外国語学部の各学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人
- (1-4) 外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人
- (1-5) グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人

総合政策学部

総合政策学部は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人
- (1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人
- (1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
- (1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人
- (1-5) 政治・経済・法律・国際関係・福祉・経営および会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人

保健学部

保健学部は、学部の理念・目的を理解し、その達成に向けて真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
- (1-2) 科学的視点を持ち合わせ、様々な現象について関心、興味を持てる人
- (1-3) 高い倫理観と職業意識を持ち、さらにあらゆる世代の人々と積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を持つ人
- (1-4) 疑問点などをそのまま放置せず、解決に向けた努力を怠らない人

医学部

医学部医学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲ある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 生涯を通じて医師として他人のため、社会のために奉仕する強い意欲をもつ人
- (1-2) 生命の尊厳を尊ぶ心をもつとともに、高い倫理観と豊かな人間性を備えた人
- (1-3) 柔軟な思考力と知的探究心を持ち、生涯を通じて医学の修得・研鑽に熱意をもって取り組める人
- (1-4) 協調性と高いコミュニケーション能力を持ち、周囲の人と良好な関係を築ける人

2

募集人員

外国語学部

	総合型選抜 (AO入試)		学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学共通テスト 利用選抜		外国人 留学生選抜	計	総合計
	前期日程	後期日程		前期日程	後期日程	前期日程	後期日程			
英 語 学 科	25 名	5 名	55 名	26 名	7 名	8 名	3 名	1 名	130 名	252 名
中 国 語 学 科	8 名	2 名	10 名	6 名	2 名	2 名	1 名	1 名	32 名	
観光交流文化学科	17 名	3 名	38 名	22 名	2 名	5 名	2 名	1 名	90 名	

総合政策学部

	総合型選抜 (AO入試)			学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学共通テスト 利用選抜		外国人 留学生選抜	計	総合計
	A日程	B日程	C日程		前期日程	後期日程	前期日程	後期日程			
総 合 政 策 学 科	28 名	4 名	5 名	40 名	② 24 名	6 名	② 9 名	6 名	2 名	150 名	230 名
					③ 20 名		③ 6 名				
企 業 経 営 学 科	17 名	2 名	3 名	20 名	② 13 名	3 名	② 5 名	3 名	1 名	80 名	
					③ 10 名		③ 3 名				

② (2科目型) ③ (3科目型)

編入学・転入学【3年次】

		編入学選抜	外国人留学生 編入学選抜
外国語学部	英語学科	3 名	1 名
	中国語学科	1 名	1 名
	観光交流文化学科	1 名	1 名
総合政策学部	総合政策学科	3 名	1 名
	企業経営学科	1 名	1 名

※転入学募集人員：若干名

■ 保健学部

		総合型選抜 (AO入試)		学校推薦型 選抜	一般選抜		大学入学 共通テスト 利用選抜	外国人 留学生選抜	計	総合計
		健康スポーツ コース	適性検査型		A日程	B日程				
臨床検査技術学科		—	26 名	30 名	45 名	15 名	3 名	1 名	120 名	786 名
健康福祉学科		50 名	24 名	24 名	14 名	4 名	3 名	1 名	120 名	
看護学科	看護学専攻	—	10 名	34 名	40 名	12 名	3 名	1 名	100 名	
	看護養護教育学専攻	—	10 名	15 名	14 名	7 名	3 名	1 名	50 名	
臨床工学科		—	18 名	20 名	12 名	6 名	3 名	1 名	60 名	
救急救命学科		—	18 名	15 名	10 名	4 名	2 名	1 名	50 名	
リハビリテーション学科	理学療法専攻	—	18 名	15 名	20 名	8 名	3 名	1 名	65 名	
	作業療法専攻	—	15 名	16 名	10 名	5 名	3 名	1 名	50 名	
	言語聴覚療法専攻	—	7 名	6 名	7 名	2 名	2 名	1 名	25 名	
診療放射線技術学科		—	16 名	12 名	24 名	10 名	3 名	1 名	66 名	
臨床心理学科		—	20 名	20 名	24 名	12 名	3 名	1 名	80 名	

2 募集人員

■ 医学部

	一般選抜	大学入学 共通テスト 利用選抜	外国人 留学生選抜	計
医学科	89 名	15 名	1 名	105 名

3 出願資格

外国人留学生選抜（1年次・公募制）

外国語学部／総合政策学部／保健学部／医学部

以下1. および2. に該当する者。

外国語学部と総合政策学部については、さらに3. の要件を満たす者。

1. 以下①または②のいずれかに該当する者。

①日本以外の国籍を有し、外国において学校教育における12年以上の課程を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者で、かつ当該国において大学入学資格を有する者またはこれと同等以上の学力を有する者。

※この場合の学校教育とは、教育を受けた地域の正規教育課程（小学校：Elementary School、中学校：Junior High School、高等学校：High School）を指す。それ以外の学校・教育機関は12年の課程に含めない。

②日本以外の国籍を有し、外国における高等学校に対応する学校の課程（12年未満）を修了し、文部科学大臣が指定した「大学入学のための準備教育課程」を修了した者あるいは2025年3月までに修了見込みの者。

2. 出願時、既に日本国内に居住し、在留資格が、「留学」「家族滞在」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「技術・人文知識・国際業務」「永住者」「定住者」のいずれかであること。

（※入学に際しての在留資格の変更・更新手続は、各自で行うこと。本学では、合格者に対するビザの代行申請は行わない。）

3. 外国語学部 日本語能力試験（JLPT）において、N2 以上を取得している者。

総合政策学部 以下①～③のいずれかを満たす者。

①日本語能力試験（JLPT）において、N2 以上を取得している者

②日本留学試験（EJU）の2023年度または2024年度受験者で「日本語」科目の成績が240点以上の者

③J.TEST実用日本語検定の2023年度または2024年度受験者で成績がCレベル以上の者

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>

※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

外国人留学生編入学・転入学選抜（3年次・公募制）

外国語学部／総合政策学部

日本以外の国籍を有する者で、外国において通常の学校教育課程12年以上を修め、かつ、以下の1～3.すべてに該当する者。		
1.	編入学選抜	以下①または②のいずれかに該当する者。 ①国内外において日本の短期大学または高等専門学校に相当する教育課程を卒業した者、あるいは2025年3月までに卒業見込みの者。 ②日本の専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時数1700時間以上）を修了した者、あるいは2025年3月までに修了見込みの者。
	転入学選抜	以下①または②のいずれかに該当する者。 ①国内外の大学（4年制またはそれ以上の課程）を卒業した者、あるいは2025年3月までに卒業見込みの者。 ②国内外の大学において2年間以上在学し、62単位以上修得している者、あるいは2025年3月までに修得見込みの者。
2.	出願時、既に日本国内に居住し、在留資格が、「留学」「家族滞在」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「技術・人文知識・国際業務」「永住者」「定住者」のいずれかであること。 （※入学に際しての在留資格の変更・更新手続は、各自で行うこと。本学では合格者に対するビザの代行申請は行わない。）	
3.	外国語学部	日本語能力試験（JLPT）において、N2以上を取得している者。
	総合政策学部	以下①～③のいずれかを満たす者。 ①日本語能力試験（JLPT）において、N2以上を取得している者。 ②日本留学試験（EJU）の2023年度または2024年度受験者で「日本語」科目の成績が240点以上の者。 ③J.TEST実用日本語検定の2023年度または2024年度受験者で成績がCレベル以上の者。

個別の入学資格審査

本学では、複雑な学歴を有する等の理由により、入学資格について不明な点があり、「高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者」として入学資格認定を必要とする方について、個別に審査を行います。個別の入学資格審査を希望する場合、本学が指定する書類を提出する必要があります。詳細は本学ホームページをご確認ください。

URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/shinsa/>
※過去に海外の学校で学んでいても、本学出願時に日本の高等学校または中等教育学校を卒業または卒業見込みであれば、入学資格審査は不要です。その場合、出願書類提出時、上記の日本の教育機関の調査書と併せて、海外の学校の成績証明書等もご提出ください。

4 出願書類

出願書類は、宛名ラベルを貼った市販の角型2号封筒に入れ、「杏林大学入学センター」宛に簡易書留・速達にて郵送、または本学入学センター窓口を持参してください。

※出願書類に不備のあるものは受け付けません。

※原則として提出された出願書類の返却・差替はできませんが、原本（オリジナル）の返却が必要な場合は、提出時にその旨申し出てください。

※出願締切日（必着）以降に提出された出願書類は、一切受け付けません。

杏林大学入学センター

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 井の頭キャンパスC棟1階

TEL：0422-47-0077

平日9:00～16:00、土曜9:00～12:00

※日曜日・祝日・試験日・創立記念日（11/11）・年末年始（12/29～1/3）は窓口での受付はできません

入 試 区 分	外国語学部	総合政策学部	保健学部	医学部
①卒業証書、卒業（見込）証明書または在籍期間証明書、成績証明書の原本	○	○	○	○
②準備教育課程修了（見込）の証明書	△	△	△	△
③国内教育機関在籍（出席状況）証明書、成績証明書	△	△	△	△
④日本語試験の成績証明書等のコピー	○	○	△	△
⑤住民票	○	○	○	○
⑥パスポートのコピー	○	○	○	○
⑦在留カードのコピー	○	○	○	○

○：必須

△：該当者のみ提出

※出願時に写真データが必要です。詳細は [P.Ⅱ-4](#) をご確認ください。

① 卒業証書、卒業（見込）証明書または在籍期間証明書、成績証明書の原本

1 年次入学の場合

- ・ 自国の出身高等学校（High School）の卒業証書（Diploma）または卒業（見込）証明書（Graduation Certificate）の原本
- ・ 自国の出身高等学校3年間（4年間）の成績証明書（Official-Academic Transcript）の原本

3 年次入学の場合

- ・ 自国の出身高等学校（High School）の卒業証書（Diploma）の原本
- ・ 高等教育機関（大学・短大：Junior College、専門学校：Technical-College）の卒業証書（Diploma）、卒業（見込）証明書（Graduation Certificate）、在籍期間証明書のいずれか原本
- ・ 高等教育機関の成績証明書（Official Academic Transcript）の原本

※卒業証書または卒業（見込）証明書、成績証明書、在籍期間証明書は日本語もしくは英語のものを提出。その他の言語により作成された証明書等は、次の3点 ①証明書原本（日本語、英語以外）1通、②翻訳（自分で用意した日本語訳または英訳）、③大使館・公証処（日本の公証役場は不可）での公証 を提出。

※原本を提出できない場合はcertified true copy（原本から正しく複製されたものであることを卒業した学校または公証役場等公的機関が証明したもの）を提出。（日本語学校での証明書は不可）

※原本の返却を希望する場合は、書類提出時に申し出ること。

※卒業後、出身学校が校名を変更している場合や閉校となっている場合は、それを証明する書類も提出。

※「卒業見込み」で出願する場合は、入学後に必ず卒業証明書を提出。

②準備教育課程修了（見込）を証明する書類

『3 . 出願資格』1 年次入学出願資格の1-②に該当する場合のみ提出。

③国内教育期間在籍（出席状況）証明書、成績証明書

出願時に日本語学校・専門学校・短期大学・大学等に在籍している場合は提出。出席状況記載のあるもの。

④日本語試験の成績証明書等のコピー

以下のいずれかの日本語試験を受験した者は、指定書類を提出すること。

●日本語能力試験（JLPT）

「合否結果通知書」「成績証明書」「日本語能力認定書」のいずれかのコピーを提出。

※ 外国語学部志願者および、総合政策学部の出願資格3-①対象者は必ず提出。

●日本留学試験（EJU）

2023年度または2024年度試験の「日本留学試験受験票」のコピーを提出。

※総合政策学部の出願資格3-②対象者は必ず提出。

●J.TEST実用日本語検定

2023年度または2024年度試験の「成績表」のコピーを提出。

※総合政策学部の出願資格3-③対象者は必ず提出。

⑤住民票

志願者本人のもの。出願日より3ヶ月以内に発行され、在留資格・在留期間が記載されたもの。

⑥パスポートのコピー

氏名、生年月日、顔写真、国籍、パスポートの有効期限のページ、およびビザのページのコピーを提出。

⑦在留カードのコピー

両面をコピーして提出。

5 入学試験日程・選考方法等

外国語学部

[英語学科、中国語学科、観光交流文化学科]

外国人留学生選抜（1年次・4月入学）

日程	出 願 期 間	10月16日(水) 9：00 ～ 10月31日(木) 17：00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）										
	試 験 日	11月23日(土)										
	合 格 発 表 日	12月 2 日(月) 15:00 ～										
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着										
選考方法	公募制											
	▼英語学科 ●英語 ●面接 ▼中国語学科 / 観光交流文化学科 ●日本語 ●面接	<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9：00～9：30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9：30～9：50</td></tr><tr><td>英 語 ・ 日 本 語</td><td>9：50～10:50 (60分)</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:50～11:15</td></tr><tr><td>面 接</td><td>11:15～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。		入 室 時 間	9：00～9：30	受験上の諸注意	9：30～9：50	英 語 ・ 日 本 語	9：50～10:50 (60分)	受験上の諸注意	10:50～11:15	面 接
入 室 時 間	9：00～9：30											
受験上の諸注意	9：30～9：50											
英 語 ・ 日 本 語	9：50～10:50 (60分)											
受験上の諸注意	10:50～11:15											
面 接	11:15～											
試験会場	井の頭キャンパス											

外国人留学生編入学・転入学選抜（3年次・4月入学）

日程	出 願 期 間	10月16日(水) 9:00～10月31日(木) 17:00 出願登録・検定料振込(出願書類郵送 締切日 必着)										
	試 験 日	11月23日(土)										
	合 格 発 表 日	12月2日(月) 15:00～										
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着										
選考方法	公募制											
	▼英語学科 ●英語 ●面接 ▼中国語学科 / 観光交流文化学科 ●日本語 ●面接 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9:00～9:30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9:30～9:50</td></tr><tr><td>英 語 ・ 日 本 語</td><td>9:50～10:50 (60分)</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10:50～11:15</td></tr><tr><td>面 接</td><td>11:15～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9:00～9:30	受験上の諸注意	9:30～9:50	英 語 ・ 日 本 語	9:50～10:50 (60分)	受験上の諸注意	10:50～11:15	面 接
入 室 時 間	9:00～9:30											
受験上の諸注意	9:30～9:50											
英 語 ・ 日 本 語	9:50～10:50 (60分)											
受験上の諸注意	10:50～11:15											
面 接	11:15～											
試験会場	井の頭キャンパス											

5

入学試験日程・選考方法等

外国語学部

総合政策学部

[総合政策学科、企業経営学科]

外国人留学生選抜（1年次・4月入学）

日程	出 願 期 間	10月16日(水) 9：00 ～ 10月31日(木) 17：00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）										
	試 験 日	11月23日(土)										
	合 格 発 表 日	12月 2 日(月) 15：00 ～										
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着										
選考方法	公募制											
	●小論文（「現代社会」に関するテーマ） ●面接											
	<table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9：00～9：30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9：30～9：50</td></tr><tr><td>小 論 文</td><td>9：50～10：30（40分）</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10：30～10：55</td></tr><tr><td>面 接</td><td>10：55～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9：00～9：30	受験上の諸注意	9：30～9：50	小 論 文	9：50～10：30（40分）	受験上の諸注意	10：30～10：55	面 接
入 室 時 間	9：00～9：30											
受験上の諸注意	9：30～9：50											
小 論 文	9：50～10：30（40分）											
受験上の諸注意	10：30～10：55											
面 接	10：55～											
試験会場	井の頭キャンパス											

外国人留学生編入学・転入学選抜（3年次・4月入学）

日 程	出 願 期 間	10月16日(水) 9：00 ～ 10月31日(木) 17：00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）										
	試 験 日	11月23日(土)										
	合 格 発 表 日	12月 2 日(月) 15：00 ～										
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着										
選 考 方 法	公 募 制											
	●小論文（「現代社会」に関するテーマ） ●面接 <table><tr><td>入 室 時 間</td><td>9：00～9：30</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>9：30～9：50</td></tr><tr><td>小 論 文</td><td>9：50～10：30（40分）</td></tr><tr><td>受験上の諸注意</td><td>10：30～10：55</td></tr><tr><td>面 接</td><td>10：55～</td></tr></table> ※面接の開始時刻は受験番号により異なる。			入 室 時 間	9：00～9：30	受験上の諸注意	9：30～9：50	小 論 文	9：50～10：30（40分）	受験上の諸注意	10：30～10：55	面 接
入 室 時 間	9：00～9：30											
受験上の諸注意	9：30～9：50											
小 論 文	9：50～10：30（40分）											
受験上の諸注意	10：30～10：55											
面 接	10：55～											
試 験 会 場	井の頭キャンパス											

保健学部

臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚療法学専攻）、診療放射線技術学科、臨床心理学科

外国人留学生選抜（1年次・4月入学）

日 程	出 願 期 間	10月16日(水) 9：00 ～ 10月31日(木) 17：00 出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日 必着 ）	
	試 験 日	11月24日(日)	
	合 格 発 表 日	12月 2 日(月) 15:00 ～	
	入学手続締切日	12月20日(金) まで 締切日 必着	
選 考 方 法	公募制		
	臨床検査技術学科／看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）／ 臨床工学科／救急救命学科／ リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚療法学専攻）／診療放射線技術学科		
	健康福祉学科／臨床心理学科		
	●面接 面接および調査書の内容から、学習成果を総合評価する ●適性検査 マークシート形式 英語（25問）、国語（15問）、数学（15問）、物理（15問）、化学（15問）、生物（15問）以上100問の中から科目を問 わず50問を任意に選択 〔出題範囲〕 ・英語：「英語コミュニケーションⅠ」 「英語コミュニケーションⅡ」 「英語コミュニケーションⅢ」 「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」 「論理・表現Ⅲ」 ・国語：「現代の国語」「言語文化」の内容を出題範囲と し近代以降の文章のみ ・数学：「数学Ⅰ」「数学A」 ・物理：「物理基礎」 ・化学：「化学基礎」 ・生物：「生物基礎」		
		入 室 時 間	8：30～9：10
		受験上の諸注意	9：10～9：30
		適 性 検 査	9：30～11:00 (90分)
		昼 食 時 間	11:00～12:30
		受験上の諸注意	12:30～12:50
		面 接	12:50～
※面接の開始時刻は、受験番号によって異なる。			
試 験 会 場	井の頭キャンパス		

医学部 [医学科]

外国人留学生選抜（1年次・4月入学）

日程

出願期間

12月2日(月) 9:00 ～ 1月6日(月) 17:00

出願登録・検定料振込（出願書類郵送 締切日**必着**）

1次試験

試験日

1月23日(木)

合格発表日

1月28日(火) 16:00 ～

2次試験

試験日

1月31日(金)・2月1日(土) いずれかの1日

※2次試験は1次試験合格者のみ
※2次試験日は出願時に希望を取り、
最終的には1次試験合格発表時に大学が指定する

合格発表日

2月5日(水) 16:00 ～

入学手続締切日

2月13日(木) まで 締切日**必着**

選考方法

1次試験

《必須科目》

●英語

●数学

《選択科目》

●理科3科目（物理、化学、生物）の中から問題配付後に2科目を選択

〔試験時間・配点・形式〕

必須科目：英語100点、
数学100点

選択科目：150点（1科目75点）

合計350点満点、マークシート形式

入室時間	9:30～10:10
受験上の諸注意	10:10～10:30
理 科	10:30～12:10 (100分)
数 学	13:30～14:40 (70分)
英 語	15:40～16:40 (60分)

〔出題範囲〕

・英 語：「英語コミュニケーションⅠ」
「英語コミュニケーションⅡ」
「英語コミュニケーションⅢ」
「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」

・数 学：「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」
「数学C」
※「数学B」は、〔統計的な推測〕または〔確率分布と統計的な推測〕の章を除く

・物 理：「物理基礎」「物理」

・化 学：「化学基礎」「化学」

・生 物：「生物基礎」「生物」

2次試験

《必須科目》

●小論文

●面接

入室時間	8:00～8:20
面接資料作成	8:20～8:45
受験上の諸注意	8:45～9:00
小 論 文	9:00～10:00 (60分)
面 接	10:30～17:00

※入室時間より早く試験室に入ることはいけません。

※面接開始時刻は受験番号によって異なる。

終了時刻は予定よりも遅くなる場合があります。

※面接資料に記入された内容は面接の際に確認することになる。

丁寧に記入するために入室時間を厳守すること。

医学部のインターネット出願においては、以下の志願情報の入力が必要となります。志願情報は、2次試験の面接時に面接資料として使用します。

志願情報（入力項目）

1. 本学でどのような大学生活を送りたいか。（具体的に記すこと）*200字以内

2. 高校時代のクラブ活動や課外活動（部内での役割も含めて記すこと）*200字以内

試験会場

〔1次試験〕パシフィコ横浜ノース（定員超過の場合、三鷹キャンパス）

※1次試験会場は受験票発行時に大学が指定

〔2次試験〕三鷹キャンパス

〈一般選抜における旧教育課程履修者への対応〉
2025年度入試では、いずれの出題科目についても、旧教育課程履修者に不利とならないよう配慮して出題します。

II

1	検定料	2
2	インターネット出願の手順	3
3	入学試験の注意事項	10
4	合格発表	11
5	入学手続	13
6	試験会場	20
	お問い合わせ一覧	23

1 検定料

出願登録時に選択したお支払い方法で入学検定料を支払います。一度納入された入学検定料は返還できません。

納入期間は [I「入学試験日程・選考方法等」](#) を確認し、間違いのないように注意してください。

※検定料のほかに、支払手数料（1,375円）が必要です。出願登録時の画面で確認してください。

■ 外国語学部・総合政策学部

●大学入学共通テスト利用選抜への出願**15,000円**、その他の選抜への出願**35,000円**を基本とします。

入 試 区 分			出願学科数	入学検定料	併願割引
総 合 型 選 抜（ＡＯ入試）			1 学科	35,000円	
学 校 推 薦 型 選 抜			1 学科	35,000円	
一 般 選 抜	前期日程	1 日につき (35,000円)	1 学科	35,000円	
			2 学科・ 3 学科	35,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
	後期日程		1 学科	35,000円	
			2 学科・ 3 学科	35,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
大学入学共通テスト利用選抜		前期日程 後期日程	1 学科	15,000円	
			2 学科・ 3 学科	15,000円 + 0 円*	*「学科併願割引」 適用
編 入 学・転 入 学 選 抜			1 学科	35,000円	
外 国 人 留 学 生 選 抜			1 学科	35,000円	
外国人留学生編入学・転入学選抜			1 学科	35,000円	

※学科併願割引は、1 度に出願登録を行った場合に限り適用されますのでご注意ください。

※入学検定料・割引等は同一学部内において適用されます。

■ 保健学部

入 試 区 分			出願学科数	入学検定料
総合型選抜（AO入試）			1 学科（専攻）	35,000円
学校推薦型選抜			1 学科（専攻）	35,000円
一 般 選 抜	1 日につき	(35,000円)	1 学科（専攻）	35,000円
大学入学共通テスト利用選抜			1 学科（専攻）	15,000円
外国人留学生選抜			1 学科（専攻）	35,000円

※大学入学共通テスト利用選抜は、1 学科（専攻）に出願することに15,000円の入学検定料が発生します。

■ 医学部

入 試 区 分		入学検定料
一 般 選 抜		60,000円
大学入学共通テスト利用選抜		45,000円
外国人留学生選抜		60,000円

2 インターネット出願の手順

本学の出願は、インターネットを利用して行います。以下のURL（インターネット出願サイト）にアクセスして出願してください。
願書・募集要項の販売、窓口配布、大学からの郵送は行っておりません。

インターネット出願サイト（9月2日（月）より公開） <https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>



〈インターネット出願の流れ〉

事前準備	インターネット出願に必要なインターネット環境および写真データを準備してください。	P.Ⅱ-4
1 インターネット出願サイトにアクセス	パソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスしてください。	P.Ⅱ-5
2 マイページの登録	画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。なお、マイページの登録が済みの方は、次に進んでください。	P.Ⅱ-5
3 出願内容の登録	画面に従って出願登録を行ってください。	P.Ⅱ-6
4 入学検定料の支払い	支払い方法は、クレジットカード、ネットバンキング、コンビニエンスストア、Pay-easyです。	P.Ⅱ-7
5 必要書類の印刷と郵送	出願書類を郵送してください。 ※出願期間内「 必着 」です。	P.Ⅱ-8
出願完了	出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、不備のない必要書類が到着して完了となります。 ※登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。	P.Ⅱ-8
6 受験票の印刷	出願が受理されると、マイページから受験票がダウンロード可能になります。 必ず印刷し試験当日に持参してください。 ※受験票は郵送されません。	P.Ⅱ-9

〔注意〕 ※出願書類は出願締切日**必着**です。消印有効ではありません。

※出願締切日時までに「出願登録」、「入学検定料の納入」、「不備の無い出願書類の到着」が全て完了していない場合、出願は受け付けません。

※入学検定料の支払後は、出願の取り消しや出願内容の変更はできません。

※一度納入された入学検定料は返還できません。



2

インターネット出願の手順

事前準備

インターネットで出願登録を行うには、以下のいずれかが必要となります。

パソコン / スマートフォン / タブレット端末

① インターネット環境を整える

- 下表を確認し、出願推奨環境を整えてください。
- ブラウザによっては「Cookieの有効化」「JavaScriptの有効化」「TLSの有効化」が必要ですが、画面の指示に従って環境を整えることができます。

ブ ラ ウ ザ	・ Google Chrome最新版 ・ Safari最新版 ・ Firefox最新版 ・ Microsoft Edge最新版	● いずれか1つ用意してください。 ● セキュリティソフトをインストールしている場合、正常に動作しない場合がありますので注意してください。
プ リ ン タ ー	A4の用紙が印刷できる機種 「出願用宛名ラベル」 「本人控え」 「受験票」を印刷します。	● プリンターを所有していなかったり、印刷できない場合、「出願用宛名ラベル」については封筒にその内容を手書きすることで代用できます。
メールアドレス	● 出願受付状況をお知らせするため、確認メール（「出願登録案内メール」「支払完了メール」）を送信します。 ● 頻繁に確認できるメールアドレスを用意してください。	

② 写真データを準備する

インターネット出願登録時に、受験者本人の写真データを登録する必要があります。試験時の本人照合に用いますので、証明写真機や写真店等で撮影された本人であることが確実に確認できる写真データを準備してください。

- 1) 最近3カ月以内に撮影（写真データ登録後、3カ月以上経過後に再度出願する場合、写真の差し替えは不要）
- 2) カラー写真（白黒は不可）
- 3) 正面、上半身、脱帽
- 4) 背景は無地（白が望ましい。風景、カーテンを背景にした写真データは不可）
- 5) データファイル形式「.jpg」
- 6) データサイズは200KB以上、10MB以下

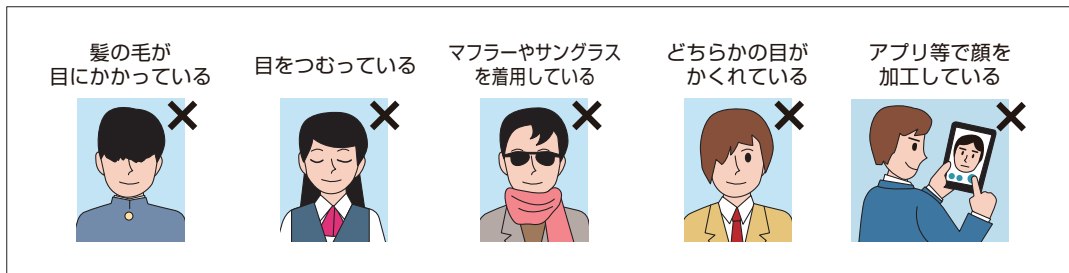
〈注意〉

- 上述の条件を満たせば、スマートフォンで撮影した写真データを登録できます。
- 目元がはっきりと確認できない等、個人の判別が困難な写真データは不備扱いとなります。
- プリントされた写真をスマートフォン等で撮影（複写）した写真データは不備扱いとなります。
- 写真をアップロードする際には、出願サイトのトリミング機能等が利用できます。
- 制服・私服は問いません。なお、出願時に提出した写真は、入学手続き時に差し替えることができます。入学手続き時に提出した写真を、学生証用写真として使用します。詳細は入学手続き時にご案内します。

■ 正しい写真例



■ 受付できない写真例



2

インターネット出願の手順

事前準備

■ 出願方法

1 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト
<https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>

または

大学ホームページ（受験生サイト）
<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>

からアクセス

2 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、「3 出願内容の登録」に進んでください。

〈手順〉

- ① 初めて登録する方は **マイページ登録** をクリックしてください。
- ② メールアドレスの入力を行って **仮登録メールを送信>** をクリックしてください。
- ③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。
- ④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』で **ログイン** をクリックしてください。
- ⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。
※個人情報を入力する際に、外字等が入力できない場合は代替文字がカタカナで入力してください。
代替文字例
高木 → 高木 山崎 → 山崎 Ⅲ（ローマ数字）→ III（アルファベットのアイ）
- ⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。
- ⑨ 登録完了となります。
マイページへ をクリックしてください。
- ⑩ 右記ページが表示されたらマイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続きを行う>** ボタンをクリックすると出願手続きに進めます。

登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをおしてください。

①



②



⑦



⑩



2

インターネット出願の手順

出願方法

3 出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

〈手順〉

- ① マイページログイン後の **出願手続きを行う** ボタンから登録画面へ
- ② 入試選択と留意事項の確認
- ③ 志望学部等の選択
- ④ 顔写真のアップロード **写真選択へ** ボタンをクリックし
写真を選択します。
- ⑤ 個人情報（氏名・住所等）の入力 **※医学部のみ志願情報の入力があります。**
- ⑥ 申込登録完了
引き続き支払う ボタンをクリックし検定料のお支払い画面へ。
- ⑦ 入学検定料の支払い方法
 - クレジットカード
 - ネットバンキング
 - コンビニエンスストア
 - ペイジー対応銀行ATM

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMでお支払いください。
- ⑧ 本人控え書類PDF
※検定料納入後に出力可能となります。

③



④



⑤



2

インターネット出願の手順

出願方法

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元 (@e-apply.jp) からのメール受信を許可してください。

※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。

ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容を再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

4 入学検定料の支払い

1) クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

●ご利用可能なクレジットカード

VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、
MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOカード

出願登録時に支払い完了



2) ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

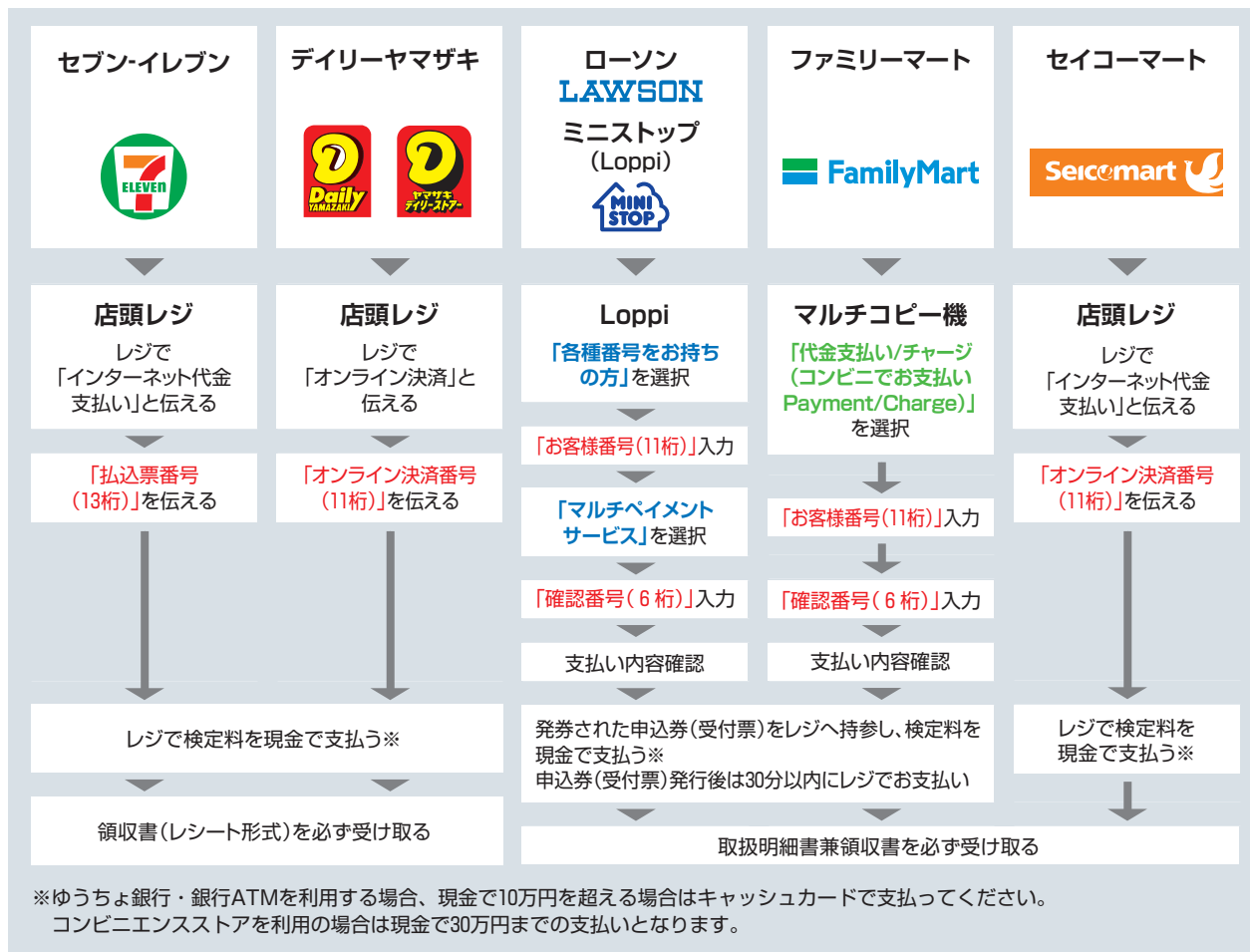
※決済する口座がネットバンキング契約されている必要があります。

インターネットで手続き完了

3) コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

各コンビニ端末画面の画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。



4) ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMで画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。



1) 「出願用宛名ラベル」の印刷

- 入学検定料を納入するとマイページの「出願確認」画面に「出願用宛名ラベル」のPDFファイルが表示されます。A4用紙で印刷してください。
- 自宅にプリンターがない場合、内容を手書きすることで代用できます。

2) 「出願書類」の郵送

- ①出願書類は I 「出願書類」を参照の上、間違いのないように出願書類をそろえてください。
- ②確認後、印刷した「出願用宛名ラベル」を市販の角型2号封筒に貼り付け、出願書類を封入してください。
- ③郵便局の窓口から簡易書留・速達で下記の願書センター宛てに郵送してください。

送付先

〒270-1399 千葉県印西市中央南2-4
日本郵便株式会社 印西郵便局留
杏林大学 願書センター 宛

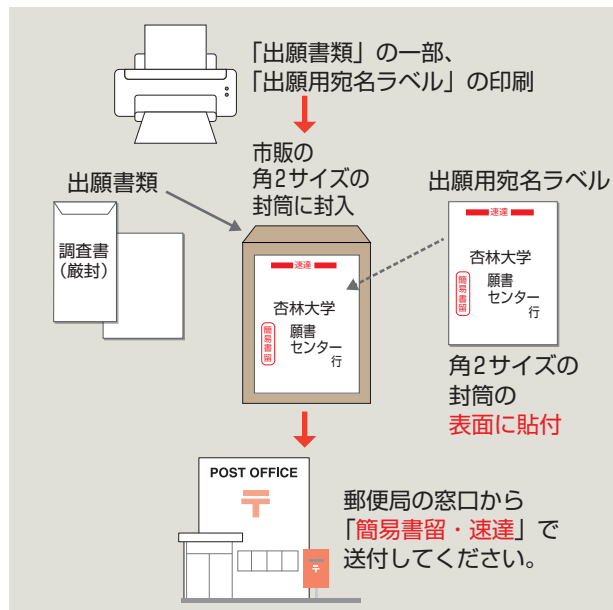
※外国人留学生選抜および外国人留学生編入学・転入学選抜の書類郵送先は、「杏林大学入学センター」です。

- ④出願締切日「**必着**」です。
出願期間は I 「入学試験日程・選考方法等」を確認してください。

※本学窓口での受付は一切行いません。
※出願書類に不備のあるものは受け付けません。
※提出された出願書類の返却・差替には一切応じられません。
※出願締切日（必着）以降に提出された出願書類は一切受け付けません。

インターネット出願サイトのマイページで、
出願書類の到着状況を確認できます。

願書センター（外国人留学生選抜は入学センター）が出願書類を受け取ると、右図のように「出願書類到着」のアイコンが表示されます。



角2封筒に手書きする場合の見本

速達	「速達」を表記
〒270-1399 千葉県印西市中央南2-4 日本郵便株式会社 印西郵便局留 杏林大学願書センター 宛	送付先を記入
受付番号 000000	受付番号 12ケタ
〒000-0000 東京都00区000000 000000	本人住所等を記入
氏名 キョウリン タロウ 氏名 杏林 太郎	氏名をカタカナと漢字で記入
志望学科 000000 出願入試区分 000000	志望学科等を記入
簡易書留	「簡易書留」を表記

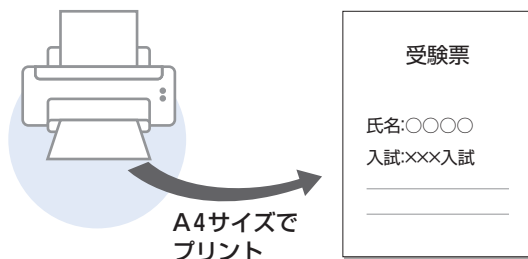
出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、不備のない必要書類が到着して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

- ※インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日17時まで、入学検定料の支払いは出願登録時に指定される期限までに行ってください（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）。
- ※必要書類の郵送は出願締切日必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。
- ※出願書類に虚偽の記載があった場合は、合格を取り消すことがあります。

出願完了

- 入学検定料のお支払い、不備の無い出願書類の到着が確認でき次第、マイページ上に受験票ボタンが表示されます。また、インターネット出願時に登録したメールアドレスに、受験票を取得可能になった旨の通知メールが届きます。
※願書センターが書類を受け取ってから1週間程度で発行予定です。
- 下記の要領で各自マイページからダウンロードしてA4サイズで印刷してください。受験票の記載内容を必ずよく確認してください。
 - ①マイページにログインしたのち、「受験票」ボタンを押して受験票（PDF）を取得してください。
 - ②取得した受験票は、合格発表日まで大切に保管してください。試験当日は必ずプリントアウト（A4、片面印刷）し、持参してください。



- 以下の場合、願書センター（050-1744-7778）までお問い合わせください。
 - ・入学検定料のお支払い、出願書類の郵送が完了したあと、1週間以上受験票が発行されない場合
※年末から1月中旬頃は、出願が集中するため、受験票発行まで1週間以上掛かる場合があります。

3 入学試験の注意事項

試験会場の下見

事前に受験票に記載された試験会場の所在地を確認しておいてください。試験会場の下見は、外から建物を確認することは可能ですが、建物内（校舎等）への立ち入りはできません。

試験当日

- ① 受験票に記載された試験日、試験会場以外では受験できません。
- ② 受験票は、試験当日必ず印刷して持参し、試験会場内では常に携帯してください。受験票を忘れた場合は、係員に申し出てください。
- ③ 試験室へは、入室時間として定められた時間内に入室してください。入室開始時間より前に、試験室に入ることはできません。
- ④ 遅刻の場合（入室時間以降に試験会場へ到着する場合）は、直ちに係員に申し出て指示に従ってください。試験開始から30分を超えて遅刻した場合は受験することができません。
- ⑤ 試験会場付近の交通機関に大幅な乱れが生じた場合は、試験時間を繰り下げる場合があります。
なお、これに伴う受験者の個人的損害について本学は責任を負いません。
- ⑥ 試験開始から試験終了までは退室できません。
- ⑦ 試験時間中の飲食はできません。
- ⑧ 保護者等の受験者以外の方は試験会場に立ち入ることができません。
- ⑨ 駐車場および駐輪場の用意はありません。公共交通機関をご利用ください。
- ⑩ キャンパス内および試験会場内は禁煙です。

所持品等

- ① 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、黒鉛筆、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、腕時計、眼鏡、目薬、無地のハンカチ・フェイスタオル、ポケットティッシュです。詳細は、受験票に記載された机の上に置けるものをご確認ください。これら以外のものを使用または置いている場合には、解答を一時中断させて、試験終了まで預かることがあります。
- ② 以下のものを使用する場合、申請は不要です。ただし、試験開始前や不審な行為があった際に、監督者が確認する可能性があります。
座布団、クッション、ひざ掛け、手袋、サポーター、テーピング、包帯、湿布、ギプス、眼帯、コルセット
- ③ 耳栓の使用は禁止します。帽子、マフラーなどは原則として禁止します。
- ④ 英文字や地図等がプリントされている所持品の使用、服等は着用しないでください。着用している場合は、脱いでもらうことがあります。

不正行為

次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験ができなくなります。また、受験したすべての教科・科目の成績を無効とし、警察に被害届を提出する場合があります。

- ・ 解答用紙へ故意に虚偽の記入（本人以外の名前・受験番号を記入するなど）をすること。
- ・ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ・ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをしたりすること。
- ・ 配付された解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- ・ 配付された問題冊子を、その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。
- ・ 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めたこと。
- ・ 試験時間中に、定規、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ・ 試験時間中に、電子辞書、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末などの電子機器類を身に付けていたり、使用したりすること。
- ・ 試験時間中に携帯電話などの電子機器や時計などの音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らし、試験の進行に影響を与えること。
- ・ 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けたりすること。
- ・ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- ・ 試験会場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ・ 試験会場において監督者等の指示に従わないこと。
- ・ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

4 合格発表

1. 合格発表の確認方法

学内掲示（医学部のみ）、インターネットによる合否照会システムで、合否結果を確認することができます。確認方法により発表期間が異なりますのでご注意ください。

合否結果について、電話等による問い合わせには一切応じられません。

合格者には、合格通知および入学手続書類をインターネット出願サイト上で発行します。書類は郵送されません。

合否照会システム による合格発表	受験番号・生年月日を入力すると、合否結果が表示されます。補欠の場合には補欠順位が併記されます。利用期間は、原則として以下の通りです。 【総合型選抜（AO入試）、学校推薦型選抜、編入学・転入学選抜、外国人留学生選抜】 合格発表日から、入学手続締切日まで 【一般選抜、または大学入学共通テスト利用選抜】 合格発表日から、2025年3月31日（月）まで ただし、2次試験がある入試区分においては、1次試験の合格発表日から2次試験日の午前8時までが1次試験の合格発表期間です。 合否照会URL https://www.gouhi.com/kyorin-u/ ※合否照会の利用可能期間以外は、照会できません。  〈合否照会システム利用上の注意〉 ・合否照会システムの開始直後は回線が混み合いインターネットの画面表示が遅いことが予想されます。その場合には、しばらくたってから再度操作を行ってください。 ・電話による合否の確認、操作方法の問い合わせ、受験番号確認などについては一切応じられません。 ・合否照会システムの誤作動を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は一切認められません。 （合否照会画面） 								
学内掲示 による合格発表 （医学部のみ）	合格者の受験番号および補欠者の受験番号・補欠順位を掲示します。 ■掲示期間（発表時間） 発表日を含めて3日間です（日曜日・祝日は含みません）。 下記の時間で掲示を確認することができます。 <table><thead><tr><th></th><th>発表時間</th></tr></thead><tbody><tr><td>合格発表日当日</td><td>発表開始時間から17：00まで</td></tr><tr><td>翌日以降</td><td>原則平日9：00から17：00まで</td></tr><tr><td>土曜日</td><td>9：00から13：00まで</td></tr></tbody></table> ■掲示場所 医学資料情報センター棟1階掲示板（三鷹キャンパス）		発表時間	合格発表日当日	発表開始時間から17：00まで	翌日以降	原則平日9：00から17：00まで	土曜日	9：00から13：00まで
	発表時間								
合格発表日当日	発表開始時間から17：00まで								
翌日以降	原則平日9：00から17：00まで								
土曜日	9：00から13：00まで								

2. 補欠者への繰上合格の通知

補欠者は、2025年3月31日（月）まで、合否照会システムで補欠順位を確認することができます。補欠通知書は郵送されません。

※補欠者は、正規合格者の入学手続状況に欠員が生じた場合、補欠順位上位者から順に繰上合格となります。繰上合格が決定次第、本学より通知します。

※繰上合格の通知は、出願時に登録された複数の電話番号やメールアドレスに連絡します。

繰上合格のメッセージが届いたり、電話不在着信があった際は、速やかに担当部署へ折り返しご連絡ください。

不在だった場合は、何度か連絡をおこないます。

※補欠からの繰上合格は、年度によって状況が異なります。繰上合格の見込みなどについての問い合わせにはお答えできません。

■補欠者への繰上合格通知方法

外国語学部 総合政策学部 保健学部	入学センターよりSMS・メール・電話で通知
医学部	医学部事務課入試係より電話で通知

補欠者の繰上終了については、ホームページ（受験生サイト）

（<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>）でお知らせいたします。



3. 入学試験の成績開示

一般選抜の不合格者を対象として、受験者本人の申請により入学試験成績を開示します。希望者は下記要領により申請手続きを行ってください。

■成績開示対象・内容

外国語学部 総合政策学部	一般選抜（前期日程・後期日程）の不合格者を対象に、入学試験の総得点および順位を開示します。
保健学部	一般選抜の不合格者を対象に、入学試験の総得点および順位を開示します。
医学部	一般選抜1次試験の不合格者を対象に、入学試験（学科試験）の総得点および順位を開示します。

申込受付期間	2025年4月上旬（予定）
成績開示時期	2025年5月下旬（予定）

■申請方法

成績開示の申請方法は、2025年3月下旬にホームページ（受験生サイト）

（<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>）でお知らせします。

成績開示申請の際、「受験番号」が必要となりますので、必ず保管しておいてください。



■お問い合わせ先

杏林大学 入学センター

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 TEL：0422-47-0077

5 入学手続

本学の入学手続は、インターネットを利用して行います。

合格者は、各入試区分の合格発表日翌日の、午前10時以降に、インターネット出願サイトにログインし、入学手続を行ってください。

※入学手続書類は郵送されません。

※確認・印刷する書類が多いため、パソコンからのログインを推奨します。

インターネット出願サイト（9月2日（月）より公開） <https://e-apply.jp/ds/kyorin-u/>

1. 手続きの方法

インターネット出願サイト上で発行される入学手続書類（PDF）によって手続きを行ってください。入学手続締切日を [I「入学試験日程・選考方法等」](#) で確認し、入試区分ごとに定められた入学手続締切日までに手続きを完了してください（入学手続は、各入試区分の合格発表日翌日の、午前10時から行えます。繰上合格者の入学手続期間は別途設定されます）。指定締切日までに入学手続を完了しない場合は入学を許可しません。

本学窓口に入入学手続書類を持参する場合は、平日 9：00から16：00まで、土曜日 9：00から12：00までの間に来校してください（日曜日・祝日および創立記念日（11月11日）・入試日・年末年始（12月29日～1月3日）は閉室しています）。ただし、本学窓口では現金の取り扱いができませんので、学納金は事前に金融機関で振込みを済ませておいてください。

※入学手続に関する詳細は合格者に通知します。

入学手続窓口

外国語学部・総合政策学部・保健学部	入学センター（井の頭キャンパスC棟 1 階）
医学部	医学部事務課（三鷹キャンパス 医学部講義棟A 1 階）

学納金は、入学金等を除き各学年とも 2 期に分けて納入してください。

※1 年次秋学期・後期以降の学納金の納入については、9 月以降ご案内します。

※杏林大学では、入学に関連した寄付金・学債の募集は一切行っておりません。

〈高等教育修学支援新制度および日本学生支援機構奨学金の予約採用者の方へ〉

正式採用は入学後になりますので、入学前に奨学金をご活用いただくことはできません。入学手続時学納金・諸費は、入学手続期間内に全額を納入いただき、入学後、正式に採用決定され次第、給付奨学金の支援区分に応じて還付致します。

5

入学手続

1. 手続きの方法

2. 学納金・諸費

2025年度入学者の学納金および諸費は以下の通りです。（学納金は年度ごとに変更になる可能性があります。）学納金および諸費の入学手続時納入額は、入学手続締切日までに一括納入していただきます。

■ 外国語学部・総合政策学部

1 年次入学

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料	460,000円	460,000円	920,000円	460,000円	460,000円	920,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	810,000円	560,000円	1,370,000円	560,000円	560,000円	1,120,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,300円	—	3,300円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	10,000円	—	10,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
計	33,300円	—	33,300円	20,000円	—	20,000円

3 年次入学

学納金

	初 年 度			4 年 次		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料	460,000円	460,000円	920,000円	460,000円	460,000円	920,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	810,000円	560,000円	1,370,000円	560,000円	560,000円	1,120,000円

諸費

	初 年 度			4 年 次		
	入学手続時	秋学期	年 額	春学期	秋学期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	1,750円	—	1,750円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	10,000円	—	10,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
計	31,750円	—	31,750円	20,000円	—	20,000円

（上表共通）

- ※¹ 入学時のみ納入。
- ※² 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。保険料は変更になる可能性があります。
- ※³ 入学時のみ納入。外国語学部・総合政策学部同窓会会則により、外国語学部・総合政策学部在学中の学生は同窓会員（準会員）となります。

課程費の納入について

入学後、以下の課程を履修する場合は、別途課程費が必要となります。納付時期、納付方法などは入学後にお知らせいたします。

課程費名称	課 程 費
教 職 課 程 費	50,000円

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などにパソコンを使用する機会が多くあります。パソコンの用意をお願いします。必要スペック等については、別途入学手続時にご案内します。

■保健学部

健康福祉学科・臨床心理学科

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料※ ⁴	470,000円	470,000円	940,000円	610,000円	610,000円	1,220,000円
実験実習費	25,000円	25,000円	50,000円	25,000円	25,000円	50,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円	100,000円	100,000円	200,000円
計	845,000円	595,000円	1,440,000円	735,000円	735,000円	1,470,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,370円	—	3,370円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	50,000円	—	50,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
学生会費※ ¹	15,000円	—	15,000円	—	—	—
計	88,370円	—	88,370円	20,000円	—	20,000円

臨床検査技術学科・看護学科（看護学専攻・看護養護教育学専攻）・臨床工学科・救急救命学科・
リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚療法学専攻）・診療放射線技術学科

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
入 学 金※ ¹	250,000円	—	250,000円	—	—	—
授 業 料※ ⁴	470,000円	470,000円	940,000円	610,000円	610,000円	1,220,000円
実験実習費	150,000円	150,000円	300,000円	150,000円	150,000円	300,000円
施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円	125,000円	125,000円	250,000円
計	995,000円	745,000円	1,740,000円	885,000円	885,000円	1,770,000円

諸費

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
学生教育研究災害傷害保険料※ ²	3,370円	—	3,370円	—	—	—
同窓会費（終身）※ ³	50,000円	—	50,000円	—	—	—
否会（保護者会）費	20,000円	—	20,000円	20,000円	—	20,000円
学生会費※ ¹	15,000円	—	15,000円	—	—	—
計	88,370円	—	88,370円	20,000円	—	20,000円

（上表共通）

- ※¹ 入学時のみ納入。
※² 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。
保険料は変更になる可能性があります。
※³ 入学時のみ納入。保健学部同窓会（名称：杏里会）会則第 3 条により、保健学部に進学中の学生は同窓会員（準会員）となります。
※⁴ 授業料は 2 年次以降 1,220,000円（年額）となります。

課程費の納入について

入学後、右記の課程を履修する場合は、別途課程費が必要となります。納付時期、納付方法などは入学後にお知らせいたします。

課程費名称	課 程 費
教 職 課 程 費	50,000円
助 産 師 課 程 費※ ¹	300,000円
保 健 師 課 程 費※ ¹	100,000円
社会福祉士課程費※ ²	50,000円
精神保健福祉士課程費※ ²	50,000円
細胞検査士養成課程費※ ¹	150,000円

- ※¹ 課程の履修にあたって、入学後に選考を実施する。
※² 社会福祉士課程と精神保健福祉士課程の両方を履修する場合の課程費の合計は 75,000円とする。

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などにパソコンを使用する機会が多くあります。パソコンの用意をお願いします。必要スペック等については、別途入学手続時にご案内します。

杏林大学では、入学に関連した寄付金・学債の募集は一切行っておりません。

■ 医学部

学納金

	初 年 度			2 年次以降		
	入学手続時	後 期	年 額	前 期	後 期	年 額
入 学 金※ ¹	1,500,000円	—	1,500,000円	—	—	—
授 業 料	1,500,000円	1,500,000円	3,000,000円	1,500,000円	1,500,000円	3,000,000円
実験実習費	500,000円	500,000円	1,000,000円	500,000円	500,000円	1,000,000円
施設設備費※ ²	2,000,000円	2,000,000円	4,000,000円	750,000円	750,000円	1,500,000円
計	5,500,000円	4,000,000円	9,500,000円	2,750,000円	2,750,000円	5,500,000円

諸費

		初年度のみ		
		入学手続時	後 期	年 額
杏 会 費※ ¹ (保護者会)	入会金	30,000円	—	30,000円
	会 費 (6 年分)	270,000円		270,000円
同 窓 会 費※ ¹ ※ ³	入会金	50,000円		50,000円
	会 費	250,000円		250,000円
学 生 会 費※ ¹	入会金	40,000円		40,000円
	会 費 (6 年分)	96,000円		96,000円
学生教育研究災害傷害保険料※ ⁴		4,700円		4,700円
計		740,700円		740,700円

(上表共通)

- ※¹ 入学時のみ納入。
※² 施設設備費は 2 年次以降 1,500,000円(年額)となります。
※³ 医学部同窓会会則第 5 条により、医学部に在学中の学生は同窓会員(学生会員)となります。
※⁴ 入学時のみ納入。学校行事中の事故等学生が教育研究活動中に被った災害に対して補償するための保険料です。
保険料は変更になる可能性があります。

個人用パソコンについて

オンライン授業や、レポート作成などにパソコンを使用する機会が多くあります。パソコンの用意をお願いします。必要スペック等については、別途入学手続時にご案内します。

3. 入学辞退手続

学納金納入後に入学を辞退する場合は、以下の方法で期限内に手続を行ってください。
期限内に辞退手続が完了しない場合、辞退は認められず、既納付金の返還はできません。
期限内に辞退手続が完了した方には、入学金を除く既納付金が返還されます。詳細については、入学手続時にご案内します。

学 部	辞退の連絡方法	連絡先	郵送について
外 国 語 学 部 総 合 政 策 学 部 保 健 学 部	2025年 3 月31日(月) 昼12時までに電話により 辞退の連絡をしてください。	入学センター 井の頭キャンパスC棟 1 階 TEL 0422-47-0077	電話連絡をした際に指定された書式に必要事項を記入の上、期限内(2025年 3 月31日消印有効)に本学へ郵送してください。
医 学 部		医学部事務課 三鷹キャンパス TEL 0422-44-1865	電話連絡をした際に詳細をお伝えします。

5

入学手続

2. 学納金・諸費

3. 入学辞退手続

4. 奨学金・奨励金

① 杏林大学独自の奨学金（給付型）

- ・杏林大学には、学生の修学支援及び経済的負担の軽減を目的とした独自の給付型奨学金制度（返還義務なし）があります。
- ・募集のお知らせは、入学後に大学のシステム「UNIVERSAL PASSPORT」や掲示板で行います。
- ・以下の対象や給付金額等については予告なく変更する場合があります。

■ 杏林大学奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	【全学部2年生以上】 経済的理由により修学継続が困難な者 GPA、収入基準があります
給付金額	学部生 年間12万円～（各学部の給付金額については変更する場合があります）
募 集	1回／年

■ 杏林大学成績優秀学生表彰金 ※申込不要。選出された方には連絡します。

対 象	【全学部2～4年生（医学部は2～6年生）】 ①本学での前年度1年間の学業成績が各学科・学年において1位の者 ②人物・生活面で優れている者 ※①～②を全て満たす者
給付金額	5万円

■ 杏林大学特別表彰学生表彰金 ※まずは各学部賞への申込みをしてください。

対 象	難関資格の取得や社会貢献等で顕著な功績を残した者
給付金額	3万円

② 日本学生支援機構（JASSO）奨学金等について

（高校3年次に在籍高校で申込む方法と大学入学後に申込む方法があります）

- ・修学支援新制度 給付型奨学金（返還不要）
- ・貸与型奨学金（無利子または有利子で返還必要）
- ・入学時特別増額貸与奨学金（入学時のみの一時金で単独での申込は不可、有利子で返還が必要）

※上記についての詳細は、日本学生支援機構や文部科学省のホームページをご覧ください

※修学支援新制度 給付型奨学生に採用された方は、授業料等の減免を受けることができます

（所定の期間内に納入いただいた授業料等から支援区分に応じた額を大学より後日返還します）

※家計急変が発生した場合、随時受付可能です。申込可能な期間に制限がある場合がありますので、早めにご相談ください

奨学金等に関するお問い合わせ先：学生支援課 TEL（直通）：0422-47-8052

③ その他の奨学金（医学部対象）

■ 医学部優秀賞 ※申込不要。大学選出。

対 象	【医学部 2 ～ 6 年生】（各学年 3 名）
条 件	①本学での前年度 1 年間の学業成績が優れている。 ②人物・生活面で優れている。 ※①、②を全て満たし、各学年において 1 位から 3 位の者
給付金額	1 人当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ① 1 位の者を 30 万円 ② 2 位の者を 20 万円 ③ 3 位の者を 10 万円

■ 医学部研究優秀賞（STUDENT RESEARCH AWARD）※申込必要。選考あり。

対 象	【医学部 1 ～ 6 年生】（1 学年最大 10 名）
申込条件	国内外の学会等において、筆頭で発表等を行い、顕著な実績・功績を残し、優れた研究活動。
給付金額	1 件当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ① 1 件最大年額 10 万円～30 万円 ② 1 学年最大 10 件 × 6 学年

■ 医学部海外研修・留学助成金 ※申込必要。選考あり。

対 象	【医学部 1 ～ 6 年生】（①語学研修上限 50 名、②臨床実習上限 40 名）
申込条件	医学部で募集する海外研修（語学研修、臨床実習）に参加。
給付金額	1 人当たりの給付金額は以下のとおりとする。 ①海外研修（語学研修） 年額 10 万円（年間上限 50 名） ②海外研修（臨床実習） 年額 10 万円（年間上限 30 名） 年額 20 万円（年間上限 10 名）

■ 茨城県地域医療医師修学資金貸与制度（医学部対象）については、以下問い合わせ先に連絡してください。

（問い合わせ先：茨城県 医療人材課医師確保グループ TEL 029-301-3191）

医学部対象の奨学金等に関するお問い合わせ先：医学部事務課 TEL（直通）：0422-44-1865

5. 海外研修・留学支援

■ 杏林大学海外研修・留学奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外研修、海外留学に参加する者【全学部】
申込条件	①国際交流センターで募集する研修・留学プログラムに参加する者 ②その他大学に認められた研修・留学に参加する者 ③前年度の成績（GPA値）が各学部・研究科の上位に位置している者 ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	①海外留学（1年） A採用70万円・B採用50万円・C採用30万円 ②海外留学（半年） A採用35万円・B採用25万円・C採用15万円 ※選考の評価の順位が上であるほど、より良い区分（A～C採用）での採用となります。
募集時期	年2回（6月頃、10月頃）

■ 外国語学部熊谷奨学金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外留学（半年以上）に参加する者【 <u>外国語学部のみ</u> 】
申込条件	①国際交流センターで募集する留学プログラムに参加する者 ②大学が認めた留学に参加する者 ③留学出発時に外国語学部の2年生か3年生であること ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	・海外留学にかかる費用が50万円以下の場合は、その費用の75%を給付 ・海外留学にかかる費用が50万円を超える場合は、50万円を上限に給付 ・採用者全員への給付総額は100万円が上限
募集時期	年1回（10月頃）

■ 杏会海外留学奨励金 ※申込必要。選考あり。

対 象	海外留学（半年以上）に参加する者【 <u>総合政策学部・外国語学部</u> 】
申込条件	①国際交流センターで募集する留学プログラムに参加する者 ②大学が認めた留学に参加する者 ③留学出発時に在学中であること ※①か②どちらかを満たし、かつ③を満たす者
給付金額	総合政策学部生2万円、外国語学部生3万円（いずれも在学中1回のみ）
募集時期	年2回（6月頃、10月頃）

※上記は2023年度の実績です。

6 試験会場

1. キャンパス会場 [井の頭キャンパス／三鷹キャンパス]

井の頭キャンパス



〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

JR 三鷹駅	南口 バス約15分
JR・京王井の頭線 吉祥寺駅	南口 バス約15分
京王線 仙川駅	北口 バス約20分
京王線 調布駅	北口 バス約25分
京王線 千歳烏山駅	北口 バス約25分

井の頭キャンパス
バス乗り場詳細はこちら



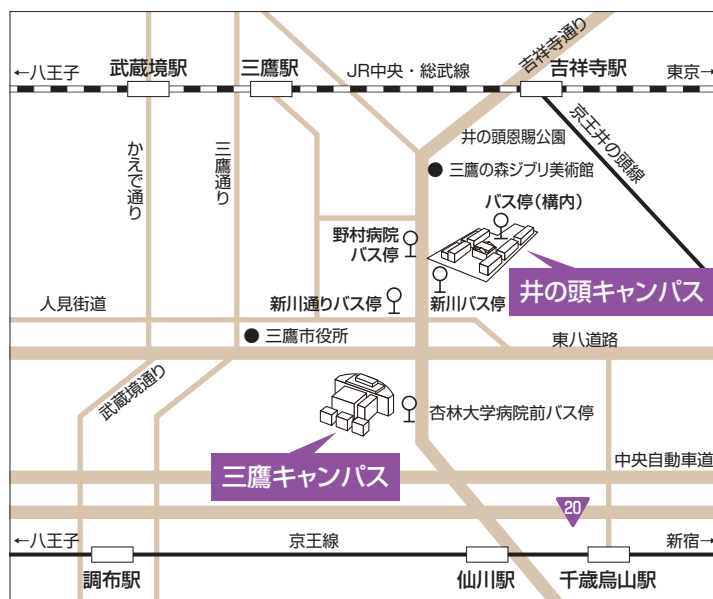
三鷹キャンパス



〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

JR 三鷹駅	南口 バス約20分
JR・京王井の頭線 吉祥寺駅	南口 バス約20分
京王線 仙川駅	北口 バス約15分
京王線 調布駅	北口 バス約25分

三鷹キャンパス
バス乗り場詳細はこちら



[会場間違いにご注意ください]

井の頭キャンパス・三鷹キャンパスは異なる敷地にあり、最寄りのバス停が異なります。バス路線によっては、両キャンパスの最寄りバス停に停留する路線もあります。試験会場へお越しの際は、試験会場および降車すべきバス停を必ず確認してください。試験会場として設定されていないキャンパスでは試験を受けることはできません。
※井の頭キャンパス・三鷹キャンパス間は約1km、徒歩約15分となります。

2. サテライト会場 [パシフィコ横浜ノース／東京たま未来メッセ]

パシフィコ横浜ノース



〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2

みなとみらい線 みなとみらい駅 2番出口 徒歩5分

※右記のとおり「みなとみらい駅」北改札を出て、
2番出口（いちょう通り口）をご利用ください。



6
試験会場

東京たま未来メッセ



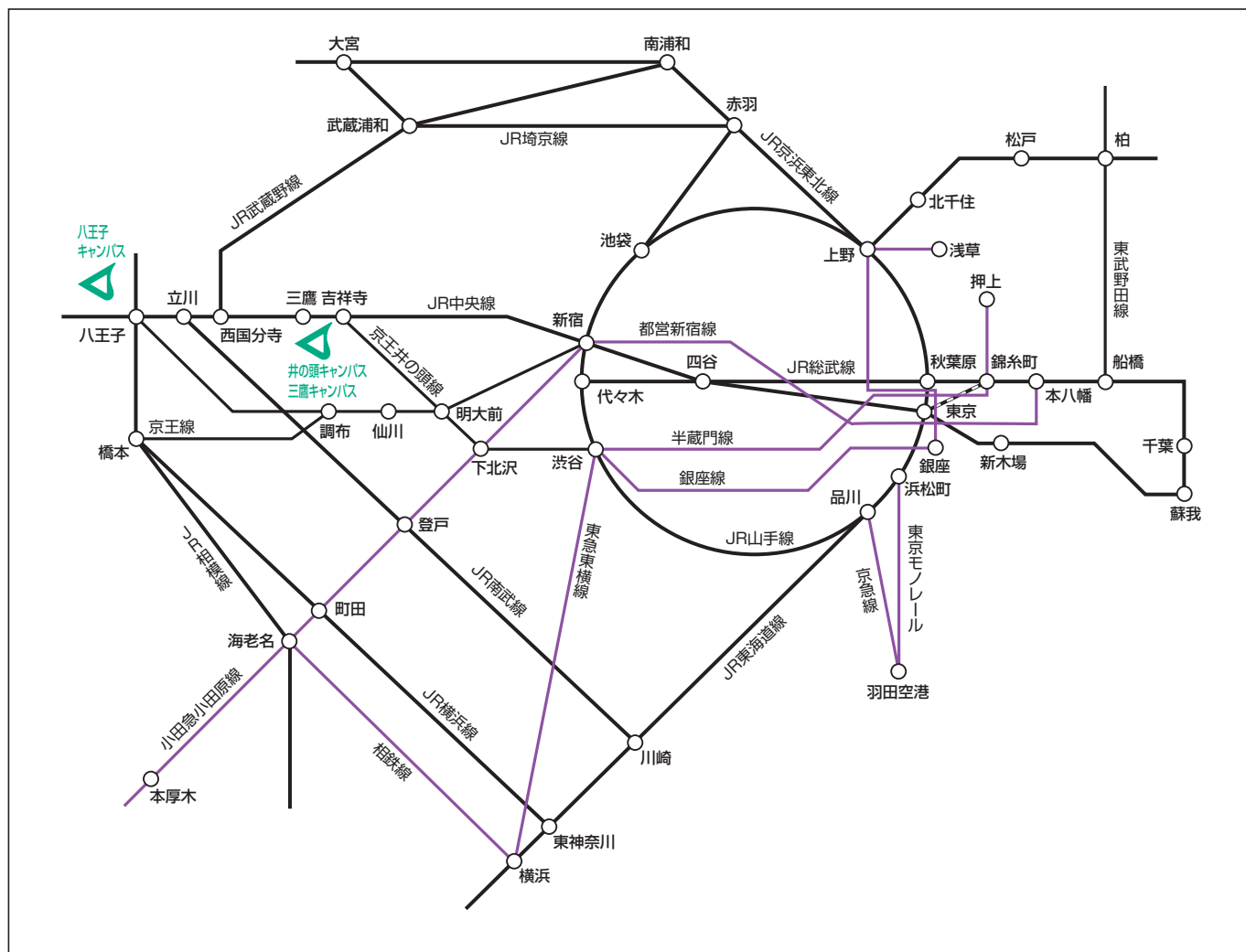
〒192-0046 東京都八王子市明神町3丁目19-2

JR 八王子駅 北口 徒歩5分

京王線 京王八王子駅 中央口 徒歩2分



本学までの案内図



井の頭キャンパス 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

三鷹キャンパス 〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

ハ王子キャンパス 〒192-8508 東京都八王子市宮下町476

お問い合わせ一覧

よくある問い合わせについては、本学ホームページをご確認ください。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/qa/>



出願に関するお問い合わせ先

インターネット出願に関するお問い合わせ	株式会社キャリアス 「学び・教育」出願・申込サービス サポートセンター TEL.0120-202079（出願期間中は24時間対応）
出願書類に関するお問い合わせ	杏林大学 願書センター TEL.050-1744-7778 受付時間：平日 9：00～17：00（年末年始（12月28日～1月5日）を除く）
その他入試に関するお問い合わせ	入学センター（井の頭キャンパス） TEL.0422-47-0077 医学部事務課（三鷹キャンパス） TEL.0422-44-1865 受付時間：平日 9：00～17：00、土曜 9：00～13：00 日曜日・祝日および創立記念日（11月11日）・入試日・年末年始（12月29日～1月3日）の 事務取り扱いはありません。

※悪天候や自然災害等の際は、受付時間が変更となる可能性があります。



杏林大学

www.kyorin-u.ac.jp/

第 3 類（杏林大学科目等履修生規程）

○杏林大学科目等履修生規程

制定	平成 4 年 4 月 1 日	
改正	平成 11 年 7 月 19 日	平成 21 年 11 月 9 日
	平成 24 年 12 月 17 日	平成 29 年 3 月 13 日

（目的）

第 1 条 この規程は、杏林大学学則（以下「学則」という。）第 46 条の規定に基づき、科目等履修生（以下「履修生」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

（出願資格）

第 2 条 履修生として本学の授業科目の一部の履修を志願できる者は、学則第 46 条第 2 項に規定する者とする。ただし、外国人については、履修するに必要な期間について在留資格査証を既に得ている者に限るものとする。

（願書）

第 3 条 履修を志願する者は、次の各号の書類に別に定める選考料を添えて、指定の期日迄にそれぞれの学部の学部長に願い出なければならない。

- （1）願書
- （2）履歴書
- （3）資格を証明し得る証明書
- （4）身体検査書（X線検査を含む）
- （5）旅券・査証の写し及び住民票（外国人のみ）
- （6）保証書（本学所定のもの）（外国人のみ）
- （7）写真（最近 3 ヶ月以内に撮影したもの）

2 二つ以上の学部にわたって履修を希望する者は、それぞれの学部の学部長に前項に定める書類、選考料を提出するものとする。

3 学部長は必要がある時は、第 1 項に掲げる書類以外の書類を提出させること、又は書類の内の一部の提出を免除することができる。

（履修の許可）

第 4 条 前条の志願者については、当該学部教授会の議を経て学長が履修を許可する。

2 履修を許可された者は、指定された日までに別に定める登録料、履修料を納入しなければならない。納入しない者に対しては履修の許可を取り消すものとする。

第 5 条 提出した書類及び納入した納入金は、理由のいかんを問わずこれを返還しない。

（入学の時期）

第 6 条 履修生の入学の時期は、各学部ともその前期又は後期の始めとする。

（履修期間）

第3類（杏林大学科目等履修生規程）

第7条 履修期間は原則として1年以内とする。

（履修の継続）

第8条 履修生が第7条に定める履修期間を超えて引き続き在学し、履修中の授業科目の履修継続を希望する場合は、当該学部長に履修継続願いを提出しなければならない。ただしこの場合の選考料は継続1年に限り、これを免除することができる。

2 履修生が第7条に定める履修期間を超えて引き続き在学し、他の授業科目の履修を志願する場合は、改めて第3条の各項に従い履修の許可を願い出なければならない。

3 第1項及び第2項の履修の許可は何れも第4条第1項によるものとする。

4 履修を許可された者は、何れも第4条第2項の規定により料金を納入しなければならない。

（履修の範囲）

第9条 履修生が履修することができる授業科目は、各学部において別に定める科目に限るものとする。

2 履修生は許可された授業科目以外の授業科目を履修することはできない。

（単位等の証明）

第10条 学則第26条の規定により単位を授与された履修生は、その単位の取得証明書及び成績証明書の交付を求めることができる。

（施設の利用）

第11条 履修生は本学の図書館を利用することができる。

（科目等履修生証）

第12条 履修生には、「科目等履修生証」を交付する。

2 履修生は、登校する際は、「科目等履修生証」を常に携帯しなければならない。

（取消）

第13条 学則及びこの規程に違反した者は、履修生の資格を取り消す。

（学内規程の準用）

第14条 この規程に定めるもののほか、履修生の取扱いについて必要な事項については、学則その他の学内規程を準用する。

（改廃）

第15条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経るものとする。

附 則

この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月 9 日から施行する。

第 3 類（杏林大学科目等履修生規程）

附 則

この規程は、平成 2 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 2 9 年 4 月 1 日から施行する。

第3類（杏林大学科目等履修生規程）

履 修 料 金 表

登 録 料	1 学 期 分	22,500円
	年 額	45,000円
履 修 料	(医)	※ 6,000円（1科目90分）
		※95,000円（1科目1単位）
	(保)	※35,000円（1科目1単位）
	(総) (外)	25,000円（1科目1単位）
登 録 料	アドバンス トプレイスマ ンに関する内 規による者	<u>5,000円（1学期分）</u>
		<u>10,000円（年額）</u>
履 修 料		※ <u>2,500円（1科目1単位）</u>

※ 実験実習科目
において、実験実
習費として別途実
費を徴収する。

第2類（杏林学園職員人事考課規程）

○杏林学園職員人事考課規程

制定 平成 5年11月 1日
 改正 平成13年12月28日

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は学校法人杏林学園に勤務する職員に人事考課（以下「考課」という。）を行い、職員の知識、技能及び能力並びに業務成績を評価し、職員の能力の向上及び資質の啓発に努め、もって昇格、昇任、異動、配置等人事処遇の適正な運用に資することを目的とする。

（適用の範囲）

第2条 この規程は学校法人杏林学園職員就業規則（以下「就業規則」という。）第2条第1項第2号、第3号、第4号及び第5号に定める職員に適用する。ただし、部長クラスについての考課は別に定める。

（考課の種類・内容・用途）

第3条 考課は定期考課並びに特別考課とし、特別考課は条件考課及び臨時考課とする。

- 2 定期考課は第2条の職員に対し毎年1月1日に実施するものとする。
- 3 条件考課は試用期間中の職員について、当該職員の試用期間が満了する日に実施するものとする。
- 4 臨時考課は、理事長が特に必要と認める職員について、随時これを実施するものとする。
- 5 考課の内容及び用途は次の表のとおりとする。

内 容	用 途			
	昇 格	昇 任	異 動	配 置
業績考課……与えられた職務の達成度				
意欲考課……日常の勤務態度	○	○	○	○
能力考課……現時点での保有能力				

（考課の原則）

第4条 考課は次の各号に定めるとおりとし、考課者及び調整者はこれを遵守しなければならない。

- （1）考課は考課項目別の絶対考課によらなければならない。
- （2）考課は考課者自身の現認した事実により行うものとし、第三者の補佐を受け又

第2類（杏林学園職員人事考課規程）

は他に委任してはならない。

- （3）考課者及び調整者は職務上知り得た考課に関する事項及び考課結果を他に漏らしてはならない。

（考課者）

第5条 考課者は被考課者の考課対象期間（以下「考課期間」という。）の末日における所属上長であり、管理職である者とする。

- 2 前項に定める者が欠けている場合又は考課者を特定できない部署については、総務部長が理事長と協議して考課者を決定する。

- 3 考課者が考課期間の途中で異動等により考課者の資格を失う場合は、考課期間のうち考課者であった期間の被考課者に関する事項を後任者に引き継がなければならない。

（代理考課者）

第6条 考課者が長期病欠その他の理由により考課を行うことができない時、又は考課期間の3分の1を超えて職務に就かなかった場合は総務部長が理事長と協議して代理考課者を選任することができる。

（被考課者）

第7条 被考課者は考課期間の末日における考課者の管理下にある者とする。

（考課の免除）

第8条 被考課者は次の各号の一に該当する期間があるときは、当該期間の考課は行わない。

- （1）病気等により引き続き1ヶ月以上出勤日のない期間
- （2）業務上災害疾病による療養期間
- （3）その他の事由により理事長が必要と認めた期間

（調整）

第9条 考課の結果について部署間の不均衡を修正する必要があると認められるときは次の順序により考課結果を調整する。

- （1）第一次調整として、各室部の長（以下「第一次調整者」という。）は、各室部の各課間の考課結果を調整する。
- （2）第二次調整として、総務部長（以下「第二次調整者」という。）は全体の考課結果を調整する。

（人事考課表の提出）

第10条 考課者は、第16条に規定する考課期間の末日から10日以内に、人事考課表（以下「考課表」という。）を作成し、第一次調整者に提出しなければならない。

- 2 第一次調整者は考課表を調整の上、速やかに人事課長に提出しなければならない。

（第一次調整）

第11条 第一次調整者は考課者から提出のあった考課結果を尊重し、考課項目の評語を二段階以上修正することはできない。

第2類（杏林学園職員人事考課規程）

- 2 第一次調整者は室部内の各課間の不均衡を調整する。この場合、第一次調整者は調整にあたり考課者と協議しなければならない。

（第二次調整）

第12条 第二次調整者は、第一次調整又は考課の結果の不均衡について考課項目の評語を二段階以上修正しない範囲で調整する。

- 2 第二次調整者は調整に当り、考課者及び第一次調整者の意見を聴かなければならない。

（非公開の特例）

第13条 考課者は被考課者の指導・教育に必要があると認めた場合は、必用な限度において考課概要を被考課者に知らせることができる。

（考課表の保管）

第14条 考課表は考課後5年間人事課が保管しなければならない。

第2章 人事考課

（考課項目の構成と定義）

第15条 考課の項目は次の構成による。

- （1）業績考課。与えられた職務をどれだけ達成したかを仕事の質、仕事の量、経費節減により考課する。
 - （2）意欲考課。日常の勤務態度を協調性、規律性、責任性、積極性及び勤勉性により考課する。
 - （3）能力考課。職務遂行上の能力を、知識、技術、理解力、判断力、決断力、創造力、企画力、表現力、折衝力、指導力及び統率力により考課する。
- 2 前項の考課項目については職員の職位別に考課対象項目を定める。

（考課期間）

第16条 考課の期間は前回の考課実施日から当該考課実施日の前日までとする。ただし、条件考課については就業規則第9条に定める期間とする。

（考課の基準）

第17条 考課者は職員ごとに各考課項目について別表の考課表により考課し、次の評価評語を付与する。

評価評語	評価
S	著しく優れている（十分に努力し、称賛に値する）
A	優れている（努力が認められる）
B	普通である（ミスや問題は殆どない）
C	やや劣っている（ミスや問題が少々あるが、業務にはかろうじて支障がない）
D	劣っている（ミスや問題が目立ち、業務に支障がある）

第2類（杏林学園職員人事考課規程）

- 2 S及びDの評語により評価するときは、その具体的観察事実を考課表の特記事項欄に記入しなければならない。

第3章 自己申告

（自己申告書）

- 第18条 被考課者は別に定める自己申告書に所定の事項を記入し、10月末日までに考課者に提出しなければならない。

（面談の趣旨）

- 第19条 考課者は異動・配置・教育訓練等についての被考課者の希望等の情報を得るため、被考課者と面談の機会を設けなければならない。

- 2 面談は考課の期間終了前に行う。

（面談）

- 第20条 考課者は面談について、被考課者から提出された自己申告書に基づき、被考課者と相互に確認するための話し合いを行い、必要に応じ指導、助言を行う。

- 2 考課者は面談終了後、自己申告書の考課者所見欄に必要事項を記入し、考課表に付して提出する。

（自己申告書の保管）

- 第21条 自己申告書は提出後5年間人事課が保管しなければならない。

（補則）

- 第22条 この規程に定めるもののほか考課の実施に関して必要な事項は理事長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 5年11月 1日から施行する。ただし、第2条に規定する就業規則第2条第1項第3号、第4号、及び第5号に定める職員に係る当該規程の適用については、理事長が別に定める日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成14年 1月 1日から施行する。
- 2 第2条に規定する就業規則第2条第1項第4号に係る当該規程の適用については、理事長が別に定める日から適用する。

別表 省略

第3類（杏林大学教育職員資格審査基準）

○杏林大学教育職員資格審査基準

制定 昭和62年12月 1日

改正 平成23年12月19日 令和 6年 9月 9日

（目的）

第1条 この基準は、大学設置基準に準拠し、杏林大学（以下「本学」という。）の教育職員（以下「教員」という。）の選考に必要な基準を定めることを目的とする。

2 選考の候補者とする教員は、本学の建学の精神を理解し、その実現に熱意を有するものであることを要する。

（教授の資格）

第2条 教授となることのできる者は、次の各号の一に該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- （1） 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者
- （2） 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- （3） 学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専門分野に関する実務上の業績を有する者
- （4） 大学において、教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- （5） 芸術、体育等については、特殊な技能に秀でていと認められる者
- （6） 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

（准教授の資格）

第3条 准教授となることのできる者は、次の各号の一に該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- （1） 前条各号のいずれかに該当する者
- （2） 大学において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- （3） 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- （4） 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者
- （5） 専攻分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

（講師の資格）

第4条 講師となることのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- （1） 第2条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- （2） その他特殊な専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教

第3類（杏林大学教育職員資格審査基準）

育上の能力を有すると認められる者

（助教の資格）

第5条 助教となることのできる者は、次の各号の一に該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- （1） 第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者
- （2） 修士の学位（修業年限6年の医学、歯学、薬学又は獣医学を修了した者については学士の学位）又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- （3） 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者

（助手の資格）

第6条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1） 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する
- （2） 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者

（資格審査）

第7条 教員の採用及び昇任の審査にあたっては、書類選考により第2条から第6条に規定する職位ごとの資格要件を満たしているか確認したうえ、必要に応じて面接を行い、適格性を判定する。

2 昇任の審査では、前項に加えて教員評価により、職位に相応しい活動実績があるかを確認し、総合的に判定を行う。

3 資格審査の詳細については、別に定める。

（改廃）

第8条 この基準の改廃は、大学評議会の議を経るものとする。

附 則

この基準は、昭和62年12月 1日から施行する。

附 則

この基準は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

この基準は、令和 6年 9月 1日から施行する。

杏林大学井の頭図書館所蔵の社会科学系の購入雑誌

(2024 年度中に休刊したタイトルも含む。また下記の他、保存年限数年で受入している雑誌が 20 誌程度あり)

- ・ Harvard business review : Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー [日本版]
- ・ Voice : 21 世紀の新しい日本を共に創る月刊誌 = ボイス
- ・ Will = マンスリーウイル : オトナの常識
- ・ アメリカ法 / 日米法学会
- ・ ガバナンス : 21 世紀の地方自治を創る総合情報誌
- ・ ビジネス法務
- ・ フォーリン・アフェアーズリポート
- ・ ユーラシア研究
- ・ レジャー白書
- ・ 移民政策研究
- ・ 家庭の法と裁判
- ・ 我が国の商業
- ・ 会計・監査ジャーナル : 日本公認会計士協会機関誌
- ・ 海事法研究会誌
- ・ 外交
- ・ 外国貿易概況
- ・ 企業と人材
- ・ 企業会計
- ・ 季刊労働法
- ・ 金融・商事判例
- ・ 金融法務事情
- ・ 刑法雑誌
- ・ 経営史学
- ・ 経済セミナー
- ・ 警察學論集
- ・ 月刊学校教育相談
- ・ 月刊生徒指導
- ・ 現代の図書館
- ・ 戸籍時報
- ・ 公正取引
- ・ 鉱工業指数年報
- ・ 国際安全保障

- ・ 国際金融
- ・ 国際商事法務
- ・ 国際人権
- ・ 国際政治
- ・ 国連研究
- ・ 最高裁判所刑事判例集
- ・ 最高裁判所民事判例集
- ・ 罪と罰
- ・ 思想 / 岩波書店 [編]
- ・ 私法
- ・ 資源・エネルギー統計月報
- ・ 自治研究
- ・ 実行関税率表
- ・ 社会学評論
- ・ 社会保険旬報
- ・ 週刊金融財政事情
- ・ 旬刊経理情報
- ・ 旬刊商事法務
- ・ 消費者法ニュース
- ・ 新聞研究
- ・ 世界 / 岩波書店 [編]
- ・ 世界開発報告
- ・ 世界法年報
- ・ 正論
- ・ 税法学
- ・ 税経通信
- ・ 租税法研究
- ・ 組織科学
- ・ 捜査研究
- ・ 賃金と社会保障
- ・ 登記研究
- ・ 都市問題
- ・ 難民研究ジャーナル
- ・ 日仏法学
- ・ 日本の参考図書. 四季版
- ・ 日本歴史

- ・ 日本労働研究雑誌
- ・ 日本労働法学会誌
- ・ 農林水産省統計表
- ・ 判例時報.
- ・ 判例評論
- ・ 犯罪社会学研究
- ・ 販売革新
- ・ 比較法研究
- ・ 別冊商事法務
- ・ 法学 / 東北帝國大學法學會
- ・ 法学セミナー
- ・ 法社會學
- ・ 法哲學年報
- ・ 法律のひろば：國民の法律雑誌
- ・ 法令解説資料総覧
- ・ 法學協會雑誌
- ・ 法學論叢
- ・ 貿易と関税
- ・ 毎月勤労統計要覧
- ・ 民事訴訟雑誌
- ・ 労働判例
- ・ 労働法律旬報
- ・ 労働法令通信
- ・ 會計
- ・ 國家學會雑誌
- ・ 國際法外交雑誌
- ・ American Economic Association Package(電子版)
- ・ American journal of international law(電子版)
- ・ American Political Science Review(電子版)
- ・ Brookings papers on economic activity(電子版)
- ・ Econometrica(電子版)
- ・ International security(電子版)
- ・ Journal of European Public Policy(電子版)
- ・ The Review of economics and statistics(電子版)
- ・ 国際問題 web

策定 平成 31 年 3 月 11 日

改正 令和 4 年 7 月 25 日

杏林大学内部質保証の方針

（１）基本的な考え方

本学は、理念・目的及び使命の達成に向けて、教育研究活動を中心とした諸活動について点検及び評価を行い、その結果を踏まえて、質の向上に向けた不断の改善を図ることで、大学自らの手で内部質保証を推進する。本学の内部質保証の取り組みは、全学的な内部質保証推進組織が提示する大学全体としての基本方針のもと、各部門がその特性に応じて主体的に実施する。

（２）組織体制

本学における内部質保証を推進するため、次のとおり組織体制を整備する。

- ①「学部長会議」は、内部質保証の推進に責任を負う総括的な組織であり、学長のもと、各学部長、各研究科長、事務局長、大学事務部長、総務部長、経理部長を構成員とする。
- ②各部門の「運営委員会」は学部、研究科、センターなどの組織毎の内部質保証の推進に対して中心的な役割を担い、各部門の役職者（学部であれば学部長、教務部長、学生部長など）を構成員とする。
- ③「自己点検・評価委員会」は、全学的な観点に立って学内諸活動につき自己点検・評価を行い、各学部の教務部長、各研究科委員会の教務担当各 1 名、研究推進センター長、入学センター長、学生支援センター長、地域連携センター長、学長が指名する専任教員若干名、事務局長を構成員とする。
- ④「IR 推進室」は、大学の諸活動の効果検証や情報提供を行い、学長が任命した本学の教職員を構成員とする。
- ⑤「外部評価委員会」は、自己点検・評価の客観性や有効性、各部門の諸活動の成果などを第三者の視点で検証し、本学と直接の利害関係を有しない学外の有識者を構成員とする。

（３）手続き

本学における内部質保証を実質化させるため、PDCA サイクルの基本的な考え方に則って教学マネジメントを機能させることで、恒常的な改善を図るものとする。

① 計画

- ・学部長会議は、本学の建学の精神、理念・目的、将来計画及び行政・認証評価機関からの指示・指摘事項等に基づき、大学の基本的な方針を各部門に提示する。

- ・各部門は、教育、研究、社会貢献、その他諸活動に関して、部門運営委員会の指示のもと事業計画を策定する。

② 実行

- ・各部門は、事業計画に基づき、教育、研究、社会貢献、その他諸活動を実施する。
- ・学部長会議は、各部門の取り組みを支援する。

③ 評価

- ・各部門は、諸活動の実施状況を随時学部長会議に報告するとともに、事業計画の達成状況を毎年自己点検・評価し、結果を自己点検・評価委員会に報告する。
- ・自己点検・評価委員会は、各部門の自己点検・評価結果を全学的観点で評価し、その結果を学部長会議に報告する。
- ・学部長会議は、全学の自己点検・評価結果及び各部門の取り組み状況を第三者の観点から検証するため、外部評価委員会に評価を依頼する。また、必要に応じて IR 推進室に客観的なデータ分析に基づく諸活動の効果検証を依頼する。
- ・外部評価委員会は、学外の有識者が全学的な自己点検・評価結果の客観性や有効性、各部門の諸活動の成果などを検証し、学部長会議に報告する。
- ・学部長会議において、上記の各自己点検・評価の結果を評価・検討したうえで、学長は必要に応じて、各部門に改善を指示する。また、自己点検・評価の結果を学内外に公表する。

④ 改善

- ・各部門は、部門内での評価結果に加え、学長からの改善指示を踏まえて、さらなる向上への取り組みを検討し、その結果を学部長会議に報告する。また、翌年度の事業計画に反映することで、螺旋型の改善へと繋げていく。

以上

学 部 長 会 議

1. 日 時 2023年12月11日（月）13時30分～
2. 場 所 三鷹キャンパス 図書館棟6階 大会議室
3. 議 題

- ◎ （1）2023年度 杏林大学 公立学校教員採用試験結果について[報告] …………… 資料①
- ◎ （2）2024年度入学者 試験状況について[報告] …………… 資料②
- ◎ （3）2022年度実施 IRコンソーシアム学生共通調査の分析結果について[報告]………… 資料③
- ◎ （4）2023年度実施 卒業生及び就職先アンケートの分析結果について[報告]………… 資料④
- ◎ （5）在校生の地理的分布の分析結果について[報告]………… 資料⑤
- Ⓟ （6）FD・SDの方針について …………… 資料⑥

次回以降開催日時： 2024年1月15日（月）10：30～ 三鷹キャンパス(図書館棟6階大会議室)
2024年2月5日（月）13：30～ 三鷹キャンパス(本部棟11階南会議室)

2024年度以降のFD・SD活動について

2023年12月11日

学部長会議

1. 経緯

本学は、2022年度に受審した認証評価において、ファカルティ・ディベロップメント(FD)及びスタッフ・ディベロップメント(SD)に関して次の指摘を受けた。

- ① 個々の教職員のFD・SDの参加状況を把握するとともに、参加率の改善を図る必要がある。
- ② FD活動が教育・研究・大学運営の改善に寄与しているか、有効性を検証すべきである。

そこで、以下の通り「杏林大学FD・SDの基本方針」を定めたうえで、大学部門の全教職員は年間に1度以上のFD・SD参加を必須とする。また、各活動の参加者及び内容、方法、効果を測定し、継続的なFD・SDの改善に取り組むものとする。

2. 杏林大学FD・SDの基本方針（案）

杏林大学は、本学で学ぶ学生が、各学部及び研究科のディプロマ・ポリシーで示した力を卒業時に身に付けることが出来るよう、教育及び大学運営を担う教職員や指導補助者等の資質能力の向上を図ることを目的として、組織的かつ継続的にFD・SD活動を実施する。

そのために、各学部・研究科にFD委員会等を設置し、FD活動として、自己点検・評価やIR分析の結果から明らかになった各学部及び研究科の課題を考慮し、教育の質向上に資する研修を実施する。また、SD活動として、社会的な状況への対応など全職員の共通理解が求められる課題のほか、職種・職位ごとの役割を考慮したうえで、教育研究並びに諸活動の質向上に資する研修を実施する。さらに、実施したFD・SD活動の有効性を検証し、取り組みの改善に努めるものとする。

3. 体制及び手順

- ① 各学部・研究科のFD委員会は、FD・SDを企画・実施し、その参加者数を把握・管理する。
- ② 各学部・研究科のFD委員会は、FD・SDの効果を検証するために、活動実施後に参加者を対象としたアンケート調査を行い、その集計結果を教授会・研究科委員会等で報告

し、改善について議論を行う。

- ③ 各学部・研究科は、年度末に年間の FD・SD 活動結果を IR 推進室に報告する。
IR 推進室は、全教職員を対象に FD・SD の効果検証アンケートを作成し、各学部・研究科が調査を実施する。
- ④ IR 推進室は、アンケートを分析し、結果を学部長会議で報告する。
学長は、必要に応じて各学部・研究科に改善を指示する。
- ⑤ 各学部・研究科は、IR 推進室の分析結果に加えて、学長からの改善指示を踏まえて、さらなる教職員の質向上に結びつく FD・SD を検討し、次年度の計画に反映する。

以上

FDSD整理表

2023/12/11

学部長会議

※私学助成（教育の質に係る客観的指標）のカウント = ■…FD、■…SD

	教職員（病院・法人部門を除く）	教員
FD	① FD研修【各学部・研究科FD委員会】 ＜定期的に実施＞ ※教員以外が参加した場合は、SD扱いとなる。	
	目標参加率：100%	
SD	目標参加率：100%	
	② ハラスメントe-ラーニング【ハラスメント防止対策委員会（人事課）】 ＜毎年1回実施＞	
	③ 情報セキュリティe-ラーニング【総合情報センター】 ＜毎年1回実施予定＞	
	④ テーマ別研修（新型コロナウイルス対応、ジェンダー、内部質保証、等）【各担当部署】 ＜随時実施＞	
	⑤ 事務職員研修（階層別・目的別研修）【人事課】 ＜定期的に実施＞ ※対象：一部事務職員のみ	

学生の確保の見通し等を記載した書類

【本文目次】

(1) 新設組織の概要	- 2 -
①新設組織の概要	- 2 -
②新設組織の特色	- 2 -
(2) 人材需要の社会的な動向等	- 2 -
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	- 2 -
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	- 3 -
③新設組織の主な学生募集地域	- 3 -
④既設組織の定員充足の状況	- 3 -
(3) 学生確保の見通し	- 4 -
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	- 4 -
ア. 既設組織における取組とその目標	- 4 -
イ. 新設組織における取組とその目標	- 6 -
ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	- 9 -
②競合校の状況分析	- 9 -
ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	- 9 -
イ. 競合校との比較分析	-10-
ウ. 新設組織において定員を充足できる根拠等	-10-
エ. 学生納付金等の金額設定の理由	-10-
(4) 新設組織の定員設定の理由	-11-

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織名称	入学定員	編入定員	収容定員	所在地	既設組織との関連性
杏林大学 総合政策学部 法律政治学科	130人	4人	528人	杏林大学井の頭キャンパス 東京都三鷹市下連雀5-4-1	総合政策学部総合政策学科（入学定員150人）を廃止し、総合政策学部法律政治学科を届出設置
杏林大学 総合政策学部 経済経営学科	100人	2人	404人	杏林大学井の頭キャンパス 東京都三鷹市下連雀5-4-1	総合政策学部企業経営策学科（入学定員80人）を廃止し、総合政策学部経済経営学科を届出設置

②新設組織の特色

総合政策学部は、社会課題の発見・解決を多角的な視野と知見で行う人材を養成することを目的としているが、社会を制度の視点から捉える法律政治学科と、社会を財やサービスの移動から捉える経済経営学科の2学科からなる。法律政治学科では、法学、政治学、行政学を幅広く学び制度の視点から学修し、経済経営学科では、経済学、経営学、会計学を学ぶことで財やサービスの移動の視点から学修する。

一方で、多角的な視野を修得させるために、学科の科目だけでなく、学科間の履修を柔軟に行えるカリキュラム設計を行った。このような学修を通じ、課題発見・理解・分析・考察を行える人材を養成していく。また、地域をフィールドとした CBL、国際社会をフィールドとする GCP を開講し、実践力を養成していく。さらに、DDP では経済経営学科のみならず、法律政治学科でも履修可能であるため、企業のみならず自治体でも進められる DX に対応できる人材の養成を行う。

中央教育審議会による答申、「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」で示される機能のうち、「3.幅広い職業人養成」、「4.総合的教養教育」、「7.社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」に重点を置くこととなる。とりわけ、「7.社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」では、CBL が地域貢献、GCP が国際交流、DDP が産学官連携の土台となり、中央教育審議会の答申に応えうる学部であると思料する。

（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

一般社団法人日本経済団体連合会の2022年1月28日公表の「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」によれば、企業の求める人材像と採用動向について、特に期待する資質として「主体性」と「チームワーク・リーダーシップ・協調性」が、また特に期待する能力として「課題設定・解決能力」がその冒頭で挙げられている。これはまさに本学総合政策学部の要請する人材である「社会課題の発見・解決を多角的な視野と知見で行う人材」と合致しており、人材需要は十分満たされているものと考えられる【資料1】。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

18歳人口の推移予測

18歳人口の推移予測は【資料2】の通りである。令和6(2024)年度の18歳人口を100とした指数を用いた場合、新設組織開設10年目である令和16(2034)年には全国の18歳人口指数は94.6となる。一方で本学が所在する南関東では令和16(2034)年では100.6となり全国と比較すると地域全体の18歳人口の総数への影響は小さいものと考えられる。またしたがって、本学部入学者の主な出身都道府県からは長期的に入学定員を確保できるものと見込まれる。また【資料3】によれば、東京都においては人文・社会科学分野の占める割合(37%)が大きく、専攻分野の動向からも入学定員を確保できるものと見込まれる。

③新設組織の主な学生募集地域

本学部は東京都三鷹市に設置予定であり、学生募集の主な地域として東京都を中心とした首都圏を見込んでいる。東京を中心とした南関東は【資料4】によれば、人口指数において一定の水準が維持されることが予測されるため、既存組織の認知度を利用し、新設学部の特徴を訴求することで、これらの地域から一定数の学生募集が見込まれる。また資料「系統別志願者数」によれば本学部が対象とする「法・政治」「経済・経営・商」は比較的堅調な分野であるため、新設学部においても定員充足が見込めるものとする。

④既設組織の定員充足の状況

本学の既設学部の令和6年5月1日の収容定員充足の状況【資料5】は、全学部合計で1.02であり、外国学部を除く既設学部において収容定員を充足している。本学既設学部の中でも、総合政策学部は常に高い定員充足率(5年平均109%)となっている。

《総合政策学部》

今回の届出の基礎となる総合政策学部・総合政策学科及び企業経営学科の過去5年間の入学定員充足率は、総合政策学部全体で1.04~1.09倍と安定して定員を充足している。志願倍率(志願者数/入学定員)は総合政策学科3.72~7.76倍、企業経営学科4.45~10.18倍、総合政策学部3.97~8.60倍、実質倍率(受験者数/合格者数)で総合政策学科1.55~3.92倍、企業経営学科1.44~3.27倍、学部1.51~3.63倍と推移している【資料6】。

上述のように、今回の法律政治学科と経済経営学科の名称変更は、これまでの総合政策学部の教育課程を受験生に分かりやすくするとともに、教育効果を高めることを目的としている。そのため、本学部が対象とする学問系統分野への志望動向【資料7】が堅調であることや、本学部の近年の志願状況【資料8】を踏まえ、学生確保に向けた取組を強化することで、十分に定員を充足できると考えている。

《法律政治学科》

本学科の基礎となる総合政策学部・総合政策学科は現在、5つのコースを設けている。今回の届出では、法律政治学科を①～④のコースの学びを発展させた教育課程へと再編することとした。本学部に入学者が二年次以降にどのコースを希望したのかを示した【資料9】によると、過去3年間における①～④のコースの平均希望者数は121.3名であった。上述の学科の実質倍率の推移と現在の学生の希望を踏まえ、今回の名称変更を通じた学びの内容に関する認知度を高める取り組みを充実させることで、130名の入学定員を十分に満たすことができると考えられる。

《経済経営学科》

従来の企業経営学科の過去5年間の入学者数は87.2名（入学定員充足率平均1.09）であり、入学者確保において良好な結果であった。今回の届出では、⑤～⑦のコースの学びを発展させた教育課程を持つ経済経営学科へと再編することとした。企業経営学科の2コース希望者に経済コースの希望者を加え、上述の学科の実質倍率の推移を鑑みると、100名の入学定員を十分に満たすことができると考えられる。

なお、既設の総合政策学部においては、令和7年度入試においても、総合政策学科入学定員150名（編入定員4名を除く）に対して157名、企業経営学科入学定員80名（編入定員2名を除く）に対して94名、学部合計入学定員230名（編入定員6名を除く）に対して251名（入学定員の1.09倍）新入生を確保している【資料10】。

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、井の頭キャンパス通学圏内（概ね90分）となる東京圏及び首都圏（1都7県）を中心に、多くの情報を提供し認知を拡大させる取組を行ってきた。また多様性のあるエリアをもつ“吉祥寺”に、“最新の教育施設を要する綺麗なキャンパス”のある本学の強みと特徴を活かし広報活動を展開している。総合政策学部では、学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある学生を確保に向けて、本学の広報室、入学センターと学部の入試委員会、広報委員会が連携しながら、以下の広報活動を行っている。なお、入試委員会、広報委員会については、両学科の教員からなるため、広報活動については学部全体の取り組みとして以下記載する。

1）高等学校訪問

主に入学センター職員が各高校の進路指導部等を訪問し、学部学科の特色、学部の教育プログラム、入試制度、卒業後の進路動向について説明を行っている。また過年度に志願者やオープンキャンパスへの参加が多い高校、高大連携協定締結校には、学部の教員が訪問して、上記の内容について説明を行っている。

2) 高大接続・高大連携

杏林高大接続ラウンドテーブル参加校を中心に意見交換会を開催し、高校生向けに春・秋学期授業を開放するなど、連携校との関係を強化し、学部教育のPRを図ってきた。近年では、高大連携校と協定を締結し、高校別に実際に通常の大学の授業を経験し、キャンパスの雰囲気味わう1日キャンパスデーの開催、ブリッジ授業の提供、総合型選抜における協定校入試などの活動を実施してきた。令和7年4月1日時点で協定を結び、協定校入試をはじめ、実質的にさまざまな高大連携を実施している高校は13校である【資料11】。

3) オープンキャンパス

学生募集の中心的な活動として、大学環境や学生・教員の雰囲気を伝えることを目的として、高校生・保護者向けにオープンキャンパスを実施している。開催時期によって内容に変更があるが、学部学科の特色、模擬授業、入試制度説明、卒業後の進路の説明、学生によるキャンパスライフの説明、特徴的なプログラムの紹介、個別相談、施設見学等を行い、大学・学部・学科の選択に役立つように努めている。

4) 各種進学相談会

入学センター職員を中心に首都圏を中心に各地で開催されている進学相談会に参加し、高校生・保護者・高校教員を対象に大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度、卒業後の進路、学生生活等について説明を行っている。

5) 出張講義

本学では、教員ごとに模擬授業の一覧を準備しており、総合政策学部の教員も高校を訪問し、生徒を対象に模擬講義を行った。2024年度の実績は6件である。

6) 大学見学の受け入れ

受験生・保護者など個人、及び高校からの団体を受け入れ、随時大学見学を実施している。その際に、大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度、卒業後の進路、学生生活等について説明を行っている。

7) 高校教員向け大学説明動画

広報活動の常時展開として、高校の進路指導担当教員などに向けて、大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度などについてのオンデマンド配信を行っている。

8) 大学案内・大学公式サイト

広報室が中心となって、毎年、大学の概要・学部学科、就職支援、入試情報、学生生活などを掲載した「大学案内」及び「大学公式サイト」にて大学概要、学部学科の教育内容・特色、特徴的なプログラムの紹介、入試制度、卒業後の進路、学生生活等を掲載している。

9) 学部紹介パンフレット

今回の学科名称変更に合わせて、学部・学科の新たなコンセプトについて理解を促進するパンフレット・フライヤーの作成を行い、学部の教育内容・特色、特徴的なプログラム、ゼミ活動、卒業後の進路、学生生活等について紹介し、「高等学校訪問」、「オープンキャンパス」、「各種進学相談会」、「出張講義」、「大学見学」等で配布を行った。

10) Web 媒体・インターネット広告

近年、受験生の情報収集は受験雑誌から受験情報サイトへと変化をしてきていることがわかった【資料 11】。このように受験生の情報収集の主体がインターネットへと移り変わっている現状に合わせて、受験情報サイトに学部の教育内容・特色などを掲載し、検索サイト上のバナー広告やスマートフォンの位置情報によるジオターゲティング広告などの新しい広報媒体を活用した情報発信を強化してきた。

11) LINE 公式アカウント

上記の取組を通じて本学に関心を持った受験生にタイムリーに新しい情報（イベント情報、入試情報）を届けるために LINE 公式アカウントを活用し、確実な出願へと繋げる仕組みを整えている。

イ 新設組織における取組とその目標

本学では、井の頭キャンパス通学圏内（概ね 90 分）となる東京圏及び首都圏（1 都 7 県）を中心に、多くの情報を提供し認知を拡大させる取組を行っている。また多様性のあるエリアをもつ「吉祥寺」に、“最新の教育施設を要する綺麗なキャンパス”のある本学の強みと特徴を活かし広報活動を展開する。さらに直近の入試結果を参考に志願者数が良好な有益となる高校（3 年連続志願者数 20 名以上）を選定し、学力の高い志願者の獲得と連携促進を図っている。総合政策学部では、学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲

のある学生を確保に向けて、本学の広報室、入学センターと学部の入試委員会、広報委員会が連携しながら、以下の広報活動を行っている。なお、入試委員会、広報委員会については、両学科の教員からなるため、広報活動については学部全体の取り組みとして以下記載する。

1) 高等学校訪問

主に入学センター職員が各高校の進路指導部等を訪問し、学部学科の特色、学部の教育プログラム、入試制度、卒業後の進路動向について説明を行っている。また過年度に志願者やオープンキャンパスへの参加が多い高校、高大連携協定締結校には、学部の教員が訪問して、上記の内容について説明を行っている。

2) 高大接続・高大連携

杏林高大接続ラウンドテーブル参加校を中心に意見交換会を開催し、高校生向けに春・秋学期授業を開放するなど、連携校との関係を強化し、学部教育のPRを図ってきた。近年では、高大連携校と協定を締結し、ブリッジ授業の提供、総合型選抜における協定校入試を実施してきた。2024年に7校だった協定校を、2025年には13校と協定を締結しており、今後も高大接続・連携を通じて三つのポリシーに基づく学生確保を目指していく。

3) オープンキャンパス

学生募集の中心的な活動として、大学環境や学生・教員の雰囲気伝えることを目的として、高校生・保護者向けにオープンキャンパスを実施している。入学者のアンケートによると「受験校を決める際に、情報収集で最も役立ったもの」という質問に対して「オープンキャンパス」を選んでいる学生が第3位（17.6%）となっており、近年、「オープンキャンパス」を重視する学生の数が増加している。そのため、2023年には計4回開催だったオープンキャンパスを2024年には計6回に増やして実施をした。参加者数は減少傾向にあるものの、受験率・入学率は上昇しており、上記のアンケート結果に見られるようにオープンキャンパスが本学を選択する学生にとって重要であることがわかる。

開催時期によって内容に変更があるが、学部学科の特色、模擬授業、入試制度説明、卒業後の進路の説明、学生によるキャンパスライフの説明、特徴的なプログラムの紹介、個別相談、施設見学等を行い、大学・学部・学科の選択に役立つように努めている。実施内容については、アンケート結果をもとに毎年、改善を図っており、アンケート結果によれば、「オープンキャンパスの雰囲気」は「他大学と比較した情報」の上位に上がっている。

4) 各種進学相談会

入学センター職員を中心に首都圏を中心に各地で開催されている進学相談会に参加し、高校生・保護者・高校教員を対象に大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度、卒業後の進路、学生生活等について説明を行っている。

5) 出張講義

本学では、教員ごとに模擬授業の一覧を準備しており、総合政策学部の教員も高校を訪問し、生徒を対象に模擬講義を行った。模擬授業についても新設学科に対応した内容へ改める。

6) 大学見学の受け入れ

受験生・保護者など個人、及び高校からの団体を受け入れ、随時大学見学を実施している。その際に、大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度、卒業後の進路、学生生活等について説明を行う。

7) 高校教員向け大学説明動画

広報活動の常時展開として、高校の進路指導担当教員などに向けて、大学概要、学部学科の教育内容・特色、入試制度などについてのオンデマンド配信を行う。

8) 大学案内・大学公式サイト

広報室が中心となって、毎年、大学の概要・学部学科、就職支援、入試情報、学生生活などを掲載した「大学案内」及び「大学公式サイト」にて大学概要、学部学科の教育内容・特色、特徴的なプログラムの紹介、入試制度、卒業後の進路、学生生活等を掲載する。入学生アンケートでは「大学公式ホームページ」「大学案内・学部パンフレット」と回答している学生が半数を超えており、今回の学科名称変更に合わせて大学案内・大学公式サイトを充実させ、新設学科関連の取り組みや教学内容についても認知されるように発信を行っていく。

9) 学部紹介パンフレット

今回の学科名称変更に合わせて、学部・学科の新たなコンセプトについて理解を促進するパンフレット・フライヤーの作成を行う。学部の教育内容・特色、特徴的なプログラム、ゼミ活動、卒業後の進路、学生生活等について紹介し、「高等学校訪問」、「オープンキャンパス」、「各種進学相談会」、「出張講義」、「大学見学」等で配布を行い、学部・学科についての認知を拡大していく。

10) Web 媒体・インターネット広告

近年、受験生の情報収集は受験雑誌から受験情報サイトへと変化をしてくていること

がわかった【資料13】。このように受験生の情報収集の主体がインターネットへと移り変わっている現状に合わせて、受験情報サイトに学部の教育内容・特色などを掲載し、検索サイト上のバナー広告やスマートフォンの位置情報によるジオターゲティング広告などの新しい広報媒体を活用した情報発信を強化してきた。

こうした Web 媒体やインターネット広告から本学のホームページやオープンキャンパス特設サイトへのトラフィックを増やし、高校生の大学選びアンケートで上位に位置する“活気ある雰囲気”や“成長させてくれる大学”を打ち出すため、学生活動の記録を Web コンテンツ化し PR 活動を進める。

11) LINE 公式アカウント

上記の取組を通じて本学に関心を持った受験生にタイムリーに新しい情報（イベント情報、入試情報）を届けるために LINE 公式アカウントを活用し、確実な出願へと繋げる仕組みのさらなる整備を進める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

令和7（2025）年度の入学者数は、総合政策学科 157 名、企業経営学科 94 名、学部合計 251 名であり、定員充足率も 109%であり、堅調に推移した。そのうち学校推薦型選抜入学者及び総合型選抜入学者は、総合政策学科 96 名、企業経営学科 61 名となっている。こうした実績を鑑みて、指定校選定及び高大連携校との関係を密とすることで、学校推薦型選抜入学者及び総合型選抜入学者の増加を目指す。今後、オープンキャンパスの実施回数を増やすことなど、学生募集に向けた取組の更なる充実を図るとともに、学校推薦型選抜及び総合型選抜を中心に安定した学生確保を目指すことで、法律政治学科及び経済経営学科においても入学者は十分に満たせるものと考ええる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学部の入学者アンケートの併願校【資料14】をもとに、立地、教育課程の類似性、学力層の近似性を鑑みて、以下の大学を競合校とした。

本学部の入学者アンケートの併願校【資料15】をもとに、立地、教育課程の類似性、学力層の近似性を鑑みて、以下の大学を競合校とした。なお、このアンケートは、それらの大学を併願先としていた入学者による回答であるため、本学部はこれらの競合校に対して一定の競争力を有していると考えられる。

亜細亜大学 経営学部／経済学部／法学部

桜美林大学 リベラルアーツ学群／ビジネスマネジメント学群
東京経済大学 経済学部／経営学部／現代法学部
帝京大学 経済学部／法学部
武蔵野大学 法学部／経済学部／経営学部

イ 競合校との比較分析

以上のように、選定した競合校に対する本学の優位点として、社会科学の主要分野を包括する「法律政治学科」及び「経済経営学科」の二学科体制を採用していることが挙げられる。この体制により、学生はそれぞれの学科に軸足を置きつつ、異なる学問的視点から社会を多角的に捉える力を養うことが可能である。さらに、学科の枠を超えた学修を促進するカリキュラムを整備することで、幅広い視野と学際的な素養を備えた人材の育成を図っている。また、少人数教育や演習授業を通じて、学生一人ひとりの主体的な学びを促進している。加えて、地域貢献・国際交流・データ活用に対応した実践的プログラム（CBL、GCP、DDP）を整備し、学生が修得した知識を実社会において応用し、実践力を育成する機会を提供している。さらに、ライフ・プランニング、キャリア開発、インターンシップ等、将来の職業生活を見据えた教育を体系的に配置し、出口を意識したキャリア教育を実施している。こうした教育手法を通じて、社会が内包する諸課題を多角的視点から発見・理解・分析・考察し、法律、政治、国際政経、福祉政策、経済、経営、会計といった幅広い教養を身につけるとともに、学際的な視点からの考察に資する専門知識を修得し、実践的な学びを通じて社会で活躍する人材の養成を可能としている。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

直近3年間の競合校の志願状況【資料16】について「旺文社パスナビ」をもとに調査した。その推移は、志願倍率 4.37~21.75 倍、実質倍率 1.15~3.63 倍であり、一定の倍率を維持していることから、当該学問分野における高校生の需要が確認できる。競合との比較分析結果を踏まえても、法律政治学科、経済経営学科でも十分に学生を確保し、定員の充足は可能であると考えられる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

入学金：¥250,000 授業料：¥920,000 施設・設備費：¥200,000
初年度合計：¥1,370,000 2年次以降の年間納付金：¥1,120,000
学費総額：¥4,823,300（諸経費、父母会費等込み）
これは、以下の事項を勘案し設定した。

近隣大学の社会科学系学部の学生納付金水準

本学総合政策学部の学費は近隣大学の学生納付金と同水準であり、他大学に対しても一定の競争力を保持すると考える【資料17】。

(4) 新設組織の定員設定の理由

本届では、令和8年度より、現在の総合政策学部・総合政策学科及び企業経営学科を基礎に、総合政策学部・法律政治学科及び経済経営学科を設置するとともに、その入学定員を法律政治学科 130 名・経済経営学科 100 名に変更するものである。この定員設定に至った経緯は以下の通りである。

現行の総合政策学部総合政策学科の入学定員は 150 名、企業経営学科の入学定員は 80 名であり、3 年次編入学定員（総合政策学科 4 名企業経営学科 2 名）を加えると総合政策学部の収容定員は 932 名となっている。総合政策学科には「政治コース」「経済コース」「法律コース」「国際関係コース」「福祉政策コース」の 5 コース、企業経営学科には「経営コース」「会計コース」の 2 コースを設けており、学生は 2 年次に所属するコース選択を行う体制となっている。

過去 5 年間の志願倍率・入学定員充足率を見ると、企業経営学科が総合政策学科よりも高い状況にある。また、本学部のオープンキャンパスや進学相談などを通じて、企業経営学科の教育内容が受験生には理解しやすいことが分かってきた。さらに、受験生の進路相談や学生の履修相談などから、コース選択の際に経済と経営の間で選択に悩む学生が一定数存在することが分かっている。一方で、総合政策学科に置かれたコースの内容は、高校生が志望校を検討・決定する段階では認識しにくいことが課題として挙げられる。このような状況を踏まえ、受験生に学科の教育内容をより明確に伝えるために、現在の学科名称を「法律政治学科」と「経済経営学科」の 2 学科体制に変更する。また、現行のコース選択の状況（年度別コース選択状況【資料9】）を考慮し、法律政治学科の入学定員を 130 名と経済経営学科の定員を 100 名としたい。

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

資料 1	一般社団法人日本経済団体連合会「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」	2
資料 2	リクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向」	5
資料 3	文部科学省「文部科学統計要覧（令和 6 年版）関係データ集 進学率・学校数・入学定員・進学者収容力等の状況（都道府県別）」 東進タイムズ「2025 年度私立大学入試動向」	7
資料 4	リクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向」	12
資料 5	既設学科等の入学定員の充足状況 別紙 2-1	17
資料 6	直近の 5 年間の志願倍率・定員充足率の状況	36
資料 7	系統別志願者数	37
資料 8	志願者_合格者数	38
資料 9	年度別コース選択状況	39
資料 10	2025 年度入試、総合政策学部入試結果	40
資料 11	協定書・覚書締結校一覧	41
資料 12	入学生アンケート「情報収集に活用した受験情報サイト」「情報収集に活用した受験雑誌」	42
資料 13	入学生アンケート「情報収集に活用した受験情報サイト」「情報収集に活用した受験雑誌」	42
資料 14	入学生アンケート「併願校【第 3 位】」	42
資料 15	入学生アンケート「併願校【第 3 位】」	42
資料 16	競合校	44
資料 17	文系学部競合校の学費・志願倍率（総合政策学部）	45

採用と大学改革への期待に関するアンケート結果

2022年1月18日

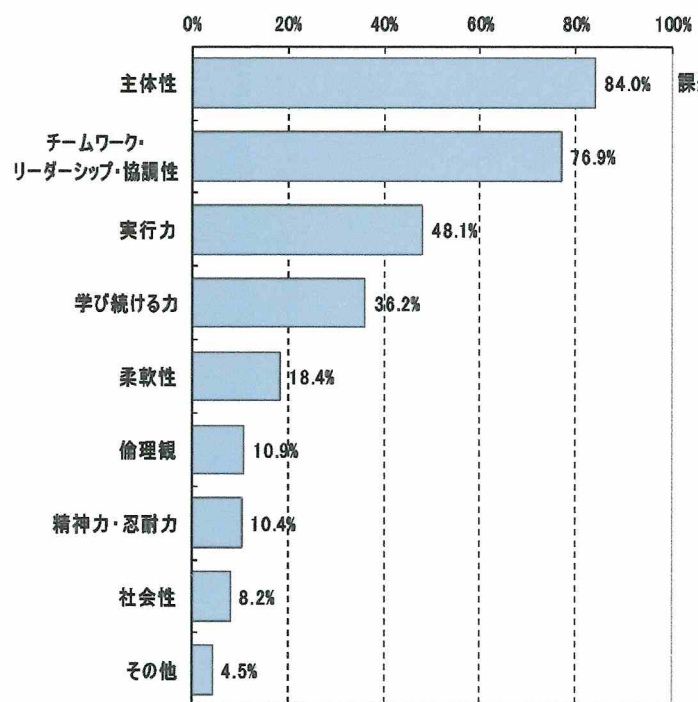
一般社団法人 日本経済団体連合会

第 I 部：企業の求める人材像と採用動向

1. 採用の観点から、大卒者に特に期待する資質・能力・知識

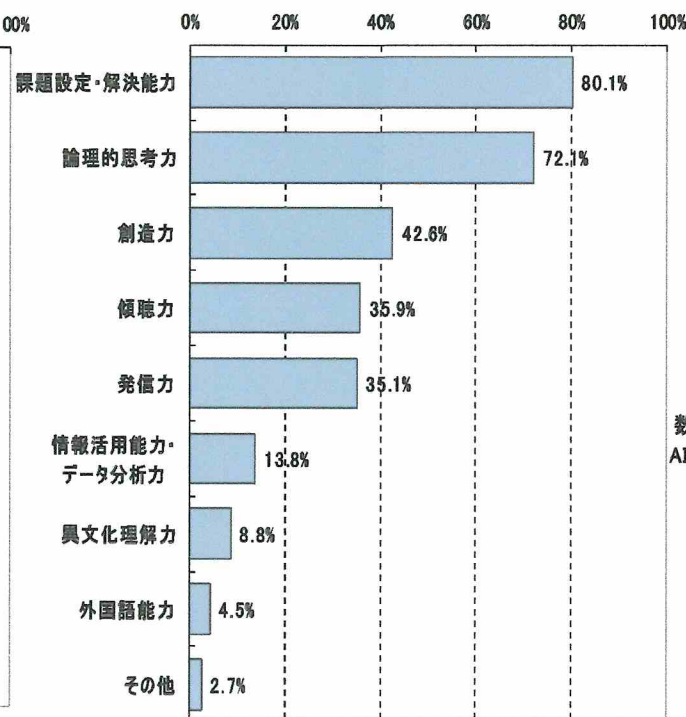
- 特に期待する資質として、回答企業の約8割が「主体性」、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げた。変化の激しい人生100年時代を迎え、「学び続ける力」と回答した企業が4割近い。
- 特に期待する能力として、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「創造力」が上位。いずれも Society 5.0において求められる能力として、産学協議会で産学間で認識が一致したもの。
- 特に期待する知識として、「文系・理系の枠を超えた知識・教養」が最も多く、リベラルアーツ教育や文理融合教育を重視した教育の実践が重要。専門教育の重要性も認識。

<特に期待する資質>



(n=376)

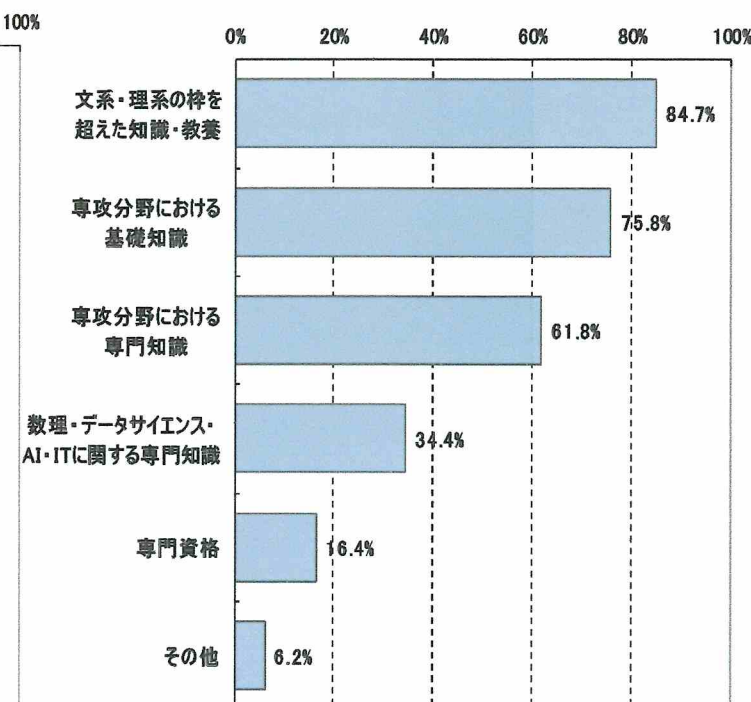
<特に期待する能力>



学生確保(資料) 4

(n=376)

<特に期待する知識>



(n=372)

注: 資質・能力・知識についてそれぞれ3つまで選択可能

【全国版】

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2024～2036年】

■18歳人口予測 P3～P8

- ・2024年106.3万人→2036年94.2万人（12.1万人減少）
- ・東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・2024年比減少率が高いのは東北（80.4%）、減少数が多いのは近畿（22,590人減少）

【経過推移 2015年～2024年】

■進学率（現役・過年度含）の推移 P9～P22

大学進学率（現役）

- ・2015年48.9%→2024年58.4%（9.5ポイント上昇）
- ・1位 北海道（134.8）、2位 四国（123.3）、3位 東北（122.3）※注
- ・進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・2015年5.2%→2024年3.1%（2.1ポイント低下）
- ・低下が大きいのは、1位 南関東（50.0）、2位 近畿（54.2）、3位 東海（55.6）※注
- ・進学率が高いのは、北陸、甲信越、東北、九州沖縄

専門学校進学率（現役）

- ・2015年16.7%→2024年15.4%（1.3ポイント低下）
- ・低下が大きいのは、1位 四国（87.3）、2位 南関東（88.2）、3位 近畿（90.5）※注
- ・進学率が高いのは、北海道、甲信越、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2024年）

- ・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2015～2024年）

- ・2024年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.7ポイント（過年度含が高い）
- ・短期大学は差なし。専門学校は8.6ポイント（過年度含が高い）

※注）（）内の数値は、2015年を100としたときの2024年の指数

■地元残留率の推移 P23～P31

- ・大学入学者の地元残留率は、2015年43.6%→2024年44.8%（1.2ポイント上昇）
- ・短期大学入学者の地元残留率は、2015年69.0%→2024年71.9%（2.9ポイント上昇）
- ・大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.4%）
- ・短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（94.3%）

■18歳人口減少率×地元残留率 P32・33

- ・大学入学者：都道府県別：2024→2036年
- ・短期大学入学者：都道府県別：2024→2036年

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート進学総研
学生確保（資料）5
<https://souken.shingakunet.com/>

■POINT 1 <今後の18歳人口>

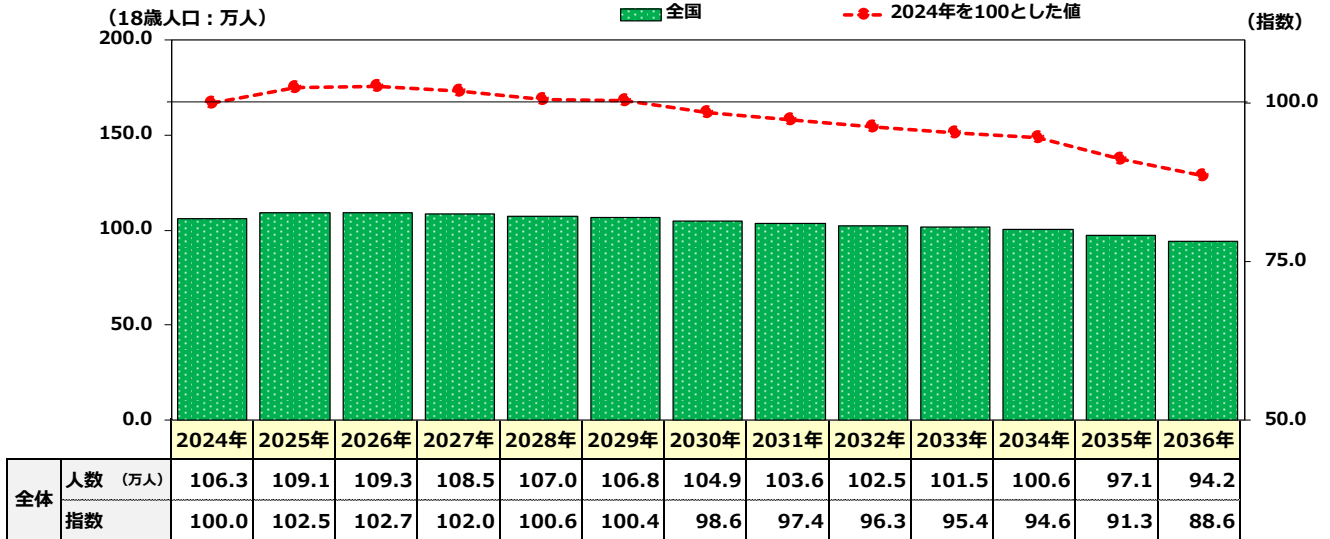
1 8歳人口は2026年までは増加するが、その後緩やかに減少フェーズへ。人口減少のスピードは地域で大きく異なる。地域の実情に合わせた大学（高等教育）の改革が重要に

2024年の18歳人口は106.3万人でした。25年は109.1万人、26年には109.3万人と少しずつ増加を続けます。それ以降は27年より減少に転じ、徐々に減少をし続けながら2035年には100万人を切ります。

2024年から2036年の18歳人口減少率を見ると全国では11.4%です。県別にみると増加傾向にあるのは、東京、沖縄のみ。減少率が11.4%を下回っている県は東京、沖縄を含めた13都府県のみです。一方で減少率が11.4%を上回っている県は34道府県あり、多くの県はより速いペースで減少していきます。

大学、短大、専門学校にとっては、人口が横ばいの今後5年程度が、将来の人口減少フェーズに向けた改革を進める重要な期間となります。その上で、上記の通り都道府県ごとに状況が違うことを考慮すると、地域の実情に合致した形での改革が必要になってくるでしょう。

■18歳人口動態の変化（P.4）



■POINT 2 <地元残留率>

2024年の地元残留率は前年度から横ばいだが、上昇は南関東、近畿、北陸のみ、低下に転じた地域もある。コロナ禍の落ち着きにより、大都市圏への流出拡大の可能性。

地元残留率（P.24）は2020年より22年までコロナの影響もあり全国値を見ると上昇しており、2022年から24年までは横ばいとなっています。しかし、今年は少し変化が見られます。

コロナ以前の2019年と比較すると全国値が高いことには変わりはありませんが、北海道、北関東、中国、四国、九州沖縄と、多くの地域で若干の残留率低下がみられます。2023年にコロナが5類に移行した影響がありそうです。こうしたことから2025年以降は、さらに地方から都市への地域間移動が増加する可能性が考えられます。

また、今年はZEN大学など通信制の大学の新設もあり、通学だけではない選択肢が広がっていることも注目する必要があります。従来のような都市圏vs地方圏といった単純な構図ではなくなっており、多角的に学生募集を考えていく必要があります。

学生確保（資料） 6

※データ元：文部科学省「学校基本調査」



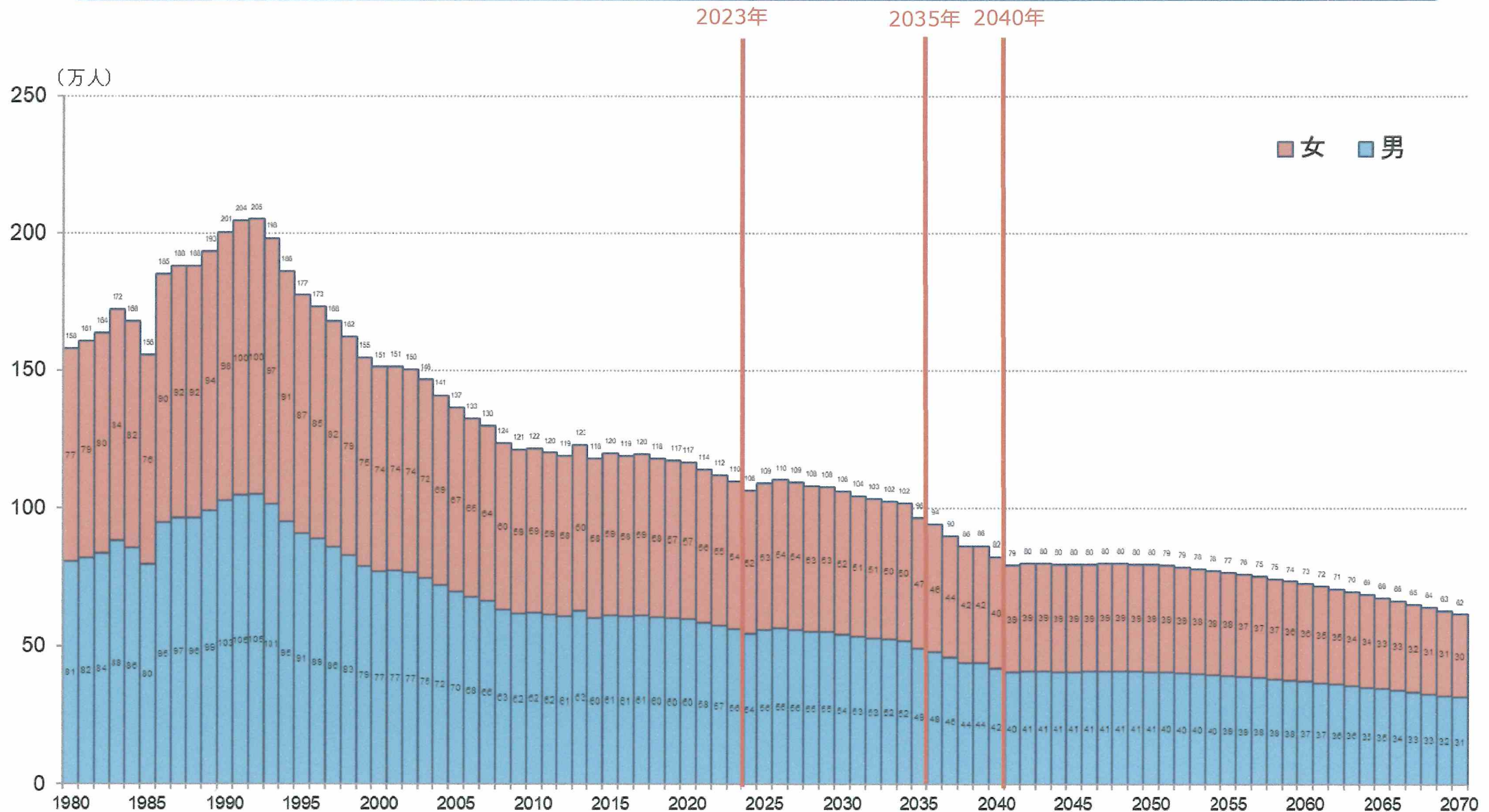
リクルート 進学総研所長
カレッジマネジメント編集長
小林 浩

関係データ集

令和6年7月19日版

18歳人口(男女別)の将来推計

- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約110万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少するという推計もある。

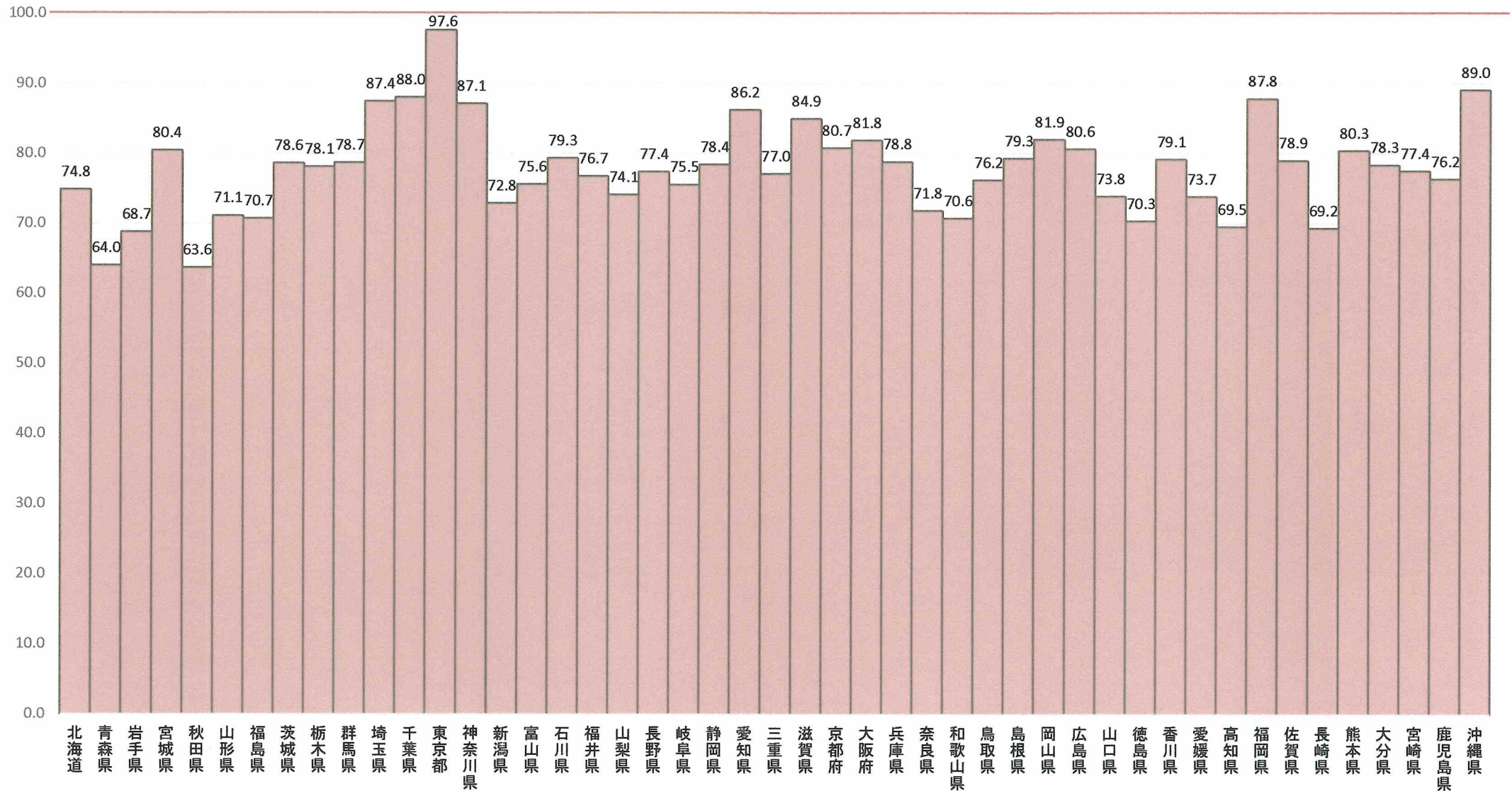


(出典) 2022年以前は文部科学省「学校基本統計」、
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成

2040年生産年齢人口(15～64歳)の都道府県別推計

国立社会保障・人口問題研究所の予測では、2040年生産年齢人口(15～64歳)は、東京都を除く道府県で1割以上の減少となり、特に地方における減少が著しい。

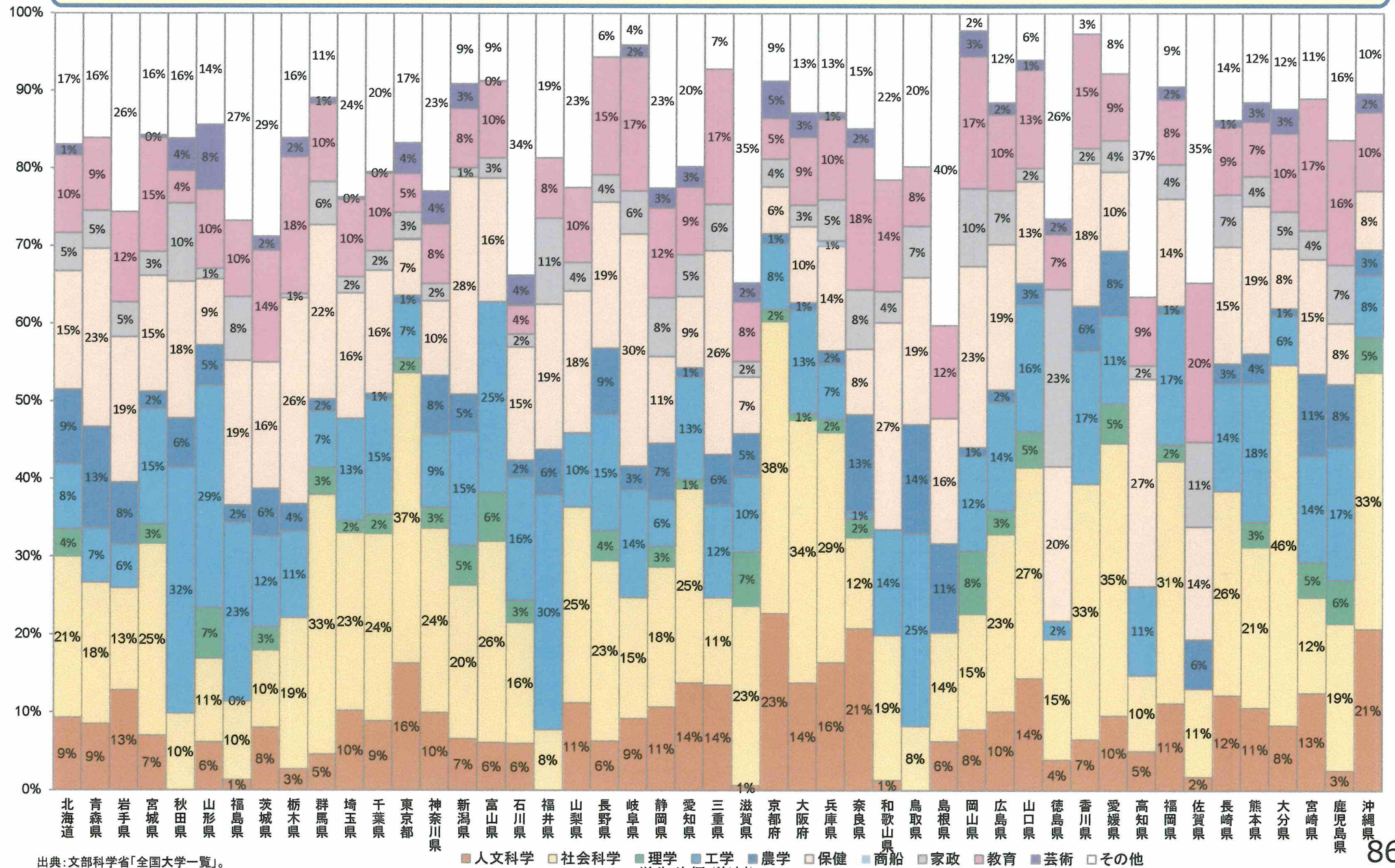
令和2(2020)年の15～64歳人口を100としたときの15～64歳人口の2040年の指数



【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」を基に、文部科学省作成。
学生確保(資料) 9

都道府県別・専攻分野別入学定員数比率

各都道府県の専攻分野別入学定員の割合（大学・短期大学）は様々であるが、例えば、大都市圏である東京や京阪神では、人文・社会科学分野の占める割合が大きく、理学・工学・農学分野の占める割合が小さい傾向にある。



系統別志願者数

系統別名称	2016年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
社会・社会福祉	100	112	112	114	111	112	112
法・政治	100	107	108	109	116	115	112
経済・経営・商	100	112	112	113	116	121	126
環境・情報・国際・総合	100	105	103	99	99	103	102

出典：東進タイムズ「2025年度私立大学入試動向」より作成

【全国版】

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2024～2036年】

■18歳人口予測 P3～P8

- ・2024年106.3万人→2036年94.2万人（12.1万人減少）
- ・東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・2024年比減少率が高いのは東北（80.4%）、減少数が大きいのは近畿（22,590人減少）

【経過推移 2015年～2024年】

■進学率（現役・過年度含）の推移 P9～P22

大学進学率（現役）

- ・2015年48.9%→2024年58.4%（9.5ポイント上昇）
- ・1位 北海道（134.8）、2位 四国（123.3）、3位 東北（122.3）※注
- ・進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・2015年5.2%→2024年3.1%（2.1ポイント低下）
- ・低下が大きいのは、1位 南関東（50.0）、2位 近畿（54.2）、3位 東海（55.6）※注
- ・進学率が高いのは、北陸、甲信越、東北、九州沖縄

専門学校進学率（現役）

- ・2015年16.7%→2024年15.4%（1.3ポイント低下）
- ・低下が大きいのは、1位 四国（87.3）、2位 南関東（88.2）、3位 近畿（90.5）※注
- ・進学率が高いのは、北海道、甲信越、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2024年）

- ・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2015～2024年）

- ・2024年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.7ポイント（過年度含が高い）
- ・短期大学は差なし。専門学校は8.6ポイント（過年度含が高い）

※注）（）内の数値は、2015年を100としたときの2024年の指数

■地元残留率の推移 P23～P31

- ・大学入学者の地元残留率は、2015年43.6%→2024年44.8%（1.2ポイント上昇）
- ・短期大学入学者の地元残留率は、2015年69.0%→2024年71.9%（2.9ポイント上昇）
- ・大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.4%）
- ・短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（94.3%）

■18歳人口減少率×地元残留率 P32・33

- ・大学入学者：都道府県別：2024→2036年
- ・短期大学入学者：都道府県別：2024→2036年

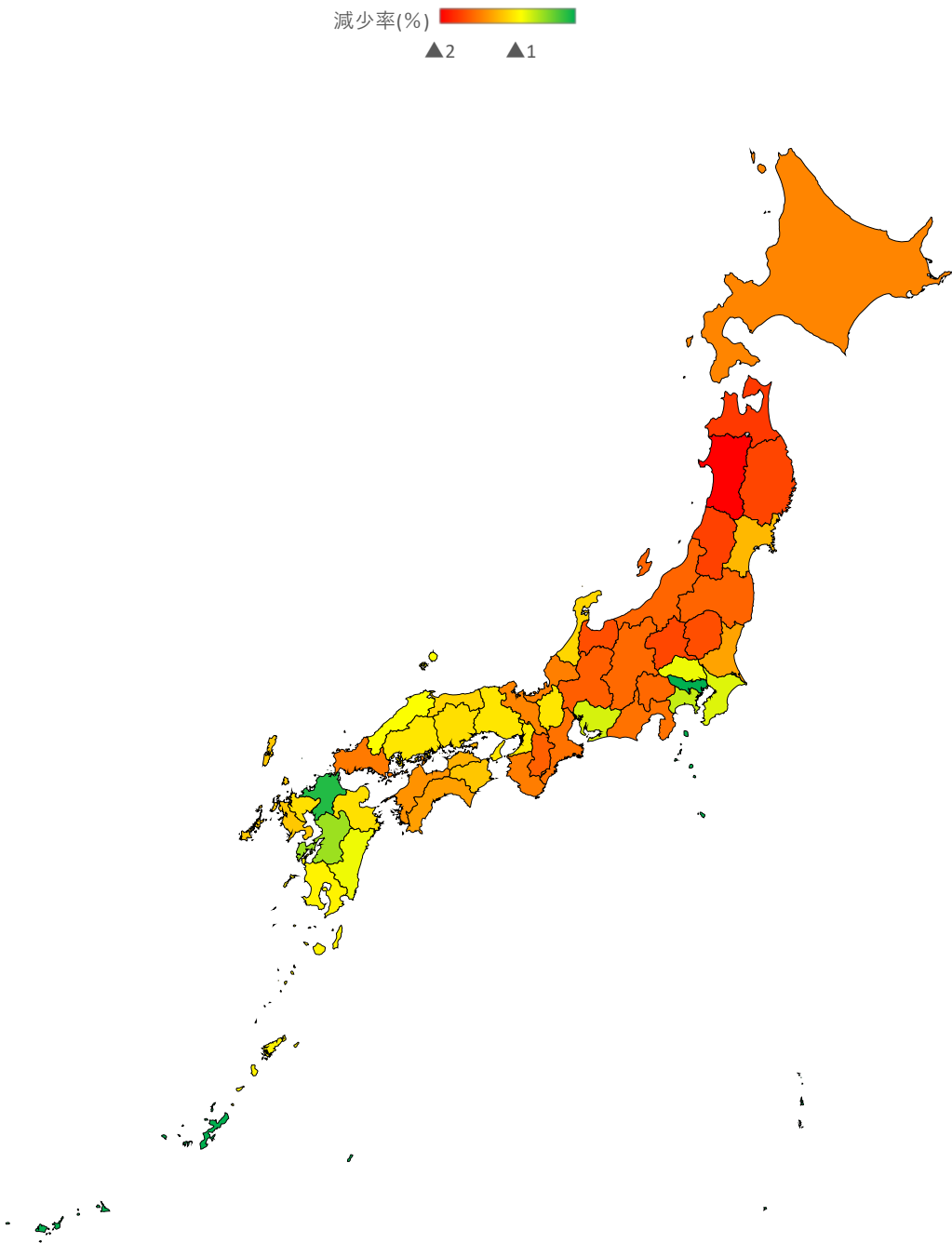
【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート進学総研
学生確保（資料）
<https://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：都道府県別：2024～2036年）

■東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
東京・沖縄の2都県のみ増加する見込み

単位（％）		
全国	▲11.4	
-20.0以下	秋田	▲28.5
	青森	▲21.7
	山形	▲21.2
	岩手	▲21.0
	群馬	▲20.8
	栃木	▲20.4
-15.0以下	富山	▲20.4
	岐阜	▲19.5
	奈良	▲19.4
	福島	▲19.1
	新潟	▲19.1
	山梨	▲18.9
	長野	▲18.8
	三重	▲18.3
	静岡	▲18.3
	山口	▲17.8
	和歌山	▲17.7
	福井	▲17.5
	京都	▲17.3
	北海道	▲17.2
	愛媛	▲16.4
	高知	▲15.7
-10.0以下	茨城	▲15.4
	香川	▲14.6
	宮城	▲14.2
	徳島	▲13.4
	長崎	▲13.3
	鳥取	▲12.5
	石川	▲12.4
	岡山	▲11.9
	大分	▲11.9
	佐賀	▲11.8
	兵庫	▲11.5
	滋賀	▲11.5
	広島	▲11.4
	大阪	▲11.1
- 5.0以下	鹿児島	▲10.7
	島根	▲ 9.9
	宮崎	▲ 9.4
	埼玉	▲ 9.3
	千葉	▲ 8.7
	愛知	▲ 8.4
	神奈川	▲ 7.7
0.0以下	熊本	▲ 6.1
	福岡	▲ 1.3
0.0超	東京	0.5
	沖縄	1.9



提供元:

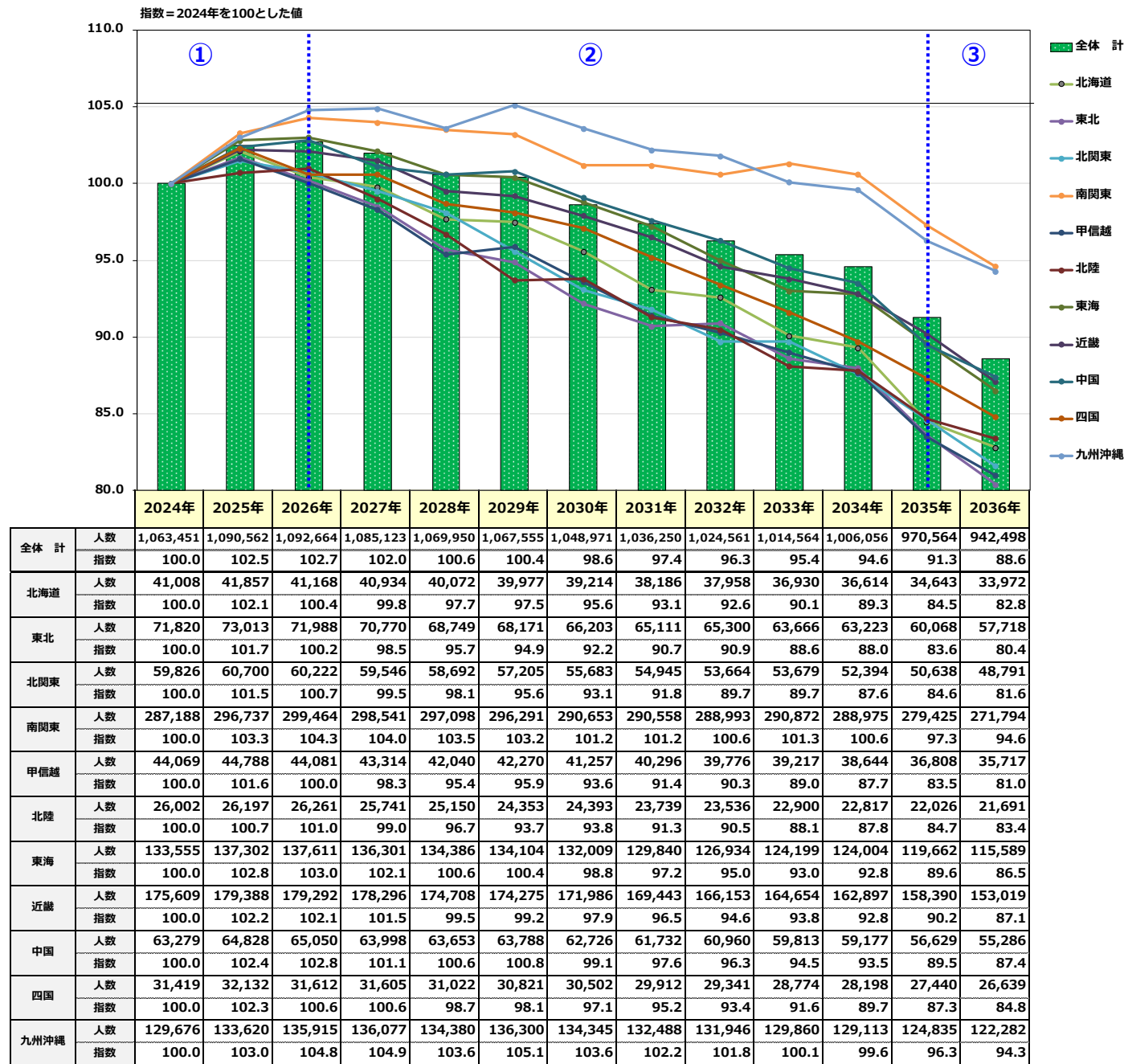
18歳人口予測（全体：エリア別：2024～2036年）

■減少率が高いのは東北（2024年比80.4%）、減少数が大きいのは近畿（22,590人減）

- ・減少率が高いのは、1位 東北（2024年比80.4%）、2位 甲信越（81.0%）、3位 北関東（81.6%）。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿（22,590人減）、2位 東海（17,966人減）、3位 南関東（15,394人減）。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東（94.6%）、2位 九州沖縄（94.3%）、3位 中国（87.4%）。
- ・エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

- ① 2024～2026年：全国で約3万人増加、人口が回復し、横ばいが続く時期
- ② 2027～2034年：回復後さらに減少する時期
- ③ 2035～2036年：さらに大きく減少する時期

注）減少率＝2036年人数÷2024年人数で算出。



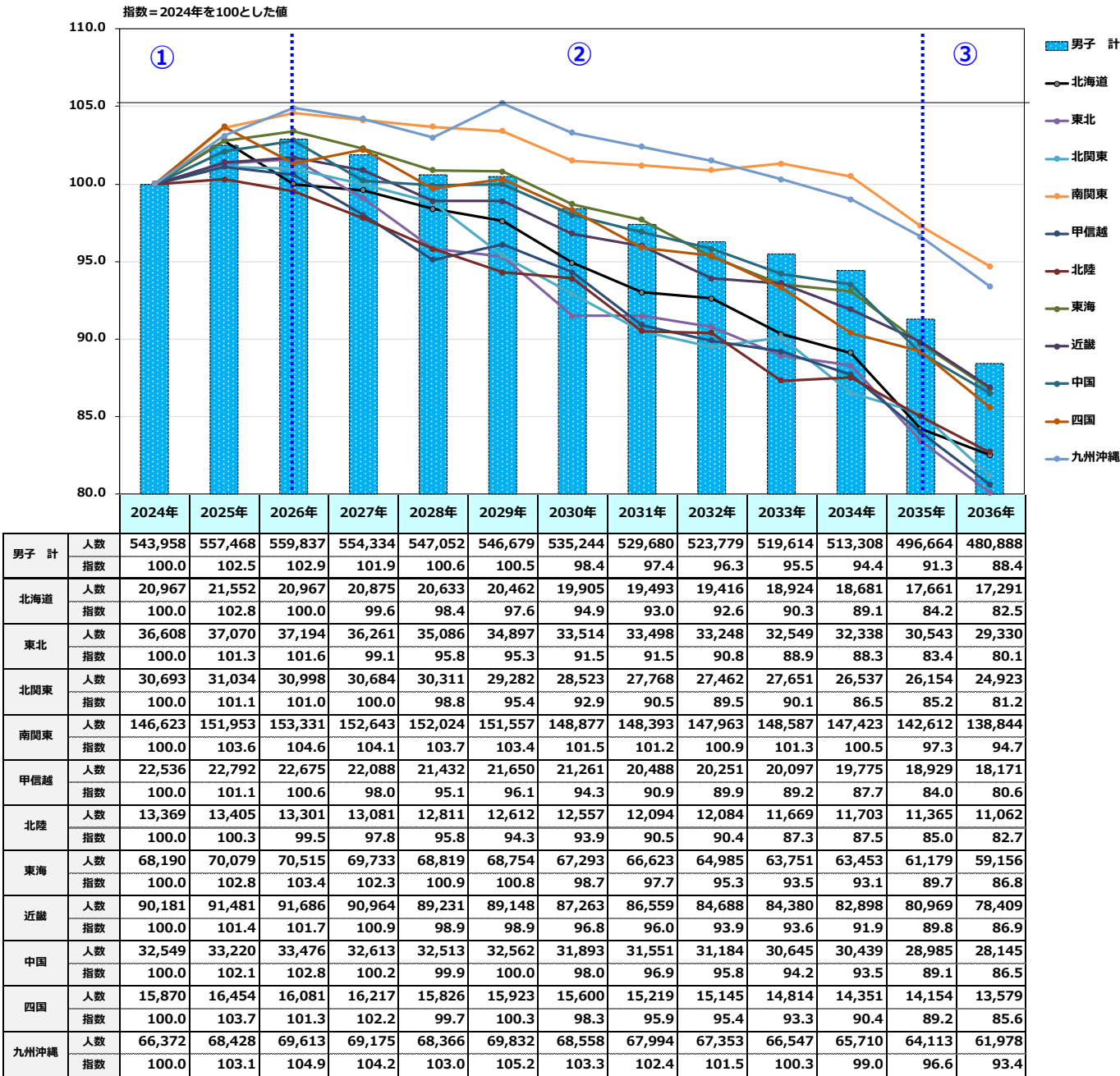
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：エリア別：2024～2036年）

■ 減少率が高いのは東北（2024年比80.1%）、減少数が大きいのは近畿（11,772人減）

- ・ 減少率が高いのは、1位 東北（2024年比80.1%）、2位 甲信越（80.6%）、3位 北関東（81.2%）。
- ・ 減少数が大きいのは、1位 近畿（11,772人減）、2位 東海（9,034人減）、3位 南関東（7,779人減）。
- ・ 減少率が低いのは、1位 南関東（94.7%）、2位 九州沖縄（93.4%）、3位 近畿（86.9%）。
- ・ ②③期において2027～2036年の男子人口は、北海道（3,584人減）、東北（6,931人減）、北関東（5,761人減）、南関東（13,799人減）、甲信越（3,917人減）、北陸（2,019人減）、東海（10,577人減）、近畿（12,555人減）、中国（4,468人減）、四国（2,638人減）、九州沖縄（7,197人減）。

注）減少率＝2036年人数÷2024年人数で算出。



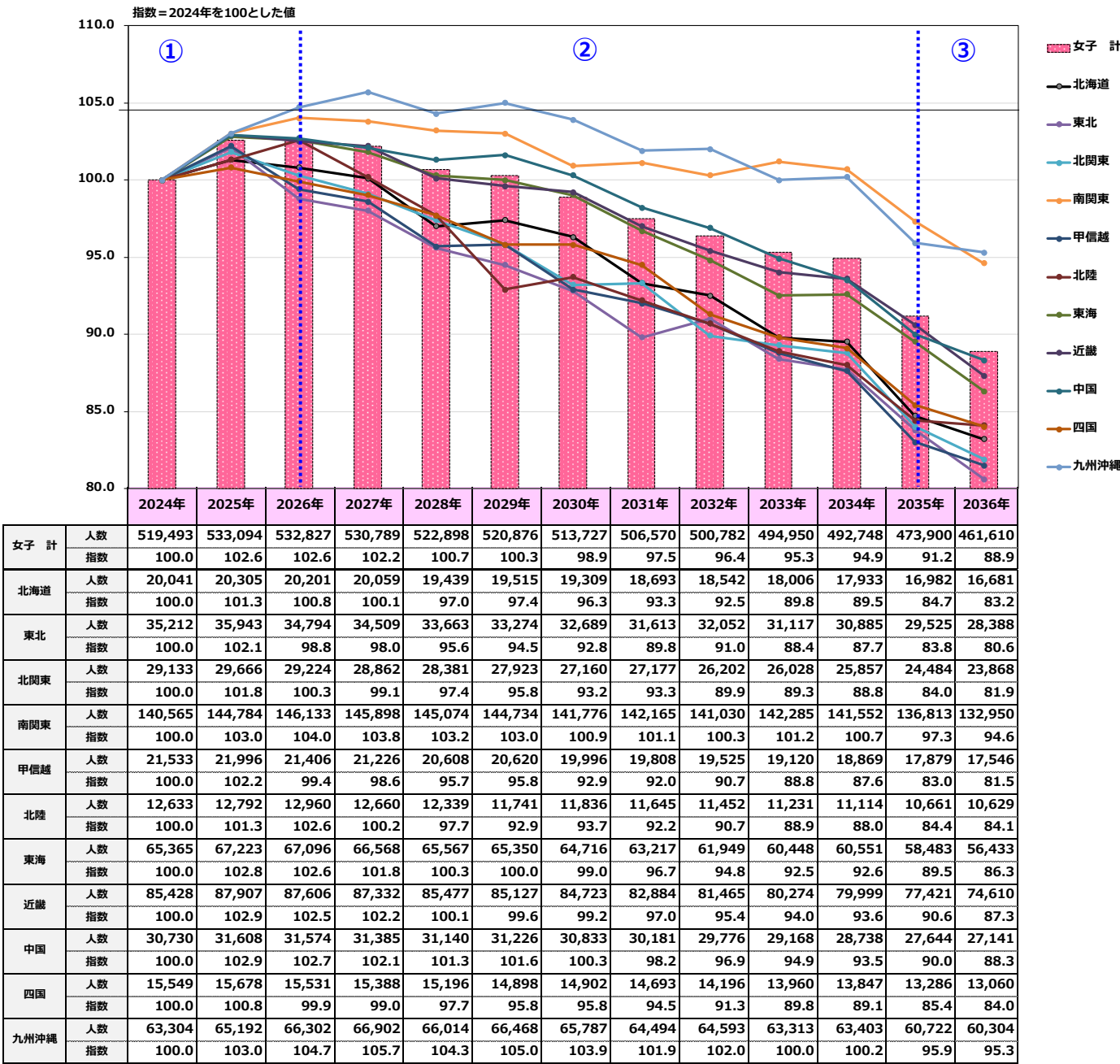
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：エリア別：2024～2036年）

■減少率が高いのは東北（2024年比80.6%）、減少数が大きいのは近畿（10,818人減）

- ・減少率が高いのは、1位 東北（2024年比80.6%）、2位 甲信越（81.5%）、3位 北関東（81.9%）。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿（10,818人減）、2位 東海（8,932人減）、3位 南関東（7,615人減）。
- ・減少率が低いのは、1位 九州沖縄（95.3%）、2位 南関東（94.6%）、3位 中国（88.3%）。
- ・②③期において2027年～2036年の女子人口は、北海道（3,378人減）、東北（6,121人減）、北関東（4,994人減）、南関東（12,948人減）、甲信越（3,680人減）、北陸（2,031人減）、東海（10,135人減）、近畿（12,722人減）、中国（4,244人減）、四国（2,328人減）、九州沖縄（6,598人減）。

注）減少率＝2036年人数÷2024年人数で算出。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2 - 1

大学学部学科等名：杏林大学医学部医学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		1人	1人	1人	—	—	1人
	延べ人数	志願者数	18人	8人	3人	0人	—	7人
		受験者数	18人	8人	3人	0人	—	7人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
	実人数	志願者数	18人	8人	3人	0人	—	7人
		受験者数	18人	8人	3人	0人	—	7人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	—	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	—	0人
学校推薦型選抜	募集人数		—	—	—	—	—	—
	延べ人数	志願者数	—	—	—	—	—	—
		受験者数	—	—	—	—	—	—
		合格者数	—	—	—	—	—	—
		うち追加合格者数	—	—	—	—	—	—
		辞退者数	—	—	—	—	—	—
	実人数	志願者数	—	—	—	—	—	—
		受験者数	—	—	—	—	—	—
		合格者数	—	—	—	—	—	—
		うち追加合格者数	—	—	—	—	—	—
		辞退者数	—	—	—	—	—	—
	入学者数		—	—	—	—	—	—
一般選抜	募集人数		98人	98人	100人	102人	103人	100人
	延べ人数	志願者数	2290人	2280人	2649人	2933人	2975人	2625人
		受験者数	2108人	2197人	2559人	2842人	2870人	2515人
		合格者数	280人	323人	382人	327人	303人	323人
		うち追加合格者数	114人	152人	190人	109人	85人	130人
		辞退者数	41人	76人	63人	46人	79人	61人
	実人数	志願者数	2290人	2280人	2649人	2933人	2975人	2625人
		受験者数	2108人	2197人	2559人	2842人	2870人	2515人
		合格者数	280人	323人	382人	327人	303人	323人
		うち追加合格者数	114人	152人	190人	109人	85人	130人
		辞退者数	41人	76人	63人	46人	79人	61人
	入学者数		101人	100人	102人	103人	104人	102人
共通テスト利用入試	募集人数		—	—	—	—	—	—
	延べ人数	志願者数	—	—	—	—	—	—
		受験者数	—	—	—	—	—	—
		合格者数	—	—	—	—	—	—
		うち追加合格者数	—	—	—	—	—	—
		辞退者数	—	—	—	—	—	—
	実人数	志願者数	—	—	—	—	—	—
		受験者数	—	—	—	—	—	—
		合格者数	—	—	—	—	—	—
		うち追加合格者数	—	—	—	—	—	—
		辞退者数	—	—	—	—	—	—
	入学者数		—	—	—	—	—	—
その他の特別選抜	募集人数		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	1077人	819人	736人	943人	1001人	915人
		受験者数	1060人	806人	728人	924人	986人	901人
		合格者数	46人	61人	56人	41人	50人	51人
		うち追加合格者数	21人	36人	32人	15人	25人	26人
		辞退者数	6人	4人	10人	9人	10人	8人
	実人数	志願者数	1077人	819人	736人	943人	1001人	915人
		受験者数	1060人	806人	728人	924人	986人	901人
		合格者数	46人	61人	56人	41人	50人	51人
		うち追加合格者数	21人	36人	32人	15人	25人	26人
		辞退者数	6人	4人	10人	9人	10人	8人
	入学者数		14人	15人	15人	15人	15人	15人
合計	募集人数		115人	115人	117人	118人	119人	117人
	延べ人数	志願者数	3385人	3107人	3388人	3876人	3976人	3546人
		受験者数	3186人	3011人	3290人	3766人	3856人	3422人
		合格者数	326人	384人	438人	368人	353人	374人
		うち追加合格者数	135人	188人	222人	124人	110人	156人
		辞退者数	47人	80人	73人	55人	89人	69人
	実人数	志願者数	3385人	3107人	3388人	3876人	3976人	3546人
		受験者数	3186人	3011人	3290人	3766人	3856人	3422人
		合格者数	326人	384人	438人	368人	353人	374人
		うち追加合格者数	135人	188人	222人	124人	110人	156人
		辞退者数	47人	80人	73人	55人	89人	69人
	入学者数		115人	115人	117人	118人	119人	117人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	117人	115人	115人	117人	118人	116人
入 学 定 員 充 足 率	0.98	1.00	1.02	1.01	1.01	1.00
歩 留 率	0.35	0.30	0.27	0.32	0.34	0.32

（備考）大学入学共通テスト利用入試分は、2次試験に個別学力検査を行っているため「その他の特別利用選抜」に計上した。
そのため本学が実施する外国人留学生選抜（「その他の特別利用選抜」と）の合計値になる。

１．各選抜方法の状況

			R 2 年度入学者	R 3 年度入学者	R 4 年度入学者	R 5 年度入学者	R 6 年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		7人	10人	10人	15人	15人	11人
	延べ人数	志願者数	44人	37人	29人	36人	36人	36人
		受験者数	44人	37人	29人	35人	36人	36人
		合格者数	7人	12人	15人	15人	17人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	44人	37人	29人	36人	36人	36人
		受験者数	44人	37人	29人	35人	36人	36人
		合格者数	7人	12人	15人	15人	17人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		7人	12人	15人	15人	17人	13人
学校推薦型選抜	募集人数		30人	35人	35人	35人	35人	34人
	延べ人数	志願者数	97人	83人	60人	46人	485人	154人
		受験者数	96人	82人	59人	45人	474人	151人
		合格者数	31人	40人	39人	38人	255人	81人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	68人	14人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	6人	1人
	実人数	志願者数	97人	83人	60人	46人	485人	154人
		受験者数	96人	82人	59人	45人	474人	151人
		合格者数	31人	40人	39人	38人	255人	81人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	68人	14人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	6人	1人
	入学者数		31人	40人	39人	38人	73人	44人
一般選抜	募集人数		76人	67人	68人	66人	66人	69人
	延べ人数	志願者数	759人	541人	527人	463人	463人	551人
		受験者数	739人	508人	508人	431人	431人	523人
		合格者数	329人	214人	278人	280人	280人	276人
		うち追加合格者数	131人	0人	73人	6人	6人	43人
		辞退者数	37人	35人	25人	20人	20人	27人
	実人数	志願者数	759人	541人	527人	463人	463人	551人
		受験者数	739人	508人	508人	431人	431人	523人
		合格者数	329人	214人	278人	280人	280人	276人
		うち追加合格者数	131人	0人	73人	6人	6人	43人
		辞退者数	37人	35人	25人	20人	20人	27人
	入学者数		86人	70人	68人	80人	80人	77人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	6人	6人	3人	3人	5人
	延べ人数	志願者数	196人	172人	147人	138人	100人	151人
		受験者数	196人	172人	147人	138人	100人	151人
		合格者数	25人	24人	21人	22人	31人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	4人	3人	2人	2人	3人
	実人数	志願者数	196人	172人	147人	138人	100人	151人
		受験者数	196人	172人	147人	138人	100人	151人
		合格者数	25人	24人	21人	22人	31人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	4人	3人	2人	2人	3人
	入学者数		0人	0人	1人	0人	2人	1人
その他の特別選抜	募集人数		2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	1097人	833人	763人	684人	1084人	892人
		受験者数	1076人	799人	743人	650人	1041人	862人
		合格者数	392人	290人	353人	355人	583人	395人
		うち追加合格者数	131人	0人	73人	6人	74人	57人
		辞退者数	41人	39人	28人	22人	28人	32人
	実人数	志願者数	1097人	833人	763人	684人	1084人	892人
		受験者数	1076人	799人	743人	650人	1041人	862人
		合格者数	392人	290人	353人	355人	583人	395人
		うち追加合格者数	131人	0人	73人	6人	74人	57人
		辞退者数	41人	39人	28人	22人	28人	32人
	入学者数		124人	122人	123人	133人	172人	135人

３．入学定員充足率

	R 2 年度入学者	R 3 年度入学者	R 4 年度入学者	R 5 年度入学者	R 6 年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.02	1.03	1.11	1.43	1.12
歩 留 率	0.32	0.42	0.35	0.37	0.30	0.35

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：杏林大学保健学部健康福祉学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	10人	10人	90人	72人	72人	51人
	延べ人数	11人	23人	90人	105人	86人	63人
		11人	23人	90人	103人	84人	62人
		10人	15人	88人	88人	83人	57人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	11人	23人	90人	105人	86人	63人
		11人	23人	90人	103人	84人	62人
		10人	15人	88人	88人	83人	57人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	10人	15人	88人	88人	83人	57人
学校推薦型選抜	募集人数	18人	18人	10人	24人	24人	19人
	延べ人数	16人	20人	6人	14人	12人	14人
		16人	19人	5人	14人	12人	13人
		14人	18人	5人	12人	12人	12人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	16人	20人	6人	14人	12人	14人
		16人	19人	5人	14人	12人	13人
		14人	18人	5人	12人	12人	12人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	14人	18人	5人	12人	12人	12人
一般選抜	募集人数	15人	15人	15人	20人	20人	17人
	延べ人数	110人	121人	152人	145人	88人	123人
		103人	100人	123人	125人	85人	107人
		72人	45人	101人	106人	78人	80人
		29人	0人	33人	17人	12人	18人
		6人	4人	8人	8人	12人	8人
	実人数	110人	121人	152人	145人	88人	123人
		103人	100人	123人	125人	85人	107人
		72人	45人	101人	106人	78人	80人
		29人	0人	33人	17人	12人	18人
		6人	4人	8人	8人	12人	8人
	入学者数	26人	18人	24人	28人	16人	22人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	4人	3人	3人	4人
	延べ人数	75人	65人	77人	65人	39人	64人
		75人	65人	77人	65人	39人	64人
		26人	24人	28人	24人	3人	21人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		2人	4人	1人	3人	0人	2人
	実人数	75人	65人	77人	65人	39人	64人
		75人	65人	77人	65人	39人	64人
		26人	24人	28人	24人	3人	21人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		2人	4人	1人	3人	0人	2人
	入学者数	2人	0人	3人	1人	1人	1人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	6人	6人	6人	8人	8人	7人
合計	募集人数	50人	50人	120人	120人	120人	92人
	延べ人数	212人	229人	325人	329人	225人	264人
		205人	207人	295人	307人	220人	247人
		122人	102人	222人	230人	176人	170人
		29人	0人	33人	17人	12人	18人
		8人	8人	9人	11人	12人	10人
	実人数	212人	229人	325人	329人	225人	264人
		205人	207人	295人	307人	220人	247人
		122人	102人	222人	230人	176人	170人
		29人	0人	33人	17人	12人	18人
		8人	8人	9人	11人	12人	10人
	入学者数	58人	57人	126人	137人	120人	100人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	120人	120人	78人
入学定員充足率	1.16	1.14	2.52	1.14	1.00	1.39
歩留率	0.48	0.56	0.57	0.60	0.68	0.58

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	5人	6人	6人	8人	8人	7人
	延べ人数	97人	74人	82人	67人	74人	79人
		志願者数	95人	72人	82人	66人	78人
		受験者数	6人	6人	6人	8人	7人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	97人	74人	82人	67人	74人	79人
		志願者数	95人	72人	82人	66人	78人
		受験者数	6人	6人	6人	8人	7人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	6人	6人	6人	8人	8人	7人
学校推薦型選抜	募集人数	30人	32人	32人	32人	32人	32人
	延べ人数	198人	177人	162人	141人	149人	165人
		志願者数	198人	175人	160人	138人	148人
		受験者数	32人	33人	33人	35人	32人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	198人	177人	162人	141人	149人	165人
		志願者数	198人	175人	160人	138人	148人
		受験者数	32人	33人	33人	35人	32人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	32人	33人	33人	35人	32人	33人
一般選抜	募集人数	58人	54人	55人	56人	56人	56人
	延べ人数	1328人	1378人	1374人	1397人	1504人	1396人
		志願者数	1241人	1288人	1269人	1327人	1317人
		受験者数	322人	310人	326人	409人	471人
		合格者数	126人	100人	53人	85人	148人
		うち追加合格者数	48人	41人	32人	53人	75人
		辞退者数	48人	41人	32人	53人	75人
	実人数	1328人	1378人	1374人	1397人	1504人	1396人
		志願者数	1241人	1288人	1269人	1327人	1317人
		受験者数	322人	310人	326人	409人	471人
		合格者数	126人	100人	53人	85人	148人
		うち追加合格者数	48人	41人	32人	53人	75人
		辞退者数	48人	41人	32人	53人	75人
	入学者数	64人	61人	67人	64人	62人	64人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	6人	6人	3人	3人	5人
	延べ人数	291人	305人	282人	262人	235人	275人
		志願者数	291人	305人	282人	262人	235人
		受験者数	34人	33人	26人	35人	35人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	5人	2人	3人	2人	3人
		辞退者数	5人	2人	3人	2人	3人
	実人数	291人	305人	282人	262人	235人	275人
		志願者数	291人	305人	282人	262人	235人
		受験者数	34人	33人	26人	35人	35人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	5人	2人	3人	2人	3人
		辞退者数	5人	2人	3人	2人	3人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	3人	2人	0人	0人	3人	2人
		志願者数	3人	2人	0人	0人	2人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	3人	2人	0人	0人	3人	2人
		志願者数	3人	2人	0人	0人	2人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	1917人	1936人	1900人	1867人	1965人	1917人
		志願者数	1828人	1842人	1793人	1793人	1835人
		受験者数	394人	382人	391人	487人	546人
		合格者数	126人	100人	53人	85人	148人
		うち追加合格者数	53人	43人	35人	55人	78人
		辞退者数	53人	43人	35人	55人	78人
	実人数	1917人	1936人	1900人	1867人	1965人	1917人
		志願者数	1828人	1842人	1793人	1793人	1835人
		受験者数	394人	382人	391人	487人	546人
		合格者数	126人	100人	53人	85人	148人
		うち追加合格者数	53人	43人	35人	55人	78人
		辞退者数	53人	43人	35人	55人	78人
	入学者数	103人	100人	106人	107人	102人	104人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	1.03	1.00	1.06	1.07	1.02	1.04
歩留率	0.26	0.26	0.27	0.22	0.19	0.24

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	5人	6人	6人	8人	8人	7人
	延べ人数	36人	33人	26人	48人	39人	36人
		36人	33人	26人	48人	39人	36人
		6人	7人	7人	9人	8人	7人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	36人	33人	26人	48人	39人	36人
		36人	33人	26人	48人	39人	36人
		6人	7人	7人	9人	8人	7人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	6人	7人	7人	9人	8人	7人
学校推薦型選抜	募集人数	15人	15人	15人	15人	15人	15人
	延べ人数	57人	43人	50人	59人	36人	49人
		57人	43人	47人	58人	36人	48人
		15人	15人	17人	15人	16人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	57人	43人	50人	59人	36人	49人
		57人	43人	47人	58人	36人	48人
		15人	15人	17人	15人	16人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	15人	15人	17人	15人	16人	16人
一般選抜	募集人数	23人	22人	23人	23人	23人	23人
	延べ人数	354人	305人	330人	339人	274人	320人
		325人	286人	299人	324人	256人	298人
		93人	77人	90人	117人	105人	96人
		33人	0人	18人	39人	18人	22人
		11人	8人	12人	12人	10人	11人
	実人数	354人	305人	330人	339人	274人	320人
		325人	286人	299人	324人	256人	298人
		93人	77人	90人	117人	105人	96人
		33人	0人	18人	39人	18人	22人
		11人	8人	12人	12人	10人	11人
	入学者数	31人	30人	26人	32人	33人	30人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	3人	3人	4人
	延べ人数	112人	92人	93人	97人	82人	95人
		112人	92人	93人	97人	82人	95人
		26人	24人	22人	29人	34人	27人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		2人	3人	5人	5人	2人	3人
	実人数	112人	92人	93人	97人	82人	95人
		112人	92人	93人	97人	82人	95人
		26人	24人	22人	29人	34人	27人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		2人	3人	5人	5人	2人	3人
	入学者数	1人	3人	1人	1人	1人	1人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	559人	473人	499人	543人	431人	501人
		530人	454人	465人	527人	413人	478人
		140人	123人	136人	170人	163人	146人
		33人	0人	18人	39人	18人	22人
		13人	11人	17人	17人	12人	14人
	実人数	559人	473人	499人	543人	431人	501人
		530人	454人	465人	527人	413人	478人
		140人	123人	136人	170人	163人	146人
		33人	0人	18人	39人	18人	22人
		13人	11人	17人	17人	12人	14人
	入学者数	53人	55人	51人	57人	58人	55人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入学定員充足率	1.06	1.10	1.02	1.14	1.16	1.10
歩留率	0.38	0.45	0.38	0.34	0.36	0.38

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：杏林大学保健学部臨床工学科

別紙２－６

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		5人	8人	8人	10人	10人	8人
	延べ人数	志願者数	18人	17人	16人	23人	17人	18人
		受験者数	18人	17人	16人	23人	17人	18人
		合格者数	5人	8人	10人	17人	14人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	18人	17人	16人	23人	17人	18人
		受験者数	18人	17人	16人	23人	17人	18人
		合格者数	5人	8人	10人	17人	14人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	8人	10人	17人	14人	11人
学校推薦型選抜	募集人数		10人	20人	20人	20人	20人	18人
	延べ人数	志願者数	29人	28人	24人	14人	19人	23人
		受験者数	29人	28人	24人	14人	18人	23人
		合格者数	12人	21人	24人	14人	18人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	29人	28人	24人	14人	19人	23人
		受験者数	29人	28人	24人	14人	18人	23人
		合格者数	12人	21人	24人	14人	18人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		12人	21人	24人	14人	18人	18人
一般選抜	募集人数		38人	25人	26人	26人	26人	28人
	延べ人数	志願者数	261人	154人	150人	111人	125人	160人
		受験者数	250人	144人	143人	109人	122人	154人
		合格者数	123人	101人	93人	96人	84人	99人
		うち追加合格者数	27人	15人	4人	30人	0人	15人
		辞退者数	6人	16人	1人	3人	7人	7人
	実人数	志願者数	261人	154人	150人	111人	125人	160人
		受験者数	250人	144人	143人	109人	122人	154人
		合格者数	123人	101人	93人	96人	84人	99人
		うち追加合格者数	27人	15人	4人	30人	0人	15人
		辞退者数	6人	16人	1人	3人	7人	7人
	入学者数		45人	26人	23人	27人	30人	30人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	5人	5人	3人	3人	4人
	延べ人数	志願者数	136人	95人	95人	55人	94人	95人
		受験者数	136人	95人	95人	55人	94人	95人
		合格者数	34人	38人	28人	36人	44人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	2人	2人	2人	1人
	実人数	志願者数	136人	95人	95人	55人	94人	95人
		受験者数	136人	95人	95人	55人	94人	95人
		合格者数	34人	38人	28人	36人	44人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	2人	2人	2人	1人
	入学者数		1人	6人	6人	2人	3人	4人
その他の特別選抜	募集人数		2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	444人	294人	285人	203人	255人	296人
		受験者数	433人	284人	278人	201人	251人	289人
		合格者数	174人	168人	155人	163人	160人	164人
		うち追加合格者数	27人	15人	4人	30人	0人	15人
		辞退者数	6人	17人	3人	5人	9人	8人
	実人数	志願者数	444人	294人	285人	203人	255人	296人
		受験者数	433人	284人	278人	201人	251人	289人
		合格者数	174人	168人	155人	163人	160人	164人
		うち追加合格者数	27人	15人	4人	30人	0人	15人
		辞退者数	6人	17人	3人	5人	9人	8人
	入学者数		63人	61人	63人	60人	65人	62人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	60人	60人	60人	60人	60人	60人
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.02	1.05	1.00	1.08	1.04
歩 留 率	0.36	0.36	0.41	0.37	0.41	0.38

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	5人	8人	8人	16人	16人	11人
	延べ人数	14人	34人	22人	49人	46人	33人
		14人	34人	22人	49人	46人	33人
		6人	12人	16人	19人	20人	15人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	14人	34人	22人	49人	46人	33人
		14人	34人	22人	49人	46人	33人
		6人	12人	16人	19人	20人	15人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	6人	12人	16人	19人	20人	15人
学校推薦型選抜	募集人数	18人	15人	15人	15人	15人	16人
	延べ人数	25人	37人	22人	24人	24人	26人
		25人	35人	21人	24人	24人	26人
		20人	15人	19人	15人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	25人	37人	22人	24人	24人	26人
		25人	35人	21人	24人	24人	26人
		20人	15人	19人	15人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	20人	15人	19人	15人	16人	17人
一般選抜	募集人数	20人	20人	21人	15人	15人	18人
	延べ人数	131人	133人	118人	114人	87人	117人
		128人	120人	114人	106人	84人	110人
		63人	51人	34人	54人	47人	50人
		9人	0人	0人	14人	15人	8人
		5人	2人	2人	0人	3人	2人
	実人数	131人	133人	118人	114人	87人	117人
		128人	120人	114人	106人	84人	110人
		63人	51人	34人	54人	47人	50人
		9人	0人	0人	14人	15人	8人
		5人	2人	2人	0人	3人	2人
	入学者数	25人	23人	14人	19人	19人	20人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	3人	3人	4人
	延べ人数	61人	63人	50人	48人	34人	51人
		61人	63人	50人	48人	34人	51人
		21人	28人	24人	14人	16人	21人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	3人	0人	0人	1人
	実人数	61人	63人	50人	48人	34人	51人
		61人	63人	50人	48人	34人	51人
		21人	28人	24人	14人	16人	21人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	3人	0人	0人	1人
	入学者数	2人	3人	4人	2人	0人	2人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	231人	267人	212人	235人	191人	227人
		228人	252人	207人	227人	188人	220人
		110人	106人	93人	102人	99人	102人
		9人	0人	0人	14人	15人	8人
		6人	3人	5人	0人	3人	3人
	実人数	231人	267人	212人	235人	191人	227人
		228人	252人	207人	227人	188人	220人
		110人	106人	93人	102人	99人	102人
		9人	0人	0人	14人	15人	8人
		6人	3人	5人	0人	3人	3人
	入学者数	53人	53人	53人	55人	55人	54人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入 学 定 員 充 足 率	1.06	1.06	1.06	1.10	1.10	1.08
歩 留 率	0.48	0.50	0.57	0.54	0.56	0.53

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：杏林大学保健学部理学療法学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	5人	6人	6人	—	—	6人
	延べ人数	51人	38人	23人	—	—	37人
		51人	38人	23人	—	—	37人
		5人	6人	6人	—	—	6人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	51人	38人	23人	—	—	37人
		51人	38人	23人	—	—	37人
		5人	6人	6人	—	—	6人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数	5人	6人	6人	—	—	6人
学校推薦型選抜	募集人数	12人	15人	15人	—	—	14人
	延べ人数	68人	51人	50人	—	—	56人
		68人	51人	49人	—	—	56人
		12人	16人	16人	—	—	15人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	68人	51人	50人	—	—	56人
		68人	51人	49人	—	—	56人
		12人	16人	16人	—	—	15人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数	12人	16人	16人	—	—	15人
一般選抜	募集人数	32人	27人	28人	—	—	29人
	延べ人数	765人	503人	601人	—	—	623人
		733人	495人	578人	—	—	602人
		165人	114人	149人	—	—	143人
		40人	0人	37人	—	—	26人
		17人	12人	16人	—	—	15人
	実人数	765人	503人	601人	—	—	623人
		733人	495人	578人	—	—	602人
		165人	114人	149人	—	—	143人
		40人	0人	37人	—	—	26人
		17人	12人	16人	—	—	15人
	入学者数	40人	40人	34人	—	—	38人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	6人	6人	—	—	6人
	延べ人数	172人	150人	203人	—	—	175人
		172人	150人	203人	—	—	175人
		22人	22人	33人	—	—	26人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		5人	4人	3人	—	—	4人
	実人数	172人	150人	203人	—	—	175人
		172人	150人	203人	—	—	175人
		22人	22人	33人	—	—	26人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		5人	4人	3人	—	—	4人
	入学者数	2人	0人	2人	—	—	1人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	—	—	2人
	延べ人数	0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
		0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数	0人	0人	0人	—	—	0人
合計	募集人数	56人	56人	56人	—	—	56人
	延べ人数	1056人	742人	877人	—	—	892人
		1024人	734人	853人	—	—	870人
		204人	158人	204人	—	—	189人
		40人	0人	37人	—	—	26人
		22人	16人	19人	—	—	19人
	実人数	1056人	742人	877人	—	—	892人
		1024人	734人	853人	—	—	870人
		204人	158人	204人	—	—	189人
		40人	0人	37人	—	—	26人
		22人	16人	19人	—	—	19人
	入学者数	59人	62人	58人	—	—	60人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	56人	56人	56人	—	—	56人
入学定員充足率	1.05	1.11	1.04	—	—	1.07
歩留率	0.29	0.39	0.28	—	—	0.32

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：杏林大学保健学部作業療法学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数		5人	8人	8人	—	—	7人
	延べ人数	志願者数	21人	23人	13人	—	—	19人
		受験者数	21人	23人	13人	—	—	19人
		合格者数	6人	10人	10人	—	—	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	志願者数	21人	23人	13人	—	—	19人
		受験者数	21人	23人	13人	—	—	19人
		合格者数	6人	10人	10人	—	—	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数		6人	10人	10人	—	—	9人
学校推薦型選抜	募集人数		18人	17人	17人	—	—	17人
	延べ人数	志願者数	22人	26人	17人	—	—	22人
		受験者数	22人	26人	16人	—	—	21人
		合格者数	19人	18人	16人	—	—	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	志願者数	22人	26人	17人	—	—	22人
		受験者数	22人	26人	16人	—	—	21人
		合格者数	19人	18人	16人	—	—	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数		19人	18人	16人	—	—	18人
一般選抜	募集人数		24人	22人	23人	—	—	23人
	延べ人数	志願者数	184人	145人	128人	—	—	152人
		受験者数	164人	134人	118人	—	—	139人
		合格者数	102人	95人	96人	—	—	98人
		うち追加合格者数	26人	21人	2人	—	—	16人
		辞退者数	7人	9人	6人	—	—	7人
	実人数	志願者数	184人	145人	128人	—	—	152人
		受験者数	164人	134人	118人	—	—	139人
		合格者数	102人	95人	96人	—	—	98人
		うち追加合格者数	26人	21人	2人	—	—	16人
		辞退者数	7人	9人	6人	—	—	7人
	入学者数		28人	28人	27人	—	—	28人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	5人	5人	—	—	5人
	延べ人数	志願者数	80人	59人	45人	—	—	61人
		受験者数	80人	59人	45人	—	—	61人
		合格者数	22人	23人	31人	—	—	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	3人	4人	2人	—	—	3人
	実人数	志願者数	80人	59人	45人	—	—	61人
		受験者数	80人	59人	45人	—	—	61人
		合格者数	22人	23人	31人	—	—	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	3人	4人	2人	—	—	3人
	入学者数		3人	0人	2人	—	—	2人
その他の特別選抜	募集人数		2人	2人	1人	—	—	2人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		受験者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		受験者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	—	—	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	—	—	0人
	入学者数		0人	0人	0人	—	—	0人
合計	募集人数		54人	54人	54人	—	—	54人
	延べ人数	志願者数	307人	253人	203人	—	—	254人
		受験者数	287人	242人	192人	—	—	240人
		合格者数	149人	146人	153人	—	—	149人
		うち追加合格者数	26人	21人	2人	—	—	16人
		辞退者数	10人	13人	8人	—	—	10人
	実人数	志願者数	307人	253人	203人	—	—	254人
		受験者数	287人	242人	192人	—	—	240人
		合格者数	149人	146人	153人	—	—	149人
		うち追加合格者数	26人	21人	2人	—	—	16人
		辞退者数	10人	13人	8人	—	—	10人
	入学者数		56人	56人	55人	—	—	56人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	54人	54人	54人	—	—	54人
入学定員充足率	1.04	1.04	1.02	—	—	1.03
歩留率	0.38	0.38	0.36	—	—	0.37

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１０

大学学部学科等名：杏林大学保健学部診療放射線技術学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	5人	6人	6人	8人	12人	7人
	延べ人数	36人	27人	29人	37人	31人	32人
		35人	27人	29人	35人	30人	31人
		5人	11人	7人	9人	12人	9人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	36人	27人	29人	37人	31人	32人
		35人	27人	29人	35人	30人	31人
		5人	11人	7人	9人	12人	9人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	5人	11人	7人	9人	12人	9人
学校推薦型選抜	募集人数	15人	18人	18人	18人	16人	17人
	延べ人数	75人	51人	62人	63人	53人	61人
		75人	49人	58人	62人	53人	59人
		17人	18人	21人	19人	18人	19人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	75人	51人	62人	63人	53人	61人
		75人	49人	58人	62人	53人	59人
		17人	18人	21人	19人	18人	19人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	16人	18人	21人	19人	18人	18人
一般選抜	募集人数	39人	34人	35人	36人	34人	36人
	延べ人数	665人	726人	791人	541人	695人	684人
		638人	686人	744人	525人	677人	654人
		203人	183人	164人	168人	184人	180人
		36人	0人	9人	19人	32人	19人
		19人	17人	15人	21人	18人	18人
	実人数	665人	726人	791人	541人	695人	684人
		638人	686人	744人	525人	677人	654人
		203人	183人	164人	168人	184人	180人
		36人	0人	9人	19人	32人	19人
		19人	17人	15人	21人	18人	18人
	入学者数	47人	45人	39人	43人	40人	43人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	6人	6人	3人	3人	5人
	延べ人数	164人	237人	292人	193人	136人	204人
		164人	237人	292人	193人	136人	204人
		33人	33人	28人	25人	15人	27人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	1人	1人	2人	2人	2人
	実人数	164人	237人	292人	193人	136人	204人
		164人	237人	292人	193人	136人	204人
		33人	33人	28人	25人	15人	27人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	1人	1人	2人	2人	2人
	入学者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	2人	2人	1人	1人	0人	1人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	66人	66人	66人	66人	65人	66人
	延べ人数	940人	1041人	1174人	834人	915人	981人
		912人	999人	1123人	815人	896人	949人
		258人	245人	220人	221人	229人	235人
		36人	0人	9人	19人	32人	19人
		23人	18人	16人	23人	20人	20人
	実人数	940人	1041人	1174人	834人	915人	981人
		912人	999人	1123人	815人	896人	949人
		258人	245人	220人	221人	229人	235人
		36人	0人	9人	19人	32人	19人
		23人	18人	16人	23人	20人	20人
	入学者数	70人	74人	67人	71人	70人	70人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	66人	66人	66人	66人	66人	66人
入学定員充足率	1.06	1.12	1.02	1.08	1.06	1.07
歩留率	0.27	0.30	0.30	0.32	0.31	0.30

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１１

大学学部学科等名：杏林大学保健学部臨床心理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数		20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	13人	18人	18人	16人	11人	15人
		受験者数	13人	18人	18人	15人	11人	15人
		合格者数	8人	16人	11人	11人	10人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	13人	18人	18人	16人	11人	15人
		受験者数	13人	18人	18人	15人	11人	15人
		合格者数	8人	16人	11人	11人	10人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		8人	16人	11人	10人	10人	11人
学校推薦型選抜	募集人数		18人	18人	18人	20人	20人	19人
	延べ人数	志願者数	15人	7人	8人	8人	14人	10人
		受験者数	15人	7人	8人	8人	13人	10人
		合格者数	11人	7人	7人	7人	12人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	15人	7人	8人	8人	14人	10人
		受験者数	15人	7人	8人	8人	13人	10人
		合格者数	11人	7人	7人	7人	12人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		11人	7人	7人	7人	12人	9人
一般選抜	募集人数		35人	35人	36人	36人	36人	36人
	延べ人数	志願者数	218人	244人	192人	164人	121人	188人
		受験者数	199人	225人	172人	147人	109人	170人
		合格者数	125人	152人	163人	143人	98人	136人
		うち追加合格者数	0人	33人	0人	10人	4人	9人
		辞退者数	11人	8人	12人	5人	8人	9人
	実人数	志願者数	218人	244人	192人	164人	121人	188人
		受験者数	199人	225人	172人	147人	109人	170人
		合格者数	125人	152人	163人	143人	98人	136人
		うち追加合格者数	0人	33人	0人	10人	4人	9人
		辞退者数	11人	8人	12人	5人	8人	9人
	入学者数		58人	55人	55人	52人	29人	50人
共通テスト利用入試	募集人数		5人	5人	5人	3人	3人	4人
	延べ人数	志願者数	312人	150人	151人	100人	122人	167人
		受験者数	312人	150人	151人	100人	122人	167人
		合格者数	63人	63人	85人	81人	92人	77人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	3人	4人	4人	4人
	実人数	志願者数	312人	150人	151人	100人	122人	167人
		受験者数	312人	150人	151人	100人	122人	167人
		合格者数	63人	63人	85人	81人	92人	77人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	3人	4人	4人	4人
	入学者数		9人	3人	10人	5人	13人	8人
その他の特別選抜	募集人数		2人	2人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	558人	419人	369人	288人	269人	381人
		受験者数	539人	400人	349人	270人	256人	363人
		合格者数	207人	238人	266人	242人	212人	233人
		うち追加合格者数	0人	33人	0人	10人	4人	9人
		辞退者数	13人	13人	15人	9人	12人	12人
	実人数	志願者数	558人	419人	369人	288人	269人	381人
		受験者数	539人	400人	349人	270人	256人	363人
		合格者数	207人	238人	266人	242人	212人	233人
		うち追加合格者数	0人	33人	0人	10人	4人	9人
		辞退者数	13人	13人	15人	9人	12人	12人
	入学者数		86人	81人	83人	74人	64人	78人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.08	1.01	1.04	0.93	0.80	0.97
歩留率	0.42	0.34	0.31	0.31	0.30	0.34

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１２

大学学部学科等名：杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	—	—	—	8人	12人	10人
	延べ人数	—	—	—	35人	59人	47人
		—	—	—	35人	59人	47人
		—	—	—	12人	19人	16人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	35人	59人	47人
		—	—	—	35人	59人	47人
		—	—	—	12人	19人	16人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	12人	19人	16人
学校推薦型選抜	募集人数	—	—	—	15人	15人	15人
	延べ人数	—	—	—	64人	65人	65人
		—	—	—	64人	65人	65人
		—	—	—	22人	21人	22人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	64人	65人	65人
		—	—	—	64人	65人	65人
		—	—	—	22人	21人	22人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	22人	21人	22人
一般選抜	募集人数	—	—	—	38人	34人	36人
	延べ人数	—	—	—	503人	564人	534人
		—	—	—	491人	552人	522人
		—	—	—	133人	106人	120人
		—	—	—	0人	37人	19人
		—	—	—	8人	17人	13人
	実人数	—	—	—	503人	564人	534人
		—	—	—	491人	552人	522人
		—	—	—	133人	106人	120人
		—	—	—	0人	37人	19人
		—	—	—	8人	17人	13人
	入学者数	—	—	—	38人	20人	29人
共通テスト利用入試	募集人数	—	—	—	3人	3人	3人
	延べ人数	—	—	—	153人	143人	148人
		—	—	—	153人	143人	148人
		—	—	—	28人	16人	22人
		—	—	—	0人	3人	2人
		—	—	—	2人	2人	2人
	実人数	—	—	—	153人	143人	148人
		—	—	—	153人	143人	148人
		—	—	—	28人	16人	22人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	2人	2人	2人
	入学者数	—	—	—	1人	0人	1人
その他の特別選抜	募集人数	—	—	—	1人	1人	1人
	延べ人数	—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	0人	0人	0人
合計	募集人数	—	—	—	65人	65人	65人
	延べ人数	—	—	—	755人	831人	793人
		—	—	—	743人	819人	781人
		—	—	—	195人	162人	179人
		—	—	—	0人	40人	20人
		—	—	—	10人	19人	15人
	実人数	—	—	—	755人	831人	793人
		—	—	—	743人	819人	781人
		—	—	—	195人	162人	179人
		—	—	—	0人	37人	19人
		—	—	—	10人	19人	15人
	入学者数	—	—	—	73人	60人	67人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	—	—	—	65人	65人	65人
入 学 定 員 充 足 率	—	—	—	1.12	0.92	1.02
歩 留 率	—	—	—	0.37	0.37	0.37

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１３

大学学部学科等名：杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	—	—	—	15人	15人	15人
	延べ人数	—	—	—	26人	24人	25人
		—	—	—	24人	24人	24人
		—	—	—	15人	18人	17人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	26人	24人	25人
		—	—	—	24人	24人	24人
		—	—	—	15人	18人	17人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	15人	18人	17人
学校推薦型選抜	募集人数	—	—	—	16人	16人	16人
	延べ人数	—	—	—	16人	23人	20人
		—	—	—	16人	23人	20人
		—	—	—	16人	17人	17人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	16人	23人	20人
		—	—	—	16人	23人	20人
		—	—	—	16人	17人	17人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	16人	17人	17人
一般選抜	募集人数	—	—	—	15人	15人	15人
	延べ人数	—	—	—	92人	121人	107人
		—	—	—	88人	118人	103人
		—	—	—	79人	79人	79人
		—	—	—	21人	4人	13人
		—	—	—	9人	5人	7人
	実人数	—	—	—	92人	121人	107人
		—	—	—	88人	118人	103人
		—	—	—	79人	79人	79人
		—	—	—	21人	4人	13人
		—	—	—	9人	5人	7人
	入学者数	—	—	—	18人	23人	21人
共通テスト利用入試	募集人数	—	—	—	3人	3人	3人
	延べ人数	—	—	—	64人	69人	67人
		—	—	—	64人	69人	67人
		—	—	—	47人	52人	50人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	1人	7人	4人
	実人数	—	—	—	64人	69人	67人
		—	—	—	64人	69人	67人
		—	—	—	47人	52人	50人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	1人	7人	4人
	入学者数	—	—	—	3人	7人	5人
その他の特別選抜	募集人数	—	—	—	1人	1人	1人
	延べ人数	—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	0人	0人	0人
合計	募集人数	—	—	—	50人	50人	50人
	延べ人数	—	—	—	198人	237人	218人
		—	—	—	192人	234人	213人
		—	—	—	157人	166人	162人
		—	—	—	21人	4人	13人
		—	—	—	10人	12人	11人
	実人数	—	—	—	198人	237人	218人
		—	—	—	192人	234人	213人
		—	—	—	157人	166人	162人
		—	—	—	21人	4人	13人
		—	—	—	10人	12人	11人
	入学者数	—	—	—	52人	65人	59人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	—	—	—	50人	50人	50人
入 学 定 員 充 足 率	—	—	—	1.04	1.30	1.17
歩 留 率	—	—	—	0.33	0.39	0.36

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	—	—	—	6人	6人	6人
	延べ人数	—	—	—	11人	21人	16人
		—	—	—	11人	21人	16人
		—	—	—	8人	8人	8人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	11人	21人	16人
		—	—	—	11人	21人	16人
		—	—	—	8人	8人	8人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	8人	8人	8人
学校推薦型選抜	募集人数	—	—	—	5人	5人	5人
	延べ人数	—	—	—	1人	15人	8人
		—	—	—	1人	15人	8人
		—	—	—	1人	9人	5人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	1人	15人	8人
		—	—	—	1人	15人	8人
		—	—	—	1人	9人	5人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	1人	9人	5人
一般選抜	募集人数	—	—	—	10人	10人	10人
	延べ人数	—	—	—	47人	70人	59人
		—	—	—	44人	64人	54人
		—	—	—	37人	36人	37人
		—	—	—	10人	20人	15人
		—	—	—	0人	3人	2人
	実人数	—	—	—	47人	70人	59人
		—	—	—	44人	64人	54人
		—	—	—	37人	36人	37人
		—	—	—	10人	20人	15人
		—	—	—	0人	3人	2人
	入学者数	—	—	—	14人	11人	13人
共通テスト利用入試	募集人数	—	—	—	3人	3人	3人
	延べ人数	—	—	—	20人	30人	25人
		—	—	—	20人	30人	25人
		—	—	—	9人	3人	6人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	20人	30人	25人
		—	—	—	20人	30人	25人
		—	—	—	9人	3人	6人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	—	—	—	1人	1人	1人
	延べ人数	—	—	—	0人	1人	1人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	実人数	—	—	—	0人	1人	1人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
		—	—	—	0人	0人	0人
	入学者数	—	—	—	0人	0人	0人
合計	募集人数	—	—	—	25人	25人	25人
	延べ人数	—	—	—	79人	137人	108人
		—	—	—	76人	130人	103人
		—	—	—	55人	56人	56人
		—	—	—	10人	20人	15人
		—	—	—	0人	3人	2人
	実人数	—	—	—	79人	137人	108人
		—	—	—	76人	130人	103人
		—	—	—	55人	56人	56人
		—	—	—	10人	20人	15人
		—	—	—	0人	3人	2人
	入学者数	—	—	—	23人	28人	26人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	—	—	—	25人	25人	25人
入 学 定 員 充 足 率	—	—	—	0.92	1.12	1.02
歩 留 率	—	—	—	0.42	0.50	0.46

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１５

大学学部学科等名：杏林大学総合政策学部総合政策学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R 2 年度入学者	R 3 年度入学者	R 4 年度入学者	R 5 年度入学者	R 6 年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		36人	32人	22人	26人	37人	31人
	延べ人数	志願者数	114人	53人	43人	54人	54人	64人
		受験者数	113人	53人	41人	53人	54人	63人
		合格者数	50人	41人	36人	39人	51人	43人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	1人	0人	2人	2人
	実人数	志願者数	114人	53人	43人	54人	54人	64人
		受験者数	113人	53人	41人	53人	54人	63人
		合格者数	50人	41人	36人	39人	51人	43人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	1人	0人	2人	2人
	入学者数		44人	37人	28人	37人	46人	38人
学校推薦型選抜	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	98人	71人	51人	41人	42人	61人
		受験者数	97人	70人	50人	40人	41人	60人
		合格者数	60人	67人	49人	39人	41人	51人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	98人	71人	51人	41人	42人	61人
		受験者数	97人	70人	50人	40人	41人	60人
		合格者数	60人	67人	49人	39人	41人	51人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		60人	67人	48人	39人	38人	50人
一般選抜	募集人数		40人	51人	61人	56人	50人	52人
	延べ人数	志願者数	466人	413人	323人	268人	202人	334人
		受験者数	426人	376人	299人	251人	189人	308人
		合格者数	119人	177人	206人	214人	180人	179人
		うち追加合格者数	45人	92人	98人	102人	73人	82人
		辞退者数	11人	20人	15人	17人	6人	14人
	実人数	志願者数	340人	296人	242人	227人	170人	255人
		受験者数	310人	262人	220人	214人	158人	233人
		合格者数	91人	131人	174人	181人	149人	145人
		うち追加合格者数	26人	53人	81人	88人	65人	63人
		辞退者数	11人	18人	15人	17人	6人	13人
	入学者数		38人	43人	60人	59人	46人	49人
共通テスト利用入試	募集人数		32人	25人	25人	25人	21人	26人
	延べ人数	志願者数	441人	279人	328人	313人	260人	324人
		受験者数	439人	278人	326人	313人	259人	323人
		合格者数	133人	90人	228人	265人	245人	192人
		うち追加合格者数	43人	26人	0人	93人	94人	51人
		辞退者数	14人	3人	8人	11人	8人	9人
	実人数	志願者数	333人	183人	249人	279人	225人	254人
		受験者数	331人	182人	248人	279人	224人	253人
		合格者数	104人	78人	188人	242人	211人	165人
		うち追加合格者数	37人	22人	0人	93人	81人	47人
		辞退者数	14人	3人	8人	11人	8人	9人
	入学者数		18人	5人	25人	17人	23人	18人
その他の特別選抜	募集人数		4人	4人	4人	3人	6人	4人
	延べ人数	志願者数	10人	16人	17人	7人	9人	12人
		受験者数	10人	15人	16人	7人	8人	11人
		合格者数	6人	11人	13人	5人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	10人	16人	17人	7人	9人	12人
		受験者数	10人	15人	16人	7人	8人	11人
		合格者数	6人	11人	13人	5人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		6人	11人	12人	4人	6人	8人
合計	募集人数		152人	152人	152人	150人	154人	152人
	延べ人数	志願者数	1129人	832人	762人	683人	567人	795人
		受験者数	1085人	792人	732人	664人	551人	765人
		合格者数	368人	386人	532人	562人	524人	474人
		うち追加合格者数	88人	118人	98人	195人	167人	133人
		辞退者数	30人	25人	25人	28人	17人	25人
	実人数	志願者数	895人	619人	602人	608人	500人	645人
		受験者数	861人	582人	575人	593人	485人	619人
		合格者数	311人	328人	460人	506人	459人	413人
		うち追加合格者数	63人	75人	81人	181人	146人	109人
		辞退者数	30人	23人	25人	28人	17人	25人
	入学者数		166人	163人	173人	156人	159人	163人

３．入学定員充足率

	R 2 年度入学者	R 3 年度入学者	R 4 年度入学者	R 5 年度入学者	R 6 年度入学者	平 均
入 学 定 員	152人	152人	152人	150人	154人	152人
入 学 定 員 充 足 率	1.09	1.07	1.14	1.04	1.03	1.08
歩 留 率	0.45	0.42	0.33	0.28	0.30	0.36

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	19人	18人	13人	17人	22人	18人
	延べ人数	27人	23人	21人	24人	20人	23人
		26人	23人	20人	22人	19人	22人
		14人	20人	19人	17人	19人	18人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	27人	23人	21人	24人	20人	23人
		26人	23人	20人	22人	19人	22人
		14人	20人	19人	17人	19人	18人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	13人	19人	15人	17人	16人	16人
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	40人	22人	22人	33人	38人	31人
		40人	21人	22人	33人	38人	31人
		27人	20人	22人	33人	36人	28人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	40人	22人	22人	33人	38人	31人
		40人	21人	22人	33人	38人	31人
		27人	20人	22人	33人	36人	28人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	26人	20人	22人	33人	36人	27人
一般選抜	募集人数	20人	25人	30人	27人	26人	26人
	延べ人数	381人	331人	210人	191人	133人	249人
		347人	303人	194人	176人	127人	229人
		121人	195人	175人	147人	119人	151人
		34人	108人	97人	71人	53人	73人
		6人	26人	13人	7人	7人	12人
	実人数	152人	194人	135人	115人	77人	135人
		140人	176人	128人	108人	76人	126人
		62人	131人	119人	93人	73人	96人
		14人	90人	75人	41人	30人	50人
		6人	22人	12人	7人	7人	11人
	入学者数	39人	34人	35人	34人	27人	34人
共通テスト利用入試	募集人数	19人	15人	15人	14人	11人	15人
	延べ人数	354人	213人	214人	266人	165人	242人
		352人	213人	213人	266人	164人	242人
		118人	145人	204人	106人	150人	145人
		24人	57人	47人	16人	56人	40人
		12人	5人	8人	0人	4人	6人
	実人数	142人	134人	142人	150人	74人	128人
		142人	134人	141人	150人	74人	128人
		63人	109人	137人	70人	67人	89人
		8人	57人	45人	12人	26人	30人
		12人	5人	8人	0人	4人	6人
	入学者数	13人	10人	14人	6人	8人	10人
その他の特別選抜	募集人数	4人	4人	4人	3人	3人	4人
	延べ人数	4人	5人	7人	11人	6人	7人
		4人	4人	6人	10人	6人	6人
		2人	3人	6人	10人	4人	5人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	4人	5人	7人	11人	6人	7人
		4人	4人	6人	10人	6人	6人
		2人	3人	6人	10人	4人	5人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	3人	5人	9人	3人	4人
合計	募集人数	82人	82人	82人	81人	82人	82人
	延べ人数	806人	594人	474人	525人	362人	552人
		769人	564人	455人	507人	354人	530人
		282人	383人	426人	313人	328人	346人
		58人	165人	144人	87人	109人	113人
		19人	31人	21人	7人	12人	18人
	実人数	365人	378人	327人	333人	215人	324人
		352人	358人	317人	323人	213人	313人
		168人	283人	303人	223人	199人	235人
		22人	147人	120人	53人	56人	80人
		19人	27人	20人	7人	12人	17人
	入学者数	92人	86人	91人	99人	90人	92人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	82人	82人	82人	81人	82人	82人
入 学 定 員 充 足 率	1.12	1.05	1.11	1.22	1.10	1.12
歩 留 率	0.33	0.22	0.21	0.32	0.27	0.27

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙２－１７

大学学部学科等名：杏林大学外国語学部英語学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	15人	15人	20人	25人	30人	21人
	延べ人数	14人	20人	22人	50人	36人	28人
		14人	20人	22人	49人	34人	28人
		14人	16人	17人	34人	33人	23人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	14人	20人	22人	50人	36人	28人
		14人	20人	22人	49人	34人	28人
		14人	16人	17人	34人	33人	23人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	14人	16人	17人	34人	33人	23人
学校推薦型選抜	募集人数	35人	40人	50人	55人	55人	47人
	延べ人数	100人	113人	77人	58人	43人	78人
		100人	113人	75人	58人	42人	78人
		80人	90人	74人	56人	42人	68人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	100人	113人	77人	58人	43人	78人
		100人	113人	75人	58人	42人	78人
		80人	90人	74人	56人	42人	68人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	79人	90人	74人	56人	41人	68人
一般選抜	募集人数	50人	50人	45人	36人	33人	43人
	延べ人数	540人	356人	223人	185人	151人	291人
		506人	329人	213人	175人	142人	273人
		146人	161人	187人	155人	134人	157人
		44人	74人	9人	22人	0人	30人
		14人	9人	18人	11人	2人	11人
	実人数	354人	273人	183人	151人	130人	218人
		334人	248人	173人	142人	122人	204人
		105人	125人	156人	133人	118人	127人
		28人	52人	8人	17人	0人	21人
		13人	9人	18人	11人	2人	11人
	入学者数	31人	34人	61人	37人	33人	39人
共通テスト利用入試	募集人数	25人	20人	13人	13人	11人	16人
	延べ人数	384人	306人	179人	175人	172人	243人
		380人	303人	178人	174人	171人	241人
		103人	123人	110人	166人	160人	132人
		0人	46人	0人	10人	0人	11人
		10人	4人	4人	5人	7人	6人
	実人数	281人	245人	153人	150人	149人	196人
		279人	245人	152人	149人	148人	195人
		89人	107人	101人	144人	141人	116人
		0人	38人	0人	8人	0人	9人
		10人	4人	4人	5人	7人	6人
	入学者数	12人	3人	6人	9人	16人	9人
その他の特別選抜	募集人数	6人	6人	6人	3人	5人	5人
	延べ人数	7人	14人	21人	8人	2人	10人
		7人	13人	19人	8人	2人	10人
		7人	9人	14人	6人	2人	8人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	7人	14人	21人	8人	2人	10人
		7人	13人	19人	8人	2人	10人
		7人	9人	14人	6人	2人	8人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	5人	7人	10人	5人	2人	6人
合計	募集人数	131人	131人	134人	132人	134人	132人
	延べ人数	1045人	809人	522人	476人	404人	651人
		1007人	778人	507人	464人	391人	629人
		350人	399人	402人	417人	371人	388人
		44人	120人	9人	32人	0人	41人
		25人	13人	22人	16人	9人	17人
	実人数	756人	665人	456人	417人	360人	531人
		734人	639人	441人	406人	348人	514人
		295人	347人	362人	373人	336人	343人
		28人	90人	8人	25人	0人	30人
		24人	13人	22人	16人	9人	17人
	入学者数	141人	150人	168人	141人	125人	145人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	131人	131人	134人	132人	134人	132人
入 学 定 員 充 足 率	1.08	1.15	1.25	1.07	0.93	1.10
歩 留 率	0.40	0.38	0.42	0.34	0.34	0.37

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：杏林大学外国語学部中国語学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		5人	5人	8人	8人	10人	7人
	延べ人数	志願者数	10人	10人	12人	15人	9人	11人
		受験者数	10人	10人	12人	15人	9人	11人
		合格者数	5人	6人	8人	13人	9人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	10人	10人	12人	15人	9人	11人
		受験者数	10人	10人	12人	15人	9人	11人
		合格者数	5人	6人	8人	13人	9人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	6人	8人	13人	9人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		7人	9人	10人	10人	10人	9人
	延べ人数	志願者数	17人	17人	10人	9人	5人	12人
		受験者数	17人	16人	10人	9人	4人	11人
		合格者数	14人	14人	10人	8人	4人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	17人	17人	10人	9人	5人	12人
		受験者数	17人	16人	10人	9人	4人	11人
		合格者数	14人	14人	10人	8人	4人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		14人	14人	10人	8人	4人	10人
一般選抜	募集人数		8人	8人	8人	9人	8人	8人
	延べ人数	志願者数	289人	165人	80人	61人	44人	128人
		受験者数	262人	148人	75人	59人	42人	117人
		合格者数	81人	92人	63人	53人	38人	65人
		うち追加合格者数	45人	54人	2人	13人	0人	23人
		辞退者数	3人	3人	0人	2人	0人	2人
	実人数	志願者数	88人	83人	36人	23人	23人	51人
		受験者数	81人	73人	31人	23人	21人	46人
		合格者数	31人	51人	28人	21人	20人	30人
		うち追加合格者数	25人	34人	0人	4人	0人	13人
		辞退者数	3人	3人	0人	2人	0人	2人
	入学者数		12人	6人	7人	7人	6人	8人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	4人	4人	4人	3人	4人
	延べ人数	志願者数	190人	116人	58人	67人	60人	98人
		受験者数	188人	116人	58人	66人	60人	98人
		合格者数	29人	43人	41人	63人	57人	47人
		うち追加合格者数	10人	22人	10人	7人	0人	10人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	76人	44人	42人	30人	26人	44人
		受験者数	74人	44人	42人	30人	26人	43人
		合格者数	11人	14人	28人	29人	25人	21人
		うち追加合格者数	3人	8人	10人	4人	0人	5人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	2人	4人	4人	3人	3人
その他の特別選抜	募集人数		6人	6人	6人	3人	3人	5人
	延べ人数	志願者数	3人	6人	7人	3人	1人	4人
		受験者数	3人	6人	7人	3人	1人	4人
		合格者数	2人	6人	4人	2人	1人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	6人	7人	3人	1人	4人
		受験者数	3人	6人	7人	3人	1人	4人
		合格者数	2人	6人	4人	2人	1人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	5人	4人	2人	1人	3人
合計	募集人数		32人	32人	36人	34人	34人	34人
	延べ人数	志願者数	509人	314人	167人	155人	119人	253人
		受験者数	480人	296人	162人	152人	116人	241人
		合格者数	131人	161人	126人	139人	109人	133人
		うち追加合格者数	55人	76人	12人	20人	0人	33人
		辞退者数	3人	5人	0人	2人	0人	2人
	実人数	志願者数	194人	160人	107人	80人	64人	121人
		受験者数	185人	149人	102人	80人	61人	115人
		合格者数	63人	91人	78人	73人	59人	73人
		うち追加合格者数	28人	42人	10人	8人	0人	18人
		辞退者数	3人	5人	0人	2人	0人	2人
	入学者数		34人	33人	33人	34人	23人	31人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	32人	32人	36人	34人	34人	34人
入 学 定 員 充 足 率	1.06	1.03	0.92	1.00	0.68	0.94
歩 留 率	0.26	0.20	0.26	0.24	0.21	0.24

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：杏林大学外国語学部観光交流文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	12人	12人	15人	18人	20人	15人
	延べ人数	20人	15人	16人	31人	24人	21人
		20人	15人	16人	31人	24人	21人
		13人	13人	16人	24人	23人	18人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	20人	15人	16人	31人	24人	21人
		20人	15人	16人	31人	24人	21人
		13人	13人	16人	24人	23人	18人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	13人	13人	16人	24人	23人	18人
学校推薦型選抜	募集人数	23人	25人	35人	38人	38人	32人
	延べ人数	72人	51人	47人	33人	24人	45人
		72人	51人	46人	33人	24人	45人
		52人	46人	46人	33人	24人	40人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	72人	51人	47人	33人	24人	45人
		72人	51人	46人	33人	24人	45人
		52人	46人	46人	33人	24人	40人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	52人	46人	46人	33人	24人	40人
一般選抜	募集人数	42人	42人	30人	25人	24人	33人
	延べ人数	482人	246人	138人	116人	71人	211人
		449人	226人	138人	113人	69人	199人
		120人	123人	121人	107人	69人	108人
		54人	58人	2人	16人	0人	26人
		10人	18人	11人	10人	1人	10人
	実人数	249人	149人	88人	76人	37人	120人
		232人	137人	88人	74人	36人	113人
		67人	84人	79人	69人	36人	67人
		31人	36人	1人	12人	0人	16人
		10人	18人	11人	10人	1人	10人
	入学者数	26人	17人	20人	20人	6人	18人
共通テスト利用入試	募集人数	10人	8人	8人	8人	7人	8人
	延べ人数	301人	208人	110人	141人	100人	172人
		298人	206人	110人	139人	100人	171人
		49人	103人	64人	133人	95人	89人
		0人	52人	0人	9人	0人	12人
		2人	1人	2人	7人	2人	3人
	実人数	154人	123人	75人	99人	64人	103人
		154人	123人	75人	99人	64人	103人
		30人	72人	47人	95人	63人	61人
		0人	36人	0人	7人	0人	9人
		2人	1人	2人	7人	2人	3人
	入学者数	3人	3人	3人	12人	5人	5人
その他の特別選抜	募集人数	5人	5人	6人	3人	3人	4人
	延べ人数	6人	8人	11人	7人	3人	7人
		6人	6人	11人	5人	3人	6人
		2人	4人	11人	3人	3人	5人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	6人	8人	11人	7人	3人	7人
		6人	6人	11人	5人	3人	6人
		2人	4人	11人	3人	3人	5人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
合計	募集人数	92人	92人	94人	92人	92人	92人
	延べ人数	881人	528人	322人	328人	222人	456人
		845人	504人	321人	321人	220人	442人
		236人	289人	258人	300人	214人	259人
		54人	110人	2人	25人	0人	38人
		12人	19人	13人	17人	4人	13人
	実人数	501人	346人	237人	246人	152人	296人
		484人	332人	236人	242人	151人	289人
		164人	219人	199人	224人	149人	191人
		31人	72人	1人	19人	0人	25人
		12人	19人	13人	17人	4人	13人
	入学者数	94人	79人	85人	89人	59人	81人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	92人	92人	94人	92人		93人
入 学 定 員 充 足 率	1.02	0.86	0.90	0.97	#DIV/0!	#DIV/0!
歩 留 率	0.40	0.27	0.33	0.30	0.28	0.31

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

直近の5年間の志願倍率・定員充足状況

総合政策学科	2020	2021	2022	2023	2024
志願倍率	7.76	5.52	4.98	4.51	3.72
実質倍率	3.92	3.06	1.71	1.81	1.55
入学定員充足率	1.07	1.08	1.10	1.02	1.02
企業経営学科	2020	2021	2022	2023	2024
志願倍率	10.18	7.40	5.85	6.43	4.45
実質倍率	3.27	2.52	1.55	2.15	1.44
入学定員充足率	1.14	1.04	1.08	1.11	1.09
学部	2020	2021	2022	2023	2024
志願倍率	8.60	6.17	5.28	5.17	3.97
実質倍率	3.63	2.82	1.65	1.94	1.51
入学定員充足率	1.10	1.07	1.09	1.05	1.04

系統別志願者数

系統別名称	2016年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
社会・社会福祉	100	112	112	114	111	112	112
法・政治	100	107	108	109	116	115	112
経済・経営・商	100	112	112	113	116	121	126
環境・情報・国際・総合	100	105	103	99	99	103	102

出典：東進タイムズ「2025年度私立大学入試動向」より作成

志願者_合格者数

	2020年度入試																			
	志願者数					受験者					合格者数					入学者数				
	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計
総合政策学科	98	159	466	441	1164	97	113	426	439	1075	60	50	74	90	274	60	44	39	18	161
企業経営学科	40	39	381	354	814	40	26	347	352	725	27	14	87	94	222	26	13	39	13	91
学部計	138	198	847	795	1978	137	139	773	791	1800	87	64	161	184	496	86	57	78	31	252

	2021年度入試																			
	志願者数					受験者					合格者数					入学者数				
	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計
総合政策学科	71	65	413	279	828	70	63	376	278	787	67	41	85	64	257	67	37	53	5	162
企業経営学科	22	26	331	213	592	21	26	303	213	542	20	20	87	88	215	20	19	34	10	83
学部計	93	91	744	492	1420	91	89	679	491	1329	87	61	172	152	472	87	56	87	15	245

	2022年度入試																			
	志願者数					受験者					合格者数					入学者数				
	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計
総合政策学科	51	45	323	328	747	50	44	299	326	719	49	36	108	228	421	48	28	64	25	165
企業経営学科	22	22	210	214	468	22	21	194	213	428	22	19	78	157	276	22	15	35	14	86
学部計	73	67	533	542	1215	72	65	493	539	1147	71	55	186	385	697	70	43	99	39	251

	2023年度入試																			
	志願者数					受験者					合格者数					入学者数				
	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計
総合政策学科	41	54	268	313	676	40	53	251	313	657	39	39	112	172	362	39	37	60	17	153
企業経営学科	33	24	191	266	514	33	22	176	266	464	33	17	76	90	216	33	17	33	6	89
学部計	74	78	459	579	1190	73	75	427	579	1121	72	56	188	262	578	72	54	93	23	242

	2024年度入試																			
	志願者数					受験者					合格者数					入学者数				
	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計	推薦入試	総合型選抜 (AO入試)	一般入試	共通テスト (センター試験) 利用入試	計
総合政策学科	42	54	202	260	558	41	54	189	259	543	41	51	107	151	350	38	46	46	23	153
企業経営学科	38	20	133	165	356	38	19	127	164	310	36	19	66	94	215	36	16	27	8	87
学部計	80	74	335	425	914	79	73	316	423	853	77	70	173	245	565	74	62	73	31	240

【資料 9】

年度別コース選択状況

※ 3 セメ時のコース別人数を集計

	2023年入学	2022年入学	2021年入学	平均
政治コース	15	25	35	25.0
法律コース	32	29	41	34.0
国際関係コース	40	53	44	45.7
福祉政策コース	19	18	13	16.7
経済コース	36	30	31	32.3
経営コース	61	68	53	60.7
会計コース	29	17	28	24.7
計	232	240	245	239.0

2025年度入試 総合政策学部入試結果

学科組織名称	入試種別名称	志願者数	受験者数	正規合格者	補欠者	繰上合格者数 (補欠者の内数)	補欠者残数	入学者数	辞退者数 (入学者数には含まれない)
13総合	AO_A協定	4	4	4				4	
	AO_A授業・課題	54	54	50				40	2
	AO_B課題	6	4	3				2	
	AO_C課題	8	7	7				7	
	共テ後2	23	23	10	10		10	5	
	共テ前2	87	86	49	32	32		13	4
	共テ前3	95	95	62	27	27		8	5
	後期	27	26	13	7		7	7	
	公推	7	7	7				5	1
	指推	35	35	35				35	
	前第一2	75	68	35	26	26		17	3
	前第一3	46	44	28	15	15		6	
	前第二2	24	22	13	8	8		5	3
	前第二3	9	7	6	1	1		3	
13総合 集計		508	490	330	126	109	17	157	18
14企業	AO_A協定	1	1	1				1	
	AO_A授業・課題	28	28	25				20	1
	AO_B課題	5	4	4				4	
	AO_C課題	4	3	3				3	
	共テ後2	15	15	8	5		5	3	
	共テ前2	56	56	31	24	24		7	1
	共テ前3	56	56	29	25	25		5	2
	後期	19	19	6	8		8	1	
	公推	4	4	4				3	
	指推	30	30	30				30	
	前第一2	47	44	25	18	18		8	
	前第一3	22	22	11	10	10		3	1
	前第二2	20	17	10	7	7		5	
	前第二3	5	5	4	1	1		1	
14企業 集計		319	311	198	98	85	13	94	5
総計		827	801	528	224	194	30	251	23

協定書・覚書締結校 一覧

	高校名	締結日	締結書類名
1	大成高等学校	平成28年11月21日	高大連携に関する協定書
		平成28年12月8日	アドバンストブレイスメントによる高校生の大学正規授業の受け入れに関する覚書
		令和5年7月19日	高大連携に関する覚書（総・外）
2	関東国際高等学校	平成28年1月15日	高大連携に関する協定書
		平成28年12月8日	アドバンストブレイスメントによる高校生の大学正規授業の受け入れに関する覚書
		令和5年4月20日	高大連携に関する覚書（総・外）
3	聖徳学園中学・高等学校	平成26年6月2日	高大連携に関する協定書
		平成28年12月8日	アドバンストブレイスメントによる高校生の大学正規授業の受け入れに関する覚書
		令和6年2月19日	高大連携に関する覚書（総・外）
4	藤村女子中学・高等学校	平成28年12月8日	アドバンストブレイスメントによる高校生の大学正規授業の受け入れに関する覚書
		令和5年6月28日	高大連携事業に関する協定書
		令和5年7月1日	高大連携に関する覚書（総・外）
5	國學院大学久我山中学高等学校	令和4年9月6日	高大連携に関する協定書
		令和6年2月19日	高大連携に関する覚書（保・総・外）
6	西武学園文理高等学校高等学校	令和6年2月2日	高大連携に関する協定書
		令和6年2月2日	高大連携に関する覚書（保・総・外）
7	工学院大学附属中学校・高等学校	令和6年3月4日	中高大連携に関する協定書
		令和6年3月4日	中高大連携に関する覚書（保・総・外）
8	錦城高等学校	令和6年5月14日	高大連携に関する協定書
		令和6年5月14日	高大連携に関する覚書（保・総・外）
9	錦城学園高等学校	令和6年5月30日	高大連携に関する協定書
		令和6年5月30日	高大連携に関する覚書（総・外）
10	昭和第一学園高等学校	令和6年6月17日	高大連携に関する協定書
		令和6年6月17日	高大連携に関する覚書（総・外）
11	啓明学園高等学校	令和6年9月17日	高大連携に関する協定書
		令和7年3月15日	高大連携に関する覚書（総・外）
12	クラーク記念国際高等学校	令和6年9月24日	高大連携に関する協定書
		未定	高大連携に関する覚書（総・外）
13	山村学園高等学校	令和7年2月18日	高大連携に関する協定書
		未定	高大連携に関する覚書（総・外）

入学者アンケート

Q.受験校を決める際、情報収集で最も役立ったもの

No.	回答	2021	2022	2023
1	大学公式ホームページ	29.4%	27.7%	32.6%
2	大学案内・学部パンフレット	34.5%	26.3%	20.7%
3	オープンキャンパス	4.2%	7.5%	17.6%
4	受験サイト	26.9%	24.9%	16.7%
5	高校の進路指導室	17.0%	5.2%	3.5%

Q. 杏林大学に入学した「決め手」【複数回答可】

No.	回答	2021	2022	2023
1	設備が充実している	14.3%	16.2%	17.9%
2	立地・環境の良さ	14.6%	15.3%	17.7%
3	授業科目・内容が他大学と比較して魅力的	15.7%	14.5%	15.2%
4	自宅から通える	11.6%	13.3%	11.8%
5	学校の規模（マンモス校ではない）	8.0%	4.7%	5.1%
6	資格が取得できる	2.5%	5.2%	3.2%
7	在学生の雰囲気自分が合うと思った	2.8%	2.5%	3.1%
8	文系と医療系を持つ総合大学だから	4.4%	4.4%	2.9%
9	教職員の雰囲気が自分が合うと思った	0.8%	0.8%	2.7%
10	学生と先生の近い距離感	3.0%	3.7%	2.6%

Q. 他大学と比較した情報（基準）【複数回答可】

No.	回答	2021	2022	2023
1	設備の充実度・きれいさ			15.8%
2	オープンキャンパスの雰囲気			12.5%
3	立地/アクセス/周辺環境			10.9%
4	授業内容/ゼミテーマ			8.8%
5	偏差値			8.3%
6	就職先/就職率			7.0%
7	入試科目			7.0%
8	知名度			4.4%
9	とれる資格/国試合格率			3.8%
10	学生・教員数（少人数か）			3.4%

Q. 情報収集に活用した受験情報サイト【複数回答可】

No.	回答	2021	2022	2023
1	大学受験パスナビ	76	144	147
2	Benesseマナビジョン	53	93	97
3	スタディサプリー進路	44	64	80
4	みんなの大学	38	48	44
5	マイナビ進学	38	48	44
		249	397	412

Q. 情報収集に活用した受験雑誌【複数回答可】

No.	回答	2021	2022	2023
1	活用した受験雑誌はない	49	108	130
2	Benesse/マナビジョン、大学発見ナビ	27	51	46
3	リクルート/スタディサプリー、進学事典	40	45	33
4	マイナビ/進学ガイド、進路のミカタ	11	18	11
5	河合塾/栄冠目指して		14	9
		127	236	229

Q. 併願校【第3位まで】

No.	回答	2021	2022	2023
1	東京経済大学			21
2	日本大学			17
3	帝京大学			14
4	東洋大学			13
5	法政大学			13
6	亜細亜大学			11
7	武蔵大学			9
8	駒澤大学			8
9	専修大学			8
10	中央大学			8
11	桜美林大学			7
12	青山学院大学			7
13	成蹊大学			7
14	明治大学			7
15	武蔵野大学			6

競合校		2022						2023						2024					
大 学	学 部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率
亜細亜大学	経営学部	483	3453	3288	1521	7.15	2.16	562	4709	4540	2144	8.38	2.12	570	3658	3508	1516	6.42	2.31
	経済学部	243	1931	1824	828	7.95	2.20	251	1860	1767	808	7.41	2.19	254	1583	1518	795	6.23	1.91
	法学部	345	2070	1969	1520	6.00	1.30	333	2415	2331	1548	7.25	1.51	334	1820	1747	1362	5.45	1.28
桜美林大学	リベラルアーツ学群	900	6065	5392	3601	6.74	1.50	850	5276	4809	4191	6.21	1.15	850	4257	3856	3348	5.01	1.15
	ビジネスマネジメント学群	431	3275	2885	1549	7.60	1.86	431	3292	3044	1768	7.64	1.72	431	3159	2853	1548	7.33	1.84
東京経済大学	経済学部	390	4159	4032	1683	10.66	2.40	505	3561	3420	1391	7.05	2.46	505	3467	3335	1336	6.87	2.50
	経営学部	413	4517	4341	1475	10.94	2.94	540	2934	2829	1217	5.43	2.32	540	3403	3294	1344	6.30	2.45
	現代法学部	175	1908	1856	740	10.90	2.51	240	1125	1083	653	4.69	1.66	240	1394	1339	630	5.81	2.13
帝京大学	経済学部	1474	9216	8912	3764	6.25	2.37	1474	8629	8302	3641	5.85	2.28	1508	8084	7818	3783	5.36	2.07
	法学部	442	2719	2614	1258	6.15	2.08	442	2067	1984	1136	4.68	1.75	456	1993	1932	1166	4.37	1.66
武蔵野大学	法学部	249	3809	3501	1369	15.30	2.56	254	3629	3338	1401	14.29	2.38	253	3789	3485	1930	14.98	1.81
	経済学部	142	3048	2839	1195	21.46	2.38	150	3755	3501	1038	25.03	3.37	150	3205	2952	1288	21.37	2.29
	経営学部	248	4437	4069	1313	17.89	3.10	248	5393	4981	1373	21.75	3.63	258	5337	4956	1497	20.69	3.31

文系学部競合校の学費・志願倍率（総合政策学部）

No.	大学	学部	偏差値帯	学費総額	募集 人員	志願者	
							倍率
1	東海大学	政治経済	37.5~47.5	¥5,290,200	300	3,441	11.5
2	東海大学	経営	40.0~42.5	¥5,290,200	169	2,193	13.0
3	東海大学	法	40.0	¥5,246,200	201	1,866	9.3
4	桜美林大学	ビジネス	37.5	¥5,206,000	862	6,584	7.6
5	淑徳大学	コミュニティ政策	37.5	¥5,127,880	70	161	2.3
6	淑徳大学	経営	37.5	¥5,126,160	180	151	0.8
7	関東学院大学	法	37.5	¥5,018,660	354	1,548	4.4
8	関東学院大学	経営	40.0	¥4,974,660	372	2,133	5.7
9	麗澤大学	経済	37.5	¥4,948,000	220	1,693	7.7
10	東京国際大学	経済	BF~35.0	¥4,890,000	515	1,356	2.6
11	東京国際大学	商	35.0	¥4,890,000	260	1,362	5.2
12	文京学院大学	経営	35.0~37.5	¥4,885,420	260	1,443	5.6
13	城西国際大学	経営情報	35.0	¥4,838,000	380	530	1.4
14	秀明大学	観光ビジネス	35.0	¥4,702,000	70	45	0.6
15	秀明大学	総合経営	35.0	¥4,702,000	90	121	1.3
16	東洋学園大学	現代経営	37.5	¥4,700,000	245	694	2.8
17	嘉悦大学	経営経済	BF	¥4,676,000	590	1,241	2.1
18	日本文化大学	法	37.5	¥4,675,000	200	80	0.4
19	関東学院大学	経済	37.5	¥4,674,660	355	1,834	5.2
20	東京成徳大学	経営	37.5	¥4,670,000	140	252	1.8
21	目白大学	経営	35.0	¥4,658,640	130	858	6.6
22	聖学院大学	政治経済	35.0	¥4,656,300	130	380	2.9
23	埼玉学園大学	経済経営	40.0	¥4,654,660	80	171	2.1
24	拓殖大学	政経	40.0	¥4,629,800	703	3,603	5.1
25	拓殖大学	商	40.0	¥4,629,800	645	4,701	7.3
26	帝京平成大学	人文社会	37.5	¥4,603,300	801	3,682	4.6
27	帝京大学	法	40.0	¥4,588,660	442	2,067	4.7
29	帝京大学	経済	37.5	¥4,588,660	1,474	8,629	5.9
30	共栄大学	国際経営	40.0	¥4,555,000	180	403	2.2
31	西武文理大学	サービス	35.0	¥4,540,000	193	148	0.8
32	敬愛大学	経済	37.5	¥4,536,660	215	464	2.2
33	明海大学	ホスピタリ	37.5	¥4,524,300	184	129	0.7
34	千葉商科大学	商経	40.0	¥4,479,860	810	4,031	5.0
35	東京富士大学	経営	37.5	¥4,460,000	166	308	1.9
36	駿河台大学	法	40.0	¥4,455,000	205	349	1.7
37	駿河台大学	経済経営	40.0	¥4,455,000	180	249	1.4
38	横浜商科大学	商	BF~35	¥4,452,000	210	490	2.3
39	清和大学	法	35.0~37.5	¥4,450,000	186	219	1.2
40	和光大学	経済経営	BF~37.5	¥4,450,000	260	890	3.4
41	中央学院大学	法	37.5	¥4,432,160	260	734	2.8
42	中央学院大学	商	37.5	¥4,432,160	345	795	2.3
43	亜細亜大学	法	40.0	¥4,426,500	333	2,415	7.3
44	亜細亜大学	経済	40.0	¥4,426,500	251	1,860	7.4
45	亜細亜大学	経営	35.0	¥4,426,500	562	4,709	8.4
46	跡見学園女子大学	マネジメント	37.5	¥4,424,000	206	623	3.0
47	産業能率大学	情報マネジメント	40.0~45.0	¥4,410,660	270	978	3.6
48	多摩大学	経営情報	35.0	¥4,390,000	317	913	2.9
49	桐蔭横浜大学	法	35.0	¥4,379,660	180	408	2.3
50	城西大学	現代政策	35.0	¥4,368,000	240	655	2.7
51	城西大学	経済	BF~35.0	¥4,368,000	290	879	3.0
52	城西大学	経営	35.0~37.5	¥4,368,000	494	910	1.8
53	立正大学	経営	40.0	¥4,368,000	300	1,634	5.4
54	埼玉工業大学	人間社会	35.0	¥4,334,000	140	578	4.1
55	明星大学	経済	40.0	¥4,332,600	185	1,151	6.2
56	尚美学園大学	総合政策	BF	¥4,304,140	100	78	0.8
57	平成国際大学	法	BF	¥4,302,000	200	265	1.3
58	大東文化大学	法	40.0	¥4,219,600	368	2,302	6.3
59	神奈川大学	法	40.0	¥4,168,300	600	4,029	6.7
60	神奈川大学	経済	40.0	¥4,168,300	950	7,095	7.5
61	松蔭大学	経営文化	BF	¥4,149,000	144	152	1.1
62	明海大学	経済	37.5	¥4,124,300	240	517	2.2
63	高千穂大学	経営	35.0~37.5	¥4,085,000	230	1,052	4.6
64	高千穂大学	商	35.0~37.5	¥4,085,000	230	867	3.8
65	杏林大学	総合政策	40.0~42.5	¥4,023,300	230	1,271	5.5
66	創価大学	法	37.5	¥4,019,000	183	463	2.5
67	創価大学	経済	37.5	¥4,019,000	142	522	3.7
68	創価大学	経営	40.0	¥4,019,000	131	469	3.6

【競合校の抽出条件】

- ・設置区分：私立大学
- ・学問系統：社会学系（法・政治・経済・経営・商）
- ・所在地：東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県
- ・偏差値帯：本学と同水準（42.5以下）
- ・学費総額には、入学料、授業料、実習費、設備費、諸費を含む

【出典】

- ・偏差値：河合塾 Kei-NET
- ・募集人員、志願者数：旺文社 パスナビ

※本リスト競合校の学費総額の平均：4,544,349円

482万円

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ワタナベ タカシ 渡邊 卓 (令和4年4月)		博士 (医学)		杏林大学学長 (令和4年4月～令和8年3月)

教員名簿 2

[illegible]

教員名簿 6

教員名簿 7

[illegible]

[illegible]

58	その他	講師	代 カサヤ 伊勢 一也 ＜令和8年4月＞		経営管理修士 (専門職)		経営組織論/春 Business Strategy/春 ベンチャー企業論/秋	○ ○ ○	2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令5.4)						
59	その他	講師	杓 エイ 王 瑩 ＜令和8年4月＞		修士(学術)		中国語Ⅰ/春 中国語Ⅱ/秋		2前 2後	2 2	1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令2.4)						
60	その他	講師	材イ マブ 大石 学 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		哲学 倫理学		1・2・3・4通 1・2・3・4通	4 4	2 2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平19.4)						
61	その他	講師	オサキ アミ 尾崎 愛美 ＜令和8年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅱ/秋※		1・2・3・4後	0.1	1	筑波大学 (R5.4)						
62	その他	講師	カミ ケイロウ 亀井 啓一郎 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		地理学/春 地誌学/秋		1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平26.4)						
63	その他	講師	クワシマ スイ 桑島 翠 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)		刑法/春	○	2・3・4前	2	1	早稲田大学 (令5.4)						
64	その他	講師	サングン リー Seungkeun Lee ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		英語Ⅰ Listening and Speaking A/春 英語Ⅱ Reading and Writing A/春 英語Ⅲ Listening and Speaking B/秋 英語Ⅳ Reading and Writing B/秋 発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ/春 発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ/秋		1前 1前 1後 1後 2前 2後	4 4 4 4 2 2	2 2 2 2 1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (R5.4)						
65	その他	講師	スエハラ サトシ 末原 聡 ＜令和8年4月＞		修士 (経営学)		基礎簿記Ⅰ/春 基礎簿記Ⅱ/秋 商業簿記Ⅰ/春 商業簿記Ⅱ/春 会計データ分析論/春	○ ○ ○ ○ ○	1・2・3・4後 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	キュービック キウイ株式会 社 (令3.6)						
66	その他	講師	カハシ アツコ 高橋 敦子 ＜令和8年4月＞		修士 (言語教授 法専門Ⅰ)		フランス語Ⅰ/春 フランス語Ⅱ/秋		2前 2後	4 4	2 2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平30.4)						
67	その他	講師	ダチェン シェング Dachen Sheng ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		Economics/秋	○	2・3・4後	2	1	山梨学院大学 (令5.4)						
68	その他	講師	チハラ ノブヨシ 知原 信良 ＜令和8年4月＞		学士 (経済学)		社会と大学Ⅱ/秋※		1・2・3・4後	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令6.4)						
69	その他	講師	チョウ トウキ 趙 彤基 ＜令和8年4月＞		博士 (経営学)		イノベーション論/秋	○	2・3・4後	2	1	明治大学 (令6.4)						
70	その他	講師	ナガタ ケイスカ 永田 大輔 ＜令和8年4月＞		修士 (社会学)		社会学/春		1・2・3・4前	2	1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令4.4)						
71	その他	講師	ハセガワ ヒロコ 長谷川 弘子 ＜令和8年4月＞		修士 (文学) ※		ドイツ語Ⅰ/春 ドイツ語Ⅱ/秋		2前 2後	2 2	1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令6.4)						

72	その他	講師	ヒガシ ミキ 東 幸 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学)		英語Ⅰ Listening and Speaking A/春 英語Ⅱ Reading and Writing A/春 英語Ⅲ Listening and Speaking B/秋 英語Ⅳ Reading and Writing B/秋 Recent Topics in English/秋		1前 1前 1後 1後 2後	4 4 4 4 2	2 2 2 2 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令元.9)						
73	その他	講師	フィリップ ステイブソン PHILIP STEVEN オールソン OLSON ＜令和8年4月＞		修士 (応用言語学)		英語Ⅱ Reading and Writing A/春 英語Ⅳ Reading and Writing B/秋 発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ/春 発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ/秋		1前 1後 2前 2後	6 2 2 2	3 1 1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平30.4)						
74	その他	講師	フルタ シュンスケ 古田 駿輔 ＜令和8年4月＞		商学修士		経営戦略論/春	○	2・3・4前	2	1	城西大学 (R6.4)						
75	その他	講師	マリア ルルデス ド ミニク アロンソ ＜令和8年4月＞		修士 (文学)		スペイン語Ⅰ/春 スペイン語Ⅱ/秋		2前 2後	6 6	3 3	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平8.4)						
76	その他	講師	ユン ジェホン 尹 智鉉 ＜令和8年4月＞		博士 (日本語 教育学)		韓国語Ⅰ/春 韓国語Ⅱ/秋		2前 2後	4 4	2 2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令6.4)						
77	その他	講師	ヨシエ デカス 吉 江 秀 ＜令和8年4月＞		修士 (文学) 修士 (音楽) ロンドン大学 (英国)		歴史学 音楽 日本史/春 外国史/春		1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通	4 4 2 2	2 2 1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平22.4)						
78	その他	講師	ヨシタ リュウタロウ 吉田 龍太郎 ＜令和8年4月＞		博士 (法学)		日本政治史A/春 日本政治史B/秋	○ ○	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (令5.4)						
79	その他	講師	スズキ ノリヒコ 鈴木 典比古 ＜令和8年4月＞		博士 (経営学)		国際経営論/春 グローバル・キャリア・ディベロップメント/秋	○ ○	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	県立広島大 学・ 敬啓大学 理事 (令3.4)						
80	その他	講師	ヒサエ マサヒコ 久江 雅彦 ＜令和8年4月＞		学士 (政治学)		情報社会論/春 ※	○	1前	0.1	1	共同通信社 (平4.9)						
81	その他	助教	イノウエ アツシ 井上 敦 ＜令和8年4月＞		修士 (社会福祉学)		障害者福祉論/秋	○	2・3・4前	2	1	杏林大学 保健学部 助教 (平24.4)						
82	その他	助教	ハシモト コウセイ 橋本 晃生 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		情報社会論/春 ※	○	1前	0.1	1	杏林大学 保健学部 助教 (令3.4)						
83	その他	助教	ヤマタ リュウイ 山下 竜一 ＜令和8年4月＞		博士 (心理学)		心理学/春		1・2・3・4通	2	1	杏林大学 保健学部 助教 (令5.4)						

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。

2 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。

4 「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は、教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合、欄に「○」を記入すること。

5 「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は、基幹教員のみ記載すること。

6 「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は、申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）で基幹教員として勤務している場合、その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	人	1人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	3人	1人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	2人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	3人	人	1人	人	5人	
	修 士	人	人	人	1人	人	3人	1人	5人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	